

科目名称	日本語表現 I		
科目分類	111-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Phraseology I	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	日本文化専攻における研究活動のために必要な力を習得するために、メディアリテラシーの理解を深め、学術資料の調査・引用の方法や参考文献の提示の仕方を理解する。また、文章の組み立てや文の構造についての知識を再確認し、場面に応じた適切な文章を書けるようにする。授業ではグループ・ワークを通じて、学術的な情報を収集したり、発表したりする能力を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動に必要な学術情報を適切に収集・引用することができる。</li> <li>・大学生・社会人としてふさわしい表現で話したり書いたりできる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：1 年次の反省と、2 年次からの展望を文章に整理する。 授業：「自己紹介」の文章を書く。 復習：自己紹介の文章を遂行する。</p> <p>【第 2 回】 予習：90 秒で話すための原稿を作成する。 授業：自己紹介のスピーチをして、相互インタビューを行う。（グループワーク） 復習：他の履修者のスピーチに関する感想を課題フォームに提出する。</p> <p>【第 3 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』のレジュメ・レポート作成に関する節を読む。 授業：学士（日本文化）として必要な文章力について理解する。 復習：日本文化専攻の学生・教員による過去の学術成果物を閲覧する。</p> <p>【第 4 回】 予習：メディアリテラシーに関するミニテストに取り組む。 授業：学術情報・メディアリテラシーについて理解する。 復習：図書館所蔵の日本文化に関する文献を調査し、コピーをとる。</p> <p>【第 5 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の「引用」に関する節を読む。 授業：研究活動における「引用」について理解する。（課題解決型授業） 復習：引用に関する授業内課題に取り組み、提出する。</p> <p>【第 6 回】 予習：日本文化専攻ホームページにおける、各教員執筆の文章を読む。 授業：学術的なエッセーを書こう(1)——テーマ決定・情報収集（課題解決型授業） 復習：エッセーの根拠となる学術情報を収集する。</p> <p>【第 7 回】 予習：エッセーに利用する学術情報の印刷・コピーを行う。 授業：学術的なエッセーを書こう(2)——学術情報の吟味（課題解決型授業） 復習：エッセーのアウトラインを作成する。</p> <p>【第 8 回】 予習：エッセーの下書きを作成する。 授業：学術的なエッセーを書こう(3)——本文の執筆（課題解決型授業） 復習：エッセーの第一稿を完成させる。</p> <p>【第 9 回】 予習：エッセーの下書きを作成する。 授業：学術的なエッセーを書こう(4)——本文の推敲（グループワーク） 復習：作成したエッセーに基づく発表の準備をする。</p> <p>【第 9 回】 予習：発表用の原稿を作成する。 授業：エッセーの発表と意見交換(1) 復習：発表者に対する感想・質問・意見を課題フォームで提出する。</p> <p>【第 10 回】 予習：発表用の原稿を作成する。 授業：エッセーの発表と意見交換(2) 復習：発表者に対する感想・質問・意見を課題フォームで提出する。</p>			

<p>【第 11 回】          予習：発表用の原稿を作成する。          授業：エッセーの発表と意見交換(3)          復習：発表者に対する感想・質問・意見を課題フォームで提出する。</p> <p>【第 12 回】          予習：教員の添削を踏まえ、エッセーの見直しを行う。          授業：学術レポートを作成する(1)——アウトライン          復習：作成したアウトラインに基づき、本文を記述する。</p> <p>【第 13 回】          予習：レポートに使用した資料の書誌情報を整理する。          授業：学術レポートを作成する(2)——レポートの書式・体裁          復習：エッセーに基づく学術レポートの考察部分を整理する。</p> <p>【第 14 回】          予習：『日本文化専攻共通テキスト』の研究書式に関する節を再度確認する。          授業：学術レポートを作成する(3)——本文の執筆          復習：エッセーに基づく学術レポートを完成させる。</p> <p>【第 15 回】          予習：『日本文化専攻共通テキスト』の「レポート」の節を確認する。          授業：大学で研究すること          復習：学術レポートの推敲を行う。</p>								
授業開始前学習	言語表現演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習しておく。『日本文化専攻共通テキスト』を通読する。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業の予習・復習用の課題を実施する。課題は翌週以降に返却して全体の講評を行う。							
テキスト・教材	各回の内容に応じたプリントを配付する。また、日本文化専攻の学生全員に配付する『日本文化専攻共通テキスト』を随時使用する。							
参考書	松浦俊男・田村早苗『日本語パラグラフ・ライティング入門』（研究社、2022年） 米田明美・藏中さやか・山上登志美『大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）』（風間書房、2010年）							
評価の基準と方法	授業内課題 70%、期末レポート 30%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	
関連科目	日本語表現の実践Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と歴史Ⅰ・Ⅱ							
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。 授業の進捗状況等により、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本語表現Ⅱ		
科目分類	111-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Phraseology Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	学術的な情報を適切に収集・引用するための方法を習得し、また学術的な文章の構成を理解することで、日本文化専攻における学びの成果となるゼミ論文・卒業論文を執筆するための能力を身につける。論理的に、かつ読みやすい文章を書くための作文課題に取り組むほか、『日本の文化と歴史Ⅰ』の授業において執筆したレポートを校正し、自分で学術的な文章を書き、見直し、改める手続きを行えるようにする。また、仕上げとして自分が3年次以降に研究したいテーマについてのレポートを作成し、日本文化ゼミに参加するための準備を行う。授業ではグループワークや発表を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門ゼミにおける研究レポートや論文を執筆できる。</li> <li>・適切な日本語で、学術的内容を含む文章を書くことができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「日本語表現Ⅰ」のエッセー集を通読する。 授業：「日本語表現Ⅰ」の成果を振り返る。 復習：エッセー集における、自分たちの文章の問題点を考える。</p> <p>【第2回】 予習：予習プリント（読みにくい文章）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(1)——論の展開 復習：課題フォーム（段落間の関係）に取り組む。</p> <p>【第3回】 予習：予習プリント（デマを含む文章）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(2)——事実の提示 復習：課題フォーム（データの読み取り）に取り組む。</p> <p>【第4回】 予習：予習プリント（論理の飛躍）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(3)——事実に基づく考察 復習：課題フォーム（事実の整理と自分の意見）に取り組む。</p> <p>【第5回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の研究書式に関する節を確認する。 授業：自分たちの文章をあらためる(1)——研究書式の再確認 復習：復習プリント（不適切な書式）に取り組む。</p> <p>【第6回】 予習：予習プリント（文章の体裁のあやまり・誤字等を指摘する）に取り組む。 授業：自分たちの文章をあらためる(2)——校正の基本（グループワーク） 復習：復習プリント（校正記号の理解）に取り組む。</p> <p>【第7回】 予習：「日本の文化と歴史Ⅰ」で執筆したレポートを確認する。 授業：自分たちの文章をあらためる(3)——他者の文章を校正する（グループワーク） 復習：自分のレポートに入れられた赤字を確認する。</p> <p>【第8回】 予習：自分のレポートの体裁・内容に関する問題点を整理する。 授業：自分たちの文章をあらためる(4)——文章を修正する・前半 復習：レポートの書式を見直し、適切に整える。</p> <p>【第9回】 予習：論述の修正に必要な資料を集める。 授業：自分たちの文章をあらためる(5)——文章を修正する・後半 復習：レポートの論説を見直し、適切に整える。</p> <p>【第10回】 予習：レポートの内容について、修正の要点を説明するための準備をする。 授業：自分たちの文章をあらためる(6)——修正の成果を共有する（グループワーク） 復習：履修生のレポートに関する意見・アドバイスをフォームに提出する。</p> <p>【第11回】 予習：3年次以降に研究したいテーマについて考える。 授業：ゼミ研究に向けて(1)——テーマ設定・参考文献 復習：課題プリント（参考文献リスト）に取り組む。</p>			

<p>【第 12 回】          予習：テーマの中心的内容を整理する。          授業：ゼミ研究に向けて(2)——アウトラインの作成          復習：論述内容の素案を作成する。</p> <p>【第 13 回】          予習：序論を執筆する。          授業：ゼミ研究に向けて(3)——論述          復習：本論を完成させる。</p> <p>【第 14 回】          予習：参考文献の書誌情報を整理する。          授業：ゼミ研究に向けて(4)——体裁を整える          復習：論述内容と体裁の見直しを行う。</p> <p>【第 15 回】          予習：『日本文化専攻共通テキスト』の「日本文化ゼミの学び・流れ」の節を確認する。          授業：ゼミ研究に向けて(5)——学士（日本文化）に向けて          復習：次年度ゼミにおける研究計画を立てる。</p>								
授業開始前学習	『日本文化専攻共通テキスト』を通読した上で、「日本語表現 I」で執筆したエッセー、「日本の文化と歴史 I」で執筆したレポートを読み返しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業の予習・復習用の課題を実施する。課題は翌週以降に返却して全体の講評を行う。							
テキスト・教材	各回の内容に応じたプリントを配付する。また、日本文化専攻の学生全員に配付する『日本文化専攻共通テキスト』を随時使用する。							
参考書	松浦俊男・田村早苗『日本語パラグラフ・ライティング入門』（研究社、2022 年） 米田明美・藏中さやか・山上登志美『大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）』（風間書房、2010 年）							
評価の基準と方法	授業内課題 70%、期末レポート 30%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	
関連科目	日本語表現の実践 I・II、日本の文化と歴史 I・II							
その他	国語辞典（電子辞書可）を手元に用意することが望ましい。 授業の進捗状況等により、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	日本語表現の実践 I		
科目分類	111-310-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Practice I	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	これまでに培った日本語能力を活用して、口頭表現や文章を作成する場合の留意点について学修する。言葉の持つ力を実感しつつ、各自の言語生活を豊かなものにするを目標とする。この授業では特に、社会人として必要な言語に関する知識についても考察を深める。授業では発表やディスカッション、ディベートなどを行う。		
到達目標	1. 言葉のマナーを学び、目的や場面にふさわしい話し方で話すことができる。 2. 社会人として必要な日本語能力を身につけ、各種文章の作成に生かすことができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：日本語の特性についてまとめておく  授業：オリエンテーション（授業の目的） 社会人にふさわしい日本語力とは  復習：日本語力を磨くために必要なことをまとめる</p> <p>【第 2 回】  予習：テキスト p 25～26 を読んでおく。  授業：スピーチ 1 スピーチ原稿を作成する（テキスト p 25-26）  復習：原稿内容を確認する</p> <p>【第 3 回】  予習：スピーチの練習をしておく  授業：スピーチ 2 スピーチをする（発表）（テキスト p 25-26）  復習：スピーチ内容を検討する</p> <p>【第 4 回】  予習：テキスト p 27～29 を読んでおく  授業：スピーチ 3 友人に聞き取り調査（テキスト p 27-29）（ディスカッション）  復習：友人紹介の文章をまとめる</p> <p>【第 5 回】  予習：テキスト p 50～ p 52 を読んでおく  授業：手紙文 1 手紙の構成（テキスト p 50-52）  復習：手紙文の構成について学んだことをまとめておく</p> <p>【第 6 回】  予習：テキスト p 53～54 を読んでおく  授業：手紙文 2 封筒・葉書の書き方（テキスト p 53-54）  復習：葉書の構成について学んだことをまとめておく</p> <p>【第 7 回】  予習：テキスト p 55～56 を読んでおく  授業：案内文・ビジネス文書 1 案内文の種類と作成（テキスト p 55-56）  復習：案内文の要点についてまとめておく</p> <p>【第 8 回】  予習：テキスト p 56～58 を読んでおく  授業：案内文・ビジネス文書 2 ビジネス文書の留意点（テキスト p 56-58）  復習：ビジネス文書の留意点についてまとめておく</p> <p>【第 9 回】  予習：テキスト p 75～79 を読んでおく  授業：レポート・論文 1 レポートの留意点（テキスト p 75-79）  復習：レポート論文の注意すべきところをまとめておく</p> <p>【第 10 回】  予習：テキスト p 75～79 を読んでおく  授業：レポート・論文 2 レポートの文章（テキスト p 75-79）  復習：レポートの文章について自分の考えをまとめる</p> <p>【第 11 回】  予習：テキスト p 80 を読んでおく  授業：口頭発表の心得・グループディスカッション 1（テキスト p 86-87）  復習：口頭発表・質疑応答の方法や留意点についてまとめる</p> <p>【第 12 回】  予習：テキスト p 86～87 を読んでおく  授業：グループディスカッション 2 実践 1（テキスト p 86-87）（ディスカッション）  復習：課題（目的や相手に応じて説明する）を行う</p>			

<p>【第13回】          予習：グループディスカッションの準備をする          授業：グループディスカッション3 実践2（テキストp 86-87）（ディスカッション）          復習：ディスカッションの反省点をまとめる</p> <p>【第14回】          予習：創作の準備をおこなう          授業：創作：短歌の実作          復習：ディスカッションの留意点をまとめる</p> <p>【第15回】          予習：課題未提出者は提出する          授業：創作：短歌の発表・前期ふりかえり          復習：前期の授業内容をふりかえる</p>								
授業開始前学習	「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を確認しておく							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内の課題は翌週以降にコメントを付して返却する。							
テキスト・教材	「日本語表現ⅠⅡ」で使用した『大学生のための日本語表現実践ノート』を引き続き使用する。また、授業内で適宜プリントを配付することもある。							
参考書	授業時に指示する。							
評価の基準と方法	授業内の毎回の課題（70%） 学期末のレポート（30%）により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。 授業の進捗状況により、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本語表現の実践Ⅱ		
科目分類	111-310-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Practice II	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	これまで培った日本語能力を活用して、各種の文章を作成する場合の留意点について学習する。言葉の持つ力を実感しつつ、文章表現を楽しみ、各自の言語生活を豊かなものにする。特にこの授業では、各自の研究テーマをレポートや論文に纏める上で留意すべき点についての再確認も行うとともに、社会人として必要な言語に関する知識についても考察を深める。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1. 様々なスタイルの文章表現を学び、文章作成に活かすことができる。 2. 社会人として必要な日本語の知識を実際に活用することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：「日本語表現の実践Ⅰ」で学んだ内容を確認しておく  授業：オリエンテーション 日本語能力アップのために  復習：日本語能力アップのために必要なことをまとめる</p> <p>【第2回】  予習：これまでの大学生活をふりかえり、自己分析に役立てる  授業：自己分析の文章  復習：自己分析の文章を仕上げる</p> <p>【第3回】  予習：テキストを読んでおく  授業：履歴書の作成1：形式の理解  復習：履歴書作成上の留意点についてまとめる</p> <p>【第4回】  予習：履歴書の修正点を見直しておく  授業：履歴書の作成2：各項目作成  復習：履歴書の記載事項について仕上げる</p> <p>【第5回】  予習：自己分析の文周夫をもとに記述内容を考える  授業：履歴書の作成3：記述項目作成  復習：履歴書の文章記述を仕上げる</p> <p>【第6回】  予習：履歴書未完成の場合は仕上げる  授業：履歴書の作成4：エントリーシートなどへの対応  復習：エントリーシートなどへの対応について留意点をまとめておく</p> <p>【第7回】  予習：スピーチの準備を行う  授業：スピーチのレベルアップ1（原稿等の作成）  復習：スピーチ原稿やスライド資料を完成させる</p> <p>【第8回】  予習：スピーチ原稿の見直し  授業：スピーチのレベルアップ2（発表）  復習：スピーチ評価表を完成させる</p> <p>【第9回】  予習：スピーチ原稿の見直し  授業：スピーチのレベルアップ3（発表）  復習：スピーチ評価表を完成させる</p> <p>【第10回】  予習：スピーチ原稿の見直し  授業：スピーチのレベルアップ4（発表）  復習：スピーチの留意点についてまとめる</p> <p>【第11回】  予習：創作課題のテーマについて考えておく  授業：創作1：テーマの設定  復習：課題を仕上げる</p> <p>【第12回】  予習：創作課題の準備を行う  授業：創作2：構想を練る  復習：課題を仕上げる</p>			

<p>【第13回】          予習：創作課題の執筆を継続する          授業：創作3：執筆の開始と構想の見直し          復習：課題を仕上げる</p> <p>【第14回】          予習：創作課題を完成させる          授業：創作4：創作の完成と発表          復習：エントリーシート記入の留意点をまとめておく</p> <p>【第15回】          予習：後期の学修内容をふりかえる          授業：創作5：創作の発表・後期のふりかえり          復習：表現力アップのためのポイントを確認しておく</p>								
授業開始前学習	日本語の表現方法に関する文章を読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内での課題については翌週以降に返却する。							
テキスト・教材	授業内で適宜プリントを配付する。							
参考書	授業時に指示する。							
評価の基準と方法	授業内の課題（履歴書・スピーチなど）の評価70%、レポート（創作）30%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本の文化と歴史 I		
科目分類	111-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture and History I	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	自分がこれまでに一度は経験したことのある年中行事といった身近な素材から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『年中行事から考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。授業では課題解決型学習・発表を行う。		
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：論文集の見本を用いたガイダンス 復習：感想を提出する</p> <p>【第2回】 予習：正月の行事の身近な事例を調べる 授業：正月の行事の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：春から夏への行事の身近な事例を調べる 授業：春から夏への行事の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：盆の行事の身近な事例を調べる 授業：盆の行事の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：秋から冬への行事の身近な事例を調べる 授業：秋から冬への行事の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：日本人の自然観と信仰についてプリントを読んでおく 授業：日本人の自然観と信仰 復習：執筆した部分を推敲する</p> <p>【第7回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第8回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第9回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第10回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第11回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第12回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p>			

<p>【第 13 回】          予習：論文集を読んでおく          授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む⑦（発表）          復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第 14 回】          予習：論文集を読んでおく          授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む⑧（発表）          復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第 15 回】          予習：日本の文化と歴史 I の学びを振り返る          授業：年中行事から考える日本の文化（最終レポート）（課題解決型学習）          復習：日本の文化と歴史 I の学びを総括する</p>								
授業開始前学習	日本の年中行事に関する書籍や映像資料を見ておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題 2 0 %、小論文 5 0 %、最終レポート 3 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本の文化と歴史Ⅱ		
科目分類	111-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture and History Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	自分にゆかりのある地域の祭といった身近な素材から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『祭りから考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。授業では課題解決型学習・発表を行う。		
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：論文集の見本を用いたガイダンス 復習：感想を提出する</p> <p>【第2回】 予習：神と信仰の身近な事例を調べる 授業：神と信仰の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：農村の祭りの身近な事例を調べる 授業：農村の祭りの考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：都市の祭りの身近な事例を調べる 授業：都市の祭りの考察①（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：都市の祭りの身近な事例を調べる 授業：都市の祭りの考察②（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：稻城市内に伝わる祭りについてプリントを読んでおく 授業：稻城市内に伝わる祭り 復習：感想を提出する</p> <p>【第7回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第8回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第9回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第10回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第11回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第12回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p>			



<p>【第13回】          予習：論文集を読んでおく          授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む㉗（発表）          復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第14回】          予習：論文集を読んでおく          授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む㉘（発表）          復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第15回】          予習：日本の文化と歴史Ⅱの学びを振り返る          授業：祭りから考える日本の文化（最終レポート）（課題解決型学習）          復習：日本の文化と歴史Ⅱの学びを総括する</p>								
授業開始前学習	日本の祭りに関する書籍や映像資料を見ておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題20%、小論文50%、最終レポート30%により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。 この授業では、稲城市内の祭りを体感するため、祭礼のある日曜日などに正課学外活動を行う可能性がある。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本の文化と歴史Ⅲ		
科目分類	111-310-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture and History Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	欧米を意識した日本人によって近代以降に書かれた日本論の名著から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。		
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：授業で対象とする日本論の名著について参考書等を読んでおく 授業：授業で対象とする日本論の名著について 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】 予習：九鬼周造『「いき」の構造』について参考書等を読んでおく 授業：九鬼周造『「いき」の構造』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：和辻哲郎『風土』について参考書等を読んでおく 授業：和辻哲郎『風土』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：土居健郎『「甘え」の構造』について参考書等を読んでおく 授業：土居健郎『「甘え」の構造』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：柳田国男『遠野物語』について参考書等を読んでおく 授業：柳田国男『遠野物語』から考える日本の文化（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：執筆した部分を推敲する</p> <p>【第7回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第8回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第9回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第10回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第11回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第12回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑦（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p>			

<p>【第13回】          予習：論文集を読んでおく          授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑧（発表）          復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第14回】          予習：川端康成『美しい日本の私』について参考書等を読んでおく          授業：川端康成『美しい日本の私』から考える日本の文化（課題解決型学習）          復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第15回】          予習：日本の文化と歴史Ⅲの学びを振り返る          授業：日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化（最終レポート）（課題解決型学習）          復習：日本の文化と歴史Ⅲの学びを総括する</p>								
授業開始前学習	大久保喬樹『日本文化論の系譜』（中央公論新社）を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	大久保喬樹『日本文化論の系譜』（中央公論新社）							
評価の基準と方法	考察課題30%、小論文50%、最終レポート20%により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本の文化と歴史Ⅳ		
科目分類	111-310-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture and History Ⅳ	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	日本への強い関心を持つ外国人によって近代以降に書かれた日本論の名著から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。授業では課題解決型学習・発表を行う。		
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：授業で対象とする日本論の名著について参考書等を読んでおく 授業：授業で対象とする日本論の名著について 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】 予習：ラフカディオハーン『新訳 東の国から』について参考書等を読んでおく 授業：ラフカディオハーン『新訳 東の国から』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：ドナルドキーン『百代の過客（続） 日記に見る日本人』について参考書等を読んでおく 授業：ドナルドキーン『百代の過客（続） 日記に見る日本人』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：ハルオシラネ『四季の創造 日本文化と自然観の系譜』について参考書等を読んでおく 授業：ハルオシラネ『四季の創造 日本文化と自然観の系譜』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：E.S.モース『日本その日その日』について参考書等を読んでおく 授業：E.S.モース『日本その日その日』から考える日本の文化（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：執筆した部分を推敲する</p> <p>【第7回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第8回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第9回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『日本人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第10回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第11回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第12回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑦（発表） 復習：発表にコメントを寄せる</p>			

<p>【第13回】          予習：論文集を読んでおく          授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑧（発表）          復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第14回】          予習：ロバートキャンベル『日本古典と疫病』について参考書等を読んでおく          授業：ロバートキャンベル『日本古典と疫病』から考える日本の文化（課題解決型学習）          復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第15回】          予習：日本の文化と歴史Ⅳの学びを振り返る          授業：外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化（最終レポート）（課題解決型学習）          復習：日本の文化と歴史Ⅳの学びを総括する</p>								
授業開始前学習	佐伯彰一・芳賀徹『外国人による日本論の名著』（中央公論新社）を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	佐伯彰一・芳賀徹『外国人による日本論の名著』（中央公論新社）							
評価の基準と方法	考察課題30%、小論文50%、最終レポート20%により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆古典文学概論		
科目分類	111-331-11 (2022年～入学者) 111-331-12 (～2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Japanese Classical Literature	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	本講義は主要な古典文学作品を読み味わいながら、古典を読むときに必要な基礎的知識を再確認し、古典文学研究の基礎作りを行うことを目的とする。具体的には、上代から近世までの主要な日本の古典文学作品を取り上げ、作品の概要や基礎的な事項を解説しながら、近世までの文学の流れについて概観する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で扱った事項に関する簡単な質問に正しく答えることができる。</li> <li>・様々なジャンルの古典文学作品の概要を簡潔に説明することができる。</li> <li>・文学にあらわれたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：古典文学作品のうち、一番興味を持っている作品は何か考えておく  授業：「古典」の意義（授業の目的と内容に関するオリエンテーション）  復習：本授業の目的を理解し、要点をまとめる</p> <p>【第2回】  予習：『古事記』の成立年次を調べておく  授業：『古事記』を読む  復習：『古事記』について感想等をまとめる</p> <p>【第3回】  予習：『万葉集』の歌をインターネットを使って探してみる  授業：『万葉集』を読む  復習：『万葉集』について感想等をまとめる</p> <p>【第4回】  予習：『竹取物語』の冒頭部を読んでおく  授業：『竹取物語』を読む  復習：『竹取物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第5回】  予習：『伊勢物語』の成立について調べておく  授業：『伊勢物語』を読む  復習：『伊勢物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第6回】  予習：『古今和歌集』の成立年次について調べる  授業：『古今和歌集』を読む  復習：『古今和歌集』について感想等をまとめる</p> <p>【第7回】  予習：『落窪物語』の冒頭部を読んでおく  授業：『落窪物語』を読む  復習：『落窪物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第8回】  予習：『源氏物語』と紫式部について調べておく  授業：『源氏物語』を読む  復習：『源氏物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第9回】  予習：『新古今和歌集』の成立年次を調べておく  授業：『新古今和歌集』を読む  復習：『新古今和歌集』について感想等をまとめる</p> <p>【第10回】  予習：『今昔物語集』の成立年次について調べておく  授業：『今昔物語集』を読む  復習：『今昔物語集』について感想等をまとめる</p> <p>【第11回】  予習：『徒然草』と兼好法師について調べておく  授業：『徒然草』を読む  復習：『徒然草』について感想等をまとめる</p> <p>【第12回】  予習：「連歌」について調べておく  授業：「連歌」について  復習：連歌について感想等をまとめる</p>			

<p>【第13回】  予習：「俳諧」という語について辞書で確認しておく  授業：「俳諧」について  復習：俳諧について感想等をまとめる</p> <p>【第14回】  予習：『雨月物語』と上田秋成について調べておく  授業：『雨月物語』を読む  復習：『雨月物語』について感想等をまとめる</p> <p>【第15回】  予習：『南総里見八犬伝』と曲亭馬琴について調べておく  授業：『南総里見八犬伝』を読む  復習：『南総里見八犬伝』について感想等をまとめる</p>								
授業開始前学習	なるべく多くの古典文学作品にふれておく（現代語訳のものでもかまわない）。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業内容に対する質問・感想は、次回授業時までには適宜コメントをつけて返却する。							
テキスト・教材	授業担当者が作成した資料を配付する。							
参考書	池田亀鑑『古典学入門』（岩波文庫）、同『平安朝の生活と文学』（ちくま学芸文庫） 田辺聖子『文車日記』（新潮文庫） この他、適宜授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	毎回の課題（70%）、レポート（30%）によって判断する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目	「日本文学史」「古典文学」							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	近代文学概論		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Modern Japanese Literature	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	明治以降の日本の近代小説の歴史を概説しながら、時代ごとの代表的な作家とその近代を代表する作品を解説する。小説というジャンルが日本に根つき、「文学」の主要な位置を占めるようになってから、どのような発展を遂げてきたかを見ていくと共に、近代から現代へと至る文化の変遷の中で、「文学」の果たした役割について考察する。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	明治期において小説というジャンルがどのように形成され、現代の小説の形式につながるのか、その概要を説明できるようになる。小説を中心とした「文学」が、近代から現代へと至る文化の変遷の中でどのような役割を果たしたのかを理解し、それをもとに具体的な作品を論じるための能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：日本近代文学についての自分の知識を確認しておく  授業：授業の進め方について・日本近代文学という枠組みについて（キーワード：近代、欧米の文学、小説、出版メディア、ビルドゥングスroman）  復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】  予習：A 教科書「硝子戸の中」を読んでおく  授業：文明開化と「文学」の変容（A 教科書 19-74 頁）（キーワード：文明開化、江戸から東京へ、翻訳小説）（課題解決型学習）  復習：文明開化と文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第3回】  予習：A 教科書「硝子戸の中」を読み直す  授業：「小説」とノベル（A 教科書 19～74 頁）（キーワード：ロマンスとノベル、夏目漱石「硝子戸の中」）  復習：夏目漱石について学んだことをまとめる</p> <p>【第4回】  予習：A 教科書「銀の匙」を読んでおく  授業：明治後期の小説文体（A 教科書 24-31 頁）（キーワード：言文一致、文体、自然観察、子ども歳時記）  復習：中勘助について学んだことをまとめる</p> <p>【第5回】  予習：A 教科書「銀の匙」を読み直す  授業：自然主義文学と漱石（A 教科書 24-31 頁 課題 1 提出）（キーワード：自然主義、夏目漱石、木曜会、）（課題解決型学習）  復習：自然主義文学と夏目漱石・中勘助について学んだことをまとめる</p> <p>【第6回】  予習：A 教科書「天龍」を読んでおく  授業：大正文壇の成立と鴉外（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：森鴉外、「明星」「スバル」、耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉）  復習：大正文壇と森鴉外について学んだことをまとめる</p> <p>【第7回】  予習：配付プリント「大正文壇の成立」を読んでおく  授業：大正文壇の成立（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉）  復習：大正文壇について学んだことをまとめる『新思潮』と大正期教養主義について学んだことをまとめる</p> <p>【第8回】  予習：A 教科書「トロッコ」・「風の又三郎」・「久助君の話」を読んでおく  授業：賢治童話・未明童話・南吉童話と「赤い鳥」（A 教科書 47-74 頁、課題 2 提出）（キーワード：御伽噺・文部省唱歌から童謡童話へ）（課題解決型学習）  復習：童謡童話運動・「トロッコ」・「風の又三郎」・「久助君の話」について学んだことをまとめる</p> <p>【第9回】  予習：B 教科書「戦時下の文学」「大衆文学と演劇」を読んでおく  授業：「大衆文学」の成立（DVD『放浪記』視聴 B 教科書 50-126）（キーワード：大衆文学、探偵小説、通俗小説、『キング』）  復習：大衆文学・「放浪記」について学んだことをまとめる</p> <p>【第10回】  予習：A 教科書「風琴と魚の町」「女生徒」を読んでおく  授業：文芸復興と「転向文学」（A 教科書 84-96 頁 B 教科書 201-226）（キーワード：文芸復興、純粋小説、転向文学、太宰治）  復習：林芙美子・太宰治について学んだことをまとめる</p> <p>【第11回】  予習：A 教科書「鮫」「伊豆の踊子」を読んでおく  授業：第二次世界大戦と文学（A 教科書 126-140 頁 B 教科書 27-48 課題 3 提出）（キーワード：女性作家の活躍、言論統制、ノーベル文学賞）  復習：岡本かの子・川端康成について学んだことをまとめる</p>			

<p>【第12回】          予習：B教科書「戦前詩と戦後詩」「短歌と俳句」を読んでおく          授業：戦後文学の展開（B教科書127～178頁）（キーワード：『新日本文学』、『近代文学』、無頼派、戦争体験）（課題解決型学習）          復習：戦後文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第13回】          予習：B教科書「第三の新人」「現代の文学へ」を読んでおく          授業：現代の文学（B教科書227-278頁）（キーワード：「日本」という概念、原理原則の脱構築、村上春樹）          復習：現代の文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第14回】          予習：配付プリント「世界文学としての日本現代文学」を読んでおく          授業：カズオ・イシグロの文学（DVD『カズオ・イシグロ文学白熱教室』視聴 課題4提出）（キーワード：「日本」という概念、グローバリズム）          復習：世界文学としての日本文学について学んだことをまとめる</p> <p>【第15回】          予習：現代の文学について考える          授業：現代における「文学」の位置づけ（キーワード：映像文化、メディアミックス、文学概念の変容）          復習：これまで学んできたことをもとに日本の近現代文学史について考える</p>								
授業開始前学習	授業に関連する日本の近現代文学作品を出来るだけ読んでおくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内容に関連した授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	A『伸び支度 名作に描かれた少年少女』上田博監修（おうふう）、B『昭和の文学を読む』外村彰編（ひつじ書房）							
参考書	『日本近代小説史』安藤宏（中公選書）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本語学概論 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Japanese Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本語の音声・音韻論、文字・表記論、文法論、語彙論の基本的な事項について学ぶ。また、この授業では、PC を用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。		
到達目標	(1)日本語に関する基本的な知識を身につける。(2)日本語全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。(3)学んだ日本語の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：最近気になる言葉を1つ以上見つけておく  授業：イントロダクション 日本語学とは  復習：国立国語研究所のコーパスを使う</p> <p>【第2回】  予習：身の回りで、カタカナで表記されているものを観察する  授業：文字と表記（1）日本語の文字  復習：身の回りの表記を文字種に着目して観察する</p> <p>【第3回】  予習：振り仮名（ルビ）で面白いと思う用例を見つける  授業：文字と表記（2）仮名遣いと送り仮名  復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で表記のゆれを検索して確認する</p> <p>【第4回】  予習：テレビ音声を耳で聞いて文字化してみる  授業：音声と音韻（1）音声・発音  復習：発声の練習をする</p> <p>【第5回】  予習：早口言葉を練習する  授業：音声と音韻（2）音韻・韻律  復習：『日本語日常会話コーパス』で発音のゆれを検索して確認する</p> <p>【第6回】  予習：程度がはなはだしいことを表す副詞を挙げる  授業：文法（1）形態論  復習：人や物をほめる時に使える形容詞・形容動詞を挙げる</p> <p>【第7回】  予習：「○○が熱い」「熱い○○」「熱く○○」それぞれを使った例文を作る  授業：文法（2）活用  復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で用例の活用形を確認する</p> <p>【第8回】  予習：新聞記事などを読みわかりやすい文の構造について考える  授業：文法（3）文の構造  復習：自身の書いた文章が一文一義になるよう見直す</p> <p>【第9回】  予習：新聞記事などに受動文がどれくらい使われているかを確認する  授業：文法（4）文法カテゴリー ヴォイス  復習：身近にある文章で受動文・使役文の使用例を確認する</p> <p>【第10回】  予習：ブログ記事などで「～だろう」「～かもしれない」など書き手の主観が現れていると思う文末表現を確認する  授業：文法（5）文法カテゴリー テンス・アスペクト・ムード  復習：身近にある文章でテンス・アスペクト・ムードの使用例を確認する</p> <p>【第11回】  予習：図書室などで類語辞典を読んでみる  授業：語彙（1）語と語彙  復習：『分類語彙表』を用いて興味のあるカテゴリに入る語を確認する</p> <p>【第12回】  予習：難易度の異なる文章の語を比較する  授業：語彙（2）基本語彙、さまざまな語彙  復習：使用語彙と理解語彙の差を確認する</p>			

<p>【第13回】  予習：身近にある外来語の例を確認する  授業：語彙（3）語種  復習：興味のある文章で用いられている語の語種を確認する  【第14回】  予習：身近にある複合語の例を確認する  授業：語彙（4）語構成と語形成  復習：複合名詞、複合動詞、複合形容詞、複合形容動詞、複合副詞の例を確認する  【第15回】  予習：分析をしてみたい歌詞のテキストを用意する  授業：まとめ 歌詞の形態素解析  復習：形態素解析をした結果をまとめてレポートを作成する</p>								
授業開始前学習	日頃から国語辞典（形態は問わない）を引くよう習慣づけるとよい。また、日本語・日本語学に関わる新書等を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は主にネットワーク経由のアンケート方式で配付・回収する。授業時に、個別の質問・意見等への回答を含め、結果全体について講評する。							
テキスト・教材	主に Google Classroom にて資料を配付する。							
参考書	沖森卓也ほか(2006)『図解 日本語』／(2011)『図解 日本の文字』／(2011)『図解 日本の語彙』（三省堂）、荻野綱男編著(2018)『現代日本語学入門改訂版』（明治書院）、伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房）							
評価の基準と方法	平常点（授業への参加状況等）40%と、レポート60%によって、評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他	パソコン教場の空き状況により、実習日が変更になる可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	国立国語研究所の実務経験あり。日本語の基本的な事項について講義する。							

科目名称	日本語学概論Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Japanese Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本語の意味論、位相、敬語、社会とことば、及び応用分野の基本的な事項について学ぶ。また、この授業では、PC を用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。		
到達目標	(1)日本語に関する基本的な知識を身につける。(2)日本語全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。(3)学んだ日本語の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：身の回りにある類義語や反義語を観察する  授業：意味（1）同義語・類義語・反義語  復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で類義語を検索して用例を比較する</p> <p>【第2回】  予習：意味が変化したと思う語を見つけてみる  授業：意味（2）意味の変化  復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で意味が変化した語の用例を確認する</p> <p>【第3回】  予習：意味がたくさんありそうな語を国語辞典で引く  授業：意味（3）多義語  復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で多義語の用例を確認する</p> <p>【第4回】  予習：気になる方言を1つ以上見つけておく  授業：位相（1）方言と共通語  復習：方言が広く使われている例を確認する</p> <p>【第5回】  予習：性別や世代による言葉使いの違いを考えてみる  授業：位相（2）性別差・世代差  復習：身の回りにあるさまざまな語の位相について確認する</p> <p>【第6回】  予習：レポートや論文に使わない方がよいと思われる話し言葉的な表現を見つけてみる  授業：位相（3）話し言葉・書き言葉  復習：『日本語日常会話コーパス』で話し言葉の用例を確認する</p> <p>【第7回】  予習：身の回りで使われているさまざまな敬語表現を観察する  授業：敬語（1）敬語表現の分類  復習：『日本語日常会話コーパス』で敬語表現の例を確認する</p> <p>【第8回】  予習：どのような場面で敬語が用いられているかを観察する  授業：敬語（2）敬語の変化  復習：地域社会と敬語行動の関係について理解する</p> <p>【第9回】  予習：気になる新語・流行語を1つ以上見つけておく  授業：社会と言葉（1）新語・流行語  復習：コーパス等で新語・流行語の用例を確認する</p> <p>【第10回】  予習：身の回りにある製品の中でうまいと思う命名を見つけておく  授業：社会と言葉（2）命名  復習：身の回りにある物に対し自分でも命名を試みる</p> <p>【第11回】  予習：集団語・若者語の例を確認する  授業：社会と言葉（3）集団語・若者語  復習：コーパス等で集団語・若者語の用例を確認する</p> <p>【第12回】  予習：気になる語について国語辞典を引いて意味を確認する  授業：社会と言葉（4）辞書  復習：気になる語の新しい語釈を考えてみる</p>			

<p>【第13回】  予習：図書室などで日本語教育の教材がどのようなものか見てみる  授業：応用（1）国語教育、日本語教育  復習：「外国語としての日本語」の教育という点について確認する  【第14回】  予習：図書室などでどのような「言語学」関連の本があるのかを見てみる  授業：応用（2）認知言語学、コンピュータ言語学、社会言語学  復習：研究事例の資料を読む  【第15回】  予習：『日本語日常会話コーパス』で用例分析をする語を考える  授業：まとめ『日本語日常会話コーパス』の用例分析  復習：用例分析結果をまとめてレポートを作成する</p>								
授業開始前学習	日頃から国語辞典（形態は問わない）を引くよう習慣づけるとよい。また、日本語・日本語学に関わる新書等を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は主に、Google Classroom にて指示する。授業時に、個別の質問・意見等への回答を含め、結果全体について講評する。							
テキスト・教材	Google Classroom にて資料を配付する。							
参考書	沖森卓也ほか(2006)『図解 日本語』／(2011)『図解 日本の文字』／(2011)『図解 日本の語彙』（三省堂）、荻野綱男編著(2018)『現代日本語学入門改訂版』（明治書院）、伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房）							
評価の基準と方法	平常点（授業への参加状況等）40%と、レポート60%によって、評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	国立国語学研究所の実務経験あり。日本語の応用分野の基本的な事項を講義する。							

科目名称	古典文学 I (上代・中古)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Classical literature I (Ancient Times)	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10 後期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10	研究室	10-611
授業概要	上代・中古の文学に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本文学の源泉である『古事記』を取り上げて、同時代の『万葉集』や中古文学と関連付けつつ概説する。一語一語大切に読み解きながら、古典文学の世界に親しみ、現代までつづく「日本文学」の基礎的な問題点について考察を深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの興味・関心をもって古典文学作品と向かい合うことができる。</li> <li>・授業で取り扱った上代・中古の文学作品について、その要点を自分なりの表現で説明することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：教材プリント 1 を一読する  授業：『古事記』概説「天地始発」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 2 回】  予習：教材プリント 2 を一読する  授業：「国土生成」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 3 回】  予習：教材プリント 3 を一読する  授業：「神生み」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 4 回】  予習：教材プリント 4 を一読する  授業：「黄泉国訪問」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 5 回】  予習：教材プリント 5 を一読する  授業：「三貴子誕生」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 6 回】  予習：教材プリント 6 を一読する  授業：「天の石戸」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 7 回】  予習：教材プリント 7 を一読する  授業：「ヤマタノオロチ」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 8 回】  予習：教材プリント 8 を一読する  授業：「オオナムチ」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 9 回】  予習：教材プリント 9 を一読する  授業：「大国主」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 10 回】  予習：教材プリント 10 を一読する  授業：「出雲神話」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 11 回】  予習：教材プリント 11 を一読する  授業：「天の若日子」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 12 回】  予習：教材プリント 12 を一読する  授業：「国譲り」  復習：本時の課題に取り組む（Classroom）</p> <p>【第 13 回】</p>			



予習：教材プリント13を一読する 授業：「天孫降臨」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom） 【第14回】 予習：教材プリント14を一読する 授業：「山幸海幸」 復習：本時の課題に取り組む（Classroom） 【第15回】 予習：教材プリント15を一読する 授業：「ウガヤフキアヘズの命」『古事記』上巻のまとめ 復習：本時の課題に取り組む（Classroom）								
授業開始前学習	古事記に関する簡単な概説書を一冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業の内容の要約および質問感想は、次回授業時まで、教員のコメントを付して返却する。							
テキスト・教材	授業担当者が作成した資料を用いる。							
参考書	授業内で指示する。							
評価の基準と方法	各回の課題（70%）、レポート（30%）により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	古典文学Ⅱ(中世・近世)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Classical literature II (Middle Ages)	授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	江戸時代の俳諧師、芭蕉の『おくのほそ道』を通して、江戸時代の歴史、地理的感覚、文化、文学を原典資料の画像や絵画・絵図・地図を用いて講義します。 元禄 2 年 (1689)、芭蕉は門人曾良とともに江戸を旅立ち、東北・北陸を巡り、大垣に着き、再び旅立つところで紀行は結ばれます。 この名所・歌枕を訪ね、発句および文を記した本作は、名作として知られています。 俳諧は、「冢瀧や料理何食ふ神祭(曾良)」のように、各地の行事や風俗を読みこみます。 この授業では、俳諧・紀行文をさまざまな視点から読みこむことによって、日本の歴史と社会、江戸時代の文化や、その文学に親しむことを目標とします。		
到達目標	文学作品を読み、日本語の表現と歴史・社会・文化的背景を理解することができる。 原典資料の画像や絵画・絵図・地図などを見て楽しむことができる。 (1) 季節感と四季の行事 (2) 江戸の文化と旅の風俗 (3) 和歌や古典文学の知識 (4) 狂歌や俳諧の表現(言葉)		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習：『おくのほそ道』全文を通読し、シラバスの内容を確認する 授業：ガイダンス 講義の目的と概要、テキストと参考文献の解説 復習：図書館等で参考文献・データベースの使い方を確認しておく</p> <p>【第 2 回】 予習：テキスト全体に目を通し、その構成を確認する 授業：『おくのほそ道』を知るための基礎知識(1) 芭蕉と俳諧史概説 復習：連歌・俳諧の展開、芭蕉の経歴・作風を整理する</p> <p>【第 3 回】 予習：テキストの解説を読んでおく 授業：『おくのほそ道』を知るための基礎知識(2) 旅の目的と創作意識 復習：芭蕉の奥羽行脚の目的と俳文・紀行の執筆意図を確認する</p> <p>【第 4 回】 予習：テキストの「日光山」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の正直房と仏五左衛門 復習：『撰集抄』の隠遁者像と仏五左衛門の人物造形についてまとめる</p> <p>【第 5 回】 予習：テキストの「那須野」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『錦木』と「草刈るおのこ」これまでの感想の発表と質疑応答(発表) 復習：謡曲の文句取りとその効果について整理する</p> <p>【第 6 回】 予習：テキストの「雲巖寺」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の道歌と「山居の跡」 復習：『撰集抄』の道歌のスタイルをふまえ、仏頂和尚の位置づけを確認する</p> <p>【第 7 回】 予習：テキストの「殺生石」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『殺生石』と「石の毒気」 復習：謡曲の世界観を踏まえ、当該章段の描写を読み返す</p> <p>【第 8 回】 予習：テキストの「遊行柳」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『遊行柳』と「清水ながるるの柳」 復習：西行和歌・謡曲の筋立て・芭蕉発句の関係性を整理する</p> <p>【第 9 回】 予習：テキストの「安積山・信夫の里」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『黒塚(安達原)』と「黒塚の岩屋」 復習：本文の中では語られない「岩屋一見」の意義を謡曲により補完する</p> <p>【第 10 回】 予習：テキストの「瑞巖寺」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の見仏上人と瑞巖寺 これまでの感想の発表と質疑応答(発表) 復習：見仏上人への追慕と『撰集抄』との関わりをまとめる</p>			

<p>【第 11 回】          予習：テキストの「平泉」の章段を読み、内容を把握する          授業：謡曲『邯鄲』と「栄耀一睡」          復習：「一睡」が正しくは「一炊」であることの意味を確認する</p> <p>【第 12 回】          予習：テキストの「市振」の章段を読み、内容を把握する          授業：江口の遊女と市振の遊女          復習：遊女との同宿という状況を演出した芭蕉の意図を考える</p> <p>【第 13 回】          予習：テキストの「小松」の章段を読み、内容を把握する          授業：謡曲『実盛』と「太田の神社」          復習：斎藤別当実盛の逸話をふまえ、章段全体を読み直す</p> <p>【第 14 回】          予習：これまでの学習内容を整理しておく          授業：到達度確認テスト（記述式・持ち込み可予定）          復習：テスト問題とプリントを照らし合わせ、出題箇所を確認する</p> <p>【第 15 回】          予習：自己のテスト回答を確認しておく          授業：到達度確認テストの講評と返却、これまでの感想の発表と質疑応答（発表）          復習：学修内容全体を振り返り、自己の理解度を確認する</p>								
授業開始前学習	テキスト以外の書籍・媒体でも構わないので、『おくのほそ道』全体を読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	リアクションペーパー：毎時間、授業内でコメント。 到達度確認テスト：第 15 回授業において解説。							
テキスト・教材	瀬原退蔵・尾形仿訳注『新版 おくのほそ道』（角川ソフィア文庫・KADOKAWA 2003 年） ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書	尾形仿ほか編『俳文学大辞典』角川書店、1995 年 ※同内容の普及版（2008 年刊）もある。 井本農一ほか校注訳『新編日本古典文学全集 松尾芭蕉集②』小学館、1997 年 堀切実編『おくのほそ道』解釈事典』東京堂出版、2003 年 西野春雄校注『新日本古典文学大系 謡曲百番』岩波書店、1998 年 等							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達度確認テストの成績（60%）</li> <li>リアクションペーパー・発表・質疑応答（40%）</li> </ul>							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業時にリアクションペーパーを配布し、授業に対する質問・感想を記入。</li> <li>記載内容は予定であり、開講時の状況や聴講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	近現代文学 I (近代)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Modern and Contemporary Literature I (Modern)	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	明治期後半の日本の近代小説の中から、夏目漱石「坊っちゃん」、田山花袋「少女病」、志賀直哉「小僧の神様」、谷崎潤一郎「夢喰ふ蟲」を読む。小説の内容と時代背景を理解し、小説に描かれている事物の同時代的な意味を把握する。その上で、人物の造型や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を行っていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	明治期の小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。夏目漱石、田山花袋、志賀直哉、谷崎潤一郎といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：明治期の日本近代文学について自分の知識を確認しておく  授業：授業の進め方について・明治期後半の近代小説についての説明（キーワード：近代小説、言文一致、自然主義、日露戦争）  復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】  予習：「坊っちゃん」を読んでおく  授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む1（教科書 142～155 頁、夏目漱石について・英国留学との関わり・小説家になるまで）（キーワード：夏目漱石、英国留学、「文学論」）  復習：夏目漱石と「坊っちゃん」について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第3回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む2（内容の説明と構成・課題1提出）（キーワード：松山、正岡子規、「ホトギス」）（課題解決型学習）  復習：「坊っちゃん」の内容と構成について、授業で学んだことをまとめ、課題1に取り組む</p> <p>【第4回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む3（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「おれ」の人物造型、「清」・「赤シャツ」の人物像系）  復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第5回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む4（小説の文体や描写・本文異同・語りの構造に関する分析・課題1解説）（キーワード：文体の特徴、語りの構造、歴史と創作）  復習：授業で学んだことをもとに、「坊っちゃん」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第6回】  予習：「少女病」を読んでおく  授業：田山花袋「少女病」を読む1（教科書 83～97 頁、田山花袋について・内容の説明と構成・課題2提出）（キーワード：田山花袋、自然主義、平面描写、日露戦争、都市空間）（課題解決型学習）  復習：田山花袋と「少女病」について、授業で学んだことをまとめ、課題2に取り組む</p> <p>【第7回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：田山花袋「少女病」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「かれ」の人物造型、「かれ」の心理、「かれ」の死）  復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第8回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：田山花袋「少女病」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題2解説）（キーワード：平面描写による文体、語りの構造、無理想無解決）  復習：授業で学んだことをもとに、「少女病」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第9回】  予習：「小僧の神様」を読んでおく  授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む1（教科書 9～19 頁、志賀直哉について・内容の説明と構成・課題3提出）（キーワード：志賀直哉、白樺派、理想主義とリアリズム、小説の神様）（課題解決型学習）  復習：志賀直哉と「小僧の神様」について、授業で学んだことをまとめ、課題3に取り組む</p> <p>【第10回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「仙吉」及び「A」の人物造型、「B」及び「細君」の人物造型、）  復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p>			

<p>【第1回】          予習：前回の授業で学んだことを読み返す          授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題3解説）（キーワード：簡潔な文体、テキスト論、メタフィクション）          復習：授業で学んだことをもとに、「小僧の神様」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第2回】          予習：「蓼喰ふ蟲」を読んでおく          授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む1（教科書185～201頁、谷崎潤一郎について・内容の説明と構成・課題4提出）（キーワード：谷崎潤一郎、耽美派、新聞小説、上方文化）（課題解決型学習）          復習：谷崎潤一郎と「蓼喰ふ蟲」について、授業で学んだことをまとめ、課題4に取り組む</p> <p>【第3回】          予習：前回の授業で学んだことを読み返す          授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：語り手の「要」、「美佐子」「お久」「老人」の人物造型）          復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第4回】          予習：前回の授業で学んだことを読み返す          授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題4解説）（キーワード：文体の特徴、語りの構造、挿絵、メディア）          復習：授業で学んだことをもとに、「蓼喰ふ蟲」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第5回】          予習：これまでの授業で学んだことを読み返す          授業：明治期後半における作家・作品の位置づけ（キーワード：自然主義、芸術と実生活、日露戦争の影響）          復習：明治期後半の小説について授業で学んだことをまとめる</p>								
授業開始前学習	授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる4つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	『大学生のための文学トレーニング 近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著（三省堂）							
参考書	『大学生のための文学トレーニング 現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著（三省堂）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	近現代文学Ⅱ(現代)		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Modern and Contemporary Literature Ⅱ (Contemporary)	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	第二次世界大戦後のいわゆる「戦後文学」と呼ばれる小説の中から、石川淳「焼跡のイエス」、三島由紀夫「卒塔婆小町」、深沢七郎「榎山節考」、石牟礼道子「ゆき女きき書き」を読む。小説の内容と時代背景を理解し、小説に描かれている事物の同時代的な意味を把握する。その上で、人物の造型や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を行っていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	第二次世界大戦後のいわゆる「戦後文学」と呼ばれる小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。 石川淳、三島由紀夫、深沢七郎、石牟礼道子といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。 小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：第二次世界大戦後の「戦後文学」について自分の知識を確認しておく  授業：授業の進め方の説明・第二次世界大戦後の「戦後文学」についての説明（キーワード：敗戦、GHQの占領政策、価値観の変容、雑誌の創刊・復刊）  復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】  予習：「焼跡のイエス」を読んでおく  授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む1（『大学生のための文学トレーニング 近代編』128～140頁、石川淳について・内容の説明と語釈・課題1出題）（キーワード：石川淳、フランス文学、芥川賞、無頼派、闇市、浮浪児）（課題解決型学習）  復習：授業で学んだことをまとめ、課題1に取り組む</p> <p>【第3回】  予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を読み直す  授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：闇市の中の「わたし」、上野の闇市の描写、少年の行動）  復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第4回】  予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を読み直す  授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題1解説）（キーワード：「わたし」の語り口、SCAP、言論統制）  復習：授業で学んだことをもとに、「焼跡のイエス」について自分の意見をまとめる</p> <p>【第5回】  予習：「卒塔婆小町」を読んでおく  授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む1（教科書24～37頁、三島由紀夫について・内容の説明と語釈・課題2出題）（キーワード：三島由紀夫、「近代能楽集」、卒塔婆小町）（課題解決型学習）  復習：授業で学んだことをまとめ、課題2に取り組む</p> <p>【第6回】  予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を読み直す  授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：詩人の美的体験、老婆の美的体験）  復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第7回】  予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を読み直す  授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題2解説）（キーワード：美の認識、間テクスト性、言葉の力）  復習：授業で学んだことをもとに、「卒塔婆小町」について自分の意見をまとめる</p> <p>【第8回】  予習：「榎山節考」を読んでおく  授業：深沢七郎「榎山節考」を読む1（教科書76～101頁、深沢七郎について・内容の説明と語釈・課題3出題）（キーワード：深沢七郎、説話的設定、オリエンタリズム）（課題解決型学習）  復習：授業で学んだことをまとめ、課題3に取り組む</p> <p>【第9回】  予習：前回学んだことをもとに「榎山節考」を読み直す  授業：深沢七郎「榎山節考」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：オリエンタリズムとジェンダー、自己犠牲、他者）  復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第10回】</p>			



予習：前回学んだことをもとに「楢山節考」を読み直す  
 授業：深沢七郎「楢山節考」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題3解説）（キーワード：説話的な語り、オリエンタリズム、グロテスクと神聖）  
 復習：授業で学んだことをもとに、「楢山節考」について自分の意見をまとめる  
 【第11回】  
 予習：「ゆき女さき書き」を読んでおく  
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む1（教科書102～123頁、石牟礼道子について・「苦海浄土」について・課題4出題）（キーワード：石牟礼道子、水俣病患者、「苦海浄土」）（課題解決型学習）  
 復習：授業で学んだことをまとめ、課題4に取り組む  
 【第12回】  
 予習：前回のノートを見ながら「ゆき女さき書き」を読み直す  
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む2（内容の説明と語釈）（キーワード：水俣病患者、坂上ゆきの語り、サバルタン）  
 復習：作品の内容について授業で学んだことをまとめる  
 【第13回】  
 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女さき書き」を読み直す  
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む3（人物の造型や心理に関する分析・課題4解説）（キーワード：他者を語ることの困難、環境問題、自然観）  
 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる  
 【第14回】  
 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女さき書き」を読み直す  
 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む4（小説の文体や描写、語りの構造に関する分析）（キーワード：文体の特徴、私の語りと「ゆき女」に「あんた」と呼ばれる私、語りの構造）  
 復習：授業で学んだことをもとに、「ゆき女さき書き」について自分の意見をまとめる  
 【第15回】  
 予習：これまで授業で学んだことをもとに各作品を読み直す  
 授業：「戦後文学」における作家・作品の位置づけ（キーワード：価値観の変容、戦争体験、時代状況との関わり）・学期末レポート提出  
 復習：「戦後文学」について授業で学んだことをまとめる

授業開始前学習	授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる4つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	『大学生のための文学トレーニング 現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著（三省堂）							
参考書	『大学生のための文学トレーニング 近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著（三省堂）、『昭和の文学を読む』外村彰編（ひつじ書房）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	日本語学 I		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10 後期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10	研究室	10-510
授業概要	小中高等学校で扱う学校文法について概観するとともに、現代の日本語文法について歴史的な言語変化という観点から理解を深める。		
到達目標	現代の学校文法の基礎を理解し、古典文法との関わりや日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを熟読・確認する  授業：日本語史の時代区分と古典語・現代語、現代日本語と中央語・共通語・方言  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第2回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：学校文法における品詞分類と品詞名  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第3回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：学校文法における活用と活用形  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第4回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：文章・文・文節・単語・形態素  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第5回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：学校文法における各品詞の概要  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第6回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の動詞（1）—動詞の分類—  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第7回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の動詞（2）—活用の歴史—  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第8回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の形容詞・小テスト  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第9回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の形容動詞  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第10回】  予習：これまでの講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の名詞・代名詞  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第11回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の副詞・連体詞  復習：講義内容・配布資料の復習</p> <p>【第12回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の接続詞・感動詞  復習：講義内容・配布資料の復習</p>			

<p>【第13回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の助動詞  復習：講義内容・配布資料の復習  【第14回】  予習：講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の助詞（1）—助詞の分類—  復習：講義内容・配布資料の復習  【第15回】  予習：これまでの講義内容・配布資料の復習  授業：現代語の助詞（2）—「が」と「は」の違い—・小テスト  復習：講義全体の復習</p>								
授業開始前学習	中学校・高等学校の時に使用した口語文法・古典文法の教科書を通読すること。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業時に実施するワークシートは、次週に解説および個別質問への回答を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。							
参考書	森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房。他、授業時に適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業内における小テスト2回（80%）、各回のコメントシート（20%）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本語学Ⅱ		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	本授業では、日本語の語と語彙について、さまざまな観点から取り上げる。語の音声、意味、語構成、文法、位相の違い等について、現代における指針・規則や国語教育における扱いなどを紹介するとともに、過去から現在にかけてどのような変遷をたどってきたのか、各時代の文学作品や国語辞書等の用例を示しながら具体的に解説する。		
到達目標	①日本語の単語の語種や語構成、アクセント等について正しく理解できる。②年代、性別、地域、文法、文体などを根拠として語を分類し、それぞれの語群の特性について説明できる。③国語辞書の特色や歴史を理解し、適切に辞書を使いこなせる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：英語と日本語の「アクセント」の違いについて考える。  授業：語の音声（音節・拍、アクセント等）と意味（語義、語感等）について（教科書 10 頁から 15 頁）（グループ・ワーク）  復習：復習プリント（日本語の共通語アクセントの規則）に取り組む。</p> <p>【第2回】  予習：予習プリント（日本語の形態素）に取り組む。  授業：日本語の単語の語構成、ならびに語を構成する要素（語基・接辞）について（教科書 16 頁から 21 頁）  復習：復習プリント（日本語の単語の分類）に取り組む。</p> <p>【第3回】  予習：予習プリント（学校文法における品詞分類）に取り組む。  授業：日本語の単語の、語種や品詞による分類について（教科書 36 頁から 43 頁）  復習：復習プリント（現代における混種語）に取り組む。</p> <p>【第4回】  予習：予習プリント（日本語の感情語彙）に取り組む。  授業：日本語の身体語彙や感情語彙について（教科書 44 頁から 55 頁）  復習：復習プリント（類義語と対義語）に取り組む。</p> <p>【第5回】  予習：予習プリント（現代日本語のオノマトペ）に取り組む。  授業：日本語のオノマトペについて（教科書 60 頁から 63 頁）  復習：復習プリント（オノマトペ接尾辞の機能）に取り組む。</p> <p>【第6回】  予習：予習プリント（世界の数詞）に取り組む。  授業：日本語の数詞・助数詞について（教科書 56 頁から 59 頁）  復習：復習プリント（日本語における「数え方」）に取り組む。</p> <p>【第7回】  予習：予習プリント（語種と類義語・対義語）に取り組む。  授業：語同士の意味関係（類義語・対義語、上位語・下位語等）について（教科書 68 頁から 77 頁）  復習：復習プリント（類義語の意味の違い）に取り組む。</p> <p>【第8回】  予習：予習プリント（「国語に関する世論調査」にみることばの変化）に取り組む。  授業：ことばの意味や語形が変化する原理、および語の言い換えについて（教科書 82 頁から 93 頁）（グループ・ワーク）  復習：復習プリント（言い換えと語種）に取り組む。</p> <p>【第9回】  予習：予習プリント（和語と多義語）に取り組む。  授業：和語・漢語の歴史について（教科書 98 頁から 118 頁）  復習：復習プリント（漢語と字音）に取り組む。</p> <p>【第10回】  予習：予習プリント（現代日本語における外来語）に取り組む。  授業：外来語・混種語の歴史について（教科書 119 頁から 125 頁）  復習：復習プリント（外来語の表記）に取り組む。</p> <p>【第11回】  予習：予習プリント（新方言について）に取り組む。  授業：地域のことば（方言語彙）や集団のことば（職業語、挨拶語等）について（教科書 126 頁から 129 頁、148 頁から 151 頁）（グループ・ワーク）  復習：復習プリント（キャンパス言葉について）に取り組む。</p> <p>【第12回】  予習：予習プリント（女性語とは何か）に取り組む。  授業：年齢やジェンダーとことばの関係（若者言葉、女性語・男性語等）について（教科書 130 頁から 135 頁）  復習：復習プリント（若者言葉の語構成）に取り組む。</p>			

<p>【第13回】  予習：予習プリント（商品の命名）に取り組む。  授業：日本語における命名や、文芸のことばについて（教科書 152 頁から 157 頁）  復習：復習プリント（洒落の構造）に取り組む。</p> <p>【第14回】  予習：予習プリント（現代の国語辞書の情報）に取り組む。  授業：現代の国語辞書の特色について（教科書 158 頁から 161 頁）（グループ・ワーク）  復習：復習プリント（現代の国語辞書の語釈）に取り組む。</p> <p>【第15回】  予習：予習プリント（近代の国語辞書の語釈）に取り組む。  授業：日本における辞書の歴史について（教科書 115 頁から 117 頁、158 頁から 161 頁）  復習：復習プリント（近代の新語辞書）に取り組む。</p>								
授業開始前学習	テキスト・参考書を通読し、不明な点を授業前に整理しておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	予習・復習プリントを各回の授業において回収し、各学生から寄せられた質問や意見について、次回の授業内で紹介・回答する。							
テキスト・教材	沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子『図解 日本の語彙』（三省堂、2011 年）							
参考書	沖森卓也編著、木村一・鈴木功眞・吉田光浩著『日本語ライブラリー 語と語彙』（朝倉書店、2012 年）							
評価の基準と方法	平常点（予習・復習プリントへの取り組み・30%）と定期試験の成績（70%）によって評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目	日本語学 I							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本文学史 I		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Literature I	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	本講義は上代から中古までの日本の文学作品を通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『古今和歌集』などの和歌文学や『竹取物語』『源氏物語』などの物語文学など、各時代を代表するジャンルの作品を取り上げ、作品・作者について概説しながら、基礎的な知識を身につけさせるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各時代における主要な作品名・作者名・成立時等を正しく答えることができる。</li> <li>上代から中古に至る文学史の流れを、各ジャンルを意識しつつ総括的に論述することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：日本史の時代区分について再確認しておく  授業：文学史に求められるもの（授業の内容と目的に関するオリエンテーション）  復習：授業内容を整理し、要点をまとめる</p> <p>【第2回】  予習：前回配付の資料を一読しておく  授業：奈良時代以前の漢文系作品  復習：本時の内容について概要をまとめる</p> <p>【第3回】  予習：ミニテストに備える  授業：奈良時代以前の和歌とその周辺  復習：万葉集について概要をまとめる</p> <p>【第4回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代初期の漢詩と漢文  復習：勅撰漢詩集や六国史について概要をまとめる</p> <p>【第5回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代初期の和歌  復習：平安時代初期の歌人について概要をまとめる</p> <p>【第6回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代初期の物語・日記  復習：歌物語と作り物語について概要をまとめる</p> <p>【第7回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代中期の漢詩と漢文  復習：平安時代中期の漢詩集などについて概要をまとめる</p> <p>【第8回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代中期の和歌  復習：平安時代中期のおもな歌人について概要をまとめる</p> <p>【第9回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代中期の物語・日記（前編）  復習：村上朝から一条朝の物語類について概要をまとめる</p> <p>【第10回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代中期の物語・日記（後編）  復習：一条朝以降の物語類の概要をまとめる</p> <p>【第11回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代後期の漢詩・漢文  復習：後期の漢詩・漢文の流れを整理する</p> <p>【第12回】  予習：ミニテストに備える  授業：平安時代後期の和歌  復習：平安時代後期の和歌について概要をまとめる</p>			

<p>【第13回】          予習：ミニテストに備える          授業：平安時代後期の物語・日記          復習：平安時代後期の物語類について概要をまとめる</p> <p>【第14回】          予習：ミニテストに備える          授業：平安時代後期の説話・歴史物語          復習：平安時代後期の説話作品と歴史物語の主要な作品について概要をまとめる</p> <p>【第15回】          予習：ミニテストに備える          授業：上代から中古の文学的展開（まとめ）          復習：平安時代の文学状況全体を整理し、重要な作品の特色と意義をまとめる</p>								
授業開始前学習	様々な日本の文学作品に広く触れておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内容に関するミニテストを実施、または課題を提出させ、次回以降返却する。							
テキスト・教材	『日本古典文学史』乾安代ほか編 暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業内の課題（70%）、期末試験またはレポート（30%）による。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本文学史Ⅱ		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Literature Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業は、中世から近世までの日本の文学作品を、読み楽しむことができることを目的とする。歴史的な流れ、作品を読解するための基本的な知識を身につけて、古典文学がいかに現代の生活に影響しているかを考察する。古代から続く「和歌」・「物語」を基本として、中世・近世において広まった「連歌」「俳諧」のおもしろさを味わっていただきたい。そして、「能」「浄瑠璃・歌舞伎」といった芸能や、近世の「小説」に至る流れを把握し、理解し、楽しむものである。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中世から近世にかけての主要な作品・作者について簡潔に説明できること。</li> <li>・現代の文学・芸能への影響関係を理解し、楽しむことができること。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：日本の中世から近世の歴史について書籍等で概観しておく  授業：ガイダンス 講義の目的と概要、参考文献の解説、本講義に関する課題の案内  復習：課題への回答作成</p> <p>【第 2 回】  予習：勅撰和歌集、とくに『新古今和歌集』について調べておく  授業：鎌倉時代の和歌と連歌 一連歌とは何か一  復習：鎌倉時代の和歌と連歌の歴史について整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：鎌倉時代の主な物語などについて調べておく  授業：鎌倉時代の物語・随筆・日記 一方丈記・十六夜日記一  復習：主な物語・日記類について概要をまとめておく</p> <p>【第 4 回】  予習：室町時代について概要を調べておく  授業：室町時代の和歌と連歌 一宗祇・正風連歌と俳諧連歌一  復習：連衆と付合の文芸について考えたことをまとめておく</p> <p>【第 5 回】  予習：室町時代後期、戦国時代について調べておく  授業：室町時代の物語・日記・紀行・芸能 一能・狂言・連歌師の紀行文一  復習：中世文芸の特色についてまとめる</p> <p>【第 6 回】  予習：江戸時代の歴史について概要を調べておく  授業：江戸時代前期の和歌と俳諧 一後水尾院・堂上歌壇・貞門俳諧・談林俳諧一  復習：貞門俳諧、談林俳諧の特色についてまとめておく</p> <p>【第 7 回】  予習：江戸時代の出版事情について調べておく  授業：江戸時代前期の物語・小説 一仮名草子・浮世草子一  復習：井原西鶴についてまとめておく</p> <p>【第 8 回】  予習：貞門俳諧・談林俳諧について特色を再確認しておく  授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 1 一堂上歌学批判・芭蕉の俳諧 1一  復習：芭蕉の俳風の変遷を整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：元禄時代に活躍した芭蕉以外の俳人について調べておく  授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 2 一芭蕉の俳諧 2・蕉門十哲・蕉風その後・雑俳  復習：「前句付」課題に取り組む</p> <p>【第 10 回】  予習：前句付け課題に取り組む  授業：江戸時代中期の小説・芸能 一黄表紙・洒落本など一 「前句付」課題発表（発表）  復習：江戸時代中期の小説類についてまとめておく</p> <p>【第 11 回】  予習：浄瑠璃について調べておく  授業：浄瑠璃一近松門左衛門  復習：浄瑠璃などについてまとめておく</p> <p>【第 12 回】  予習：歌舞伎について調べておく  授業：歌舞伎  復習：歌舞伎などについてまとめておく</p>			



<p>【第 13 回】          予習：馬琴など江戸時代後期の戯作者について調べておく          授業：江戸時代後期の小説類 一読本・人情本・滑稽本・合巻など一          復習：江戸時代後期の小説類について要点をまとめておく          【第 14 回】          予習：到達度確認テストにむけて準備する          授業：到達度確認テストと中世・近世の文学に関する意見交換（ディスカッション）          復習：テスト問題とプリントを照らし合わせ、出題箇所を確認する          【第 15 回】          予習：自己のテスト解答を確認しておく          授業：到達度確認テストの講評、返却、質疑応答          復習：学修内容全体を振り返り、自己の理解度を確認する</p>								
授業開始前学習	江戸時代の文学に関連する書籍・漫画・メディア作品のいずれかに触れておく。 第 1 回の課題で関連する出題がある（委細は第 1 回の授業時に説明する）。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回の授業に対する質問・感想、第 1 回課題：次回以降の授業内で適宜言及。 前句付：第 10 回の発表時にコメント。 到達度確認テスト：第 15 回授業において講評・解説。							
テキスト・教材	『日本古典文学史』乾安代ほか編 暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	・到達度確認テストの成績（60%） ・リアクションペーパー・第 1 回課題・前句付等の小課題（40%）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○	○	
関連科目								
その他	・各回の授業時、リアクションペーパーに授業を通して理解した点、質問・感想を記入してもらう。 ・記載内容は予定であり、開講時の状況や聴講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	中国文学 I (漢文学)		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Chinese Literature I (Written Chinese)	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	中国文学（漢文学）で用いられる漢字・漢語は、日本語の必須構成要素である。日本人は文字獲得に漢字を採用し、漢字漢語を学び取り入れつつ日本語を発展させた。また、日本人の教育・教養において中国文学は長く重要な地位を占め、知識のみならず人生や政治の指針を得る対象であった。現代では相対的に地位は低下しているが、今なお中国文学を学ぶことは、日本語を見つめる上でも、生き方を考える上でも大切である。本授業は、漢字漢語・中国文学の基本内容と訓読法、あわせて教科教育としての国語・漢文に必要な知識について解説する。		
到達目標	1、漢字・漢語の特徴について理解し、正しい訓読ができる力を身につける。 2、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得する。 3、日本語・日本文学と漢語・中国文学の関係について理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】          予習：教科書『精講 漢文』第一章「漢文入門」を熟読する          授業：言語 1 漢字と漢文学・中国文学          復習：漢字の特徴についてまとめる</p> <p>【第 2 回】          授業：言語 2 漢語・中国語と日本語とのちがい          復習：漢語の特徴と、日本語とのちがいについてまとめる</p> <p>【第 3 回】          授業：言語 3 漢文訓読          復習：漢文訓読の歴史・意義・訓読法についてまとめる</p> <p>【第 4 回】          予習：教科書『精講 漢文』第二章「歴史」を熟読する          授業：文章 1 故事成語とその背景／日本人と漢文教材（グループワーク）          復習：漢文教材の分類と故事成語についてまとめる</p> <p>【第 5 回】          授業：文章 2 史伝とその位置づけ（1）——『十八史略』          復習：中国の王朝の変遷についてまとめる</p> <p>【第 6 回】          授業：文章 3 史伝とその位置づけ（2）——紀伝体と編年体          復習：中国の歴史書の特徴についてまとめる</p> <p>【第 7 回】          予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第一・二・四節を熟読する          授業：文学 1 古人のうた——『詩経』と『楚辞』          復習：韻文と散文、『詩経』と『楚辞』についてまとめる</p> <p>【第 8 回】          授業：文学 2 古体詩と近体詩          復習：中国詩の特徴についてまとめる</p> <p>【第 9 回】          授業：文学 3 唐詩の世界（1）——唐詩の重要性と時期区分          復習：唐詩の重要性と時期区分についてまとめる</p> <p>【第 10 回】          予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第六・七節を熟読する          授業：文学 4 唐詩の世界（2）——李白と杜甫（グループワーク）          復習：李白と杜甫についてまとめる</p> <p>【第 11 回】          授業：文学 5 唐詩の世界（3）——中唐・晩唐の詩人          復習：中唐・晩唐の詩人についてまとめる</p> <p>【第 12 回】          授業：歴史 1 王朝の盛衰と交代——夏・殷・周・春秋・戦国時代          復習：王朝の盛衰と交代についてまとめる</p> <p>【第 13 回】          予習：教科書『精講 漢文』第五章「思想」第一・二節を熟読する          授業：思想 1 孔子と『論語』（1）——孔子の生涯と思想          復習：孔子の生涯と思想についてまとめる</p>			

<p>【第14回】            授業：思想2 孔子と『論語』（2）——孔子と門人（ディスカッション）            復習：孔子と門人との関わり方についてまとめる            【第15回】            授業：中国の文学・歴史・思想の総合            復習：中国の文学・歴史・思想の関係についてまとめる</p>								
授業開始前学習	教科書『精講 漢文』は難しくはないが大部であるため、「各回の授業内容と課題学習（予習・復習）」を参照し、授業開始前に読み込みを進めてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に実施する小テストについては、採点して次回授業時に返却する。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前野直彬『精講 漢文』筑摩書房（ちくま学芸文庫）</li> <li>・戸川芳郎他『全訳 漢辞海（第四版）』三省堂</li> <li>・その他、適宜講義内で資料を配付する。</li> </ul>							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井波律子『故事成語でたどる楽しい中国史』岩波書店（岩波ジュニア新書）</li> <li>・高島俊男『李白と杜甫』講談社（講談社学術文庫）</li> <li>・渋沢栄一『論語と算盤』角川書店（角川ソフィア文庫）</li> </ul>							
評価の基準と方法	小テスト 30%、レポート 40%、授業態度 30%							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎		○	
関連科目								
その他	漢和辞典・漢文文法書については「テキスト・教材」に挙げたものに統一し、活用していく。毎時間持参のこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	中国文学Ⅱ(漢文学)		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Chinese LiteratureⅡ (Written Chinese)	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	前期「中国文学Ⅰ(漢文学)」に引き続き、中国文学の基本的内容を解説する(「中国文学Ⅰ」の内容はごく要約して示すが、履修しておくことが望ましい)が、後期ではそれに加えて、教科教育としての国語・漢文において、これまでの学修内容をいかに活用して漢字・漢文を教えるかについても探究する。実際の教材に即して調査し、読解・鑑賞することを通して、基礎知識を応用し、総合的に発展させることを目指す。		
到達目標	1、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得し、その関係を理解する。 2、教科教育における漢字・漢文の活用の方法を考え、修得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】 予習：教科書『精講 漢文』第五章「思想」第一・二節を熟読する 授業：思想1 孔子の後継者たちと対立者たち——諸子百家(1) 儒家：孟子・荀子(ディスカッション) 復習：孟子・荀子の思想についてまとめる</p> <p>【第2回】 授業：思想2 孔子の後継者たちと対立者たち——諸子百家(2) 道家・墨家 復習：道家・墨家の思想についてまとめる</p> <p>【第3回】 授業：思想3 孔子の後継者たちと対立者たち——諸子百家(3) 法家 復習：法家の思想についてまとめる</p> <p>【第4回】 予習：教科書『精講 漢文』第二章「歴史」を熟読する 授業：歴史1 司馬遷と『史記』(グループワーク) 復習：司馬遷と『史記』についてまとめる</p> <p>【第5回】 授業：歴史2・思想4 儒教の確立と学問の大系 復習：儒教の確立と学問の大系についてまとめる</p> <p>【第6回】 授業：総合1 文学・歴史・思想の関係 復習：中国の文学・歴史・思想の関係についてまとめる</p> <p>【第7回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第七・八節／第四章「小説」第一～三節を熟読する 授業：文学1 唐宋八大家の文章 復習：唐宋八大家についてまとめる</p> <p>【第8回】 授業：文学2 知識人と民衆の文学 復習：中国小説の特徴についてまとめる</p> <p>【第9回】 授業：国語教育における漢字漢語の役割 復習：国語教育における漢字漢語の役割についてまとめる</p> <p>【第10回】 予習：教科書『精講 漢文』第六章「日本の漢文学」第一・二節を熟読する 授業：故事成語・寓話 ～教材研究の方法(グループワーク) 復習：教材研究の方法についてまとめる</p> <p>【第11回】 授業：唐詩の鑑賞 ～鑑賞のための主要事項 復習：唐詩の鑑賞についてまとめる</p> <p>【第12回】 授業：史伝の鑑賞「項羽と劉邦」(1) ——登場人物を整理して読む 復習：項羽と劉邦の争いについてまとめる</p> <p>【第13回】 予習：『精講 漢文』中の項羽と劉邦に関する記述部分を調べて熟読する 授業：史伝の鑑賞「項羽と劉邦」(2) ——前提知識を生かして読む(ディスカッション) 復習：「項羽と劉邦」の読み方についてまとめる</p> <p>【第14回】 授業：総合学習 ～「長恨歌」(1) ——時代・作者の理解を生かす 復習：「長恨歌」についてまとめる</p>			

<p>【第15回】            授業：総合学習 ～「長恨歌」（2）——登場人物に感情移入する／総括（ディスカッション）            復習：中国文学作品の読み方についてまとめる</p>								
授業開始前学習	教科書『精講 漢文』は難しくはないが大部であるため、「各回の授業内容と課題学習（予習・復習）」を参照し、授業開始前に読み込みを進めてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に実施する小テストについては、採点して次回授業時に返却する。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前野直彬『精講 漢文』筑摩書房（ちくま学芸文庫）</li> <li>・戸川芳郎他『全訳 漢辞海（第四版）』三省堂</li> <li>・その他、適宜講義内で資料を配付する。</li> </ul>							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井波律子『故事成語でたどる楽しい中国史』岩波書店（岩波ジュニア新書）</li> <li>・加藤徹『漢文の素養～誰が日本文化をつくったのか？～』光文社（光文社新書）</li> <li>・司馬遼太郎『項羽と劉邦』新潮社（新潮文庫）</li> </ul>							
評価の基準と方法	小テスト 30%、レポート 40%、授業態度 30%							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎		○	
関連科目								
その他	漢和辞典・漢文文法書については「テキスト・教材」に挙げたものに統一し、活用していく。常時参照のこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	日本史 I (古代)		
科目分類	111-331-12 (2022 年～入学者) 111-330-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History I (Ancient Times)	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	奈良・平安時代の歴史を六国史や古記録、木簡、正倉院文書などを用いて解説します。長屋王の変や天然痘の大流行、平城上皇の変・菅原道真の左遷など政治上、有名な事件を取り上げ、これらの事件が奈良・平安時代の政治史のなかで、どのように位置づけられるのかを解説します。		
到達目標	史料が読めるようになること、さらに史料を引用して論述できるようになる。 また古代の政治史に関する知識を、一通り習得できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】 予習：日本古代の政治史について一通り調べる。 授業：日本古代史の研究方法 復習：配布資料「日本古代史の研究方法」を読む。</p> <p>【第 2 回】 予習：長屋王について調べる。 授業：長屋王の変と『長屋王家木簡』 復習：配布資料「長屋王の変と『長屋王家木簡』」を読む。</p> <p>【第 3 回】 予習：天然痘について調べる。 授業：天然痘流行と奈良時代の医療 復習：配布資料「天然痘流行と奈良時代の医療」を読む。</p> <p>【第 4 回】 予習：「貧窮問答歌」について調べる。 授業：農民の暮らし 復習：配布資料「農民の暮らし」を読む。</p> <p>【第 5 回】 予習：正倉院展について調べる 授業：大仏開眼会と正倉院宝物 復習：配布資料「大仏開眼会と正倉院宝物」を読む。</p> <p>【第 6 回】 予習：正倉院文書について調べる 授業：正倉院文書の世界 復習：配布資料「正倉院文書の世界」を読む。</p> <p>【第 7 回】 予習：藤原仲麻呂について調べる。 授業：藤原仲麻呂の乱 復習：配布資料「藤原仲麻呂の乱」を読む。</p> <p>【第 8 回】 予習：平安京について調べる。 授業：桓武朝の遷都と征夷 復習：配布資料「桓武朝の遷都と征夷」を読む。</p> <p>【第 9 回】 予習：藤原薬子について調べる。 授業：平城上皇の変 復習：配布資料「平城上皇の変」を読む。</p> <p>【第 10 回】 予習：藤原基経について調べる。 授業：藤原良房・基経の権力掌握 復習：配布資料「藤原良房・基経の権力掌握」を読む。</p> <p>【第 11 回】 予習：菅原道真について調べる。 授業：菅原道真と藤原時平 復習：配布資料「菅原道真と藤原時平」を読む。</p> <p>【第 12 回】 予習：摂関政治について調べる。 授業：摂関政治と儀式書 復習：配布資料「摂関政治と儀式書」を読む。</p>			

<p>【第13回】          予習：『大鏡』について調べる。          授業：『大鏡』『栄花物語』と摂関政治          復習：配布資料『大鏡』『栄花物語』と摂関政治を読む。</p> <p>【第14回】          予習：安倍晴明について調べる          授業：陰陽道・末法思想と浄土信仰          復習：配布資料「末法思想と浄土信仰」を読む。</p> <p>【第15回】          予習：藤原頼通について調べる。          授業：院政の成立          復習：配布資料「院政の成立」を読む。</p>								
授業開始前学習	奈良・平安時代の歴史を学習しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材	毎回、資料を配付する。							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の成績（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	日本史Ⅱ(中世)		
科目分類	111-331-12 (2022年～入学者) 111-330-12 (～2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History II (Middle Ages)	授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本中世社会の諸相について、近年の研究動向を紹介しつつ、様々な視点と切り口から講義していく。		
到達目標	日本の中世社会について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に歴史学の醍醐味と可能性を知り、現代社会との比較を意識した自分なりの興味と関心を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：日本の中世社会について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の日本社会とは  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本の中世社会について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第2回】  予習：中世の国家権力を握る朝廷・幕府・大寺社など中世の「権門」について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世国家論  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本中世の国家について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第3回】  予習：手工業者を始め、分業が進んだ中世の職人について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の職人たち  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の職人たちについて参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第4回】  予習：中世の武士について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世武士論  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の武士について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第5回】  予習：中世の合戦について調べ、自分なりに考えておく。  授業：いくさの作法  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の合戦について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第6回】  予習：日本の家族の歴史、中世の女性の歴史について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の家族・女性  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性・婚姻について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第7回】  予習：中世武士団の内部構造について調べ、自分なりに考えておく。  授業：総領制  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士団の構造について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第8回】  予習：現代の人生儀礼について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世人の人生儀礼  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士を始めとする中世人の一生について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第9回】  予習：現代の年中行事について、その由来などを調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世武家の年中行事  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武家の年中行事について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第10回】  予習：中世の法律・裁判について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の罪と罰  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の法思想について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第11回】  予習：中世の宗教について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世宗教史  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世人の信仰生活について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第12回】  予習：中世に起源を持つ古典芸能等について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世芸能史  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性芸能人について参考書等から捕捉しておく。</p>			

<p>【第13回】  予習：地域の特徴を持つ風習や慣習等について調べ、自分なりに考えておく。  授業：東国の風習  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世東国の歴史的風土について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第14回】  予習：「武士道」について調べ、自分なりに考えておく。  授業：「武士道」と中世  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武士の思想について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第15回】  予習：武士の名前について調べ、自分なりに考えておく。  授業：武士の名字と名乗り  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、名字と名乗りについて参考書等から捕捉しておく。</p>								
授業開始前学習	中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	出席を兼ねたレポートについては、実施の1週後に講評を行う。							
テキスト・教材	プリントを配布する。							
参考書	その都度、紹介する。							
評価の基準と方法	授業内のレポート等で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成			日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本史Ⅲ(近世)		
科目分類	111-331-12 (2022年～入学者) (J) 111-330-12 (～2021年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History Ⅲ (Early Modern)	授業区分	講義
科目責任者	鍋本 由徳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鍋本 由徳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この講義は、日本史、特に近世史について学びます。時間を追いながら学ぶ箇所もありますが、各回にトピックを設け、人々の生活や考え方、政治や外交、社会変化や経済の特徴、文化の特質などを扱います。幕府史料や地方史料だけではなく、絵画などを利用してさまざまな角度から近世を読み解きます。近世という時代がどのような時代か、私たちが生きる今の違いを理解しながら、江戸時代の人々の生き様や考え方を学びます。対面授業では、授業中に簡易アンケートや自由記述による情報共有を行う予定です。		
到達目標	日本近世史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ、説明できるようになる。近代を導く前提としての時代を考えるために、歴史資料を読み解く力を身につけ、解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技能・学びの姿勢を活用して、さまざまな歴史的なできごとに関する「原因→経過→結果、意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：近世史の時期範囲と、どこに画期があるのかを調べる。  授業：近世とはどのような時代か ～中世から近世へ～  復習：講義全体の概要を振り返り、今後の自身の学修イメージをつくる。</p> <p>【第2回】  予習：教科書第2章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：関ヶ原合戦から徳川政権樹立の課題 ～豊臣 VS 徳川からの脱却～  復習：徳川家康の意図を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第3回】  予習：教科書第3章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：豊臣と徳川との二重公儀体制 ～主家としての豊臣家～  復習：二重公儀論の問題を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第4回】  予習：教科書第4章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：徳川政権初期と西洋人 ～西洋人の権力認識～（ディスカッション）  復習：外国人による政権認識を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第5回】  予習：教科書第5章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：司法からみる江戸時代の特徴 ～法令の特徴と裁判～  復習：法令や裁判の特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第6回】  予習：教科書第6章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：身分制度と社会 ～「士農工商」の誤解～（ディスカッション）  復習：江戸時代の身分を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第7回】  予習：教科書第7章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：「老中制」にみる組織化 ～武家官僚の性格～  復習：「老中制」形成過程を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第8回】  予習：教科書第8章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：江戸時代の金銭認識 ～両替問題と通貨統一～（ディスカッション）  復習：三貨制度を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第9回】  予習：教科書第9章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：三大改革の特徴と内憂外患 ～幕府政治の矛盾～  復習：三大改革の流れと特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第10回】  予習：教科書第10章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：伝説・伝承が導く民衆の社会 ～地域形成のあり方～  復習：佐倉惣五郎にみられる伝承の歴史化を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第11回】  予習：教科書第11章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：江戸時代における情報と文化 ～出版と行動～（ディスカッション）  復習：出版事情と行動（旅や物見遊山）を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p>			

【第 12 回】  
 予習：教科書第 12 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  
 授業：外国人の旅と「観光」～17 世紀西洋人の日本観～  
 復習：西洋人の観た日本観を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第 13 回】  
 予習：教科書第 13 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  
 授業：「鎖国」と日本型華夷秩序の成立～西洋史との対比～（ディスカッション）  
 復習：「鎖国」論の成立と内容を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第 14 回】  
 予習：教科書第 14 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  
 授業：江戸時代の女性～春日局と奥の世界～  
 復習：女性の政治参画と春日局の活動を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第 15 回】  
 予習：教科書第 15 章を読み、かつ第 1 回から第 14 回までの要点をまとめておく。  
 授業：武家社会の歴史認識～御恩と奉公の再認識～  
 復習：幕府や大名家の歴史編纂過程を整理し、全 15 回講義全体の理解を深める。

授業開始前学習	岩波新書『シリーズ日本近世史』などの概説書を読んでおく授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を十分に学習していない受講生は、高校教科書（日本史 B）の内容を一読しておきたい。							
授業内課題のフィードバックの方法	1 回から 14 回に実施する小テストの解説は、授業終了時に配付します。小テストの正答率と、各回 5 項目の到達度（自己評価）の平均値を、次回授業冒頭で示し、理解度の低い箇所を補説します。最終回にて、1 回から 14 回までの小テスト・理解度を示したプリントを配布し、自身の理解を振り返ることができるようにします。							
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅲ（近世）』を利用します。							
参考書	『シリーズ日本近世史』（岩波新書 全 5 冊 2015 年） 『日本近世の歴史』（吉川弘文館 全 6 冊 2011～13 年）							
評価の基準と方法	定期試験 60%，平常点 40%。なお、平常点については、授業内理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（リアクション）に相当します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目	歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため、日本文化や歴史に関わる科目に関連する。							
その他	成績評価は、15 回すべての講義へ出席した場合を前提に設定しています。毎回の講義終了後に、フォームを使った当該講義にかかる小テスト（理解度チェック）をおこないます。学界上の研究状況変化により、教科書での内容や講義内容が若干変更する場合もあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史専門調査員としての経験を活かし、日本の近世史について講義する。							

科目名称	日本史Ⅳ(近現代)		
科目分類	111-331-12 (2022年～入学者) (J) 111-330-12 (～2021年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese History IV (Modern)	授業区分	講義
科目責任者	鍋本 由徳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鍋本 由徳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この講義は、日本史のなかの特に近現代史について学びます。原則として、1～12回は明治～戦後の主要トピックを時系列に沿って、13～15回をテーマ史として展開します。政治や外交、社会運動や文化などから多角的に考え、文字資料のほか、絵画・映像・音声など多用して近現代を読み解きます。明治維新から戦後にかけての150年で日本は大きく変化します。前近代と異なる明治・大正・昭和の複雑さやおもしろさを知り、現代日本が抱える問題の背景を考えます。第2回～第14回は、授業内で簡易アンケートや自由記述による情報共有をおこないます。		
到達目標	日本近現代史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ、説明できるようになる。現代につながる近代国家形成ならびに展開を考えるために、各種資料を使う力を身につけ、解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技術・態度を活用して、できごとに関わる「原因、経過、結果」「意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：江戸時代（19世紀以後）の流れを事前に調べておく。  授業：幕末・維新期の混乱 ～王政復古～  復習：倒幕をめぐる諸階層の理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第2回】  予習：教科書第2章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：近代日本の成立と自由民権運動 ～江戸時代の払拭～（簡易アンケートと情報共有）  復習：民権運動の画期と特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第3回】  予習：教科書第3章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：帝国議会の開設と対外関係問題 ～条約改正と～（簡易アンケートと情報共有）  復習：条約改正の流れを整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第4回】  予習：教科書第4章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：日清・日露戦争 ～政権と政党との対立・協調～（簡易アンケートと情報共有）  復習：両戦争に対する国民理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第5回】  予習：教科書第5章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：明治における文化と教育 ～唱歌の成立と変容～（簡易アンケートと情報共有）  復習：唱歌成立の契機と転換を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第6回】  予習：教科書第6章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：近代における女性像 ～「イイ」制度と教育との関わり～（簡易アンケートと情報共有）  復習：男女同権の理念と明治教育を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第7回】  予習：教科書第7章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：大正デモクラシーと護憲運動（簡易アンケートと情報共有）  復習：護憲運動の展開を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第8回】  予習：教科書第8章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：第一次世界大戦前後の国民 ～米騒動と都市問題～（簡易アンケートと情報共有）  復習：米騒動が起こった背景を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第9回】  予習：教科書第9章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：大日本帝国が抱える矛盾 ～英米関係と立憲君主制度～（簡易アンケートと情報共有）  復習：日本の対英米理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第10回】  予習：教科書第10章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：戦時中の国民生活 ～メディアとの関わり～（簡易アンケートと情報共有）  復習：国民が知り得た情報を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p> <p>【第11回】  予習：教科書第11章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  授業：終戦 ～戦争末期から占領へ～（簡易アンケートと情報共有）  復習：占領政策と日本政府の対応を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。</p>			



【第12回】  
 予習：教科書第12章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  
 授業：戦後日本の民主化 ～民主化への道～（簡易アンケートと情報共有）  
 復習：主に経済政策を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第13回】  
 予習：教科書第13章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  
 授業：高度経済成長 ～住宅・都市開発の観点～（簡易アンケートと情報共有）  
 復習：鉄道建設と土地開発の関係を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第14回】  
 予習：教科書第14章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  
 授業：映画による近現代史理解と課題 ～刷り込み～（簡易アンケートと情報共有）  
 復習：映画がもたらす歴史理解の問題点を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

【第15回】  
 予習：教科書第15章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。  
 授業：戦後日本の歴史観 ～皇国史観からの脱却～  
 復習：科学的歴史学による影響を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

授業開始前学習	岩波新書『シリーズ日本近現代史』などの概説書を読んでおく授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を十分に学習していない受講生は、授業計画（1～12回）については高校教科書（日本史B）の内容を一読しておきたい。13～15回のテーマ史は、東京急行電鉄（東急）や大学が所在する稲城を走る京王電鉄の歴史、戦後間もなく制作された戦争映画や日本軍のことについて描いた中国映画、高校教科書問題について事前に調べておくことよ。							
授業内課題のフィードバックの方法	1回から14回に実施する小テストの解説は、小テスト（Googleフォーム）からの回答でおこないます。小テストの正答率と、各回5項目の到達度（自己評価）の平均値を、次回授業時に公開し、理解度の低い箇所を補説します。最終回にて、1回から14回までの小テスト・理解度全体を示したプリントを配布し、本科目の振り返りをおこないます。							
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅳ（近現代）』を利用します。							
参考書	『シリーズ日本近現代史』（岩波新書 全10冊 2006～2010年） 『日本近代の歴史』（吉川弘文館 全6冊 2016～17年）							
評価の基準と方法	最終レポート 60%、平常点 40%。なお、平常点については、授業内理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（シートへの記入状況）に相当します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目	歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため、日本文化や歴史に関わる科目に関連する。							
その他	成績評価は、15回すべての講義へ出席した場合を前提に設定しています。毎回の授業終了時に、フォームを使った当該講義の小テスト（理解度確認）をおこないます。学界上の研究状況変化により、教科書での内容や講義内容が変わる場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史専門調査員としての経験を活かし、日本の近現代史について講義する。							

科目名称	日本文化史 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Culture I	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 幸一	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 幸一	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は、日本の文化に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における文化的特色について考察する。		
到達目標	1.日本文化の歴史を理解できる。 2.日本文化の価値観や文化事象に関する知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：「文化」「文明」の語句を調べておく。  授業：文化・文明とは？  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第2回】  予習：日本の地理・自然環境の特徴を調べる。  授業：日本文化の環境  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第3回】  予習：日本の神話を調べる。  授業：日本神話  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第4回】  予習：身近にある神社を調べ、祭神・神社の沿革・祭礼を調べる。  授業：神社の発生とその展開  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第5回】  予習：年中行事を調べる。  授業：年中行事  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第6回】  予習：十干十二支を調べる。  授業：暦  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第7回】  予習：古代の日本文化を調べる。  授業：古代の日本文化  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第8回】  予習：古代の日本文化の特色をまとめる。  授業：古代の日本文化の特色（グループワーク）  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第9回】  予習：中世の日本文化を調べる。  授業：中世の日本文化  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第10回】  予習：中世の日本文化の特色をまとめる。  授業：中世の日本文化の特色（グループワーク）  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第11回】  予習：近世の日本文化を調べる。  授業：近世の日本文化  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第12回】  予習：近世の日本文化の特色をまとめる。  授業：近世の日本文化の特色（グループワーク）  復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第13回】</p>			



<p>予習：近代の日本文化を調べる。          授業：近代の日本文化          復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。          【第14回】          予習：近代の日本文化の特色をまとめる。          授業：近代の日本文化の特色（グループワーク）          復習：配付されたプリントを再読し、授業内容の確認を行う。          【第15回】          予習：これまでの講義内容を復習しておくこと。          授業：レポート作成（課題解決型学習）          復習：この授業を通じて学んだことを総括する。</p>								
授業開始前学習	日本史、特に日本文化の流れについて把握しておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。							
テキスト・教材	講義時に適宜資料を配布する。							
参考書	大隅和雄『日本文化史講義』（吉川弘文館、2017年）。 この他、日本文化について取り上げた本があれば一読しておくことをすすめる。							
評価の基準と方法	平常点（リアクションペーパー）30%とレポートの成績70%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	講義中で紹介する文献のうち、少なくとも一つは精読すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	寺史編纂や自治体の文化財取扱の実務経験あり。その経験を活かし、古代から近代までの日本文化の歴史を講義する。							

科目名称	日本文化史Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese CultureⅡ	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 幸一	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 幸一	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸術と技芸を把握することを目的とする。具体的には、雅楽、能、浄瑠璃、歌舞伎を取り上げ解説する。必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、芸能への理解を深める。芸能を鑑賞する授業では受講生から意見や感想を募り、日本文化について理解の共有を図ってきたい。		
到達目標	1. 伝統芸術の基本的な様式に関する基礎知識を身につける。 2. 日本人の精神性・道徳・美意識が、伝統芸術の中に、どのような形で表現されているかを理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：日本の伝統文化にはどのようなものがあるか調べる。 授業：日本の伝統文化・芸道 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第2回】 予習：雅楽の歴史を調べる。 授業：雅楽の伝来とその展開 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第3回】 予習：雅楽の曲目を調べる。 授業：雅楽鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第4回】 予習：能楽の起源を調べる。 授業：能楽の歴史 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第5回】 予習：能楽の「道成寺」のストーリーを理解しておくこと。 授業：能楽「道成寺」とは 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第6回】 予習：能楽の「道成寺」のストーリーを理解しておくこと。 授業：能楽「道成寺」（前半）観賞 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第7回】 予習：能楽の「道成寺」のストーリーを理解しておくこと。 授業：能楽「道成寺」（後半）観賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第8回】 予習：三味線楽について理解しておくこと。 授業：三味線楽の歴史①発生と地歌 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第9回】 予習：浄瑠璃について理解しておくこと。 授業：三味線楽の歴史②浄瑠璃（グループワーク） 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第10回】 予習：人形浄瑠璃「日高川入相花王」のストーリーを理解しておくこと。 授業：人形浄瑠璃「日高川入相花王」鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第11回】 予習：歌舞伎の歴史について理解しておくこと。 授業：三味線楽の歴史③歌舞伎 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第12回】 予習：市川團十郎家について理解しておくこと。 授業：市川團十郎家の至芸 歌舞伎「勸進帳」鑑賞（グループワーク） 復習：配信された資料を再読み、授業内容の確認を行う。</p>			

<p>【第13回】  予習：歌舞伎「暫」のストーリーについて理解しておくこと。  授業：歌舞伎「暫」鑑賞（グループワーク）  復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第14回】  予習：歌舞伎「京鹿子娘道成寺」のストーリーについて理解しておくこと。  授業：歌舞伎「京鹿子娘道成寺」鑑賞（グループワーク）  復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。</p> <p>【第15回】  予習：これまでの講義内容を復習しておくこと。  授業：レポート作成（課題解決型学習）  復習：この授業を通じて学んだことを総括する。</p>								
授業開始前学習	伝統芸能に関する書籍や映像記録などに目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。							
テキスト・教材	適宜、資料を配付する。							
参考書	田中健次『図解日本音楽史 増補改訂版』（東京堂出版、2018年）。 その他、芸能について取り上げた本があれば一読しておくことをすすめる。							
評価の基準と方法	平常点 30%と試験の成績 70%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	講義中で紹介する文献のうち、少なくとも一つは精読すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	寺史編纂や自治体の文化財取扱の実務経験あり。その経験を活かし、日本の伝統芸能の歴史などについて講義する。							

科目名称	☆地域文化概論		
科目分類	111-331-11 (2022年～入学者) (J) 111-331-12 (~2021年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Survey of Regional Culture	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、おもに稲城市を事例として、地域文化の調べ方や史料の読み方について概説し、その調査、読解を行うための基礎知識を修得する。また、各自の地元を事例として、隠れた地域文化を発見し、その魅力を発表する。授業では課題解決型学習・発表・フィールドワークを行う。		
到達目標	1. 地域文化の調べ方を身に付けることができる。 2. 各地の地域文化の魅力を発見し、そこから日本文化の特徴を理解できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：地域の文化を再発見し、日本の文化を考える（川崎市多摩区浅間神社の富士塚を事例に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する 【第2回】 予習：稲城市の歴史と文化のプリントを読んでおく 授業：稲城市の歴史と文化を概観する①（古代の窯跡と中世の城跡を中心に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する 【第3回】 予習：稲城市の歴史と文化のプリントを読んでおく 授業：稲城市の歴史と文化を概観する②（大丸用水と玉川焼を中心に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する 【第4回】 予習：稲城市の歴史と文化のプリントを読んでおく 授業：稲城市の歴史と文化を概観する③（梨づくり・多摩川の渡しと多摩ニュータウン開発を中心に） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する 【第5回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」由緒前半の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する 【第6回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」由緒後半～大丸用水の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する 【第7回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」穴澤天神社の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する 【第8回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」威光寺～国安社の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する 【第9回】 予習：史料の現代語訳課題をフォームで提出する 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」妙覚寺の読解（課題解決型学習） 復習：史料の考察課題をフォームで提出する 【第10回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる 【第11回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる 【第12回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメ集を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる			

<p>【第13回】  予習：地域文化レジュメ集を読んでおく  授業：地域文化レジュメ集を読む④（発表）  復習：発表にコメントを寄せる</p> <p>【第14回】  予習：地域文化レジュメ集を読んでおく  授業：地域文化レジュメ集を読む⑤（発表）  復習：発表にコメントを寄せる／ミニレポートをフォームで提出する</p> <p>【第15回】  予習：地域文化概論の学びを振り返る  授業：地域文化から考える日本の文化（課題解決型学習）  復習：地域文化概論の学びを総括する</p>								
授業開始前学習	各自の地元の歴史や文化に関する書籍（特に自治体史）の興味がある部分を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	予習・復習課題に対しては、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。発表に対しては、授業内で補足解説・コメントを行う。							
テキスト・教材	プリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。 また、予習課題や発表の準備に際しては、以下の辞書を必ず参照すること。 『日本歴史地名大系』（平凡社）、『国史大辞典』（吉川弘文館）							
評価の基準と方法	予習復習課題70%、発表20%、ミニレポート10%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○		○	◎	◎		
関連科目								
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、土曜日などに正課学外活動（輪読資料に関連する稲城市内の史跡見学等）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。地域文化の調べ方や魅力などを講義する。							

科目名称	歴史資料論		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Historical Materials	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得する。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学んだ上で、とくに近世以降の古文書等の原本資料の読解方法、調査・整理方法について学習する。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1. 歴史資料について、その特質を理解できる。 2. 歴史資料の読み方と扱い方を身に付けることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：歴史資料とは何か 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】 予習：輪読資料の解題と関連史跡についてテキストを読んでおく 授業：輪読資料の解題と関連史跡 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：歴史資料の調査・整理方法についてテキストを読んでおく 授業：歴史資料の調査・整理方法 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：歴史資料を読解するための基礎知識についてプリントを読んでおく 授業：歴史資料を読解するための基礎知識 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年1月1日～4日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年1月1日～4日の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第7回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月6日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第8回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月7日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第9回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月6日・7日の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第10回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月29日・3月1日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第11回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年2月29日・3月1日の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第12回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月9日の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p>			

<p>【第13回】          予習：資料を読んでおく          授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月10日の翻刻（課題解決型学習）          復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第14回】          予習：資料を読んでおく          授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月9日・10日の考察（課題解決型学習）          復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第15回】          予習：歴史資料論の学びを振り返る          授業：歴史資料論の学びの総括          復習：ミニレポート課題をフォームで提出する</p>								
授業開始前学習	歴史資料に関する書籍を1冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の事前学習課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『歴史資料論』 必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題75%、平常点（感想等）15%、ミニレポート10%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、土曜日などに正課学外活動（輪読資料に関連する稲城市内の史跡見学等）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。古文書などの歴史資料の読解、取扱方法などを講義する。							



科目名称	民俗資料論		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Folk Materials	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得する。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料の概要を学んだ上で、とくに稲城市域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、その読解方法、調査・整理方法について学習する。授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1. 民俗資料について、その特質を理解できる。 2. 民俗資料の調べ方や扱い方を身に付けることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：民俗資料および民俗学とは（その1） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】 予習：戦後の民俗調査と民俗資料の分類方法についてテキストを読んでおく 授業：戦後の民俗調査と民俗資料の分類方法 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】 予習：民俗資料の調査および記録方法についてテキストを読んでおく 授業：民俗資料の調査および記録方法 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第4回】 予習：有形民俗資料調査の実践についてテキストを読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】 予習：稲城市内の民俗資料の一例についてテキストを読んでおく 授業：稲城市内の民俗資料の一例 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第6回】 予習：民俗資料および民俗学とはについてテキストを読んでおく 授業：民俗資料および民俗学とは（その2） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する</p> <p>【第7回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』4 宝泉寺の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第8回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』4 宝泉寺の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第9回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』18・19 御座松塚の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第10回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』18・19 御座松塚の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第11回】 予習：資料を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』21 入定塚・郷蔵の翻刻（課題解決型学習） 復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第12回】 予習：テキストの該当部分を読んでおく 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』21 入定塚・郷蔵の考察（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する</p>			

<p>【第13回】  予習：資料を読んでおく  授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』8平尾爆竹場の翻刻（課題解決型学習）  復習：翻刻課題をフォームで提出する</p> <p>【第14回】  予習：資料を読んでおく  授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』8平尾爆竹場の考察（課題解決型学習）  復習：考察課題をフォームで提出する</p> <p>【第15回】  予習：民俗資料論の学びを振り返る  授業：民俗資料論の学びの総括  復習：ミニレポート課題をフォームで提出する</p>								
授業開始前学習	民俗資料に関する書籍を1冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の事前学習課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『民俗資料論』 必要に応じてプリントを配付する。							
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題75%、平常点（感想等）15%、ミニレポート10%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、土曜日などに正課学外活動（稲城市内での石造物調査や輪読資料に関連する史跡見学等）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした 教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。石造物・編纂物などの民俗資料の読解、取扱方法などを講義する。							

科目名称	歴史考古学		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Historical Archeology	授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	歴史考古学、とりわけ近年進展の著しい中世考古学について、最新の研究動向を紹介しつつも、なるべく身近な事例を取り上げて講義していく。		
到達目標	中世考古学について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に考古学の醍醐味と可能性を知り、日本中世社会への自分なりの興味と視点を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：考古学について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世考古学とは  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世考古学について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第2回】  予習：前近代における日本の貨幣について調べ、自分なりに考えておく。  授業：モノから見た中世経済  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の社会経済史について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第3回】  予習：現代に流通している陶磁器類について調べ、自分なりに考えておく。  授業：モノから見た中世物流  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の物流について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第4回】  予習：呪い（まじない）について調べ、自分なりに考えておく。  授業：モノから見た中世の信仰  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、経塚などの中世特有の信仰遺物について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第5回】  予習：現在の葬送儀礼について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の葬送  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の葬送関係遺物について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第6回】  予習：古代寺院の伽藍配置や現在の鎌倉五山の伽藍配置などについて調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世のお寺  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世寺院とその遺構について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第7回】  予習：近隣の中世前期の武士の本拠地について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の城①  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世前期の武士の本拠地について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第8回】  予習：近隣の室町時代の武士の城について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の城②  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の城館について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第9回】  予習：近隣の戦国時代の城について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の城③  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、戦国時代の城について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第10回】  予習：古代以来の政治都市について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世都市①  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の政治都市について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第11回】  予習：東国の首都・鎌倉について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世都市②  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、鎌倉の都市空間について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第12回】  予習：中世の農村について調べ、自分なりに考えておく。  授業：中世の村  復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の農村について参考書等から捕捉しておく。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：近隣の「鎌倉街道」などの古道について調べ、自分なりに考えておく。          授業：中世のみち          復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世古道について参考書等から捕捉しておく。          【第14回】          予習：稲城市・川崎市周辺の中世史について調べ、自分なりに考えておく。          授業：あしもの中世          復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、自分の足元の地域史について考えてみる。          【第15回】          予習：江戸時代の人々が使った様々な道具について調べ、自分なりに考えておく。          授業：江戸考古へ          復習：ノート・配布資料で半年間の授業を振り返り、歴史考古学について整理してみる。</p>								
授業開始前学習	中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	出席を兼ねたレポートについては、実施の1週後に講評を行う。							
テキスト・教材	プリントを配布する。							
参考書	その都度、紹介する。							
評価の基準と方法	授業内のレポート等で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	歴史地理学		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Historical Geography	授業区分	講義
科目責任者	武廣 亮平	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武廣 亮平	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	東京多摩地域の特色を歴史地理学的観点から学ぶ。多摩地域の先史時代から近現代までの歴史と地理的な特徴について、さまざまなテーマを設定して考える。		
到達目標	駒沢女子大学が立地する多摩地域を中心とした地理や歴史を学ぶことで、当該地域の地理的・歴史的意義や特徴を再認識することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスによる授業内容の確認  授業：オリエンテーション（授業概要）  復習：各授業テーマと要点の確認</p> <p>【第2回】  予習：多摩の地形図からその特徴を調べる  授業：多摩の地形とその成り立ち  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第3回】  予習：縄文～古墳時代の文化を調べる  授業：先史時代の多摩地域  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第4回】  予習：律令国家の政治と仏教政策について調べる  授業：武蔵国府と国分寺  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第5回】  予習：『万葉集』の東歌と防人歌について調べる  授業：『万葉集』に詠まれた古代の多摩  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第6回】  予習：穴沢天神社（京王読売ランド駅から徒歩5分）に行ってみる（可能な範囲で）  授業：多摩郡の式内社と大國魂神社  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第7回】  予習：現在の鎌倉街道のルートを地図で確認する  授業：鎌倉街道を辿る  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第8回】  予習：後北条氏の坂東支配について調べる  授業：戦国時代の多摩地域  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第9回】  予習：江戸時代の多摩郡の範囲を確認する  授業：『新編武蔵風土記稿』に見る江戸時代の多摩  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第10回】  予習：幕末の政治と外交について調べる  授業：「新選組」と多摩の剣術  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第11回】  予習：征韓論から自由民権運動の展開までの歴史をまとめる  授業：自由民権運動と「絹の道」―多摩の近代―  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第12回】  予習：太平洋戦争の開戦から敗戦までをまとめる  授業：多摩の戦争遺跡  復習：授業内容のノート整理と要点の確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 高度経済成長期の日本について調べる 授業 : 多摩ニュータウンの歴史 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認 【第14回】 予習 : 各自の家庭で行っている年中行事を確認する 授業 : 多摩の年中行事 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認 【第15回】 予習 : 授業内容のノートの整理 授業 : 授業の総括 復習 : 多摩の地理と歴史を自分なりにまとめる								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内のレポートや課題は次回の授業時に講評を行う。個別の質問についても毎回授業終了時に対応する。							
テキスト・教材	テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点（授業時の提出物）40点、レポート40点、定期試験（20点）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成			日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	仏教文学		
科目分類	111-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Buddhist Literature	授業区分	講義
科目責任者	山本 元隆	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 元隆	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10	研究室	10-506
授業概要	本科目では、仏教に関する説話や民話、あるいは随筆などをひろく講読し、文学に描かれた仏教について解説する。具体的には、『日本霊異記』『今昔物語集』『沙石集』をはじめとする仏教説話と、その影響を受けた近現代の文学作品を取り上げ、重要と思われる箇所を講読する。また履修者にゆかりのある地元の昔話についても調べてもらい、日本の各地域に溶け込んだ仏教（文化）についても関心を深めるきっかけとする。この授業では、ディスカッションを行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたかを理解し、その概要を説明することができる。</li> <li>・仏教文学を講読するための仏教用語の基礎知識を身につける。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスをよみ、授業の概要を確認する。  授業：ガイダンス 授業の進め方と仏教文学について  復習：仏教文学について学んだことをノートにまとめる。</p> <p>【第2回】  予習：平安時代の仏教文学について調べておく。  授業：平安時代の仏教文学概説  復習：平安時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。</p> <p>【第3回】  予習：『日本霊異記』について調べておく。  授業：『日本霊異記』を読む（1）  復習：『日本霊異記』と仏教の関連についてノートにまとめる。</p> <p>【第4回】  予習：『日本霊異記』に出てくる仏教用語を調べておく。  授業：『日本霊異記』を読む（2）  復習：『日本霊異記』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。</p> <p>【第5回】  予習：『今昔物語集』について調べておく。  授業：『今昔物語集』を読む（1）  復習：『今昔物語集』と仏教の関連についてノートにまとめる。</p> <p>【第6回】  予習：『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。  授業：『今昔物語集』を読む（2）  復習：『今昔物語集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。</p> <p>【第7回】  予習：『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。  授業：『今昔物語集』を読む（3）  復習：『今昔物語集』に見る極楽往生の諸相をノートにまとめる。</p> <p>【第8回】  予習：鎌倉・室町時代の仏教文学について調べておく。  授業：鎌倉・室町時代の仏教文学概説  復習：鎌倉・室町時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。</p> <p>【第9回】  予習：『沙石集』について調べておく。  授業：『沙石集』を読む（1）  復習：『沙石集』と仏教の関連についてノートにまとめる。</p> <p>【第10回】  予習：『沙石集』に出てくる仏教用語を調べておく。  授業：『沙石集』を読む（2）  復習：『沙石集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。</p> <p>【第11回】  予習：『和歌陀羅尼説』について調べておく。  授業：『沙石集』を読む（3）  復習：和歌と仏教の関連性についてノートにまとめる。</p> <p>【第12回】  予習：『発心集』について調べておく。  授業：『発心集』を読む  復習：『発心集』と仏教の関連についてノートにまとめる。</p>			



<p>【第13回】          予習：近世の仏教文学について調べておく。          授業：近世の仏教文学概説 『夫婦宗論物語』を読む。          復習：『夫婦宗論物語』と仏教の関連についてノートにまとめる。</p> <p>【第14回】          予習：近現代の仏教文学について調べておく。          授業：近現代の仏教文学概説 芥川龍之介『鼻』を読む。          復習：芥川作品と仏教説話の関係をノートにまとめる。</p> <p>【第15回】          予習：授業のノートから14回の授業内容を振り返る。          授業：総括 日本の文学と仏教について考える（ディスカッション）          復習：仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたか、レポートにまとめる。</p>								
授業開始前学習	授業に関連する作品にふれておくこと。（現代語訳のものでもかまわない）							
授業内課題の フィードバックの方法	授業で課題もしくは感想を提出した場合、次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。							
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。							
参考書	武石彰夫編著『仏教文学を読む事典』（佼成出版社） その他、適宜授業で紹介する。							
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	児童文学		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Children's Literature	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-620
授業概要	日本の児童文学史の流れを概説しながら、いくつかの児童文学作品を読み、その特徴と歴史性について考え、近代日本における児童文学の意義と役割について講義する。明治期に誕生した「児童」という概念や、大正期の雑誌『赤い鳥』に代表される「童心主義」的な童話が、昭和期の戦争と敗戦を経て、どのように変化しながら現代へと続いていくのかを考察する。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	日本の児童文学と、近代日本の歴史との関わりについての理解を深める。 児童文学作品について自分なりの考えをまとめ、先行研究を踏まえて論じることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：日本の児童文学について、知っていることをまとめておく  授業：日本の近代文学と児童文学との関係性、児童文学史の起点について  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第2回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：日本の文明開化およびキリスト教、科学読み物、翻訳との関わり（明治期1）  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第3回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：創作児童文学の始まり、巖谷小波について（明治期2）  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第4回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：児童文学における明治期のおどろき話、科学読み物作品等について議論を深め考察する（課題解決型学習）  復習：授業で学んだことをまとめ、課題1に取り組む</p> <p>【第5回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：大正期「童謡童話作品」について学ぶ  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第6回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：雑誌『赤い鳥』とその影響（大正期1）  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第7回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読み、課題2を行う（課題解決型学習）  復習：授業で学んだことをまとめ、課題2に取り組む</p> <p>【第8回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：「児童」の発見と「童心主義」について（大正期2）・課題2解説  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第9回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：児童文学冬の時代・プロレタリア児童文学と生活童話（昭和戦前期1）  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第10回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：宮沢賢治「雪渡り」を読み、課題3を書く（課題解決型学習）  復習：授業で学んだことをまとめ、課題3に取り組む</p> <p>【第11回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：言論統制と戦時下の児童文学について（昭和戦前期2）・課題3解説  復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第12回】  予習：前回の授業で学んだことを読み返す  授業：新美南吉「手袋を買いに」を読み、課題4を書く（課題解決型学習）  復習：授業で学んだことをまとめ、課題4に取り組む</p>			

<p>【第13回】          予習：前回の授業で学んだことを読み返す          授業：「童話伝説批判」と戦後の児童文学の成立（戦後から現代へ1）・課題4解説          復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第14回】          予習：前回の授業で学んだことを読み返す          授業：児童文学のタブーの崩壊、ラノベ等児童文学の多様化、子どもの本の現在（戦後から現代へ2）          復習：授業で学んだことをまとめる</p> <p>【第15回】          予習：前回の授業で学んだことを読み返す          授業：日本の児童文学の特徴と歴史性、ジャンルの意義と役割について（全体のまとめ）          復習：授業全体を振り返り、整理しておく</p>								
授業開始前学習	指定テキストをはじめ児童文学に関する文献を図書館等で探し、目を通しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる児童文学作品について、それぞれ授業内課題を書いて提出してもらう。それをもとに作品の説明を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	『児童文学の教科書』川端有子著（玉川大学出版部）							
参考書	『子ども観の近代－「赤い鳥」と「童心」の理想－』河原和枝著（中公新書）、『はじめて学ぶ日本児童文学史』鳥越信編著（ミネルヴァ書房）							
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	日本の詩歌		
科目分類	111-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Poetry	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	日本の詩歌の特質について学ぶことを目的とする。上代の和歌と中古の和歌を中心とし、中世から近世の和歌についても考察する。近代以降の詩歌については正岡子規の改革運動を中心として略述する。日本文学における詩歌の意義について理解し、作品に表れたものの見方や考え方、現代における詩歌の意義などについて、各受講者なりの考えを持つことができるようにする。そのため、受講生の意見発表や、質疑応答の機会を適宜設ける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の詩歌の特質について、自分なりの考えを説明することができる。</li> <li>日本の主要な詩歌作品について簡潔に説明することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：日本の詩歌に関する入門書を読んでおく  授業：万葉集第1期の和歌 額田王の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第2回】  予習：万葉集について調べる  授業：万葉集第1期～2期の和歌 皇子・皇女の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第3回】  予習：人麻呂について調べる  授業：万葉集第2期の和歌 柿本人麻呂の雑歌・挽歌  復習：課題に取り組む</p> <p>【第4回】  予習：人麻呂について調べる  授業：万葉集第2期の和歌 柿本人麻呂の相聞  復習：課題に取り組む</p> <p>【第5回】  予習：赤人について調べる  授業：万葉集第3期の和歌 山部赤人の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第6回】  予習：高橋虫麻呂について調べる  授業：万葉集第3期の和歌 高橋虫麻呂の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第7回】  予習：大伴旅人について調べる  授業：万葉集第3期の和歌 大伴旅人の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第8回】  予習：山上憶良について調べる  授業：万葉集第3期の和歌 山上憶良の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第9回】  予習：坂上郎女について調べる  授業：万葉集第4期の和歌 大伴坂上郎女の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第10回】  予習：大伴家持について調べる  授業：万葉集第4期の和歌 大伴家持の作品  復習：課題に取り組む</p> <p>【第11回】  予習：和歌の技法について調べる  授業：平安時代の和歌1 和歌の技法  復習：課題に取り組む</p> <p>【第12回】  予習：古今集について調べる  授業：平安時代の和歌2 勅撰和歌集の構造  復習：課題に取り組む</p>			

<p>【第13回】  予習：新古今和歌集について調べる  授業：平安時代の和歌3 平安後期から鎌倉時代へ  復習：課題に取り組む</p> <p>【第14回】  予習：中世の和歌について調べる  授業：中世の和歌 鎌倉時代から室町時代  復習：課題に取り組む</p> <p>【第15回】  予習：近世の和歌について調べる  授業：近世の和歌  復習：課題に取り組む</p>								
授業開始前学習	百人一首など身近な和歌に触れておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の課題（授業の感想・質問等）は、適宜コメント等を付し次回以降に返却する。							
テキスト・教材	教員作成のプリント（資料）を配付する。							
参考書	授業時に指示する。							
評価の基準と方法	授業時の課題（70%）とレポート（30%）により判断する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		△	
関連科目	古典文学概論 日本文学史など							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	国語教育概論 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overview of Teaching Japanese as a Second Language I	授業区分	講義
科目責任者	萩原 茂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	萩原 茂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は国語教育の歴史や概要を学ぶことを通して、国語科教育についての基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、明治以降今日に至るまでの国語教育や国語教科書の歴史および学習指導要領の変遷などについて概説するとともに、国語科の教科構造や教科内容、単元構成、系統性、他教科との関連等について概説する。さらに「国語を学ぶ」とはどのようなことなのか、その本質や意味についても考察していく。また、授業ではディスカッションやグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	国語教育の歴史や国語教科書の歴史および学習指導要領の変遷などについての理解を深めることができる。国語教育の現状を知り、課題についての認識を深める。国語科が学校全体の言語活動を支える基幹教科であることを理解する。国語科教員をめざすという目的意識を深め、教員としての資質を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：教科書（1頁～9頁）を講読する。  授業：ガイダンス／国語科教育の課題一言葉について学ぶとはどのようなことか。  復習：国語を学ぶことの意義について、確認する。</p> <p>【第2回】  予習：方言が標準語でどう言い換えられているか、調べる。  授業：明治時代の国語教育①標準語（共通語）が誕生するまでの経緯  復習：言文一致が定着するまでの経緯について確認する。</p> <p>【第3回】  予習：高校の時に習った国語科の科目にどのようなものがあつたかについて調べる。  授業：明治時代の国語教育②国語科の成立  復習：国語科の教科内容について確認する。  課題①：教育勅語について／八重山教科書採択問題について／唱歌と童謡について</p> <p>【第4回】  予習：高校の時使った現代文の教科書に掲載されている単元(ジャンル)について調べる。  授業：明治時代の国語教育③近代教科書の歴史  復習：国定教科書ができるまでの経緯について確認する。</p> <p>【第5回】  予習：教科書の内容の変化について、確認する。  授業：明治時代の国語教育④近代教科書の歴史と現代とのつながり  復習：明治時代と現代との類似点について、考える。</p> <p>【第6回】  予習：教科書（53頁～64頁）を講読する。  授業：大正時代の国語教育①大正の新教育と作文教育の革新（グループ・ワーク）  復習：綴り方（作文）について異なる考え方があることを確認する。  課題②：与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」について／「そぞろごと」について</p> <p>【第7回】  予習：与謝野晶子の略歴について調べる。  授業：大正時代の国語教育③～文化学院と与謝野晶子～  復習：与謝野晶子の教育の特色を整理する。</p> <p>【第8回】  予習：与謝野晶子の歌について数首調べる。  授業：大正時代の国語教育②～与謝野晶子が編纂した教科書・同時代の教科書にふれて～  復習：与謝野晶子が作った教科書の特色を整理する。</p> <p>【第9回】  予習：満州事変から太平洋戦争までの年代について調べる。  授業：昭和時代の国語教育(戦前)①国定教科書の変遷とその時代背景（グループ・ワーク）  復習：戦前の日本の教育状況について整理する。</p>			

<p>【第10回】          予習：教科書（10頁～19頁）（65頁～76頁）を講読／修身の教科書と国語の教科書の比較          授業：昭和時代の国語教育（戦後）②戦後国語教育の概要とその問題          復習：文学教育のあり方について整理する。          課題③：「読書指導の工夫」について</p> <p>【第11回】          予習：教科書（13頁～17頁）を講読する。          授業：現代の国語教育①～戦後から現代までの学習指導要領の変遷～          復習：各学習指導要領の特色を理解する。</p> <p>【第12回】          予習：教科書（201頁～211頁）を講読する。          授業：現代の国語教育②最新の高等学校・学習指導要領～中学校学習指導要領にふれて～          最新の高等学校・学習指導要領に関するレポートの説明          復習：自身が受けた科目名と内容の違いを理解する。</p> <p>【第13回】          予習：事前に配付された資料（朗読する作品）を講読する。          授業：プロによる朗読指導～学習指導要領「話すこと・聞くこと」に関連して～          復習：朗読の仕方についての認識を深める。</p> <p>【第14回】          予習：自身感動した児童文学を確認する。          授業：現代の国語教育③ 攻撃されたり、消えたりした教科書の中の児童文学          最新の高等学校・学習指導要領に関するレポートの提出          復習：児童文学が攻撃されたり、消えたりした背景を確認する。</p> <p>【第15回】          予習：テキスト（10頁～19頁）（190頁～216頁）を講読する。          授業：読書指導の工夫／学期末レポート提出          前期の授業の振りかえり—これからの国語科教育に向けて          復習：自身が教員の立場に立って、国語科教育について考える。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業の第14回に提出されたレポートについては、第15回に講評を行う。課題①～③については、随時授業時に発表する。							
テキスト・教材	授業時に適宜資料を配付する。 教科書・町田守弘編『【第三版】実践国語科教育法』（学文社）。							
参考書	柴田義松、阿部昇、鶴田清司編著『新しい国語科指導法 五訂版』（学文社） 『国語科重要語事典』（明治図書）。このほかに授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	平常点（授業へり取り組み・レポート・課題提出）65%と学期末レポート35%による。 大学の規定によりGPAが1.5～2.5の範囲で評価をつける。 欠席が6回以上は、原則として単位が与えられない。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		○	
関連科目								
その他	グループワークは「授業のテーマ・内容」に示した以外の授業でも随時取り入れる。なお、受講数者の数や発表内容により、授業の予定を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校および高等学校の教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教員としての必要な基礎的知識・技術や心構えについての講義をする。							



科目名称	国語教育概論Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overview of Teaching Japanese as a Second Language II	授業区分	講義
科目責任者	萩原 茂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	萩原 茂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は現在の国語教育の内容や諸問題を学ぶことを通して、国語科教育の意義を理解し、国語科の教員としての必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には現行の学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の内容を概説したうえで、国語教育の方法や学習指導法、教材について、さらには国語教育の様々な問題について概説する。国語科とは何を教え、どう力を育てるべき教科なのか、考える力を修得する。また、授業ではディスカッションやグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	国語の授業を行うための基本的知識や技術を身につける。具体的な教材を取り上げ、指導法について研究する。新たな視点からの教材を取り入れ、今後の国語教育のあり方を探ることができる。国語科教員をめざすという目的意識を深め、教員としての資質を養う。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第1回】</b>  予習:テキスト（12頁～17頁+201頁～211頁）を講読する。  授業：ガイダンス(授業全体の概要)／最新の学習指導要領①：高等学校の履修シミュレーションと実際  復習：「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の内容の確認</p> <p><b>【第2回】</b>  予習：高校までに習った教材（文学作品）で印象に残っているものについて確認する。  授業：現在の国語教育①小説：定番教材と副教材を利用した新たな教材  復習：これから残したい定番教材について確認する。</p> <p><b>【第3回】</b>  予習：教科書（100頁～109頁+120頁～121頁）を講読する。  授業：論理的文章の授業の組み立て①「水の東西」から、二項対立について学ぶ～アクティブ・ラーニングを取り入れた授業～／二項対立に関するレポートの説明  復習：東洋と西洋の違い（二項対立）について考える。</p> <p><b>【第4回】</b>  予習：夏目漱石の略歴について調べる。  授業：論理的文章の授業の組み立て②「現代日本の開化」を通して、日本の近現代のあり方について考える。  復習：西洋との関わりから、日本の近代化をめぐる苦悩と模索について整理する。</p> <p><b>【第5回】</b>  予習：教科書（65頁～74頁）を講読する。  授業：文学的文章の授業の組み立て①～平和教材について その1～  復習：授業で扱った以外の平和教材を講読する。  課題①：もっとも印象に残った平和教材／「かわいそうなぞう」と「ぞうとにんげん」の比較など</p> <p><b>【第6回】</b>  予習：教科書（65頁～74頁）を講読する。  授業：文学的文章の授業の組み立て②～平和教材について その2～  復習：平和教材とトラウマとの関連について考える。</p> <p><b>【第7回】</b>  予習：教科書（201頁～211頁）を確認する。  授業：最新の学習指導要領②：高校学習指導要領の分析と今後の課題／二項対立に関するレポートの提出  復習：旧課程の学習指導要領との相違を理解する。</p> <p><b>【第8回】</b>  予習：資料（教科書の目次）を確認する。  授業：最新の学習指導要領③：旧課程と現課程の中学校教科書の比較  復習：現課程から掲載された教材を読む。</p> <p><b>【第9回】</b>  予習：教科書（77頁～88頁）を講読する。  授業：文学的文章の授業の組み立て③～随想と詩の授業～  茨木のり子の随想「空と星と風と詩」と伊東柱の詩について（グループ学習）</p>			

復習：自身が好きな尹東柱の詩を確認する。

課題②：尹東柱の詩で印象に残った詩についての感想

【第10回】

予習：教科書（77頁～88頁）を講読する。

授業：文学的文章の授業の組み立て④～随想と詩の授業～

茨木のり子の随想「空と星と風と詩」と茨木のり子の詩について（グループ学習）

復習：自身が好きな尹東柱の詩を確認する。

課題③：指定された言葉の意味と用法について、自分で考えたものを書く。

【第11回】

予習：資料(小論文の書き方)を講読する。

授業：小論文指導の実際～基本的な書き方と大学入試問題～

復習：添削のポイントについて整理する。

【第12回】

予習：自身(学生)が使っている辞書を確認する。

授業：現在の国語教育②辞書の研究と言葉に関する知識・教養

復習：言葉の使い方の変化について確認する。

【13回】

予習：高校の時に習った近代文学史を確認する。

授業：近代文学史～作家の経歴と作品の風景～

復習：文学館や記念館などを訪ねる。

日本近代文学館 漱石山房記念館(漱石旧居跡) 森鷗外記念館(鷗外旧居跡) 水月ホテル(鷗外旧居) 田端文士村記念館 太宰治文学サロン 山本有三記念館(有三旧居) 林芙美子記念館(芙美子旧居) 新宿歴史博物館 白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 神奈川近代文学館 東京子ども図書館・かつら文庫(石井桃子旧居) 国立国会図書館国際子ども図書館 谷中霊園 多磨霊園 青山霊園 雑司ヶ谷霊園

【第14回】

予習：テキスト(89頁～99頁)を講読する。

授業：現在の国語教育③古典教育の今とこれから～文法はどこまで必要なのか～

復習：最新の学習指導要領と関連させ、古典教育の意義について整理する。

第15回】

授業：授業と読書/学期末レポートの提出

後期の授業の振りかえり/国語科の教員として求められるもの

予習：教科書(1頁～9頁)(160頁～169頁)を講読する。

復習：批判精神を持つ大切さについて認識し、国語科教員を目指す者としての心構えを確認する。

授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業の第7回に提出するレポートについては、第10回に講評を行う。課題①～③については、随時授業で発表する。							
テキスト・教材	授業時に適宜資料を配付する。 教科書・町田守弘編『第三版 実践国語科教育法』(学文社)。							
参考書	『柴田義松、阿部昇、鶴田清司編著『あたらしい国語科指導法 五訂版』(学文社) 『国語科重要語事典』(明治図書)。 このほかに授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法	平常点(授業の取り組み、レポート・課題提出)65%と学期末レポート35%による。 大学の規定によりGPAが1.5～2.5の範囲で評価をつける。 欠席が6回以上は、原則として単位が与えられない。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		○	
関連科目								
その他	グループワークは「授業のテーマ・内容」に示した以外の授業でも随時取り入れる。なお、受講数者の数や発表内容により、授業の予定を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	中学校および高等学校の教諭として教科指導や生徒指導・進路指導などの各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教員としての必要な基礎的知識・技術や心構えについて講義する。							

科目名称	書道実習 I		
科目分類	111-331-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Calligraphy Practice I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向 雅之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向 雅之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	1) 道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2) 基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3) 学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4) 中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。		
到達目標	1) 書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2) 基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3) 学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4) 中学書写の指導理論を、課題レポートにより習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】          予習：授業のテーマ・到達目標を事前に読了し、理解しておくこと。          授業：講座案内、書写指導の意義と概論（テキスト4 p～5 p）          復習：実技をするために必要な内容について確認する。</p> <p>【第2回】          予習：テキスト34、35 pの楷書に調和するひらがなの欄を読んで、予習しておくこと。          授業：実技-楷書に調和するひらがな          復習：楷書に調和するひらがなについて再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第3回】          予習：テキスト36、37 pの楷書に調和する片仮名の欄を読んで、予習しておくこと。          授業：実技-楷書に調和する片仮名          復習：楷書に調和する片仮名について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第4回】          予習：テキスト38、39 pの楷書と字形を読み予習しておくこと。          授業：実技-楷書と字形          復習：楷書と字形について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第5回】          予習：テキスト44 p～45 pの筆順について、予習しておくこと。          授業：実技-楷書基本点画に複数のバリエーションがあることを理解する。課題「左右」          復習：基本点画の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第6回】          予習：テキスト46 p～47 p点画の長短について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「山寺」          復習：楷書の筆順について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第7回】          予習：テキスト48 p、49 pの点画の方向について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「友人」          復習：点画の方向について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第8回】          予習：テキスト50 p～51 pの点画の接し方について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「日光」          復習：点画の接し方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第9回】          予習：テキスト52 p～53 p点画の交わり方について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「文武」          復習：点画の交わり方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第10回】          予習：テキスト54 p～55 pの左右から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「金銀」          復習：左右から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第11回】          予習：テキスト56 p～57 p上下から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「竹笛」          復習上下から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p>			

<p>【第12回】          予習：テキスト58p～59pの内外から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。          授業：実技-「進展」          復習：内外から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第13回】          予習：テキスト60p文字の大きさと配列について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「美しい山の緑」          復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第14回】          予習：テキスト61p点画のつながりについて、予習しておくこと。          授業：実技-課題「うさぎ追いし・・・」          復習：点画のつながりについて再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第15回】          予習：テキスト62pの硬筆縦書きについて、予習しておくこと。          授業：実技-課題「学習のステップ・・・」          復習：硬筆縦書きについて再確認し、実技を習得し理解を深める。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。 模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。							
テキスト・教材	『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房） 書道用具一式 硬筆用－2B以上の鉛筆と消しゴム							
参考書								
評価の基準と方法	提出課題（70%）・模擬実習及び授業態度（30%）を点数化したものの合計にて評価します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	書道実習Ⅱ		
科目分類	111-331-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Calligraphy Practice II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向 雅之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向 雅之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	1) 道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2) 基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3) 学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4) 中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。		
到達目標	1) 書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2) 基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3) 学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4) 中学書写の指導理論を、課題により習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】          タイトル：【第1回】          授業：行書と楷書の違いとテキスト64pの内容に沿って確認する。          復習：行書と楷書の違いを再確認する。</p> <p>【第2回】          タイトル：【第2回】「点画の丸み、方向や形の変化1」『大木』          予習：テキスト65pの点画の丸み方向の変化を読んで、予習しておくこと。          授業：実技-「大木」          復習：点画の丸み方向の変化①について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第3回】          タイトル：【第3回】「点画の丸み、方向や形の変化3」『北西』          予習：テキスト66pの点画の丸み方向の変化②を読んで、予習しておくこと。          授業：実技-課題「北西」          復習：点画の丸み方向の変化②について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第4回】          タイトル：【第4回】「点画の連続1 筆脈の実線化」『清心』          予習：テキスト68pの筆脈の実線化を読んで、予習しておくこと。          授業：実技-課題「清心」          復習：筆脈の実線化について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第5回】          タイトル：【第5回】「点画の連続2 直接連続」『元気』          予習：テキスト69pの点画の連続直接連続を読み、予習しておくこと。          授業：実技-課題「元気」          復習：点画の連続直接連続について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第6回】          タイトル：【第6回】「点画の省略」『秋霜』          予習：テキスト71pの点画の省略について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「秋霜」          復習：点画の省略について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第7回】          タイトル：【第7回】「筆順の変化」『書聖』          予習：テキスト72p筆順の変化について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「書聖」          復習：筆順の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第8回】          タイトル：【第8回】「行書に調和する仮名」『はれやかな朝』          予習：テキスト74pの「行書に調和する仮名」について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「はれやかな朝」          復習：「行書に調和する仮名」について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p> <p>【第9回】          タイトル：【第9回】「文字の大きさと配列行書1」『赤とんぼ・・・』          予習：テキスト76p文字の大きさと配列について、予習しておくこと。          授業：実技-課題「赤とんぼ・・・」          復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。</p>			

【第10回】  
 タイトル：【第10回】「文字の大きさと配列行書2」『自然との調和』  
 予習：テキスト77pの文字の大きさと配列のポイントについて、予習しておくこと。  
 授業：実技-課題「自然との調和」  
 復習：文字の大きさと配列のポイントについて再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第11回】  
 タイトル：【第11回】「実用書式 封筒」  
 予習：テキスト78pの「実用書式」について、予習しておくこと。  
 授業：実技-課題「佐藤・・・」  
 復習：「実用書式」について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第12回】  
 タイトル：【第12回】「実用書式 葉書」  
 予習：テキスト79pの「はがきの書き方」について、予習しておくこと。  
 授業：実技-課題「佐藤・・・」  
 復習：「はがきの書き方」について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第13回】  
 タイトル：【第13回】「実用書式 手紙」  
 予習：テキスト80p「手紙文を書く」をよく読んでおく。  
 授業：実技-「拝「手紙文を書く」啓・・・」  
 復習：「手紙文を書く」について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第14回】  
 タイトル：【第14回】「原稿用紙を書く」  
 予習：テキスト81p上段の原稿用紙に書く(縦書き)について、予習しておくこと。  
 授業：実技-「私たち・・・」の課題  
 復習：原稿用紙に書く(縦書き)について再確認し、実技を習得し理解を深める。

【第15回】  
 タイトル：【第15回】「書き初めを書く」  
 予習：テキスト82pの書き初め課題について、予習しておくこと。  
 授業：実技-書き初めの筆課題  
 復習：書き初めの実践と指導について再確認し、実技を習得し理解を深める。

授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。							
テキスト・教材	『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房） 書道用具一式 硬筆用 - 2B以上の鉛筆と消しゴム							
参考書								
評価の基準と方法	提出課題（70%）・模擬実習及び授業態度（30%）を点数化したものの合計にて評価します。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	日本の文化財 I		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cultural Properties of Japan I	授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	文化財を後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では、文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。		
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：この授業のシラバスを通読しておく。  授業：オリエンテーション。この授業および文化財の見方・考え方について説明する。  復習：授業の内容を確認する。</p> <p>【第2回】  予習：文化財とは何か、文化財にはどのようなものがあるか調べる  授業：文化財の種類や文化財保護の歴史について概説  復習：文化財の種類、歴史を確認する</p> <p>【第3回】  予習：文化財保護および博物館の役割を調べる  授業：文化財保護法改正と文化財・博物館行政について概説  復習：文化財保護法と博物館行政について確認する</p> <p>【第4回】  予習：古代の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる  授業：古代の史跡・遺跡について概説  復習：古代の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第5回】  予習：中世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる  授業：中世の史跡・遺跡について概説  復習：中世の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第6回】  予習：近世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる  授業：近世の史跡・遺跡について概説  復習：近世の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第7回】  予習：近現代の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる  授業：近現代の史跡・遺跡について概説  復習：近現代の史跡・遺跡について確認する</p> <p>【第8回】  予習：建造物（寺院・寺社）にはどのようなものがあるか調べる  授業：建造物（寺院・寺社）について概説  復習：建造物（寺院・寺社）について確認する</p> <p>【第9回】  予習：建造物（城郭）にはどのようなものがあるか調べる  授業：建造物（城郭）について概説  復習：建造物（城郭）について確認する</p> <p>【第10回】  予習：住宅の歴史について調べる  授業：住宅の歴史について概説  復習：住宅の歴史について確認する</p> <p>【第11回】  予習：近代建造物にはどのようなものがあるか調べる  授業：近代建造物について概説  復習：近代建造物について確認する</p> <p>【第12回】  予習：近代建造物にはどのようなものがあるか調べる  授業：近代建造物について概説  復習：近代建造物について確認する</p>			



<p>【第13回】          予習：文化的景観にはどのようなものがあるか調べる          授業：文化的景観（街並みと景観）について概説          復習：文化的景観について確認する</p> <p>【第14回】          予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる          授業：石造物について概説          復習：石造物について確認する</p> <p>【第15回】          予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる          授業：石造物について概説          復習：石造物について確認する</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。							
テキスト・教材	授業時に適宜プリントを配布する。							
参考書	参考書としては『新版 図説 歴史散歩事典』（山川出版社、2019年）などを使用する。							
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40点、レポート60点の配分とする。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	◎	○		
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。							

科目名称	日本の文化財Ⅱ		
科目分類	111-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cultural Properties of Japan II	授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	文化財を後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では、文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。		
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：絵画の歴史について調べる  授業：絵画の歴史について概説  復習：絵画の歴史を確認する</p> <p>【第2回】  予習：絵画（浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる  授業：絵画（浮世絵）の歴史について概説  復習：絵画（浮世絵）の歴史を確認する</p> <p>【第3回】  予習：書籍・典籍について調べる  授業：書籍・典籍について概説  復習：書籍・典籍について確認する</p> <p>【第4回】  予習：中世の古文書について調べる  授業：中世の古文書について概説  復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第5回】  予習：中世の古文書について調べる  授業：中世の古文書について概説  復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第6回】  予習：中世の古文書について調べる  授業：中世の古文書について概説  復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第7回】  予習：中世の古文書について調べる  授業：中世の古文書について概説  復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第8回】  予習：中世の古文書について調べる  授業：中世の古文書について概説  復習：中世の古文書について確認する</p> <p>【第9回】  予習：暦・度量衡について調べる  授業：暦・度量衡について概説  復習：暦・度量衡について確認する</p> <p>【第10回】  予習：貨幣の歴史について調べる  授業：貨幣の歴史について概説  復習：貨幣の歴史について確認する</p> <p>【第11回】  予習：埋蔵文化財について調べる  授業：埋蔵文化財について概説  復習：埋蔵文化財について確認する</p> <p>【第12回】  予習：被災資料について調べる  授業：被災資料について概説  復習：被災資料について確認する</p>			

<p>【第13回】          予習：地域資料とは何か調べる          授業：地域資料について概説          復習：地域資料について確認する</p> <p>【第14回】          予習：地域資料とは何か調べる          授業：地域資料について概説          復習：地域資料について確認する</p> <p>【第15回】          予習：地域資料とは何か調べる          授業：地域資料について概説          復習：地域資料について確認する</p>								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。							
テキスト・教材	授業時に適宜プリントを配布する。							
参考書	参考書としては『新版 図説 歴史散歩事典』（山川出版社、2019年）などを使用する。							
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40点、レポート60点の配分とする。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	◎	○		
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。							

科目名称	文化交流史 I		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Cultural Exchange I	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、旧石器時代から鎌倉時代までを取り上げます。海外から何がもたらされたのか、そしてこのうち日本は、何を受容したのかを解説します。さらにそれが日本の文化や歴史に、どのような影響を与えたのかを論じていきます。		
到達目標	1 日本の文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。 2 海外の文化が、日本の文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：旧石器遺跡捏造事件について調べる。 授業：旧石器時代の文化交流 復習：教科書の「旧石器時代の文化交流」を読む。</p> <p>【第 2 回】 予習：三内丸山遺跡について調べる。 授業：縄文から弥生へ 復習：教科書の「縄文から弥生へ」を読む。</p> <p>【第 3 回】 予習：邪馬台国について調べる。 授業：倭人と中国王朝 復習：教科書の「倭人と中国王朝」を読む。</p> <p>【第 4 回】 予習：欠史八代について調べる。 授業：神話から歴史へ 復習：教科書の「神話から歴史へ」を読む。</p> <p>【第 5 回】 予習：蘇我馬子について調べる。 授業：六世紀の国際関係と仏教伝来 復習：教科書の「六世紀の国際関係と仏教伝来」を読む。</p> <p>【第 6 回】 予習：天智天皇について調べる。 授業：大化の改新と白村江の戦い 復習：教科書の「大化の改新と白村江の戦い」を読む。</p> <p>【第 7 回】 予習：持統天皇について調べる。 授業：律令の導入と古代国家の成立 復習：教科書の「律令の導入と古代国家の成立」を読む。</p> <p>【第 8 回】 予習：光明皇后について調べる。 授業：聖武天皇・光明皇后と国家仏教 復習：教科書の「聖武天皇・光明皇后と国家仏教」を読む。</p> <p>【第 9 回】 予習：大伴古麻呂について調べる。 授業：遣唐使がもたらしたもの 復習：教科書の「遣唐使がもたらしたもの」を読む。</p> <p>【第 10 回】 予習：道鏡について調べる。 授業：国家仏教の行く末 復習：教科書の「国家仏教の行く末」を読む。</p> <p>【第 11 回】 予習：空海について調べる。 授業：最澄・空海とその後の仏教 復習：教科書の「最澄・空海とその後の仏教」を読む。</p> <p>【第 12 回】 予習：円仁について調べる。 授業：入唐八家と聖地巡礼 復習：教科書の「入唐八家と聖地巡礼」を読む。</p>			

<p>【第13回】          予習：藤原隆家について調べる。          授業：遣唐使廃止後の対外交流と国風文化          復習：教科書の「遣唐使廃止後の対外交流と国風文化」を読む。</p> <p>【第14回】          予習：平清盛について調べる。          授業：日宋貿易と禅宗の伝来          復習：教科書の「日宋貿易と禅宗の伝来」を読む。</p> <p>【第15回】          予習：教科書を一通り読む。          授業：旧石器時代から鎌倉時代における文化交流の総括          復習：日本が海外から受容した文化について時代ごとにまとめておく。</p>								
授業開始前学習	鎌倉時代までの日本の歴史を学習しておくことで授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	文化交流史Ⅱ		
科目分類	111-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Cultural Exchange II	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、鎌倉時代から明治時代までを取り上げます。日本が海外から何を受容し、何を排除したのかを解説するとともに、このことが日本の文化や歴史にどのような影響を与えたのかを論じていきます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。</li> <li>2 海外の文化が、日本文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：元寇について調べる。  授業：蒙古襲来と鎌倉幕府  復習：教科書の「蒙古襲来と鎌倉幕府」を読む。</p> <p>【第2回】  予習：足利尊氏について調べる。  授業：日明貿易と室町幕府  復習：教科書の「日明貿易と室町幕府」を読む。</p> <p>【第3回】  予習：足利義満について調べる。  授業：14・15世紀の中国・朝鮮と琉球  復習：教科書の「14・15世紀の中国・朝鮮と琉球」を読む。</p> <p>【第4回】  予習：織田信長について調べる。  授業：戦国大名と鉄砲伝来  復習：教科書の「戦国大名と鉄砲伝来」を読む。</p> <p>【第5回】  予習：豊臣秀吉について調べる。  授業：キリスト教の伝来と弾圧  復習：教科書の「キリスト教の伝来と弾圧」を読む。</p> <p>【第6回】  予習：徳川家康について調べる。  授業：江戸幕府と鎖国政策  復習：教科書の「江戸幕府と鎖国政策」を読む。</p> <p>【第7回】  予習：徳川家光について調べる。  授業：長崎貿易と洋学  復習：教科書の「長崎貿易と洋学」を読む。</p> <p>【第8回】  予習：高野長英について調べる。  授業：アヘン戦争とアジア  復習：教科書の「アヘン戦争とアジア」を読む。</p> <p>【第9回】  予習：黒船について調べる。  授業：黒船来航と開国  復習：教科書の「黒船来航と開国」を読む。</p> <p>【第10回】  予習：安政の大獄について調べる。  授業：「万国公法」と世界  復習：教科書の「万国公法」と世界」を読む。</p> <p>【第11回】  予習：戊辰戦争について調べる  授業：国際化のなかの幕府と薩長  復習：教科書の「国際化のなかの幕府と薩長」を読む。</p> <p>【第12回】  予習：岩倉使節団について調べる。  授業：明治維新と文明開化  復習：教科書の「明治維新と文明開化」を読む。</p>			

<p>【第13回】          予習：江華島事件について調べる。          授業：朝鮮半島情勢と日本の領土確定          復習：教科書の「朝鮮半島情勢と日本の領土確定」を読む。</p> <p>【第14回】          予習：大久保利通について調べる。          授業：殖産興業          復習：教科書の「殖産興業」を読む。</p> <p>【第15回】          予習：教科書を一通り読む。          授業：鎌倉時代～明治時代までの文化交流の総括          復習：日本が海外から受容した文化、排除した文化について時代ごとにまとめておく。</p>								
授業開始前学習	鎌倉時代から明治時代までの日本の歴史を学習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	日本文化ゼミ I		
科目分類	111-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川・皆川・木内・山本	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	追究したい日本文化に関する研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。</li> <li>・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。</li> <li>・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。</p> <p>【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。</p> <p>【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p>			

<p>【第13回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第14回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第15回】          予習：輪読資料を振り返る。          授業：輪読資料から考える日本の文化          復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。</p>								
授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点10%、発表40%、レポート30%、テスト20%により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「各回の授業内容」は準備段階（第1回～第2回）と資料輪読・研究発表（第3回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。</li> <li>・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を1回行う予定である。交通費および入場料1000円程度の負担が必要となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	日本文化ゼミⅡ		
科目分類	111-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川・皆川・木内・山本	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	追究したい日本文化に関する研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。</li> <li>・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。</li> <li>・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。</p> <p>【第2回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。</p> <p>【第3回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第4回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第5回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第6回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第7回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第8回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第9回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第10回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第11回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第12回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p>			

<p>【第13回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第14回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第15回】          予習：輪読資料を振り返る。          授業：輪読資料から考える日本の文化          復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。</p>								
授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点10%、発表40%、レポート30%、テスト20%により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「各回の授業内容」は準備段階（第1回～第2回）と資料輪読・研究発表（第3回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。</li> <li>・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を1回行う予定である。交通費および入場料1000円程度の負担が必要となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	日本文化ゼミⅢ		
科目分類	111-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川・皆川・松村・山本	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	追究したい日本文化に関する研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では課題解決型学習・発表を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。</li> <li>・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。</li> <li>・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。</p> <p>【第2回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。</p> <p>【第3回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第4回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第5回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第6回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第7回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第8回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第9回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第10回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第11回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第12回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p>			

<p>【第13回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第14回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第15回】          予習：輪読資料を振り返る。          授業：輪読資料から考える日本の文化          復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。</p>								
授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点10%、発表40%、レポート30%、テスト20%により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「各回の授業内容」は準備段階（第1回～第2回）と資料輪読・研究発表（第3回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。</li> <li>・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を1回行う予定である。交通費および入場料1000円程度の負担が必要となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	日本文化ゼミⅣ		
科目分類	111-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川・皆川・松村・山本	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	追究したい日本文化に関する研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。</li> <li>・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。</li> <li>・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。</p> <p>【第2回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。</p> <p>【第3回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第4回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第5回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第6回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第7回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第8回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第9回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第10回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第11回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第12回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p>			



<p>【第13回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第14回】          予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。          授業：研究発表および質疑応答（発表）          復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。</p> <p>【第15回】          予習：輪読資料を振り返る。          授業：輪読資料から考える日本の文化          復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。</p>								
授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点10%、発表40%、レポート（ゼミ論文）30%、テスト20%により評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「各回の授業内容」は準備段階（第1回～第2回）と資料輪読・研究発表（第3回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。</li> <li>・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を1回行う予定である。交通費および入場料1000円程度の負担が必要となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	卒業論文							
科目分類	111-330-24	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者	各担当教員		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	石川・皆川・松村・山本		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10		研究室	10-510				
授業概要	<p>大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。</p> <p>具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。</p>							
到達目標	<p>各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。</p> <p>各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること</p>							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。</p> <p>授業の内容 全般にわたる諸注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である</li> <li>2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと</li> <li>3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと</li> <li>4. 論文全体の構成を常に意識すること</li> <li>5. なるべくはやい段階で書き始めること</li> <li>6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること</li> <li>7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること</li> </ol> <p>卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。</p>								
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○	◎
関連科目	各専門教育科目など							

<p>その他</p>	<p>履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通じた地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。</p>
<p>予習・復習の 所要時間</p>	
<p>実務経験を活かした 教育内容</p>	

科目名称	人間関係の基礎		
科目分類	112-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Basic Studies of Human Relations	授業区分	講義
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田・臼井・榎本・大貫・倉住・田澤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。		
到達目標	到達目標は、以下の4点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後3年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第1章】（ディスカッション） 復習：卒業までの3年間の専攻の学びをイメージする</p> <p>【第2回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第2章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査</p> <p>【第3回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー-1：問いを立てる【教科書第3章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する</p> <p>【第4回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー-2：本質を探る【教科書第4章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる</p> <p>【第5回】 予習：教科書第5章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第5章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する</p> <p>【第6回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは1：各専門分野の知見から学ぶ【教科書第6章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する</p> <p>【第7回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは2：グループで意見をまとめる【教科書第7章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する</p> <p>【第8回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える1：文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第8章】 復習：不明な用語や概念を調べる</p>			

<p>【第 9 回】            予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える            授業：文献を読んで考える 2：文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション）            復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する</p> <p>【第 10 回】            予習：10 年後の社会と自分をイメージする            授業：プレゼンテーション資料の作成 1：「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク）            復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する</p> <p>【第 11 回】            予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく            授業：プレゼンテーション資料の作成 2：プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク）            復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する</p> <p>【第 12 回】            予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する            授業：プレゼンテーションの実践 1：クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション）            復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する</p> <p>【第 13 回】            予習：修正したプレゼン資料で再度練習する            授業：プレゼンテーションの実践 2：全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション）            復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する</p> <p>【第 14 回】            予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する            授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】            復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する</p> <p>【第 15 回】            予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する            授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】            復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する</p>								
授業開始前学習	「基礎ゼミ I・II」教科書を復習し、学修ポートフォリオ該当欄を記入しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）							
参考書	授業を通じて適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	受講取組みの積極性（55 %）、課題提出物（45 %）にもとづいて総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	「基礎ゼミ I・II」および「人間関係入門 I・II」							
その他	個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	化粧の文化史		
科目分類	112-310-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Beauty	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>人類は原始時代から化粧をし続けている。人はなぜ化粧をするのか。特定の時代や地域の化粧はなぜそのような形になったのか。各化粧の背景にある美意識はどのようにして出来上がったのか。今現在自分が行っている化粧はなぜその形なのか。自分の美意識はどこから来たのか。これらを考えることがこの授業の目的である。</p> <p>授業では、始めに、考える前提になる知識として、特定の時代と地域の化粧を学習する。その後で、なぜそうした美意識が生まれたのか、なぜそうした化粧になったのかを考える課題に取り組む。単純に知識伝授型の授業ではないので、その点誤解のないよう留意してほしい。</p> <p>課題は、課題の出た回の授業だけでなく、それまでの授業全体を大きな視野でとらえる必要があり、授業や教材やインターネット等を調べるだけで解答の出るものではない。自身のさまざまな知識や能力を駆使して考えを深める性質の課題である。AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うことを目的とした課題である。</p> <p>なお、この科目は、歴史上の時間が後期の「身体文化論Ⅱ/化粧文化論 b」に続いており、通史上の前半部分が学修範囲である。</p>		
到達目標	<p>①化粧の変遷と美意識の変遷について大きな流れを把握する。</p> <p>②歴史上の事柄といま自分が生きている社会を関連付けてとらえることで、自分がどのような美意識にとらわれ、どのような化粧行動をしているかを自覚し、問題を発見する。</p> <p>③節目節目で課題を出す。それは教科書やノートを復習すれば答えが見つかる、調べればすぐに答えが見つかるようなものは少ない。AI と共存する時代を生き抜くために、AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うような課題である。それゆえ、複数回の授業、他の科目、さらには自分で調べて得た情報などを総動員して、大きな視野で物事をとらえるような課題である。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：高校までの日本史（室町時代まで）の流れを簡単に復習 授業：科目の説明・履修上の諸注意（教科書頁 1～2,83～85）, 課題 1 復習：教科書 1～2 頁,83～85 頁の再読,課題の提出</p> <p>【第2回】 予習：紫外線について自分で調べる 授業：紫外線の基礎知識（教科書頁 86～89） 復習：教科書 86～89 頁の再読・生活の中での紫外線の確認,課題の提出,課題 2</p> <p>【第3回】 予習：「化粧とは何か」について自分で考え、調べておく 授業：「化粧とは何か」を法律・言葉の意味から考える（教科書頁 90～91）, 課題 3 復習：教科書 90～91 頁の再読・家の中の化粧品・医薬部外品の確認,課題の提出</p> <p>【第4回】 予習：世界各地に伝承されている化粧の風習と意味を調べる 授業：世界の民族化粧から化粧の意味を考え、「人はなぜ化粧をするか」のまとめ（教科書頁 9～10,91）, 課題 4 復習：教科書 9～10 頁,91 頁の再読・自分はなぜ化粧をするか考える,課題の提出</p> <p>【第5回】 予習：高校までの歴史（4 大文明）の復習 授業：化粧の起源・4 大文明の化粧（教科書頁 27～34,92） 復習：教科書 27～34 頁,92 頁の再読・4 大文明での化粧の意味の確認,課題の提出,課題 5</p> <p>【第6回】 予習：高校までの日本史（縄文・弥生時代）の復習 授業：原始の化粧（縄文時代・弥生時代）（教科書頁 35～37,93～94）, 課題 6 復習：教科書 35～37 頁,93～94 頁の再読・縄文時代と弥生時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出</p> <p>【第7回】 予習：高校までの日本史（古墳時代）の復習 授業：古代の化粧：古墳時代（教科書頁 95～96）, 課題 7 復習：教科書 95～96 頁の再読・古墳時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出</p> <p>【第8回】 予習：高校までの日本史（飛鳥・奈良・平安初期と当時の文化）の復習 授業：古代の化粧：飛鳥・奈良・平安初期（教科書頁 38～42,54～55,97～100）, 課題 8 復習：教科書 38～42 頁,54～55 頁,97～100 頁の再読・飛鳥時代～平安時代初期の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出</p> <p>【第9回】 予習：高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習 授業：古代の化粧：平安中期～後期の貴族男性の暮らし（教科書頁 101～102）, 課題 9 復習：教科書 101～102 頁の再読,課題の提出</p>			



<p>【第10回】          予習：高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習          授業：古代の化粧：平安中期～後期の貴族女性の暮らし（教科書頁101～102）,課題10          復習：教科書101～102頁の再読,課題の提出</p> <p>【第11回】          予習：高校までの日本史（平氏の政権と源平の戦い）の復習          授業：古代の化粧：平安中期～後期の貴族と武士の化粧（教科書頁45～46,56～62,65～67,103～105）,課題11          復習：教科書45～46頁,56～62頁,65～67頁,103～105頁の再読・貴族と武士の化粧の意味と美意識の確認,課題の提出</p> <p>【第12回】          予習：高校までの日本史（鎌倉・室町時代と当時の文化）の復習          授業：中世の化粧：鎌倉・室町・戦国時代の女性の化粧（教科書頁106～107）,課題12          復習：教科書106～107頁の再読・中世の女性の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出</p> <p>【第13回】          予習：高校までの日本史（鎌倉～室町時代と当時の文化）の復習          授業：中世の化粧：鎌倉・南北朝時代の男性の化粧（教科書頁68～69,107～108）,課題13          復習：教科書68～69頁,107～108頁の再読・中世の武士の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出</p> <p>【第14回】          予習：高校までの日本史（北山文化と東山文化）の復習          授業：中世の化粧：香道（教科書頁69～71,109～111,119）,課題14          復習：教科書69～71頁,109～111頁,119頁の再読・世界の化粧文化の中の香道の特徴の確認,課題の提出</p> <p>【第15回】          予習：高校までの西洋史（古代ギリシャ～ヘルネッサンス）の流れの復習          授業：比較としての世界の化粧（西洋の化粧）（教科書頁112～116）,課題15          復習：これまでの授業全体の振り返り,課題の提出</p>
---

授業開始前学習	中学校程度の歴史（日本と世界）の復習							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で出た課題については次回以降の授業の中で解説する。							
テキスト・教材	石田かおり『化粧の文化史』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	久下司『化粧』法政大学出版局, 石田かおり『おしゃれの哲学』理想社, 高橋雅夫『化粧ものがたり』雄山閣, 他は授業中に案内する							
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の3分の2以上を前提とし、GWEを用いた課題の合計点が100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価をする。各課題の配点は授業の中で案内する。なお課題は、特別な事情がない限り提出期限を守らない場合は0点とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎		△	
関連科目	【重要】後期の「化粧文化論Ⅱ/化粧文化論b」と人間関係ゼミa（石田ゼミ）の前提となる内容である。そのため石田ゼミ希望者は2年次に履修を終えておく必要がある。 そのほかに内容が密接な科目は、人間関係ゼミa,和装の文化論Ⅰ・Ⅱ,服装の美意識Ⅰ・Ⅱ							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間関係専攻2年生は必修科目だが、「化粧文化論Ⅱ」とともに石田ゼミの前提科目であるため、とくに専門ゼミ希望届の第四希望までに石田ゼミを記入する可能性がある人は2年時に履修することが重要である。</li> <li>●「化粧文化論b」の前提になる内容のため、「化粧文化論b」を履修する前にこの科目を履修することが望ましい。（先に「化粧文化論b」を履修すると内容の時間軸が逆行する）</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業と美容関係の社団法人の研究開発・広報活動・人材育成などの経験もいかした研究内容を基に授業を実施。							



科目名称	コミュニケーションの心理学		
科目分類	112-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Communication	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	<p>人はコミュニケーションを通じて仲間や恋人を得て、対人関係を形成していく。ビジネスにおいても、交渉や企画、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の場面など多様なシチュエーションにおいてコミュニケーションが行われている。通常、円滑なコミュニケーションが取れることは望ましく、時には場面に応じた戦略的なコミュニケーションを使用することが有利にはたらく。</p> <p>本授業では、心理学の観点からコミュニケーションの種類や機能、発達について紹介し、ソーシャルスキルトレーニングなどの人と関わるためのスキルについても学ぶ。</p> <p>また SNS の普及を受け、CMC（コンピュータ・メディア・コミュニケーション）についても紹介する。</p>		
到達目標	<p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの種類と機能について説明できる</li> <li>2. コミュニケーションを取るうえで重要な点を理解し、場面や相手に応じた適切なコミュニケーションを取ることができる</li> <li>3. コミュニケーションが人に与える影響、コミュニケーションに影響を与える要因について理解している</li> <li>4. コミュニケーションの発達と障害について説明できる</li> <li>5. SNS 上でのコミュニケーションの特徴と問題点は何か説明できる</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】          授業：コミュニケーション、コミュニケーションとは、コミ力が高いとは          予習：シラバスに目を通す、「コミュニケーション」とは何か考える          復習：改めて「コミュニケーション」とは何か考える</p> <p>【第 2 回】          授業：子どもとコミュニケーションの発達          予習：人は何歳から他者とコミュニケーションができるか考えてみる          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 3 回】          授業：コミュニケーションの種類、印象形成、非言語的コミュニケーション①ジェスチャー          予習：コミュニケーションにおいて最も重要な要素は何か考える          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 4 回】          授業：非言語的コミュニケーション②しぐさ、表情（グループワーク）          予習：人にされると不快な「しぐさ」とは何か考えてみる          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 5 回】          授業：非言語的コミュニケーション③パーソナルスペース、着席行動          予習：普段どのような席に着席することが多いのか考えてみる          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 6 回】          授業：非言語的コミュニケーション④身体接触、化粧や装い、色と物理的空間          予習：化粧や色、装いがコミュニケーションに与える影響について考えてみる          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 7 回】          授業：パラ言語によるコミュニケーション（グループワーク）          予習：「声色」とは何か調べる          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 8 回】          授業：言語的コミュニケーション、説得する、説得技法（ペアワーク）          予習：どのように話せば人を説得することができるか考える          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 9 回】          授業：コミュニケーションの障害、自閉スペクトラム症、吃音、緘黙          予習：コミュニケーションに関する障害について調べる          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第 10 回】          授業：CMC（コンピュータ・メディア・コミュニケーション）、SNS の特徴と弊害、コミュニケーション疲れ          予習：普段使用している SNS でどのような対人トラブルが生じているか考える          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p>			

<p>【第11回】  <b>授業</b>：ソーシャルスキルを磨く① 聞き上手になる、アクティブラーニング（グループワーク）  <b>予習</b>：聞き上手な人の特徴を考える  <b>復習</b>：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第12回】  <b>授業</b>：ソーシャルスキルを磨く② 話し上手になる、相手に合わせたコミュニケーション（グループワーク）  <b>予習</b>：話し上手な人の特徴を考える  <b>復習</b>：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第13回】  <b>授業</b>：ソーシャルスキルを磨く③ 自分の意見を言う（アサーション）、Iメッセージ、DESC法（ペアワーク）  <b>予習</b>：断るのが上手な人の特徴を考える  <b>復習</b>：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第14回】  <b>授業</b>：身に着けたコミュニケーションスキルを実践する、コンセンサス法（グループワーク）  <b>予習</b>：これまでの授業内容を振り返り自分の得意な・苦手なコミュニケーションを知る  <b>復習</b>：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第15回】  <b>授業</b>：対人ストレスとうまく付き合う、ポジティブリフレーミング（グループワーク）  <b>予習</b>：人付き合いでストレスが溜まるのはどのような時か考える  <b>復習</b>：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p>
---

授業開始前学習	対人心理学，社会心理学に関する書籍を読むことが授業理解の一助となる。								
授業内課題の フィードバックの方法	授業課題は目を通したうえで、翌週以降に返却する。 Google フォームなどで質問を受け付けた場合には、翌週授業内で回答する。								
テキスト・教材	特に定めない。								
参考書	授業内で適宜紹介する。								
評価の基準と方法	授業への取り組み 60%、学期末試験 40%として評価を行う。								
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	○	△	◎		○				
関連科目	心理学に関連する諸科目								
その他	知的好奇心をもち、積極的に授業参加することを望む。 グループワークの時間を設ける回が複数あるため、協力し合う姿勢をもち、自分から相手へ話しかけることを心がけてほしい。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	コミュニケーションの社会学		
科目分類	112-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Sociology of Communication	授業区分	講義
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	私たちは、たえず誰かと繋がり、一日中、コミュニケーションをやめることはない。そして現在、社会のいたるところで「コミュニケーション能力」の必要性が唱えられている。ではそもそも「コミュニケーション」とは何か。この社会はいかにして「コミュニケーション」を重視することになったのか。本講義ではこれらの問いを社会的に考察するために、コミュニケーションに関する社会学理論の基礎を学ぶ。		
到達目標	到達目標は、コミュニケーションを捉えるための相対的な視座を獲得し、必要な社会学理論を理解することである。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：シラバスおよび教科書目次に目を通す 授業：諸注意事項：授業目的・授業内容の確認、授業の進め方等 復習：「コミュニケーション能力」について考える</p> <p>第2回 予習：教科書 pp.3-11 の講読 授業：コミュニケーションと社会学①：なぜ「社会学」にとって「コミュニケーション」論は重要か【教科書 pp.3-11】 復習：3人の学者のコミュニケーションへのアプローチの相違を確認する</p> <p>第3回 予習：教科書 pp.11-16 の講読 授業：コミュニケーションと社会学②：なぜ「コミュニケーション」論にとって「社会学」は重要か【教科書 pp.11-16】 復習：記号論と社会的コミュニケーションの相違を確認する</p> <p>第4回 予習：教科書 pp.16-21 の講読 授業：コミュニケーションと社会学③：現代のコミュニケーションはどうなっているか【教科書 pp.16-21】 復習：マス・コミュニケーション論の主要概念を確認する</p> <p>第5回 予習：教科書 pp.24-26 の講読 授業：「やさしさコミュニケーション」（奥村）とは【教科書 pp.24-26】 復習：「やさしさコミュニケーション」の事例を考える</p> <p>第6回 予習：教科書 pp.26-28 の講読 授業：ハーバーマス①：コミュニケーションと権力【教科書 pp.26-28】 復習：権力とコミュニケーションの違いを考える</p> <p>第7回 予習：教科書 pp.28-32 の講読 授業：ハーバーマス②：生活世界とシステム【教科書 pp.28-32】 復習：生活世界の植民地化の事例を考える</p> <p>第8回 予習：教科書 pp.32-37 の講読 授業：ジンメルとハーバーマスの相互作用論【教科書 pp.32-37】 復習：ジンメルとハーバーマスとの違いを確認する</p> <p>第9回 予習：教科書 pp.37-39 の講読 授業：ゴッマンの相互行為論①：儀礼と演技【教科書 pp.37-39】 復習：儀礼と演技の機能を確認する</p>			

<p>第 10 回            予習：教科書 pp.39-42 の講読            授業：ゴッマンの相互行為論②：自己と役割【教科書 pp.39-42】            復習：自分自身の役割について考える</p> <p>第 11 回            予習：教科書 pp.46-49 の講読            授業：ミードの自己論①：自己とは【教科書 pp.46-49】            復習：自己意識の発生について確認する</p> <p>第 12 回            予習：教科書 49-52 の講読            授業：ミードの自己論②：I と me【教科書 49-52】            復習：自分自身を振り返り、I と me の事例を考える</p> <p>第 13 回            予習：教科書 pp.52-57 の講読            授業：ベイトソンのダブルバインド論【教科書 pp.52-57】            復習：非対称なコミュニケーションの可能性を考える</p> <p>第 14 回            予習：教科書 pp.58-65 の講読            授業：ルーマンのコミュニケーション論【教科書 pp.58-65】            復習：接続としてのコミュニケーションにおける不安を考える</p> <p>第 15 回            予習：6 人の学者の理論を復習する            授業：これまでの総括            復習：課題レポートを作成する</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	課題は Google フォームで課し、翌回の授業で、課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材	長谷正人・奥村隆編，2009，『コミュニケーションの社会学』有斐閣。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法	授業への積極的参加（授業内課題を含む、60%）＋最終課題レポート（40%） ※単位の修得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 ※詳細については、初回授業で説明する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎		○	△		
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は、社会学の基礎を学ぶ科目である。							
その他	・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者数や講義の進捗状況、社会情勢等の都合から変更する場合もある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	現代社会の論点		
科目分類	112-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Issues in Contemporary Society	授業区分	講義
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	若者世代をとりまく社会環境について近年の論評やメディア情報をいくつか取り上げ、論点や問題提起を整理しながら解説するとともに、受講者間で議論・検討を行います。皆さん自身が日常生活のなかで身近に接している経験や社会的現象を手がかりに、そこから、「社会について考察する」という学術的思考へと展開する方法を実践的に習得してもらうことを目指します。		
到達目標	読むこと（精確な理解） 考えること（理論的思考・ロジカルシンキング） 話すこと（対話的コミュニケーション） の3つのスキルを高めることが具体的な学修目標です。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンスとイントロダクション（ディスカッション） 復習：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。</p> <p>【第2回】 予習：【第1回】の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業：論理トレーニング 復習：授業で紹介する例題問題に取り組んでください。</p> <p>【第3回】 予習：「公共性」の概念についてリサーチしてください。 授業：規範・道徳・公共性（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第4回】 予習：いくつかの高校の校則の事例について情報収集してください。 授業：教育 1 ——校則と自由（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第5回】 予習：『下流志向』（内田樹、2007）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください（インターネット等で（以下同様））。 授業：教育 2 ——学びからの逃走（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第6回】 予習：『コミュニケーション不全症候群』（中島梓、1995）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：「仲間以外はみな風景」（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第7回】 予習：『友だち地獄』（土井隆義、2008）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：窒息する友人関係（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第8回】 予習：『オレ様化する子どもたち』（諏訪哲二、2005）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：自分らしさと個性（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第9回】 予習：「自由」とは何か、その概念にはどのようなバリエーションがあるかについてリサーチしてください。 授業：社会への帰属と自由（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p>			

<p>【第 10 回】            予習：幸福の条件について自己イメージをまとめてください。            授業：幸福について 1 —— 選択と幸福（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 11 回】            予習：「幸福」とは何か、その概念にはどのようなバリエーションがあるかについてリサーチしてください。            授業：幸福について 2 —— 自由と幸福（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 12 回】            予習：就職活動に求められる準備検討作業についてリサーチしてください。            授業：キャリア形成とグローバリズム（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 13 回】            予習：日本の生活保護の仕組みについてリサーチしてください。            授業：社会保障とコスト（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 14 回】            予習：晩婚化・未婚化現象についてリサーチしてください。            授業：家族機能の変容（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 15 回】            予習：全回の内容を総復習し、不明点・疑問点を整理してください。            授業：総括討論（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p>								
授業開始前学習	まさに皆さん自身の日頃の生活体験と問題関心が事前学習の起点となります。視野を広げ、社会問題や若者文化に関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。							
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。							
テキスト・教材	とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。							
参考書	授業を通じて随時、指示します。							
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性）（60 %）、期末レポート（40 %）により評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○		◎		△
関連科目	「社会学ⅠⅡ」で紹介される概念や視座は内容理解に役立つと思います。							
その他	毎回、授業の後半に意見交換・ディスカッションの時間を設ける予定です。積極的な参加と発言を期待します。受講者諸姉の生活実感や柔軟な発想から、私自身も大いに学びたいと考えています。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	☆国際社会の論点／国際社会への誘い		
科目分類	112-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Issues in International Society／Invitation to the International Society	授業区分	講義
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	<p>テーマ：21世紀の安全保障を担う機構・国家について考える。          内容：冷戦後の世界情勢を概観し、国際安全保障を担う国家、国際機構を分析する。          とくに、国際連合（UN）北大西洋条約機構（NATO）、欧州連合（EU）が担う国際安全保障について考える          国際安全保障における日本の責任について考える。</p>		
到達目標	<p>冷戦後の世界の主な動きを理解する。          国際安全保障を担う国際機関について理解する。          伝統的安全保障・人間の安全保障など安全保障の概念を理解する。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】          予習 シラバスを読む          授業 イントロダクション 国際安全保障を保証する          復習 授業内容についてまとめる</p> <p>【第2回】          予習 冷戦について確認          授業 冷戦・冷戦後の世界を知る          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第3回】          予習 湾岸戦争について確認          授業 湾岸戦争を知る          復習 授業の内容をまとめる</p> <p>【第4回】          予習 国連システムとPKOについて確認          授業 国連と国際安全保障 国連PKOの変容          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第5回】          予習 9.11米国同時多発テロ事件について確認          授業 テロとの戦い（1）          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第6回】          予習 ISについて確認          授業 テロとの戦い（2）          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第7回】          予習 ロシアとウクライナについて確認          授業 ロシアによるウクライナ侵攻のインパクト          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第8回】          予習 オバマ大統領 プラハ演説について確認          授業 核無き世界は幻想か（1）          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第9回】          予習 NPTについて確認          授業 核無き世界は幻想か（2）          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第10回】          予習 日本の核政策について確認          授業 核なき世界は幻想か（3）          復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第11回】          予習 日本の平和安全保障関連法案について確認          授業 国際安全保障と日本          復習 授業内容をまとめる</p>			



<p>【第 12 回】  予習 人間の安全保障について調べる  授業 伝統的安全保障と人間の安全保障  復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第 13 回】  予習 SDGs について確認  授業 SDGs を考える  復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第 14 回】  予習 身近な環境問題を確認  授業 地球温暖化と安全保障  復習 授業内容をまとめる</p> <p>【第 15 回】  予習 これまでの授業内容の確認  授業 これからの国際安全保障  復習 改めて国際安全保障を考える</p>								
授業開始前学習	新聞の国際面を読むことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	適宜 リアクションペーパーを使用							
テキスト・教材	毎回、レジュメを配布する。							
参考書	適宜 指示する。							
評価の基準と方法	出席と平常点が十分揃った上で、試験の点数が主な評価基準になる。 試験で 60 点に達しない場合、不正が発覚した場合も、単位取得は不可能である。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			
関連科目	戦争と平和の歴史 I II							
その他	この授業はモンゴルの協定大学に提供される場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	企画と表現		
科目分類	112-310-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Planning and Expression	授業区分	講義
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【私の日常を編集する】 ウェブを使って誰もが情報を発信できる現代では、歴史のなかで形づくられてきた編集の概念が変化しつつある。イベントやプロジェクトを編集したり、自分の日常を編集したりするなど、広範囲に展開するようになった編集の未来を考える。		
到達目標	社会に出ると、自分なりの解き方で答えを導き、誰にでも理解できる言葉で、論理的に説明することが求められる。個人やグループで、商品、イベント、プロジェクトなどの企画と発表を行い、「考え抜く力」を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：「未来」について調べる  授業：企画と表現「みなさんは、どんな未来を生きるのか」  復習：プロジェクトの例から1つを選んでレポートにまとめる</p> <p>【第2回】  予習：「企画」について調べる  授業：企画と表現「企画をたて、人をあつめ、ものをつくる」  復習：プロジェクトの例から1つを選んでレポートにまとめる</p> <p>【第3回】  予習：「自分の日常」を記録する  授業：プロジェクト「私の日常／アイデア」1  復習：アイデアを文章にする</p> <p>【第4回】  予習：アイデアを視覚化する  授業：プロジェクト「私の日常／アイデア」2  復習：アイデアをデータ化する</p> <p>【第5回】  予習：企画書にまとめる  授業：プロジェクト「私の日常／企画書」  復習：企画書を仕上げる</p> <p>【第6回】  予習：発表の準備をする  授業：発表と質疑応答（発表）  復習：意見を参考に企画書を仕上げ、提出する</p> <p>【第7回】  予習：「ベストセラー商品」を具体的に調べる  授業：商品、イベント「2023年夏発売／アイデア」1  復習：アイデアを文章にする</p> <p>【第8回】  予習：アイデアを視覚化する  授業：商品、イベント「2023年夏発売／アイデア」2  復習：アイデアをデータ化する</p> <p>【第9回】  予習：企画書にまとめる  授業：商品、イベント「2023年夏発売／企画書」  復習：企画書を仕上げる</p> <p>【第10回】  予習：発表の準備をする  授業：発表と質疑応答（発表）  復習：意見を参考に企画書を仕上げ、提出する</p> <p>【第11回】  予習：「未来の“なにか”」について具体的に調べる  授業：商品、イベント「10年後の未来／アイデア」1  復習：アイデアを文章にする</p> <p>【第12回】  予習：アイデアを視覚化する  授業：商品、イベント「10年後の未来／アイデア」2  復習：アイデアをデータ化する</p>			

<p>【第13回】          予習：企画書にまとめる          授業：商品、イベント「10年後の未来／企画書」          復習：企画書を仕上げる</p> <p>【第14回】          予習：発表の準備をする          授業：発表と質疑応答（発表）          復習：意見を参考に企画書を仕上げ、提出する</p> <p>【第15回】          予習：自分の将来を考える          授業：プロジェクト「私の予定表」          復習：「私の予定表」を仕上げ、提出する</p>								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	出席確認で個別に回答し、発表で総括する。							
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。							
参考書	授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	△		○	◎
関連科目	後期の「表現活動とビジネス」を学ぶことで、「考え抜く力、チームで働く力」がバランスよく身につく。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版」で“教育する”という取り組みを実践している。							

科目名称	身体文化論 I		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Body Theory I	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>この授業では、化粧のおもな目的である外見の価値について徹底的に「哲学対話」を実施する。知識や答えのある問題の解決法を「伝授」する授業ではない。そもそも問題を見つけることから始めて、問い続け、考え続けることの連続で、結論を出すことは敢えてしない。AI と共存する時代は、知識獲得や速く正解に速くたどり着くことは AI の仕事で、人間は AI が不得手なこと、すなわち問題を発見する力、考え続ける力、考えを洗練させる力がないと生き残れないからである。</p> <p>① 日常にありふれている当たり前前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。</p> <p>② 発見した問題を言語化する。</p> <p>③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。</p> <p>これら 3 つの作業を 15 回続ける覚悟がある学生には向いているが、結論を性急に求めて教員の解釈を早く聞きたい、教員から毎回新たなノウハウを伝授してほしいという学生は期待を裏切られる。</p>		
到達目標	<p>① 日常にありふれている当たり前前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。</p> <p>② 発見した問題を言語化する。</p> <p>③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】            予習：西洋哲学の歴史を高校倫理の教科書や参考書で復習したり、書物から概要を掴む            授業：授業の進め方と心構え、哲学の流れと理論についての説明            復習：授業で聞いた教科書ページとノートの再読</p> <p>【第 2 回】            予習：西洋哲学の歴史の中から自分に合っていると思われる理論を選んでそれを使って毎日の出来事を分析する            授業：私たちはどのように人を把握するのか            復習：授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める</p> <p>【第 3 回】            予習：前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める            授業：服装・髪型・化粧の意味について考える            復習：授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める</p> <p>【第 4 回】            予習：前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める            授業：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(1) 各自の考えを基にした全員での考察            復習：授業で聞いたさまざまな発言を思い出し、それらを予習で選んだ哲学理論を使って分析してみる</p> <p>【第 5 回】            予習：前回の授業で他の履修者の発言を聞いて自分が考えたことを思い出して記すことで授業を受けるためのメモを作る            授業：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(2) 背景の深堀を全員で実施            復習：授業中に出された課題を行いながら「なぜ」を考え続け、気づいたことがあればメモしておく</p> <p>【第 6 回】            予習：前回の授業課題を実施して自分が考えたことを見直し、社会背景からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく            授業：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(3) 前回の課題となった社会の時代的背景を発表し、それに基づく全員での考察            復習：現在の社会の特質と現在の美容を結び付けて考え、気づいたことがあればメモしておく</p> <p>【第 7 回】            予習：人の社会的立場づけと人の外見との関わりについて、これまで自分が見聞きしてきたことを思い出してメモしておく            授業：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(4) 人の社会的立場づけと人の外見との関わりについて全員で考察            復習：授業で出された課題を実施し自分が考えたことを見直し、女性の社会的状況からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく</p> <p>【第 8 回】            予習：近代社会（その延長の現代社会も含む）にはどのような社会的原理が働いているのか、近代人や現代人は社会から何が求められているのかを考え、調べ、メモしておく            授業：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(5) 近代原理が求める人間とはどのようなものか、そこに問題はないかについて全員で考える            復習：授業を通じて気づいた近現代社会の問題点を洗い出してメモしておく</p> <p>【第 9 回】            予習：前回の授業で気づいた問題点はないか、あるならどのような解決策か、これらについて考えて、結果だけでなく考える過程もメモしておく            授業：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(6) 近代原理が求める人間像の由来と問題点の解説            復習：授業聞いて気付いたこと・発見したことの視点から日常生活を送り、気付いたことをメモしておく</p> <p>【第 10 回】            予習：日常生活の中で近代原理に由来するものを洗い出す            授業：いま世界を席卷しつつある最大の美容について考える            復習：授業で考えた美容がなぜ世界を覆うようになったのかをこれまでの授業を基に考える</p>			

<p>【第 11 回】            予習 : 前回の授業の内容をしっかりと復習する            授業 : 前回の美容と近代原理の関係について考える            復習 : 近代原理に由来する美の価値を毎日の生活の中で意識する</p> <p>【第 12 回】            予習 : 前回の授業の内容をしっかりと復習する            授業 : 問題解決策としての美的価値観の提案例「スロービューティー」についての説明            復習 : 授業で聞いた解決策のほかにも解決策がないか考えて、考えた結果だけでなく過程もメモしておく</p> <p>【第 13 回】            予習 : 自分が考えた解決策を披露できるよう準備しておく            授業 : 授業で取り上げた問題のほかにも近代原理に由来する問題がほかにもないかグループワークを通じて考える            復習 : 授業で聞いた他の人の考えを振り返り、自分の考えを広め深める</p> <p>【第 14 回】            予習 : 前回の内容を復習する            授業 : どんな社会をめざせばよいかグループワークを通じて討論する            復習 : 授業で考えた社会が実現するために自分にできることを考えて実行に移す</p> <p>【第 15 回】            予習 : これまでの授業全体を振り返る            授業 : これまでの授業全体を振り返り、未来を生きるために必要なことと未来の社会のありかたについて全員で話し合っ            復習 : 授業で考えたことを反映してレポートにして提出する</p>								
授業開始前学習	①化粧品・美容の流行や傾向と、現在進行形で世の中が進んでいる方向を把握する。 ②①の背にある人々の意識や社会のあり方に関心を持ち、ニュースを解説した専門家のコメントや書物、新聞など多様な情報源から得た情報を使って自分で考える。							
授業内課題のフィードバックの方法	ほとんど毎時間、学生間で、学生と教員間で、討論をしながら授業を進める。それゆえ毎回授業の中でフィードバックが繰り返されることになる。 グループワークを実施する予定であるが、新型コロナウイルス等の感染状況によって変更の可能性はある。							
テキスト・教材	なし							
参考書	竹内一郎『人は見た目が 9 割』,新潮社,2005 年 そのほか討論の過程で必要なものがあればその都度授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提に、討論への参加度 (発表) 50%,レポート 50%。レポート提出は期日厳守で、遅れたらレポート点は 0 点になる。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			
関連科目	人間関係入門Ⅱの石田の講義部分、人間関係ゼミ a (石田ゼミ)							
その他	<p>【重要な注意事項】2022 年度までの入学者は「化粧品文化論 a」と「化粧品文化論 b」が時間割に存在する。a と b は内容がまったく異なる授業だが、どちらか一方しか履修できない。人間関係専攻の学生で専門ゼミ希望届に石田ゼミを記入する可能性がある人と、石田ゼミに所属している学生は、a の履修はやめて「化粧品文化論 b」(月曜 3 時限目)を履修する必要がある。石田ゼミの内容が「化粧の文化史」と「化粧品文化論 b」を前提にしているからだ。さらに、「化粧品文化論 b」がゼミ論研究に直結する人が例年多数であることも理由である。</p> <p>この授業は哲学対話の方法をとるので、毎時間「発言する」と「考える」のループである。発言しない人は授業に参加していないとみなす。発言しないことは授業進行の妨げになるので、発言を避けたいは履修しないでほしい。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	化粧品や美容の実態を把握し、その実態の背景を探り、なぜ人々がそうした意識を持つようになったのかについて深堀する。そこから問題点を発見し、さらに解決策を考えて、世の中にまだないような提案をする。これら一連の作業はすべて企業での実務経験を反映している。							

科目名称	身体文化論Ⅱ		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Body Theory Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>身体は、社会・文化の中で意味づけられている。それ故、身体は自分のものであるにも関わらず、自分以外のものが押しつけてくる意味とともに私たちは生きているということになる。この授業では、「身体」の意味はどのような場で生成されているのか、その仕組みはどのようなものなのか、ということ講義する。具体的には、身体を意味づけている様々な表象文化―美術作品、宣伝広告、ポップカルチャーの作品などを分析し、私たちは「身体」とどのように向き合う必要があるのか、ということを通して学ぶ予定である。なお、この授業では「身体文化」では避けて通れない性的な身体についての表象を扱う予定である。性的な情報については人によって価値観が異なり、文化現象とはいえ観たり聞いたり分析したりすることを望まない人もいられる。また、そのような情報・知識に触れることで PTSD、フラッシュバックなどが生じる可能性のある人も想定される。ご自身の価値観、健康を考えて履修をするかどうか検討をして欲しい。</p>		
到達目標	<p>①身体について分析するための概念を理解する。                  ②身体に関する文化現象について具体的な知識を得る。                  ③正しい概念理解に基づき、具体的な文化現象を分析することができる。                  ④①から③を踏まえた独自の考察を口頭及び文章で表現することができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第一回                  予習:シラバスを読み、授業内容を確認しておく。                  授業:身体の意味づけについて考えるために、ドキュメンタリ映像を視聴してコメントを書く。                  復習:授業時に視聴したドキュメンタリ作品についてコメントを考える。</p> <p>第二回                  予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PCなどで授業時に利用できるようにしておく。                  授業:「身体文化論」についての枠組の講義                  復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。</p> <p>第三回                  予習:西洋の歴史について確認しておく。                  授業:西洋の美術における女性のイメージについて                  復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。</p> <p>第四回                  予習:西洋の美術史について学んだことを整理しておく。                  授業:西洋の美術における女性の「裸体画」について                  復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。</p> <p>第五回                  予習:自分の生活環境の中にどのようなパブリックアートがあるかを確認する。                  授業:パブリックアートにおける女性の「裸体」あるいはイメージについて                  復習:自分の生活環境の中にどれほど多くの女性裸体彫刻があるかを確認する。</p> <p>第六回                  予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PCなどで授業時に利用できるようにしておく。                  授業:身体をめぐる文化現象を分析するための知識① フェミニズムとは何か？                  復習:これまでに課題されている課題について確認しておく。</p> <p>第七回                  予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PCなどで授業時に利用できるようにしておく。                  授業:身体をめぐる文化現象を分析するための知識② ジェンダー概念とは何か？                  復習:ジェンダー概念を正しく理解できているか再確認しておく。</p> <p>第八回                  予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PCなどで授業時に利用できるようにしておく。                  授業:フェミニズムが批判してきた女性のイメージ①性的対象としての女性                  復習:授業で説明した内容をまとめておく。</p> <p>第九回                  予習:性別役割分業について調べておく。                  授業:フェミニズムが批判してきた女性のイメージ②母性と性別役割分業                  復習:母性の意味について再考する。</p> <p>第十回                  予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PCなどで授業時に利用できるようにしておく。                  授業:現代社会における「女性の身体イメージ」が引き起こす問題について① 女性の身体管理 少子化をめぐる問題                  復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。</p>			



<p>第十一回  予習:女性の身体に関する身近な広告事例を集めておく。  授業:現代社会における「女性の身体イメージ」が引き起こす問題について② 女性の広告メディアの炎上について  復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。</p> <p>第十二回  予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。  授業:「美しさ」と身体の問題  復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。</p> <p>第十三回  予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。  授業:ポルノグラフィーと女性の身体 性的身体再考  復習:これまでの課題について見直しをして、これまでの課題提出を完了しておく。</p> <p>第十四回  予習:これまでの授業ノートなどをプリントアウトし、内容をよく読んでおく。  授業:身体文化論に関する実践的課題① これまでの授業内容理解度確認をテスト形式で行う。ノート持ち込み可。ただしプリントアウトした物のみ。  復習:質問事項などを自己採点し理解度をチェックする。</p> <p>第十五回  予習:ノートなどを読み返し、テストで分からなかったところを再確認しておく。  授業:身体文化に関する実践的課題② 第十四回の成果を踏まえて、追加講義と課題作成を行う。  復習:全授業をふり返し、未提出の課題がないか確認し不備がないようにしておく。</p>								
授業開始前学習	課題提出などで、GWE(Google Workspace for Education)など PC 操作を必要とするシステムを使用予定である。パソコンの基本的な知識 (Web の閲覧、メールの送受信、ファイルの種類についての知識など) を学んでおいて欲しい。							
授業内課題のフィードバックの方法	GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom で提出された課題については、授業期間終了時まで採点返却をする。							
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。							
参考書	『ヌードと愛国』池川玲子 講談社新書 2014 『禁断の果実 女性の身体と性のタブー』リーヴ ストロームクヴィスト 相川 千尋 訳 花伝社 2018							
評価の基準と方法	GWE(Google Workspace for Education)GoogleClassroom において、課題を出題。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。 出欠に関しては、15 回出席することが前提条件である。公欠の場合は出席に関する減点はないが、欠席日に出席されている課題は必ず提出すること。 複数回にわたる欠席に関しては、エクストラレポートの提出で代替可能である							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	化粧文化論		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Beauty Culture Studies	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>この授業では、化粧のおもな目的である外見の価値について徹底的に「哲学対話」を実施する。知識や答えのある問題の解決法を「伝授」する授業ではない。そもそも問題を見つけることから始めて、問い続け、考え続けることの連続で、結論を出すことは取立てしない。AI と共存する時代は、知識獲得や速く正解に速くたどり着くことは AI の仕事で、人間は AI が不得手なこと、すなわち問題を発見する力、考え続ける力、考えを洗練させる力がないと生き残れないからである。</p> <p>① 日常にありふれている当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。</p> <p>② 発見した問題を言語化する。</p> <p>③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。</p> <p>これら3つの作業を15回続ける覚悟がある学生には向いているが、結論を性急に求めて教員の解釈を早く聞きたい、教員から毎回新たなノウハウを伝授してほしいという学生は期待を裏切られる。</p>		
到達目標	<p>① 日常にありふれている当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。</p> <p>② 発見した問題を言語化する。</p> <p>③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：西洋哲学の歴史を高校倫理の教科書や参考書で復習したり、書物から概要を掴む  授業：授業の進め方と心構え、哲学の流れと理論についての説明  復習：授業で聞いた教科書ページとノートの再読</p> <p>【第2回】  予習：西洋哲学の歴史の中から自分に合っていると思われる理論を選んでそれを使って毎日の出来事を分析する  授業：私たちはどのように人を把握するのか  復習：授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める</p> <p>【第3回】  予習：前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める  授業：服装・髪型・化粧の意味について考える  復習：授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める</p> <p>【第4回】  予習：前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める  授業：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(1) 各自の考えを基にした全員での考察  復習：授業で聞いたさまざまな発言を思い出し、それらを予習で選んだ哲学理論を使って分析してみる</p> <p>【第5回】  予習：前回の授業で他の履修者の発言を聞いて自分が考えたことを思い出して記すことで授業を受けるためのメモを作る  授業：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(2) 背景の深堀を全員で実施  復習：授業中に出された課題を行いながら「なぜ」を考え続け、気づいたことがあればメモしておく</p> <p>【第6回】  予習：前回の授業課題を実施して自分が考えたことを見直して、社会背景からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく  授業：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(3) 前回の課題となった社会の時代的背景を発表し、それに基づく全員での考察  復習：現在の社会の特質と現在の美容を結び付けて考え、気づいたことがあればメモしておく</p> <p>【第7回】  予習：人の社会的立場づけと人の外見との関わりについて、これまで自分が見聞きしてきたことを思い出してメモしておく  授業：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(4) 人の社会的立場づけと人の外見との関わりについて全員で考察  復習：授業で出された課題を実施し自分が考えたことを見直して、女性の社会的状況からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく</p> <p>【第8回】  予習：近代社会（その延長の現代社会も含む）にはどのような社会的原理が働いているのか、近代人や現代人は社会から何が求められているのかを考え、調べ、メモしておく  授業：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(5) 近代原理が求める人間とはどのようなものか、そこに問題はないかについて全員で考える  復習：授業を通じて気づいた近現代社会の問題点を洗い出してメモしておく</p> <p>【第9回】  予習：前回の授業で気づいた問題点はないか、あるならどのような解決策か、これらについて考えて、結果だけでなく考える過程もメモしておく  授業：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(6) 近代原理が求める人間像の由来と問題点の解説  復習：授業聞いて気付いたこと・発見したこと視点から日常生活を送り、気付いたことをメモしておく</p> <p>【第10回】  予習：日常生活の中で近代原理に由来するものを洗い出す  授業：いま世界を席巻しつつある最大の美容について考える  復習：授業で考えた美容がなぜ世界を覆うようになったのかをこれまでの授業を基に考える</p>			

<p>【第 11 回】            予習 : 前回の授業の内容をしっかり復習する            授業 : 前回の美容と近代原理の関係について考える            復習 : 近代原理に由来する美の価値を毎日の生活の中で意識する</p> <p>【第 12 回】            予習 : 前回の授業の内容をしっかり復習する            授業 : 問題解決策としての美的価値観の提案例「スロービューティー」についての説明            復習 : 授業で聞いた解決策のほかにも解決策がないか考えて、考えた結果だけでなく過程もメモしておく</p> <p>【第 13 回】            予習 : 自分が考えた解決策を披露できるよう準備しておく            授業 : 授業で取り上げた問題のほかにも近代原理に由来する問題がほかにもないかグループワークを通じて考える            復習 : 授業で聞いた他の人の考えを振り返り、自分の考えを広め深める</p> <p>【第 14 回】            予習 : 前回の内容を復習する            授業 : どんな社会をめざせばよいかグループワークを通じて討論する            復習 : 授業で考えた社会が実現するために自分にできることを考えて実行に移す</p> <p>【第 15 回】            予習 : これまでの授業全体を振り返る            授業 : これまでの授業全体を振り返り、未来を生きるために必要なことと未来の社会のありかたについて全員で話し合っ            復習 : 授業で考えたことを反映してレポートにして提出する</p>								
授業開始前学習	①化粧・美容の流行や傾向と、現在進行形で世の中が進んでいる方向を把握する。 ②①の背にある人々の意識や社会のありように関心を持ち、ニュースを解説した専門家のコメントや書物、新聞など多様な情報源から得た情報を使って自分で考える。							
授業内課題のフィードバックの方法	ほとんど毎時間、学生間で、学生と教員間で、討論をしながら授業を進める。それゆえ毎回授業の中でフィードバックが繰り返されることになる。 グループワークを実施する予定であるが、新型コロナウイルス等の感染状況によって変更の可能性はある。							
テキスト・教材	なし							
参考書	竹内一郎『人は見た目が 9 割』,新潮社,2005 年 そのほか討論の過程で必要なものがあればその都度授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提に、討論への参加度（発表）50%,レポート 50%。レポート提出は期日厳守で、遅れたらレポート点は 0 点になる。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			
関連科目	人間関係入門Ⅱの石田の講義部分、人間関係ゼミ a（石田ゼミ）							
その他	<p>【重要な注意事項】2022 年度までの入学者は「化粧文化論 a」と「化粧文化論 b」が時間割に存在する。a と b は内容がまったく異なる授業だが、どちらか一方しか履修できない。人間関係専攻の学生で専門ゼミ希望届に石田ゼミを記入する可能性がある人と、石田ゼミに所属している学生は、a の履修はやめて「化粧文化論 b」（月曜 3 時限目）を履修する必要がある。石田ゼミの内容が「化粧の文化史」と「化粧文化論 b」を前提にしているからだ。さらに、「化粧文化論 b」がゼミ論研究に直結する人が列年多数であることも理由である。</p> <p>この授業は哲学対話の方法をとるので、毎時間「発言する」と「考える」のループである。発言しない人は授業に参加していないとみなし、単位取得の条件を満たさないものとする。また、発言しないことは授業進行の妨げになるので、授業中皆の前で発言することは避けたいという学生は履修にまったく向かない。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧や美容の実態を把握することが第一歩であり、そこを入口にして実態の背景を探り、なぜ人々がそうした意識を持つようになったのかについて深堀する。そこから問題点を発見し、さらに解決策を考えて、世の中にまだないような提案に結びつける。これら一連の作業はすべて企業での実務経験を反映している。							

科目名称	化粧文化論		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Beauty Culture Studies	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>人類は原始時代から化粧をし続けている。人はなぜ化粧をするのか。特定の時代や地域の化粧はなぜそのような形になったのか。各化粧の背景にある美意識はどのようにして出来上がったのか。今現在自分が行っている化粧はなぜその形なのか。自分の美意識はどこから来たのか。これらを考えることがこの授業の目的である。</p> <p>始めに、考える前提になる知識として、特定の時代と地域の化粧を学習する。その後で、なぜそうした美意識が生まれたのか、なぜそうした化粧になったのかを考える課題に取り組む。単純に知識伝授型の授業ではないので、誤解のないよう留意してほしい。</p> <p>課題は、課題の出た回の授業だけでなく、それまでの授業全体を大きな視野でとらえる必要があり、多くが授業や教材やインターネット等を調べるだけで解答の出るものではない。自身のさまざまな知識や能力を駆使して考えを深める性質の課題である。AIが不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うことを目的とした課題である。</p> <p>なお、この科目は、歴史上の時間が前期の「化粧の文化史」に続く通史上の後半部分である。</p>		
到達目標	<p>①化粧の変遷と美意識の変遷について大きな流れを把握する。</p> <p>②歴史上の事柄といま自分が生きている社会を関連付けてとらえることで、自分がどのような美意識にとらわれ、どのような化粧行動をしているかを自覚し、問題を発見する。</p> <p>③節目節目で課題を出す。それは教科書やノートを復習すれば答えが見つかる、調べればすぐに答えが見つかるかなものはない。AIと共存する時代を生き抜くために、AIが不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うような課題である。それゆえ、複数回の授業、他の科目、さらには自分で調べて得た情報などを総動員して、大きな視野で物事をとらえるような課題である。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：中学・高校の日本史全体の流れ  授業：授業内容についての説明・履修上の諸注意（教科書頁 1～2,17～19,85～87）  復習：教科書頁 1～2,17～19,85～87 の再読</p> <p>【第2回】  予習：中学・高校の日本史（戦国時代）の確認  授業：戦国時代の武士の化粧（教科書頁 55～58,88～89）  復習：教科書頁 55～58,88～89 の再読</p> <p>【第3回】  予習：中学・高校の日本史（桃山時代～江戸時代初期）の確認  授業：桃山時代・江戸時代初期の化粧（教科書頁 19～21,58～59,90～92）  復習：教科書頁 19～21,58～59,90～92 の再読</p> <p>【第4回】  予習：中学・高校の日本史（江戸時代中期）の確認  授業：江戸時代中期の化粧（教科書頁 60～62,93～97）  復習：教科書頁 60～62,93～97 の再読</p> <p>【第5回】  予習：中学・高校の日本史（江戸時代中期）の確認  授業：江戸時代中期の化粧（教科書頁 60～62,93～97）  復習：教科書頁 60～62,93～97 の再読</p> <p>【第6回】  予習：中学・高校の日本史（江戸時代後期～幕末）の確認  授業：江戸時代後期～幕末の化粧（教科書頁 43～45,50～53,98～101）  復習：教科書頁 43～45,50～53,98～101 の復習</p> <p>【第7回】  予習：中学・高校の日本史（明治維新）の確認  授業：明治時代の化粧（教科書頁 62～65,102～109）  復習：教科書頁 62～65,102～109 の再読</p> <p>【第8回】  予習：中学・高校の日本史（明治時代）の確認  授業：明治時代の化粧（教科書頁 102～109）  復習：教科書頁 102～109 の再読</p> <p>【第9回】  予習：中学・高校の日本史（大正時代～太平洋戦争直前）の確認  授業：大正～昭和初期の化粧（教科書頁 26～28,65～66,110～113）  復習：教科書頁 26～28,65～66,110～113 の再読</p>			

<p>【第10回】          予習：中学・高校の日本史（太平洋戦争）の確認          授業：太平洋戦争時の化粧（教科書頁 10～15,114～116），外見操作の問題点          復習：教科書頁 10～15,114～116 の再読,現在の社会での組織による個人の外見への介入例を考える</p> <p>【第11回】          予習：中学・高校の日本史（1945～60年）の確認          授業：戦後復興期と1950年代の化粧（教科書頁 117～121）          復習：教科書頁 117～121 の再読</p> <p>【第12回】          予習：中学・高校の日本史（1961～72年）の確認          授業：1960年代の化粧（教科書頁 122～123）          復習：教科書頁 122～123 の再読</p> <p>【第13回】          予習：中学・高校の日本史（1973～79年）の確認          授業：1970年代の化粧（教科書頁 124～136）          復習：教科書頁 124～136 の再読</p> <p>【第14回】          予習：中学・高校の日本史（1980年以降）の確認          授業：1980～90年代と現在までの化粧（教科書頁 127～134）          復習：教科書頁 127～134 の再読</p> <p>【第15回】          予習：現代社会での美意識と化粧の意味と、自分自身の美意識と化粧の意味を考える          授業：化粧の未来と美意識の今後のあるべき姿（教科書頁 69～80,135～139）          復習：教科書頁 69～80,135～139 の再読,自分の美意識を反省し、今後どのような化粧生活をするか考える</p>								
授業開始前学習	中学校程度の歴史（日本と世界）の復習							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で出た課題については次回以降の授業の中で解説する。							
テキスト・教材	石田かおり『化粧文化論』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	久下司『化粧』法政大学出版局，廣澤榮『黒髪と化粧の昭和史』岩波書店，資生堂ビューティーサイエンス研究所『化粧心理学』プレグランスジャーナル社，モリス・石田『裸のサル』は化粧好き』求龍堂							
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の3分の2以上を前提とし、GWEを用いた課題の合計点が100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価をする。各課題の配点は授業の中で案内する。なお課題は、特別な事情がない限り提出期限を守らない場合は0点とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			
関連科目	【重要】人間関係ゼミa（石田ゼミ）希望者はゼミの内容上前提になる科目で、それゆえ2年次に履修しておく必要がある。 ●前期の「化粧の文化史」の続きの内容である。 ●そのほかに内容が密接な科目は、人間関係ゼミa,和装の文化論Ⅰ・Ⅱ,服装の美意識Ⅰ・Ⅱ,ビューティービジネス論							
その他	【重要な注意点】第4希望まで記入する専門ゼミ希望届に石田ゼミを記入する可能性がある人は、石田ゼミの前提になる内容のため、必ず履修する必要がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	化粧品企業と美容関係の社団法人の研究開発・広報活動・人材育成などの経験もいかした研究内容を基に授業を実施。							

科目名称	☆服装と文化 I / 服装の美意識 I		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Clothing and Culture I / Fashion Literacy I	授業区分	講義
科目責任者	石上 美紀	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石上 美紀	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「ファッションとは何か」この問いに対する答えは決して一つではない。「人はなぜ衣服を着るのか」という原始的な問題から、現代ファッションの急激な変遷まで、「服装」をさまざまな観点から見つめることによって、それが持つ多種多様な意味について考える。		
到達目標	「ファッション」を多義的にとらえる習慣を身に付け、そのために必要な基礎知識を習得する。 現代ファッションの歴史について、時系列的に説明することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第 1 回	予習：「ファッション」の意味について考える 授業：オリエンテーション ファッションとは何か？ 復習：fashion を辞書で引き、意味を確認する		
第 2 回	予習：自分にとって衣服を着る意味とは何かを考える 授業：衣服の機能論とファッション 復習：自分にとって大切な機能は何かを確認する		
第 3 回	予習：ファッション情報の取得方法について考える 授業：ファッションとメディア 復習：新聞のファッション欄を読む		
第 4 回	予習：身近なファッションと表現について考える 授業：衣服の表現性とファッション 復習：自分にとっての表現とは何かを確認する		
第 5 回	予習：「美学」という言葉について調べてみる 授業：ファッションと美学①文学とファッション 復習：文学に描かれたファッションを探してみる		
第 6 回	予習：「アート」という言葉について調べてみる 授業：ファッションと美学②アートとファッション 復習：絵画に描かれたファッションを探してみる		
第 7 回	予習：1900～1910 年代の世界史・日本史を復習する 授業：1900～1910 年代のファッション コルセットからの解放 復習：女性のアンダーウェアの意味について確認する		
第 8 回	予習：1920 年代の世界史・日本史を復習する 授業：1920 年代のファッション 新しい女性像ギャルソンヌ アール・デコ 復習：女性の社会進出とファッションの関係について確認する		
第 9 回	予習：1930 年代の世界史・日本史を復習する 授業：1930 年代のファッション 新しい芸術とファッション シュルレアリスム 復習：アートとファッションの接近の意味を確認する		
第 10 回	予習：1940～50 年代の世界史・日本史を復習する 授業：第二次世界大戦と 1950 年代のファッション 復習：現在でも有名なデザイナー、ブランドの名前を確認してみる		
第 11 回	予習：1960 年代の世界史・日本史を復習する 授業：1960 年代のファッション 若者文化の台頭 復習：ストリートファッションの意味を確認する		
第 12 回	予習：1970 年代の世界史・日本史を復習する 授業：1970 年代のファッション プレタポルテの台頭 復習：オートクチュールとプレタポルテ、ビジネス用語の使い方を確認する		
第 13 回	予習：1980 年代の世界史・日本史を復習する 授業：1980 年代のファッション 日本人デザイナーの活躍 復習：日本人デザイナー、ブランドの名前を確認する		
第 14 回	予習：1990 年代の世界史・日本史を復習する 授業：1990 年代のファッション 新しい造形美 復習：現在に繋がる過去のファッションについて確認する		
第 15 回	予習：身の回りのファッション情報を再確認する 授業：ファッションの現在 最新情報 復習：ファッションとは何かを再考する		
授業開始前学習	図書館所蔵の「西洋服飾史」関連図書を読んでおくと、授業が理解しやすい。		



授業内課題の フィードバックの方法	全体で 4 回程度、授業の内容についての小レポートの課題提出を求める、そのフィードバックをその都度行いながら、個別の質問などにも回答する。							
テキスト・教材	パワーポイントの資料が主なテキストとなる。必要な際には適宜プリントを配布する。							
参考書	深井晃子監修『カラー版 世界服飾史』（美術出版社） 深井晃子監修『ファッション 18 世紀から現代まで』（タツシエン社）							
評価の基準と方法	小レポート 40%、最終レポート 40%、平常点（授業態度、課題提出） 20%により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目								
その他	教科書を使用しないため、パワーポイント資料が授業記録となるので、各自工夫して毎回ノートやレポートを作成すること。それらをまとめて最終レポートの作成に役立てるように準備する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆服装と文化Ⅱ／服装の美意識Ⅱ		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Clothing and CultureⅡ／Fashion LiteracyⅡ	授業区分	講義
科目責任者	石上 美紀	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石上 美紀	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	主に 19 世紀以降の西洋における服装の変遷を学びながら、衣服を着ることの意味について考える。さらに服装（服飾）の美意識が、それぞれの時代の社会構造、芸術文化の潮流といかに深く関わっているかを解説する。		
到達目標	洋服の起源となった西洋の服装が成り立つ過程を、多角的な視座を養いながら理解することができる。各時代に特徴的な服装の美意識（服飾）と社会や文化との関わりについて、具体的に説明することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第 1 回	予習：衣服、服飾、ファッションの言葉の意味について調べてみる 授業：ファッションと文化、芸術との関連性 復習：文化、芸術の言葉の意味について調べてみる		
第 2 回	予習：美術館でどのような展覧会が開催されているかを探してみる 授業：ファッションと美術館について 復習：美術館で開催された展覧会の内容を調べてみる		
第 3 回	予習：ジャポニズムという言葉について調べてみる 授業：ジャポニズムとファッション① 芸術・美術の中のジャポニズム 復習：ジャポニズム関連の展覧会情報を探してみる		
第 4 回	予習：身の回りの日本的なものを探してみる 授業：ジャポニズムとファッション② 和服（着物）について 復習：着物について知っていることを整理してみる		
第 5 回	予習：1860～70 年代の時代背景を調べてみる 授業：ジャポニズムとファッション③ 1860～1870 年代のファッション 復習：1860～1870 年代のファッションの特徴を整理する		
第 6 回	予習：1880～1890 年代の時代背景を調べてみる 授業：ジャポニズムとファッション④ 1880～1890 年代のファッション 復習：1880～1890 年代のファッションの特徴を整理する		
第 7 回	予習：1900～1910 年代の時代背景を調べてみる 授業：ジャポニズムとファッション⑤ 1900～1910 年代のファッション 復習：1900～1910 年代のファッションの特徴を整理する		
第 8 回	予習：1920 年代の時代背景について調べてみる 授業：ジャポニズムとファッション⑥ 1920 年代のファッション 復習：1920 年代のファッションの特徴を整理する		
第 9 回	予習：1930 年代の時代背景について調べてみる 授業：ジャポニズムとファッション⑦ 1930 年代のファッション 復習：1930 年代のファッションの特徴を整理する		
第 10 回	予習：1970 年代の時代背景について調べてみる 授業：ジャポニズムとファッション⑧ 1970 年代のファッション 復習：1970 年代のファッションの特徴を整理する		
第 11 回	予習：19 世紀前半の美術史について調べてみる 授業：「描かれたファッション」について① 絵画とファッション 復習：紹介した絵画について調べてみる		
第 12 回	予習：19 世紀後半の美術史について調べてみる 授業：「描かれたファッション」について② 絵画とファッション 復習：紹介した絵画について調べてみる		
第 13 回	予習：19 世紀後半の文学史について調べてみる		



<p>授業：「描かれたファッション」について③ 文学とファッション  復習：紹介した小説について調べてみる</p> <p>第14回 予習：20世紀初頭の文学史について調べてみる  授業：「描かれたファッション」について④ 文学とファッション  復習：紹介した小説について調べてみる</p> <p>第15回 予習：今までの授業内容を振り返ってみる  授業：総括 ファッションの多義性について  復習：授業で学んだファッションの多様な意味を再考し、整理する</p>								
授業開始前学習	図書館所蔵の「西洋服飾史」の関連図書を読んでおくと、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業のテーマ毎に、内容に関する小レポートの提出を求め、それに対してフィードバックを行う。また必要がある場合には、個別の質問などにもその都度回答する。							
テキスト・教材	パワーポイントの資料や動画が主なテキストとなる。必要に応じて適宜プリントを配布する。							
参考書	深井晃子監修『世界服飾史』（美術出版社） 深井晃子監修『ファッション 18世紀から現代まで』（タツエン社）							
評価の基準と方法	授業のテーマ毎に課される小レポート40%、最終レポート40%、平常点（授業態度、課題提出）20%により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目								
その他	教科書を使用しないため、パワーポイント資料が授業記録となるので、各自工夫して毎回ノートやレポートを作成すること。それらをまとめて最終レポートの作成に役立てるように準備する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	和装の文化 I		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Kimono Culture I	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	非言語コミュニケーションの中の身体によるコミュニケーション科目の1つである。 講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に着けることで、日本の身体文化の特質を知り、日本の伝統的な身体文化から現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的としている。 後期まで履修し、すべて習得すれば、「きもの文化検定」5級程度の内容である。		
到達目標	きもの（小袖）についての一通りの知識を身に着ける前半部分で、衣類の2大分類、原料、染・織の種類と産地による特色の習得が目標である。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：毎日着ている衣類はどのように作られているのか考えたり調べたりする 授業：授業の進め方の説明と履修上の注意点 衣類をどうやって入手するか 復習：講義内容の復習をし、身の回りの各種の衣類がどのように制作されているか考える			
【第2回】 予習：洋服の原料と作り方を調べる 授業：普段着ている洋服の作られ方 復習：授業を思い出しながら女性や男性のテーラードカラーのジャケットを見る			
【第3回】 予習：自分が毎日送っている生活様式について振り返る 授業：着物のイメージ 生活様式と衣服の関係性 復習：自分の生活空間に授業で聞いたものがないか調べる			
【第4回】 予習：着物の原料と作り方を調べる 授業：着物はどのように作られるか 復習：授業で聞いた話を見直して疑問が残っていないか確認する（疑問があれば次回の授業の始めに質問する）			
【第5回】 予習：着物に使われる糸は何かからできているか調べる 授業：絹糸ができるまで 復習：家の中にある絹織物を探して風合いや手触りを確認する			
【第6回】 予習：さまざまな自分の衣類の産地（国）を調べる 授業：衣服はどこで作られるのか 衣服の2大分類（教科書 p.143,146-147） 復習：海外で生産される衣類に問題点がないか調べる			
【第7回】 予習：日本の昔の衣類にはどのようなものがあつたか調べる 授業：日本服飾史 衣偏の漢字を覚えよう 復習：衣編の漢字をさらに探す			
【第8回】 予習：各種の自分の服の柄はどのように作り出されたか調べる 授業：着物に柄をつけるには 三纈 辻が花（教科書 p.172-177） 復習：自分の持っている衣類や近所に売っている衣類の中に授業で習った技法がないか調べる			
【第9回】 予習：前回の授業内容を復習する 授業：画期的な柄のつけ方 友禪（教科書 p.148-149） 復習：家にある着物や近所で販売されている着物から友禪を探す			
【第10回】 予習：友禪染の技法を復習する 授業：三大友禪の特色 型友禪 その他の染の技法 加飾（教科書 p.150-171） 復習：家にある着物や近所で販売されている着物は授業で習った友禪の中のどの種類に当たるのか実物で確認する			

<p>【第 11 回】          予習：これまで学修した文様のつけかた以外の文様のつけかたはないか考えたり調べたりする          授業：織の着物（1）紬の技法と二大紬（教科書 p.182-187）          復習：紬の技法を復習し、二大紬それぞれの特徴を覚える</p> <p>【第 12 回】          予習：前回の授業を復習し、紬の技法をしっかりと覚える          授業：織の着物（2）紬のいろいろ 木綿と紺 麻（教科書 p.188-201,284-285）          復習：産地別の紬の特色を復習する 木綿と麻の特色を復習する</p> <p>【第 13 回】          予習：前回の授業を復習し知識の定着を図る          授業：織の着物（3）麻織物各種と芭蕉布（教科書 p.202-207）          復習：家にある麻の衣類や麻製品を探して手触りや風合いを確認する</p> <p>【第 14 回】          予習：これまでの授業全体を復習する          授業：学修確認問題          復習：できなかった問題を自分で調べて正解を探す</p> <p>【第 15 回】          予習：これまでの授業全体を復習する          授業：第 14 回のフィードバック（解説）          復習：できなかった箇所を復習して知識を確実なものにする</p>								
授業開始前学習	自宅や実家にある着物の種類と着用場面を調べる。街中の着物着用者や店頭に着物、メディアの中の着物など、着物を見る経験を積む。そのときにどのような場面でどのような特徴の着物を着ているかに注意し、着物の多様性に注目する。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題を出した次以降の授業の中で解説を加えながら正解を説明し、同時にそれまでの授業の復習をする。							
テキスト・教材	『決定版きものに強くなる』世界文化社、2016 年							
参考書	全日本きもの振興会『きもの基本』アソビ婦人画報社（きもの文化検定 4・5 級公式教本）、河上繁樹・藤井健三『織りと染めの歴史—日本編』昭和堂、馬場まみ監修『着物の大研究』PHP 研究所							
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100% である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価を実施する。各課題の配点は授業の中で案内する。なお、課題は特別な事情がない限り提出期限を守らないものは 0 点とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		△	
関連科目	化粧の文化史、化粧文化論 b、身体文化実習Ⅱ、人間関係ゼミ a							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●初めて聞く専門的な用語が大量に登場するので、脱落しないためには欠席しないことが重要である。</li> <li>●この授業はすべて講義である。授業で身につけた知識を実際に使う場面に「身体文化実習Ⅱ」がある。両方履修すると、知識が生きたものになり、科目相互の理解が深まる上に、2 科目を履修することではじめて場面に相応しい着物を自分で選択し、着用し、語るようになると考えられる。</li> <li>●着付の習得を目的に履修する見当違いがたまに見られるが、すべて講義である。着付を習得したい者は「身体文化実習Ⅱ」が毎週着物を着るので最適である。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業での社員教育にも応用した内容・構成・方法を取り入れている。また、呉服販売企業が社員教育に採用しているものと同じテキストを授業に使用している。							

科目名称	和装の文化Ⅱ		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Kimono Culture Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	非言語コミュニケーションの中の身体によるコミュニケーション科目の1つである。講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に付けることで、日本の身体文化の特質を知り、日本の伝統的な身体文化から現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的としている。後期まで履修し、すべて習得すれば、「きもの文化検定」5級程度の内容である。		
到達目標	前半は、帯、草履などの和装の履物、バッグなどの和装の持ち物等の基礎知識を身につけることが目標である。後半は、前期を含めたこれまでの学修内容を総動員して、場面に応じた選択ができること、見かけたものが何であるか判別できることが目標である。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：着物にはどんな文様があるか調べてみる  授業：授業の進め方説明 着物の文様（教科書 p.56-65）  復習：家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物の文様が何か調べて授業の定着を図る</p> <p>【第2回】  予習：日本の伝統色名を調べる  授業：着物の色と日本の伝統色名（教科書 p.208-209）  復習：家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物の色名が何か調べて授業の定着を図る</p> <p>【第3回】  予習：浴衣の帯のほかどんな帯があるか調べる  授業：帯の種類（教科書 p.210-225）  復習：家にある帯や街で見かけた帯、インターネットで見た帯の種類や格が何か調べて授業の定着を図る</p> <p>【第4回】  予習：前回の授業内容を復習して帯の分類をしっかりと身につける  授業：帯の仕立てによる種類（教科書 p.32-41）  復習：第3回の帯の種類と今回の授業の内容を組み合わせると帯を総合的にとらえるようにする</p> <p>【第5回】  予習：前期に履修した染の着物と織の着物の内容を復習し、着物を見たらわかるようにする  授業：着物の種類と格（教科書 p.18-29）  復習：家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物が何で、どんな織や染で、どんな場面にふさわしいかわかるように訓練する</p> <p>【第6回】  予習：織や染で、どんな場面にふさわしいかわかるように訓練する  授業：紋と格（教科書 p.30-31） 長襦袢・半衿・伊達衿（教科書 p.240-241,228-229）  復習：自分の家や両親の家系の紋を調べて名称や由来を知る</p> <p>【第7回】  予習：着物や帯の装飾品にはどのようなものがあるか調べる  授業：帯揚げ・帯締め・帯板・帯留めとジュエリー・バッグ・履物（教科書 p.230-237）  復習：授業で学んだことを確認する</p> <p>【第8回】  予習：着物の上に着るものに何があるか調べる、伝統的な傘を調べる  授業：羽織・コート、雨雪の装い（教科書 p.54-55）  予習：街やメディアの中で見かける女性の着物の上に着用しているものや傘がわかるくらい授業内容を復習する</p> <p>【第9回】  予習：洋服の場合にどのような季節に応じた着分けがあるか調べる  授業：季節に応じた着分け（教科書 p.42-53）  復習：街やメディアの中で見かける男女の着物は季節による着分けをしているか、しているとすればどのような生地か、わかるくらい復習する</p> <p>【第10回】  予習：街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てる練習をする</p>			

<p>授業：TPOに応じた組み合わせ（教科書 p.67-111,286-287）  復習：街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てることを繰り返して、これまでの授業内容を総合的に活用できる訓練をする</p> <p>【第11回】  予習：街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てる練習をする  授業：足袋・その他の下着・肌着・着付け紐（教科書 p.238-239,248-249）  復習：授業で学んだことを家にあるもので確認する</p> <p>【第12回】  予習：家にある着物を上げてどのような構造か確認する  授業：着物の構造（教科書 p.226,246-247） 下ごしらえ（教科書 p.248-255）  復習：授業内容を家にある着物を使って確認する、特に各部の名称を実物で確認し、その後本だたみを実践して片付ける</p> <p>【第13回】  予習：街やメディアの中で見かける男性の着物と子どもの着物を観察し、それぞれ女性との違い、大人との違いに着目する  授業：子どもの着物（教科書 p.84-89） 男性の着物（教科書 p.112-117）  復習：街やメディアの中で見かける男性や子どもの着物から授業で学んだことを確認する</p> <p>【第14回】  予習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく  授業：1年間の総まとめ「きもの当てクイズ」  復習：特にできなかったところをさらい、着物の基礎知識を確実なものにしておく</p> <p>【第14回】  予習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく  授業：学修内容の確認問題と「きもの文化検定」模擬問題  復習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく</p> <p>【第15回】  予習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく  授業：前回のフィードバック（解説） たたみ方・後始末と保管（教科書 p.276-283）  復習：できなかった箇所を復習して知識を定着させる、本だたみができるよう繰り返し練習する</p>								
授業開始前学習	後期は前期の内容を習得していることが前提のため、和装の文化Ⅰの単位取得が履修登録の前提条件である「段階の科目」である。前期の授業内容をしっかり復習する必要がある。とくに授業内で実施した課題のできなかった点をよく復習することが肝要である。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出期限後の授業の中で解説を加えながら正解を説明し、復習をする。							
テキスト・教材	『決定版きものに強くなる』,世界文化社,2016年（前期と同じ教科書）							
参考書	小笠原敬承斎『図解 美しいふるまい』, 淡交社,市川春猿『女作り』,徳間書店、全日本きもの振興会『きもの基本』アシェット婦人画報社（きもの文化検定 4・5 級公式教本）, 河上繁樹・藤井健三『織りと染めの歴史—日本編』昭和堂, 馬場まみ監修『着物の大研究』PHP 研究所							
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価を実施する。各課題の配点は授業の中で案内する。なお、課題は特別な事情がない限り提出期限を守らないものは 0 点とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		△	
関連科目	身体文化実習Ⅱがとくに密接な内容である。さらに、身体文化論Ⅱ,化粧の文化史,化粧文化論 b,身体文化ゼミとも関連がある。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前期内容を習得していることが前提の内容であるため、前期の単位取得者だけが履修できる「段階の科目」である。それゆえ履修登録は前期の成績が発表されてからでないとできない。</li> <li>●授業内容の確実な定着を図るために、授業終了後に次年度の「きもの文化検定」5 級の受験を推奨する（授業での申込はしない）。</li> <li>●前期に引き続き聞いたことのない用語がたくさん登場するので、脱落しないために欠席しないよう注意する。</li> <li>●すべて講義形式で実施する。着物を着る実習を希望する者は「身体文化実習Ⅱ」が毎週着物を着るので、適した科目である。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業での社員教育にも応用した内容・構成・方法を取り入れている。また、呉服販売企業が社員教育に採用しているものと同じテキストを授業に使用している。							



科目名称	流行論		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Popular Trends Studies	授業区分	講義
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	流行は、たんに服飾品・グッズなどのモノや、ブーム、トレンドのみにとどまらず、人びとの行動様式や考え方、嗜好なども含む幅広い社会現象です。流行はまた、私たちのライフスタイルやアイデンティティ、コミュニケーション行動とも密接なつながりをもっています。その流行現象を、社会学的にはどのように解読できるでしょうか。本講では人びとの日常生活のなかにあふれる流行現象を社会学的観点から考察するとともに、流行をトピックとして、社会のなりたちを理論的に捉え返す思考力を習得してもらうことを目標とします。		
到達目標	次の2点を目標とします。 1. 流行現象のメカニズムについて理解する 2. 社会現象を理論的に解釈する思考力を身につける		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。  授業：ガイダンスとイントロダクション、流行への関心とイメージ  復習：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。</p> <p>【第2回】  予習：【第1回】の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。  授業：ファッションをめぐる神話  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第3回】  予習：「ファッション」の語義を調べてください。  授業：ファッション、トレンド、消費行動 ——ファッションの社会的機能（ディスカッション）  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第4回】  予習：「快樂消費」について調べてください。  授業：＜快樂消費＞する社会  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第5回】  予習：「準抛集団」（社会学用語）について調べてください。  授業：流行品の意味と機能  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第6回】  予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。  授業：流行の成立とその特質 1 ——発生と消滅  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第7回】  予習：「ファッド」（社会学用語）について調べてください。  授業：流行の成立とその特質 2 ——ファッド・サイクル  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第8回】  予習：「集合行動」（社会学用語）について調べてください。  授業：流行現象と集合行動（グループワーク）  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第9回】  予習：「社会的資源」（社会学用語）について調べてください。  授業：流行現象とモード ——パターン・機能・意味（課題解決型学習）  復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p>			

<p>【第 10 回】          予習 : H.ブルーナーの「シンボリック相互作用論」(社会学用語) について調べてください。          授業 : モードの集会的操作 1 ——シンボリック相互作用          復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 11 回】          予習 : 前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。          授業 : モードの集会的操作 2 ——文化的コード          復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 12 回】          予習 : 「構築主義」(社会学用語) について調べてください。          授業 : モード操作とアイデンティティ ——衣服と身体 (グループワーク)          復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 13 回】          予習 : 「業界団体」についてリサーチしてください。          授業 : 流行現象と社会変動 ——モードの社会的構築 (課題解決型学習)          復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 14 回】          予習 : 「マーケティング」についてリサーチしてください。          授業 : 広告とマーケティング          復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第 15 回】          予習 : イタリアを代表するファッション・ブランドについてリサーチしてください。          授業 : 流行現象と産業システム (ディスカッション)          復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p>
---

授業開始前学習	とくに事前学習の必要はありません。「社会学 I II」と併せて受講すると、授業内容がより理解しやすくなると思います。								
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でプライドと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。								
テキスト・教材	とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。								
参考書	土屋淳二、2009、『モードの社会学 上・下』(学文社) その他、授業内で随時、指示します。								
評価の基準と方法	平常点 (受講取組みの積極性) (60%)、期末筆記試験 (40%) により評価します。								
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	○				◎	○			
関連科目	本講は、「服装と文化 I II / 服装の美意識 I II」「セルフプロデュース」などで取り上げられる内容に対して、それらを流行現象のメカニズムという理論的視点から補足する位置づけとしても受講可能です。								
その他	双方向型の授業運営を基本形式とします。社会現象を理論的に考えることの知的面白さを伝えたいと思っています。できる限り、身の回りの具体例を示しながら、わかりやすい説明を心がけるつもりです。授業内容への質問やコメントなど積極的な参加取組みを期待します。他学類・他専攻の学生の履修も歓迎します。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)								
実務経験を活かした教育内容									



科目名称	ビューティビジネス		
科目分類	112-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Beauty Business	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 節子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 節子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ビューティビジネスは、世相を色濃く反映しながら世界の経済社会の発展と共に多岐にわたる情報を含む成長ビジネスである。時代の美を基本とした広義のビューティビジネスを概説するとともに日常生活や非日常の場面でも欠かせないヘアメイク・ファッションなどの知識を深め幅広い豊かな創造性と時代にあった美の感性を学ぶ		
到達目標	日常生活に近い広義におけるビューティビジネスに関心を持ち、時代にあった多様な美しさを探求し、個の感性で美を理解し表現する事を目指す		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：日常生活の中の美について、また時代の美について考える  授業：オリエンテーション・授業の流れ  ビューティの仕事について 人の顔立ちのタイプ・イメージについて  復習：自分の顔立ちのタイプと、自分の好きなメイクイメージについて確認する</p> <p>【第2回】  予習：ビューティのトレンドについて考える  授業：ビューティトレンドとは トrendの生まれるしくみ  ファッションショーにおけるビューティ表現  復習：自身のビューティ情報収集源(メディア媒体・SNS など)を確認する</p> <p>【第3回】  予習：自分自身の化粧について考える  授業：街頭傾向で見えてくるビューティトレンド(媒体と街中各トレンドの関連)  日本と海外の街頭化粧傾向の違いを知る  復習：街中での身近なビューティトレンドを確認する</p> <p>【第4回】  予習：自分自身の化粧アイテムへのこだわりを確認する  授業：化粧品の現トレンドを知って次のニッチを狙う商品開発について(技術展示)(プレゼンテーション)  復習：自分自身の化粧品購入動機・心理を考える</p> <p>【第5回】  予習：1950年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1950年代戦後復興期の美(課題・プレゼンテーション)  (化粧の変遷(トレンド)を知り 過去から未来を考察する)  復習：1950年代をまとめて授業内容を復習する</p> <p>【第6回】  予習：1960年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1960年代 高度経済成長期の美(課題・プレゼンテーション)  復習：1960年代をまとめて授業内容を復習する</p> <p>【第7回】  予習：1970年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1970年代 美的価値観の変化の時代から学ぶ(課題・プレゼンテーション)  復習：1970年代をまとめて授業内容を復習する</p> <p>【第8回】  予習：1980年代からのバブル期の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1980年代～1990年代初期 バブル期の美の表現に見るマインド(課題・プレゼンテーション)  復習：1980年代からのバブル期をまとめて授業内容を復習する</p> <p>【第9回】  予習：1990年代(バブル崩壊後)の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1990年代バブル崩壊後 平成不況時代の美の表現に見るマインド(課題・プレゼンテーション)  復習：1990年代バブル崩壊後をまとめて授業内容を復習する</p> <p>【第10回】  予習：2000年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 2000年代の化粧のトレンド ミレニアル以降の流れを見る(課題・プレゼンテーション)  復習：2000年代をまとめて授業内容を復習する</p> <p>【第11回】  予習：2010年代(大震災前後の変化含)の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  授業：時代のムードと化粧の関係 2010年代の化粧のトレンド 東日本大震災は化粧にどう影響したのか(課題・プレゼンテーション)  復習：2010年代をまとめて授業内容を復習する</p> <p>【第12回】</p>			

予習 : 2020 年代現在の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する  
 授業 : 時代の空気(ムード)と化粧の関係 2020 年代の化粧のトレンドを分析してみる 過去から未来を予測(課題・プレゼンテーション)  
 メイクのゴールデンバランスとは  
 復習 : 2020 年代現在までの流れを確認し、なぜ化粧は時代を反映するのか考察しまとめる  
 【第 13 回】  
 予習 : 世界のビューティに目を向け海外メイクブランドのイメージを調べ確認してみる  
 授業 : 各メイクブランドのイメージ表現を研究する(好きなブランドになぜ心惹かれるのか)(技術展示) バランシングメイクとは  
 (自分自身の化粧ブランドを企画・立案してみる(年度課題))  
 復習 : 授業内容の復習  
 【第 14 回】  
 予習 : 自分自身のライフスタイル化粧動向を振り返る  
 授業 : 毎日の化粧の意味 美意識を高め感性を磨く  
 復習 : 現代人のライフスタイルとビューティについて これからの時代にあった美の表現とは何かをまとめる  
 【第 15 回】  
 予習 : ビューティビジネスの今後を考える  
 授業 : 環境変化にともなうビューティビジネスの今後  
 復習 : 授業内容を整理する

授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業中にそれぞれの課題について説明し、個別の質問に回答する							
テキスト・教材	特になし。必要に応じて授業中に紹介する							
参考書	特になし。必要に応じて授業中に紹介する							
評価の基準と方法	授業への取り組み姿勢を 30%、課題を 70%の割合で評価する							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	化粧品企業「資生堂」でのヘアメイクアップアーティストとしての現場経験(パリコレなどのファッションショー・広告撮影などでのヘアメイク、化粧品開発及び情報研究開発・ビューティートレンド研究・マーケティング・技術教育など)をもとに構成され、実社会での実務と授業内容が関連し合っている							

科目名称	恋愛の心理学		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Love	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	恋愛は憧れの対象にもなりうるものである。しかし、その過程では幸福とは言えない感情や望んでいなかった危機を経験し、場合によっては関係崩壊を迎えたりする。本授業では、恋愛に関する実態調査の結果や心理学的研究を学ぶことで、恋愛に関する包括的な理解を深めていく。また、恋愛を通して自己や人間の真理についての考察を促し、対人関係スキルの向上および今後豊かな人生を築いていくためのヒントの獲得を目指す。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.「恋愛」「恋」「愛」とは何かについて自分なりの答えを見出す 2.他者に魅力を感じる諸要因について説明できる 3.恋愛の進展過程で生起する事象について説明できる 4.恋愛に関連して生じる困難や問題を理解し、多様な対処方法を考えられる 5.恋愛に関連する心理学的概念や心理学による実験研究の結果を説明できる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 授業：オリエンテーション、恋愛とは、多様な性 予習：「自分にとっての恋愛とは？」について考えてくる 復習：シラバスを再度読み確認する</p> <p>【第2回】 授業：好意の形成要因①、対人魅力、外見と評判の影響、自己拡張理論 予習：人が他者に好意をもつのは、どのような契機からか考えてみる 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第3回】 授業：好意の形成要因②、単純接触効果、誤帰属、心理的リアクタンس 予習：「自己呈示」とは何かについて調べる 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第4回】 授業：恋愛の進展プロセス、自己開示 予習：「ロミオとジュリエット」とはどのような話か確認する 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第5回】 授業：恋愛の色彩理論、愛情の三角理論 予習：どのような恋愛タイプの人が世の中にはいるか考える 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第6回】 授業：告白と恋愛関係の継続、相手に尽くすことと平衡理論 予習：どのような告白方法が有効だと思うか考えをまとめる 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第7回】 授業：恋人間の不和（認知的不協和理論、バランス理論）、恋愛関係の崩壊 予習：恋人同士が別れる原因にはどのようなものがあるか考える 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第8回】 授業：失恋がもたらす感情と行動、喪失体験 予習：失恋によって人はどのように変化するか考える 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第9回】 授業：青年心理学から見た恋愛、恋愛と自我形成 予習：「アイデンティティ」とは何か調べておく 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第10回】 授業：性と恋愛の原理、性的合意 予習：「性と恋愛」の関係性について自分の意見を考える 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第11回】 授業：浮気に関する心理学的研究 予習：なぜ人は浮気するのか、浮気するのはどのような人なのか考えておく 復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p>			

<p>【第12回】          授業：デートDV、恋愛依存（ディスカッション）          予習：「デートDV」とは何か調べておく          復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第13回】          授業：同性愛と異性愛の差異、同性愛者のアイデンティティ確立（ディスカッション）          予習：LGBTの定義について調べる          復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第14回】          授業：恋愛しない若者とその心理          予習：恋愛しない若者が増えているのはなぜか考える          復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第15回】          授業：改めて恋愛とは何か考える、総括、質疑応答          予習：ノートにより授業を振り返り、疑問や不明瞭な点などを書き出す          復習：これまでの授業内容を復習し、「自分にとっての恋愛とは？」について再度考える</p>								
授業開始前学習	心理学関連の科目を履修していると理解しやすい。恋愛に関する書物を読むと授業理解の助けとなるであろう。							
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーやアンケートへの回答を求めた際には、その週または翌週にフィードバックや講評をする。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	授業内に適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業態度および授業内課題（50%）、学期末試験（50%）で評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	○		◎			
関連科目	家族関係の心理学、心理学関連科目							
その他	恋愛に関して理解を深めるために他者との意見交換を行う場合がある。そのため授業に積極的、主体的に参加することを望む。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	家族関係の心理学		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Family Psychology	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	<p>家族とは集団の一形態である。この家族という集団がどのように形成され、また解散していくのか、家族集団内の大人や子どもがどのような経験をし、家族が発達・変化していくのかについて、発達心理学による知見を中心に学んでいく。また、家族に関する日本の歴史や、現在の結婚および家族制度について学ぶことで、社会の中での家族の位置づけについて考える。</p> <p>授業内では、受講生の感想共有の場とオリジナル人生ゲームを作成する機会を設けることで、結婚を含む家族関係がいかに多様になりうるかを学習し、人生について考える機会をもつ。</p>		
到達目標	<p>以下の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族および結婚とは何かを自分の言葉を用いて説明することができる</li> <li>2. 日本の家族関係の歴史、現代日本における結婚、出産、子育て、夫婦関係の実態について理解している</li> <li>3. 円満な夫婦関係の形成に有効な要因について説明できる</li> <li>4. 家族関係の形成・維持に関連して生じる困難について理解し、対処法を複数の視点から考えることができる</li> <li>5. 人生がいかに多様になりうるかを理解しており、自身の今後の人生について深く考察している</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】            授業：オリエンテーション、家族とは、日本における家族の構造と歴史            予習：「家族」とは何か、その定義について考える            復習：講義概要とシラバスを再度読み、確認する</p> <p>【第2回】            授業：家族の始まり・結婚、結婚制度の歴史と晩婚化、非婚化            予習：平均結婚年齢、生涯未婚率について予測する            復習：授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる</p> <p>【第3回】            授業：結婚の価値の変化、個人化志向            予習：なぜ日本は晩婚化したかについて考え、意見をまとめる            復習：授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる</p> <p>【第4回】            授業：夫婦関係満足度とその要因            予習：円満な夫婦関係のために重要な要素とは何かについて考える            復習：授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる</p> <p>【第5回】            授業：子どもをもつこと、不妊治療            予習：第一子出産平均年齢について調べる            復習：授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる</p> <p>【第6回】            授業：特別養子縁組、家族の多様性、親準備性            予習：「家族」の条件とは何かを考える            復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第7回】            授業：親になること、育児ストレス、子の誕生による夫婦関係の変化、育児神話            予習：「親になること」はどのような心理的变化をもたらすか考える            復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第8回】            授業：養育態度、マルトリートメント、虐待            予習：どのような子育てが子どもに良い・悪い影響を及ぼすか考える            復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第9回】            授業：働くことと子育て、育児分担、多重役割、スピルオーバー            予習：働くことと子育ての関係について考える            復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第10回】            授業：移行期の家族関係、空の巣症候群            予習：「空の巣症候群」について調べる            復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第11回】            授業：夫婦関係の危機、離婚            予習：夫婦が「離婚した理由」について調べる            復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p>			

<p>【第12回】          授業：同性婚、家族を構成する意義とは          予習：現在の家族制度の特徴について考える          復習：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>【第13回】          授業：オリジナル人生ゲームの作成1          予習：家族を構成するにあたりどのような事象が起こりうるかまとめておく          復習：作成するオリジナル人生ゲームの構成を見直す</p> <p>【第14回】          授業：オリジナル人生ゲームの作成2          予習：オリジナル人生ゲームの完成に向けて必要な作業について考えておく          復習：オリジナル人生ゲームを完成させる</p> <p>【第15回】          授業：オリジナル人生ゲームの体験（グループワーク）          予習：どのような人生、家族生活を理想とするか考える          復習：オリジナル人生ゲームの結果と感想をレポートにまとめる</p>								
授業開始前学習	「恋愛の心理学」の履修が本授業の理解の一助となる。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業の感想や課題提出などを求めた際には、翌週にフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に定めない。							
参考書	講義内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	受講態度 40%、オリジナル人生ゲームの提出 20%、学期末試験 40%により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	○		◎			○
関連科目	恋愛の心理学、家族心理学、心理学の諸科目							
その他	知的好奇心を大切に、授業に主体的に参加することを望む。 DVに関しては、「恋愛の心理学」のデートDVの授業回で扱うため、本授業では割愛する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	自己分析の心理学		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Self	授業区分	講義
科目責任者	田代 琴美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 琴美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	自己分析とは、就職活動を円滑に進めるために行うものというイメージを抱いている人が多いと思われる。しかし、自己分析を通して自己を理解することとは、就職活動だけに留まらず、過去から現在を見つめ直すことによって自己を受容し、未来をより良く生きていくための助けになるのである。本授業では、多角的な視点から自己を見つめ直す時間を取り、ワークシートやグループワーク（ペアワーク）を通して、自己について客観的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。		
到達目標	授業を通して、以下の到達目標を目指す。 ①自己にまつわる概念について理解し、説明できるようになる ②様々な角度から現在の自分を形成するものを理解する ③自己理解を深めることによって、将来の自分についても考えていく		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】          予習：シラバスを読んでおく          授業：オリエンテーション          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第2回】          予習：自己概念について調べる          授業：自己分析を行う理由・自己概念：セルフイメージについて考えよう(グループワーク)          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第3回】          予習：記憶について調べる          授業：記憶：セルフイメージが形成された記憶を探ろう(グループワーク)          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第4回】          予習：自己開示・自己呈示について調べる          授業：自己開示・自己呈示：他者に見せる姿はそれぞれ異なる！？          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第5回】          予習：自己効力感について調べる          授業：自己効力感：自分に自信があるってどういうこと？(グループワーク)          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第6回】          予習：認知について調べる          授業：認知：自分のものの見方の特徴を知ろう(グループワーク)          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第7回】          予習：道徳性について調べる          授業：道徳性：あなたは善人？悪人？(グループワーク)          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第8回】          予習：知能について調べる          授業：知能：あなたの知的な側面は？          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第9回】          予習：感情について調べる          授業：感情：あなたの感情はどう動く？          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第10回】          予習：ストレスについて調べる          授業：ストレス：どんなことにストレスを感じる？          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第11回】          予習：ソーシャルサポートについて調べる          授業：ソーシャルサポート：困った時はどうする？          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p>			



<p>【第12回】          予習：社会的スキルについて調べる          授業：社会的スキル：あなたのコミュニカはどれくらい？(グループワーク)          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第13回】          予習：親子関係について考える          授業：親子関係：親との関係性はどうか？          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第14回】          予習：キャリアについて調べる          授業：キャリア：あなたにとって仕事って何だろう？          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第15回】          予習：今までの授業内容についてまとめる          授業：総括          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p>								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	ワークシートやリアクションペーパーの提出を求めた際には次回の授業内でフィードバックまたは全体講評を行う。							
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。							
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法	ワークシートやリアクションペーパーの提出 60%（4点×15回分）、最終レポート課題 40%として評価を行う。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎			○
関連科目	セルフプロデュース							
その他	グループワークやペアワークなどは受講者数に応じて形式を変更する。 なお、シラバスに記載した各回のテーマは授業進行により適宜、変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	ビジネスと心理学		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Business and Psychology	授業区分	講義
科目責任者	澤田 葉月	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	澤田 葉月	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この講義では、社会や職場で起こる様々な出来事について、特に対人関係に関わることに注目しながら、社会心理学、感情心理学、臨床心理学の領域からテーマを選び、その理論と実践を学ぶ。心理学が我々の生活にどのように活かされているのか、また活かされ得るのか、講義とグループディスカッションやグループワークを通して理解を深める。		
到達目標	本講義を通じて以下の3点を目標とする。 1. 集団における自己あるいは他者の心理・行動・認知への理解を深める 2. 日々の生活や職場で生じるストレスについて理解を深め、自分なりの対処ができるようになる 3. 日々の生活や職場で、よりよい対人関係を築けるよう、理論を応用できるようになる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読んで、質問や確認事項があればまとめておく 授業：ガイダンス（授業内容、講義の進め方、注意事項の確認）と導入 復習：関心のあるテーマについてまとめる</p> <p>【第2回】 予習：自己意識や自己開示、自己呈示について調べる 授業：自己とは？ 復習：自己呈示の戦術や自己開示の機能について復習し、まとめる</p> <p>【第3回】 予習：印象形成（例えば、初頭効果やステレオタイプなど）について調べる 授業：印象形成 復習：印象形成や対人認知に関わる理論について、理解したことをまとめる</p> <p>【第4回】 予習：態度について調べる 授業：態度と行動 復習：日々の自身の行動に、本時に学んだ理論をあてはめ、振り返る</p> <p>【第5回】 予習：これまでに説得された経験や自分が説得し、成功した経験を書き出しておく 授業：説得（グループディスカッション/グループワーク） 復習：身近な人々に対し、学んだ理論を用いて説得や交渉を行ってみる</p> <p>【第6回】 予習：これまでの集団行動や集団での葛藤のエピソードを思い出し、書き出しておく 授業：集団行動の特性（グループディスカッション/グループワーク） 復習：集団行動を促進、抑制する心理について、そのポイントを整理する</p> <p>【第7回】 予習：リーダーシップについて調べる 授業：リーダーシップ（グループディスカッション/グループワーク） 復習：サークルやアルバイトなど、生活の中で学んだ理論を応用してみる</p> <p>【第8回】 予習：生涯発達理論やキャリア発達について調べる 授業：キャリア発達とワークライフバランス 復習：自身のキャリアや今後の人生について考え、まとめる</p> <p>【第9回】 予習：ストレスやバーンアウトについて調べる 授業：ストレスとその影響 復習：ストレスとその影響について、理解したことをまとめる</p> <p>【第10回】 予習：自分の感情に意識を向け、その変化や特徴的なエピソードを記録する 授業：感情 復習：感情について、自身の経験やそれに対する考えをまとめる</p> <p>【第11回】 予習：感情の制御方略について調べる 授業：ストレスへの対処①（感情コントロール）（グループワーク） 復習：学んだ手法を生活の中で実践する</p>			

<p>【第12回】          予習：認知行動療法やアンガーマネジメントについて調べる          授業：ストレスへの対処②（認知行動療法，アンガーマネジメント）（グループワーク）          復習：学んだ手法を生活の中で実践する</p> <p>【第13回】          予習：マインドフルネスについて調べる          授業：ストレスへの対処③（漸進的筋弛緩法，マインドフルネス行動療法）（グループワーク）          復習：学んだ手法を生活の中で実践する</p> <p>【第14回】          予習：コミュニケーションについて，その種類などを調べる          授業：コミュニケーション（グループワーク）          復習：学んだことを基に，よりよいコミュニケーションを生活の中で実践する</p> <p>【第15回】          予習：これまでの資料をもとに講義をふりかえり，わからないところや質問を書き出しておく          授業：これまでの講義の総括          復習：講義の内容や専門用語等を再確認する</p>								
授業開始前学習	<p>日常生活（大学・アルバイト・サークル等）や過去の様々な経験や問題意識が本講義の起点となる。特に対人関係に関わる内容が豊富であるため，日頃の行動や自他の感情に注意を払っておくと，講義で学ぶ理論と現実での事象が結びつきやすく理解が促されやすい。さらに心理学の基本的知識（特に社会心理学や感情心理学，臨床心理学）を学習しておくことと講義が理解しやすいため，概論書やミネルヴァ書房の「よくわかるシリーズ」，新星出版社の「カラー版徹底図解 社会心理学」等を読んでおくことをおすすめする。</p>							
授業内課題のフィードバックの方法	<p>コメントペーパーの内容や質問については，次回の授業の始めにフィードバックを行う。ただし，全体に対して共有してほしくないコメントがある場合は配慮し，共有しないこととする。小レポート等の課題については個別にフィードバックを行う。</p>							
テキスト・教材	<p>教科書は使用しない。講義ごとに資料を配布する。</p>							
参考書	<p>適宜，紹介する。</p>							
評価の基準と方法	<p>講義への取り組みや課題提出の状況により総合的に評価する。          ・ワークシートやコメントペーパー：60%          ・レポート：40%          単位取得のためには，3分の2以上の出席を必要とする。</p>							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎			○
関連科目								
その他	<p>受講生の人数により授業の内容や順番，進度を一部変更する可能性がある。授業の進め方については，受講生の希望を聞きながら対応したいと考えていますので，特に初回のガイダンスには出来る限り参加してください。</p>							
予習・復習の所要時間	<p>講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）</p>							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	セルフプロデュース		
科目分類	112-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Self Produce	授業区分	講義
科目責任者	田代 琴美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 琴美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本授業では自分らしさについて考え、自分の強みを見つけながら、それを社会の中でどのように活かしていくかといったセルフプロデュースについて具体的に検討していく。積極的なグループワーク（ペアワーク）を通して、様々な側面からの自己表現や自己演出をいかに他人に伝えられるかといった対人認知や印象形成などの知識を身につける。		
到達目標	授業を通して、自分を理解する・自分に合うものを探す・自分の強みを伸ばすといったセルフプロデュースを考えながら、なりたい自分になるといった自己実現を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを確認しておく  授業：オリエンテーション  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第2回】  予習：好きな芸能人はどのような人物なのかを詳しく調べ、まとめる  授業：セルフプロデュースをする意味について考える①(グループワーク)  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第3回】  予習：選挙ポスターについて検索する  授業：セルフプロデュースをする意味について考える②  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第4回】  予習：自分の外見の変化したタイミングを確認し、説明できるようにしておく  授業：自分らしさについて考える①外見への理解（服装やメイク等）  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第5回】  予習：自分の内面が変化したと感じた経験を思い出し、説明できるようにしておく  授業：自分らしさについて考える②内面への理解  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第6回】  予習：自分らしいこと/ものを挙げておく  授業：自分に合うものを知る①  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第7回】  予習：自分が好きなこと/ものの中で他者から似合っていないと言われたこと/ものを探しておく  授業：自分に合うものを知る②(グループワーク)  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第8回】  予習：自分はどのような人と仲良くなるのか、仲良くなれない人はどのような人かを考えておく  授業：自分に合うものを知る③  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第9回】  予習：自分自身の魅力を考える  授業：自分の強みを伸ばす①  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第10回】  予習：就職活動について調べる  授業：自分の強みを伸ばす②(グループワーク)  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第11回】  予習：自己表現方法について考える  授業：自分の強みを伸ばす③(グループワーク)  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第12回】  予習：ロールモデルという言葉について調べる  授業：自分の強みを伸ばす④  復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p>			

<p>【第13回】          予習：自分が誰かをプロデュースする場合はどのように行うかを考えてみる          授業：プロデュースしてみよう①          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第14回】          予習：発表の準備をする          授業：プロデュースしてみよう②(グループワーク)          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p> <p>【第15回】          予習：自分自身のセルフプロデュースについてまとめる          授業：総括          復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる</p>								
授業開始前学習	今の自分について客観的に考え、なりたい自分をイメージしておくことで授業内容が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	ワークシートやアクションペーパーの提出を求めた際には次回の授業内でフィードバックまたは全体講評を行う。							
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。							
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法	ワークシートやアクションペーパーの提出 60% (4点×15回分)、最終レポート課題 40%として評価を行う。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△		○	
関連科目	自己分析の心理学							
その他	グループワークやペアワークなどは受講者数に応じて形式を変更する。 なお、シラバスに記載した各回のテーマは授業進行により適宜、変更することがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	チームビルディング		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Team Building	授業区分	講義
科目責任者	平山 智史	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平山 智史	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>我々は社会活動において何らかのチームに属し、その中でさまざまな役割を担っている。変化し続け予測困難で複雑化・多様化する社会においては、チームの力を最大化・効率化し、柔軟に対応するための基本的な考え方や行動がますます重要になる。</p> <p>この授業では身近なチームの事例や現象を分析し、グループワークでの体験を通じてチームビルディングのための実践的なノウハウを学ぶ。</p> <p>専用授業サイト[T.Hirayama Lecture Note]に講義内容を掲載し、授業、予習、復習のためのツールとする。 URL <a href="https://hifumi3.jimdofree.com/">https://hifumi3.jimdofree.com/</a> (事前案内ページの参照パスワードは"komajo")</p> <p>また、社会組織の中で重要なメールコミュニケーションを実践し学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーススタディを通じてチームビルディングの考え方を身に付ける。</li> <li>・人が動き、人を動かすコミュニケーション力を身に付ける。</li> <li>・チームビルディングの必要条件を理解し行動できるようにする。</li> <li>・グループワークを通じて自分がチームに貢献できる自分の長所を知る。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>・毎回出席メモ（小テスト）を実施する。</p> <p>・アクティブ・ラーニングは授業中または授業と並行して、メールを使ったグループワークを行う。</p> <p>【第1回】 予習：シラバスと受講目的を確認する 授業：ガイダンス、チームビルディングとは 復習：チームビルディングの意義を確認する</p> <p>【第2回】 予習：身近なチームの事例について確認する 授業：チームビルディングの必要性について 復習：身近なチームの3要件について確認する</p> <p>【第3回】 予習：事例資料に掲載されているチームの目的を確認する 授業：チームビルディングの基本1：目的共有 復習：目的とゴールの違いを確認する</p> <p>【第4回】 予習：自分がチームに迷惑をかけた事例を確認する 授業：チームビルディングの基本2：情報共有 復習：自分の会話事例について改善案をまとめる</p> <p>【第5回】 予習：事例資料に掲載されているチームメンバーの行動を確認する 授業：チームビルディングの基本3：貢献意欲 復習：身近なチームの「のりしろ」について確認する</p> <p>【第6回】 予習：事例資料について身近なチームのケースを確認する 授業：チームビルディングの基本4：個のパフォーマンス 復習：身近なチームにおけるメンバーと役割を確認する</p> <p>【第7回】 予習：事例資料に掲載されているチームの成果について調べる 授業：チームビルディングの基本5：チームのパフォーマンス 復習：身近なチームの3要素についてそれぞれ評価する</p> <p>【第8回】 予習：自分の意図が相手に伝わらなかった会話事例について確認する 授業：コミュニケーションの成立条件 復習：コミュニケーションの成立条件を自分の属するチームで確認する</p> <p>【第9回】 予習：相手を選んで話をした事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本1：言及範囲 復習：言及範囲を決定する要因についてまとめる</p> <p>【第10回】 予習：優先順位を意識して話をした事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本2：優先順位 復習：過去の会話の優先順位の妥当性について確認する</p>			

<p>【第 11 回】          予習：相手にすぐに話をしなかった事例について確認する          授業：コミュニケーションの基本 3：タイミング          復習：会話のタイミングを決定する要因をまとめる</p> <p>【第 12 回】          予習：身近なイベントについて集合日時決定プロセスについて確認する          授業：コミュニケーションの基本 4：効率          復習：会話効率を上げるためのポイントをまとめる</p> <p>【第 13 回】          予習：自分が説得された会話事例について確認する          授業：コミュニケーションの基本 5：魅力          復習：コミュニケーションが魅力的になるポイントをまとめる</p> <p>【第 14 回】（期末レポート）          予習：授業で扱った事例を確認する          授業：期末レポート提出：チームビルディングの事例          復習：期末レポートについて自己レビューする</p> <p>【第 15 回】          予習：期末レポートの事例を身近な例に置き換え確認する          授業：期末レポートの講評とチームビルディングの要点を確認する          復習：授業で得たチームビルディングに関する成果を再確認する</p>								
授業開始前学習	今まで自分が属したチームについて列挙する。							
授業内課題の フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席メモについては、毎回個別にポータルでフィードバックし、次回授業内でレビューとして解説する。</li> <li>・期末レポートについては、最終回授業にて全体の講評を行う。</li> </ul>							
テキスト・教材	テキストは使用しない。 必要な資料は授業サイトにて適宜案内する。 テーマによりネット上のビデオ・記事を視聴・閲覧する。							
参考書	適宜資料を配布、または Web 上の資料を URL で案内する。							
評価の基準と方法	配点は以下のとおりとし、単位取得には 60 点以上の得点を必要とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業活動（出席メモ 15 回分各回 4 点）の合計 60 点</li> <li>・期末レポート（第 14 回授業内）20 点</li> <li>・質問、関心、貢献など普段の取り組み姿勢の評価 20 点</li> </ul>							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	○
関連科目	後期「組織マネジメント」							
その他	身近なテーマを真剣に議論する学生参加型の授業とするため、授業への貢献度を評価基準の一つとする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	大企業にて開発、海外駐在、企画、設計、社長直轄事業開発、社内教育機関、研究戦略、品質関連会社など多様な職種・職場を経験し、個人企業（現職）に至る 40 年以上の管理職・経営者・プロジェクトリーダーとしての経験を元に、チームビルディングにおける要点、考え方、実務的な課題とその解決指針について講義する。							



科目名称	自己表現法 I		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Method of Self-Expression I	授業区分	講義
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	自己を表現するとはどういうことか。どう方法があるのか。また、どう表現すると相手にどう理解されるのか。本講義では芸術・芸能関係等、表現の現場における実例や、コミュニケーション技法を中心に、より良い人間関係を築くための方法について研究する。また、演劇や音楽などの感情表現をもとに自己表現について考察する。		
到達目標	より良い人間関係というものを理解する。自分の感情や表現をコントロールし、コミュニケーションに活かせるような知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：自分自身について考える  授業：授業のガイダンス 講義内容の説明  復習：どう自分になれるかイメージする</p> <p>【第 2 回】  予習：自己表現について考える  授業：自己表現とはなにか  復習：自身の日常に活かせるか考える</p> <p>【第 3 回】  予習：自分の歴史を思い返す  授業：自分自身を知る  復習：社会に出た時の自分をイメージする</p> <p>【第 4 回】  予習：自分の緊張の度合いを確認する  授業：人前であがらないために  復習：日常の中で実践してみる</p> <p>【第 5 回】  予習：人間の感情について考えておく  授業：感情表現と自己表現  復習：人の気持ちについて考える</p> <p>【第 6 回】  予習：自分の人間関係について考えてみる  授業：より良い人間関係を築く 1 相手の気持ちを考える  復習：苦手な人とコミュニケーションを取る</p> <p>【第 7 回】  予習：前回は踏まえ自分でできることをイメージする  授業：より良い人間関係を築く 2 言葉の使い方を見直す  復習：自分のコミュニケーションを検証する</p> <p>【第 8 回】  予習：自分の友人について考える  授業：友人関係について  復習：どのように付き合っていくかイメージする</p> <p>【第 9 回】  予習：自分の恋愛観について考えておく  授業：恋愛関係について  復習：自分自身がどうあるべきか考える</p> <p>【第 10 回】  予習：身近な人とのコミュニケーションについて考えておく  授業：アサーションの実例 1 身近な人に対する自己表現  復習：自身の人間関係に活かせるようイメージする</p> <p>【第 11 回】  予習：オフィシャルな場でのコミュニケーションについて考えておく  授業：アサーションの実例 2 オフィシャルな場での自己表現  復習：自分が努力できるポイントを確認する</p> <p>【第 12 回】  予習：これまでの人との接し方について考えておく  授業：初対面の人と打ち解けるには  復習：改善点があれば実践する</p>			

<p>【第 13 回】          予習 : 提出したレポートの発表がスムーズにいくよう準備する          授業 : レポートの発表 1          復習 : 次回に備え検証する</p> <p>【第 14 回】          予習 : 前回や他の人の発表を参考にイメージする          授業 : レポートの発表 2          復習 : 自分の問題点について考える</p> <p>【第 15 回】          予習 : これまでの授業を振り返っておく          授業 : これまでの復習と疑問点の確認          復習 : どのようにすれば自分に活かせるか考える</p>								
授業開始前学習	特に必要としない。							
授業内課題の フィードバックの方法	13 週目に提出するレポートについては、翌週に簡単な発表の場を設け、個別の質問にも対応する。							
テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度 (50%) およびレポート (50%) にて成績を評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△				
関連科目	「コミュニケーション実習 I、II」とリンクする内容があるので、実習でシミュレーションすることにより、理解が深まる。							
その他	履修希望者が教室の収容人数を超えた場合には、履修制限を行う可能性もある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	自己表現法Ⅱ		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Method of Self-Expression Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会に出てからの人間関係や、様々なシチュエーションにおいて、自己を表現することの必要性について理解を深め、よりイメージできるようにすることを目的とする。自分の思考を、または自分自身をより明確に相手に伝えるためのプレゼンテーションについて考えとともに、面接試験等における自己アピールの方法について探っていく。		
到達目標	社会生活をおくる上で自己を表現することの必要性を理解し、実践できるようになる。他の人と上手くコミュニケーションを取るということを常に考える習慣を作る。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：自己表現について考えておく  授業：授業のガイダンス 講義内容の説明  復習：どういった表現を身に付けたいかイメージする</p> <p>【第2回】  予習：人間のキャラクターについて考えておく  授業：人に好かれるキャラクターとは  復習：自分のキャラクターを考える</p> <p>【第3回】  予習：人間観察をしてみる  授業：自己をアピールする  復習：様々な場面での自己アピールをイメージする</p> <p>【第4回】  予習：プレゼンテーションについて調べておく  授業：プレゼンテーションの方法  復習：実践できるようイメージしてみる</p> <p>【第5回】  予習：気配り・心配りについて考えておく  授業：気の利く人とは  復習：日常の生活に活かしてみる</p> <p>【第6回】  予習：TVなどで興味深い会話をする人をチェックする  授業：会話術1 相手を引き付ける会話とは  復習：自身の人間関係の中で試してみる</p> <p>【第7回】  予習：周りの人の会話をチェックしてみる  授業：会話術2 わかりやすく話すには  復習：すぐにできる部分を実践する</p> <p>【第8回】  予習：正しい日本語に関して考えておく  授業：敬語について  復習：自分の敬語が正しいか検証する</p> <p>【第9回】  予習：将来就きたい職業について考えておく  授業：就職試験と自己表現1 自分自身を知るために  復習：準備できる部分に取り掛かる</p> <p>【第10回】  予習：就職に関してより具体的に考える  授業：就職試験と自己表現2 面接試験について  復習：実際の面接等をイメージする</p> <p>【第11回】  予習：普段の自分の話し方を見つめなおしてみる  授業：話し方の裏技  復習：実践することで理解を深める</p> <p>【第12回】  予習：関連する本などを読んでみる  授業：コミュニケーションと自己表現  復習：人に伝わる話し方について考える</p>			

<p>【第 13 回】          予習 : 提出したレポートの発表がスムーズにいくよう準備する          授業 : レポートの発表 1          復習 : 次回に備え検証する</p> <p>【第 14 回】          予習 : 前回や他の人の発表を参考にイメージする          授業 : レポートの発表 2          復習 : 自分の問題点について考える</p> <p>【第 15 回】          予習 : これまでの授業を振り返っておく          授業 : これまでの復習と疑問点の確認          復習 : どのようにすれば自分に活かせるか考える</p>								
授業開始前学習	特に必要としない。							
授業内課題の フィードバックの方法	13 週目に提出するレポートについては、翌週に簡単な発表の場を設け、個別の質問にも対応する。							
テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度 (50%) およびレポート (50%) にて成績を評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△				
関連科目	「コミュニケーション実習 I、II」とリンクする内容があるので、実習でシミュレーションすることにより、理解が深まる。							
その他	履修希望者が教室の収容人数を超えた場合には、履修制限を行う可能性もある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	コミュニケーション実習 I		
科目分類	112-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice in Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会生活を営む上で人と人がコミュニケーションを取ることは必要不可欠である。より良いコミュニケーションを取るために、会話中の頭の回転を速くし、相手にどのように伝わっているか常に考えるトレーニングを行う。基礎的な演技レッスンを行うことによって、コミュニケーションを体感し、実生活に応用できる技術を習得する。		
到達目標	コミュニケーションの重要性を理解する。適切な発声、正しい発音ができるようになる。人前で発言することに慣れる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：コミュニケーションに対する意識を高めておく  授業：授業のガイダンス 講義内容の説明  復習：目的意識を持ち、イメージする</p> <p>【第 2 回】  予習：自己紹介ができるよう準備する  授業：自己紹介 インタビュー（実習）  復習：より良い自己紹介を完成させる</p> <p>【第 3 回】  予習：どのくらい声が出せるか確認しておく  授業：発声法 1 腹式呼吸 効率の良い声の出し方（実習）  復習：練習した事を確認する</p> <p>【第 4 回】  予習：声を出して喉を暖めておく  授業：発声法 2 発声・発音練習（実習）  復習：練習を習慣づける</p> <p>【第 5 回】  予習：自身の喜怒哀楽について考える  授業：感情表現の基礎（実習）  復習：イメージした表情ができるよう意識する</p> <p>【第 6 回】  予習：他人の気持ちについて考える  授業：感情表現の実践（実習）  復習：様々な表現ができるよう試してみる</p> <p>【第 7 回】  予習：軽く身体を動かしておく  授業：即興劇 1 会話の基本（実習）  復習：問題点を確認して次回に備える</p> <p>【第 8 回】  予習：ストレッチなどをして身体をほぐしておく  授業：即興劇 2 臨機応変な対応（実習）  復習：他の人の表現などを参考にする</p> <p>【第 9 回】  予習：人間観察を試みる  授業：エチュード 1 頼み事をする（実習）  復習：人に気を使えるよう意識する</p> <p>【第 10 回】  予習：人間観察をさらに深める  授業：エチュード 2 頼み事を断る（実習）  復習：苦手な部分があれば意識する</p> <p>【第 11 回】  予習：声の演技についてイメージする  授業：アフレコ実習 1 ラジオドラマ作品等（実習）  復習：次回に備え練習する</p> <p>【第 12 回】  予習：発声・発音練習しておく  授業：アフレコ実習 2 アニメーション作品等（実習）  復習：うまくいかなかった部分を練習する</p>			

<p>【第13回】          予習：事前に練習した感情表現を意識しておく          授業：ミニドラマの準備（実習）          復習：次回に完成できるよう考える</p> <p>【第14回】          予習：前回の展開を踏まえイメージする          授業：ミニドラマの完成（実習）          復習：さらに良くするためにはどうすればいいか考える</p> <p>【第15回】          予習：これまでの授業を振り返っておく          授業：これまでの復習と疑問点の確認          復習：自分の問題点を整理する</p>								
授業開始前学習	正しい日本語の発音・発声がすべての基本となるので、意識しておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回実技実習を行い、その都度個別の質問に答える。							
テキスト・教材	必要に応じて授業時に配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	実習科目であるため、特に参加度（60%）を重視し、授業態度（20%）および実技（20%）にて成績を評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			○	
関連科目	コミュニケーションを取るには、自分自身を表現することが必要である。「自己表現法Ⅰ、Ⅱ」で論理的に解説している。							
その他	本科目は実習であるため履修人数を制限する。規定人数を超えた場合、人間関係専攻学生を優先する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	コミュニケーション実習Ⅱ		
科目分類	112-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice in Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	より良い人間関係を築くために必要な、自分も相手も大切にしたい自己表現法の習得を目的とする。即興劇やエチュード等による基礎的な演技レッスンをさらに発展させ、模擬的な番組制作や会議を行うことにより、効果的なコミュニケーションに対する理解を深め、スキルを向上させる。		
到達目標	オフィシャルな場での会話がスムーズにできるようになる。相手に合わせるコミュニケーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：コミュニケーションに対する意識を高めておく  授業：授業のガイダンス 講義内容の説明  復習：授業内容を聞いた上でイメージする</p> <p>【第2回】  予習：事前に声を出しておく  授業：台詞の練習1 舞台作品の台本より抜粋（実習）  復習：練習した台本を覚える</p> <p>【第3回】  予習：発声練習をしておく  授業：台詞の練習2 映像作品の台本より抜粋（実習）  復習：より自然に言えるよう練習する</p> <p>【第4回】  予習：ディベートについて調べておく  授業：ディベート実習1 身近なテーマで（ディベート）  復習：授業を振り返り次回に備える</p> <p>【第5回】  予習：はっきりとした声が出せるか確認する  授業：ディベート実習2 社会的なテーマで（ディベート）  復習：常に自分の意見を持つよう心がける</p> <p>【第6回】  予習：プレゼンテーションについて調べておく  授業：プレゼンテーション実習1 内容を決めて組み立てる（プレゼンテーション）  復習：問題点を修正する</p> <p>【第7回】  予習：プレゼンテーションの方法を考える  授業：プレゼンテーション実習2 実際に人前で説明する（プレゼンテーション）  復習：どうすればより良くなるか考える</p> <p>【第8回】  予習：どんな質問をするか考える  授業：インタビュー実習1 同世代の相手に聞く（実習）  復習：受け答えが適切だったか検証する</p> <p>【第9回】  予習：前回の授業を踏まえイメージする  授業：インタビュー実習2 架空の職業人に聞く（実習）  復習：日常生活に活かす方法を考える</p> <p>【第10回】  予習：声の演技についてイメージする  授業：アフレコ実習1 洋画等（実習）  復習：次回に備え練習する</p> <p>【第11回】  予習：発声・発音練習をしておく  授業：アフレコ実習2 海外ドラマ等（実習）  復習：うまくいかなかった部分を練習する</p> <p>【第12回】  予習：実際にラジオ番組を聴いておく  授業：模擬ラジオ番組実習1 複数人数でトーク番組（実習）  復習：他の人の実演を参考に自身を検証する</p>			



<p>【第13回】          予習：声が出るよう身体を動かしておく          授業：模擬ラジオ番組実習2 1人で語る情報番組（実習）          復習：人に伝える話し方について考える</p> <p>【第14回】          予習：自分の不得意な部分を確認する          授業：質疑応答 コミュニケーションの実践（実習）          復習：自分の問題点を整理する</p> <p>【第15回】          予習：これまでの授業を振り返っておく          授業：これまでの復習と疑問点の確認          復習：どのようにすれば成長できるか考える</p>								
授業開始前学習	正しい日本語の発音・発声がすべての基本となるので、意識しておくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回実技実習を行い、その都度個別の質問に答える。							
テキスト・教材	必要に応じて授業時に配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	実習科目であるため、特に参加度（60%）を重視し、授業態度（20%）および実技（20%）にて成績を評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			○	
関連科目	コミュニケーションを取るには、自分自身を表現することが必要である。「自己表現法Ⅰ、Ⅱ」で論理的に解説している。							
その他	本科目は実習であるため履修人数を制限する。規定人数を超えた場合、人間関係専攻学生を優先する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	報道とメディア		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Press and Media	授業区分	講義
科目責任者	佐々木 竜介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木 竜介	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・インターネットのマスを中心としたメディアについて、各メディアの歴史や、それを提供するメディア企業の成り立ちを学ぶ。 メディア成立の背景を学ぶことで、メディアが発するメッセージの裏側を読み取り、メディアが発信する情報に対する理解をこれまで以上に深めることを目的とする。		
到達目標	5 マスメディアの違いについて、成り立ち、物理的性質、企業経営など複数の地点からその特性を述べられる知識を得るとともに、メディアの形態とコンテンツの関係を説明するための能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：新聞、テレビ、雑誌、インターネットの各メディアへ主体的に接触する  授業：最近の事象をもとにしたメディアに関する考察  復習：配布物の再読、メディアについて再考する</p> <p>【第2回】  予習：講義ノートP4-9の閲読、メディアの機能について考察する  授業：コミュニケーションとメディア  復習：講義ノートP4-9の読み返し、コミュニケーションとメディアに関する課題を再考する</p> <p>【第3回】  予習：講義ノートP10-19の閲読、新聞の歴史について考察する  授業：新聞メディアの歴史と特性①（新聞の歴史と新聞社の経営）  復習：講義ノートP10-19の読み返し、新聞社の経営に関する課題を再考する</p> <p>【第4回】  予習：講義ノートP20-27の閲読、新聞を一通り閲読する（日付は問わず）  授業：新聞メディアの歴史と特性②（新聞のメディア特性）  復習：講義ノートP20-27の読み返し、新聞のメディア特性に関する課題を再考する</p> <p>【第5回】  予習：講義ノートP28-36の閲読、放送の歴史について考察する  授業：放送メディアの歴史と特性①（放送の歴史と放送局の経営）  復習：講義ノートP28-36の読み返し、放送局の経営に関する課題を再考する</p> <p>【第6回】  予習：講義ノートP37-42の閲読、バラエティー番組を視聴する  授業：放送メディアの歴史と特性②（放送のメディア特性）  復習：講義ノートP37-42の読み返し、放送のメディア特性に関する課題を再考する</p> <p>【第7回】  予習：講義ノートP43-50の閲読、雑誌の歴史について考察する  授業：雑誌メディアの歴史と特性①（雑誌の歴史と雑誌の経営）  復習：講義ノートP43-50の読み返し、雑誌の歴史に関する課題を再考する</p> <p>【第8回】  予習：講義ノートP51-55の閲読、女性誌を複数誌閲読する  授業：雑誌メディアの歴史と特性②（女性誌の歴史と特性）  復習：講義ノートP51-55の読み返し、女性誌に関する課題を再考する</p> <p>【第9回】  予習：講義ノートP56-63の閲読、インターネットの歴史について考察する  授業：インターネットの歴史と特性①（インターネットの歴史とインターネット企業の経営）  復習：講義ノートP56-63の読み返し、インターネット企業の経営に関する課題を再考する</p> <p>【第10回】  予習：講義ノートP64-69の閲読、インターネットの特性について考察する  授業：インターネットの歴史と特性②（インターネットのメディア特性）  復習：講義ノートP64-69の読み返し、インターネットのメディア特性に関する課題を再考する</p> <p>【第11回】  予習：講義ノートP70-78の閲読、ソーシャルメディアについて考察する  授業：ソーシャルメディア  復習：講義ノートP70-78の読み返し、ソーシャルメディアに関する課題を再考する</p> <p>【第12回】  予習：講義ノートP84-91の閲読、各メディア別の特性を再確認する  授業：メディアの報道  復習：講義ノートP84-91の読み返し、メディアの報道の問題点について考察する</p>			

<p>【第13回】          予習：講義ノートP79-83の閲読、各メディアの広告に自主的に接触する          授業：広告とメディア          復習：講義ノートP79-83の読み返し、広告とメディアに関する課題を再考する</p> <p>【第14回】          予習：講義ノートP92-97の閲読、各メディア別の特性を再確認する          授業：メディア・リテラシー          復習：講義ノートP92-97の読み返し、現代のメディア・リテラシーあるべき姿について考察する</p> <p>【第15回】          予習：講義ノートP98-99の閲読、インターネットの問題点について考察する          授業：インターネット時代の生き方          復習：講義ノートP98-99の読み返し、現代のメディア環境について考察する</p>								
授業開始前学習	普段の生活において、各種メディアに主体的に接していると、講義内容が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回記述式のミニ課題を出題する。評価は Classroom を通じて戻すとともに、次回の講義時に解答の中から数点を選んで紹介し、講評する。							
テキスト・教材	講義ノートを配布							
参考書	講義ノートの最終ページに記載							
評価の基準と方法	講義参加の積極性 40%、ミニ課題 40%、期末レポート 20%で評価。毎回出題するミニ課題の回答も、評価の対象とする。 単位取得には講義の2/3以上の出席とミニ課題の提出、レポートの提出が必要。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				○	◎		
関連科目	「新聞と報道」はメディア論のイントロダクションであり、事前に受講しておくこと本講義への助けになる。							
その他	初回の講義にて評価や出席など、受講の注意事項を配布するので、参照すること（初回を欠席した場合は2回目以降に申し出ること）。 また、内容は変更されることがある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	現在新聞社に勤務しており、職場環境およびかつてメディア研究の部署にも属していた経験を活かし、大きく変容するメディア環境について、現在進行形で講義をする。							

科目名称	☆メディアと社会／情報技術と人間関係		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Media and Society／Information Technology and Human Relations	授業区分	講義
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	10-612
授業概要	メディアとは何か、メディア論の対象と方法、メディアをめぐる社会史、メディアがつくり出す現代社会、をテーマに教科書に沿って授業を進める。		
到達目標	近代以降のメディアの技術的・社会的展開を理解するとともに、メディアを研究対象とする場合の問題設定、分析視角、方法等、メディアへのアプローチの仕方を習得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：メディアとは何か（教科書 p1-16）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第2回】Ⅰ 方法としてのメディア（第2回～第6回）  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：メディアの時代・メディアの理論（教科書 p19-34）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第3回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：新聞学というメディアの知（教科書 p35-50）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第4回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：マス・コミュニケーション理論の展開とその限界（教科書 p51-67）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第5回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：メディア革命と知覚の近代（教科書 p69-84）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第6回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：カルチュラル・スタディーズの介入（教科書 p85-102）、（グループワーク）  復習：その日の授業内容および第Ⅰ部を振り返る</p> <p>【第7回】Ⅱ 歴史としてのメディア（第7回～第11回）  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：新聞と近代ジャーナリズム（教科書 p105-120）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第8回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：電話が誕生したのはいつだったのか（教科書 p123-140）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第9回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：誰が映画を誕生させたのか（教科書 p141-158）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第10回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：ラジオ・マニアたちの社交圏（教科書 p159-174）  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第11回】  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：テレビが家にやって来た（教科書 p175-190）、（グループワーク）  復習：その日の授業内容および第Ⅱ部を振り返る</p> <p>【第12回】Ⅲ 実践としてのメディア（第12回～第15回）  予習：教科書の該当部分を読んでおく  授業：ケータイが変える都市の風景（教科書 p193-212）  復習：その日の授業内容を振り返る</p>			

<p>【第13回】          予習：教科書の該当部分を読んでおく          授業：パソコンとネットワーク化する市民社会（教科書 p213-233）          復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第14回】          予習：教科書の該当部分を読んでおく          授業：グローバル・メディアとは何か（教科書 p235-254）          復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第15回】          予習：教科書の該当部分を読んでおく          授業：メディアを変革するための知（教科書 p255-276）、（グループワーク）          復習：その日の授業内容、第Ⅲ部、および授業全体を振り返る</p>								
授業開始前学習	テキスト『メディア文化論〔改訂版〕』の「はじめに」と「もくじ」（pp.i-xiv）に目を通し、授業全体の内容を概観する。							
授業内課題の フィードバックの方法	回収した課題に対しては、授業中または次回授業開始前に採点結果を返却するとともに必要に応じて追加指導を行う。							
テキスト・教材	吉見俊哉『メディア文化論〔改訂版〕』（有斐閣アルマ）2012-年							
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法	授業内課題 50%、テスト（またはレポート）50%により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	広告の研究／映像広告の研究							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆広告の研究／映像広告の研究		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Research in Advertizing／History of advertising industry	授業区分	講義
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	10-612
授業概要	広告とは何か？授業の前半では、広告の目的、特徴、種類、効果、影響をはじめ、広告の製作や広告業界まで、広告についての基礎知識を身に付ける。授業の後半では、具体例として様々な種類の広告を取り上げ、それらを読み解いていくとともに、社会のなかで広告がどのように発信され、受容されているかを明らかにする。		
到達目標	広告を受け身で捉えるのではなく、その背景となる製作プロセス、産業構造、送り手と受け手との関係性などを意識しながら多面的に捉える視点を学び、さらには広告から文化や社会を捉える力を養う。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：広告について批判的／親和的な意見をそれぞれ書き出す  授業：イントロダクション／広告とは何か（ディスカッション）  復習：広告とは何かを自分なりに説明できるようにする</p> <p>【第2回】  予習：広告が社会に及ぼす影響について具体例を書き出す  授業：広告の機能（ディスカッション）  復習：広告がもつ4つの機能を確認する</p> <p>【第3回】  予習：広告にはどのような種類があるかできるだけ多くリストアップする  授業：広告の種類・分類（ディスカッション）  復習：広告の種類や分類を確認する</p> <p>【第4回】  予習：広告戦略の優れている企業を挙げ、その理由を説明する  授業：広告を用いたビジネスモデル（ディスカッション）  復習：広告戦略の優れている企業の経費全体のうちに占める広告費の割合を調べる</p> <p>【第5回】  予習：広告会社にはどのような会社があるか調べる  授業：広告の製作（ディスカッション）  復習：広告主と広告会社の関係性・分担を理解する</p> <p>【第6回】  予習：これからの広告業界に求めるものは何か書き出す  授業：広告産業・業界（ディスカッション）  復習：これからの広告業界の課題について整理する</p> <p>【第7回】  予習：特になし  授業：映画鑑賞（1）『トゥルーマン・ショー』[課題シートあり]  復習：課題シートを記入するほか、気づいた点、印象深かった点をメモする</p> <p>【第8回】  予習：前回までのストーリーでわかりづかった点や疑問点があれば質問の準備をする  授業：映画鑑賞（2）『トゥルーマン・ショー』[課題シートあり]  復習：広告という切り口から本映画について論じる</p> <p>【第9回】  予習：世界最古の広告、日本最古の広告について調べる  授業：ちらし、ポスター、キャッチコピー（グループワーク）  復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する</p> <p>【第10回】  予習：新聞広告の特異性について考える  授業：新聞広告（グループワーク）  復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する</p> <p>【第11回】  予習：雑誌広告の特異性について考える  授業：雑誌広告（グループワーク）  復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する</p> <p>【第12回】  予習：交通・屋外広告の特異性について考える  授業：交通・屋外広告（グループワーク）  復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する</p>			

<p>【第 13 回】          予習：ラジオ CM の特異性について考える          授業：ラジオ CM (グループワーク)          復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する</p> <p>【第 14 回】          予習：テレビ CM の特異性について考える          授業：テレビ CM (グループワーク)          復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する</p> <p>【第 15 回】          予習：インターネット広告の特異性について考える          授業：インターネット広告 (グループワーク)          復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する</p>								
授業開始前学習	意識的に身の回りの広告を見つけ、分析する習慣をつけておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	回収した課題に対しては、授業中または次回授業開始前に採点結果を返却するとともに必要に応じて追加指導を行う。							
テキスト・教材	前半は、波田浩之『新版 広告の基礎』（日本実業出版社）2018 年を適宜参考にしながら授業を進める。 後半は、映画『トウルーマン・ショー』を鑑賞するとともに個別具体的な広告をパワーポイントで映写・上映、分析する。							
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法	授業内課題 50%、テスト（またはレポート）50%により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	メディアと社会／情報社会と人間関係							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	☆表現活動とメディア／表現活動とビジネス		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Expression Activities and Media／Expression Activities and Business	授業区分	講義
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【私たちの物語を作る】 かつては専門の技術により表現されてきたものが、デジタルの技術の進歩と普及によって身近なものになった。これからは「表現する」ということには「何を言うか、どう言うか、誰に言うか」という発想や感性が必要になる。表現したい題材を見つけ、それを表現するための土台づくりをする。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。		
到達目標	メディアの進歩にともない、新しい価値を生み出すビジネスの現場では、よりいっそう対話型コミュニケーションが必要になってくる。グループで物語を1つ作り、紙芝居、絵本の順にコンテンツを展開し、「チームで働く力」を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：コマーシャルメッセージについて調べる 授業：「映像を読む（ポスター、テレビコマーシャルなど）」 復習：「映像を読む」についてレポートを書く</p> <p>【第2回】 予習：表現（作品）のジャンルについて調べる 授業：「表現の現場（マンガとコンテ、ゲーム制作など）」 復習：「表現の現場」についてレポートを書く</p> <p>【第3回】 予習：設定したテーマでイメージを表現する 授業：「表現の技術（イメージ、記号化、メッセージなど）」 復習：「表現の技術」についてレポートを書く</p> <p>【第4回】 予習：紙芝居を読む 授業：紙芝居「紙芝居の読み方」（ディスカッション） 復習：もう一度、紙芝居を読む</p> <p>【第5回】 予習：ストーリーを作る 授業：紙芝居「紙芝居の作り方」（ディスカッション） 復習：ストーリーを決める</p> <p>【第6回】 予習：ページ構成を考える 授業：紙芝居「アイデアの出し方」（ディスカッション） 復習：ページ構成を決める</p> <p>【第7回】 予習：紙芝居を作る 授業：紙芝居「画面の作り方」（ディスカッション） 復習：レイアウトを決める</p> <p>【第8回】 予習：紙芝居を仕上げる 授業：発表「紙芝居のまとめ方」（ディスカッション） 復習：紙芝居を校正する</p> <p>【第9回】 予習：紙芝居を読む 授業：発表「紙芝居を演じる」（発表） 復習：紙芝居を装丁する</p> <p>【第10回】 予習：絵本を読む 授業：絵本「絵本の読み方」 復習：もう一度、絵本を読む</p> <p>【第11回】 予習：ストーリーを作る 授業：絵本「絵本の作り方」 復習：ストーリーを決める</p> <p>【第12回】 予習：ページ構成を考える 授業：絵本「アイデアの出し方」 復習：ページ構成を決める</p>			

<p>【第13回】          予習：絵本を作る          授業：絵本「画面の作り方」          復習：レイアウトを決める          【第14回】          予習：絵本を仕上げる          授業：発表「絵本のまとめ方」          復習：絵本を校正する          【第15回】          予習：絵本を読む          授業：発表「絵本を読み聞かせる」(発表)          復習：絵本を装丁する</p>								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	グループディスカッションで個別に回答し、プレゼンテーションで総括する。							
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。							
参考書	授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○	◎		○	
関連科目	前期の「企画と表現」を学ぶことで、「考え抜く力、チームで働く力」がバランスよく身につく。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版”で”教育する」という取り組みを実践している。							

科目名称	文化人類学		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Anthropology	授業区分	講義
科目責任者	春日 聡	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	春日 聡	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>文化人類学は、私たちが現在暮らしている社会、人々、共同体、家族、社会構造などの比較を通して、自文化を再考することで固定的な考え方を相対化し、人間の本質を考えていく学問である。</p> <p>本講義では、文献資料や静止画像（写真）からでは捉えることのできない「連続した時間の体験としての映像」によって、文化人類学の研究対象、あるいは「見えないもの」「聞こえないもの」について考える。</p> <p>「見えないもの」「聞こえないもの」とは何か。一例を挙げると、映像は、時間も空間もいま・ここから隔たったものを映し出す。昔撮影された映像は、過去に見えていたものを現在ふたたび見えるようにする。現在見えているものは、やがて見えなくなる可能性がある。映像は、現在を残し、未来にふたたび見ることができるのだ。もう一例を挙げると、人間は自分自身の姿を見ることは不可能だが、映像によって見ることができる。そして映像を撮る人間についても考えてみよう。撮影者が撮影中に見えていなくても、映像を再生すれば見ることがあるのだ。</p> <p>本講義では、人間による様々な営みと自然の関係について、映像を通し多角的に考察する。</p>		
到達目標	<p>映像によって映し出された「自文化」と「異文化」の比較、あるいは、事象の異質性と、背景に潜む普遍性を理解し、語る能力を身につける。</p> <p>また、それらについて文化人類学的な視点から理解を深め、私たちが持つ固定的な文化像を批判的に論じ、再考する能力を身につける。</p> <p>人間が映像を必要とする理由、映像と人間についての関係について考察し、共有する能力を身につける。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化人類学」  授業：イントロダクション「人間と文化」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第2回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ジョン・マーシャル、チャールズ&amp;レイ・イームズ」  授業：ここではないどこか「映像とは何か、民俗誌とは何か」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第3回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「サイレント、トーキー」  授業：映像史を映像で学ぶ「動く画、シンクロする音」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第4回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「民族誌映画」  授業：映し出された人間「映像と人類学」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第5回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「日本の神々、一神教、多神教」  授業：日本列島における信仰-1「神仏習合」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第6回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「遠藤周作／マーティン・スコセッシ『沈黙』」  授業：日本列島における信仰-2「キリスト教の受容」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第7回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「宗教人類学」  授業：信仰と世界観「宗教人類学」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第8回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「年中行事」  授業：暦・記念的儀礼「農耕儀礼」  復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p>			

<p>【第9回】            予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「人生儀礼」            授業：人生における段階「通過儀礼」            復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第10回】            予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「死者儀礼」            授業：人間と死「死者儀礼」            復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第11回】            予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「野生の思考」            授業：環境・技術・もの人類学            復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第12回】            予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「シャーマニズム」            授業：治癒と公益の儀礼-1「祭りとヘルスケアシステム」            復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第13回】            予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「無意識と創造性」            授業：治癒と公益の儀礼-2「無意識と創造性」            復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第14回】            予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「エクスタシーの人類学」            授業：自然の内奥を感得する「エクスタシーの人類学」            復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出</p> <p>【第15回】            予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「基層文化とつくりだされた伝統」            授業：まとめ：文化像を再考する方法            復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、期末レポートの提出</p>								
授業開始前学習	日常生活で現実的に出会う「異文化」や、テレビ・インターネットなどのメディアを通して、自分とは異なる文化、習慣などに気づいたら、メモを取り、そのことについて考えておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	本講義では、Google Classroom を利用し、(1) 講義レジュメの各自への配付、(2) 講義を受講した後、翌週火曜日までに提出するリアクションペーパーの配付と提出、(3) 講義で視聴する視聴覚資料の共有、をおこなう。提出されたリアクションペーパーの内容による適宜見直しをおこなう。また、必要に応じ記述内容を適宜、講義内で紹介してコメントする。							
テキスト・教材	毎回、講義レジュメ（掲示スライドのプリントアウト）を配付する。市販の書籍を教科書としては使用しない。参考資料（文献・Web サイト等）は、適宜配付レジュメに明記する。							
参考書	綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 2006 同『詳論 文化人類学 基本と最新のトピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房 2018 祖父江孝男『文化人類学入門 <増補改訂版 >』中央公論新社（中公新書）1990 波平恵美子『文化人類学 <カレッジ版 >』第2版医学書院 2002							
評価の基準と方法	期末レポート(50%)、講義ごとに提出するリアクションペーパー(30%)、受講態度(20%)。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		○			
関連科目								
その他	講義資料として映像・音声資料を豊富に提示する。批判的に読み解いて欲しい。 なお、受講者数や理解度により授業の予定を変更することもある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、フィールドワークに基づく民族誌映画の制作者である。映像と人間の関係および、映像と文化人類学の理論と実践における課題、可能性について講義する。							

科目名称	☆社会学研究 I / 文化社会学 I		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Sociology Research I / Culture and Society I	授業区分	講義
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	現代社会の諸問題について理解するために、まず、戦後の日本社会を概観する。そのうえで、現代社会における「格差」「グローバル化」「ネオリベリズム」「リスク社会」等の問題について説明を行う。講義では具体例を取り上げるが、それら様々な事象が相互に関連していることや、その歴史的背景を理解することに重点を置く。また、分析のために必要な社会学理論や用語の紹介も行う。		
到達目標	到達目標は、第一に、戦後日本の社会史を理解すること、第二に、「格差」「グローバル化」「ネオリベリズム」「リスク社会」等を考えることを通して、現代社会の抱える問題について思考する力を獲得することである。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第 1 回  予習：新聞等でニュースに触れる  授業：諸注意事項、講義の進め方の確認 / 「時代を捉える」とは  復習：現代を象徴する事件や出来事を考える</p> <p>第 2 回  予習：日本の戦後史を復習する  授業：日本の戦後～終戦から 60 年ごろまで  復習：冷戦構造が描かれている作品を探す</p> <p>第 3 回  予習：高度成長期を象徴する事件や出来事を考える  授業：日本の戦後～高度成長期①  復習：産業構造の変容を身の回りの事例で確認する</p> <p>第 4 回  予習：「普通」の家族とは何か考える  授業：日本の戦後～高度成長期②  復習：日本の近代家族の成立を確認する</p> <p>第 5 回  予習：オイルショックについて調べる  授業：日本の戦後～ポスト高度成長期  復習：90 年代を象徴する文化を調べる</p> <p>第 6 回  予習：自分の消費行動の傾向を振り返る  授業：消費社会論  復習：ポードリヤールの消費社会論を確認する</p> <p>第 7 回  予習：日本における「格差」の現状を調べる  授業：「格差社会」とは  復習：90 年代以降の日本における「格差」を確認する</p> <p>第 8 回  予習：格差の再生産の事例を調べる  授業：教育と再生産  復習：「再生産」概念を確認し、あるべき社会像を考える</p> <p>第 9 回  予習：グローバル化とは何か調べる  授業：世界システム論、グローバル化と格差  復習：グローバル化の問題点を確認する</p> <p>第 10 回  予習：リベリズムについて調べる  授業：ネオリベリズム①：リベリズムとは何か  復習：ネオリベリズムと格差の拡大の関係を確認する</p>			

<p>第 11 回          予習 : 「働き方改革」について調べる          授業 : ネオリベリズム② : ネオリベリズムの諸相          復習 : 身近な事例におけるネオリベリズムの進展を確認する</p> <p>第 12 回          予習 : 自分の人生の「リスク」について考える          授業 : リスク社会          復習 : 安心・安全と自由の関係について自分なりに整理する</p> <p>第 13 回          予習 : 身の回りの差別について考える          授業 : 現代社会の差別の構造          復習 : 差別のない社会の実現に何が必要かを考える</p> <p>第 14 回          予習 : 日本国憲法について調べる          授業 : 日本の「戦後」の変わり : 「憲法改正」を考える          復習 : 「憲法改正」の問題点を確認する</p> <p>第 15 回          予習 : これまでの授業内容を復習する          授業 : 現代社会のゆくえ          復習 : 課題レポートにとりくむ</p>								
授業開始前学習	日ごろから広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に接すること。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題は基本的に Google フォームで課し、翌回の授業で、課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。 授業中にレジュメを配布する。							
参考書	授業中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業への取り組み（授業内課題を含む、60%） + 最終課題レポート（40%） ※単位の修得には全授業回数数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 ※詳細については、初回授業で説明する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は、社会学の基礎を学ぶ科目である。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、講義の進捗状況や社会情勢等の都合から変更する場合もある。</li> <li>・授業中の私語は禁止する。</li> <li>・講義担当教員による専門ゼミの履修者・履修予定者に対しては、本講義の受講を推奨する。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	☆社会学研究Ⅱ／文化社会学Ⅱ		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Sociology Research Ⅱ／Culture and Society Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	さまざまなポピュラー文化（文芸・映画・テレビドラマ等）を通して、私たちの社会を捉える講義である。とくに、1980年代から2000年代の作品に焦点をあて、作品を紹介・概説しながら、それらを社会とのかかわりから読み解いていく。それらを踏まえ、学生には自分たちの時代（2010年以降）の作品と社会について考えてもらいたい。受講者には社会的な諸問題およびポピュラー文化に対する強い関心が求められる。授業ではグループワークによるプレゼンを行う。		
到達目標	到達目標は、映画やテレビドラマ等の文化に触れ、それらを批判的に読み解く視座を獲得すること、そして、自分たちの社会に対して批判的に思考すること、その上で、社会のさらなる可能性への想像力を養うことである。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：現代社会を象徴する作品をひとつ挙げる 授業：授業の進め方・「文化」研究とは 復習：各自関心のある作品を紹介する</p> <p>【第2回】 予習：日本の「消費社会」について調べる 授業：80年代の日本社会①～『なんとなく、クリスタル』 復習：両作品の相違を整理する</p> <p>【第3回】 予習：前回授業で紹介された作品について調べる 授業：80年代の日本社会②～『PINK』 復習：消費社会論について理解する</p> <p>【第4回】 予習：90年代の日本社会について調べる 授業：90年代の日本社会①～『リパース・エッジ』 復習：消費社会におけるアイデンティティの危機について整理する</p> <p>【第5回】 予習：90年代に流行したテレビドラマ等を調べる 授業：90年代の日本社会②～性、死、トラウマをめぐって 復習：授業で紹介した作品のうち一つを選んで視聴（講読）する</p> <p>【第6回】 予習：『新世紀エヴァンゲリオン』ブームについて調べる 授業：90年代の日本社会③～『新世紀エヴァンゲリオン』 復習：社会の心理主義化についてプリントを読んで整理する</p> <p>【第7回】 予習：2000年代の日本社会について調べる 授業：2000年代の日本社会①～『バトル・ロワイアル』 復習：格差社会について理解する</p> <p>【第8回】 予習：授業で紹介された作品を視聴する 授業：2000年代の日本社会②～ネオリバリズム 復習：2000年代と日本のネオリバリズムについてミニレポートをまとめる</p> <p>【第9回】 予習：『野ブタをプロデュース。』（ドラマ）について調べる 授業：2000年代の日本社会③～バトル・ロワイアルをどう乗り越えるか 復習：プレゼングループでブレインストーミング</p> <p>【第10回】 予習：課題作品について調べる 授業：課題作品を視聴する① 復習：印象に残ったシーンなどをメモしておく</p>			



<p>【第 11 回】          予習：前回のメモを見直す          授業：課題作品を視聴する②          復習：グループで意見を出し合う</p> <p>【第 12 回】          予習：グループ内で出た意見を共有          授業：プレゼン作成①～資料作成（グループワーク）          復習：プレゼン資料を完成させる</p> <p>【第 13 回】          予習：プレゼンの練習          授業：プレゼン作成②～資料完成とプレゼン練習（グループワーク）          復習：プレゼン練習を行う</p> <p>【第 14 回】          予習：プレゼンの練習と改善点の整理          授業：プレゼン発表①（グループワーク、プレゼンテーション）          復習：プレゼンに対するコメントをメモ</p> <p>【第 15 回】          予習：プレゼンの練習と改善点の整理          授業：プレゼン発表②（グループワーク、プレゼンテーション）          復習：プレゼンに対するコメントをメモ</p>								
授業開始前学習	日ごろから、テレビドラマや映画、小説などに触れること。							
授業内課題の フィードバックの方法	適宜、課題を課し、それに対する全体的な講評を行う。 また、課題をもとにディスカッション等を行うこともある。その場合も、全体の講評を行い、個別の質問があればそれらに回答する。							
テキスト・教材	特に指定しない。適宜、資料を配布する。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法	授業への参加度（授業内課題を含む、60%）と最終課題（40%）によって評価する。 なお、単位の修得には、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○		
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。							
その他	・【授業内容】に記載したスケジュールは、講義の進捗状況や履修者の数、履修者の受講環境、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	家族と現代社会		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Family and Contemporary Society	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 宏子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 宏子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	私たちは特殊な例を除いて、家族の中で生まれ育てられる。家族はあまりにも身近な存在であるために、家族について自分なりの見解をもち確信をもって語る者も少なくない。しかしそれは、個人の私的体験の範囲内で得た情報をベースにしている場合が多い。「家族」の歴史的な歩みを理論的・実証的に理解するとともに、家族に関する概念や客観的データ、現代社会の動きおよび国際的な状況を視野に入れながら、現代日本の家族について科学的・体系的に講義する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少子高齢社会、大衆長寿社会、人口減少社会などの現状と課題を学び、現代社会と個人・家族の変化、個人・家族・地域社会の関係性について理解できるようになる。</li> <li>2. 家族研究の各領域について事実に基づいた科学的な説明ができるようになる。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：シラバスで授業内容を確認する。  授業：家族と現代社会を学ぶにあたって  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第2回】  予習：自分が毎日の生活でよく使っている便利なモノについて考える。  授業：日本のイノベーションと生活革命  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第3回】  予習：明治期から今日までの産業別就業人口の推移について調べる。  授業：家族の変遷－近代家族の成立過程－  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第4回】  予習：第1回から第3回に学んだ授業の内容を振り返る。  授業：日本人の生活構造とライフスタイルの変化  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第5回】  予習：現代家族にはどのような機能があるかについて考える。  授業：変化する現代家族の機能と役割  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第6回】  予習：「大人になる」とは自分にとって具体的にどのようなことかを考える。  授業：若者と家族－青年期の自立の課題、親子関係の課題－（グループディスカッション）  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第7回】  予習：人生における結婚や同棲の必要性について考える。  授業：パートナーの選択と結婚（グループディスカッション）  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第8回】  予習：若者の結婚難にはどのような対策が必要か考えてみよう。  授業：日本と海外の結婚の動向・結婚制度  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第9回】  予習：日本における離婚の種類について調べる。  授業：離婚・再婚とステップファミリー  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第10回】  予習：第7回から第9回に学んだ内容を振り返る。  授業：現代家族とジェンダー（1）－私たちに潜む先入観－（グループディスカッション）  復習：第9回授業で自分が書いた漫画の吹き出しから気づいたことをノートにまとめる。</p> <p>【第11回】  予習：日本の男性が抱えている問題について考える。  授業：現代家族とジェンダー（2）－日本社会が抱える男性問題－  復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第12回】  予習：ジェンダーギャップ指数について調べる。  授業：労働と家族－ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画社会の形成－  復習：日本政府・企業・地方自治体の取り組みについて学修した感想をノートにまとめる。</p>			

<p>【第13回】          予習：「一つの声を持ちながら、朝は四本足、昼は二本足、夕は三本足」この生き物は何か？          授業：ライフサイクル・ライフコース          復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。</p> <p>【第14回】          予習：少子化の指標と原因について調べる。          授業：少子化の動向、子どもの格差と貧困          復習：「子どもの必需品」の意識調査結果について日英比較し、両国の違いをノートにまとめる。</p> <p>【第15回】          予習：高齢者イメージについて考える。          授業：超高齢社会における高齢者と高齢期の課題          復習：従来の枠にとらわれずに生きる高齢者から学んだことをノートにまとめる。</p>								
授業開始前学習	新聞などに掲載される家族に関する記事、ニュース等で報道される家族に関する話題に日頃から興味・関心を持ってください。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業で講評し、各質問に答える。							
テキスト・教材	適宜、講義内で資料を配布する。							
参考書	『現代家族を読み解く 12 章』丸善出版 2018、『改訂 新しい家族関係学』建帛社 2019、『わかりやすい現代家族 第2版』ミネルヴァ書房 2016							
評価の基準と方法	平常点、レポートで行う。配点（100点満点における）は平常点（リアクションペーパー）30点、レポート70点とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	授業の進捗状況によって、内容を変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	環境問題と市民		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Environmental Problems and Citizens	授業区分	講義
科目責任者	浅岡 みどり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅岡 みどり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>私たちの豊かな暮らしは、自然生態系の破壊と表裏一体です。近年の気候変動の加速は自然災害を多発、激甚化させ、私たちの生活を脅かしています。この先、自然と人間は共生していけるのでしょうか？本講義では、この問いを念頭に置きながら、身近な日常生活に見え隠れする環境問題を深掘りし、持続可能な社会を築いていくための想像力を養います。まず、環境とは何か、身近な環境問題には何かがあるかを考えます。次に地球環境問題や公害問題、自然災害、グローバルな食や農が抱える問題について知り、その対策として自然保護運動、環境教育、公害問題に関わる住民運動、食農教育などの市民活動・地域活動の事例とその課題を見ていきます。それらの社会の動きを参考に、消費者の立場から衣・食・住に潜む環境問題と持続可能性の課題を再発見し、身近な農業・地域・自然の課題として捉え直します。これら全講義を通して、環境問題について考え、その解決の可能性を受講者とともに模索していきます。</p>		
到達目標	<p>環境問題をグローバルな視野を持ちつつローカルの視点で、一市民として、また自分事として捉える洞察力を鍛え身につけることが、本講義の到達目標となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題を多角的に捉えられるようになる</li> <li>・自らの持続可能性の課題に気づく</li> <li>・消費者の立場から、生産者やそれを取り巻く自然環境への想像力を養う</li> <li>・様々な市民活動から学び、自らの日常実践のヒントにする</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：身近な環境問題とは何か、自分の課題として何があげられるか考えてくる  授業：イントロダクションー本講義の方向性とねらいー  復習：本講義の環境問題へのアプローチの方法について復習しておく</p> <p>【第2回】  予習：身近な環境問題の解決方法にどのようなものがあるか調べておく  授業：環境とは何か？環境問題とは何か？その解決法について  復習：自分の課題として捉える環境問題の解決方法の可能性を考える</p> <p>【第3回】  予習：地球環境問題とは何か調べてくる  授業：地球環境問題と持続可能性  復習：自分にとって持続可能性とは何か考え、地球環境問題とのかかわりを考える</p> <p>【第4回】  予習：公害が人々や地域に与えた影響について調べておく  授業：公害問題と住民運動・農家の試み  復習：公害について知り、公害問題に対する住民運動とその地域の人々の農業を通じた試みについて理解を深めておく</p> <p>【第5回】  予習：自然保護・自然災害・自然を生かしたビジネスにはそれぞれどのようなものがあるか調べておく  授業：自然保護運動・自然災害対策・自然を生かしたビジネス  復習：授業で扱った自然保護運動の歴史的な流れ、昨今の自然災害対策、自然を利用したビジネスの可能性について理解を深めておく</p> <p>【第6回】  予習：環境教育とはどういうものか調べておく  授業：環境教育・市民教育について  復習：授業で扱った環境教育・市民教育について理解を深めておく</p> <p>【第7回】  予習：環境問題として考えられる食について調べておく  授業：食から考える環境問題  復習：食からみる環境問題を社会的に捉えてみる</p> <p>【第8回】  予習：環境問題として考えられるファッションについて調べておく  授業：ファッションから考える環境問題  復習：ファッションからみる環境問題を社会的に捉えてみる</p> <p>【第9回】  予習：環境問題として考えられる住環境について調べておく  授業：住環境から考える環境問題  復習：住環境からみる環境問題を社会的に捉えてみる</p> <p>【第10回】  予習：伝統野菜、遺伝子組み換え種子の違いを調べておく  授業：伝統野菜の種と遺伝子組み換え種子  復習：農業の歴史と伝統野菜の種、遺伝子組み換え種子の現代的課題について復習しておく</p>			

<p>【第11回】          予習：グローバルフードシステムとは何か、またその課題を調べておく          授業：グローバルフードシステムと格差－ファーストフードからオーガニック・フェアトレードまで－          復習：食をめぐる国際格差、経済格差、人種差について理解を深めておく</p> <p>【第12回】          予習：農業が及ぼす環境問題と持続可能性について調べておく          授業：オルタナティブな農業とアグロエコロジー          復習：アグロエコロジーとはどういう試みか整理しておく</p> <p>【第13回】          予習：地域の食と農の試みについて調べておく          授業：学校給食と食農菜園教育という試み          復習：食農教育の可能性について理解を深めておく</p> <p>【第14回】          予習：大学周辺の自然や農業について調べておく          授業：多摩丘陵の自然と農業と環境問題－都市的自然・都市農業－          復習：身近な多摩地域の環境問題を再確認し、都市的自然・都市農業の意義を確認する</p> <p>【第15回】          予習：これまで学んだ講義について復習しておく          授業：環境問題の解決と実践にむけて          復習：各講義を踏まえて、身近な環境問題の解決とその実践について考えをまとめておく</p>								
授業開始前学習	身近な環境問題について考え、その解決法としてどのようなものがあるか調べておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義内で提出いただいたリアクションペーパーに基づいてフィードバックを行います。適宜、講義内でリアクションペーパーに対する応答をすることにより、双方向性を確保します。							
テキスト・教材	適宜、レジュメ及び資料を配布します。							
参考書	『講座 環境社会学－自然環境と自然文化』第3巻（鳥越皓之編・有斐閣・2001） 『講座 環境社会学－環境運動と政策のダイナミズム』第4巻（長谷川公一編・有斐閣・2001） 『環境の社会学』（関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著・有斐閣・2009） 『環境教育』（日本環境教育学会編・2012） 『食と農の社会学－生命と地域の視点から』（立川雅司・谷口吉光・榎形俊子著・ミネルヴァ書房・2014） 『食農で教育再生－保育園・学校から社会教育まで－』（鈴木善次（監修）・朝岡幸彦・菊池陽子・野村卓（編著）・農文協・2007） 『消費社会を問い直す』（貞包英之著・筑摩書房・2023） 『みな、やっとの思いで坂をのぼる－水俣病患者相談のいま』（永野三智著・ころから・2018） 'Agroecology :The Ecology of sustainable Food Systems'（Gliessman, S.・3rd Edition, Florida: CRC Press・2015） その他講義中に適宜指示します。							
評価の基準と方法	最終レポート（50%）、リアクションペーパー（50%）							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	講義でとりあげる課題や事例は、受講者の関心や社会状況等に合わせて、変更する場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	子ども向け菜園教育指導の経験があり、実践的な内容を交えた講義をする。過去十年間、米国カリフォルニア州におけるオルタナティブな農業や食の国際的・地域的・実践の参与観察を行い、学生研修の引率と通訳を行ってきた実務経験から先進的な事例を踏まえて講義を行う。							

科目名称	☆国際社会論／現代国際社会		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory in International Society／Contemporary International Society	授業区分	講義
科目責任者	野崎 孝弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎 孝弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この講義の目的は、(1) 南北問題と世界経済、国際機関に関する基本的な知識を身につけていくこと、(2) 自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくことの二点にある。「南北問題の解決に向けた近年の取り組み」から「国際連盟」や「国際連合」を経て「欧州連合」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。		
到達目標	(1) 南北問題と世界経済、国際機関に関する基本的な知識を習得することができる。 (2) 地域紛争と国際機関との関わりを、実例を通じて理解することができる。 (3) 自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
以下を予定している。			
【第1回】 予習： なし 授業： ガイダンス（受講上の諸注意）、南北問題（1）—近年の取り組み—（問題解決型学習） 復習： S D G s の目標5で日本が低評価を受けた理由の一つである「男女間の労働格差」について調べてみる			
【第2回】 予習： 適宜指示する 授業： 南北問題（2）—日本の開発援助政策—（問題解決型学習） 復習： 日本の開発援助政策の特色について簡潔にまとめてみる			
【第3回】 予習： 適宜指示する 授業： 世界経済（1）—グローバル化の功罪—（問題解決型学習） 復習： 肯定的見解と否定的見解の双方について引き続き考えてみる			
【第4回】 予習： 適宜指示する 授業： 世界経済（2）—ファストファッションの光と影—（問題解決型学習） 復習： 他の製品についても同じようなことが言えないか自主的に調べてみる			
【第5回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連盟、国際連合（1）—設立の経緯—（問題解決型学習） 復習： 国際連盟と国際連合の違いについて簡潔にまとめてみる			
【第6回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（2）—主要機関と補助機関—（問題解決型学習） 復習： 六つの主要機関の特色について簡潔にまとめてみる			
【第7回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（3）—専門機関—（問題解決型学習） 復習： それぞれがどのような取り組みを行っているのかを自主的に調べてみる			
【第8回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（4）—関連機関、国連N G O—（問題解決型学習） 復習： それぞれがどのような取り組みを行っているのかを自主的に調べてみる			
【第9回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（5）—平和維持活動—（問題解決型学習） 復習： 国連による平和維持活動の原則について簡潔にまとめてみる			
【第10回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（6）—日本とP K O—（問題解決型学習） 復習： P K Oにおける自衛隊の活動の現状について簡潔にまとめてみる			
【第11回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（7）—積極的平和主義？—（問題解決型学習） 復習： P K Oにおける自衛隊の活動の課題について簡潔にまとめてみる			
【第12回】 予習： 適宜指示する			



授業： 国際連合（８） —国連の財政、憲章改正問題— （問題解決型学習）  
復習： 以前に学習した「安保理改革」について自主的に調べてみる  
【第 13 回】  
予習： 適宜指示する  
授業： 欧州連合（１） —ヨーロッパ統合の歩み— （問題解決型学習）  
復習： ヨーロッパ統合の歴史について簡潔にまとめてみる  
【第 14 回】  
予習： 適宜指示する  
授業： 欧州連合（２） —ブレグジットと E U— （問題解決型学習）  
復習： E U 離脱後のイギリス社会の現状について自主的に調べてみる  
【第 15 回】  
予習： 適宜指示する  
授業： 欧州連合（３） — E C / E U の制度 — （問題解決型学習）  
復習： 欧州議会の権限が強化されてきた理由について簡潔にまとめてみる

授業開始前学習									
授業内課題の フィードバックの方法	特に、論理構成力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、関係づけができていない箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。								
テキスト・教材	毎回授業時にレジュメを配布する。								
参考書	適宜、授業内で指示する。								
評価の基準と方法	計 3 回の小テストと授業内課題の累計で評価を行う。合格点は 60 点以上とする。								
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	○				◎	△			
関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ、戦争と平和の歴史Ⅱ、国際社会への誘い、日本の政治、世界の政治								
その他	(1) あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 (2) 授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 (3) 配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									



科目名称	グローバル論		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Globalism Theory	授業区分	講義
科目責任者	足立 真理	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立 真理	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	グローバル論とは何か、グローバル論がもたらす影響とはを基本的な仕組みから始まり、世の中がどのようにまわっているのかを考えていく。 日本経済はグローバル論とは切ってもきれない関係であることを学び、グローバル経済リテラシーを高める。日々の経済ニュースが意味するものが何かを読み解いていく。		
到達目標	世の中の様々なニュースや事象について、その関係性も含めて判断できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習： グローバル論が使われる場面を事前に調べておく  授業： ガイダンス グローバル論を学ぶ意味  復習： グローバル論の現場とはどういうところかを復習する</p> <p>【第2回】  予習： グローバル論とは何かを調べておく  授業： グローバル論とは  復習： グローバル論の現状と課題</p> <p>【第3回】  予習： 100円ショップで売られている商品はどこで作られているかを調べる  授業： 商品・サービスのグローバル化  復習： 100円ショップに行ってみて、確認する</p> <p>【第4回】  予習： 日本企業の海外拠点がどこにあるかを調べる  授業： 企業活動のグローバル化  復習： 多国籍企業について調べる</p> <p>【第5回】  予習： 金融市場とは何かを調べておく  授業： 金融、投資のグローバル化  復習： グローバル投資の現状を復習する</p> <p>【第6回】  予習： 人の移動について調べておく  授業： 労働のグローバル化  復習： 日本在住の外国人に必要な在留資格とは何かを調べる</p> <p>【第7回】  予習： アメリカがグローバルスタンダードとなっていることとは何かを調べておく  授業： 「アメリカ化」としてのグローバル化  復習： デイズニーランドについて調べる</p> <p>【第8回】  予習： 海外で人気の日本食はどのようなものがあるかを調べる  授業： 消費文化のグローバル化  復習： 日本文化が海外でどのように変化しているのかを考える</p> <p>【第9回】  予習： 地球規模の環境問題を調べる  授業： 環境問題とグローバル化  復習： 世界的な環境問題の解決策をピックアップする</p> <p>【第10回】  予習： 身近なグローバル化を探る  授業： グローバル化を国民生活  復習： 日々の生活に密接な関係を持つグローバル化を探る</p> <p>【第11回】  予習： グローバル論がもたらすメリットについて事前に調べておく  授業： グローバル論がもたらすメリット①～豊かさを享受  復習： グローバル論の好影響についてまとめる</p> <p>【第12回】  予習： グローバル論がもたらすその他のメリットについて事前に調べておく  授業： グローバル論がもたらすメリット②～多様性の受容  復習： グローバル論のその他の好影響についてまとめる</p> <p>【第13回】</p>			

予習： グローバリズムによる貧富の格差とは何かを考えておく 授業： グローバリズムが生み出す課題①～貧富の格差 復習： グローバリズムの課題についてまとめる 【第 14 回】 予習： グローバリズムによる多民族社会化とは何かを考えておく 授業： グローバリズムが生み出す課題②～多民族社会の影響 復習： グローバリズムの課題についてまとめる 【第 15 回】 予習： これまでのふりかえり、自分の気づきをまとめておく 授業： 総括および理解度の確認 復習： これからの時代に必要なスキルを考える								
授業開始前学習	新聞、テレビなどで世界情勢の現状を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、実際のペーパー、あるいはオンラインにて個別にフィードバックする							
テキスト・教材	インターネット上の動画を観たり、ドキュメントを参考にした課題を出す予定です。ネット環境を確認しておいてください。							
参考書	「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」(足立真理 著)を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。							
評価の基準と方法	授業への参加と理解度合い (60%)、レポート提出 (40%)							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい世界情勢を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。							

科目名称	社会学特論		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Advanced Lecture on Sociology	授業区分	講義
科目責任者	清水 拓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	清水 拓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、石炭産業を題材にエネルギー産業と社会のかかわりについて学ぶ。石炭は人間とのかかわりにおいて長い歴史をもつエネルギーである。近代化と密接にかかわる産業革命において、石炭はその主役だった。石炭は過去のものと思われがちで、現代社会とは一見関係のないようにみえるが、石炭産業が先行事例として積み上げてきた経験（たとえば、産業政策、離職者対策、地域振興など）は、現在の日本社会を理解するうえでも多くの示唆に富んでいる。さらに近年は「軍艦島」に代表される産業遺産としての関心も高まっている。なにより石炭は現在でも日本の電力の3割を担っている。全15回の授業を通じて、様々な切り口から石炭というエネルギーと人間の営みの関係をみていく。エネルギー・資源をめぐる今日的な課題についても考えるきっかけとしたい。		
到達目標	総合産業である石炭産業の学習を通じて、エネルギー産業と社会のかかわりについて理解を深める。また、世界的に脱炭素社会への転換が急速に進行している現在において、エネルギー・資源と社会のかかわりについても知識を修得する。くわえて、授業を通して石炭産業を様々な切り口から学習することを通じて、具体的に何かを対象にして事例研究をおこなう際に、多様な視点が存在することを理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：シラバスに目を通す 授業：ガイダンスとイントロダクション 復習：今後の授業の進め方を再確認する			
【第2回】 予習：「軍艦島」「廃墟ブーム」について調べる 授業：産業遺産と石炭産業 復習：授業内容を再確認する			
【第3回】 予習：資源エネルギー庁のWebサイトにアクセスし、『エネルギー白書』に目を通す 授業：電力を中心とした戦後日本エネルギー史 復習：授業内容を再確認する			
【第4回】 予習：第3回の配布資料を再読み、戦後のエネルギー史を再確認する 授業：日本石炭産業史（1）：幕末から1950年代まで 復習：授業内容を再確認する			
【第5回】 予習：第4回の配布資料を再読み、石炭産業史の前半を再確認する 授業：日本石炭産業史（2）：1960年代から現在まで 復習：授業内容を再確認する			
【第6回】 予習：「山本作兵衛炭鉱記録画」について調べる 授業：石炭産業における技術と労働 復習：授業内容を再確認する			
【第7回】 予習：「三井三池炭鉱三川坑炭じん爆発事故」について調べる 授業：石炭産業における労働災害 復習：授業内容を再確認する			
【第8回】 予習：「労働三権」について調べる 授業：石炭産業と労働組合 復習：授業内容を再確認する			
【第9回】 予習：映画『フラガール』を視聴する 授業：炭鉱労働者の生活・文化 復習：授業内容を再確認する			
【第10回】 予習：『筑豊のこどもたち』『にあんちゃん』について調べる 授業：炭鉱閉山と労働者・家族 復習：授業内容を再確認する			
【第11回】 予習：「企業城下町」について調べる 授業：炭鉱閉山と地域社会 復習：授業内容を再確認する			

<p>【第12回】  予習：「パリ協定」について調べる  授業：環境問題と石炭  復習：「脱炭素社会」に向けた日本の動向を調べる</p> <p>【第13回】  予習：「JOGMEC 石炭資源情報」Web サイトから「海外石炭情報」を閲覧する  授業：海外の石炭産業（1）：アジア産炭国を中心に  復習：日本との相違点を考える</p> <p>【第14回】  予習：期末レポートの準備に取り組む  授業：海外の石炭産業（2）：ヨーロッパ産炭国を中心に  復習：日本との相違点を考える</p> <p>【第15回】  予習：期末レポートの準備に取り組む  授業：授業内容の総括  復習：これまでの授業内容を再確認する</p>								
授業開始前学習	炭鉱社会を舞台にした下記のいずれかの映画を鑑賞することが望ましい。 『フラガール』（日 2006） 『パレードへようこそ』（英 2014） 『リトルダンサー』（英 2000） 『プラス!』（英米 1996） 『幸福の黄色いハンカチ』（日 1977）							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、出席確認を兼ねたりアクションペーパーを配布・回収し、次回以降、適宜フィードバックする。							
テキスト・教材	特に定めない。適宜、講義内にて資料を配布する。							
参考書	中澤秀雄・嶋崎尚子，2018，『炭鉱と「日本の奇跡」——石炭の多面性を掘り直す』青弓社。							
評価の基準と方法	平常点（授業参加の積極度・課題提出）60%、期末レポート 40%。なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席と期末レポートの提出を必要とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	職業の世界		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Career and Workplace	授業区分	講義
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	「企業組織における労働を、人びとの日常生活との関わりのなかで捉えることによって、わたしたちにとって身近で切実な問題として社会的に掘り下げて考察してみよう」というのが本講のねらいです。日本のホワイトカラーの職場をおもな考察対象に取り上げ、その「現場」について具体的に紹介しつつ、職場世界における諸現象、および、オフィス・ワーカーたちの働き方、女性労働をめぐる諸課題、人びとの社会生活と企業との関わりを社会的・現代社会論的視点から考察します。		
到達目標	次の3点が目標です。 1. 日本の職場世界とホワイトカラーの業務について現実的なイメージをつかむ 2. 組織のなかで個人が期待される役割を個人行動との比較の視点で理解する 3. 女性が働く環境とその課題について理解する		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンスとイントロダクション 復習：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。</p> <p>【第2回】 予習：【第1回】の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業：ホワイトカラー労働の特質 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第3回】 予習：「サラリーマン・OL」のイメージについてまとめてください。 授業：日本のカイシャ —— 日本企業の職場世界（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第4回】 予習：“サラリーマンの一日の仕事”について Web 等で情報収集してみてください。 授業：ホワイトカラーの業務（課題解決型学習・グループワーク） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。</p> <p>【第5回】 予習：「日本的経営」についてリサーチしてください。 授業：ホワイトカラーの組織とキャリア形成 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第6回】 予習：いくつかの企業 HP（「会社概要」欄）から社内の部署・組織構成についてリサーチしてください。 授業：組織における情報伝達（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。</p> <p>【第7回】 予習：ビジネス文書の書き方についてリサーチしてください。 授業：官僚制と組織コミュニケーション（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。</p> <p>【第8回】 予習：「事業化調査」（feasibility study）についてリサーチしてください。 授業：企画と執行 —— 仕事の段取り（課題解決型学習・グループワーク） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第9回】 予習：『管理される心』（ホックシールド、2000）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください（インターネット等で（以下同様））。 授業：マクドナルド化と感情マネジメント（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p>			

<p>【第10回】            予習：日本の産時・育児休業制度の現状についてリサーチしてください。            授業：女性労働の現状と課題（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第11回】            予習：『若者はなぜ3年で辞めるのか？』（城繁幸、2006）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。            授業：年功制と成果主義・能力主義（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第12回】            予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。            授業：職場規範と人間関係（課題解決型学習）            復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。</p> <p>【第13回】            予習：『キャリア・ダイナミクス』（シャイン、1991）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。            授業：キャリア・ダイナミクス（課題解決型学習・ディスカッション）            復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。</p> <p>【第14回】            予習：ワークライフバランスについてリサーチしてください。            授業：労働観と働き方の多様化——ワークライフバランスをめぐって（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p> <p>【第15回】            予習：前回までのレジュメ類、ノート・メモ等を再読し、質問や疑問点を整理してください。            授業：総括討論——働くことの愉しみ（ディスカッション）            復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。</p>								
授業開始前学習	とくに事前学習の必要はありませんが、企業や労働、職業キャリアなどに関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。							
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。							
テキスト・教材	とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。							
参考書	城繁幸、2006、『若者はなぜ3年で辞めるのか？』（光文社新書） その他、授業内で随時、指示します。							
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性、課題提出）（60％）、期末レポート（40％）により評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎			○	
関連科目	本講の内容は「組織マネジメント」「チームビルディング」と隣接し、「進路設計」「キャリアテラシー」などの内容を学術的に捉え返すこととなります。							
その他	授業では、問題解決型学習、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを行います。視聴覚教材やジャーナリズム文献等も積極的に使用し、アクチュアルな理解と考察の機会を提供することを目指します。ケーススタディやディスカッションなどを交えながら共演形式で授業を進めます。就職活動やインターンシップを控える受講者にとっても有益な内容となるよう、試みるつもりです。他学類・他専攻の学生の履修も歓迎します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	組織マネジメント		
科目分類	112-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Organization Management	授業区分	講義
科目責任者	平山 智史	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平山 智史	開講時期	履修ガイド参照
オフィスパワー	-	研究室	-
授業概要	<p>我々は社会活動において何らかの組織に属し、その中でさまざまな役割を担っている。変化し続け予測困難で複雑化・多様化する社会においては、組織の力を活性化・集約化し、柔軟に対応するための基本的な考え方や行動がますます重要になる。この授業では身近なチームの事例や現象を分析し、グループワークでの体験を通じて組織マネジメントのための実践的なノウハウを学ぶ。</p> <p>専用授業サイト[T.Hirayama Lecture Note]に講義内容を掲載し、授業、予習、復習のためのツールとする。 URL <a href="https://hifumi3.jimdofree.com/">https://hifumi3.jimdofree.com/</a> (事前案内ページの参照パスワードは"komajo") また、社会組織の中で重要なメールコミュニケーションを実践し学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーススタディを通じて組織マネジメントの重要性を理解する。</li> <li>・人が動き、人を動かすコミュニケーション力を身に付ける。</li> <li>・円滑な組織運営に必要な諸条件を理解し、組織内で説明できるようになる。</li> <li>・グループワークを通じて自分が組織に対して貢献できる自分の長所を知る。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>・毎回出席メモ（小テスト）を実施する。 ・アクティブ・ラーニングは授業中または授業と並行して、メールを使ったグループワークを行う。</p> <p>【第1回】 予習：シラバスと受講目的を確認する 授業：ガイダンス、組織マネジメントとは 復習：組織マネジメントの意義を確認する</p> <p>【第2回】 予習：自分が属している身近な組織を確認する 授業：組織マネジメントの必要性について 復習：自分が属する組織の目的をまとめる</p> <p>【第3回】 予習：自分が属している組織を確認する 授業：自分と組織との関係、組織のリソース 復習：組織の中での自分の役割をまとめる</p> <p>【第4回】 予習：事例資料の組織の「人」について確認する 授業：組織マネジメントの基本1：人 復習：自分が属する組織のリソースとしての「人」を確認する</p> <p>【第5回】 予習：事例資料の組織の「モノ」について確認する 授業：組織マネジメントの基本2：モノ 復習：自分が属する組織のリソースとしての「モノ」を確認する</p> <p>【第6回】 予習：事例資料の組織の「カネ」について確認する 授業：組織マネジメントの基本3：カネ 復習：自分が属する組織のリソースとしての「カネ」を確認する</p> <p>【第7回】 予習：事例資料の組織の「情報」について確認する 授業：組織マネジメントの基本4：情報 復習：自分が属する組織のリソースとしての「情報」を確認する</p> <p>【第8回】 予習：事例資料の組織の「時間」について確認する 授業：組織マネジメントの基本5：時間 復習：自分の計画について内容を確認する</p> <p>【第9回】 予習：事例資料の組織のルールについて確認する 授業：組織マネジメントの基本6：ルール 復習：自分の属する組織のルールについて確認する</p> <p>【第10回】 予習：事例資料の組織構造について確認する 授業：組織マネジメントと組織構造 復習：自分の属する組織の階層について確認する</p>			



<p>【第 11 回】          予習：事例資料の組織の運営について確認する          授業：組織マネジメントとオペレーション          復習：自分の属する組織の運営について確認する</p> <p>【第 12 回】          予習：事例資料のプロジェクトについて確認する          授業：組織マネジメントとプロジェクト          復習：身近なプロジェクトについて確認する</p> <p>【第 13 回】          予習：事例資料の組織のリーダーシップについて確認する          授業：組織マネジメントとリーダーシップ          復習：自分の属する組織のリーダーのタイプについて確認する</p> <p>【第 14 回】（期末レポート）          予習：授業で扱った事例を確認する          授業：期末レポート提出：組織マネジメントの事例          復習：期末レポートについて自己レビューする</p> <p>【第 15 回】          予習：期末レポートの事例を身近な例に置き換え確認する          授業：期末レポートの講評と組織マネジメントの要点を確認する          復習：授業で得た組織マネジメントに関する成果を再確認する</p>								
授業開始前学習	「management」の語源・意味を調べておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席メモについては、毎回個別にポータルでフィードバックし、次回授業内でレビューとして解説する。</li> <li>・期末レポートについては、最終回授業にて全体の講評を行う。</li> </ul>							
テキスト・教材	テキストは使用しない。 必要な資料は授業サイトにて適宜案内する。 テーマによりネット上のビデオ・記事を視聴・閲覧する。							
参考書	適宜資料を配布、または Web 上の資料を URL で案内する。							
評価の基準と方法	配点は以下のとおりとし、単位取得には 60 点以上の得点を必要とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業活動（出席メモ 15 回分各回 4 点）の合計 60 点</li> <li>・期末レポート（第 14 回授業内）20 点</li> <li>・質問、関心、貢献など普段の取り組み姿勢の評価 20 点</li> </ul>							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	○
関連科目	前期「チームビルディング」							
その他	身近なテーマを真剣に議論する学生参加型の授業とするため、授業への貢献度を評価基準の一つとする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	大企業にて開発、海外駐在、企画、設計、社長直轄事業開発、社内教育機関、研究戦略、品質関連会社など多様な職種・職場を経験し、個人企業（現職）に至る 40 年以上の管理職・経営者・プロジェクトリーダーとしての経験を元に、チームビルディングにおける要点、考え方、実際の課題とその解決指針について講義する。							

科目名称	経済とビジネス I		
科目分類	112-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Economy and Business I	授業区分	講義
科目責任者	足立 真理	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立 真理	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	経済の基本的な仕組みから始まり、世の中のビジネスがどのようにまわっているのかを考えていく。日本が世界各国といかに密接に関係しているのか、日々の経済ニュースが意味するものは何かを読み解いていく。環境やエネルギー、消費や産業などについて、身近な問題と関連付けながら議論する。		
到達目標	経済の基本概念を理解する。その上で、様々なニュースや事象の意味を自ら考えて、比較し分析できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習： 経済とは何かを事前に調べておく  授業： 経済とは何を示すのか、身の回りすべてが経済活動  復習： 経済の現状と問題点</p> <p>【第 2 回】  予習： 経済とは何かを改めて調べておく  授業： いまの経済はどういう状態なのか。経済は私たちの行動が決める  復習： 経済の現状と課題</p> <p>【第 3 回】  予習： 景気について調べておく  授業： 景気とはどういうものか。景気をはかる指数は色々ある  復習： 景気の現状と課題</p> <p>【第 4 回】  予習： 物価の意味を調べておく  授業： 物価とは何か、物価指標の見方と推移（物価についてグループディスカッション）  復習： 物価の現状と課題</p> <p>【第 5 回】  予習： 会社のメカニズムについて調べておく  授業： 会社とは何か。株式会社の成り立ちと株式のルーツ（会社を自身で設立するとしたら、というテーマでグループディスカッション）  復習： 株式会社の現状</p> <p>【第 6 回】  予習： 株主について調べておく  授業： 株主の役割とはなにか。株式市場の成り立ち  復習： 株式相場の現状</p> <p>【第 7 回】  予習： 経営とは何かを調べておく  授業： 企業の経営理念とはなにか、日銀短観とはどういうものか。  復習： 企業の経営理念を調べる</p> <p>【第 8 回】  予習： 資産運用の意味  授業： 人生 100 年時代をどう乗り切っていくのか  復習： 資産運用について考える</p> <p>【第 9 回】  予習： マーケティングについて調べておく  授業： マーケティングとビジネスの関係（ペアワーク）  復習： 主要企業のマーケティングを考える</p> <p>【第 10 回】  予習： SNS ビジネスとは何か調べておく  授業： 企業と SNS について学ぼうーe コマース編  復習： e コマース業界の現状</p> <p>【第 11 回】  予習： SNS について調べておく  授業： 企業と SNS について学ぼうー食品メーカー編  復習： 食品メーカーの現状</p> <p>【第 12 回】  予習： SNS に積極的な企業を探しておく  授業： 企業と SNS について学ぼうー家電・自動車メーカー編  復習： 家電・自動車業界の現状</p>			

<p>【第13回】          予習：環境ビジネスについて調べておく          授業：環境はこれから重要なビジネスになっていく（環境ビジネスについてグループディスカッション）          復習：気候変動について考える</p> <p>【第14回】          予習：Eコマースのビジネスについて調べておく          授業：Eコマースとは。日本を変える社会的ビジネスとは。（ソーシャルビジネスについてグループディスカッション）          復習：日本の起業環境について考える</p> <p>【第15回】          予習：これまでに学習した点を確認しておく          授業：ビジネスでの女性の役割と経済知識の向上についての重要性          復習：今後の進路について改めて考える</p>								
授業開始前学習	新聞、テレビなどで世界経済の現状を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、オンラインにて個別にフィードバックする							
テキスト・教材	インターネット上の動画を観たり、文書を検索するなどによって課題を出す予定です。ネット環境を確保しておいてください。							
参考書	「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」（足立真理 著）を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。							
評価の基準と方法	授業への参加度合いと理解度（60%）、レポート提出（40%）							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	△	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい経済を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。							

科目名称	経済とビジネスⅡ		
科目分類	112-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Economy and Business II	授業区分	講義
科目責任者	足立 真理	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立 真理	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	経済の基本的な仕組みから始まり、世の中のビジネスがどのようにまわっているのかを考えていく。経済がとても身近なものであることを学び、マネーリテラシーを高める。日々の経済ニュースが意味するものは何かを読み解いていく。		
到達目標	経済のあり方を知り、世の中の様々なニュースや事象について判断できるようにする。その上で、資産管理の概念を持つ。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習： 経済とは何かを事前に調べておく  授業： 経済とは何を示すのか、価値観の在り方と身の回りの経済活動  復習： 経済の現状と問題点</p> <p>【第2回】  予習： 景気とは何かを調べておく  授業： 景気は私たちの行動で決まる。ヒト、モノ、カネの流れ（景気の現状についてグループディスカッション）  復習： 景気の現状と課題</p> <p>【第3回】  予習： 物価について調べておく  授業： さまざまな物価指数と日銀の役割、世界的なデフレとはどういうことか  復習： 物価の現状と課題</p> <p>【第4回】  予習： GDPの意味を調べておく  授業： GDPとは何か、世界の国のGDPと日本のGDP  復習： 世界の経済の現状と課題</p> <p>【第5回】  予習： 貿易のメカニズムについて調べておく  授業： 貿易の基本、輸出と輸入とは  復習： 貿易ビジネスの現状</p> <p>【第6回】  予習： 為替について調べておく  授業： 為替市場の仕組みとは（為替についてペアワーク）  復習： 為替相場の現状</p> <p>【第7回】  予習： 不動産市場について調べておく  授業： 不動産市場の現状と経済に及ぼす影響  復習： 不動産市場を徹底的に調べる</p> <p>【第8回】  予習： 上場企業とは何かを調べておく  授業： 企業の資金調達の方法。上場企業の種類、企業業績について考える  復習： 優良な上場企業を探す</p> <p>【第9回】  予習： 経済に影響のありそうなイベントを確認しておく  授業： イベント経済とは。消費に最も影響を与えるイベントとは。（イベント経済についてグループワーク）  復習： 世界の消費動向をチェックする</p> <p>【第10回】  予習： 消費財とは何かを調べておく  授業： 消費をとりまく環境について学ぶー日用品メーカー編  復習： 景気と日用品メーカー業界の関係</p> <p>【第11回】  予習： 消費財の環境を調べておく  授業： 消費をとりまく環境について学ぶーアパレル編  復習： 景気とアパレル業界の関係</p> <p>【第12回】  予習： 消費財と環境について調べておく  授業： 消費をとりまく環境について学ぶー飲食品メーカー編  復習： 景気と飲食品メーカー業界の関係</p>			

<p>【第13回】          予習： 企業と株価をチェック          授業： 企業と株価の関係、株式市場の仕組みについて学ぶ          復習： 株式市場の現状</p> <p>【第14回】          予習： 今起こっている環境問題とは何かを調べておく          授業： SDGsとESG投資、環境問題と今後のビジネス展望（ESG投資についてグループワーク）          復習： 日本の環境課題</p> <p>【第15回】          予習： ジェンダーギャップとは何かを調べて置く          授業： 女性活躍と経済発展について（女性活躍のあり方についてグループワーク）          復習： これからの時代に必要なスキルを考える</p>								
授業開始前学習	新聞、テレビなどで世界経済の現状を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、オンラインにて個別にフィードバックする							
テキスト・教材	インターネット上の動画を観たり、ドキュメントを参考にした課題を出す予定です。ネット環境を確認しておいてください。							
参考書	「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」（足立真理 著）を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。							
評価の基準と方法	授業への参加と理解度合い（60%）、レポート提出（40%）							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	△	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい経済を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。							

科目名称	哲学と思想		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Philosophy and Thought	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	医療技術の高度な発達や医療サービスの多様化によって、人間の生命は様々な干渉を受けるようになった。例えば、超音波（エコー）写真によって、生まれるまでは、わからなかった胎児の性別が事前に分かるようになり、遺伝子診断技術により、胎児の障害・疾病の可能性なども分かるようになった。このような技術は、人間の生命に影響を与え、その人生に介入してくるものもある。本講義では、このような生命に関する技術が、どのような問題を生じさせているのかということを検討し、「生命倫理」の理論を学ぶことを目的としている。		
到達目標	生殖技術の発展やその社会的な需要状況について、具体的に正しい知識を持ち、概念用語を正しく使って議論ができるようになることが目的である。到達目標として、生命の倫理について自分の考えを正確に文章化できるようになることを想定している。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>1 予習：シラバスを読んでくる            授業：生命倫理とはなにか            復習：生命倫理の定義の確認</p> <p>2. 予習：医療における倫理的問題を考えてくる            授業：医療と生命倫理 その歴史と問題群            復習：授業で学んだことを確認</p> <p>3 予習：生殖補助医療の現状について調べる            授業：生殖補助医療について            復習：どのような生殖医療技術があるかを確認</p> <p>4 予習：代理母出産について考えてくる            授業：人体の資源化 卵子精子売買            復習：身体パーツの売買について考える</p> <p>5 予習：遺伝子とは何かを調べてくる            授業：遺伝子診断の功罪            復習：遺伝子診断がもたらす問題について確認</p> <p>6 予習：臓器移植の件数について調べてくる            授業：臓器移植の歴史            復習：臓器移植法について確認する</p> <p>7 予習：脳死の判定基準について            授業：脳死と臓器移植            復習：臓器脳死移植にまつわる諸問題を整理する</p> <p>8 予習：医師および医療機関の自分のもっているイメージをまとめておく            授業：医療と倫理 インフォームドコンセント            復習：医療における自己決定について確認する</p> <p>9 予習：配付資料を読んでくる            授業：QOL 論について            復習：QOL の概念を確認する</p> <p>10 予習：母体保護法について調べておく            授業：人工妊娠中絶論 選択権の問題            復習：生命の選択権はどこにあるのかを考える</p> <p>11 予習：重度障害について調べる            授業：アシュリー事件にみる人間の尊厳            復習：アシュリー療法の問題点を整理する</p> <p>12 予習：救世主兄弟について調べてくる            授業：映像資料視聴（前半）            復習：幹細胞生殖医療について確認</p> <p>13 予習：前回みた資料の確認をしとくる            授業：映像資料視聴（後半）            復習：生命をデザインすることの問題についてレポートを書く</p> <p>14 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく            授業：補足 授業内容確認レポート（授業内でレポート作成）            復習：授業内容について不十分なところを補っておく</p> <p>15. 予習：これまで配布した資料、ノート、レジメを再確認しておく            授業：授業内容確認小テスト（ノート レジメ 持ち込み可）            復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく</p>			
*学生の興味関心、最新の情報を踏まえて、授業内用や順序などは変更される可能性がある。			

授業開始前学習	特になし							
授業内課題の フィードバックの方法	基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。							
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)の Google Classroom を利用。Classroom に授業概要のレジュメ及び資料をデジタルで配布。各自 DLしてプリントアウトするか pc もしくはタブレットなどに DL するなどして授業に持参すること。							
参考書	参考文献は、レジュメ授業スライドなどに記載する。							
評価の基準と方法	13 回以上の出席が必須 欠席多数の場合出席代替レポート提出 授業中に出されるレポート課題 授業内容確認テストの合計点を 100 点換算して成績評価をする。 →平常点 100% 遠隔授業の場合は、すべての課題を提出することが単位取得の基本条件。各回の課題点数の合計を 100 点換算して成績を評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	アンケート調査法		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Quantitative data analysis	授業区分	講義
科目責任者	清水 拓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	清水 拓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会調査は量的調査と質的調査に大別される。一般的に「アンケート調査」と呼ばれる調査は、構造化された調査票（質問紙）をもちいた全数調査・標本調査のことを指し、量的調査法のひとつに位置付けられる。この授業では、前半は、量的調査法に関する基礎的な知識と、調査の進め方について講義形式で学ぶ。後半には、授業内での簡単な実習を通して、実査プロセスを学ぶ。		
到達目標	量的調査法に関する基礎的な知識を習得したうえで、アンケート調査とそこで得られたデータの整理・分析に必要な基礎的なスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスに目を通す  授業：社会調査の考え方  復習：社会調査と私たちのかかわりについて考える</p> <p>【第2回】  予習：社会調査の考え方を再確認する  授業：社会調査の種類  復習：量的調査と質的調査の特徴を整理する</p> <p>【第3回】  予習：社会調査の種類を再確認する  授業：社会調査における時間デザイン  復習：それぞれの時間デザインの特徴を整理する</p> <p>【第4回】  予習：研究倫理規程を大学の Web サイトで閲覧する  授業：社会調査の倫理と責任  復習：「プライバシーの保護」「インフォームド・コンセント」「ラポール」について理解を深める</p> <p>【第5回】  予習：第1回と第2回の配布資料を再読み、社会調査の考え方と種類について再確認する  授業：社会調査の歴史  復習：社会調査の成立・発展の経緯を整理する</p> <p>【第6回】  予習：実査には何が必要かについて考える  授業：社会調査のプロセス  復習：調査の全体像について理解を深める</p> <p>【第7回】  予習：社会調査のプロセスを再確認する  授業：社会調査のデザイン（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p> <p>【第8回】  予習：社会調査のデザインを再確認する  授業：実査の方法（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p> <p>【第9回】  予習：実査の方法を再確認する  授業：調査票の作成（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p> <p>【第10回】  予習：調査票を再確認する  授業：サンプリング（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p> <p>【第11回】  予習：サンプリングを再確認する  授業：調査の実施（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p> <p>【第12回】  予習：コード表を再確認する  授業：データの基礎的集計（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：基礎的集計を再確認する          授業：統計的推測・変数間の関連（実習）          復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む          【第14回】          予習：分析結果を再確認する          授業：報告書の作成（実習）          復習：問いを立てる段階から調査報告書作成までの手順を再確認する          【第15回】          予習：第1回～第6回までの配布資料を再読し、量的調査の基礎的知識を再確認する          授業：量的調査の基本的な考え方と取組み方の確認          復習：自身の卒業論文執筆に向けて量的調査の適切な実施方法を検討する</p>								
授業開始前学習	この授業では量的調査の方法について学ぶが、もし自分自身が調査をされる側になったらどう感じるか、想像力を働かせておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、記名式のコメントシートを配布・回収し、次回以降、適宜フィードバックする。							
テキスト・教材	特に定めない。適宜、講義内にて資料を配布する。							
参考書	轟亮・杉野勇・平沢和司編，2021，『入門・社会調査法——2ステップで基礎から学ぶ【第4版】』法律文化社。							
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題提出）60%、期末レポート 40%。なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席と期末レポートの提出を必要とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	フィールドワークの技法							
その他	統計分析ソフトのライセンス数の制約により、最大履修者を24名に制限する可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	フィールドワークの技法		
科目分類	112-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods of Fieldwork	授業区分	講義
科目責任者	清水 拓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	清水 拓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会調査は量的調査と質的調査に大別される。フィールドワークは、調査者がフィールド（現地・現場）に入り、インタビューや観察、資料収集を通して、そのフィールドの人々の営みを記録する調査のことを指し、一般的に質的調査法のひとつに位置付けられる。この授業では、前半は、質的調査法に関する基礎的な知識と、調査の進め方について講義形式で学ぶ。後半には、授業内での簡単な実習を通して、インタビュー調査の実査プロセスを学ぶ。		
到達目標	質的調査法に関する基礎的な知識を習得したうえで、フィールドワークの実施とそこで得られたデータの整理・分析に必要な基礎的なスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスに目を通す  授業：社会調査とは何か  復習：量的調査と質的調査の違いを確認する</p> <p>【第2回】  予習：研究倫理規程を大学の Web サイトで閲覧する  授業：社会調査の倫理と責任  復習：「プライバシーの保護」「インフォームド・コンセント」「ラポール」について理解を深める</p> <p>【第3回】  予習：第1回の配布資料を再読み、量的調査と質的調査の違いを再確認する  授業：調査技法  復習：それぞれの調査技法の特徴を整理する</p> <p>【第4回】  予習：第3回の配布資料を再読み、質的調査の技法を再確認する  授業：分析技法  復習：それぞれの分析技法の特徴を整理する</p> <p>【第5回】  予習：第3回と第4回の配布資料を再読み、調査・分析技法を再確認する  授業：フィールドワークのプロセス（1）：調査の設計と準備  復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査設計・準備を検討する</p> <p>【第6回】  予習：第5回の配布資料を再読み、調査設計・準備を再確認する  授業：フィールドワークのプロセス（2）：フィールドでの調査  復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査の進め方を検討する</p> <p>【第7回】  予習：第6回の配布資料を再読み、フィールドでの調査の進め方を再確認する  授業：フィールドワークのプロセス（3）：調査データの記録と整理  復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査データの記録・整理の方法を検討する</p> <p>【第8回】  予習：インタビュー調査のテーマ（第7回までに決定する）について調べる  授業：インタビュー調査の実施（1）：問いを立て、先行研究を調べる（実習）  復習：収集した先行研究を読む</p> <p>【第9回】  予習：質問項目を複数考えておく  授業：インタビュー調査の実施（2）：質問文を作成する（実習）  復習：質問項目をテーマごとに整理する</p> <p>【第10回】  予習：前回作成した質問文を読み込む  授業：インタビュー調査の実施（3）：インタビューを実施する（実習）  復習：インタビュー時のノートを整理する</p> <p>【第11回】  予習：インタビュー時のノートを再読する  授業：インタビュー調査の実施（4）：トランスクリプトの作成・整理・加工をする（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p> <p>【第12回】  予習：トランスクリプトを再読み、気付いた点をメモにする  授業：インタビュー調査の実施（5）：トランスクリプトを分析する（実習）  復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む</p>			

<p>【第13回】          予習：トランスクリプトの分析をおこなう          授業：インタビュー調査の実施（6）：調査報告書を作成する（実習）          復習：分析に基づいてレポートを作成する</p> <p>【第14回】          予習：第1回～第7回までの配布資料を再読し、質的調査の基礎的知識を再確認する          授業：質的調査の基本的な考え方と取組み方の確認          復習：自身の卒業論文執筆に向けて質的調査の適切な実施方法を検討する</p> <p>【第15回】          予習：第8回～第13回までの配布資料を再読し、インタビュー調査の実施プロセスを再確認する          授業：フィールドワークにもとづく研究例の紹介          復習：自身の卒業論文執筆に向けて質的調査の適切な実施方法を検討する</p>								
授業開始前学習	この授業では質的調査の方法について学ぶが、もし自分自身が調査をされる側になったらどう感じるか、想像力を働かせておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、記名式のリアクションペーパーを配布・回収し、次回以降、適宜フィードバックする。							
テキスト・教材	特に定めない。適宜、講義内にて資料を配布する。							
参考書	谷富夫・山本努編，2010、『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。							
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題提出）60%、期末レポート 40%。なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席と期末レポートの提出を必要とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係学実習 I		
科目分類	112-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice in Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	竹村 智子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	竹村 智子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会に出て多くの人とよりよい関係を築いていくための、具体的な身体技能を学ぶ実習です。ビジネスの多くの場面で信頼を得るためのマナーについて広く学びます。歩き方や敬語はもちろん、接遇や受付などの場面で「美しくしなやかな女性」としてふるまう演習を行います。言葉遣い、気遣い、心遣い、すべて相手を思い「遣る」の表現です。素敵なビジネスレディになるレッスンを始めましょう。秘書検定やサービス接遇検定の「実技」に相当する内容を含みます。さまざまな働くシーンを体験し、将来の職業選択にもつなげてください。また2・3年次のインターンシップなどに向け、「動画自己PR」の作成にも取り組みます。		
到達目標	人間関係を構築するために効果的な「振舞い」について身に着け、実践できるようになる。秘書検定・サービス接遇検定の受験を目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】			
予習 シラバスを読んで参加してください			
授業 授業オリエンテーション 立ち居振る舞いの基本 美しい動作「立つ・座る・歩く」基本から(グループワーク)			
復習 挨拶、笑顔、基本となる行動を実践しましょう(二回目に実践体験発表をします)			
【第2回】			
予習 実習のためビジネスレディらしい服装、振る舞いで参加してください			
授業 ものの手渡し、示し方、相手との距離の取り方、美しきしなやかなふるまいの実践(グループワーク)			
復習 立ち振る舞いの実践(次週に体験発表あり)			
【第3回】			
予習 実習のためビジネスレディらしい服装、振る舞いで参加してください			
授業 面接試験などでの入退室、プレゼンテーションのマナー 自己PR動画の作成(プレゼンテーション)(グループワーク)			
復習 自己PR動画を振り返って反省点を整理する			
【第4回】			
予習 実習のためビジネスレディらしい服装、振る舞いで参加してください			
授業 接遇の場面を実際に体験 お迎えから名刺の受け取り、ご案内など(グループワーク・実習)			
復習 秘書検定やサービス接遇検定の問題を実践する			
【第5回】			
予習 実習のためビジネスレディらしい服装、振る舞いで参加してください			
授業 接遇の場面を実際に体験 お茶やお菓子の接待 上座と下座のマナー パーティや行事でのフォーマルマナー(すべて実践の場を想定したアクティブラーニング実習形式)			
復習 次週(配布プリントについて)確認テストあり			
【第6回】			
予習 前半の内容を振り返り、総合演習に備えてください			
授業 一日秘書体験 前半のまとめ 上司との一日を疑似体験するシミュレーション演習(すべて実践の場を想定したアクティブラーニング実習形式)			
復習 シナリオ(授業紹介動画撮影)の暗記と実践			
【第7回】			
予習 敬語のプリントを配布します。基本となる用語を頭に入れて参加してください			
授業 正しく美しい敬語と言葉遣い 上司への言葉遣いと、ちょっとした言葉の「遣い」かた			
復習 次週敬語テストのための復習プリント			
【第8回】			
予習 前回の復習をしっかりして臨んでください			
授業 敬語の実践 ビジネスの場面を想定して正しい敬語で話す演習			
復習 次週敬語テストのための復習プリント			

【第9回】								
予習 前回の復習をしっかりと臨んでください								
授業 ビジネスにおける電話会話 見えない相手との会話マナー（プレゼンテーション）								
復習 次週電話会話テストのためのプリント								
【第10回】								
予習 学んだ用語を見直しておいてください								
授業 アナウンスとナレーション体験 正しく聞きやすく話す練習（発表・実習）								
復習 次週ナレーションテストのためのプリント								
【第11回】								
予習 実習のためビジネスレディらしい服装と振る舞いで参加してください								
授業 サービス接遇の基本 接客という仕事の疑似体験 おもてなしの姿勢を身体技法で学ぶ（実習）								
復習 大学生生活で振る舞いの実践をしましょう								
【第12回】								
予習 販売職の実践を行います。身だしなみのルールは事前に説明します								
授業 サービス接遇の実践 お客様へのもの勧め方、見せ方、伝え方、ちょっとした表現の工夫を実践（実習・実演）								
復習 野菜を売るテストのための販売トーク実践プリント復習								
【第13回】								
予習 総合学習に入ります 実習にふさわしい準備をしてきてください								
授業 秘書検定準一級 面接試験を体験します 美しい所作と振る舞いで、ビジネスレディらしい身体技法を実践します（実習 実演）								
復習 次週総合演習に向けた振る舞いの練習								
【第14回】								
予習 前回の続きです。服装など必要な準備を忘れずに								
授業 秘書検定準一級 面接試験を実体験 自らの振る舞いを客観的に見直してみよう（実習 プレゼンテーション）								
復習 次週総合演習に向けた振る舞いの練習								
【第15回】								
予習 実習にふさわしい準備をしてきてください								
授業 総合練習 あなたの「目に見える変化」を形にしましょう 授業紹介ビデオ作成（実習 発表）								
授業開始前学習	ほぼ演習中心となるため、それにふさわしい服装の指示を出すことがあります。新しいものを用意する必要はありません。							
授業内課題のフィードバックの方法	演習のため、演習風景を撮影し再生しながらフィードバックを実施。コメントシートを配布し評価とします。また授業内で敬語などミニテストを実施します。							
テキスト・教材	授業内で適宜レジュメ・確認プリントを配布します。							
参考書	秘書検定準一級パーフェクトマスター（実務教育出版）							
評価の基準と方法	授業態度（60パーセント）および授業内の課題・演習（40パーセント）で評価します。自身の変化を楽しみながら積極的に授業に取り組んでください。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○			◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	企業における秘書経験、コンサルタントとして各種企業研修・大学キャリア教育に従事している経験を活かし、ビジネス場面で必要なスキルについて演習を行う。							



科目名称	人間関係学実習Ⅱ		
科目分類	112-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice in Human Relations II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	竹村 智子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	竹村 智子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	言葉を用いて人間関係を構築していく上で「書く」ことは重要な手段です。しかし SNS の発達とともに、絵文字やスタンプだけでのやりとりが増え、手紙を書く習慣が減っています。書くことで自分の思いを豊かに伝える方法を学びます。旧暦の季節を大切にしながら豊かな表現を知り、心に届く手紙を書けるようになりましょう。挨拶状や手紙文の基本ルール、ちょっとした素敵な表現、そしてビジネス場面で必要な文章をもちいた交渉術までを理解します。またポスターや企画書、就職活動にもつながるエントリーシートの「伝わるコツ」を学びます。		
到達目標	フォーマルな場面、ビジネスの場面で適切な「手紙」を書き分ける力を身につけることで、ビジネス文書検定合格、および効果的な人間関係構築につなげる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 シラバスを読んで参加してください  授業 授業のガイダンス 講義内容の説明 相手に心を伝える文章の基本 メモの基本マナー  復習 一筆せんで手紙を書く</p> <p>【第2回】  予習 特になし  授業 手紙を書く前に。文章でなく、文字・記号・符号から自分を伝える練習  「世界一短い手紙」相手の心に届く表現のマナーについて練習 感謝の手紙を書いてみよう（実習 プレゼンテーション）  復習 一文字、四文字、オノマトペなどで手紙を書く</p> <p>【第3回】  予習 あなたを四字熟語でたとえると？  授業 論理的に書いて伝える技術を習得しよう エントリーシートに向けて（実習 プレゼンテーション）  復習 あなたを表現するロジック文章を書く</p> <p>【第4回】  予習 季節の用語について調査  授業 季節の用語と手紙文の基本ルールを学ぶ 季節のあいさつ文に必要な慣用句を学ぶ  復習 季節のあいさつ文を書く</p> <p>【第5回】  予習 日々の生活の中にある言葉と、その印象について考える  授業 相手の目線を意識したポスターの書き方（演習 一部グループワーク）  復習 普段の看板、ポスターに隠れた工夫を読み解き考える</p> <p>【第6回】  予習 ポスター制作にあたり、テーマをまとめる  授業 ポスターにおける「見え方」「見せ方」「相手の心を動かす言葉と文字の違い」  復習 ポスターのテーマを決定する</p> <p>【第7回】  予習 身の回りにある、文字や言葉に注目しポスター原案を考える  授業 マルシェのポスターづくり 完成まで  復習 課題提出に向けた振り返りと見直し</p> <p>【第8回】  予習 特になし  授業 SPI における「書く」「考える」スキルの醸成（過去問題から解説）  復習 SPI 問題を解いてみる</p> <p>【第9回】  予習 お礼状の基本用語を再確認しておく  授業 年賀状や寒中お見舞いの書き方の演習（実習）  復習 季節のあいさつ文、お礼状、依頼状などの書き方を振り返る</p>			



<p>【第10回】          予習 季節の用語、頭語結語などのルールを復習          授業 ビジネス文書の基本ルール 就職活動にも役立つビジネス文書のルール          復習 学んだ用語を整理する（次回ミニテストに向けて）</p> <p>【第11回】          予習 ビジネス用語のミニテスト準備          授業 エントリーシートのロジック作成（演習）          復習 エントリーシートの完成提出</p> <p>【第12回】          予習 学んだ用語を見直しておく          授業 企画書の論理的な構成術（演習）          復習 企画書の完成</p> <p>【第13回】          予習 学んだ用語を見直しておく          授業 ビジネス文書での交渉術 報告と折衝の文章を書く（プレゼンテーション）          復習 学んだ用語を整理する</p> <p>【第14回】          予習 学んだ用語を見直しておいてください          授業 あなたをグラフに書く練習 エントリーシートに向けて          復習 いろいろな文書例を見直す</p> <p>【第15回】          予習 エントリーシートの完成準備          授業 書いて伝える達人を目指して（実習 プレゼンテーション）          復習 今後の生活で実践することが不可欠です</p>								
授業開始前学習	特に必要ありません							
授業内課題のフィードバックの方法	文書作成課題は、適宜フィードバックします。							
テキスト・教材	必要に応じて授業時に配布するレジュメ プリントなどあり							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度（60パーセント）および授業内の課題（40パーセント）で評価します。積極的に授業に取り組んでください。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○			◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	企業における秘書経験、コンサルタントとして各種企業研修・大学キャリア教育に従事している経験を活かし、ビジネス場面で必要なスキルについて演習を行う。							

科目名称	☆現代社会総合講座 I		
科目分類	112-330-13 (2022 年～入学者) (J) 112-330-12 (~2021 年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interdisciplinary Course on Contemporary Society I	授業区分	講義
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田・臼井・榎本(環)・大貫・倉住・田澤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>テーマ：映画を題材に現代社会の諸問題を考える          一本の映画を鑑賞し、そこに描かれている、あるいは、そこから読み解くことのできる現代社会の諸相やさまざまな課題について多角的な視点から考察する。作品が取り上げているテーマや私たちに投げかけているメッセージをひも解き、現代社会に生きる人びとの生き方や価値観、それを取り巻く社会環境、歴史のなかでの位置づけなどをめぐって、掘り下げて理解することを目指す。人間関係専攻の教員 6 名およびビジネス界の第一線で活躍するゲスト講師による共同授業・オムニバス形式の学生参加型・双方向型授業である。それぞれの多角的な視座・アプローチから知的な刺激とヒントを吸収することを期待したい。</p>		
到達目標	<p>現代社会において人びとが直面しているさまざまな現実的課題について理解すること、各担当者による多様な着眼点や発想・思考を吸収すること、それらを参考にしながら自分なりの見解を組み立てる力、それを論理的・客観的に表現するスキルを伸ばすことを目標とする。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第 1 回】担当：榎本(環)ほか</b>          予習： シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておく          授業： 対象映画の紹介とイントロダクション          復習： Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認する</p> <p><b>【第 2 回】担当：榎本(環)</b>          予習： 課題映画について Web 情報などを利用してリサーチする          授業： 課題映画の鑑賞 1：前半          復習： 登場人物や前半の場面状況・ストーリー展開について不明点を調べておく</p> <p><b>【第 3 回】担当：榎本(環)</b>          予習： 課題映画の前半のストーリーとポイントをチェック確認する          授業： 課題映画の鑑賞 2：後半          復習： 全編の内容を再確認し、感想とコメント（次回の発言内容）をまとめる</p> <p><b>【第 4 回】担当：担当教員全員</b>          予習： 自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく          授業： 意見交換：内容理解と視聴後の感想（ディスカッション）          復習： 今回の意見交換をもとに、自分の発見や疑問点をノートにまとめる</p> <p><b>【第 5 回】担当：田澤</b>          予習： 前回の意見交換の内容をふり返り、不明点や質問を整理しておく          授業： 担当教員による講義と意見交換 1          復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p><b>【第 6 回】担当：臼井</b>          予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく          授業： 担当教員による講義と意見交換 2          復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p><b>【第 7 回】担当：大貫</b>          予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく          授業： 担当教員による講義と意見交換 3          復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p><b>【第 8 回】担当：石田</b>          予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく          授業： 担当教員による講義と意見交換 4          復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p><b>【第 9 回】担当：倉住</b>          予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく          授業： 担当教員による講義と意見交換 5          復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p>			

<p>【第 10 回】担当：榎本(環)            予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく            授業： 担当教員による講義と意見交換 6（ディスカッション）            復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p>【第 11 回】担当：ゲスト講師 A            予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく            授業： ゲスト講師による講義と質疑応答 1            復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる</p> <p>【第 12 回】担当：ゲスト講師 B            予習： 前回のゲスト講師による分析内容をふり返り、不明点や質問を整理しておく            授業： ゲスト講師による講義と質疑応答 2            復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる</p> <p>【第 13 回】担当：榎本(環)ほか            予習： これまでの自分の見解や疑問点を整理し、ディスカッションでの発言内容を準備しておく            授業： 学生による論点整理と意見交換（グループワーク）            復習： 今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理する</p> <p>【第 14 回】担当：担当教員全員            予習： 前回のディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく            授業： 総括討論 1（ディスカッション）            復習： 今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理する</p> <p>【第 15 回】担当：担当教員全員            予習： 前回までのディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく            授業： 総括討論 2（ディスカッション）            復習： 計 3 回のディスカッションをふまえ、自分の発見や見解・疑問を整理してミニレポートを提出する</p>								
授業開始前学習	とくに事前の準備は不要である。日頃から幅広く見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませることを心がけてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回の意見交換・ディスカッションやミニレポートを通じて提起された質問に対しては、適宜その都度、リプライする。提出課題については、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	とくに指定しない。資料は必要に応じて配布する。							
参考書	授業内で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（30 %）、各担当者による課題評価（70 %）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	「総合講座」の性質上、人間関係専攻の全科目および教養教育科目全般がなんらかのかたちで本科目と関連性をもつ関係にある。							
その他	人間関係専攻の教員 6 名およびゲスト講師による共同授業・オムニバス形式で実施する。双方向型・学生参加型の授業形式であるので、積極的な発言とディスカッションへの参加が求められる。課題映画については初回授業で指示する。「ミニレポート」は、GWE Classroom の Forms によるコメント投稿を基本形式として予定している。外部講師のスケジュールの都合等により、各授業回の実施順が修正される可能性もある（初回授業で告知する）。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	日本を代表する著名企業の実務経験者をゲスト講師として招き、実社会での現場経験に基づく知見やコメントを提供してもらう予定である（計 2 講）。							

科目名称	☆現代社会総合講座Ⅱ		
科目分類	112-330-13 (2022年～入学者) (J) 112-330-12 (~2021年入学者) (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interdisciplinary Course on Contemporary Society II	授業区分	講義
科目責任者	大貫恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田・臼井・榎本(環)・大貫・楠田・倉住・田澤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>テーマ：映画を題材に現代社会の諸問題を考える</p> <p>一本の映画を鑑賞し、そこに描かれている、あるいは、そこから読み解くことのできる現代社会の諸相やさまざまな課題について多角的な視点から考察する。作品が取り上げているテーマや私たちに投げかけているメッセージをひも解き、現代社会に生きる人びとの生き方や価値観、それを取り巻く社会環境、歴史のなかでの位置づけなどをめぐって、掘り下げて理解することを目指す。人間関係専攻の教員7名およびビジネス界の第一線で活躍するゲスト講師による共同授業・オムニバス形式の学生参加型・双方向型授業である。それぞれの多角的な視座・アプローチから知的な刺激とヒントを吸収することを期待したい。</p>		
到達目標	<p>現代社会において人びとが直面しているさまざまな現実的課題について理解すること、各担当者による多様な着眼点や発想・思考を吸収すること、それらを参考にしながら自分なりの見解を組み立てる力、それを論理的・客観的に表現するスキルを伸ばすことを目標とする。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】担当：大貫ほか  予習： シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておく  授業： 対象映画の紹介とイントロダクション  復習： Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認する</p> <p>【第2回】担当：大貫ほか  予習： 課題映画について Web 情報などを利用してリサーチする  授業： 課題映画の鑑賞 1：前半  復習： 登場人物や前半の場面状況・ストーリー展開について不明点を調べておく</p> <p>【第3回】担当：大貫ほか  予習： 課題映画の前半のストーリーとポイントをチェック確認する  授業： 課題映画の鑑賞 2：後半  復習： 全編の内容を再確認し、感想とコメント（次回の発言内容）をまとめる</p> <p>【第4回】担当：担当教員全員  予習： 自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく  授業： 意見交換：内容理解と視聴後の感想（ディスカッション）  復習： 今回の意見交換をもとに、自分の発見や疑問点をノートにまとめる</p> <p>【第5回】担当：石田  予習： 前回の意見交換の内容をふり返り、不明点や質問を整理しておく  授業： 担当教員による講義と意見交換 1  復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p>【第6回】担当：臼井  予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく  授業： 担当教員による講義と意見交換 2  復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p>【第7回】担当：榎本  予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく  授業： 担当教員による講義と意見交換 3  復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p>【第8回】担当：大貫  予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく  授業： 担当教員による講義と意見交換 4  復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p>【第9回】担当：楠田  予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく  授業： 担当教員による講義と意見交換 5  復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p>			

<p>【第 10 回】担当：倉住            予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく            授業： 担当教員による講義と意見交換 6（ディスカッション）            復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p>【第 11 回】担当：田澤            予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく            授業： 担当教員による講義と意見交換 7（ディスカッション）            復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する</p> <p>【第 12 回】担当：ゲスト講師 A            予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく            授業： ゲスト講師による講義と質疑応答 1            復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる</p> <p>【第 13 回】担当：ゲスト講師 B            予習： 前回のゲスト講師による分析内容をふり返り、不明点や質問を整理しておく            授業： ゲスト講師による講義と質疑応答 2            復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる</p> <p>【第 14 回】担当：担当教員全員            予習： 前回のディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく            授業： 総括討論 1（ディスカッション）            復習： 今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理する</p> <p>【第 15 回】担当：担当教員全員            予習： 前回までのディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく            授業： 総括討論 2（ディスカッション）            復習： 計 3 回のディスカッションをふまえ、自分の発見や見解・疑問を整理してミニレポートを提出する</p>									
授業開始前学習	とくに事前の準備は不要である。日頃から幅広く見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませることを心がけてほしい。								
授業内課題のフィードバックの方法	各回の意見交換・ディスカッションやミニレポートを通じて提起された質問に対しては、適宜その都度、リプライする。提出課題については、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。								
テキスト・教材	とくに指定しない。資料は必要に応じて配布する。								
参考書	授業内で適宜、紹介する。								
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（30 %）、各担当者による課題評価（70 %）をもとに、総合的に評価する。								
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	○				◎	○			
関連科目	「総合講座」の性質上、人間関係専攻の全科目および教養教育科目全般がなんらかのかたちで本科目と関連性をもつ関係にある。								
その他	人間関係専攻の教員 6 名およびゲスト講師による共同授業・オムニバス形式で実施する。双方向型・学生参加型の授業形式であるので、積極的な発言とディスカッションへの参加が求められる。課題映画については初回授業で指示する。「ミニレポート」は、GWE Classroom の Forms によるコメント投稿を基本形式として予定している。外部講師のスケジュールの都合等により、各授業回の実施順が修正される可能性もある（初回授業で告知する）。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容	日本を代表する著名企業の実務経験者をゲスト講師として招き、実社会での現場経験に基づく知見やコメントを提供してもらう予定である（計 2 講）。								



科目名称	人間関係ゼミ I		
科目分類	112-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00~14:40 後期 火曜日 11:00~14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。</p> <p>2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。</p> <p>(1) 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ</p> <p>(2) 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ</p> <p>授業で全員が集まるときはほとんど (1) を扱うことになるので、(2) は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。</p>		
到達目標	問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力が授業開始前より伸びている状態		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：自分が何についてのどの点に関心があるのか自覚し、詳細に把握しておく  授業：授業の進め方について説明し、次回までにすべき課題を出す  復習：個人研究テーマを考える</p> <p>【第 2 回】  予習：自己紹介プレゼンの作成  授業：自己紹介プレゼンを通じてゼミメンバー 1 人 1 人を知る  復習：自分の得意不得意と関心を自覚する</p> <p>【第 3 回】  予習：個人研究テーマを考える  授業：個人研究テーマと 2 年間の研究計画の策定  復習：個人研究テーマと計画を見直し、推進できるか確認し、必要なら修正する</p> <p>【第 4 回】  予習：人の外見についての社会問題を調べる  授業：共通テーマ (1) の問題分析  復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p> <p>【第 5 回】  予習：問題点についての資料を集める  授業：共通テーマ (1) の資料を使った問題点の分析  復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p> <p>【第 6 回】  予習：足りない資料を集める  授業：共通テーマ (1) の問題点分析を整理し論理的に構築する  復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p> <p>【第 7 回】  予習：論理的説明について書籍等の資料を読む  授業：共通テーマ (1) を論理的に説明できるようまとめる  復習：授業でまとめたもののプレゼン練習</p> <p>【第 8 回】  予習：授業でまとめたもののプレゼン練習  授業：共通テーマ (1) の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する  復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p> <p>【第 9 回】  予習：人の外見についての社会問題を調べる  授業：共通テーマ (2) の問題分析  復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p> <p>【第 10 回】  予習：問題点についての資料を集める  授業：共通テーマ (2) の資料を使った問題点の分析  復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p> <p>【第 11 回】  予習：足りない資料を集める  授業：共通テーマ (2) の問題点分析を整理し論理的に構築する  復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p>			

<p>【第12回】          予習：論理的説明について書籍等の資料を読む          授業：共通テーマ（2）を論理的に説明できるようまとめる          復習：授業でまとめたもののプレゼン練習</p> <p>【第13回】          予習：授業でまとめたもののプレゼン練習          授業：共通テーマ（2）の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する          復習：授業を思い出し問題点について考えを深める</p> <p>【第14回】          予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる          授業：個人研究の中間報告（1）          復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める</p> <p>【第15回】          予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる          授業：個人研究の中間報告（2）          復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める</p>								
授業開始前学習	化粧を始め種々の流行（履修者にとって異世代や異性も含む）や、社会情勢、時代風潮、ニュースや事件など、自分が生きる時代と社会の状況に広く関心を持ち、自分なりに日々考え続けることが必要である とくに後期は「化粧の文化史」と「化粧文化論 b」の知識を前提にした内容であるので、できる限り今期までにこれらを履修し、すでに履修した人は復習しておく必要がある とくに個人研究テーマが化粧・美容・ファッション・外見に関連する者は個人研究でも上記の科目が必要になるため、できるだけ早く履修を終える必要がある							
授業内課題の フィードバックの方法	レジュメとプレゼンテーションはその場で改善点をアドバイスする 個人研究の中間報告では個人の状況にあった細かなアドバイスをする							
テキスト・教材	必要なときに資料配布や指示をする							
参考書	必要があるときに指示する							
評価の基準と方法	共通テーマの作業・討論の積極性が70%、中間報告30% 全授業回数数の3分の1を超える欠席の場合、単位は認定しない							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	化粧の文化史、化粧文化論、身体文化論、セルフプロデュース論、ビューティービジネス論のほか、社会問題に関する授業すべて							
その他	個人研究を忘れずに計画的に自力で進める必要があるが、孤独に進めるのではなく、共通テーマでの経験を参照して気付いたことを迷わず実施することも重要であるし、時にはゼミメンバーと相談したり協働で作業するなど柔軟に進めることも推奨される							
予習・復習の 所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした 教育内容	化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容を基に授業を実施							



科目名称	人間関係ゼミ I		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	本ゼミでは国際社会の諸問題から、各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。		
到達目標	思考力を深める。 口頭発表および文章作成能力の向上。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>1 回]</p> <p>予習：自己紹介の準備            授業：ゼミ生の自己紹介 ゼミ運営方針の確認            復習：ゼミ方針を参考に自身の研究テーマについて考える</p> <p>【第 2 回】</p> <p>予習：自身の研究テーマ発表準備            授業：ゼミ生の研究関心についての発表            復習：他のゼミ生の研究関心を参考に自身の研究テーマを深める</p> <p>【第 3 回】</p> <p>予習：研究関心のある新聞・雑誌記事を準備            授業：各ゼミ生の集めた記事の検討（ディスカッション）            復習：自身の収集した記事と他のゼミ生のそれらを整理</p> <p>【第 4 回】</p> <p>予習：研究関心のある新聞・雑誌記事を準備            授業：各ゼミ生の集めた記事の検討（ディスカッション）            復習：自身の収集した記事と他のゼミ生のそれらを整理</p> <p>【第 5 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説(1)学生発表と討論（1）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 6 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説(2) 学生発表と討論（2）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 7 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説（3） 学生発表と討論（3）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 8 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説（4） 学生発表と討論（4）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 9 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説（5） 学生発表と討論（5）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 10 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説（6） 学生発表と討論（6）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 11 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説（7） 学生発表と討論（7）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 12 回】</p> <p>予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする            授業：時事問題解説（8） 学生発表と討論（8）（プレゼンテーション・ディスカッション）            復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：時事問題解説（9） 学生発表と討論（9）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考 【第14回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：時事問題解説（10） 学生発表と討論（10）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考 【第15回】 予習：発表後の自己の研究の進展をまとめる 授業：ゼミ生による研究の改善点発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：ゼミを踏まえ、さらなる改善に向けての研究内容の再考								
授業開始前学習	自身が関心のあるテーマの著作を最低1冊は読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業を通じて適宜実施する。							
テキスト・教材	指定しない。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	平常点と発表内容、レジュメ、毎ゼミでの発言により評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が担当日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「戦争と平和の歴史 I,II」を履修済みであることが望ましい。							
その他	研究テーマの選択はゼミ生に委ねる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係ゼミ I		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	<p>テーマ：社会学で読み解く現代社会 人びとの日常的な行動や態度、意識には、社会的な形成プロセスや構造要因があります。そのメカニズムを理解することが社会学の探究活動です。「世のなか」のしくみと現代社会のさまざまな現象を、社会学ではどのように捉えることができるのか、どのような理解と発想が可能なのか、その問題関心に即して、各自が社会学的な視座を身に付け、主体的に考察する思考力を習得してもらうことを目標とします。受講者によるプレゼンテーションとそれにもとづくディスカッションを基本形式にして進めます。</p>		
到達目標	<p>次の3点を目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコンや PC メール、Web ツールの基本的な操作・作法に慣れる</li> <li>2. 一定レベルのプレゼンがこなせる</li> <li>3. 「本の読み方」をマスターする</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第1回】</b>          予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。          授業：ガイダンスとイントロダクション          復習：ゼミメンバーの名前を覚え、使用文献の入手を手配してください。</p> <p><b>【第2回】</b>          予習：前回のレジュメ、ノート・メモ類を再読してください。          授業：PC 活用スキル —— Web メール の活用と ML 開設          復習：ML メンバー登録操作を完成させ、課題（名簿シート作成）に取り組んでください。</p> <p><b>【第3回】</b>          予習：ポータルサイト、Web メール、ML の操作方法と初期設定を再確認してください。          授業：Web リソース —— クラウド・サービスの活用法について          復習：授業内容を復習し、ゼミ用クラウド・ページの各操作をひとつひとつ試してください。</p> <p><b>【第4回】</b>          予習：使用文献（研究発表練習用）を一読してください。          授業：前期活動打合せ、研究発表の方法          復習：プレゼン用ファイルを作成し提出してください。</p> <p><b>【第5回】</b>          予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。          授業：研究発表トレーニング（プレゼンテーション）          復習：前期の報告スケジュールをもとに、準備作業の計画を立ててください。</p> <p><b>【第6回】</b>          予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。          授業：テキスト講読 1 【文献・該当頁は別途指示します】（プレゼンテーション、ディスカッション）          復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。</p> <p><b>【第7回】</b>          予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、不明点を整理しておいてください。          授業：テキスト講読 2 【文献・該当頁は別途指示します】（プレゼンテーション、ディスカッション）          復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。</p> <p><b>【第8回】</b>          予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、不明点を整理しておいてください。          授業：テキスト講読 3 【文献・該当頁は別途指示します】（プレゼンテーション、ディスカッション）          復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。</p> <p><b>【第9回】</b>          予習：テキスト第 1 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。          授業：テキスト講読 4 【pp.14～28】（プレゼンテーション、ディスカッション）          復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p>			

<p>【第10回】            予習：テキスト第2章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。            授業：テキスト講読5【pp.30～48】（プレゼンテーション、ディスカッション）            復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第11回】            予習：テキスト第3章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。            授業：テキスト講読6【pp.50～71】（プレゼンテーション、ディスカッション）            復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第12回】            予習：テキスト第4章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。            授業：テキスト講読7【pp.74～89】（プレゼンテーション、ディスカッション）            復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第13回】            予習：テキスト第5章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。            授業：テキスト講読8【pp.92～111】（プレゼンテーション、ディスカッション）            復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第14回】            予習：テキスト第6章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。            授業：テキスト講読9【pp.114～128】（プレゼンテーション、ディスカッション）            復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第15回】            予習：テキスト第7章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。            授業：テキスト講読10【pp.130～144】（プレゼンテーション、ディスカッション）            復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p>								
授業開始前学習	日頃から幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。							
テキスト・教材	岩本茂樹、2015、『自分を知るための社会学入門』（中央公論新社） ほか別途指示します。							
参考書	長谷川公一ほか、2007、『社会学』（有斐閣） その他、授業を通じて随時、紹介します。							
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（80％）、期末レポート（20％）により評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学ⅠⅡ」および「流行論」「文化社会学ⅠⅡ」「社会学特論」「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他	ゼミ活動の具体的な計画については受講者と協議のうえ決定します。テキストの講読（受講者による報告）と討論を基本形式に進めます。報告者のみならず全員があらかじめ指定された範囲を熟読し、疑問点や各自のコメントを整理したうえでゼミでの議論に臨んでください。プレゼン報告の分担や時折の課題など、それなりの負担をこなすことが求められますが、意欲と関心がある限り、授業担当者として最大限のサポートを惜しみません。受講者各位の素朴な疑問と柔軟な発想から、私自身も多くのことを学びたいと考えております。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミ I		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く文化事象を対象として、社会的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することが求められる。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的に参加し、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、研究のために必要な以下の 3 つの能力、すなわち、①文献の概要を把握する力、②社会的な思考力、③発表の基礎力の獲得である。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：3 年次前期の学びの目標を考える  授業：ゼミの目的と進め方、テキストの紹介  復習：テキスト冒頭部に目を通し、簡単な要約を行う</p> <p>【第 2 回】  予習：テキスト全体に目を通し、自分の関心を明確にする。  授業：文章読解のスキル  復習：文献講読の意義を確認する。</p> <p>【第 3 回】  予習：テキスト「都市の文化」を講読する  授業：文献講読と報告～「都市の文化」【テキスト pp.28-39】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「都市の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 4 回】  予習：テキスト「メディアと情報の文化」を講読する  授業：文献講読と報告～「メディアと情報の文化」【テキスト pp.40-51】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「メディアと情報の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する。</p> <p>【第 5 回】  予習：テキスト「アートの文化」を講読する  授業：文献講読と報告～「アートの文化」【テキスト pp.52-63】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「アートの文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 6 回】  予習：テキスト「身体の文化」を講読する  授業：文献講読と報告～「身体の文化」【テキスト pp.64-73】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「身体の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 7 回】  予習：テキスト「娯楽の文化」を講読する  授業：文献講読と報告～「娯楽の文化」【テキスト pp.74-87】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「娯楽の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 8 回】  予習：テキスト「暮らしの文化」を講読する  授業：文献講読と報告～「暮らしの文化」【テキスト pp.88-97】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「暮らしの文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 9 回】  予習：テキスト「つきあいと儀礼の文化」を講読する。  授業：文献講読と報告～「つきあいと儀礼の文化」【テキスト pp.98-110】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「つきあいと儀礼の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 10 回】  予習：テキスト「ライフコースの文化」を講読する  授業：文献講読と報告～「ライフコースの文化」【テキスト pp.112-123】（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：「ライフコースの文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p>			

<p>【第 11 回】          予習：テキスト「国民国家の文化」を講読する          授業：文献講読と報告～「国民国家の文化」【テキスト pp.124-137】（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：「国民国家の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 12 回】          予習：テキスト「グローバル化する文化」を講読する          授業：文献講読と報告～「グローバル化する文化」【テキスト pp.138-151】（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：「グローバル化する文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 13 回】          予習：テキスト「社会学の伝統」を講読する          授業：文献講読と報告～「社会学の伝統」【テキスト pp.154-169】（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：「社会学の伝統」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 14 回】          予習：テキスト「隣接・関連領域から」を講読する。          授業：文献講読と報告～「隣接・関連領域から」【テキスト pp.170-191】（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：「隣接・関連領域から」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p> <p>【第 15 回】          予習：テキスト「文化変容の現在」を講読する          授業：文献講読と報告～「文化変容の現在」【テキスト pp.2-25】（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：「文化変容の現在」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する</p>								
授業開始前学習	日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。							
テキスト・教材	井上俊・長谷正人編著，2010，『文化社会学入門——テーマとツール』ミネルヴァ書房。 その他、授業中に指示する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	授業参加の積極度（60％）、作成資料（40％）により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「文化社会学Ⅰ／現代社会論Ⅰ」「文化社会学Ⅱ／社会学研究Ⅱ」は現代社会を社会的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他	ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	人間関係ゼミ I		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40~12:10 木曜日 13:00~14:30 後期 火曜日 10:40~12:10 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-618
授業概要	心理学のテーマおよび研究手法について学ぶ。心理学の主要な研究法、研究倫理について学ぶことで心理学の基礎知識を身に付ける。実際に行われた過去の研究論文を読むことで、どのようにして心理学研究が遂行されるのか学ぶ。心理学の入門書を輪読し、研究テーマの多様性に触れる。本授業は、適宜グループワークやディスカッションを交えて進めていく。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.心理学の主要な研究法と研究テーマ、研究倫理を理解する 2.心理学の研究論文を一人で読むことができる 3.適切なレジュメの作成方法ならびに発表方法を身につける 4.他者の発表に対して自ら質問したり意見を述べたりできる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 授業：オリエンテーション、心理学とは、次回に向けたグループ分けおよび役割分担 予習：シラバスを読む、関心のある研究テーマ・分野等について考える 復習：担当の研究法に関連する文献を調べる</p> <p>【第 2 回】 授業：担当の研究法についてグループでまとめる（グループワーク） 予習：調べた文献に目を通す 復習：疑問点についてさらに調べる</p> <p>【第 3 回】 授業：担当の研究法に関する発表と質疑応答 1（プレゼンテーション） 予習：発表準備をする 復習：発表をもとに生じた疑問点についてさらに調べる</p> <p>【第 4 回】 授業：担当の研究法に関する発表と質疑応答 2（プレゼンテーション） 予習：発表準備をする 復習：発表をもとに生じた疑問点についてさらに調べる</p> <p>【第 5 回】 授業：研究倫理とは、研究倫理に配慮した心理学研究の例 予習：指定された研究倫理に関する資料に目を通す 復習：興味のあるテーマについて研究するためにはどのような倫理的配慮が必要か考えておく</p> <p>【第 6 回】 授業：発達心理学、教育心理学に関する主要キーワードについての発表（プレゼンテーション） 予習：事前に与えられたキーワードについて調べ、まとめる 復習：特に興味をもったテーマについて調べる</p> <p>【第 7 回】 授業：社会心理学、臨床心理学に関する主要キーワードについての発表（プレゼンテーション） 予習：事前に与えられたキーワードについて調べ、まとめる 復習：特に興味をもったテーマについて調べる</p> <p>【第 8 回】 授業：課題論文(1)の問題・方法部分について内容を整理する（ディスカッション） 予習：課題論文(1)の問題・方法部分を読み、知らない単語について調べてくる 復習：ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく</p> <p>【第 9 回】 授業：課題論文(1)の結果部分について内容を整理する（ディスカッション） 予習：課題論文(1)の結果・考察部分を読み、知らない単語について調べてくる 復習：ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく</p> <p>【第 10 回】 授業：課題論文(2)の問題・方法部分について内容を整理する（ディスカッション） 予習：課題論文(2)の問題・方法部分を読み、知らない単語について調べてくる 復習：ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく</p> <p>【第 11 回】 授業：課題論文(2)の結果・考察部分について内容を整理する（ディスカッション） 予習：課題論文(2)の結果・考察部分を読み、知らない単語について調べてくる 復習：ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく</p> <p>【第 12 回】 授業：文献とは、論文検索の仕方、論文の読み方、発表論文を選ぶ 予習：興味関心のある領域や研究テーマを考える</p>			



<p>復習：発表論文を選び、論文にざっと目を通す</p> <p>【第13回】</p> <p>授業：発表用レジュメの作成方法、発表用レジュメの準備</p> <p>予習：選んだ論文の問題・目的・方法部分を精読し、知らない用語について調べる</p> <p>復習：問題・目的・方法部分の発表用レジュメを完成させる</p> <p>【第14回】</p> <p>授業：結果の読み取り、論文を批判的に読む、発表用レジュメの準備</p> <p>予習：選んだ論文の結果・考察部分を精読し、知らない用語について調べる</p> <p>復習：結果・考察部分の発表用レジュメを完成させる</p> <p>【第15回】</p> <p>授業：グループに分かれ各自読んだ論文を発表する、質疑応答を行う（プレゼンテーション）</p> <p>予習：発表用レジュメを完成させる</p> <p>復習：興味をもった論文やテーマについてさらに調べる</p>								
授業開始前学習	興味のある心理学の書籍を読むこと。自分や他者に日頃から関心をもち、なぜそう行動するのか、なぜそう感じるのか考えてみること。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を課した場合には、その授業時間中または次の授業回に講評を行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	授業への取り組み 30%、発表内容 50%、グループワーク 20%とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	人間関係の基礎、人間関係入門Ⅰ、心理学の諸科目							
その他	<p>授業内容は受講生の人数や学生の興味・関心に応じて変更するおそれがある。</p> <p>本授業はゼミであるため、原則全授業回への出席を求める。万が一欠席する場合には、必ず教員へ連絡を入れるように。</p> <p>授業内ではグループワークも行うため、互いを尊重し助け合う姿勢を大切にしたい。</p> <p>また人間関係ゼミⅡ、Ⅲ、Ⅳへと学びを発展させるためにも、日頃生じた素朴な疑問や興味関心を大切に、自発的に調べるなど積極的な姿勢をもつことが望まれる。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係ゼミ I		
科目分類	112-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【情報を適切に伝える】 「出版物とコミュニケーション」「出版物と情報」などについて研究する。実践として、グループで役割を分担して、情報誌の制作を行う。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。		
到達目標	グループの課題（前期）と個人の研究（後期）を1つのチームになって進めることで、「チームで働く力」「考え抜く力」を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：書店で市販の雑誌を見比べる 授業：進行説明「市販雑誌の生原稿を順番に並べて、進行を確認」 復習：フリーペーパーを集める</p> <p>【第2回】 予習：テーマとターゲットを考える 授業：編集会議「グループに分かれて、情報誌のテーマとターゲットを検討」（ディスカッション） 復習：テーマとターゲットを整理する</p> <p>【第3回】 予習：コンテンツを考える 授業：編集会議「情報誌のテーマとターゲットを設定し、グループごとに発表」（ディスカッション） 復習：コンテンツを整理する</p> <p>【第4回】 予習：サンプル誌を用意する 授業：編集会議「情報誌のフォーマットを決めて、レイアウト用紙を設計」（ディスカッション） 復習：ページ構成を考える</p> <p>【第5回】 予習：取材先の下見をする 授業：取材撮影「グループ全員で、広い範囲で取材」 復習：取材不足がないか確認する</p> <p>【第6回】 予習：特集ページの構成を考える 授業：取材撮影「グループ全員で、範囲を絞って取材」 復習：特集ページの構成を固める</p> <p>【第7回】 予習：追加取材先の下見をする 授業：取材撮影「担当に分かれて、不足や追加分を取材」 復習：他のページの構成を固める</p> <p>【第8回】 予習：全体のページ構成を考える 授業：編集会議「ラフレイアウトを作り、グループごとに発表」（ディスカッション） 復習：全体のページ構成を固める</p> <p>【第9回】 予習：取材したデータを確認する 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力」 復習：取材したデータの正誤を確認する</p> <p>【第10回】 予習：取材したデータを確認する 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力、レイアウト」 復習：取材したデータの正誤を確認する</p> <p>【第11回】 予習：取材したデータを確認する 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力、レイアウト、校正」 復習：取材したデータの正誤を確認する</p> <p>【第12回】 予習：テーマとターゲット、コンテンツを確認し、発表に備える 授業：編集会議「出力見本を並べて、グループごとに発表」（ディスカッション、発表） 復習：意見を参考に、ページ構成を整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」1 復習：製本を仕上げる 【第14回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」2 復習：製本を仕上げる 【第15回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」3 復習：製本を仕上げる								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の始めに会議を行い、グループの質問に答え、課題を進めていく。							
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。							
参考書	授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「企画と表現」「ビジネスと表現活動」を学ぶことで、本授業のテーマ、到達目標をより深く理解することができる。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版」で“教育する」という取り組みを実践している。							

科目名称	人間関係ゼミⅡ		
科目分類	112-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。</p> <p>2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。</p> <p>(1) 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ</p> <p>(2) 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ</p> <p>授業で全員が集まるときはほとんど (1) を扱うことになるので、(2) は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。</p>		
到達目標	<p>(1) 共通テーマ</p> <p>文献に基づいてレジュメを作成し、レジュメを全員に共有して発言を促しながら討論を進行する これらの作業を通じて文献から著者の問題意識と社会原理の問題を精確に読み取り、読み取ったことと討論を照らし合わせて自身の考えを文章にまとめてレポートを作成する</p> <p>(2) 個人研究</p> <p>前期に設定し着手した個人研究を推し進め、中間報告で情報交換し、研究推進上の課題発見や解決を進める</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】</p> <p>予習：関連する授業の内容の復習</p> <p>授業：ゼミの進め方・履修上の注意・テキストの指示</p> <p>復習：テキストの準備・個人研究テーマの推進</p> <p>【第 2 回】</p> <p>予習：テキストの準備・個人研究テーマの推進</p> <p>授業：テキストについての説明、レジュメ作成方法の説明</p> <p>復習：個人研究の推進</p> <p>【第 3 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進</p> <p>【第 4 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所を再読・個人研究の推進</p> <p>【第 5 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所を再読・個人研究の推進</p> <p>【第 6 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進</p> <p>【第 7 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進</p> <p>【第 8 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進</p> <p>【第 9 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進</p> <p>【第 10 回】</p> <p>予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成</p> <p>授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション)</p> <p>復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進</p>			

<p>【第 11 回】          予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成          授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）          復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進</p> <p>【第 12 回】          予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成          授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）          復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進</p> <p>【第 13 回】          予習：この時点までの個人研究の状況をゼミで共有できるようプレゼンにまとめる          授業：個人研究の中間発表（1）（問題解決型学習・プレゼンテーション・ディスカッション）          復習：授業内容を反映させて個人研究の軌道修正をし、さらに推進する</p> <p>【第 14 回】          予習：ここまでの個人研究の状況をゼミで共有できるようプレゼンにまとめる          授業：個人研究の中間発表（2）（問題解決型学習・プレゼンテーション・ディスカッション）          復習：授業内容を反映させて個人研究の軌道修正をし、さらに推進する</p> <p>【第 15 回】          予習：ここまでの個人研究の状況をゼミで共有できるようプレゼンにまとめる          授業：個人研究の中間発表（3）（問題解決型学習・プレゼンテーション・ディスカッション）          復習：授業内容を反映させて個人研究の軌道修正をし、さらに推進する</p>								
授業開始前学習	化粧品を始め種々の流行（履修者にとって異世代や異性も含む）や、社会情勢、時代風潮、ニュースや事件など、自分が生きる時代と社会の状況に広く関心を持ち、自分なりに日々考え続けることが必要である とくに後期は「化粧の文化史」と「化粧文化論 b」の知識を前提にした内容であるので、できる限り今期までにこれらを履修し、すでに履修した人は復習しておく必要がある とくに個人研究テーマが化粧・美容・ファッション・外見に関連する者は個人研究でも上記の科目が必要になるため、できるだけ早く履修を終える必要がある							
授業内課題のフィードバックの方法	レジュメとプレゼンテーションはその場で改善点をアドバイスする 個人研究の中間報告では個人の状況にあった細かなアドバイスをする							
テキスト・教材	石田かおり『化粧と人間』、法政大学出版局、2009 年（オンデマンド出版のため教科書販売期間に一括注文する）							
参考書	三浦雅士『身体の零度』講談社、1994 年 そのほかは必要があるときに指示する							
評価の基準と方法	レジュメ作成と発表・討論の司会進行 30%、発言などゼミ参加の積極性 20%、レポート 30 パーセント、中間報告 20% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、単位は認定しない							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	化粧の文化史と化粧文化論 b は前提となる内容 そのほか化粧文化論 a、セルフプロデュース論、ビューティービジネス論とも関連が深い							
その他	テキストのレジュメ作成と討論の司会進行は必ず 1 度は当番が回るように担当を決める 担当者はレジュメ作成のほか、レジュメの共有と、担当内容についてのクラスの討論の司会進行も務める 個人研究を自力で進める力をつけることも重要である							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容を基に授業を実施							



科目名称	人間関係ゼミⅡ		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	国際社会の諸問題から、各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。		
到達目標	思考を深める。 口頭発表および文章作成能力の向上。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：前期課題の完成  授業：後期のゼミ運営方針を再確認 各人のゼミ研究テーマについて発表  復習：研究テーマについて、教員からの指示を参考に再考</p> <p>【第2回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(1) 学生発表と討議(1) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第3回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(2)ゼミ生による発表・討議(2) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第4回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(3) 学生発表と討議 (3) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第5回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(4) 学生発表と討議(4) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第6回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(5) 学生発表と討議(5) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第7回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(6) 学生発表と討議(6) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第8回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(7) 学生発表と討議(7) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第9回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(8) 学生発表と討議(8) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第10回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(9) 学生発表と討議(9) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第11回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(10) 学生発表と討議(10) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第12回】  予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備  授業：時事問題解説(11) 学生発表と討議(11) (プレゼンテーション・ディスカッション)  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第13回】</p>			



<p>予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心ある新聞記事を準備          授業：時事問題解説(12) 学生発表と討議(12) (プレゼンテーション・ディスカッション)          復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考          【第14回】          予習：これまでのゼミ生のレジュメを読み、共同研究の可能性を探る          授業：4年生に向けての研究の再考を中心に討論(ディスカッション)          復習：各ゼミ生が【第14回】ゼミを踏まえて、自己の研究を再検討          【第15回】          予習：前回課題を完成          授業：4年ゼミに向けての各ゼミ生の研究テーマの最終検討          復習：指示された課題を完成</p>								
授業開始前学習	自身の研究テーマに関する本を読み漁る。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業を通じて適宜実施する。							
テキスト・教材	指定しない。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	平常点と発表内容およびレジュメ、毎ゼミでの発言で評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が発表日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「戦争と平和の歴史 I.II」を履修済みであることが望ましい。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅡ		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	テーマ：社会学で読み解く現代社会 社会学的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開します。各自の研究活動に必要な基礎的スキルを着実に修得してもらうことを目標とします。		
到達目標	次の3点を目標とします。 1. 「本の読み方」をマスターする 2. ディスカッションのスキルを高める 3. 「問い」を立てるスキルを身につける		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
【第1回】 予習：テキスト第8章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：後期ゼミ活動打合せ、テキスト講読1【pp.146～155】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第2回】 予習：テキスト第9章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読2【pp.158～172】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第3回】 予習：テキスト第10章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読3【pp.174～189】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第4回】 予習：各自の個人研究のテーマ候補（複数）をメモに書き出してください。 授業：個人研究の方法と進め方 復習：以後の報告スケジュールをもとに、準備作業の計画を立ててください。			
【第5回】 予習：テキスト第11章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読4【pp.192～207】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第6回】 予習：テキスト第12章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読5【pp.210～226】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第7回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表1（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第8回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表2（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第9回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表3（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。			
【第10回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表4（プレゼンテーション、ディスカッション）			

復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 11 回】

予習：報告者のレジメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。

授業：個人研究発表 5（プレゼンテーション、ディスカッション）

復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 12 回】

予習：報告者のレジメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。

授業：個人研究発表 6（プレゼンテーション、ディスカッション）

復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 13 回】

予習：報告者のレジメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。

授業：個人研究発表 7（プレゼンテーション、ディスカッション）

復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 14 回】

予習：報告者のレジメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。

授業：個人研究発表 8（プレゼンテーション、ディスカッション）

復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 15 回】

予習：報告者のレジメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。

授業：個人研究発表 9（プレゼンテーション、ディスカッション）

復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

授業開始前学習	日頃から新聞・雑誌に目を通す習慣をつけ、幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。							
テキスト・教材	岩本茂樹、2015、『自分を知るための社会学入門』（中央公論新社）							
参考書	長谷川公一ほか、2007、『社会学』（有斐閣） その他、授業を通じて随時、紹介します。							
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（80％）、期末レポート（20％）により評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学ⅠⅡ」および「流行論」「文化社会学ⅠⅡ」「社会学特論」「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他	前期に引き続き、テキストの講読（受講者による報告）と討論を基本形式に進めます。報告者のみならず全員があらかじめ指定された範囲を熟読し、疑問点や各自のコメントを整理したうえでゼミでの議論に臨んでください。学期後半からは個人研究に取り組んでもらい、プレゼンと討論を行います。意欲的な受講態度を期待します。受講者各位の素朴な疑問と柔軟な発想から、私自身も多くのことを学びたいと考えております。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅡ		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く文化事象を対象として、社会的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することを最終的な目標とする。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的な参加によって、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、研究を進めるために必要な①課題を発見する力、②文献の批評的な読解力、③情報収集力の獲得である。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：3年次後期の学びの目標を考える  授業：ゼミの目的と進め方・各自の関心を報告  復習：基本文献全体に目を通す</p> <p>【第2回】  予習：消費社会論に関する基本文献を講読する  授業：基本文献の講読と報告～消費社会論（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：消費社会論に関する他の文献情報を収集する</p> <p>【第3回】  予習：メディアと広告に関する基本文献を講読する  授業：基本文献の講読と報告～メディアと広告（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：メディアと広告に関する他の文献情報を収集する</p> <p>【第4回】  予習：作品研究に関する基本文献を講読する  授業：基本文献の講読と報告～作品をめぐる／という文化（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：作品研究に関する他の文献情報を収集する</p> <p>【第5回】  予習：暮らしの文化に関する基本文献を講読する  授業：基本文献の講読と報告～暮らしの文化（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：暮らしの文化に関する他の文献情報を収集する</p> <p>【第6回】  予習：時事問題（政治）に関する関連文献を講読する  授業：関連文献の講読と報告～時事問題（政治）（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：時事問題（政治）に関する課題を整理する</p> <p>【第7回】  予習：時事問題（国際）に関する関連文献を講読する  授業：関連文献の講読と報告～時事問題（国際）（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：時事問題（国際）に関する課題を整理する</p> <p>【第8回】  予習：時事問題（生活）に関する関連文献を講読する  授業：関連文献の講読と報告～時事問題（生活）（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：時事問題（生活）に関する課題を整理する</p> <p>【第9回】  予習：時事問題（経済）に関する関連文献を講読する  授業：関連文献の講読と報告～時事問題（経済）（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：時事問題（経済）に関する課題を整理する</p> <p>【第10回】  予習：各自の研究テーマについて報告準備をする  授業：個人研究の進め方  復習：研究計画をたてる</p>			

<p>【第 11 回】          予習：研究テーマについてグループごとに意見交換を行う          授業：個人研究のテーマをグループで発表し、意見交換を行う（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：ディスカッションをふまえ、今後の課題を整理する</p> <p>【第 12 回】          予習：研究テーマについてのアイデアを書き出す          授業：個人研究～アイデアの整理・資料の作成          復習：報告資料を完成させる</p> <p>【第 13 回】          予習：プレゼンテーションの準備と練習を行う          授業：個人研究～報告①（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：互いのプレゼンテーションについてコメントを用意する</p> <p>【第 14 回】          予習：プレゼンテーションを振り返り、問題点を認識する          授業：個人研究～報告②（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：批評とディスカッションをふまえ、研究計画を再検討する</p> <p>【第 15 回】          予習：研究計画を練り直し、簡単な報告資料を作成する          授業：次年度以降の研究計画の報告会          復習：報告会での課題を確認し、必要な情報収集を行う</p>								
授業開始前学習	日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。							
テキスト・教材	井上俊・長谷正人編著，2010，『文化社会学入門——テーマとツール』ミネルヴァ書房。 その他、受講生と相談しながら決定する。							
参考書	授業中に適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	授業参加の積極度（60％）、作成資料（40％）により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「文化社会学Ⅰ／現代社会論Ⅰ」「文化社会学Ⅱ／社会学研究Ⅱ」は現代社会を社会的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他	ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅡ		
科目分類	112-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	グループに分かれ心理学的手法を用いた研究を行う。翌年の卒業研究に備えて、研究の手順とノウハウをグループワークにて学ぶ。最終回ではプレゼンテーションを行い、各グループの研究に対して互いに質疑応答を行うことで、他者の研究を理解し、批判的に考えられるようになることを目指す。		
到達目標	<p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学研究の手順について理解する</li> <li>2.卒業論文作成時に必要とされるスキルを身に着ける</li> <li>3.統計的分析方法の基礎について理解する</li> <li>4.相手の視点に立った分かり易いプレゼンテーションができる</li> <li>5.論文で使用される独特な表現を使って文章を書くことができる</li> <li>6.仮説の設定、データの考察、発表での質疑応答等を通じて論理的に考える力を培う</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】            授業：オリエンテーション、関心のあるテーマ別のグループ分け、研究内容の相談【教科書第1,2章】（グループワーク）            予習：研究したいテーマや領域について考える            復習：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる</p> <p>【第2回】            授業：研究テーマと仮説の設定【教科書第5章】（グループワーク）            予習：研究デザインを考える            復習：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる</p> <p>【第3回】            授業：研究の具体化、質問項目や実験方法を考える【教科書第6章】（グループワーク）            予習：具体的な研究方法について考える            復習：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる</p> <p>【第4回】            授業：調査材料を考え、作成・準備する【教科書第7章】（グループワーク）            予習：必要な調査材料について考えておく            復習：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる</p> <p>【第5回】            授業：調査材料を作成する、調査実施について相談する【教科書第8章】（グループワーク）            予習：分担した調査材料の作成を行う            復習：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる、調査材料に問題がないか確認する</p> <p>【第6回】            授業：調査の実施、プレゼンの問題・方法部分の作成【教科書第9,28章】（グループワーク）            予習：調査依頼を行い、調査日を決定する            復習：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる</p> <p>【第7回】            授業：データ整理、データクリーニング【教科書第10,11章】（グループワーク）            予習：調査の進行状況を確認する            復習：本日の内容を教科書にまとめる</p> <p>【第8回】            授業：基礎統計量の算出【教科書第11,22章】（グループワーク）            予習：調査で得られたデータをまとめ、持参する            復習：本日の内容を教科書にまとめる</p> <p>【第9回】            授業：因子分析の実施【教科書第12～14,23章】（グループワーク）            予習：仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する            復習：本日の内容を教科書にまとめる</p> <p>【第10回】            授業：仮説に沿った分析の実施①【教科書第15～21,24章】（グループワーク）            予習：仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する            復習：本日の内容を教科書にまとめる</p> <p>【第11回】            授業：仮説に沿った分析の実施②【教科書第15～21,24章】（グループワーク）            予習：仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する            復習：本日の内容を教科書にまとめる</p> <p>【第12回】</p>			



<p>授業：分析結果を図表にする、結果を考察する、研究の問題点を考える【教科書第 25,26 章】（グループワーク）          予習：分析結果を見返し、なぜその結果となったか理由を考える          復習：本日の内容を教科書にまとめる          【第 13 回】          授業：プレゼンテーションの準備、レポートの作成方法【教科書第 27～30 章】（グループワーク）          予習：プレゼンテーションの流れを考える          復習：作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する          【第 14 回】          授業：プレゼンテーションの準備・練習、卒業研究に向けて【教科書第 31 章】（グループワーク）          予習：プレゼンテーションに向けてグループで相談すべきことについて整理する          復習：作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する          【第 15 回】          授業：グループ別プレゼンテーション、質疑応答（プレゼンテーション）          予習：プレゼンテーションの練習を十分に行う          復習：質疑応答を踏まえ研究の問題点をさらに考える、卒業研究のテーマについて考え始める</p>								
授業開始前学習	研究したいと思うテーマに関連する書籍、論文を読んでおく。自分や他者に日頃から関心を持ち、なぜそのように行動するのか、なぜそのように感じるのか考えてみる（素朴な疑問は研究テーマの芽になりうるため）。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を課した場合には、提出日にチェックを行いその場でコメントを返す。							
テキスト・教材	倉住友恵著『人間関係ゼミⅡ（応用心理学）教科書』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	授業時間内に紹介する。							
評価の基準と方法	グループへの貢献度（出席を含む）40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	人間関係ゼミⅠ、アンケート調査法、フィールドワークの技法、人間関係の基礎							
その他	本授業はゼミであるため、基本的に全授業回への出席を求める。万が一欠席する場合には、必ず教員へ連絡を入れるように。授業はグループワークにて進行するため、グループに貢献できるよう積極的かつ協力的な姿勢をもつよう心掛けて欲しい。人間関係ゼミⅢ、Ⅳへと学びを発展させるためにも、日頃生じた素朴な疑問や興味関心を大切に、自発的に調べるなど積極的な姿勢をもつことが望まれる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅡ		
科目分類	112-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【情報を適切に伝える】 出版物にみられる「テーマや表現の多様性と方法」について研究する。実践として、絵本を制作したり、小冊子にまとめる。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。		
到達目標	グループの課題（前期）と個人の研究（後期）を1つのチームになって進めることで、「チームで働く力」「考え抜く力」を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「絵本とは何か」を具体的に調べる 授業：絵本編集「絵を読ませるとのこと、メッセージ」 復習：「絵本とは何か」をレポートにまとめる</p> <p>【第2回】 予習：ストーリーを考える 授業：絵本編集「ストーリー展開とページめくりへの期待」 復習：授業を振り返り、ストーリーを見直す</p> <p>【第3回】 予習：ページ構成を考える 授業：絵本編集「起承転結、連続と飛躍、構図と変化」 復習：授業を振り返り、ページ構成を見直す</p> <p>【第4回】 予習：絵コンテを考える 授業：企画会議「コンテを作る、コンテで語る」（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、絵コンテを見直す</p> <p>【第5回】 予習：絵コンテを仕上げる 授業：企画会議「コンテのプレゼンテーション」（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、絵コンテを修正する</p> <p>【第6回】 予習：デザイン案を考える 授業：企画会議「判型とデザイン計画」（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、デザイン案を見直す</p> <p>【第7回】 予習：ページ構成を考える 授業：原稿制作「画像原稿と文字原稿」1 復習：授業を振り返り、ページ構成を見直す</p> <p>【第8回】 予習：キャラクターを考える 授業：原稿制作「画像原稿と文字原稿」2 復習：授業を振り返り、キャラクターを考える</p> <p>【第9回】 予習：ストーリーとキャラクターを完成させる 授業：原稿制作「画像原稿と文字原稿」3 復習：授業を振り返り、ストーリーとキャラクターを見直す</p> <p>【第10回】 予習：すべての原稿を完成させる 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力など」 復習：授業を振り返り、すべての原稿を見直す</p> <p>【第11回】 予習：レイアウトを進める 授業：原稿整理「プリントアウト、校正など」 復習：授業を振り返り、レイアウトを見直す</p> <p>【第12回】 予習：レイアウトを進める 授業：原稿整理「プリントアウト、校正、追加原稿など」 復習：授業を振り返り、レイアウトを見直す</p> <p>【第13回】</p>			

予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」1 復習：製本を仕上げる 【第14回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」2 復習：製本を仕上げる 【第15回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」3 復習：製本を仕上げる								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の始めに会議を行い、グループの質問に答え、課題を進めていく。							
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。							
参考書	授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「企画と表現」「ビジネスと表現活動」を学ぶことで、本授業のテーマ、到達目標をより深く理解することができる。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版」で“教育する」という取り組みを実践している。							

科目名称	人間関係ゼミⅢ		
科目分類	112-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。</p> <p>2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。</p> <p>(1) 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ</p> <p>(2) 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ</p> <p>授業で全員が集まるときはほとんど (1) を扱うことになるので、(2) は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。</p>		
到達目標	<p>(1) 共通テーマ 問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力が授業開始前より伸びている状態</p> <p>(2) 個人研究 前年度に設定し着手した個人研究をさらに推進し、中間報告で情報交換し、後期に論文執筆にかかれる水準を持ってゆく</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：自分が何についてのどの点に関心があるのか自覚し、詳細に把握しておく 授業：共通テーマ (1) の策定 復習：共通テーマの問題点を考える・個人研究の推進</p> <p>【第 2 回】 予習：共通テーマについての資料を集める 授業：共通テーマ (1) の問題分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進</p> <p>【第 3 回】 予習：共通テーマについての資料を集める 授業：共通テーマ (1) の資料を使った問題点の分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進</p> <p>【第 4 回】 予習：足りない資料を集める 授業：共通テーマ (1) の問題点分析を整理し論理的に構築する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進</p> <p>【第 5 回】 予習：論理的説明について書籍等の資料を読む 授業：共通テーマ (1) を論理的に説明できるようまとめる 復習：授業でまとめたもののプレゼン練習・個人研究の推進</p> <p>【第 6 回】 予習：授業でまとめたもののプレゼン練習 授業：共通テーマ (1) の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進</p> <p>【第 7 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告 (1) 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める</p> <p>【第 8 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告 (2) 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める 軌道修正をし、さらに推進する予習：</p> <p>【第 9 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告 (3) 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める</p> <p>【第 10 回】 予習：自分が何についてのどの点に関心があるのか自覚し、詳細に把握しておく 授業：共通テーマ (2) の策定 復習：共通テーマの問題点を考える・個人研究の推進</p> <p>【第 11 回】</p>			

<p>予習：人の外見についての社会問題を調べる          授業：共通テーマ（2）の問題分析          復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進          【第12回】          予習：問題点についての資料を集める          授業：共通テーマ（2）の資料を使った問題点の分析          復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進          【第13回】          予習：足りない資料を集める          授業：共通テーマ（2）の問題点分析を整理し論理的に構築する          復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進          【第13回】          予習：論理的説明について書籍等の資料を読む          授業：共通テーマ（2）を論理的に説明できるようまとめる          復習：授業でまとめたもののプレゼン練習・個人研究の推進          【第14回】          予習：授業でまとめたもののプレゼン練習          授業：共通テーマ（2）の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する          復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進          【第15回】          予習：3年次も含めてこれまでの共通テーマを振り返る・この時点までの個人研究をレポートにまとめる          授業：共通テーマについての総括・レポートの提出          復習：授業を思い出し内容を個人研究につなげて個人研究を推進する</p>								
授業開始前学習	化粧を始め種々の流行（履修者にとって異世代や異性も含む）や、社会情勢、時代風潮、ニュースや事件など、自分が生きる時代と社会の状況に広く関心を持ち、自分なりに日々考え続けることが必要である とくに後期は「化粧の文化史」と「化粧文化論 b」の知識を前提にした内容であるので、できる限り今期までにこれらを履修し、すでに履修した人は復習しておく必要がある とくに個人研究テーマが化粧・美容・ファッション・外見に関連する者は個人研究でも上記の科目が必要になるため、できるだけ早く履修を終える必要がある							
授業内課題の フィードバックの方法	レジュメとプレゼンテーションはその場で改善点をアドバイスする 個人研究の中間報告では個人の状況にあった細かなアドバイスをする							
テキスト・教材	必要があるときに指示する							
参考書	必要があるときに指示する							
評価の基準と方法	共通テーマへの参加度 50%、中間報告 15%、レポート 35% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、単位は認定しない							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	現代社会の問題を扱うためおそらく大多数の授業が関連ある							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容を基に授業を実施							

科目名称	人間関係ゼミⅢ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。 ゼミ科目であり、ディスカッション、発表が中心であることは言うまでもない。		
到達目標	思考力、考察力を高める。 口頭発表および文書作成能力の向上。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：研究の進捗状況報告準備 授業：ゼミ生による研究の進捗状況報告 ゼミ運営方針の確認 復習：研究についての教員からの指示をまとめる</p> <p>【第2回】 予習：研究の進捗状況の発表準備 授業：研究の進捗状況の発表 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の研究の再考</p> <p>【第3回】 予習：自己の研究テーマについての先行研究を準備 授業：各ゼミ生の集めた先行研究の検討（1）（ディスカッション） 復習：自身の収集した記事と他の学生のそれらを整理</p> <p>【第4回】 予習：自己の研究テーマについての最近の先行研究を準備 授業：各ゼミ生の集めた先行研究の検討（2）（ディスカッション） 復習：自身の収集した記事と他の学生のそれを整理</p> <p>【第5回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（1）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第6回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（2）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第7回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（3）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第8回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（4）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第9回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（5）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第10回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（6）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第11回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（7）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第12回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（8）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考</p> <p>【第13回】</p>			



予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（9）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考 【第14回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（10）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考 【第15回】 予習：発表後の自己の研究の進展をまとめる 授業：ゼミ生による研究の改善点発表 後期にむけての課題を指示 復習：提示された課題に着手								
授業開始前学習	自身のテーマに関連する文献リストを作成する							
授業内課題のフィードバックの方法	授業を通じて、適宜実施する。							
テキスト・教材	指定しない。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	平常点と発表内容およびレジュメ、ゼミでの発言により評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が担当日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ、Ⅱ，国際社会の論点／国際社会への誘い							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅢ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	社会学的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開します。本格的な学術研究を志向します。各自、自らの問題関心を掘り下げる作業、問いを立てること、情報を集めその問いにじっくりと考察をめぐらすこと、それらの知的営みに取り組んでもらいます。また、自分の着想を明確に伝え、相手の主張を精確に理解し、それに的確にコメントするためのコミュニケーション・スキルを磨くことも学習課題とします。		
到達目標	次の3点を目標とします。 1. 「問い」を立てるスキルを高める 2. 文献情報を収集するスキルを高める 3. 「本の読み方」をマスターする		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：2年次後期の個人研究と期末レポートをもとに、各自の研究テーマと問題関心を整理してください。 授業：前期ゼミ活動打合せ 復習：前期の報告スケジュールをもとに、準備作業の中期的計画を立ててください。</p> <p>【第2回】 予習：研究テーマ、研究トピック（暫定的で可）を具体的に決めてください。 授業：文献リサーチの方法（実習） 復習：授業内容を復習し、各自、文献リストの作成作業を進めてください。</p> <p>【第3回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表1（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第4回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表2（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第5回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表3（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第6回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表4（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第7回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表5（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第8回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表6（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第9回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表7（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第10回】 予習：テキスト第1～5章を熟読し、不明点・疑問点を整理しておいてください。</p>			

授業：卒論・ゼミ論の研究計画の立て方【テキスト p.9～p.144】  
 復習：テキスト第 6～9 章を読み、論文作成の具体的な作業イメージをつかんでください。

【第 11 回】  
 予習：報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  
 授業：個人研究発表 8（プレゼンテーション、ディスカッション）  
 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 12 回】  
 予習：報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  
 授業：個人研究発表 9（プレゼンテーション、ディスカッション）  
 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 13 回】  
 予習：報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  
 授業：個人研究発表 10（プレゼンテーション、ディスカッション）  
 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 14 回】  
 予習：報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  
 授業：個人研究発表 11（プレゼンテーション、ディスカッション）  
 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

【第 15 回】  
 予習：報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  
 授業：個人研究発表 12（プレゼンテーション、ディスカッション）  
 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

授業開始前学習	日頃から幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。							
テキスト・教材	戸田山和久、2012、『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス）							
参考書	井下千似子、2013、『レポート・論文作成法』（慶應義塾大学出版会） その他、授業を通じて随時、紹介します。							
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（100 %）により評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅱ」および「流行論」「文化社会学Ⅱ」「社会学特論」および「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他	各自の個人研究の成果発表と討論を基本形式に進めます。アイデアは、読書（著者という他人）やディスカッション（実在の他人）など、つねに他者との意見交換のなかから生まれてきます。ゼミの場を活用し、研究テーマに関して互いに積極的にコミュニケーションし合う習慣を身に付けてください。ゼミ担当者として、各自の研究活動を支援する労力は惜しみません。遠慮することなく、いつでも相談してください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅢ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く文化事象を対象として、社会的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することが求められる。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的に参加し、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、研究のために必要な以下の3つの能力、すなわち、①文献を論理的に読解する力、②自らの考えを論理的に述べる力、③説得力のあるプレゼンテーションを行う力を獲得することである。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：3年次後期の研究発表を振り返る  授業：ゼミ活動打合せ  復習：4年次前期研究計画を立てる</p> <p>【第2回】  予習：自分の研究テーマを決定する  授業：研究テーマ報告会（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミで指摘された点をもとに、テーマを練り直す</p> <p>【第3回】  予習：テーマに関する資料を収集する  授業：参考文献報告、情報検索のコツ  復習：テーマに関する資料収集を補足する</p> <p>【第4回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：研究報告①～テーマ（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す</p> <p>【第5回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：研究報告②～アウトライン（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す</p> <p>【第6回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：研究報告③～先行研究（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す</p> <p>【第7回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：研究報告④～自説（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す</p> <p>【第8回】  予習：論文の構成を考える  授業：論文の書き方  復習：論文の構成を修正する</p> <p>【第9回】  予習：論文構成のプレゼン準備を行う  授業：論文構成にもとづいた研究報告①～目次の作成（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する</p> <p>【第10回】  予習：論文構成のプレゼン準備を行う  授業：論文構成にもとづいた研究報告②～先行研究（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する</p>			

<p>【第 11 回】          予習：論文構成のプレゼン準備を行う          授業：論文構成にもとづいた研究報告 ③～問題提起（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する</p> <p>【第 12 回】          予習：論文構成のプレゼン準備を行う          授業：論文構成にもとづいた研究報告④～自説（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する</p> <p>【第 13 回】          予習：論文構成のプレゼン準備を行う          授業：論文構成にもとづいた研究報告⑤～追加調査（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する</p> <p>【第 14 回】          予習：研究計画の見直し          授業：研究計画の検討          復習：ゼミでの意見を参考に後期の研究計画を見直す</p> <p>【第 15 回】          予習：夏季休暇中の課題を整理する          授業：夏季休暇中の研究活動について          復習：夏季休暇中の研究活動に力をつける</p>								
授業開始前学習	日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。							
テキスト・教材	授業中に指示する。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法	授業参加の積極度（60 %）、作成資料・論文（40%）により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「文化社会学Ⅰ／現代社会論Ⅰ」「文化社会学Ⅱ／社会学研究Ⅱ」は、現代社会を社会的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他	ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅢ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	日常場面から心理学的なリサーチエスション（研究に関する問い）を立て、関係する先行研究をレビューしていく。複数の先行研究を体系的に理解することで、テーマに関する知識を深めていく。場合によっては自ら調査や実験を計画し、実施する。授業時間の前半は各自の研究報告の時間とし、ゼミの全員でディスカッションすることで研究テーマへの理解を深め、個々の研究内容をブラッシュアップしていく。後半は教員への研究相談の時間とし、テーマ設定の仕方や調査・実験材料の作り方などについて相談を受け付ける。		
到達目標	以下、6点を目標とする。 1. 研究テーマに関する先行研究に一定以上精通する 2. 論文を批判的に読むことができる 3. 卒業研究の具体的な内容（リサーチエスション、研究手法）を確定する 4. 発表を通じて他者に自分の考えを分かりやすく説明できる 5. 他者の発表に対して適切なコメント（意見、質問）ができる 6. 投げかけられた質問に適切に回答することができる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 授業：オリエンテーション、卒業論文とは、卒業研究テーマの発表（ディスカッション） 予習：卒業研究のテーマについてのレジュメ作成 復習：授業で得た意見を参考にしながら、卒業研究のテーマを見直す</p> <p>【第2回】 授業：先行研究報告1、質疑応答（ディスカッション） 予習：先行研究の精読、批判点・疑問点の抽出、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第3回】 授業：先行研究報告2、質疑応答（ディスカッション） 予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第4回】 授業：先行研究報告3、質疑応答（ディスカッション） 予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第5回】 授業：先行研究報告4、質疑応答（ディスカッション） 予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第6回】 授業：先行研究報告5、質疑応答（ディスカッション） 予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第7回】 授業：先行研究報告6、質疑応答（ディスカッション） 予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第8回】 授業：研究計画発表1、質疑応答（ディスカッション） 予習：研究計画の立案、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第9回】 授業：研究計画発表2、質疑応答（ディスカッション） 予習：研究計画の立案、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第10回】 授業：研究計画発表3、質疑応答（ディスカッション） 予習：研究計画の立案、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討</p> <p>【第11回】 授業：研究計画発表4、質疑応答（ディスカッション） 予習：研究計画の立案、発表準備</p>			



復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討 【第12回】 授業：研究計画発表5、質疑応答（ディスカッション） 予習：研究計画の立案、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討 【第13回】 授業：研究計画発表6、質疑応答（ディスカッション） 予習：研究計画の立案、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討 【第14回】 授業：研究計画発表7、研究材料の作成、質疑応答（ディスカッション） 予習：研究材料の作成、発表準備 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討、研究材料の改良 【第15回】 授業：夏季休暇中の研究の進め方、夏季休暇中の研究計画発表 予習：夏季休暇中の研究計画立案 復習：夏季休暇中の研究計画の遂行								
授業開始前学習	「人間関係ゼミⅠ・Ⅱ」における学修内容を復習し、卒業研究のテーマを検討する。関心領域における文献収集と講読を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表内容や提出課題については、基本的にその授業時間内にフィードバックと必要な指導を行う。							
テキスト・教材	特に定めない。							
参考書	授業時間内に適宜紹介する。							
評価の基準と方法	受講態度 40%、発表・課題提出 40%、ディスカッションへの参加 20%として評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	人間関係ゼミⅠ・Ⅱ、アンケート調査法、フィールドワークの技法							
その他	学生が主体となる演習科目なので、積極的な参加態度をもって臨むよう心掛けてほしい。欠席する場合には必ず教員へ連絡を入れること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅢ		
科目分類	112-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【メディアで表現する】 各回を前後半に分けて、会議とワークショップを行う。会議ではイベントやプロジェクトの企画をたて、実践する。ワークショップでは、全員で決めたシリーズに基づいて 1 人 1 テーマの著作をまとめあげる。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。		
到達目標	「理解力 (わかること) 」と「表現力 (わかってもらうこと) 」を高める。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】  予習 : 自分が作りたい本のイメージに近いものを探す  授業 : 前半「会議」、後半「シリーズテーマについて」1 (ディスカッション)  復習 : テーマを考える</p> <p>【第 2 回】  予習 : 自分が作りたい本のイメージに近いものを探す  授業 : 前半「会議」、後半「シリーズテーマについて」2 (ディスカッション)  復習 : テーマを決める</p> <p>【第 3 回】  予習 : 読者対象を設定し、テーマを考える  授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり」1 (ディスカッション)  復習 : 仕様を考える</p> <p>【第 4 回】  予習 : 読者対象を設定し、テーマを考える  授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり」2 (ディスカッション)  復習 : 仕様を決める</p> <p>【第 5 回】  予習 : ページ構成を考え、絵コンテを作る  授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり (ページ構成) 」1 (ディスカッション)  復習 : ページ構成を考える</p> <p>【第 6 回】  予習 : ページ構成を考え、絵コンテを作る  授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり (ページ構成) 」2 (ディスカッション)  復習 : ページ構成を決める</p> <p>【第 7 回】  予習 : オリジナリティを考え、絵コンテを修正する  授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり (オリジナリティ) 」1 (ディスカッション)  復習 : オリジナリティを考える</p> <p>【第 8 回】  予習 : オリジナリティを考え、絵コンテを修正する  授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり (オリジナリティ) 」2 (ディスカッション)  復習 : オリジナリティを決める</p> <p>【第 9 回】  予習 : 作業の進行計画表を作る  授業 : 前半「会議」、後半「原案発表 (進行計画表) 」1 (ディスカッション、発表)  復習 : 進行計画を考える</p> <p>【第 10 回】  予習 : 作業の進行計画表を作る  授業 : 前半「会議」、後半「原案発表 (進行計画表) 」2 (ディスカッション、発表)  復習 : 進行計画を決める</p> <p>【第 11 回】  予習 : 判型を決め、レイアウト台紙を作る  授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作 (文字原稿) 」1 (ディスカッション)  復習 : レイアウトを考える</p> <p>【第 12 回】  予習 : 判型を決め、レイアウト台紙を作る  授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作 (文字原稿) 」2 (ディスカッション)  復習 : レイアウトを決める</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : レイアウトを進める 授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作(画像原稿)」1 (ディスカッション) 復習 : レイアウトを見直し、修正する 【第14回】 予習 : レイアウトを進める 授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作(画像原稿)」2 (ディスカッション) 復習 : レイアウトを見直し、修正する 【第15回】 予習 : 原稿を集める 授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作(追加原稿)」(ディスカッション) 復習 : 原稿を確認し、レイアウトを進める → 後期に続く								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	グループディスカッションで講評を行い、個人のワークショップで進捗を確認する。							
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。							
参考書	授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「企画と表現」「表現活動とビジネス」を履修しておくことが望ましい。							
その他	課題学習(予習・復習)については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版」で“教育する」という取り組みを実践している。							

科目名称	人間関係ゼミⅣ		
科目分類	112-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	<p>公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。</p> <p>2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。</p> <p>(1) 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ</p> <p>(2) 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ</p> <p>授業で全員が集まるときはほとんど (1) を扱うことになるので、(2) は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。</p>		
到達目標	3 年次からこままでの共通テーマで身に着いたスキルや思考力等を駆使して個人研究に注力し、卒業論文またはゼミ論文にまとめ提出する。その後、論文内容を学内公開形式の公聴会にてプレゼンする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第 1 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 2 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 3 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 4 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 5 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 6 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 7 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 8 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 9 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 10 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p> <p><b>【第 11 回】</b>  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆</p>			

<p>【第12回】  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文の仕上げ</p> <p>【第13回】  予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成  授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション）  復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文の仕上げ</p> <p>【第14回】  予習：卒業論文またはゼミ論文の内容をプレゼン形式にし、併せて質疑応答の準備もする  授業：卒論・ゼミ論公聴会にて論文内容をプレゼンし、質疑応答にも応じる  復習：プレゼント質疑応答を振り返り、改善点を洗い出し、論文作成時の気づきと併せて今後の社会生活・就業生活にいかせるよう記録を残しておく</p> <p>【第15回】  予習：卒業論文またはゼミ論文の内容をプレゼン形式にし、併せて質疑応答の準備もする  授業：卒論・ゼミ論公聴会にて論文内容をプレゼンし、質疑応答にも応じる  復習：プレゼント質疑応答を振り返り、改善点を洗い出し、論文作成時の気づきと併せて今後の社会生活・就業生活にいかせるよう記録を残しておく</p>								
授業開始前学習	前期に提出したレポートを論文という最終形にするための準備（足りない部分の資料を集めて読み込む、構成を見直す、結論を固めるなど）							
授業内課題のフィードバックの方法	ディスカッションが適切に進むよう授業の中でサポートする ゼミ論文は各自でテーマも内容も書き方も異なるため、本学のテーラーメイド教育の特色の通り個人サポートをする							
テキスト・教材	必要がある場合はその都度用意または指示する							
参考書	必用がある場合はその都度指示する							
評価の基準と方法	共通テーマのディスカッションの参加度 20%、ゼミ論文 60%、公聴会でのプレゼン 20% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席回数は単位を認定しない							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目								
その他	ゼミ論文の提出と公聴会でのプレゼンの両者が揃って初めて単位が認められる							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容に基づく							

科目名称	人間関係ゼミⅣ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。		
到達目標	思考を深める。 口頭発表および文章作成能力の向上。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：前期課題の完成  授業：後期ゼミ方針の再確認  復習：引き続き自身の研究の深化をはかる</p> <p>【第2回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(1)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第3回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(2)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第4回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(3)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第5回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(4)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第6回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(5)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第7回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(6)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第8回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(7)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第9回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(8)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第10回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(9)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第11回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(10)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第12回】  予習：発表者は研究発表準備  授業：学生発表と討議(11)（プレゼンテーション・ディスカッション）  復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考</p> <p>【第13回】</p>			



予習：発表者は研究発表準備 授業：学生発表と討議(12) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考 【第14回】 予習：ゼミ論完成にむけての最終質問をメモ書きにする 授業：ゼミ論完成にむけてのアドバイス 復習：アドバイスの沿った、ゼミ論書き換え 【第15回】 予習：ゼミ論を完成 授業：研究の最終検討 復習：とくに無し								
授業開始前学習	研究テーマに関連したできるだけ多くの著作・論文を読む							
授業内課題の フィードバックの方法	授業を通じて適宜実施する。							
テキスト・教材	指定しない。							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	平常点と発表内容およびレジュメ、毎ゼミでの発言で評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が発表日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅣ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	社会学的な発想と視座を駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するとともに、それらの研究成果を論文としてまとめるトレーニング活動を展開します。そのために、各自の研究知見と論点をめぐって集中的に議論し合う作業に取り組んでまいります。互いのコメントから学び合い、また、自分の論考を客観的に読み返して粘り強く推敲を重ねる体験と向き合うことを期待します。		
到達目標	学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルをみがくことを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：後期ゼミ活動打合せ、研究計画プレゼン1（プレゼンテーション、ディスカッション）  復習：後期の報告スケジュールをもとに、研究活動の中期的計画を立ててください。</p> <p>【第2回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究計画プレゼン2（プレゼンテーション、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第3回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究計画プレゼン3（プレゼンテーション、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第4回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究論文中間報告1（発表、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第5回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究論文中間報告2（発表、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第6回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究論文中間報告3（発表、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第7回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究論文中間報告4（発表、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第8回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究論文中間報告5（発表、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第9回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究論文中間報告6（発表、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第10回】  予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。  授業：研究論文中間報告7（発表、ディスカッション）  復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p>			

<p>【第 11 回】          予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。          授業 : 研究論文中間報告 8 (発表、ディスカッション)          復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第 12 回】          予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。          授業 : 研究論文中間報告 9 (発表、ディスカッション)          復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第 13 回】          予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。          授業 : 研究論文中間報告 10 (発表、ディスカッション)          復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第 14 回】          予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。          授業 : 研究論文中間報告 11 (発表、ディスカッション)          復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。</p> <p>【第 15 回】          予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。          授業 : 研究論文中間報告 12 (発表、ディスカッション)          復習 : 2 年間のゼミ活動、4 年間の大学生活を通じて学んだことがらをメモに書き出してみてください。</p>								
授業開始前学習	研究論文を幅広く読み、学術論文に必要な構成・論理展開・文章表現に慣れておくことを勧めます。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。							
テキスト・教材	使用しません。							
参考書	戸田山和久、2012、『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス） その他、随時、紹介します。							
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（50 %）、研究論文の成果（50 %）により評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学ⅠⅡ」および「流行論」「文化社会学ⅠⅡ」「社会学特論」および「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他	各自の個人研究の成果発表と討論を基本形式に進めます。学生生活の集大成にふさわしい充実したゼミ活動を目指しましょう。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅣ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く文化事象を対象として、社会的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することが求められる。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的に参加し、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、学術論文を作成するために必要な以下の 2 つの能力、すなわち、①論理的思考力、②文章構成力の獲得である。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：4 年次前期、夏季休暇中の研究活動を振り返る  授業：ゼミ活動打合せ  復習：4 年次後期計画を立てる</p> <p>【第 2 回】  予習：夏季休暇中の研究成果を整理する  授業：研究活動成果報告（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を見直す</p> <p>【第 3 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文概要報告①～テーマ（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 4 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文概要報告②～先行研究の紹介（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 5 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文概要報告③～先行研究への見解（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 6 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文概要報告④～自説（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 7 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文概要報告 ⑤～自説の展開（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 8 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文中間報告 ①～テーマとタイトルの決定（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 9 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文中間報告②～先行研究のレビュー（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 10 回】  予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する  授業：論文中間報告 ③～自説の根拠（文献）（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p>			

<p>【第 11 回】          予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する          授業：論文中間報告④～自説の根拠（調査）（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 12 回】          予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する          授業：論文中間報告⑤～考察（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 13 回】          予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する          授業：論文中間報告⑥～追加調査の確認（プレゼンテーション）（ディスカッション）          復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える</p> <p>【第 14 回】          予習：文献リストを完成させる          授業：先行研究の扱い方の確認          復習：文献リスト、引用箇所等に適宜修正を加える</p> <p>【第 15 回】          予習：自身の研究を点検する          授業：研究活動の振り返り          復習：互いの批評を元に、改善点等を整理する</p>								
授業開始前学習	日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。ゼミ論への添削とアドバイスを行う。							
テキスト・教材	授業中に指示する。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法	授業参加の積極度（50％）、作成資料・論文（50％）により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「文化社会学Ⅰ／現代社会論Ⅰ」「文化社会学Ⅱ／社会学研究Ⅱ」は、現代社会を社会的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他	ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅣ		
科目分類	112-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	前期の人間関係ゼミⅢに続き、教員と相談しながら卒業研究を各自遂行する。 第 6 回までは研究の進捗状況報告の場とし、発表された内容に関してディスカッションすることで改善点を明らかにしていく。第 7 回以降は質問に答えると同時に、データ分析を行うなど各自の作業時間とする。 第 15 回には 3 年生と合同で研究発表会を開催する。各自が行った卒業研究の成果をパワーポイント等にまとめ、発表する。		
到達目標	以下、5 点を目標とする。 1. 卒業研究を遂行し、卒業論文またはゼミ論文を完成させる 2. 発表資料および論文において相手に伝わる、論理的な文章が書ける 3. 発表を通じて他者に自分の考えを分かりやすく説明できる 3. 他者の発表を批判的に聞き、建設的な意見を述べるができる 4. 投げかけられた質問に適切に応答することができる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
【第 1 回】 授業：オリエンテーション、卒業研究の意義、夏季休暇中の研究成果と今後の研究計画の発表【教科書第 1,2 章】（プレゼンテーション） 予習：夏季休暇中の研究成果をレジュメにまとめる 復習：得られたコメントをもとに今後の研究計画を見直す			
【第 2 回】 授業：研究材料の作成と研究依頼、研究報告 1、質疑応答【教科書第 7～9 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、発表準備 復習：問題点の改良、課題の遂行			
【第 3 回】 授業：研究実施時の注意点、研究報告 2、質疑応答【教科書第 9,10 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、発表準備 復習：問題点の改良、課題の遂行			
【第 4 回】 授業：データ収集について、研究報告 3、質疑応答【教科書第 10 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、発表準備 復習：問題点の改良、課題の遂行			
【第 5 回】 授業：方法部分の執筆の仕方、研究報告 4、質疑応答【教科書第 4,5 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 復習：問題点の改良、課題の遂行			
【第 6 回】 授業：問題と目的部分の執筆の仕方、研究報告 5、質疑応答【教科書第 4,5 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 復習：問題点の改良、課題の遂行			
【第 7 回】 授業：データクリーニング、基礎統計量の算出、研究報告 6、個人研究活動（データ分析等）【教科書第 11,12,23 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 復習：分析の遂行			
【第 8 回】 授業：因子分析と下位尺度得点の算出、研究報告 7、個人研究活動（データ分析等）【教科書第 13～15,24 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 復習：分析の遂行			
【第 9 回】 授業：仮説の検証、研究報告 8、個人研究活動（データ分析等）【教科書第 16～22,25 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 復習：分析の遂行完了			
【第 10 回】 授業：結果の記述方法、図表の作成、研究報告 9、個人研究活動（データ分析等）【教科書第 26,27 章】（プレゼンテーション、ディスカッション） 予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 復習：論文執筆・推敲			
【第 11 回】			



<p>授業：考察の仕方、引用文献の書き方、論文の一貫性と推敲、研究報告 10、個人研究活動（論文執筆等）【教科書第 27,28 章】（プレゼンテーション、ディスカッション）</p> <p>予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備</p> <p>復習：論文執筆・推敲</p> <p>【第 12 回】</p> <p>授業：研究のプレゼンテーション方法、研究発表の仕方とは、個人研究活動（論文執筆等）【教科書第 30 章】</p> <p>予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆</p> <p>復習：論文完成、発表用スライド・資料の作成</p> <p>【第 13 回】</p> <p>授業：ゼミ論文提出、個人研究活動（発表用資料の作成）</p> <p>予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆</p> <p>復習：発表用スライド・資料の作成</p> <p>【第 14 回】</p> <p>授業：プレゼン練習、個人研究活動（発表用資料の作成）（ペアワーク）</p> <p>予習：発表用スライド・資料の作成</p> <p>復習：発表用スライド・資料の改良</p> <p>【第 15 回】</p> <p>授業：研究発表会、質疑応答（プレゼンテーション、ディスカッション）</p> <p>予習：卒業研究の発表準備</p> <p>復習：他者や自身の発表をもとに、人間や人間関係に対する心理学的な考察を深める</p>								
授業開始前学習	自身の卒業研究を進める。調査を実施予定の人は調査の準備をする。論文を執筆する。							
授業内課題の フィードバックの方法	発表内容や提出課題については、原則その授業時間内にフィードバックと必要な指導を行う。 仮提出された卒業論文・ゼミ論文に関しては、添削したうえで、翌週の授業時間に返却する。							
テキスト・教材	『人間関係ゼミⅣ（応用心理学）教科書』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	授業時間内に適宜紹介する。							
評価の基準と方法	①受講態度・ディスカッションへの参加 30%、②研究論文 40%、③研究発表 30%として評価する。 なお、卒業論文提出者は①受講態度・ディスカッションへの参加 40%、③研究発表 40%、研究への姿勢 20%として評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	人間関係ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ、アンケート調査法、フィールドワークの技法							
その他	学生が主体となる演習科目なので、積極的な参加態度をもって臨むよう心掛けて欲しい。欠席する場合には必ず教員へ連絡を入れること。 卒業研究は各自がタイムスケジュールを設定し、それに従って進めていくことが重要となる。直前に慌てないで済むよう、各自が計画的に研究を進めることを強く望む。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係ゼミⅣ		
科目分類	112-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar of Human Relations IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～12:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【メディアで表現する】 各回を前後半に分けて、会議とワークショップを行う。会議ではイベントやプロジェクトの企画をたて、実践する。ワークショップでは、全員で決めたシリーズに基づいて 1 人 1 テーマの著作をまとめあげる。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。		
到達目標	「理解力 (わかること) 」と「表現力 (わかってもらうこと) 」を高める。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】  予習 : 前期の続き → 原稿を確認し、レイアウトを進める  授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作 (追加原稿)」 (ディスカッション)  復習 : 原稿を確認し、レイアウトを進める</p> <p>【第 2 回】  予習 : プリントアウトをして、中間報告に備える  授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理 (テキスト入力) 」1 (ディスカッション)  復習 : 中間報告をもとに、レイアウトを見直す</p> <p>【第 3 回】  予習 : プリントアウトをして、中間報告に備える  授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理 (テキスト入力) 」2 (ディスカッション)  復習 : 中間報告をもとに、レイアウトを見直す</p> <p>【第 4 回】  予習 : 表紙、扉、奥付を考える  授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理 (画像の加工) 」1 (ディスカッション)  復習 : 全ページをプリントし、折り丁を作る</p> <p>【第 5 回】  予習 : 表紙、扉、奥付を考える  授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理 (画像の加工) 」2 (ディスカッション)  復習 : 全ページをプリントし、折り丁を作る</p> <p>【第 6 回】  予習 : 折り丁を校正し、データを修正する  授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理 (レイアウト) 」1 (ディスカッション)  復習 : プリントし、校正を繰り返す</p> <p>【第 7 回】  予習 : 折り丁を校正し、データを修正する  授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理 (レイアウト) 」2 (ディスカッション)  復習 : プリントし、校正を繰り返す</p> <p>【第 8 回】  予習 : 本紙にプリントし、製本に備える  授業 : 前半「会議」、後半「製本作業 (プリントアウト) 」1 (ディスカッション)  復習 : 材料を確認し、製本する</p> <p>【第 9 回】  予習 : 本紙にプリントし、製本に備える  授業 : 前半「会議」、後半「製本作業 (プリントアウト) 」2 (ディスカッション)  復習 : 材料を確認し、製本する</p> <p>【第 10 回】  予習 : 製本を完了する  授業 : 前半「会議」、後半「製本作業 (校正、修正) 」1 (ディスカッション)  復習 : 完成した本を見直し、訂正原本を作る</p> <p>【第 11 回】  予習 : 製本を完了する  授業 : 前半「会議」、後半「製本作業 (校正、修正) 」2 (ディスカッション)  復習 : 完成した本を見直し、訂正原本を作る</p> <p>【第 12 回】  予習 : データを修正し、本紙にプリントする  授業 : 前半「会議」、後半「製本作業 (装丁) 」1 (ディスカッション)  復習 : 2 冊目を製本する</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : データを修正し、本紙にプリントする 授業 : 前半「会議」、後半「製本作業(装丁)」2 (ディスカッション) 復習 : 2冊目を製本する 【第14回】 予習 : 発表に備え、必要な材料を用意する 授業 : 前半「会議」、後半「作品発表(講評)」1 (ディスカッション、発表) 復習 : 2冊のうち、1冊を提出する 【第15回】 予習 : 発表に備え、必要な材料を用意する 授業 : 前半「会議」、後半「作品発表(講評)」2 (ディスカッション、発表) 復習 : 2冊のうち、1冊を提出する								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	グループディスカッションで講評を行い、個人のワークショップで進捗を確認する。							
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。							
参考書	授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「企画と表現」「表現活動とビジネス」を履修しておくことが望ましい。							
その他	課題学習(予習・復習)については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版」で“教育する」という取り組みを実践している。							

科目名称	卒業論文							
科目分類	112-330-24	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者	各担当教員		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	石田・臼井・榎本・大貫・倉住・田澤		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40		研究室	10-701				
授業概要	<p>大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。</p> <p>具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。</p>							
到達目標	<p>以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。</li> <li>2. 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。</li> <li>3. 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。</li> <li>4. 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。</li> </ol>							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。</p> <p>授業の内容 全般にわたる諸注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である</li> <li>2. 研究対象の先行研究は必ず調べること</li> <li>3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと</li> <li>4. 論文全体の構成を常に意識すること</li> <li>5. なるべく早い段階で書き始めること</li> <li>6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること</li> <li>7. 脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること</li> </ol> <p>卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。</p>								
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	各専門教育科目など							
その他	<p>履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。</p> <p>卒業論文は、年間を通じた地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。</p> <p>担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。</p>							
予習・復習の所要時間								



科目名称	English Workshop I		
科目分類	113-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Workshop I	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川・井戸・工藤(俊)・アラウ・アラザ・ガリーソ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The EWS class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches conversation strategies. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning; reading extensively; and getting advice about their learning in class.		
到達目標	English Workshop encourages students to become autonomous learners through learning strategies such as video and voice recordings while improving students overall proficiency.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 : Think about why you want to learn English  授業 : Orientation: Class aims and procedures: evaluation methods  復習 : Review class aims; reflect on Small Group Conversation (SGC); read graded readers</p> <p>【第2回】  予習 : Think about how you learn English now and what are your new goals  授業 : Language learning mini-lecture; goal setting (Group Work), Off-campus class orientation  復習 : Think about your big &amp; small learning goals; write Learning Diary (LD) &amp; Extensive Reading (ER)</p> <p>【第3回】  予習 : Reflect on your goals; write in LD &amp; ER  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.</p> <p>【第4回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.</p> <p>【第5回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.</p> <p>【第6回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.</p> <p>【第7回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test; transcribe SGC recording and write US ; ER; LD</p> <p>【第8回】  予習 : Discuss learning progress in Japanese and in English and prepare for writing an essay  授業 : Reflection on learning so far and write an essay ①  復習 : Reflect on teacher's comments and re-think about how to achieve learning goals (big &amp; small)</p> <p>【第9回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.</p> <p>【第10回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.</p> <p>【第11回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned  授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work)  復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.</p> <p>【第12回】  予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned</p>			



授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading. 【第 13 回】 予習 : Prepare for interview - use as much new language learned up until now as possible 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading. 【第 14 回】 予習 : Use vocabulary learning strategies for test; have SGC topic prepared - use a new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading. 【第 15 回】 予習 : Discuss learning progress in Japanese and in English and prepare for writing an essay 授業 : Reflection on learning so over the latter half of the semester and write an essay ② 復習 : Reflect on the last 15 weeks and prepare a study plan for the vacation time								
授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.							
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback on Useful Expressions, Extensive Reading and Learning Diary.							
テキスト・教材								
参考書	We use extra handouts							
評価の基準と方法	[A] Word Quiz (5%), SGC (15%), UE (15%), LD (25%), ER(25%), In-class Participation (15%) [B] Essays: essay 1 (50%), essay 2 (50%) Evaluation will be decided based on these two sets comprehensively.							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他	Off-campus class will be held on a date which is different from regular classes in this semester. Details will be announced in class. Off-campus class may be discontinued due to coronavirus situation.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	English Workshop II		
科目分類	113-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Workshop II	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川・井戸・工藤(俊)・アラウ・アラザ・ガリーソ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The EWS class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches conversation strategies. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning; reading extensively; and getting advice about their learning in class.		
到達目標	English Workshop encourages students to become autonomous learners through learning strategies such as video and voice recordings while improving students overall proficiency.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>English Workshop II</p> <p>【第1回】  予習：Prepare “How was your summer holiday?”  授業：Orientation  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第2回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Introducing Japanese food (regionality, history).  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第3回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Word Quiz ①; Small Group Conversation; Introducing Japanese food (trending).  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第4回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Giving a presentation about Japanese food.  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第5回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Introducing Inagi (regionality, history, products).  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第6回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Introducing Inagi (shrines, temples, remains, festivals).  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第7回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Giving a presentation about Inagi.  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第8回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation, Writing an essay ①.  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第9回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Introducing Japan (history, products).  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第10回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Introducing Japan (sightseeing spots)  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第11回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Giving a presentation about Japan .  復習：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading</p> <p>【第12回】  予習：Have Small Group Conversation topic prepared.  授業：Small Group Conversation; Introducing a foreign country (history, products) .</p>			

復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading 【第 13 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Word Quiz ②; Small Group Conversation; Introducing a foreign country (sightseeing spots) . 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading 【第 14 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Giving a presentation about a foreign country. 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading 【第 15 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Writing an essay ②. 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading								
授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.							
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback on Useful Expressions, Extensive Reading and Learning Diary.							
テキスト・教材								
参考書	We use extra handouts.							
評価の基準と方法	[A] Word Quiz (5%), SGC (15%),UE (15%), LD (25%), ER(25%), In-class Participation (15%) [B] Essays: essay 1 (50%), essay 2 (50%) Evaluation will be decided based on these two sets comprehensively							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他	This team taught class is based on small groups and high student participation.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	English Workshop III		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Workshop III	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井戸・F.グリーンソン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The EWIII class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches research and discussion strategies as well as presentation techniques. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning weekly. The Japanese content includes: 1) learning diary (LD) 2) extensive reading (ER) & 3) weekly reflection (WR). These are a major part of the autonomous learning component. The English content includes: 1) research 2) class discussion 3) homework for each topic & 4) two presentations (one short and one longer). Students must submit classwork by due dates. If students wish to receive the maximum score they must submit their work even if they are absent. Students will need to be proactive in checking the listings in Google Classroom and following the syllabus.		
到達目標	English workshop encourages students to become autonomous learners while working to improve their overall proficiency. The level itself is more challenging than that of English Workshop I,II.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習 : Read Syllabus. Prepare questions to confirm understanding of Syllabus  授業 : Orientation (English &amp; Japanese): Class aims and procedures; Content; Evaluation methods  復習 : Review syllabus; Check evaluation methods</p> <p>【第 2 回】  予習 : Research: summarizing &amp; plagiarism  授業 : Note taking (in point form); summarizing &amp; plagiarism  復習 : Review class notes</p> <p>【第 3 回】  予習 : Review: summarising &amp; plagiarism  授業 : Topic 1: Research in class, Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習 : HW: Submit Research 1 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 4 回】  予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt  授業 : Topic 1: Small Group Discussion (SGD)- Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習 : HW: Submit Assignment 1 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 5 回】  予習 : Review class notes  授業 : Topic 2: Research in class - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習 : HW: Submit Research 2 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 6 回】  予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt  授業 : Topic 2: Small group Discussion (SGD) - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習 : HW: Submit Assignment 2 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 7 回】  予習 : Practice presentation script  授業 : Presentations &amp; Review for Interviews: English (Gleeson-Sensei); Japanese (Ido-Sensei)  復習 : HW Submit Presentation script (no slides)</p> <p>【第 8 回】  予習 : Interview preparation (English &amp; Japanese)  授業 : Midterm Interviews: English (Gleeson-Sensei); Japanese (Ido-Sensei)  復習 : Reflect on teacher's comments and re-think how to achieve learning goals (big &amp; small)</p> <p>【第 9 回】  予習 : Review class notes  授業 : Topic 3: Research in class - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習 : HW: Submit Research 3 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 10 回】  予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt  授業 : Topic 3: Small group Discussion (SGD) - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習 : HW: Submit Assignment 3 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 11 回】  予習 : Review class notes</p>			

授業 : Topic 4: Research in class - Gleeson-Sensei & Ido-Sensei 復習 : HW: Submit Research 4 (English) & reflect on weekly learning goals (Japanese) 【第 12 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 : Topic 4: Small group Discussion (SGD) - Gleeson Sensei & Ido Sensei 復習 : HW: Submit Assignment 4 (English) & reflect on weekly learning goals (Japanese) 【第 13 回】 予習 : Interview preparation (English & Japanese) 授業 : Final Interviews: English (Gleeson-Sensei) Japanese (Ido-Sensei) 復習 : Prepare a presentation script & 6 slides (topic of your choice) 【第 14 回】 予習 : Practice your presentation 授業 : Presentation practice to peers & Makeup Interviews 復習 : Submit corrected scripts & slides 【第 15 回】 予習 : Practice presentations 授業 : Final presentations to peers 復習 : Reflection on the 1st semester.									
授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.								
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive a schedule & scoring allocation in the first class. Feedback is given during research & small group discussion classes as well as on returned assignments.								
テキスト・教材	Handouts provided when relevant.								
参考書	Books and URLs are suggested in class.								
評価の基準と方法	English component: Research; SGD; Homework; Presentations (40%); Midterm and Final Interview (20%); Japanese component: Learning Diary writing (10%); Extensive reading (10%); Weekly, Midterm & Final Reflection and Interviews (20%)								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			◎				△	○	
関連科目	English Workshop I,II, any English related subjects								
その他									
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	English Workshop IV		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Workshop IV	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井戸・F.グリーンソン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The EWSIV class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches research and discussion strategies as well as presentation techniques. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning weekly. The Japanese content includes: 1) learning diary (LD) 2) extensive reading (ER) & 3) weekly reflection (WR). These are a major part of the autonomous learning component. The English content includes: 1) research 2) class discussion 3) homework for each topic & 4) two presentations (one short and one longer). Students must submit classwork by due dates. If students wish to receive the maximum score they must submit their work even if they are absent. Students will need to be proactive in checking the listings in Google Classroom and following the syllabus. The structure and process is basically the same as EWIII. However, the topics are different.		
到達目標	English workshop encourages students to become autonomous learners while working to improve their overall proficiency. The level itself builds on and reinforces skills developed in English Workshop III.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：Read Syllabus. Prepare questions to confirm understanding of Syllabus  授業：Orientation (English &amp; Japanese): Class aims and procedures; Content; Evaluation methods  復習：Review syllabus; Check evaluation methods</p> <p>【第 2 回】  予習：Research: summarizing &amp; plagiarism  授業：Note taking (in point form); summarizing &amp; plagiarism  復習：Review class notes</p> <p>【第 3 回】  予習：Review: summarising &amp; plagiarism  授業：Topic 1: Research in class, Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習：HW: Submit Research 1 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 4 回】  予習：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt  授業：Topic 1: Small Group Discussion (SGD)- Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習：HW: Submit Assignment 1 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 5 回】  予習：Review class notes  授業：Topic 2: Research in class - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習：HW: Submit Research 2 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 6 回】  予習：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt  授業：Topic 2: Small group Discussion (SGD) - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習：HW: Submit Assignment 2 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 7 回】  予習：Practice presentation script  授業：Presentations &amp; Review for Interviews: English (Gleeson-Sensei); Japanese (Ido-Sensei)  復習：HW Submit Presentation script (no slides)</p> <p>【第 8 回】  予習：Interview preparation (English &amp; Japanese)  授業：Midterm Interviews: English (Gleeson-Sensei); Japanese (Ido-Sensei)  復習：Reflect on teacher's comments and re-think how to achieve learning goals (big &amp; small)</p> <p>【第 9 回】  予習：Review class notes  授業：Topic 3: Research in class - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習：HW: Submit Research 3 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 10 回】  予習：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt  授業：Topic 3: Small group Discussion (SGD) - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習：HW: Submit Assignment 3 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p>			



<p>【第 11 回】  予習 : Review class notes  授業 : Topic 4: Research in class - Gleeson-Sensei &amp; Ido-Sensei  復習 : HW: Submit Research 4 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 12 回】  予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt  授業 : Topic 4: Small group Discussion (SGD) - Gleeson Sensei &amp; Ido Sensei  復習 : HW: Submit Assignment 4 (English) &amp; reflect on weekly learning goals (Japanese)</p> <p>【第 13 回】  予習 : Interview preparation (English &amp; Japanese)  授業 : Final Interviews: English (Gleeson-Sensei) Japanese (Ido-Sensei)  復習 : Prepare a presentation script &amp; 6 slides (topic of your choice)</p> <p>【第 14 回】  予習 : Practice your presentation  授業 : Presentation practice to peers &amp; Makeup Interviews  復習 : Submit corrected scripts &amp; slides</p> <p>【第 15 回】  予習 : Practice presentations  授業 : Final presentations to peers  復習 : Reflection on the 2nd semester.</p>								
授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. Completion of EWIII would be beneficial though not a pre-requisite.							
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive a schedule & scoring allocation in the first class. Feedback is given during research & small group discussion classes as well as on returned assignments.							
テキスト・教材	Handouts provided when relevant.							
参考書	Books and URLs are suggested in the class.							
評価の基準と方法	English component: Research; SGD; Homework; Presentations (40%); Midterm and Final Interview (20%); Japanese component: Learning Diary writing (10%); Extensive reading (10%); Weekly, Midterm & Final Reflection and Interviews(20%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目	English Workshop I,II and III, any English related subjects							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	Academic Reading I		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Reading I	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	F.グリーンソン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The aim of this course is to develop reading skills, improve comprehension and build vocabulary. In this class, students will work on; developing reading fluency by reading with targets. As well, students will read out loud in pairs and in groups. Time will be allocated to discuss what has been read by listening to fellow students opinions. Students should take simple notes while reading for reflection later. Comprehension will be checked by answering questions during and after each lesson. Students should be proactive about researching unknown words in context, thus building vocabulary. Students will read a book in class and continue reading for homework at their own pace.		
到達目標	At the end of this course students will be able to: read more fluently; improve vocabulary; widen their range of reading strategies (e.g. skimming & scanning); write reports; develop and expand discussion ability; be able to give a short presentation and; reflect on learning through self-evaluation.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：Pre-read syllabus, be prepared to ask questions about points you do not understand 授業：Orientation, Review syllabus, Course expectations, Evaluation methods, Vocabulary list; Read the prologue pages 1-6 復習：Review: Syllabus - Evaluation methods; Reading			
【第2回】 予習：Research how to write a book report; What are the main components? 授業：How to write a book report; Intensive reading; Learn what to do in Small Group Discussions (SGD) 復習：Submit book report 1; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第3回】 予習：Review class notes 授業：Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習：Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第4回】 予習：Review class notes 授業：Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習：Submit book report 2; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第5回】 予習：Review class notes 授業：Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習：Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第6回】 予習：Review class notes 授業：Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習：Submit book report 3; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第7回】 予習：Review class notes 授業：Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習：Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第8回】 予習：Review vocabulary for Quiz 授業：Vocabulary Quiz; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習：Review vocabulary Quiz answers; Reading			
【第9回】 予習：Review class notes 授業：Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習：Submit book report 4; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第10回】 予習：Review class notes 授業：Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習：Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第11回】 予習：Review class notes 授業：Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習：Submit book report 5; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			

<p>【第12回】  予習 : Review class notes  授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes &amp; answer worksheet questions  復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading</p> <p>【第13回】  予習 : Research presentation techniques  授業 : Presentation techniques; Planning &amp; mind mapping; Script writing  復習 : Prepare for the final review</p> <p>【第14回】  予習 : Review class notes &amp; vocabulary  授業 : Final - Reading comprehension review &amp; Vocabulary Quiz  復習 : Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of the book.</p> <p>【第15回】  予習 : Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of the book.  授業 : Give a short presentation about a section of the book; Peer review  復習 : Reflect &amp; evaluate goals</p>								
授業開始前学習	Students can supplement their reading by trying various reading materials, for example, graded readers, the Student Times, magazines and online materials. Read both extensively and intensively (keep a vocabulary list).							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback (via book reports & class worksheets and SGDs) throughout the course.							
テキスト・教材	Malala: My story of standing up for Girls Rights, Malala Yousafzai, with Patricia McCormick, (Little Brown and Company) ISBN 978-0-316-52715-6							
参考書								
評価の基準と方法	Book reports 40% (5 x 8%); Vocabulary review 20% (2x10%); Comprehension review 20%; Participation (discussion; interaction; & presentations) 20%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	
関連科目								
その他	If students are absent it is their responsibility to email the teacher, check the syllabus and check google classroom for lesson information & homework. Students should endeavour to attend all classes (note 2 lates = 1 absence). Students should bring a notebook to the first class. Students should record notes and vocabulary in the same book. Further information will be given at orientation.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Academic Reading II		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Reading II	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	F.グリーンソン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The aim of this course is to further develop reading skills learnt in Academic Reading I, improve comprehension and build vocabulary. In this class, students will work on; developing reading fluency by reading with targets. As well, students will read out loud in pairs and in groups. Time will be allocated to discuss what has been read by listening to fellow students opinions. Students should take simple notes while reading for reflection later. Comprehension will be checked by answering questions during and after each lesson. Students should be proactive about researching unknown words in context, thus building vocabulary. Students will read a book in class and continue reading for homework at their own pace.		
到達目標	At the end of this course students will be able to: read more fluently; improve vocabulary; widen their range of reading strategies (e.g. skimming & scanning); write reports; develop and expand discussion ability; be able to give a short presentation and; reflect on learning through self-evaluation.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習 : Pre-read syllabus, be prepared to ask questions about points you do not understand 授業 : Orientation, Review syllabus, Course expectations, Evaluation methods, Vocabulary list; Read the prologue pages 1-6 復習 : Review: Syllabus - Evaluation methods; Reading			
【第2回】 予習 : Research how to write a book report; What are the main components? 授業 : How to write a book report; Intensive reading; Learn what to do in Small Group Discussions (SGD) 復習 : Submit book report 1; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第3回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第4回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 : Submit book report 2; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第5回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第6回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 : Submit book report 3; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第7回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第8回】 予習 : Review vocabulary for Quiz 授業 : Vocabulary Quiz; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 : Review vocabulary Quiz answers; Reading			
【第9回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 : Submit book report 4; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第10回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading			
【第11回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet			

復習 : Submit book report 5; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading 【第 12 回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading 【第 13 回】 予習 : Research presentation techniques 授業 : Presentation techniques; Planning & mind mapping; Script writing 復習 : Prepare for the final review 【第 14 回】 予習 : Review class notes & vocabulary 授業 : Final - Reading comprehension review & Vocabulary Quiz 復習 : Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of the book. 【第 15 回】 予習 : Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of the book. 授業 : Give a short presentation about a section of the book; Peer review 復習 : Reflect & evaluate goals								
授業開始前学習	Students can supplement their reading by trying various reading materials, for example, graded readers, the Student Times, magazines and online materials. Read both extensively and intensively (keep a vocabulary list).							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback (via book reports & class worksheets and SGDs) throughout the course.							
テキスト・教材	Kira-Kira: Cynthia Kadohata (Atheneum Books for Young Readers) ISBN 978-0-689-85640-2							
参考書								
評価の基準と方法	Book reports 40% (5 x 8%); Vocabulary review 20% (2x10%); Comprehension review 20%; Participation (discussion; interaction; & presentations) 20%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	
関連科目								
その他	If students are absent it is their responsibility to email the teacher, check the syllabus and check google classroom for lesson information & homework. Students should endeavour to attend all classes (note 2 lates = 1 absence). Students should bring a notebook to the first class. Students should record notes and vocabulary in the same book. Further information will be given at orientation.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Academic Reading III		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Reading III	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be reading. However, speaking, listening, and writing will also be developed. This class will focus on improving the skills of reading. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	After this class, students will be able to read faster, and better understand written English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：Read p.9 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework		
第2回	予習：Read p.9 授業：Unit 1 Pro Gaming 復習：Review notes / Do homework		
第3回	予習：Read p.15 授業：Unit 2 The Blogosphere 復習：Review notes / Do homework		
第4回	予習：Read p.21 授業：Unit 3 Organic Food 復習：Review notes / Do homework		
第5回	予習：Read p.27 授業：Unit 4 Franchises 復習：Review notes / Do homework		
第6回	予習：Read p. 33 授業：Unit 5 Character Culture / Review for Midterm Quiz 復習：Prepare for Midterm Quiz		
第7回	予習：Review for Midterm Quiz 授業：Midterm Quiz 復習：Reflect on Midterm Quiz		
第8回	予習：Review 授業：Classroom Activity 復習：Reflect on classroom activity		
第9回	予習：Read p. 39 授業：Unit 6 Language Change 復習：Review notes / Do homework		
第10回	予習：Read p. 45 授業：Unit 7 Unlocking Motivation 復習：Review notes / Do homework		
第11回	予習：Read p. 51 授業：Unit 8 Yellow Dust Storm 復習：Review notes / Do homework		
第12回	予習：Read p. 57 授業：Unit 9 The End of Privacy 復習：Review notes / Do homework		
第13回	予習：Read p. 63 ¥ 授業：Unit 10 Going Carbon Neutral 復習：Prepare for Final Quiz		
第14回	予習：Prepare for Final Quiz 授業：Final Quiz 復習：Reflect on Final Quiz		
第15回	予習：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal 授業：General review 復習：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)		
授業開始前学習	Practice reading English books, magazines or comics. Look up unknown words in a dictionary.		
授業内課題の	Both written and oral feedback will be provided to all students.		



フィードバックの方法								
テキスト・教材	Reading Pass 3 Second Edition, Nan'un-do, by Andrew E. Bennett							
参考書								
評価の基準と方法	Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	Academic Reading IV		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Reading IV	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be reading. However, speaking, listening, and writing will also be developed. This class will focus on improving the skills of reading. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	After this class, students will be able to read faster, and better understand written English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：Read p.69 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework		
第2回	予習：Read p.69 授業：Unit 11 Retro Style 復習：Review notes / Do homework		
第3回	予習：Read p.75 授業：Unit 12 It Pays to be the CEO 復習：Review notes / Do homework		
第4回	予習：Read p.81 授業：Unit 13 London 復習：Review notes / Do homework		
第5回	予習：Read p.87 授業：Unit 14 Web 2.0 復習：Review notes / Do homework		
第6回	予習：Read p. 93 授業：Unit 15 Troubled Stars / Review for Midterm Quiz 復習：Prepare for Midterm Quiz		
第7回	予習：Review for Midterm Quiz 授業：Midterm Quiz 復習：Reflect on Midterm Quiz		
第8回	予習：Review 授業：Classroom Activity 復習：Reflect on classroom activity		
第9回	予習：Read p. 99 授業：Unit 16 Insourcing 復習：Review notes / Do homework		
第10回	予習：Read p. 105 授業：Unit 17 Space Colonies 復習：Review notes / Do homework		
第11回	予習：Read p. 111 授業：Unit 18 Office Gossip 復習：Review notes / Do homework		
第12回	予習：Read p. 117 授業：Unit 19 Lost Arts 復習：Review notes / Do homework		
第13回	予習：Read p. 123 授業：Unit 20 Stem Cells 復習：Prepare for Final Quiz		
第14回	予習：Prepare for Final Quiz 授業：Final Quiz 復習：Reflect on Final Quiz		
第15回	予習：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal 授業：General review 復習：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)		
授業開始前学習	Practice reading English books, magazines or comics. Look up unknown words in a dictionary.		
授業内課題の	Both written and oral feedback will be provided to all students.		

フィードバックの方法								
テキスト・教材	Reading Pass 3 Second Edition, Nan'un-do, by Andrew E. Bennett							
参考書								
評価の基準と方法	Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	Academic Speaking I		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Speaking I	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This presentation course will teach the necessary skills to make a well structured, visual and interactive presentation on various topics.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking skills needed to understand academic English. The course has 2 main aims: to teach academic speaking and improve presentation skills. This course offers a content-based approach where all four skills of speaking, listening, reading, and writing are integrated to foster a variety of learning outcomes.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
第1回	予習 : Prepare a simple self-introduction / Read p. 2-10 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus		
第2回	予習 : Read p.11-19 授業 : Brainstorm / plan Unit 1 Power Point Presentation (PPP) on 'A Good Friend' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 1 PPP		
第3回	予習 : Finish creating Unit 1 PPP 授業 : Show classmates your Unit 1 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 1 PPP		
第4回	予習 : Use Unit 1 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 1 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 1 PPP and speech		
第5回	予習 : Practice Unit 1 speech 授業 : Give 1st speech to whole class on Unit 1 'A Good Friend' 復習 : Reflect on Unit 1 speech and PPP		
第6回	予習 : Read p. 20-31 授業 : Brainstorm / plan 2nd PPP 'A Favorite Place' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 2 PPP		
第7回	予習 : Finish creating Unit 2 PPP 授業 : Show classmates your Unit 2 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 2 PPP		
第8回	予習 : Use Unit 2 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 2 PPP and speech		
第9回	予習 : Practice Unit 2 speech 授業 : Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 2 PPP and speech		
第10回	予習 : Practice Unit 2 speech 授業 : Give 2nd speech to whole class on Unit 2 'A Favorite Place' 復習 : Reflect on Unit 2 speech and PPP		
第11回	予習 : Read p.32-43 授業 : Brainstorm / plan 3rd PPP 'A Prized Possession' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 3 PPP		
第12回	予習 : Finish creating Unit 3 PPP 授業 : Show classmates your Unit 3 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 3 PPP		
第13回	予習 : Use Unit 2 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 2 PPP and speech		
第14回	予習 : Practice Unit 3 speech 授業 : Give 3rd speech to whole class on Unit 3 'A Prized Possession' 復習 : Reflect on Unit 3 speech and PPP		
第15回	予習 : Course feedback on Komajo Portal 授業 : Finish old business and discuss course 復習 : Course feedback on Komajo Portal (if not already completed)		
授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.		

授業内課題の フィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Present Yourself 1 Experiences (Second Edition), Cambridge University Press, by Stephen Gershon							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 10%, 1st Presentation 30%, 2nd Presentation 30%, 3rd Presentation 30%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Academic Speaking II		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Speaking II	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This presentation course will teach the necessary skills to make a well structured, visual and interactive presentation on various topics.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking skills needed to understand academic English. The course has 2 main aims: to teach academic speaking and improve presentation skills. This course offers a content-based approach where all four skills of speaking, listening, reading, and writing are integrated to foster a variety of learning outcomes.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
第1回	予習 : Prepare a simple self-introduction / Read p. 2-7 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus		
第2回	予習 : Read p.44-55 授業 : Brainstorm / plan 1st PPP on Unit 4 'A Memorable Experience' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 4 PPP		
第3回	予習 : Finish creating Unit 4 Power Point Presentation (PPP) 授業 : Show classmates your Unit 4 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 4 PPP		
第4回	予習 : Use Unit 4 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 4 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 4 PPP and speech		
第5回	予習 : Practice Unit 4 speech 授業 : Give 1st speech to whole class on Unit 4 'A Memorable Experience' 復習 : Reflect on Unit 4 speech and PPP		
第6回	予習 : Read p. 56-67 授業 : Brainstorm / plan 2nd PPP on Unit 5 'I'll Show You How' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 5 PPP		
第7回	予習 : Finish creating Unit 5 PPP 授業 : Show classmates your Unit 5 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 5 PPP		
第8回	予習 : Use Unit 5 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 5 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 5 PPP and speech		
第9回	予習 : Practice Unit 5 speech 授業 : Practice Unit 5 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 5 PPP and speech		
第10回	予習 : Practice Unit 5 speech 授業 : Give 2nd speech to whole class on Unit 5 'I'll Show You How' 復習 : Reflect on Unit 5 speech and PPP		
第11回	予習 : Read p.68-79 授業 : Brainstorm / plan 3rd PPP on Unit 6 'A Prized Possession' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 6 PPP		
第12回	予習 : Finish creating Unit 6 PPP 授業 : Show classmates your Unit 6 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 6 PPP		
第13回	予習 : Use Unit 6 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 6 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 6 PPP and speech		
第14回	予習 : Practice Unit 6 speech 授業 : Give 3rd speech to whole class on Unit 6 'A Movie Review' 復習 : Reflect on Unit 6 speech and PPP		
第15回	予習 : Course feedback on Komajo Portal 授業 : Finish old business and discuss course 復習 : Course feedback on Komajo Portal (if not already completed)		
授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.		



授業内課題の フィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Present Yourself 1 Experiences (Second Edition), Cambridge University Press, by Stephen Gershon							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 10%, 1st Presentation 30%, 2nd Presentation 30%, 3rd Presentation 30%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Academic Speaking III		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Speaking III	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be academic speaking and listening. However, reading and writing will also be developed. This class will focus on improving the productive skills of speaking and active listening. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking and listening skills necessary to understand academic English. The course has 2 main aims: to improve academic speaking and academic listening skills.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習 : Prepare a simple self-introduction 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus		
第2回	予習 : Read p.5-8 授業 : The Beauty of the Seasons 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第3回	予習 : Read p.9-12 授業 : The History of the Hamburger 復習 : Prepare for 1st Discussion Task		
第4回	予習 : Read p.13-16 授業 : The Importance of English and 1st Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 1st Discussion Task		
第5回	予習 : Read p.17-20 授業 : How the Internet Evolved 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第6回	予習 : Read p.21-24 授業 : Liquid Candy 復習 : Prepare for 2nd Discussion Task		
第7回	予習 : Read p.25- 28 授業 : Travel in Japan and 2nd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 2nd Discussion Task		
第8回	予習 : Review homework and reread p.13- 24 授業 : General review 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第9回	予習 : Read p.29-32 授業 : The Secret of Happiness 復習 : Prepare for 3rd Discussion Task		
第10回	予習 : Read p.33-36 授業 : Shopping on the Internet and 3rd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task		
第11回	予習 : Read p.37-40 授業 : Do Aliens and UFOs Exist? 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第12回	予習 : Read p.41-44 授業 : The Happiest Country in the World 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第13回	予習 : Read p.45-48 授業 : Second Hand Smoke 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第14回	予習 : Prepare for 4th Discussion Task 授業 : 4th Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task		
第15回	予習 : Complete Komajo Portal Questionnaire 授業 : Take care of old business and discuss the pros and cons of this course 復習 : Complete Komajo Portal Questionnaire (if not completed)		
授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.		
授業内課題の	Both written and oral feedback will be provided to all students.		

フィードバックの方法								
テキスト・教材	Life Topics A Critical Thinking Approach to English Proficiency, NAN'UN-DO							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Discussion Task 20%, 2nd Discussion Task 20%, 3rd Discussion Task 20%, 4th Discussion Task 20%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	Academic Speaking IV		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Speaking IV	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be academic speaking and listening. However, reading and writing will also be developed. This class will focus on improving the productive skills of speaking and active listening. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking and listening skills necessary to understand academic English. The course has 2 main aims: to improve academic speaking and academic listening skills.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習 : Prepare a simple self-introduction 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus		
第2回	予習 : Read p.49-52 授業 : Plastic Surgery 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第3回	予習 : Read p.53-56 授業 : What Colors Tell About You 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第4回	予習 : Prepare for 1st Discussion Task 授業 : Free Music and 1st Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 1st Discussion Task		
第5回	予習 : Read p.61-64 授業 : Ghosts 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第6回	予習 : Read p.65-68 授業 : Fast Food and Health 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第7回	予習 : Prepare for 2nd Discussion Task 授業 : Artificial Insemination and 2nd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 2nd Discussion Task		
第8回	予習 : Review homework and reread p.61- 72 授業 : General review 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第9回	予習 : Read p.73-76 授業 : The Dangers of Credit Cards 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第10回	予習 : Read p.77-80 授業 : Young Men: No Girls, No Money 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第11回	予習 : Prepare for 3rd Discussion Task 授業 : Old Media and New Media and 3rd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task		
第12回	予習 : Read p.85-88 授業 : Women in College 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第13回	予習 : Read p.89-92 授業 : Gene Therapy 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech		
第14回	予習 : Prepare for 4th Discussion Task 授業 : 4th Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 4th Discussion Task		
第15回	予習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業 : Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed)		
授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.		
授業内課題の	Both written and oral feedback will be provided to all students.		

フィードバックの方法								
テキスト・教材	Life Topics A Critical Thinking Approach to English Proficiency, NAN'UN-DO							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Discussion Task 20%, 2nd Discussion Task 20%, 3rd Discussion Task 20%, 4th Discussion Task 20%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	ライティング・使える英作文 I		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Composition I	授業区分	講義
科目責任者	小室 竜也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小室 竜也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ライティング・使える英作文 I では、英文法に関する講義および演習を通して、実践的英語力の育成を目指す。アカデミックライティングの基礎を身につける目的とし、英語でのレポートから資格試験までを対象とした演習を行う。		
到達目標	日本語と英語の言語構造の違いを理解し、自身の表現できる語彙や文法でどのように伝えたい内容を表すことができるのかを検討した上で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>(授業の形態によってシラバスから大きく変更がある可能性があります) (ペアワーク、グループワーク等を含む回があります)</p> <p>【第1回】  予習：シラバスの確認  授業：オリエンテーション（授業の目的や授業の進め方、予習の仕方等について）  復習：授業形式についての確認</p> <p>【第2回】  予習：教科書 第1章  授業：アカデミック・ライティングの概要に関する講義  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第3回】  予習：教科書 第2・3章  授業：テーマ・リームおよび結束性に関する講義  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第4回】  予習：教科書 第2・3章の演習  授業：テーマ・リームおよび結束性に関する演習  復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習</p> <p>【第5回】  予習：教科書 第4・5・6章  授業：結束性およびメタディスコースに関する講義  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第6回】  予習：教科書 第4・5・6章の演習  授業：結束性およびメタディスコースに関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第7回】  予習：これまでに学習した内容の復習  授業：自由英作文  復習：英作文の修正</p> <p>【第8回】  予習：教科書 第7章  授業：時制に関する講義  復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習</p> <p>【第9回】  予習：教科書 第7章の演習  授業：時制に関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第10回】  予習：教科書 第8章  授業：ヘッジ・ブースターに関する講義  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第11回】  予習：教科書 第8章の演習  授業：ヘッジ・ブースターに関する演習  復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習</p> <p>【第12回】  予習：教科書 第9章</p>			



<p>授業：パラグラフの基本構造に関する講義  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認  【第13回】  予習：教科書第9章の演習  授業：パラグラフの基本構造に関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認  【第14回】  予習：教科書第10章  授業：資格試験対策のエッセイの書き方に関する講義  復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習  【第15回】  予習：これまでに学習した内容の復習  授業：自由英作文  復習：英作文の修正</p>									
授業開始前学習	高校で学習した単語や表現・文法等をひととおり復習しておくことと授業が理解しやすい。また、映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。								
授業内課題のフィードバックの方法	授業資料の解説などを Google Classroom に掲示する。								
テキスト・教材	中谷安男『大学生のためのアカデミック英文ライティング ― 検定試験対策から英文論文執筆まで』大修館書店								
参考書	安井稔『英文法総覧』開拓社 江川泰一郎『英文法解説』金子書房 吉川美夫『考える英文法』ちくま学芸文庫 野村益寛『英文法の考え方 英語学習者のための認知英文法講義』 安西徹雄『英文翻訳術』ちくま学芸文庫								
評価の基準と方法	平常点 40%および提出課題 60%を総合して評価する。								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			○		△		◎	○	
関連科目									
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	ライティング・使える英作文Ⅱ		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Composition Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	小室 竜也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小室 竜也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ライティング・使える英作文Ⅱでは、英文法に関する講義および演習を通して、実践的英語力の育成を目指す。アカデミックライティングの基礎を身につける目的とし、文法および構文の問題演習を中心に文レベルでのライティング能力の伸長を目指す。		
到達目標	日本語と英語の言語構造の違いを理解し、自身の表現できる語彙や文法でどのように伝えたい内容を表すことができるのかを検討した上で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>(授業の形態によってシラバスから大きく変更がある可能性があります) (ペアワーク、グループワーク等を含む回があります)</p> <p>【第1回】  予習：シラバスの確認  授業：オリエンテーション（授業の目的や授業の進め方、予習の仕方等について）  復習：授業形式についての確認</p> <p>【第2回】  予習：関係代名詞 who / which / that の解説プリントの確認  授業：関係代名詞の基本に関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第3回】  予習：接触節・埋め込み節・whose / of which の解説プリントの確認  授業：関係節の基本に関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第4回】  予習：関係副詞・非制限用法・前置詞と関係節の解説プリントの確認  授業：関係副詞・非制限用法・前置詞に関する演習  復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習</p> <p>【第5回】  予習：関係代名詞 what の解説プリントの確認  授業：関係代名詞 what に関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第6回】  予習：先行詞のない関係節の解説プリントの確認  授業：先行詞のない関係節に関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第7回】  予習：その他の関係詞の解説プリントの確認  授業：関係詞に関する総合的な演習  復習：解説プリントの確認</p> <p>【第8回】  予習：原級比較の解説プリントの確認  授業：原級比較に関する演習  復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習</p> <p>【第9回】  予習：比較級の解説プリントの確認  授業：比較級の基本に関する演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第10回】  予習：その他の比較級の解説プリントの確認  授業：比較級に関する総合的な演習  復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認</p> <p>【第11回】  予習：最上級の解説プリントの確認  授業：最上級に関する総合的な演習  復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習</p> <p>【第12回】  予習：動名詞の解説プリントの確認</p>			

授業：動名詞に関する演習 復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認 【第13回】 予習：to不定詞の解説プリント（前半）の確認 授業：to不定詞（前半）に関する演習 復習：授業で学習した単語・表現・文法を確認 【第14回】 予習：to不定詞の解説プリント（後半）の確認 授業：to不定詞（後半）に関する演習 復習：授業で行った活動における単語・表現等の復習 【第15回】 予習：これまでに学習した内容の復習 授業：自由英作文 復習：英作文の修正								
授業開始前学習	高校で学習した単語や表現・文法等をひととおり復習しておくとして授業が理解しやすい。また、映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業資料の解説などを Google Classroom に掲示する。							
テキスト・教材	授業にてプリントを配布する							
参考書	安井稔『英文法総覧』開拓社 江川泰一郎『英文法解説』金子書房 吉川美夫『考える英文法』ちくま学芸文庫 野村益寛『英文法の考え方 英語学習者のための認知英文法講義』 安西徹雄『英文翻訳術』ちくま学芸文庫							
評価の基準と方法	平常点 40%および提出課題 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	○
関連科目								
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	☆Academic Writing I / グラム・使える英文法Ⅲ		
科目分類	113-330-13 (2022年～入学者) 113-330-12 (～2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Writing I / English Grammar Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	本村 万喜子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村 万喜子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	英語での表現力をより高いレベルへ上げるため、主要な英文法項目を確認しながら問題演習を行う。学生は毎週の課題を通して、学習した文法項目を実践的に活用し、自身の意見を表現・記述することが求められる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な英文法項目を理解し、正確で自然な英語の感覚を習得できる</li> <li>・その文法を用いて自身の意見を表現・記述できる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方、課題について）、Unit1:文型(pp.6-9) 復習：授業形式についての確認</p> <p>【第2回】 予習：教科書のUnit 2を読み、問題を解く 授業：Unit 2: 文の種類(pp.10-14) 復習：Unit 2で習った表現を使った課題</p> <p>【第3回】 予習：教科書のUnit 3を読み、問題を解く 授業：Unit 3: 品詞(pp.15-18) 復習：Unit 3で習った表現を使った課題</p> <p>【第4回】 予習：教科書のUnit 4を読み、問題を解く 授業：Unit 4: 名詞・代名詞・冠詞(pp.19-23) 復習：Unit 4で習った表現を使った課題</p> <p>【第5回】 予習：教科書のUnit 5を読み、問題を解く 授業：Unit 5: 時制 (pp. 24-28) 復習：Unit 5で習った表現を使った課題</p> <p>【第6回】 予習：教科書のUnit 6を読み、問題を解く 授業：Unit 6: 前置詞 (pp. 29-33) 復習：Unit 6で習った表現を使った課題</p> <p>【第7回】 予習：教科書のUnit 7,8を読み、問題を解く 授業：Unit 7: 助動詞 Unit8: 進行形 (pp. 34-41) 復習：Unit7, 8で習った表現を使った課題</p> <p>【第8回】 予習：教科書のUnit 9を読み、問題を解く 授業：Unit 9: 現在完了 (pp. 42-45) 復習：Unit 9で習った表現を使った課題</p> <p>【第9回】 予習：教科書のUnit 10を読み、問題を解く 授業：Unit 10: 動名詞と不定詞 (pp. 46-49) 復習：Unit 10で習った表現を使った課題</p> <p>【第10回】 予習：教科書のUnit 11を読み、問題を解く 授業：Unit 11: 比較級と最上級 (pp. 50-53) 復習：Unit 11で習った表現を使った課題</p> <p>【第11回】 予習：教科書のUnit 12を読み、問題を解く 授業：Unit 12: 受動文 (pp. 54-57) 復習：Unit 12で習った表現を使った課題</p> <p>【第12回】 予習：教科書のUnit 13を読み、問題を解く 授業：Unit 13: 条件文 (pp. 58-61) 復習：Unit 13で習った表現を使った課題</p> <p>【第13回】</p>			

予習：教科書の Unit 14 を読み、問題を解く 授業：Unit 14: 関係節 (pp. 62-65) 復習：Unit 14 で習った表現を使った課題 【第 14 回】 予習：教科書の Unit 15 を読み、問題を解く 授業：Unit 15: 接続詞 (pp. 66-69) 復習：Unit 15 で習った表現を使った課題 【第 15 回】 予習：授業で習った文法項目を再確認する 授業：文法項目のまとめ 復習：授業で習った文法項目を再確認する								
授業開始前学習	「グラマー使える英文法Ⅰ」「グラマー使える英文法Ⅱ」等、英語科目の復習をし、わからない箇所については調べる。							
授業内課題の フィードバックの方法	英文法の問題演習については授業内で解説を行う。課題はコメントを付けて後日返却する。							
テキスト・教材	早川 聖司 / 小池 祐子 / 大津 理香 著『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing 再入門：学んで試せる英文法 + 英作文』南雲堂							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験 (70%)、毎週のライティング課題 (30%)で評価する。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆Academic Writing II /ライティング・使える英作文Ⅲ		
科目分類	113-330-13 (2022年～入学者) 113-330-12 (～2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Academic Writing II /English Composition Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	本村 万喜子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村 万喜子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	自身の主張を英語で論理的に記述する能力を養う演習を行う。学生は毎週のライティング課題から、文章を英語で論理的に構成・執筆・修正することが求められる。		
到達目標	論理的な思考力を養い、自身の主張を英語で記述する力が高まる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第1回】  予習：シラバスの確認  授業：オリエンテーション (授業の目的や進め方、課題について) 、Unit1:文型(pp.6-9)  復習：授業形式についての確認</p> <p>【第2回】  予習：教科書の Unit 2  授業：Unit 2: 文の種類(pp.10-14)  復習：Unit 2 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第3回】  予習：教科書の Unit 3 を読み、問題を解く  授業：Unit 3: 品詞(pp.15-18)  復習：Unit 3 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第4回】  予習：教科書の Unit 4 を読み、問題を解く  授業：Unit 4: 名詞・代名詞・冠詞(pp.19-23)  復習：Unit 4 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第5回】  予習：教科書の Unit 5 を読み、問題を解く  授業：Unit 5: 時制 (pp. 24-28)  復習：Unit 5 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第6回】  予習：教科書の Unit 6 を読み、問題を解く  授業：Unit 6: 前置詞 (pp. 29-33)  復習：Unit 6 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第7回】  予習：教科書の Unit 7,8 を読み、問題を解く  授業：Unit 7: 助動詞 Unit8:進行形 (pp. 34-41)  復習：Unit7, 8 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第8回】  予習：教科書の Unit 9 を読み、問題を解く  授業：Unit 9: 現在完了 (pp. 42-45)  復習：Unit 9 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第9回】  予習：教科書の Unit 10 を読み、問題を解く  授業：Unit 10: 動名詞と不定詞 (pp. 46-49)  復習：Unit 10 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第10回】  予習：教科書の Unit 11 を読み、問題を解く  授業：Unit 11: 比較級と最上級 (pp. 50-53)  復習：Unit 11 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第11回】  予習：教科書の Unit 12 を読み、問題を解く  授業：Unit 12: 受動文 (pp. 54-57)  復習：Unit 12 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第12回】  予習：教科書の Unit 13 を読み、問題を解く  授業：Unit 13: 条件文 (pp. 58-61)  復習：Unit 13 の表現を使ったライティング課題を行う</p> <p>【第13回】</p>			

予習：教科書の Unit 14 を読み、問題を解く 授業：Unit 14: 関係節 (pp. 62-65) 復習：Unit 14 の表現を使ったライティング課題を行う 【第 14 回】 予習：教科書の Unit 15 を読み、問題を解く 授業：Unit 15: 接続詞 (pp. 66-69) 復習：Unit 15 の表現を使ったライティング課題を行う 【第 15 回】 予習：授業で習った文法項目を再確認する 授業：文法項目のまとめ 復習：期末レポートを執筆し提出する。								
授業開始前学習	「ライティング・使える英作文Ⅰ」「ライティング・使える英作文Ⅱ」で使用した教材に目を通しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎週のライティング課題、中間レポート、期末レポートは採点をし、コメントを付けて後日返却する。							
テキスト・教材	早川 聖司 / 小池 祐子 / 大津 理香 著『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing 再入門：学んで試せる英文法 + 英作文』南雲堂							
参考書								
評価の基準と方法	中間レポート (35%)、期末レポート (35%)、毎週のライティング課題 (30%) で評価する。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



☆英語コミュニケーション専攻研究 A/Core Studies (Basic) I

科目名称	☆英語コミュニケーション専攻研究 A/Core Studies (Basic) I		
科目分類	113-320-12 (2022 年～入学者) 113-310-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Communication Research A/Core Studies (Basic) I	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30 後期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-605
授業概要	英語という言葉を通じて学べる内容の内「英語圏文化・文学」は、今まであまり馴染みのない内容ではないかと思います。この授業では英語コミュニケーション専攻で学ぶことができる分野の内「英語圏文化・文学」の基礎を学んでいきます。この講義での学習を通じて今後の自分が学びたい方向性を定めていきかけとしてほしいです。		
到達目標	この授業を受講すると「英語圏文化・文学」とは、どのようなことを学び追求するのかを理解することができるようになります。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：授業シラバスに目を通して頂くこと  授業：1. オリエンテーション・「英語圏文化・文学」とは・「Romeo and Juliet って？」  復習：授業目的の確認</p> <p>【第 2 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet 1, i ~ ii  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 3 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet 1, iii ~ iv  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 4 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet II, i ~ ii  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 5 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet II, iii ~ iv  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 6 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet II, v  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 7 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet III, i ~ ii  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 8 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet III, iii  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 9 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet III, iv  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 10 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet IV, i ~ ii  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet IV, iii  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第 12 回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet IV, iv  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p>			

<p>【第13回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet V, i  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第14回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet V, ii  復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する</p> <p>【第15回】  予習：教科書で指定された箇所を読んでくる  授業：Romeo and Juliet V, iii  復習：授業内で出された課題を行う、まとめ</p>								
授業開始前学習	各回該当箇所を必ず読み、わからない部分を明らかにしておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内容についての簡単なまとめを各回授業終了後に期日までに提出をする。授業内で講義をした内容についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名での質問回答を行う。提出をしたものに対して採点し返却をする、コメントをつけて返却をする場合もある。							
テキスト・教材	教科書 Romeo and Juliet (Macmillan readers 4. pre-intermediate level), Macmillan Education, 2006 ISBN:978-1405087308  必ずペーパーバック版を購入のこと							
参考書	クラスルームに適宜掲載をする。							
評価の基準と方法	<p>授業内で行う課題、最終レポートで評価をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加度・授業内で行う課題(40%)</li> <li>・最終レポート(60%)</li> </ul> <p>授業参加度は授業内での活動や課題等で判断します。  出席が授業回数の3分の2未満の場合は、単位を認定することはできません。</p>							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		
関連科目	イギリス文学 I イギリス文学 II 英語圏文化 I							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

☆英語コミュニケーション専攻研究 B/Core Studies (Basic) II

科目名称	☆英語コミュニケーション専攻研究 B/Core Studies (Basic) II		
科目分類	113-320-12 (2022 年～入学者) 113-310-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Communication Research B/Core Studies (Basic) II	授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-619
授業概要	The study of the English language consists of the study of English Education, English Linguistics and English Culture/Literature. This class teaches the basics of those elements as taught on the English Communication course. We will consider the similarities and differences between them through a range of research methodologies. This class provides an opportunity for students to compare various forms of English study and decide which area they want to focus on.		
到達目標	Students will be able to understand and discuss the following three areas: -The basic content and themes relating to the study of English Education -The basic content and themes relating to the study of English Linguistics -The basic content and themes relating to the study of English Culture/Literature		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習 : Read the class syllabus. 授業 : Orientation, "What is English Education" 1, Groupwork 復習 : Confirm the goals of the course</p> <p>【第 2 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 2, Groupwork 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 3 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 3, Groupwork 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 4 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 4, Groupwork, Submit summary of content in lessons 1-4 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 5 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 5, Groupwork and Discussion 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 6 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 1, Groupwork 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 7 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 2, Groupwork 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 8 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 3, Groupwork 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 9 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 4, Groupwork, Submit summary of content in lessons 6-9 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 10 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 5, Groupwork and Discussion 復習 : Review the handout contents</p> <p>【第 11 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Culture/Literature" 1, Groupwork 復習 : Review the handout contents</p>			

<p>【第12回】  予習：Read the relevant sections of the class handouts.  授業：“What is English Culture/Literature” 2, Groupwork  復習：Review the handout contents</p> <p>【第13回】  予習：Read the relevant sections of the class handouts.  授業：“What is English Culture/Literature” 3, Groupwork  復習：Review the handout contents</p> <p>【第14回】  予習：Read the relevant sections of the class handouts.  授業：“What is English Culture/Literature” 4, Groupwork, Submit a summary of content in lessons 11-14  復習：Review the handout contents</p> <p>【第15回】  予習：Read the relevant sections of the class handouts.  授業：“What is English Culture/Literature” 5, Groupwork and Discussion  復習：Review the handout contents</p>								
授業開始前学習	Do as much introductory reading on English education, English Linguistics, and English Culture/Literature as possible.							
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive oral and/or written feedback on all coursework.							
テキスト・教材	All materials will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	-Preparation and Participation (20%) -Classwork (20%) -Content summaries (60%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		
関連科目								
その他	Students must attend 2/3 of the classes to received credit.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 C		
科目分類	113-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Communication Research C	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00~10:30 木曜日 13:00~14:30 後期 火曜日 09:00~10:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-508
授業概要	3年次以降に所属する専門ゼミを決定するための、プレゼミとして位置付けられた授業である。本授業の主たるテーマは、教育全般、英語（外国語）教育および言語学習である。 本授業においては、教育に関して普段当たり前に捉えていることについて、前提を疑い、思考の偏りに気づくためにクリティカルに思考する力を養うことを目的とする。さまざまなテーマについて考え、その後その根拠となる論文等を読みながら理解を深める。授業はディスカッションを中心に行う。		
到達目標	初歩的な研究方法を学び、適切に物事を考えられるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：自己紹介の準備をする 授業：自己紹介を行う。オリエンテーションを行う 復習：感想及びまとめを書く		
第2回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく① 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む①（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる①		
第3回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく② 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む②（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる②		
第4回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく③ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む③（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる③		
第5回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく④ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む④（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる④		
第6回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく⑤ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む⑤（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる⑤		
第7回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく⑥ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む⑥、レポートの提出（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる⑥		
第8回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく⑦ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む⑦（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる⑦		
第9回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく⑧ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む⑧、レポートの講評（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる⑧		
第10回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく⑨ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む⑨（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる⑨		
第11回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく⑩ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む⑩（ディスカッション）（発表） 復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる⑩		
第12回	予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく⑪ 授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む⑪（ディスカッション）（発表）		

<p>復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる①</p> <p>第 13 回          予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく②          授業：テーマについて発表し、意見交換する。テーマに関する論文を読む②、レポート提出（ディスカッション）（発表）          復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる②</p> <p>第 14 回          予習：事前に与えられたテーマについて考えをまとめておく③          授業：テーマについて発表し、意見交換する。③テーマに関する論文を読む③（ディスカッション）（発表）          復習：授業を振り返り、授業レポートにまとめる③</p> <p>第 15 回          予習：自らの研究課題を準備する          授業：全体の振り返りと、今後の研究について発表する。レポートの講評（ディスカッション）（発表）          復習：これまでの学習をまとめ、3年次のゼミ研究について考察する</p>								
授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、13 回目提出するレポートについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する							
参考書	当該事案に応じて適宜指示する							
評価の基準と方法	授業への参加態度及び提出物 50点 発表及びレポート 50点							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		
関連科目								
その他	発表やディスカッションに積極的に参加すること。 前時のまとめを毎回提出すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							



科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 D		
科目分類	113-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Communication Research D	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	今日の日本の法社会は、ヨーロッパの近代市民社会を模範としています。一人ひとりの個人を人格の担い手として尊重すること、すなわち「人間の尊厳」は市民社会の実現目標かつ基本的な価値観として捉えられてきました。特に、「自由」や「平等」は人間の尊厳の具体的な内容をなす基本的な「人権」として捉えられ、今日に至っています。これを踏まえ、本講義ではまず人権の本質と内容について理解します。その上で、社会的文化的な性である「ジェンダー (gender)」の意味を踏まえ、今日における性差をめぐる問題を国内社会と国際社会を比較しつつ法的な観点から考察します。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題（ジェンダー格差）を考える力をつけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。			
【第 1 回】 予習：本科目シラバスおよびテキスト目次 1～11 頁の講読 授業：「人権論Ⅱ」とは：授業の目的・内容・学習方法について【テキスト 目次 1～11 頁】 復習：テキスト目次 1～11 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 2 回】 予習：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業：市民社会と法：法の役割と日本の法体系の起源 【テキスト 3 頁】 復習：テキスト 3 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 3 回】 予習：テキスト 11～12 頁の講読およびキーワードの確認 授業：女性の人権の背景：近代市民社会と人間の尊厳 【テキスト 11～12 頁】 復習：テキスト 11～12 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 4 回】 予習：テキスト 12～13 頁の講読およびキーワードの確認 授業：女性の人権の背景：近代市民国家と個人の尊厳 【テキスト 12～13 頁】 復習：テキスト 12～13 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 5 回】 予習：テキスト 17～22 頁、27～30 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国内社会と女性の人権：日本国憲法と基本的人権 【テキスト 17～22 頁、27～30 頁】 復習：テキスト 17～22 頁、27～30 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 6 回】 予習：テキスト 61 頁、81～86 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国内社会と女性の人権：労働環境をめぐって 【テキスト 61 頁、81～86 頁】 復習：テキスト 61 頁、81～86 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 7 回】 予習：テキスト 84～87 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国内社会と女性の人権：婚姻関係をめぐって 【テキスト 84～87 頁】 復習：テキスト 84～87 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 8 回】 予習：テキスト 85～87 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国内社会と女性の人権：母子関係をめぐって 【テキスト 85～87 頁】 復習：テキスト 85～87 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 9 回】 予習：テキスト 281～282 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会と女性の人権：国際社会の構造的特徴 【テキスト 281～282 頁】 復習：テキスト 281～282 頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 10 回】 予習：第 2 回～9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 11 回】 予習：テキスト 282～283 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会と女性の人権：国際人権保障のあゆみと国連の役割 【テキスト 282～283 頁】 復習：テキスト 282～283 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 12 回】 予習：テキスト 283～286 頁の講読およびキーワードの確認			



<p>授業：国際社会と女性の人権：国際人権章典 【テキスト 283～286 頁】  復習：テキスト 283～286 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理  【第 13 回】  予習：テキスト 285～289 頁、293～294 頁の講読およびキーワードの確認  授業：国際社会と女性の人権：女性差別撤廃条約 【テキスト 285～289 頁、293～294 頁】  復習：テキスト 285～289 頁、293～294 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理  【第 14 回】  予習：テキスト 293～294 頁の講読およびキーワードの確認  授業：国際社会と女性の人権：女性の国際人権保障をめぐる課題と日本 【テキスト 293～294 頁】  復習：293～294 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理  【第 15 回】  予習：テキスト目次 1～11 頁の講読およびキーワードの確認  授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】  復習：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p>								
授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題の フィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 5 年版）』（有斐閣、2022 年）							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。</li> <li>・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち 10 回以上の提出が必要です。</li> </ul>							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		
関連科目	法学を基礎として、法と社会、日本国憲法および国際法が構成されています。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 E		
科目分類	113-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Communication Research E	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	In this class, students will practice their English skills while learning about cultural studies. There will be in-class discussions and presentations about different cultural topics. Students will also have the opportunity to focus on cultural topics that they are personally interested in.		
到達目標	The aims of this class are to help students gain confidence and improve their English skills while learning about culture. Students will also be introduced to how to do basic research in preparation for seminar work.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第 1 回]  予習 : Prepare a self-introduction  授業 : Course goals and schedule  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 2 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Food customs around the world ? Part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 3 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Food customs around the world ? Part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 4 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Student research  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 5 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Festivals and events ? Part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 6 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Festivals and events ? Part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 7 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Student research and presentations  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 8 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Beliefs and values  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 9 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Student research  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 10 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Subculture ? Part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 11 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Subculture ? Part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 12 回]  予習 : Do assigned reading  授業 : Student research  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第 13 回]</p>			

予習 : Do assigned reading 授業 : Global culture ? Part 1 復習 : Review notes/ Do homework 【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Global culture ? Part 2 復習 : Review notes/ Do homework 【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and presentations								
授業開始前学習	Students can reflect on experiences that they have had with different cultures or in different countries. They can think about how to talk about these experiences in English.							
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 40%, Homework 15%, In-class evaluation 45%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		
関連科目								
その他	This will be good chance to learn about how to research and present in English. Students will be expected to speak in English as much as possible during the class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 F		
科目分類	113-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Communication Research F	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	この授業では、英語を中心とした言語との向き合い方を学ぶ。具体的には、様々な英語の例文に触れながら、それらはどのような文脈で使われるのか、話し手はどのような意図を持って発話したのか、そして聞き手はその発言をどのように受け止めるのかといったことを、言語学の知見を取り入れながら学んでいく。なお、3 年次以降の「英語コミュニケーションゼミ」につながることを想定しつつ、授業を運営する予定である。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語という言語との向き合い方を学ぶことができる。</li> <li>・英語がどのような言語であるのかを知ることができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※この授業はプレゼンテーションおよびグループディスカッションを含む場合がある。</p> <p>【第 1 回】  予習：本授業のシラバスを読んでくる。  授業：本授業の運営方針や成績評価に関するオリエンテーション  復習：授業内容を再確認する。</p> <p>【第 2 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（1）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 3 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（2）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 4 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（3）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 5 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（4）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 6 回】  予習：テキスト該当箇所の精読または発表準備  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（5）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 7 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（6）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 8 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（7）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 9 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（8）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 10 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（9）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 11 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（10）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第 12 回】  予習：テキスト該当箇所の精読  授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（11）  復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p>			

<p>【第13回】          予習：テキスト該当箇所の精読          授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（12）          復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第14回】          予習：テキスト該当箇所の精読          授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（13）          復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。</p> <p>【第15回】          予習：テキストや授業で学んだことを振り返る。          授業：本授業の振り返り          復習：自身の課題を客観的に見つめ直す。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	各自が気になった例文を提出し、それに対して授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021年（ISBN: 978-4-480-07410-2）							
参考書								
評価の基準と方法	提出課題：50%、レポート：50%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Core Studies I		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies I	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	This class will focus on different types of English learning activities and methods. We will look at how people learn languages and also what kind of activities can be used for improving communication skills. This class will be good for anyone who wants to improve their English communication ability.		
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn about second language acquisition (SLA). Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Students will gain knowledge that will help them be better at language learning and communication.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 : Prepare a self-introduction  授業 : Course goals and schedule  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第2回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Introduction to Communicative Learning part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第3回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Introduction to Communicative Learning part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第4回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Communicative listening and speaking  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第5回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Communicative reading and writing  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第6回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Designing communicative activities part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第7回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Designing communicative activities part 2.  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第8回】  予習 : Prepare for model lessons  授業 : Student model lessons  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第9回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Introduction to Task Based Learning part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第10回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Introduction to Task Based Learning part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第11回】  予習 : Do assigned reading  授業 : The four skills in Task Based Learning  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第12回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Designing tasks  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework 【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework 【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and presentations								
授業開始前学習	Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books. Please talk to the teacher if more advice is desired.							
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	Core Studies I		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies I	授業区分	講義
科目責任者	K.バーズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーズ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：Think about business issues  授業：Orientation (Aims and content of the course)  復習：Think about ways to develop Business Studies knowledge</p> <p>【第2回】  予習：Gather necessary materials  授業：Business case studies  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第3回】  予習：Talking about your job  授業：Job titles, company organization  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第4回】  予習：Introducing People  授業：Job descriptions, department names  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第5回】  予習：Explaining office layout  授業：Location, ordinal numbers  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第6回】  予習：Start Group Business Presentation  授業：Groups choose from various business topics  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第7回】  予習：Work on Group Business Presentation  授業：Develop business presentations  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第8回】  予習：Present Group Business Presentation  授業：Give presentations (Active learning presentation)  復習：Review the presentations</p> <p>【第9回】  予習：Giving Instructions  授業：Telephoning, sequencing words  復習：Read over the material covered in the class</p> <p>【第10回】  予習：Inviting  授業：Making arrangements, places of entertainment  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第11回】  予習：Start work on Individual presentations  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p> <p>【第12回】  予習：Work on Individual presentation  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p>			

<p>【第13回】  予習 : Perform Individual presentations  授業 : Present in front of our class  復習 : Review the presentations</p> <p>【第14回】  予習 : Talking about business travel plans  授業 : Air travel, dates  復習 : Read over the material covered in class</p> <p>【第15回】  予習 : Review the course thus far  授業 : Business conversations  復習 : Reflect on course</p>								
授業開始前学習	Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材	Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書	Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法	Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Core Studies II		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies II	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	This course will look at how current knowledge of second language acquisition (SLA) can be applied in practical English teaching environments. Students will learn a variety of techniques and methodologies that can be applied in various English learning situations.		
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn key features of second language acquisition (SLA) theory. Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Various types of practical English teaching activities will be presented and worked with.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】 予習 : Prepare a self-introduction 授業 : Course goals and schedule 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第2回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Cooperative Learning part 1 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第3回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Cooperative Learning part 2 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第4回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Working Together 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第5回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Being Responsible 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第6回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Making Equal Opportunities 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第7回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Maximizing Interactions 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第8回】 予習 : Prepare for model lessons 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第9回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Transformative Learning part 1 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第10回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Transformative Learning part 2 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第11回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Reflective practice part 1 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第12回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Reflective practice part 2 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework 【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework 【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and presentations								
授業開始前学習	Review the topics of the previous term.							
授業内課題の フィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Core Studies II		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies II	授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：Think about business issues  授業：Orientation (Aims and content of the course)  復習：Think about ways to develop Business Studies knowledge</p> <p>【第2回】  予習：Gather necessary materials  授業：Business case studies  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第3回】  予習：Offering to help  授業：Apologizing, around the office  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第4回】  予習：Talking about sales  授業：Sales and promotion  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第5回】  予習：Checking information  授業：Taking telephone messages, telephoning, Emailing  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第6回】  予習：Start Group Business Presentation  授業：Groups choose from various business topics  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第7回】  予習：Work on Group Business Presentation  授業：Develop business presentations  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第8回】  予習：Present Group Business Presentation  授業：Give presentations (Active learning presentation)  復習：Review the presentations</p> <p>【第9回】  予習：Discussing future plans  授業：Travel, career plans  復習：Read over the material covered in the class</p> <p>【第10回】  予習：Talking about yourself  授業：Education and work experience  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第11回】  予習：Start work on Individual presentations  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p> <p>【第12回】  予習：Work on Individual presentation  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p>			

<p>【第13回】  予習 : Perform Individual presentations  授業 : Present in front of our class  復習 : Review the presentations</p> <p>【第14回】  予習 : Talking about things you have and haven't done  授業 : Other facilities and conference equipment  復習 : Read over the material covered in class</p> <p>【第15回】  予習 : Review the course thus far  授業 : Business conversations  復習 : Reflect on course</p>								
授業開始前学習	Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材	Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書	Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法	Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Core Studies III		
科目分類	113-330-14	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies III	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	This class will focus on different types of English learning activities and methods. We will look at how people learn languages and also what kind of activities can be used for improving communication skills. This class will be good for anyone who wants to improve their English communication ability.		
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn about second language acquisition (SLA). Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Students will gain knowledge that will help them be better at language learning and communication.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 : Prepare a self-introduction  授業 : Course goals and schedule  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第2回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Cooperation and collaboration Part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第3回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Cooperation and collaboration Part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第4回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Topics in communicative teaching Part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第5回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Topics in communicative teaching Part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第6回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Student model lessons  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第7回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Student model lessons  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第8回】  予習 : Prepare for model lessons  授業 : Student model lessons  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第9回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Teaching speaking/listening  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第10回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Teaching reading/writing  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第11回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Reflective practice part 1  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第12回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Reflective practice part 2  復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第13回】</p>			



予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework 【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework 【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and model lessons								
授業開始前学習	Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books. Please talk to the teacher if more advice is desired.							
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	Core Studies III		
科目分類	113-330-14	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies III	授業区分	講義
科目責任者	K.バーズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーズ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：Think about business issues  授業：Orientation (Aims and content of the course)  復習：Think about ways to develop Business Studies knowledge</p> <p>【第2回】  予習：Gather necessary materials  授業：Business case studies  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第3回】  予習：Talking about your job  授業：Job titles, company organization  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第4回】  予習：Introducing People  授業：Job descriptions, department names  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第5回】  予習：Explaining office layout  授業：Location, ordinal numbers  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第6回】  予習：Start Group Business Presentation  授業：Groups choose from various business topics  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第7回】  予習：Work on Group Business Presentation  授業：Develop business presentations  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第8回】  予習：Present Group Business Presentation  授業：Give presentations (Active learning presentation)  復習：Review the presentations</p> <p>【第9回】  予習：Giving Instructions  授業：Telephoning, sequencing words  復習：Read over the material covered in the class</p> <p>【第10回】  予習：Inviting  授業：Making arrangements, places of entertainment  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第11回】  予習：Start work on Individual presentations  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p> <p>【第12回】  予習：Work on Individual presentation  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p>			

<p>【第13回】          予習 : Perform Individual presentations          授業 : Present in front of our class          復習 : Review the presentations</p> <p>【第14回】          予習 : Talking about business travel plans          授業 : Air travel, dates          復習 : Read over the material covered in class</p> <p>【第15回】          予習 : Review the course thus far          授業 : Business conversations          復習 : Reflect on course</p>								
授業開始前学習	Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材	Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書	Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法	Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	Core Studies IV		
科目分類	113-330-14	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies IV	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	This course will continue where Core Studies III left off. Students will be exposed to current ideas in second language teaching pedagogy. Students will learn a variety of techniques and methodologies that can be applied in various English learning situations and gain practical experience in designing English language lessons.		
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn key features of second language acquisition (SLA) theory. Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Various types of practical English teaching activities will be presented and worked with.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習 : Prepare a self-introduction 授業 : Course goals and schedule 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第2回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Advanced topics in teaching conversation Part 1 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第3回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Advanced topics in teaching conversation Part 2 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第4回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Sociocultural theory in practice Part 1 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第5回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Sociocultural theory in practice Part 2 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第6回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第7回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第8回】 予習 : Prepare for model lessons 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第9回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Content based teaching Part 1 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第10回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Content based teaching Part 2 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第11回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Content based teaching Part 3 復習 : Review notes/ Do homework</p> <p>【第12回】 予習 : Do assigned reading 授業 : End of term reflection 復習 : Review notes/ Do homework</p>			

<p>【第13回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Student model lessons  復習 : Review notes/ Do homework  【第14回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Student model lessons  復習 : Review notes/ Do homework  【第15回】  予習 : Do assigned reading  授業 : Course review and model lessons</p>								
授業開始前学習	Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books. Please talk to the teacher if more advice is desired.							
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	Core Studies IV		
科目分類	113-330-14	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Core Studies IV	授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：Think about business issues  授業：Orientation (Aims and content of the course)  復習：Think about ways to develop Business Studies knowledge</p> <p>【第2回】  予習：Gather necessary materials  授業：Business case studies  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第3回】  予習：Offering to help  授業：Apologizing, around the office  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第4回】  予習：Talking about sales  授業：Sales and promotion  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第5回】  予習：Checking information  授業：Taking telephone messages, telephoning, Emailing  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第6回】  予習：Start Group Business Presentation  授業：Groups choose from various business topics  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第7回】  予習：Work on Group Business Presentation  授業：Develop business presentations  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第8回】  予習：Present Group Business Presentation  授業：Give presentations (Active learning presentation)  復習：Review the presentations</p> <p>【第9回】  予習：Discussing future plans  授業：Travel, career plans  復習：Read over the material covered in the class</p> <p>【第10回】  予習：Talking about yourself  授業：Education and work experience  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第11回】  予習：Start work on Individual presentations  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p> <p>【第12回】  予習：Work on Individual presentation  授業：Developing presentations in English  復習：Continue work on presentations</p>			

<p>【第13回】  予習 : Perform Individual presentations  授業 : Present in front of our class  復習 : Review the presentations</p> <p>【第14回】  予習 : Talking about things you have and haven't done  授業 : Other facilities and conference equipment  復習 : Read over the material covered in class</p> <p>【第15回】  予習 : Review the course thus far  授業 : Business conversations  復習 : Reflect on course</p>								
授業開始前学習	Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材	Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書	Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法	Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	イギリス文学 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	British Literature I	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30 後期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-605
授業概要	この講義では 7 世紀から 18 世紀までの約千年にわたるイギリス文学史の概要を理解することを目標としています。主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などできるだけ併用しながら、作品や作品を生み出した時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる</li> <li>・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：授業シラバスに目を通してのこと  授業：西欧文学を学ぶ前に知っておくべき基礎知識  復習：授業目的の確認</p> <p>【第 2 回】  予習：教科書 P.2~P.5 を読む  授業：古英語の時代と文学作品、現代英語と文字や言語構造の違いを知る  復習：課題・教科書 P.2~P.5 を読む</p> <p>【第 3 回】  予習：教科書 P.6~P.10 を読む  授業：中世英文学、他言語の流入による言語と文学の変化を学ぶ  復習：課題・教科書 P.6~P.10 を読む</p> <p>【第 4 回】  予習：教科書 P.11~P.14 を読む  授業：中世からルネッサンスへの過渡期の言語と文学の関連を学ぶ  復習：課題・教科書 P.11~P.14 を読む</p> <p>【第 5 回】  予習：教科書 P.14~P.22 を読む  授業：イギリス・ルネッサンス文学と宮廷詩人による詩の発展  復習：課題・教科書 P.14~P.22 を読む</p> <p>【第 6 回】  予習：教科書 P.23~P.31 を読む  授業：イギリス演劇の誕生、大衆に開かれた文学作品とそれを取り巻く文化  復習：課題・教科書 P.23~P.31 を読む</p> <p>【第 7 回】  予習：教科書 P.32~P.38 を読む  授業：イギリス演劇の発展、洗練される演劇文化と文学作品の言語への影響  復習：課題・教科書 P.32~P.38 を読む</p> <p>【第 8 回】  予習：教科書 P.39~P.43 を読む  授業：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響  復習：課題・教科書 P.39~P.43 を読む</p> <p>【第 9 回】  予習：教科書 P.39~P.43 を読む  授業：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(1)  復習：課題・教科書 P.39~P.43 を読む</p> <p>【第 10 回】  予習：教科書 P.39~P.43 を読む  授業：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(2)  復習：課題・教科書 P.39~P.43 を読む</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書 P.44~P.50 を読む  授業：ルネッサンス後期の演劇作品と政治・文化(3)  復習：課題・教科書 P.44~P.50 を読む</p> <p>【第 12 回】  予習：教科書 P.51~P.58 を読む  授業：清教徒革命が詩人に与える影響  復習：課題・教科書 P.51~P.58 を読む</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 教科書 P.59~P.66 を読む 授業 : 課題・ジョン・ミルトンと『パラダイス・ロスト』 復習 : 課題・教科書 P.59~P.66 を読む 【第 14 回】 予習 : 教科書 P.66~P.71 を読む 授業 : 詩から散文へ、日常使用の言語による文学作品の登場 復習 : 課題・教科書 P.66~P.71 を読む 【第 15 回】 予習 : 教科書 P.72~P.77 を読む 授業 : 小説の登場、日常使用の言語による文学作品の発展 復習 : 課題・教科書 P.72~P.77 を読む								
授業開始前学習	かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関する質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材	川崎寿彦著 『イギリス文学史入門』(研究社)							
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)							
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート : 60% 授業内課題・授業参加 : 40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他	現在でも様々な場面で使われる英語の「決まり文句」は、大部分この期間に書かれた文学作品から引用されています。期間の長さに驚かず、イギリスの文学作品がどんなものなのかを考えるきっかけにしてください。  提出物等は Google Classroom を通じて行います。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	伴り文学Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	British Literature II	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	この講義では 18 世紀から現在までのイギリス文学を解説し、それを通してロマン派、ビクトリア朝、そして現代までのイギリス文学史について、主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などもできるだけ併用しながら、作品や時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる</li> <li>・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる</li> <li>・20 世紀における文学の転換とそのきっかけとなった歴史的出来事のつながりを理解することができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：教科書 P.81～P.84 を読む  授業：18 世紀の演劇とヨーロッパから流入してきた演劇文化への対応  復習：教科書 P.81～P.84 を読む</p> <p>【第 2 回】  予習：教科書 P.85～P.92 を読む  授業：18 世紀の小説（1）人気小説の誕生と識字率向上による文化環境の変化  復習：授業内容を 400 字程度にまとめて提出</p> <p>【第 3 回】  予習：教科書 P.92～P.98 を読む  授業：18 世紀の小説（2）女流小説家の誕生と発展、女性を取り巻く文化の変化  復習：教科書 P.85～P.92 を読む</p> <p>【第 4 回】  予習：教科書 P.99～P.106 を読む  授業：ロマン派の詩人たち（1）ワーズワースとコールリッジ  復習：教科書 P.99～P.106 を読む</p> <p>【第 5 回】  予習：教科書 P.106～P.112 を読む  授業：ロマン派の詩人たち（2）キーツ、バイロンとシェリー  復習：教科書 P.106～P.112 を読む</p> <p>【第 6 回】  予習：教科書 P.113～P.121 を読む  授業：ヴィクトリア朝時代の詩と散文、時代的な風潮の文化への影響  復習：教科書 P.113～P.121 を読む</p> <p>【第 7 回】  予習：教科書 P.121～P.128 を読む  授業：ラファエロ前派、文学作品と絵画による相互作用の時代  復習：教科書 P.121～P.128 を読む</p> <p>【第 8 回】  予習：教科書 P.129～P.136 を読む  授業：ヴィクトリア朝時代の小説家たち（1）産業革命と社会運動  復習：教科書 P.129～P.136 を読む</p> <p>【第 9 回】  予習：教科書 P.137～P.145 を読む  授業：ヴィクトリア朝時代の小説家たち（2）進化論の登場と文化への影響  復習：教科書 P.137～P.145 を読む</p> <p>【第 10 回】  予習：教科書 P.146～P.158 を読む  授業：20 世紀の詩と演劇（1）消費される文学作品と過去との差異化  復習：教科書 P.146～P.158 を読む</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書 P.146～P.158 を読む  授業：20 世紀の詩と演劇（2）過去との差異化  復習：教科書 P.146～P.158 を読む</p> <p>【第 12 回】  予習：教科書 P.159～P.166 を読む  授業：20 世紀の小説（1）小説とは何か、イギリスへのアメリカ・アイルランドの影響  復習：教科書 P.159～P.166 を読む</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：教科書 P.167～P.173 を読む 授業：20 世紀の小説（2）広がる英語圏の文学、オーストラリア・インド・南アフリカの影響 復習：教科書 P.167～P.173 を読む 【第 14 回】 予習：教科書 P.178～P.173 を読む 授業：現代の英文学、英語圏の文学と文学の社会における役割 復習：教科書 P.178～P.173 を読む 【第 15 回】 授業：木間 t レポート作成時の注意								
授業開始前学習	かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関する質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材	川崎寿彦著 『イギリス文学史入門』(研究社)							
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)							
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加：40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他	現在までのイギリス文学を通して、自分の好きな作品を見つけてみてください。同時に 20 世紀までの英文学と 20 世紀以降の今につながる英文学との違いを実感してみてください。提出物等は Google Classroom を通じて行います。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	アメリカ文学 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Literature I	授業区分	講義
科目責任者	佐野 陽子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野 陽子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、アメリカの植民地時代から南北戦争までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。		
到達目標	アメリカの植民地時代から南北戦争までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際に読むことで英文を読む力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 イントロダクション：アメリカ文学を学ぶということ</p> <p>【第 2 回】 予習：植民地時代のアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 2-3） 授業：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第 3 回】 予習：ジョナサン・エドワーズとベンジャミン・フランクリンについて調べる。 授業：ジョナサン・エドワーズ「怒れる神の手の中にある罪人」、ベンジャミン・フランクリン『自伝』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 4 回】 予習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 4-11） 授業：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第 5 回】 予習：ハナ・ウェブスター・フォスターについて調べる。 授業：ハナ・ウェブスター・フォスター『クケット』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 6 回】 予習：ラルフ・ウォルドー・エマソンについて調べる。（教科書 pp. 60-61） 授業：ラルフ・ウォルドー・エマソン「自然」「自己信頼」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 7 回】 予習：ナサニエル・ホーソーンについて調べる。（教科書 pp. 64-65） 授業：ナサニエル・ホーソーン『緋文字』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 8 回】 予習：エドガー・アラン・ポーについて調べる。（教科書 pp. 58-59） 授業：エドガー・アラン・ポー「アッシャー家の崩壊」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 9 回】 予習：ハリエット・ビーチャー・ストウについて調べる。（教科書 pp. 72-73） 授業：ハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 10 回】 予習：ハリエット・ジェイコブスについて調べる。 授業：ハリエット・ジェイコブス『ある奴隷少女に起こった出来事』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 11 回】 予習：ヘンリー・デイヴィッド・ソローについて調べる。（教科書 pp. 62-63） 授業：ヘンリー・デイヴィッド・ソロー『ウォールデン』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 12 回】 予習：ハーマン・メルヴィルについて調べる。（教科書 pp. 66-69） 授業：ハーマン・メルヴィル『白鯨』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第 13 回】 予習：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソンについて調べる。（教科書 pp. 76-79） 授業：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン講義、ディスカッション</p>			

<p>復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第14回】  予習：第1回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。  授業：プレゼンテーション（第1回）とディスカッション  復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。</p> <p>【第15回】  予習：第2回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。  授業：プレゼンテーション（第2回）とディスカッション  復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。</p>								
授業開始前学習	前期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に1冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。							
テキスト・教材	竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）							
参考書	授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。							
評価の基準と方法	授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	アメリカ文学Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Literature II	授業区分	講義
科目責任者	佐野 陽子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野 陽子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、アメリカの南北戦争後から冷戦終結までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。		
到達目標	アメリカの南北戦争後から冷戦終結までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際に読むことで英文を読む力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 イントロダクション：アメリカ文学を学ぶということ</p> <p>【第2回】 予習：南北戦争後から第1次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 12-17） 授業：南北戦争後から第1次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：南北戦争後から第1次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第3回】 予習：マーク・トウェインについて調べる。（教科書 pp. 80-81） 授業：マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィン』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第4回】 予習：ヘンリー・ジェイムズについて調べる。（教科書 pp. 82-83） 授業：ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第5回】 予習：イーディス・ウォートンについて調べる。（教科書 pp. 92-93） 授業：イーディス・ウォートン『歓楽の家』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第6回】 予習：シオドア・ドライサーについて調べる。（教科書 pp. 90-91） 授業：シオドア・ドライサー『シスター・キャリー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第7回】 予習：第1次世界大戦後から第2次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 16-31） 授業：第1次世界大戦後から第2次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第1次世界大戦後から第2次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第8回】 予習：ウィラ・キャザーについて調べる。（教科書 pp. 94-95） 授業：ウィラ・キャザー『私のアントニア』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第9回】 予習：F・スコット・フィッツジェラルドについて調べる。（教科書 pp. 110-111） 授業：F・スコット・フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第10回】 予習：ウィリアム・フォークナーについて調べる。（教科書 pp. 114-117） 授業：ウィリアム・フォークナー『八月の光』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第11回】 予習：アーネスト・ヘミングウェイについて調べる。（教科書 pp. 112-113） 授業：アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。</p> <p>【第12回】 予習：第2次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 32-41） 授業：第2次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第2次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。</p> <p>【第13回】 予習：トルーマン・カポーティについて調べる。（教科書 pp. 132-133） 授業：トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』講義、ディスカッション</p>			



<p>復習：作品の原文の抜粋を精読する。  【第 14 回】  予習：トニ・モリソンについて調べる。(教科書 pp. 148-149)  授業：トニ・モリソン『青い眼がほしい』講義、ディスカッション  復習：作品の原文の抜粋を精読する。  【第 15 回】  授業：プレゼンテーションの担当者は、後期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。  授業：プレゼンテーションとディスカッション  復習：後期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。</p>								
授業開始前学習	後期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に 1 冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。							
テキスト・教材	竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）							
参考書	授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。							
評価の基準と方法	授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語学概論 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業は、英語、日本語あるいは言葉一般に見られるさまざまな特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みについて、基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	英語の発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みなどについて、重要な概念を具体例を用いて説明できるようにすることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：（1）オンライン上のシラバスを読み、授業の流れを理解しておくこと  （2）『探検！ことばの世界』（大津由紀雄）を読んでおく  授業：授業内容の説明、および、英語学とはどのような分野であるのかの説明  復習：授業で扱った基本的事項の復習</p> <p>【第2回】  予習：教科書 p. 2-p. 9 までを講読  授業：第1章「ことばの起源と語族」（教科書 p. 2-p. 9）  復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第3回】  予習：教科書 p. 10-p. 17 までを講読  授業：第2章「人間のことばと言語研究」（教科書 p. 10-p. 17）（発表）  復習：教科書 p. 10-p. 17 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第4回】  予習：教科書 p. 18-p. 25 までを講読  授業：第3章「英語の発音とスペリング」（教科書 p. 18-p. 25）（発表）  復習：教科書 p. 18-p. 25 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第5回】  予習：教科書 p. 26-p. 33 までを講読  授業：第4章「英語の語彙の多様性」（教科書 p. 26-p. 33）（発表）  復習：教科書 p. 26-p. 33 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第6回】  予習：教科書 p. 34-p. 41 までを講読  授業：第5章「標準英語の成立」（教科書 p. 34-p. 41）（発表）  復習：教科書 p. 34-p. 41 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第7回】  予習：教科書 p. 42-p. 49 までを講読  授業：第6章「英語のバリエーション」（教科書 p. 42-p. 49）（発表）  復習：教科書 p. 42-p. 49 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第8回】  予習：教科書 p. 50-p. 57 までを講読  授業：第7章「ことばの変化」（教科書 p. 50-p. 57）（発表）  復習：教科書 p. 50-p. 57 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第9回】  予習：教科書 p. 58-p. 65 までを講読  授業：第8章「ことばと音声」（教科書 p. 58-p. 65）（発表）  復習：教科書 p. 58-p. 65 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第10回】  予習：教科書 p. 66-p. 73 までを講読  授業：第9章「音の組み合わせとアクセント」（教科書 p. 66-p. 73）（発表）</p>			

<p>復習：教科書 p. 66-p. 73 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 11 回】          予習：教科書 p. 74-p. 81 までを講読          授業：第 10 章「単語ができるしくみ」（教科書 p. 74-p. 81）（発表）          復習：教科書 p. 74-p. 81 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 12 回】          予習：教科書 p. 82-p. 89 までを講読          授業：第 11 章「文ができるしくみ」（教科書 p. 82-p. 89）（発表）          復習：教科書 p. 82-p. 89 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 13 回】          予習：教科書 p. 90-p. 97 までを講読          授業：第 12 章「文の内部構造」（教科書 p. 90-p. 97）（発表）          復習：教科書 p. 90-p. 97 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 14 回】          予習：教科書 p. 2-p. 49 までを再講読          授業：教科書 p. 2-p. 49 までの内容に沿った練習問題          復習：教科書 p. 2-p. 49 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第 15 回】          予習：教科書 p. 50-p. 97 までを再講読          授業：教科書 p. 50-p. 97 までの内容に沿った練習問題          復習：教科書 p. 50-p. 97 に掲載されている用語の再確認</p>								
授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを強く勧める。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学 <改訂版>』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語音声学 I・II（本授業の第 9 回と第 10 回の学習内容をさらに深める。） グラマー・レビュー I・II / グラマー・使える英文法 I・II（本授業の第 12 回と第 13 回の学習内容の基礎となる内容を扱う。）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語学概論Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業は、「英語学概論Ⅰ」に引き続き、英語、日本語あるいは言葉一般に見られる様々な特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育についての基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育などについて、重要な概念を具体例を用いて説明ができることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：教科書第1章から第12章までの再講読  授業：後期の授業内容の説明と、前期の学習内容の復習  復習：授業で扱った重要概念の復習</p> <p>【第2回】  予習：教科書 p. 98-p. 105 までを講読  授業：第13章「ことばの意味とは何だろう」（教科書 p. 98-p. 105）（発表）  復習：教科書 p. 98-p. 105 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第3回】  予習：教科書 p. 106-p. 113 までを講読  授業：第14章「語の間の意味関係」（教科書 p. 106-p. 113）（発表）  復習：教科書 p. 106-p. 113 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第4回】  予習：教科書 p. 114-p. 121 までを講読  授業：第15章「意味の拡張」（教科書 p. 114-p. 121）（発表）  復習：教科書 p. 114-p. 121 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第5回】  予習：教科書 p. 122-p. 129 までを講読  授業：第16章「ことばの意味に見られる主観性」（教科書 p. 122-p. 129）（発表）  復習：教科書 p. 122-p. 129 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第6回】  予習：教科書 p. 130-p. 137 までを講読  授業：第17章「ことばの意味とコンテキスト」（教科書 p. 130-p. 137）（発表）  復習：教科書 p. 130-p. 137 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第7回】  予習：教科書 p. 138-p. 145 までを講読  授業：第18章「まとまりのある文章」（教科書 p. 138-p. 145）（発表）  復習：教科書 p. 138-p. 145 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第8回】  予習：教科書 p. 146-p. 153 までを講読  授業：第19章「文章中の談話構造」（教科書 p. 146-p. 153）（発表）  復習：教科書 p. 146-p. 153 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第9回】  予習：教科書 p. 154-p. 161 までを講読  授業：第20章「ことばのやりとりにおけるルール」（教科書 p. 154-p. 161）（発表）  復習：教科書 p. 154-p. 161 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第10回】  予習：教科書 p. 162-p. 169 までを講読  授業：第21章「コミュニケーションの民族誌」（教科書 p. 162-p. 169）（発表）  復習：教科書 p. 162-p. 169 に掲載されている用語の再確認</p>			

<p>【第11回】            予習：教科書 p. 170-p. 177 までを講読            授業：第22章「英語と文化」（教科書 p. 170-p. 177）（発表）            復習：教科書 p. 170-p. 177 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第12回】            予習：教科書 p. 178-p. 185 までを講読            授業：第23章「ことばと社会」（教科書 p. 178-p. 185）（発表）            復習：教科書 p. 178-p. 185 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第13回】            予習：教科書 p. 186-p. 193 までを講読            授業：第24章「ことばと国家」（教科書 p. 186-p. 193）（発表）            復習：教科書 p. 186-p. 193 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第14回】            予習：教科書 p. 194-p. 201 までを講読            授業：第25章「日本の英語教育と教授法」（教科書 p. 194-p. 201）（発表）            復習：教科書 p. 194-p. 201 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第15回】            予習：教科書 p. 98-p. 201 までを再講読            授業：教科書 p. 98-p. 201 までの内容に沿った練習問題            復習：教科書 p. 98-p. 201 に掲載されている用語の再確認</p>								
授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学 <改訂版>』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I で学習した内容を踏まえてこの授業を行う。）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語学概論Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-619
授業概要	この授業は、「英語学概論Ⅰ」に引き続き、英語、日本語あるいは言葉一般に見られる様々な特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育についての基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育などについて、重要な概念を具体例を用いて説明ができることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：教科書第1章から第12章までの再講読  授業：後期の授業内容の説明と、前期の学習内容の復習  復習：授業で扱った重要概念の復習</p> <p>【第2回】  予習：教科書 p. 98-p. 105 までを講読  授業：第13章「ことばの意味とは何だろう」（教科書 p. 98-p. 105）（発表）  復習：教科書 p. 98-p. 105 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第3回】  予習：教科書 p. 106-p. 113 までを講読  授業：第14章「語の間の意味関係」（教科書 p. 106-p. 113）（発表）  復習：教科書 p. 106-p. 113 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第4回】  予習：教科書 p. 114-p. 121 までを講読  授業：第15章「意味の拡張」（教科書 p. 114-p. 121）（発表）  復習：教科書 p. 114-p. 121 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第5回】  予習：教科書 p. 122-p. 129 までを講読  授業：第16章「ことばの意味に見られる主観性」（教科書 p. 122-p. 129）（発表）  復習：教科書 p. 122-p. 129 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第6回】  予習：教科書 p. 130-p. 137 までを講読  授業：第17章「ことばの意味とコンテキスト」（教科書 p. 130-p. 137）（発表）  復習：教科書 p. 130-p. 137 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第7回】  予習：教科書 p. 138-p. 145 までを講読  授業：第18章「まとまりのある文章」（教科書 p. 138-p. 145）（発表）  復習：教科書 p. 138-p. 145 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第8回】  予習：教科書 p. 146-p. 153 までを講読  授業：第19章「文章中の談話構造」（教科書 p. 146-p. 153）（発表）  復習：教科書 p. 146-p. 153 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第9回】  予習：教科書 p. 154-p. 161 までを講読  授業：第20章「ことばのやりとりにおけるルール」（教科書 p. 154-p. 161）（発表）  復習：教科書 p. 154-p. 161 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第10回】  予習：教科書 p. 162-p. 169 までを講読  授業：第21章「コミュニケーションの民族誌」（教科書 p. 162-p. 169）（発表）  復習：教科書 p. 162-p. 169 に掲載されている用語の再確認</p>			

<p>【第11回】            予習：教科書 p. 170-p. 177 までを講読            授業：第22章「英語と文化」（教科書 p. 170-p. 177）（発表）            復習：教科書 p. 170-p. 177 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第12回】            予習：教科書 p. 178-p. 185 までを講読            授業：第23章「ことばと社会」（教科書 p. 178-p. 185）（発表）            復習：教科書 p. 178-p. 185 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第13回】            予習：教科書 p. 186-p. 193 までを講読            授業：第24章「ことばと国家」（教科書 p. 186-p. 193）（発表）            復習：教科書 p. 186-p. 193 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第14回】            予習：教科書 p. 194-p. 201 までを講読            授業：第25章「日本の英語教育と教授法」（教科書 p. 194-p. 201）（発表）            復習：教科書 p. 194-p. 201 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第15回】            予習：教科書 p. 98-p. 201 までを再講読            授業：教科書 p. 98-p. 201 までの内容に沿った練習問題            復習：教科書 p. 98-p. 201 に掲載されている用語の再確認</p>								
授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学 <改訂版>』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I で学習した内容を踏まえてこの授業を行う。）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	英語教育学概論 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to English Teaching I	授業区分	講義
科目責任者	工藤 洋路	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 洋路	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	テキストを読み、ディスカッションをして英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶ。英語学習者としての英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「どのように英語を教えることが大切なのか」「英語の学びはどのように起こるか」などの問いに対するの回答を考えていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できる。</li> <li>2. 自分の英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できる。</li> <li>3. 日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返っておく。  授業：オリエンテーション（自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返る）  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 2 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」の解説①  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 3 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」の解説②  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 4 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」に関する討論  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 5 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」の解説①  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 6 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」の解説②  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 7 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」に関する討論  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 8 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」の解説①  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 9 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」の解説②  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 10 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」に関する討論  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 11 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 4 章 英語学習のプリンシプル」の解説①  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 12 回】  予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく  授業：「第 4 章 英語学習のプリンシプル」の解説②  復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：「第4章 英語学習のプリンシプル」に関する討論 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く 【第14回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：第1章から第4章の振り返りおよび討論 復習：今日学んだことの振り返りをノートに書く 【第15回】 予習：レポート課題を完成させる 授業：完成したレポート課題をベースにディスカッションを行う 復習：この授業で学んだことや考えたことのエッセンスをまとめる								
授業開始前学習	課題に取り組み、疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回で行う小課題：次の授業に個別にコメントを付して返却／学期の最終レポート課題：最終回に、執筆したレポートに基づくプレゼンテーションを行い、その場で口頭でのフィードバックを行う							
テキスト・教材	新多『「英語の学び方」入門』 研究社							
参考書								
評価の基準と方法	授業中の課題・発表（20%）、予習・復習課題（30%）、レポート（50%）により、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目								
その他	授業中は、発表やディスカッションに積極的に参加すること。また、英語教育に関わるニュースを新聞などから収集して、授業中のディスカッションで話題に上げるなど、関連分野の情報に敏感になること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	アメリカの文化と歴史 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Culture and History I	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国の歴史を英領植民地時代に遡って概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことではなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点をおいて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えられることを目標にします。また、双方向型および課題解決型の授業を行うため、ほぼ毎回の授業でペア・ワークおよびグループワークを行います。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的な脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力が身につきます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」します。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第 1 回】 予習：テキスト「はじめに」を事前に読む 授業：授業計画・方針、成績評価の基準・方法を説明し、そのとでアメリカに関する基本的な質疑応答を行う 復習：ノートの確認と質問事項を記入する			
【第 2 回】 予習：テキスト 4 頁～5 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：西ヨーロッパ諸国による大西洋進出の歴史的背景（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1・2（テキスト 8～9 頁）、質問事項の記入する			
【第 3 回】 予習：テキスト 5 頁～8 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：西半球におけるフランスとスペインによる植民活動の特徴（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 3・5（テキスト 8～9 頁）、質問事項を記入する			
【第 4 回】 予習：テキスト 10 頁～15 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業：イギリス領植民地の建設・・・南部植民地（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1（テキスト 25～26 頁）、質問事項を記入する。			
【第 5 回】 予習：テキスト 14 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：イギリス領植民地の建設・・・ニューイングランド植民地（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 2～5（テキスト 26～26 頁）、質問事項を記入する			
【第 6 回】 予習：テキスト 14 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：イギリス領植民地の建設・・・中部植民地（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題（テキスト 8～9 頁）、質問事項を記入する			
【第 7 回】 予習：テキスト 15 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業：英領植民地の文化（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 11～14（テキスト 25～26 頁）、質問事項を記入する			
【第 8 回】 予習：テキスト 21 頁～22 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：イギリス本国と北米植民地の経済的関係（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 11・12（テキスト 26 頁）、質問事項を記入する			
【第 9 回】 予習：テキスト 27 頁～29 頁を講読し、疑問点をチェック 授業：アメリカ独立革命への道（課税政策を巡る対立）（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1・2（テキスト 37 頁）、質問事項を記入する			
【第 10 回】 予習：テキスト 29 頁～31 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：アメリカ独立革命への道・・・課税政策を巡る対立（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 3～5（テキスト 37 頁）、質問事項を記入する			
【第 11 回】 テキスト 32～35 頁を講読し、疑問点をチェックする。また、「独立宣言」を読む。 授業：独立宣言公布の世界史的意義（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 6・7（テキスト 37 頁）、質問事項を記入する			

<p>【第12回】          予習：テキスト38頁～40頁を講読し、疑問点をチェックする          授業：新共和国の基礎作り（連合規約）（ペア・ワークおよびグループワーク）          復習：ノートの確認、課題8（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第13回】          予習：テキスト40頁～42頁を講読し、疑問点をチェックする          授業：新共和国の形成・・・連合規約と合衆国憲法（ペア・ワークおよびグループワーク）          復習：ノートの確認、課題1・2（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第14回】          予習：テキスト42頁～44頁を講読し、疑問点をチェックする          授業：新共和国の形成・・・トマス・ジェファソンとアレクサンダー・ハミルトン（ペア・ワークおよびグループワーク）          復習：ノートの確認、課題3（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第15回】          予習：テキスト42頁～44頁を講読し、疑問点をチェックする          授業：アンテベラム期のアメリカ・・・トクヴィルの観たアメリカ（ペア・ワークおよびグループワーク）          復習：ノートの確認、課題4（テキスト44頁）、質問事項を記入する</p>								
授業開始前学習	高校で使用されている世界史の教科書（中世以降現代まで）を読んでおいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	教科書にある「課題」のほか、調べる課題やDVDの感想など数回のレポート課題を出し、回答例または添削する方法でフィードバックします。							
テキスト・教材	『アメリカの文化と歴史Ⅰ』（2012年・改訂版）							
参考書	教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（75%）、レポート課題（20%）、発表など授業への参加姿勢（5%）							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			
関連科目	「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」、「文化交流論（日本とアメリカ）」							
その他	電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし新規に購入する必要はありません。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	アメリカの文化と歴史Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	American Culture and HistoryⅡ	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」に続き、南北戦争後のアメリカ合衆国の歴史を概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことではなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点をおいて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えられることを目標にします。また、授業形態は双方向型および課題解決型です。なお、同科目は「段階の科目」ではありませんが、「アメリカの文化と歴史Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力を身に付けます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」します。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：テキスト17頁～19頁を講読し、疑問点をチェックする  授業：ガイダンス：南北戦争後のアメリカ・・・フロンティアに西進とフロンティア社会の特質（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認、課題1（テキスト30頁）、質問事項を記入する</p> <p>【第2回】  予習：テキスト19頁～21頁を講読し、疑問点をチェックする  授業：南北戦争後のアメリカ・・・独占資本主義の進行①＜大企業家出現の概説 DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p> <p>【第3回】  予習：テキスト19頁～21頁を講読し、バンダービルトについて彼の経歴を調べる  授業：南北戦争後のアメリカ・・・独占資本主義の進行②＜バンダービルト：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p> <p>【第4回】  予習：テキスト19頁～21頁を講読し、ロックフェラーの経歴を調べる  授業：南北戦争後のアメリカ・・・独占資本主義の進行③＜ロックフェラー：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p> <p>【第5回】  予習：テキスト19頁～21頁を講読し、カーネギーの経歴を調べる  授業：南北戦争後のアメリカ・・・独占資本主義の進行④＜カーネギー：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p> <p>【第6回】  予習：テキスト19頁～21頁を講読し、モルガンの経歴を調べる  授業：南北戦争後のアメリカ・・・独占資本主義の進行④＜モルガン：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p> <p>【第7回】  予習：テキスト19頁～21頁を講読し、フォードの経歴を調べる  授業：南北戦争後のアメリカ・・・独占資本主義の進行④＜フォード：DVD鑑賞と解説＞（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p> <p>【第8回】  予習：テキスト22頁～26頁を講読し、疑問点をチェックする  授業：19世紀末から20世紀への世紀転換期①政治マシンの機能と役割（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認とマシーンについて400字程度でまとめる</p> <p>【第9回】  予習：テキスト22頁～26頁を講読し、疑問点をチェックする  授業：19世紀末から20世紀への世紀転換期②セツルメントの機能と役割（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認とセツルメントについて400字程度でまとめる</p> <p>【第10回】  予習：テキスト35頁～39頁を講読し、疑問点をチェックする  授業：農民の「反乱」：人民党の運動と意義（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認と人民党の運動について400字程度でまとめる</p> <p>【第11回】  予習：テキスト39頁～43頁を講読し、疑問点をチェックする  授業：革新主義期運動・・・市政・連邦レベルでの改革運動（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p> <p>【第12回】  予習：テキスト48頁～55頁を講読し、疑問点をチェックする  授業：1920年代のアメリカ・・・大衆消費社会の実情（ペア・ワークおよびグループワーク）  復習：ノートの確認</p>			

<p>【第13回】          予習：テキスト43頁～47頁を講読し、疑問点をチェックする（ペア・ワークおよびグループワーク）          授業：世界大国への歩み          復習：ノートの確認</p> <p>【第14回】          予習：テキスト55頁～60頁を講読し、疑問点をチェックする（ペア・ワークおよびグループワーク）          授業：世界恐慌・ニューディール政策および冷戦の時代          復習：ノートの確認</p> <p>【第15回】          予習：テキスト71頁～72頁を講読し、疑問点をチェックする          授業：1980年代から現在のアメリカ（ペア・ワークおよびグループワーク）          復習：ノートの確認</p>								
授業開始前学習	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」のテキストとノートの復習をしておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	教科書にある「課題」のほか、調べる課題やDVDの感想など数回のレポート課題を出しますが、回答例または添削する方法でフィードバックします。							
テキスト・教材	『アメリカの文化と歴史Ⅱ』(2012年、改訂版)							
参考書	教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（75%）、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢(5%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			
関連科目	「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」、「文化交流論（日本とアメリカ）」							
その他	電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし、新規に購入する必要はありません。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	異文化理解 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Intercultural Understanding I	授業区分	講義
科目責任者	井戸 桂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井戸 桂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:30～16:00 火曜日 13:10～14:40 後期 火曜日 12:30～15:30	研究室	10-702
授業概要	「異文化理解」では、外国語の背景にある文化の多様性を学び、日本人にとって異文化理解の課題点について考える。英語圏の国々の歴史、社会、文化を学ぶと共に、それらに対する日本人の反応を検証する。前半の「異文化理解 I」ではイギリスを中心とした国々の文化、歴史、社会について学ぶ。		
到達目標	イギリスと英国連邦（オーストラリア、ニュージーランドなど）の歴史、社会、文化について学び、日本との相互関係について理解できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>シラバスのうち、個人発表については履修者数やその希望により、変更することがあります。          毎回、授業確認の GoogleForm でのテストがあります。</p> <p>【第 1 回】          予習：英語圏の国々とは具体的にどの国が探す。海外のニュースに目を向ける。          授業：本授業の説明。課題。個人発表について          I 世界における英語圏の国々の存在と多様性について。          復習：身近にある英語圏の国々の文化を探す。個人発表の希望を提出。</p> <p>【第 2 回】          予習：英語の話されている国について、調べる。          授業：II 英語の広がり歴史 その 1）英語の起源について。その 2）世界への広がり          個人発表の調整、決定          復習：個人発表の準備を始める</p> <p>【第 3 回】          予習：選んだ英語圏文化を調べる          授業：III 日本とイギリスの関係について考える。その 1）ウィリアム・アダムズ          復習：ウィリアム アダムズの他の事項も調べる。</p> <p>【第 4 回】          予習：日英関係について考える。個人発表の準備          授業：III 日本とイギリスの関係について考える。その 2）（フェートン号事件 英語学習の始まり）          復習：フェートン事件のような来航があったか調べる。</p> <p>【第 5 回】          予習：日本とイギリスの関係について考える 個人発表の準備          授業：GoogleForm でのテスト内にあった【身近にある英語圏文化、イギリス文化について】          ・皆さんの意見を講評をして、幾つかの例を紹介します。          【個人発表の確認と準備と課題②について】          復習：個人発表の準備</p> <p>【第 6 回】          予習：イギリスの地理について、調べる。          授業：個人発表の開始（履修者の人数により、第 5 回から始める可能性あり。）          IVイギリス その 1（イギリスの地理・自然について）          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 7 回】          予習：イギリスの歴史について、調べる。          授業：個人発表 IVイギリス その 2（イギリスの歴史・文化について①）          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 8 回】          予習：イギリスの文化について調べる。          授業：個人発表 IVイギリス その 3（イギリスの歴史・文化について②）          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 9 回】          予習：イギリスの文化について調べる。          授業：個人発表 IVイギリス その 4（イギリスの歴史・文化について③）          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 10 回】          予習：イギリス連邦について調べる。          授業：個人発表 IVイギリス（歴史・文化について④）          Vイギリス連邦とは。          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p>			



<p>【第 11 回】          予習：オセアニアの資料を集める。          授業：VI オーストラリア その 1) 地理自然          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 12 回】          予習：オセアニアの資料を集める。          授業：VI オーストラリア その 2) 歴史、アボリジニ          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 13 回】          予習：オセアニアの資料を集める。          授業：VI オーストラリア その 3) 文化          復習：本日の発表の復習 個人発表の準備 課題②を書く</p> <p>【第 14 回】          予習：ニュージーランドについて調べる          授業：VII ニュージーランド 歴史、文化          復習：本日の発表の復習 課題②を書く</p> <p>【第 15 回】          予習：これまでの授業を見直す。自分の提出課題①②を見直す。          授業：これまでのまとめ。(イギリスとオーストラリア、ニュージーランドの歴史と文化を通じて学んだ、英語を使う人々の背景を確認する。異文化を理解するにはどうしたらよいか、考える。)          復習：イギリス、オセアニアの文化と日本について考える。</p>
--

授業開始前学習	英語を熱心に学習する。英語圏の国々のニュースに関心を持つ。身近にあるイギリス文化を探る。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の GoogleForm でのテストに、質問コーナーも設けます。次週に、コメントをします。							
テキスト・教材	各回、配布する。							
参考書	『世界の歴史と文化』（新潮社）、『世界文化史大系』（角川書店）、『イギリス文化を学ぶ人のために』（世界思想社）、『異文化トレーニング』（三修社）、『異文化理解とコミュニケーション』（三修社）							
評価の基準と方法	授業参加態度と GoogleForm でのテスト（40%） 個人発表（準備、提出物、発表、レポート）（40%） 最後のまとめ提出。（20%）							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	異文化交流 日本紹介の英語 イギリス文学							
その他	講義だけでなく、学生による調査と発表があります。発表をまとめたレポート提出もあります。教職科目の一つですので、出席・授業連絡・締め切りなどは確実に厳守してください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	異文化理解Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Intercultural Understanding II	授業区分	講義
科目責任者	井戸 桂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井戸 桂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:30～16:00 火曜日 13:10～14:40 後期 火曜日 12:30～15:30	研究室	10-702
授業概要	「異文化理解」では、外国語の背景にある文化の多様性を学ぶ。英語圏の国々の歴史、社会、文化を学ぶと共に、それらに対する日本人の反応を検証する。後半の「異文化理解Ⅱ」では、アメリカ・カナダと英語使用のアジアとアフリカ圏の文化について学ぶ。		
到達目標	アメリカとカナダの歴史、社会、文化について学び、日本との相互関係について理解できるようになる。アジア、アフリカなどで英語を公用語としている状況がわかるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>対面授業のシラバスです。          学生発表の回数や各国のバランスは、実際の履修者とご相談して決定します。発表にあたっては、レジュメ、パワーポイントスライド、小テスト問題を作成してください。後日、そのレポートも提出して下さい。</p> <p>【第1回】          予習：海外のニュースに目を向ける。          授業：世界に広がる英語圏の国々を確認する。英語の歴史を振り返る。          復習：アメリカおよびカナダと、アジアおよびアフリカの各テーマ担当希望を提出。</p> <p>【第2回】          予習：身近にあるアメリカ文化を記す。          授業：アメリカと日本 その1）日本におけるアメリカ文化との邂逅とその後の歴史について。ペリーの来航          アメリカおよびカナダと、アジアおよびアフリカの各テーマ担当を発表。          復習：本日の資料を読み直す。発表担当の資料を探し始める。</p> <p>【第3回】          予習：身近にあるアメリカ文化の影響を探す。          授業：アメリカと日本 その2）日米交流、早期例の検証（ジョン万次郎 マクドナルド）          担当の確認。          復習：本日の資料を読み直す。発表担当の資料を探す。</p> <p>【第4回】          予習：アメリカに関するニュースを探しコメントする。          授業：アメリカと日本 外国と日本 異文化理解について話し合う。第14回でも行う。          アメリカ ① 合衆国の地理：学生発表の開始（プレゼンテーション）          復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第5回】          予習：発表練習。          授業：アメリカ ② 合衆国の歴史について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション）          復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第6回】          予習：発表練習。          授業：アメリカ ③ 合衆国の社会について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション）          復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第7回】          予習：発表練習。          授業：アメリカ ④ 合衆国の文化について。：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション）          交流会の準備（ディスカッション）          復習：本日の発表について感想を記す。次週への質問を考えてくる。</p> <p>【第8回】          予習：発表練習。          授業：アメリカ ⑤ 合衆国の文化について。：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション）          交流会の準備（ディスカッション）          復習：本日の発表について感想を記す。次週への質問を考えてくる。</p> <p>【第9回】          予習：アメリカについての情報をまとめる          授業：アメリカ ⑥ ゲストの先生との交流会（ディスカッション）          復習：本日のお話について感想を記す。</p> <p>【第10回】          予習：発表練習。          授業：カナダ ① 歴史と地理について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション）          復習：本日の発表について感想を記す。</p>			

<p>【第11回】          予習：発表練習。          授業：カナダ②文化について：学生発表と質疑応答。（プレゼンテーション）          復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第12回】          予習：アジアの英語について情報を集める          授業：アジアで英語を公用語にしている国々について：学生発表と質疑応答（プレゼンテーション）          復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第13回】          予習：担当の資料を集める。          授業：アジアあるいはアフリカで英語を公用語にしている国々について（学生発表と質疑応答。）（プレゼンテーション）          復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第14回】          予習：発表の練習。          授業：アフリカで英語を公用語にしている国々について（学生発表と質疑応答）（プレゼンテーション）          異文化理解とは、何か、ディカッション          復習：本日の発表について感想を記す。</p> <p>【第15回】          予習：これまでの資料を復習する。異文化圏の人々との円滑なコミュニケーションを取るための工夫を考える。          授業：異文化間の相互理解に何が必要か、考える。まとめ          復習：身近にある英語圏の文化をあらためて見直し、まとめる。</p>								
授業開始前学習	英語を熱心に学習する。英語圏の国々のニュースに関心を持つ。身近にあるアメリカとカナダの文化を探す。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の小テストに、質問コーナーを設け、後日授業で、解答します。 学生発表に関して、事前の指導と発表後の講評を行います。							
テキスト・教材	授業開始時の配布資料、および途中でも随時配布する資料による。							
参考書	『叢書比較文学比較文化』(中央公論社)、『世界の歴史と文化』(新潮社)、『世界文化史大系』(角川書店)、『アメリカ文化を学ぶ人のために』(世界思想社)、『多文化社会アメリカの歴史』(明石書店)、『南北アメリカの500年』(青木書店)、『資料で読むアメリカ文化史』(東京大学出版会)、『異文化トレーニング』(三修社)、『異文化理解とコミュニケーション』(三修社)							
評価の基準と方法	毎回の確認小テスト。(40%) 各自の課題提出と発表。(40%) 最後のまとめ。(20%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	イギリス文学 異文化理解Ⅱ 日本紹介の英語							
その他	講義だけでなく、学生による調査と発表があります。発表をまとめたレポート提出もあります。教職科目の一つですので、出席・授業連絡・締め切りなどは確実に厳守してください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆時事英語 I		
科目分類	113-330-11 (2022年～入学者) 113-330-12 (~2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Current English I	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	経済・社会・科学技術・文化・環境・教育・健康といった幅広い分野の英文記事を読み、生きた英語を学ぶ。英文記事を読む行為を通じて、国内外の出来事に対する知見を広げる。記事の内容について、ディスカッションを行い、発信型の英語表現修得をはかる。		
到達目標	英文記事を通じて国内外の出来事について知る。時事問題について英語で議論できるようになる。TOEIC スコア 450-550 点程度をとれるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
【第1回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 1 Reading p14-15) 授業 : Orientation (Aims and content of the course) & Chapter1 Being Eco-Friendly with Edible Tableware (p11-16) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第2回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 2 Reading p20-21) 授業 : Chapter 2 In Search of More Fluid Styles of Work (p17-22) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第3回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 3 Reading p26-27) 授業 : Chapter 3 Cats Don't look, but They know (p23-28) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第4回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 4 Reading p32-33) 授業 : Chapter 4 Challenges of a High School Entrepreneur (p29-34) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第5回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 5 Reading p38-39) 授業 : Chapter 5 The Ties that Bind Hearts (p35-40) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第6回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 6 Reading p44-45) 授業 : Chapter 6 Insect Funerals (p41-46) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第7回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 7 Reading p50-51) 授業 : Chapter 7 The History of QR Codes (p47-52) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第8回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 8 Reading p56-57) 授業 : Chapter 8 Afghanistan's Bacha Posh (p53-58) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第9回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 9 Reading p62-63) 授業 : Chapter 9 Buy a Drink, Change the World (p59-64) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第10回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 10 Reading p68-69) 授業 : Chapter 10 Real x Unreal (p65-70) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第11回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 11 Reading p74-75) 授業 : Chapter 11 Tiny Organism Play a Big Role (p71-76) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第12回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 12 Reading p80-81) 授業 : Chapter 12 Amateurs Beat Professionals at their Own Game (p77-82) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			

<p>【第13回】  予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 13 Reading p86-87)  授業 : Chapter 13 Teaching Traditional Buddhism with Jokes (p83-88) (ディスカッション)  復習 : Read over the material covered in class</p> <p>【第14回】  予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 14 Reading p92-93)  授業 : Chapter 14 Placing Hope in a Space Telescope (p89-94) (ディスカッション)  復習 : Read over the material covered in class</p> <p>【第15回】  予習 : Preparation for the final test  授業 : The Final Test  復習 : Read over the material covered in class</p>									
授業開始前学習	インターネットや新聞などで英文記事に触れておくとよい。								
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の小テストについては全体の講評および個別の質問回答をおこなう。また、授業内でのディスカッションについても口頭でコメントを与える。								
テキスト・教材	村尾純子・深山晶子・辻本智子・横山香奈・Christopher Cladis 編著「Insights 2023」金星堂 2023								
参考書									
評価の基準と方法	定期試験：60% 小テスト：40%								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	◎			△	○				
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	☆時事英語Ⅱ		
科目分類	113-330-11 (2022年～入学者) 113-330-12 (～2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Current English Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	アメリカや世界各国の時事問題を扱ったニュース番組を題材に、映像・音声・英文を通じて、生きた英語を学ぶ。国内外の出来事に対する知見を広げるとともに、その出来事についてディスカッションを行い、発信型の英語表現を身につける。		
到達目標	英語による報道を通じて国内外の出来事について知る。時事問題について英語で議論できるようになる。TOEIC スコア 500-600 点程度をとれるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
【第1回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook ( News Story 1 The Gist & Warm-up Exercises p9) 授業 : Orientation (aims and content of the course) & News Story 1 Volunteers in Loveland (p9-13) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第2回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 2 The Gist & Warm-up Exercises p14 ) 授業 : News Story 2 Commemorating Juneteenth (p14-19) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第3回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 3 The Gist & Warm-up Exercises p20 ) 授業 : News Story 3 Penguin at Arizona Aquarium (p20-26) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第4回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 4 The Gist & Warm-up Exercises p27 ) 授業 : News Story 4 Colorado River Most Endangered (p27-33) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第5回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 5 The Gist & Warm-up Exercises p34 ) 授業 : News Story 5 Controversial "Don't Say Gay" Bill (p34-39) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第6回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 6 The Gist & Warm-up Exercises p40 ) 授業 : News Story 6 Standing in Solidarity (p40-45) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第7回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 7 The Gist & Warm-up Exercises p46 ) 授業 : News Story 7 Endurance Ship Found in Antarctica (p46-51) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第8回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 8 The Gist & Warm-up Exercises p52 ) 授業 : News Story 8 An Inspiring Child Author (p52-58) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第9回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 9 The Gist & Warm-up Exercises p59 ) 授業 : News Story 9 Historic Gunmaker Settlement (p59-65) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第10回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News story10 The Gist & Warm-up Exercises p66 ) 授業 : News Story 10 Saving the Galapagos (p66-72) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第11回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story11 The Gist & Warm-up Exercises p73 ) 授業 : News Story 11 The Marathon Mom (p73-78) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第12回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story12 The Gist & Warm-up Exercises p79 ) 授業 : News Story 12 Rising Prices (p79-84) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class			
【第13回】			

<p>予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story13 The Gist &amp; Warm-up Exercises p85 )          授業 : News Story 13 International Holocaust Remembrance Day (p85-91) (ディスカッション)          復習 : Read over the material covered in class          【第 14 回】          予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story14 The Gist &amp; Warm-up Exercises p92 )          授業 : News Story 14 Valedictorian Speech (p92-98) (ディスカッション)          復習 : Read over the material covered in class          【第 15 回】          予習 : Preparation for the final test          授業 : The Final Test          復習 : Read over the material covered in class</p>								
授業開始前学習	インターネットやテレビ、新聞などで英語による報道に触れておくとよい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内の小テストについては全体の講評および個別の質問回答をおこなう。また、授業内でのディスカッションについても口頭でコメントを与える。							
テキスト・教材	山根繁・Kathleen Yamane 編著 ABC NEWSROOM 金星堂 2023							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験 : 60% 小テスト : 40%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			△	○			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	英語音声学 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Phonetics I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の子音について学習する。		
到達目標	英語の個々の子音について、発音の方法などを習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する  授業：（1）授業内容の説明  （2）Lesson 1: World Englishes（教科書 p. 2-p. 5）  （3）Lesson 2: Speech Organs（教科書 p. 6-p. 7）  （4）Lesson 3: Speech Sounds（教科書 p. 8-p. 9）  復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認</p> <p>【第2回】  予習：教科書 p. 18-p. 19 までを自習  授業：Lesson 7: [p]-[b]（教科書 p. 18-p. 19）（実習）  復習：教科書 p. 18-p. 19 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第3回】  予習：教科書 p. 20-p. 21 までを自習  授業：Lesson 8: [t]-[d]（教科書 p. 20-p. 21）（実習）  復習：教科書 p. 20-p. 21 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第4回】  予習：教科書 p. 22-p. 23 までを自習  授業：Lesson 9: [k]など（教科書 p. 22-p. 23）（実習）  復習：教科書 p. 22-p. 23 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第5回】  予習：教科書 p. 24-p. 25 までを自習  授業：Lesson 10: [f]-[v]（教科書 p. 24-p. 25）（実習）  復習：教科書 p. 24-p. 25 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第6回】  予習：教科書 p. 26-p. 27 までを自習  授業：Lesson 11: th などの音（教科書 p. 26-p. 27）（実習）  復習：教科書 p. 26-p. 27 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第7回】  予習：教科書 p. 28-p. 29 までを自習  授業：Lesson 12: [s]-[z]（教科書 p. 28-p. 29）（実習）  復習：教科書 p. 28-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第8回】  予習：教科書 p. 30-p. 31 までを自習  授業：Lesson 13: sh などの音（教科書 p. 30-p. 31）（実習）  復習：教科書 p. 30-p. 31 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第9回】  予習：教科書 p. 32-p. 33 までを自習  授業：Lesson 14: ch などの音（教科書 p. 32-p. 33）（実習）  復習：教科書 p. 32-p. 33 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第10回】</p>			

<p>予習：教科書 p. 34-p. 35 までを自習          授業：Lesson 15: [m]-[n]などの音（教科書 p. 34-p. 35）（実習）          復習：教科書 p. 34-p. 35 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 11 回】          予習：教科書 p. 36-p. 37 までを自習          授業：Lesson 16: [r]-[l]（教科書 p. 36-p. 37）（実習）          復習：教科書 p. 36-p. 37 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 12 回】          予習：教科書 p. 38-p. 42 までを自習          授業：（1）Lesson 17: [h]（教科書 p. 38-p. 39）（実習）          （2）Lesson 18: [j]-[w]-[hw]（教科書 p. 40-p. 42）（実習）          復習：教科書 p. 38-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 13 回】          予習：教科書 p. 18-p. 29 までを再講読          授業：Lesson 7 - Lesson 12 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 29）（実習）          復習：教科書 p. 18-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 14 回】          予習：教科書 p. 30-p. 42 までを再講読          授業：Lesson 13 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 30-p. 42）（実習）          復習：教科書 p. 30-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 15 回】          予習：教科書 p. 18-p. 42 までを再講読          授業：Lesson 7 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 42）（実習）          復習：教科書 p. 18-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習</p>								
授業開始前学習	音声学の概論知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	津田塾大学英語英文学科（編）『アメリカ英語の発音教本（四訂版）』（研究社） ISBN 978-4-327-40176-4							
参考書	有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導—基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで—』（三修社） ISBN: 978-4-384-05952-6							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I の第 9 回と第 10 回で本授業に関連する基本的な内容を扱う）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語音声学Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Phonetics Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の母音、ストレス、リズム、イントネーションについて学習する。		
到達目標	英語の個々の母音などについて、発音の方法を習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する。また、教科書 p. 2- p. 9 を読み、内容を理解する。  授業：（1）授業内容の説明  （2）前期の復習：世界の英語、発音方法について（教科書 p. 2-p. 9）  復習：教科書 p. 2-p. 9 の内容、および、授業で配布した資料の内容について再確認</p> <p>【第2回】  予習：教科書 p. 44-p. 45 までを自習  授業：Lesson 19: [i:]などの音（教科書 p. 44-p. 45）（実習）  復習：教科書 p. 44-p. 45 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第3回】  予習：教科書 p. 46-p. 47 までを自習  授業：Lesson 20: [u:]などの音（教科書 p. 46-p. 47）（実習）  復習：教科書 p. 46-p. 47 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第4回】  予習：教科書 p. 48-p. 49 までを自習  授業：Lesson 21: 前舌母音などについて（教科書 p. 48-p. 49）（実習）  復習：教科書 p. 48-p. 49 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第5回】  予習：教科書 p. 50-p. 51 までを自習  授業：Lesson 22: [ou]-[ɔ:]（教科書 p. 50-p. 51）（実習）  復習：教科書 p. 50-p. 51 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第6回】  予習：教科書 p. 52-p. 53 までを自習  授業：Lesson 23: [ɑ]-[ɑ:]-[ʌ]（教科書 p. 52-p. 53）（実習）  復習：教科書 p. 52-p. 53 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第7回】  予習：教科書 p. 54-p. 55 までを自習  授業：Lesson 24: 二重母音について（教科書 p. 54-p. 55）（実習）  復習：教科書 p. 54-p. 55 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第8回】  予習：教科書 p. 56-p. 57 までを自習  授業：Lesson 25: あいまい母音を含む音について（1）（教科書 p. 56-p. 57）（実習）  復習：教科書 p. 56-p. 57 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第9回】  予習：教科書 p. 58-p. 59 を自習  授業：Lesson 26: あいまい母音を含む音について（2）（教科書 p. 58-p. 59）（実習）  復習：教科書 p. 58-p. 59 に掲載されている語句について発音練習</p> <p>【第10回】  予習：教科書 p. 10-p. 11 までを自習  授業：Lesson 4: Word Stress（教科書 p. 10-p. 11）（実習）</p>			

<p>復習：教科書 p. 10-p. 11 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書 p. 12-p. 13 までを自習  授業：Lesson 5: Sentence Rhythm (教科書 p. 12-p. 13) (実習)  復習：教科書 p. 12-p. 13 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 12 回】  予習：教科書 p. 14-p. 16 までを自習  授業：Lesson 6: Intonation (教科書 p. 14-p. 16) (実習)  復習：教科書 p. 14-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 13 回】  予習：教科書 p. 44-p. 51 までを再講読  授業：Lesson 19 - Lesson 22 の復習と発音の再確認 (教科書 p. 44-p. 51) (実習)  復習：教科書 p. 44-p. 51 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 14 回】  予習：教科書 p. 52-p. 59 までを再講読  授業：Lesson 23 - Lesson 26 の復習と発音の再確認 (教科書 p. 52-p. 59) (実習)  復習：教科書 p. 52-p. 59 に掲載されている語句の発音について復習</p> <p>【第 15 回】  予習：教科書 p. 10-p. 16 までを再講読  授業：Lesson 4 - Lesson 6 の復習と発音の再確認 (教科書 p. 10-p. 16) (実習)  復習：教科書 p. 10-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習</p>								
授業開始前学習	音声学の概論知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。							
テキスト・教材	津田塾大学英語英文学科 (編) 『アメリカ英語の発音教本 (四訂版)』 (研究社) ISBN 978-4-327-40176-4							
参考書	有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導—基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで—』 (三修社) ISBN: 978-4-384-05952-6							
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題 (40%)、授業中の演習 (30%)、授業態度 (30%) である。							
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△
関連科目	英語学概論 I (英語学概論 I の第 9 回と第 10 回で本授業に関連する基本的な内容を扱う)							
その他	英語の辞書 (英和辞典、和英辞典等) を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆映画の英語 I		
科目分類	113-330-11 (2022 年～入学者) 113-330-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Movie English I	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	1 5 回の授業を通じて、2 本の映画を読み解き、鑑賞します。取り上げる作品は、古典的な名作であり、作品の本質に迫るとともに、これを言語材料に、実践的な英語学習を行っていきます。そのために、①台詞を英語原文で読み解き、聞き取る作業、②映画内の場面に合わせて、俳優と一緒に声に出して英語を語ってみる作業、③配役を決めて、実際に英語で演じてみる作業、などを行います。また、作品の理解のために、背景知識なども、学んでいきたいと考えています。必要に応じて、作品解釈のためのディスカッションも行います。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実際に話されている台詞(英語原文)を的確に理解するとともに、人物の心情を理解する。 →英語原文を理解する正確な読解力と、ニュアンスを把握理解する力を身につける。</li> <li>◆英語で書かれた台詞を、実際の洋画で話されるスピードとイントネーションで表現できるようになる。 →リアルな英語感覚を身につけることができる。</li> <li>◆文法の復習を行いつつ、洋画で用いられる多彩な語彙を学ぶ。 →英語力の根幹を支える文法と単語を強化できる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】  予習 シラバスを読んでくる。  授業 題材として取り上げる、いわゆる「アメリカの良心」を描いた映画の概要説明、および、アメリカの司法制度の説明を行う。  全編を第 1 回と第 2 回にわたって鑑賞するが、適宜説明を行う。第 1 回の鑑賞は日本語字幕で行う。  復習 授業形式の確認</p> <p>【第 2 回】  予習 第 1 回に配布したスクリプト (以下第 1 スクリプト) の下読み。  授業 残りの部分の上映。スクリプトの内容理解。  復習 第 1 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。</p> <p>【第 3 回】  予習 第 1 スクリプトの詳細な理解。  授業 第 1 スクリプト部分の上映と内容理解、そのためのディスカッション。  復習 各登場人物像の把握。</p> <p>【第 4 回】  予習 第 2 スクリプトの下読み。  授業 第 2 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。  復習 第 2 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。</p> <p>【第 5 回】  予習 第 3 スクリプトの下読み。  授業 第 3 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。  復習 第 3 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。</p> <p>【第 6 回】  予習 第 4 スクリプトの下読み  授業 第 4 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。  復習 第 4 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。</p> <p>【第 7 回】  予習 第 5 スクリプトの下読み  授業 第 5 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。  復習 第 5 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。</p> <p>【第 8 回】  予習 全 5 回のスクリプトを読み直してくる。  授業 全体の上映 (英語字幕)。次回の発表・パフォーマンスの手順説明。  復習 第 1 作品のレポート・感想作成。</p> <p>【第 9 回】  予習 自分のパートの練習  授業 学生をグループ分けして、スクリプトの中で最も気に入った場面を演技する。  復習 引き続き第 1 作品のレポート・感想作成。</p> <p>【第 10 回】  予習 第 9 回に配布された資料を読んでくる。  授業 第 2 作品として取り上げる名作恋愛映画の概要説明、全編を第 10 回と第 11 回にわたって上映するが、時々説明を入れながら行う。  第 1 回上映は日本語字幕で上映する。  復習 授業形式の確認。</p> <p>【第 11 回】  予習 前回は配布した第 1 スクリプトの下読み。</p>			

<p>授業 残りの部分の上映。第1スクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。  復習 第1スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。  【第12回】  予習 第2スクリプトの下読み。  授業 第2スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。  復習 第2回スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。  【第13回】  予習 第3スクリプトの下読み。  授業 第3スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。  復習 第3スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。  【第14回】  予習 全3回のスクリプトを読み直してくる。  授業 全体の上映（英語字幕）。最終回に実施するテストの説明。  復習 第2作品のレポート・感想作成。  【第15回】  予習 レポートを含めたテストのための準備。  授業 レポートを含めたテストを行う。  復習 特になし。</p>								
授業開始前学習	映画は、様々なことを教えてくれます。特に、ヨーロッパ言語の外国映画を見ることで、我々日本人は「西洋」を学んできました。名作と呼ばれるものを、数多く見ておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	◆音読やシャドウイング活動に伴い、英語らしいリズムやイントネーションのアドバイスをを行う。 また、レポート等については、各学生の解釈の妥当性について、丁寧なアドバイスをを行う。							
テキスト・教材	◆授業内で理解のための注釈を付けたスクリプトをプリントして配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	◆授業内の活動（音読、シャドウイング、映像・内容についての意見交換、その他）：35% ◆小テスト（台詞のディクテーション、暗唱、その他）：30% ◆レポート（映画に対する感想）を含めた試験：35%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△						◎	○
関連科目								
その他	必ず初回の授業に出席をすること。初回の授業には今後の進行や資料についての重要な話を行うオリエンテーションの役割があるからです。映画を使用して英語学習を行う一方、映画を積極的に分析し、内容を楽しむ必要があります。したがって受講生は、毎回の英語の予習・小テストの準備に加え、映画が表現する事柄と向き合い、クラスメートや講師と話し合う意欲が求められます。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	☆映画の英語Ⅱ		
科目分類	113-330-11 (2022年～入学者) 113-330-12 (~2021年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Movie English II	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	1.5回の授業を通じて、2本の映画を読み解き、鑑賞します。取り上げる作品は、近年の名作であり、作品の本質に迫るとともに、これを言語材料に、実践的な英語学習を行っていきます。そのために、①台詞を英語原文で読み解き、聞き取る作業、②映画内の場面に合わせて、俳優・キャラクターと一緒に声に出して英語を語ってみる作業、③台詞の裏にある心情など自分なりにくみとる作業などを行います。また、作品理解のために、背景知識なども学びます。必要に応じて、作品解釈のためのディスカッションも行います。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実際に話されている台詞(英語原文)を的確に理解するとともに、人物の心情を理解する。 →英語原文を理解する正確な読解力と、ニュアンスを把握理解する力を身につける。</li> <li>◆英語で書かれた台詞を、実際の洋画で話されるスピードとイントネーションで表現できるようになる。 →リアルな英語感覚を身につけることができる。</li> <li>◆文法の復習を行いつつ、洋画で用いられる多彩な語彙を学ぶ。 →英語力の根幹を支える文法と単語を強化できる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】  予習 シラバスを読んでくる。  授業 題材として取り上げる、過酷な状態にあっても失われたい希望とヒューマンズを描いた作品の概要説明、およびアメリカの社会・制度の説明。  全編を第1回と第2回にわたって鑑賞するが、時々説明を入れながら行う。第1回は日本語字幕で鑑賞する。  復習 授業形式の確認</p> <p>【第2回】  予習 第1回に配布したスクリプト(以下第1スクリプト)の下読み。  授業 残りの部分の鑑賞。スクリプトの内容理解。  復習 第1スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。</p> <p>【第3回】  予習 第1スクリプトの詳細な理解。  授業 第1スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。  復習 各登場人物像の把握。</p> <p>【第4回】  予習 第2スクリプトの下読み。  授業 第2スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。  復習 第2スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。</p> <p>【第5回】  予習 第3スクリプトの下読み。  授業 第3スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。  復習 第3スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。</p> <p>【第6回】  予習 第4スクリプトの下読み  授業 第4スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。  復習 第4スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。</p> <p>【第7回】  予習 第5スクリプトの下読み  授業 第5スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。  復習 第5スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。</p> <p>【第8回】  予習 全5回のスクリプトを読み直してくる。  授業 全体の鑑賞(英語字幕)。次回のレポート作成のための必要箇所の説明指導。  復習 本作品のレポート・感想作成。</p> <p>【第9回】  予習 スクリプト全体を読み返す。  授業 指示に従い、映画の重要箇所を中心にレポートを作成する。  復習 引き続き本作品のレポート・感想作成。</p> <p>【第10回】  予習 第9回に配布された資料を読んでくる。  授業 題材として取り上げる、映画の概要説明、および時代背景の説明。全編を第10回と第11回にわたって上映するが、時々説明を入れながら行う。  第1回上映は日本語字幕で鑑賞する。  復習 授業形式の確認。</p> <p>【第11回】</p>			



<p>予習 前回到配布した第1スクリプトの下読み。          授業 残りの部分の上映。第1スクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。          復習 第1スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。          【第12回】          予習 第2スクリプトの下読み。          授業 第2スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。          復習 第2回スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。          【第13回】          予習 第3スクリプトの下読み。          授業 第3スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。          復習 第3スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。          【第14回】          予習 全3回のスクリプトを読み直してくる。          授業 全体の鑑賞。次回のレポート・試験準備のための説明指導。          復習 レポート・試験準備。          【第15回】          予習 レポート・試験準備          授業 最終試験          復習 特になし</p>								
授業開始前学習	映画は、様々なことを教えてくれます。特に、ヨーロッパ言語の外国映画を見ることで、我々日本人は「西洋」を学んできました。名作と呼ばれるものを、数多く見ておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	◆音読やシャドウイング活動に伴い、英語らしいリズムやイントネーションのアドバイスをを行う。 また、レポート等については、各学生の解釈の妥当性について、丁寧なアドバイスをを行う。							
テキスト・教材	◆授業内で理解のための注釈を付けたスクリプトを配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	◆授業内の活動（音読、シャドウイング、映像・内容についての意見交換、その他）：35% ◆小テスト（台詞のディクテーション、暗唱、その他）：30% ◆レポート（映画に対する感想）を含めた試験：35%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△						◎	○
関連科目								
その他	必ず初回の授業に出席をすること。初回の授業には今後の進行や資料についての重要な話を行うオリエンテーションの役割があるからです。映画を使用して英語学習を行う一方、映画を積極的に分析し、内容を楽しむ必要があります。したがって受講生は、毎回の英語の予習・小テストの準備に加え、映画が表現する事柄と向き合い、クラスメートや講師と話し合う意欲が求められます。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	ことばの世界 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	World of Language I	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	この授業では、英語という個別言語に焦点を当て、英文法を根本から見直し、英語母語話者がどのように英語を運用しているのかを知ることで、文法的に正しい英語を自らアウトプットできるようになることを目的とする。英語を正しく運用できるようになるためには、英語がどのような原理原則に従っているのかを知ることが必須である。この授業では、個々の文法項目に根付いた感覚、その文法を使用することで伝わる意味・意図、そして相手はその表現をどのように受け止めるかといったことを中心に考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法的に正しい英語を自らアウトプットできるようになる。</li> <li>・英語母語話者の言語感覚を理解できる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>※基本的にペアワークやグループワークを中心に授業を進める。</p> <p>【第 1 回】  予習：Chapter 0：英文法の歩き方を読んでくる。本授業の趣旨を確認する。  授業：オリエンテーション、担当決め  復習：授業の方針について確認する。</p> <p>【第 2 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 1：主語・動詞・基本文型①  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 3 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 1：主語・動詞・基本文型②  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 4 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 2：名詞①  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 5 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 2：名詞②  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 6 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 2：名詞③  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 7 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 3：形容詞  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 8 回】  予習：第 7 回までの内容をよく理解する。  授業：前期前半のまとめ  復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。</p> <p>【第 9 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 4：副詞  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 10 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 5：比較  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 11 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 6：否定  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 12 回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 7：助動詞  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p>			

<p>【第 13 回】          予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。          授業：Chapter 8：前置詞          復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 14 回】          予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。          授業：Chapter 9：WH 修飾          復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 15 回】          予習：第 14 回までの内容をよく理解する。          授業：前期後半のまとめ          復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。</p>								
授業開始前学習	毎時、教科書に沿って演習を行うので該当箇所を必ず読んで理解し、疑問点をまとめておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材	大西泰斗・ポール・マクベイ『一億人の英文法』（東進ブックス）2011 年（ISBN: 978-4-89085-527-8）							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	プレゼンテーション：40%、定期試験：60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	○	◎			
関連科目								
その他	Chapter 0 は、この授業のコンセプトを理解するうえで重要な章なので熟読すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ことばの世界Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	World of Language Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	「ことばの世界Ⅰ」に引き続き、この授業では従来の学校英文法を再検討し、文法的に正しいアウトプットとは何かについて考える。英語母語話者が、言語としての英語をどのように認識しているかといった観点に着目しながら英語を学ぶことで、より深い英語力が身につく。この授業では、上記のような観点に基づいて英文法を今一度学び直し、深いレベルで英語を理解することを目指す。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法的に複雑な英文でも正しくアウトプットできるようになる。</li> <li>・英語母語話者の言語感覚を深く理解できる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※基本的にペアワークやグループワークを中心に授業を進める。</p> <p>【第1回】  予習：Chapter 0：英文法の歩き方を読んでくる。本授業の趣旨を確認する。  授業：オリエンテーション、担当決め  復習：授業の方針について確認する。</p> <p>【第2回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 10：動詞 -ing 形  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第3回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 11：TO 不定詞  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第4回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 12：過去分詞形  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第5回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 13：節  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第6回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 14：疑問文①  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第7回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 14：疑問文②  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第8回】  予習：第7回までの内容をよく理解する。  授業：後期前半のまとめ  復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。</p> <p>【第9回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 15：さまざまな配置転換  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第10回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 16：時表現①  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第11回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 16：時表現②  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第12回】  予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。  授業：Chapter 16：時表現③  復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p>			

<p>【第 13 回】          予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。          授業：Chapter 17：接続詞          復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 14 回】          予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。          授業：Chapter 18：流れを整える          復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。</p> <p>【第 15 回】          予習：第 14 回までの内容をよく理解する。          授業：後期後半のまとめ          復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。</p>								
授業開始前学習	毎時、教科書に沿って演習を行うので該当箇所を必ず読んで理解し、疑問点をまとめておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材	大西泰斗・ポール・マクベイ『一億人の英文法』（東進ブックス）2011 年（ISBN: 978-4-89085-527-8）							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	プレゼンテーション：40%、定期試験：60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	○	◎			
関連科目								
その他	Chapter 0 は、この授業のコンセプトを理解するうえで重要な章なので熟読すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語圏文化 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Culture of English Speaking Countries I	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	英語圏の文化、主にイギリスについて講義します。現在、英語が世界の共通語の一つとして扱われるきっかけとなったのはイギリスです。そのイギリスを取り巻くあらゆることについて学んでいくことで、現在のイギリスのあり様が見えてくる、そして世界の中のイギリスの立ち位置を知ることができます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスについての文化事象やそれを取り巻く環境について理解できるようになる</li> <li>・理解した情報を元にグローバルな視点を持つことができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：授業シラバスに目を通してること  授業：オリエンテーション・西欧を学ぶ前に知っておくべき基礎知識  復習：授業目的の確認</p> <p>【第 2 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスとは何か  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 3 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：英語と英語圏について  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 4 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの地理と自然環境  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 5 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの歴史と文学  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 6 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの宗教と生活  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 7 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの音楽  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 8 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの映像文化とメディア  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 9 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの美術  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 10 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスのスポーツ身体文化  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 11 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの教育と社会階層  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 12 回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：イギリスの王室と政治  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる          授業：世界のなかのイギリス          復習：課題・授業内容の確認          【第14回】          予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる          授業：イギリス文化関連映像資料鑑賞①          復習：課題・授業内容の確認          【第15回】          予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる          授業：イギリス文化関連映像資料鑑賞②          復習：課題・授業内容の確認</p>								
授業開始前学習	事前に自習で学修する内容を簡単に説明するので、それらの事項について各自で簡単にネットや SNS、図書資料等に目を通す							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての簡単なまとめを毎回授業終了時に提出をする。授業に関しての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材	特に指定せずに配布資料、プリント等を使用する							
参考書	指昭博(編著)『初めて学ぶ イギリスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2012年 下楠昌哉(編集)『イギリス文化入門』三修社、2010年 武藤浩史、川端康雄、遠藤不比人、大田信良、木下誠(編)『愛と戦いのイギリス文化史 1900年-1950年』慶應義塾大学出版会、2007年 川端康雄、大貫隆史、河野真太郎、佐藤元状、秦邦生(編)『愛と戦いのイギリス文化史 1951年-2010年』慶應義塾大学出版会、2011年 板倉巖一郎、スーザン・K.バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社、2008年							
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加：40% 出席が授業回数の3分の2未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△	○			
関連科目	イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ 英語コミュニケーション専攻研究 A							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	英語圏文化Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Culture of English Speaking Countries Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	英語圏の文化、主にアメリカについて講義します。アメリカを取り巻くあらゆることについて学んでいくことで、現在のアメリカのあり様が見えてくる、そして世界の中のアメリカの立ち位置を知ることができます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカについての文化事象やそれを取り巻く環境について理解できるようになる</li> <li>・理解した情報を元にグローバルな視点を持つことができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業シラバスに目を通してること  授業：オリエンテーション・欧米を学ぶ前に知っておくべき基礎知識  復習：授業目的の確認</p> <p>【第2回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカとは何か  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第3回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカの地理と自然環境  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第4回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカの歴史と文学  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第5回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカの宗教と生活  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第6回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカの美術  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第7回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカの音楽  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第8回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカの映像文化とメディア  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第9回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカのスポーツ身体文化  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第10回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカの大統領と政治経済  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第11回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：アメリカとジェンダー  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第12回】  予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる  授業：BLMとアメリカ  復習：課題・授業内容の確認</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる          授業：世界のなかのアメリカ          復習：課題・授業内容の確認          【第14回】          予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる          授業：アメリカ文化関連映像資料鑑賞①          復習：課題・授業内容の確認          【第15回】          予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる          授業：アメリカ文化関連映像資料鑑賞②          復習：課題・授業内容の確認</p>								
授業開始前学習	事前に自習で学修する内容を簡単に説明するので、それらの事項について各自で簡単にネットや SNS、図書資料等に目を通す							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての簡単なまとめを毎回授業終了時に提出をする。授業に関する質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材	特に指定せずに配布資料、プリント等を使用する							
参考書	遠藤泰生、小田悠生『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023年 杉野健太郎(責任編集)『アメリカ文化入門』三修社、2010年 奥村みさ、スーザン・K. バートン、板倉徹一郎『映画でわかるアメリカ文化入門』松柏社、2007年							
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加：40% 出席が授業回数の3分の2未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△	○			
関連科目	英語圏文化 I アメリカ文学 I アメリカ文学 II							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	国際法 I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	International Law I	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	国際法とは、主に国家と国家を結びつける法規則をまとめた呼び方です。それらは、条約と慣習国際法から成ります。変化し続ける国際社会の歴史の中で、様々な要因が国境を越えた法として形成されてきました。この講座は、現代の国際社会を国際法という枠組を通して構造的に把握することを主な目的とします。特に前期においては、近代以降の市民社会の変遷を踏まえながら、基礎知識の習得と問題分析の方法を学びます。この講座をひとつの手がかりとして、未解決の社会問題を醒めた目で冷静に捉えていく手がかりが伝えられれば幸いです。		
到達目標	国際社会における客観的な判断基準としての「国際法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。			
【第 1 回】 予習：本科目シラバスおよびテキスト 1 頁の講読 授業：「国際法 I」とは：この授業の目的・内容・学習方法について【シラバス、テキスト 1 頁】 復習：テキスト 1 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 2 回】 予習：テキスト 2-7 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会の変遷と国際法：国際社会と法構造の特徴 【テキスト 2-7 頁】 復習：テキスト 2-7 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 3 回】 予習：テキスト 13-15 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会の変遷と国際法：近代市民社会と実定国際法学の確立 【テキスト 13-15 頁】 復習：テキスト 13-15 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 4 回】 予習：テキスト 15-20 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会の変遷と国際法（3）：20 世紀から現代までの国際法学の展開 【テキスト 15-20 頁】 復習：テキスト 15-20 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 5 回】 予習：テキスト 76-81、124-129 頁の講読およびキーワードの確認 授業：現代国際法の構造：国家間の明示的合意としての「条約」 【テキスト 76-81、124-129 頁】 復習：テキスト 76-81、124-129 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 6 回】 予習：テキスト 124-129 頁の講読およびキーワードの確認 授業：現代国際法の構造：条約と国内法の衝突問題 【テキスト 124-129 頁】 復習：テキスト 124-129 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 7 回】 予習：テキスト 81-87、192-193 頁の講読およびキーワードの確認 授業：現代国際法の構造：国家間の黙示的慣行に基づく「慣習国際法」 【テキスト 81-87、192-193 頁】 復習：テキスト 81-87、192-193 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 8 回】 予習：テキスト 10、49-58、143、229-230、235-236、245-246 頁の講読およびキーワードの確認 授業：現代国際法の構造：慣習国際法をめぐる問題 【テキスト 10、49-58、143、229-230、235-236、245-246 頁】 復習：テキスト 10、49-58、143、229-230、235-236、245-246 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 9 回】 予習：テキスト 21-22、32-36 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法の主体：国家の成立要件と権利義務 【テキスト 21-22、32-36 頁】 復習：テキスト 21-22、32-36 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 10 回】 予習：第 2 回～9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 11 回】 予習：テキスト 21-32 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法の主体：国家承認 【テキスト 21-32 頁】 復習：テキスト 21-32 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
【第 12 回】 予習：テキスト 21-32、256-258、357 頁の講読およびキーワードの確認			

<p>授業：国際法の主体：国家承認をめぐる今日の問題 【テキスト 21-32、256-258、357 頁】  復習：テキスト 21-32、256-258、357 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理  【第 13 回】  予習：テキスト 164-180、203-223 頁の講読およびキーワードの確認  授業：国際法の客体：国家の領域と非領域 【テキスト 164-180、203-223 頁】  復習：テキスト 164-180、203-223 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理  【第 14 回】  予習：テキスト 181-202 頁の講読およびキーワードの確認  授業：国際法の客体：海洋法 【テキスト 181-202 頁】  復習：テキスト 181-202 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理  【第 15 回】  予習：テキスト 1 頁の講読およびキーワードの確認  授業：「国際法 I」発展学習の手引き：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】  復習：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p>								
授業開始前学習	テレビ場新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において、課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 15 回目において、レポート全般に関する講評等を行います。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良『国際法（第 4 版）』（有斐閣、2021 年）</li> <li>・岩澤雄司・植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集 2022 年版』（有斐閣、2022 年）</li> </ul>							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。</li> <li>・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち 10 回以上の提出が必要です。</li> </ul>							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		
関連科目	法律学関連科目である「法学」、「法と社会」および「日本国憲法」も参考にしていただければ幸いです。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	国際法Ⅱ		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	International Law Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	国際法とは、主に国家と国家を結びつける法規則をまとめた呼び方です。この講座は、現代の国際社会を国際法という枠組を通して構造的に把握することを主な目的とします。後期の授業においては、具体的な国際問題の分析と検討を試みながら、社会における法の役割をできるだけ丁寧に伝えていきます。特に、国際紛争の平和的解決のためには何が必要なのかを共に考えたいと思います。一つひとつのテーマについて、解答をあせらずに複眼的に分析・検討していきます。		
到達目標	国際社会における客観的な判断基準としての「国際法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。			
【第1回】 予習：本科目シラバスおよびテキスト1頁の講読 授業：「国際法」とは：この授業の目的・内容・学習方法について【テキスト1頁】 復習：テキスト1頁の再読、【第1回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第2回】 予習：テキスト2-7頁の講読およびキーワードの確認 授業：現代国際法の構造：国際社会と法構造の特徴【テキスト2-7頁】 復習：テキスト2-7頁の再読、【第2回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第3回】 予習：テキスト224-232頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法上の私人：戦前・戦後を通じた国際人権保障のあゆみ【テキスト224-232頁】 復習：テキスト224-232頁の再読、【第3回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第4回】 予習：テキスト233-243頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法上の私人：国際人権章典の意義【テキスト233-243頁】 復習：テキスト233-243頁の再読、【第4回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第5回】 予習：テキスト233-243頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法上の私人：国際人権保障をめぐる課題と日本（刑罰問題）【テキスト233-243頁】 復習：テキスト233-243頁の再読、【第5回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第6回】 予習：テキスト166-167、304-305頁の講読およびキーワードの確認 授業：地球環境と法：環境問題の国際化と国際的取組み【テキスト166-167、304-305頁】 復習：テキスト166-167、304-305頁の再読、【第6回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第7回】 予習：テキスト305-325頁の講読およびキーワードの確認 授業：地球環境と法：国際環境会議の進展と国際環境法の形成【テキスト305-325頁】 復習：テキスト305-325頁の再読、【第7回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第8回】 予習：テキスト133-152頁の講読およびキーワードの確認 授業：国家責任：国際違法行為と国家責任【テキスト133-152頁】 復習：テキスト133-152頁の再読、【第8回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第9回】 予習：テキスト16、371-381頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際紛争の解決方法：戦争の違法化へのあゆみ【テキスト16、371-381頁】 復習：テキスト16、371-381頁の再読、【第9回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第10回】 予習：第2回～9回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第10回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第11回】 予習：テキスト141-142、326-349頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際紛争の解決方法：紛争の平和的解決方法と裁判【テキスト141-142、326-349頁】 復習：テキスト141-142、326-349頁の再読、【第11回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第12回】 予習：テキスト347、354、377-378、383-389頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際紛争の解決方法：国際司法裁判例の分析（核兵器使用めぐって）【テキスト347、354、377-378、383-389頁】			

<p>復習 : テキスト 347、354、377-378、383-389 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第 13 回】</p> <p>予習 : テキスト 16-17、347-349、351-361 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 安全保障 : 個別的な安全保障と集団的な安全保障 【テキスト 16-17、347-349、351-361 頁】 復習 : テキスト 16-17、347-349、351-361 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第 14 回】</p> <p>予習 : テキスト 65、358-361、368-370 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 安全保障 : 国連の安全保障の仕組みと課題 【テキスト 65、358-361、368-370 頁】 復習 : テキスト 130~135 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理 【第 15 回】</p> <p>予習 : テキスト 1 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「国際法Ⅱ」発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p>								
授業開始前学習	テレビ場新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題の フィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対するコメントを述べます。また第 15 回目において、レポートの全般的な講評と質問に対する回答を行います。							
テキスト・教材	横田洋三『国際社会と法』有斐閣 杉原高嶺編集代表『コンサイス条約集』三省堂							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15 回のレポートの総合点で評価します (10 点×15 回 = 150 点を 100 点満点に換算)。</li> <li>・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち 10 回以上の提出が必要です。</li> </ul>							
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		
関連科目	法律学関連科目である「法学」、「法と社会」および「日本国憲法」も参考にしていただければ幸いです。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	キャリア・イングリッシュ I		
科目分類	113-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Career English I	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	<p>本授業は、以下の 2 点を主な内容とする。</p> <p>1. 総合的な英語力の向上を目指した、英語でのディスカッションやグループワーク。</p> <p>2. キャリアを意識した TOEIC の対策と模擬問題演習。</p> <p>1.では、日常生活を意識したトピックをもとに、学生同士が英語を用いて自分の意思を主体的に発信できるようなアクティビティを行う。2.では、テキストに沿って TOEIC の模擬問題を解き、TOEIC で求められるリスニング力およびリーディング力を身につける。</p>		
到達目標	<p>1. 「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。</p> <p>2. TOEIC において高得点をとることができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※ペアワークやグループワークを含む回がある。</p> <p><b>【第 1 回】</b>          予習：シラバスを読んでくる。          授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。          復習：授業形式の再確認</p> <p><b>【第 2 回】</b>          予習：Unit 1 "Travel (P12-16)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 1 "Travel (P12-16)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 3 回】</b>          予習：Unit 1 "Travel (P17-20)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 1 "Travel (P17-20)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 4 回】</b>          予習：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 5 回】</b>          予習：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 6 回】</b>          予習：Unit 3 "Media (P30-34)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 3 "Media (P30-34)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 7 回】</b>          予習：Unit 3 "Media (P35-38)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 3 "Media (P35-38)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 8 回】</b>          予習：Unit 1-3 でわからなかった箇所を復習する。          授業：Unit 1-3 の総復習          復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 9 回】</b>          予習：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 10 回】</b>          予習：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 11 回】</b>          予習：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p><b>【第 12 回】</b>          予習：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"の文法・リーディングの下調べをする。</p>			



<p>授業：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"に関する問題演習  復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。  【第13回】  予習：Unit 6 "Clients (P58-62)"についてわからない単語を調べる。  授業：Unit 6 "Clients (P58-62)"に関する問題演習  復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。  【第14回】  予習：Unit 6 "Clients (P63-66)"の文法・リーディングの下調べをする。  授業：Unit 6 "Clients (P63-66)"に関する問題演習  復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。  【第15回】  予習：Unit 4-6 でわからなかった箇所を復習する。  授業：Unit 4-6 の総復習  復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』 (金星堂) 2017年 (ISBN: 978-4-7647-4045-7)							
参考書								
評価の基準と方法	授業内活動 20%, 宿題 20%, 試験 60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	キャリア・イングリッシュ I		
科目分類	113-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Career English I	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>本授業は、以下の 2 点を主な内容とする。</p> <p>1. 総合的な英語力の向上を目指した、英語でのディスカッションやグループワーク。</p> <p>2. キャリアを意識した TOEIC の対策と模擬問題演習。</p> <p>1.では、日常生活を意識したトピックをもとに、学生同士が英語を用いて自分の意思を主体的に発信できるようなアクティビティを行う。2.では、テキストに沿って TOEIC の模擬問題を解き、TOEIC で求められるリスニング力およびリーディング力を身につける。</p>		
到達目標	<p>1. 「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。</p> <p>2. TOEIC において高得点をとることができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※ペアワークやグループワークを含む回がある。</p> <p>【第 1 回】          予習：シラバスを読んでくる。          授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。          復習：授業形式の再確認</p> <p>【第 2 回】          予習：Unit 1 "Travel (P12-16)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 1 "Travel (P12-16)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 3 回】          予習：Unit 1 "Travel (P17-20)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 1 "Travel (P17-20)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 4 回】          予習：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 5 回】          予習：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 6 回】          予習：Unit 3 "Media (P30-34)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 3 "Media (P30-34)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 7 回】          予習：Unit 3 "Media (P35-38)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 3 "Media (P35-38)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 8 回】          予習：Unit 1-3 でわからなかった箇所を復習する。          授業：Unit 1-3 の総復習          復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 9 回】          予習：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 10 回】          予習：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 11 回】          予習：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第 12 回】          予習：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"の文法・リーディングの下調べをする。</p>			

<p>授業：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"に関する問題演習  復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。  【第13回】  予習：Unit 6 "Clients (P58-62)"についてわからない単語を調べる。  授業：Unit 6 "Clients (P58-62)"に関する問題演習  復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。  【第14回】  予習：Unit 6 "Clients (P63-66)"の文法・リーディングの下調べをする。  授業：Unit 6 "Clients (P63-66)"に関する問題演習  復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。  【第15回】  予習：Unit 4-6 でわからなかった箇所を復習する。  授業：Unit 4-6 の総復習  復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』 (金星堂) 2017年 (ISBN: 978-4-7647-4045-7)							
参考書								
評価の基準と方法	授業内活動 20%, 宿題 20%, 試験 60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	キャリア・イングリッシュⅡ		
科目分類	113-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Career English II	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	本授業は、TOEIC で高得点をとるために、テキストに沿って TOEIC の応用的な模擬問題を解く。そして、TOEIC で求められる高度なリスニング力およびリーディング力を身につける。同時に、より高い英語力を身につけるために、単語・文法・読解などを中心に、総合的な英語力を養う演習を、ペアワーク等の主体的な活動を交えながら行う。		
到達目標	1. TOEIC においてより高い点をとることができる。 2. 「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>※ペアワークやグループワークを含む回がある。</p> <p>【第1回】 予習：シラバスを読んでくる。 授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。Unit 7 "Recruiting (P67-71)"に関する問題演習 復習：授業形式の再確認。わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第2回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第3回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第4回】 予習：Unit 8 "Personnel (P77-81)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 8 "Personnel (P77-81)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第5回】 予習：Unit 8 "Personnel (P82-85)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 8 "Personnel (P82-85)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第6回】 予習：Unit 9 "Advertising (P86-90)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 9 "Advertising (P86-90)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第7回】 予習：Unit 9 "Advertising (P91-94)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 9 "Advertising (P91-94)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第8回】 予習：Unit 7-9 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 7-9 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第9回】 予習：Unit 10 "Meetings (P95-99)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 10 "Meetings (P95-99)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第10回】 予習：Unit 10 "Meetings (P100-103)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 10 "Meetings (P100-103)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第11回】 予習：Unit 11 "Finance (P104-108)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 11 "Finance (P104-108)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第12回】 予習：Unit 11 "Finance (P109-112)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 11 "Finance (P109-112)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p>			

<p>【第13回】          予習：Unit 12 "Offices (P113-117)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 12 "Offices (P113-117)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第14回】          予習：Unit 12 "Offices (P118-121)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 12 "Offices (P118-121)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第15回】          予習：Unit 10-12 でわからなかった箇所を復習する。          授業：Unit 10-12 の総復習          復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』 (金星堂) 2017年 (ISBN: 978-4-7647-4045-7)							
参考書								
評価の基準と方法	授業内課題 20%, 宿題 20%, 試験 60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	キャリア・イングリッシュⅡ		
科目分類	113-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Career English II	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本授業は、TOEIC で高得点をとるために、テキストに沿って TOEIC の応用的な模擬問題を解く。そして、TOEIC で求められる高度なリスニング力およびリーディング力を身につける。同時に、より高い英語力を身につけるために、単語・文法・読解などを中心に、総合的な英語力を養う演習を、ペアワーク等の主体的な活動を交えながら行う。		
到達目標	1. TOEIC においてより高い点をとることができる。 2. 「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>※ペアワークやグループワークを含む回がある。</p> <p>【第1回】 予習：シラバスを読んでくる。 授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。Unit 7 "Recruiting (P67-71)"に関する問題演習 復習：授業形式の再確認。わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第2回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第3回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第4回】 予習：Unit 8 "Personnel (P77-81)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 8 "Personnel (P77-81)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第5回】 予習：Unit 8 "Personnel (P82-85)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 8 "Personnel (P82-85)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第6回】 予習：Unit 9 "Advertising (P86-90)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 9 "Advertising (P86-90)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第7回】 予習：Unit 9 "Advertising (P91-94)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 9 "Advertising (P91-94)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第8回】 予習：Unit 7-9 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 7-9 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第9回】 予習：Unit 10 "Meetings (P95-99)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 10 "Meetings (P95-99)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第10回】 予習：Unit 10 "Meetings (P100-103)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 10 "Meetings (P100-103)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第11回】 予習：Unit 11 "Finance (P104-108)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 11 "Finance (P104-108)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第12回】 予習：Unit 11 "Finance (P109-112)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 11 "Finance (P109-112)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p>			

<p>【第13回】          予習：Unit 12 "Offices (P113-117)"についてわからない単語を調べる。          授業：Unit 12 "Offices (P113-117)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第14回】          予習：Unit 12 "Offices (P118-121)"の文法・リーディングの下調べをする。          授業：Unit 12 "Offices (P118-121)"に関する問題演習          復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。</p> <p>【第15回】          予習：Unit 10-12 でわからなかった箇所を復習する。          授業：Unit 10-12 の総復習          復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』 (金星堂) 2017年 (ISBN: 978-4-7647-4045-7)							
参考書								
評価の基準と方法	授業内課題 20%, 宿題 20%, 試験 60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	キャリア・イングリッシュⅢ		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Career EnglishⅢ	授業区分	講義
科目責任者	金沢 じゅん	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金沢 じゅん	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	基礎的な英語力を発展させ、TOEIC で要求されるレベルのリスニング・リーディング力を身につけるために模擬試験問題の演習を行う。ただし、TOEIC の演習に終始するのではなく、授業内のグループワークやディスカッションを通じて、より実践的かつ応用的な英語力を身につけ、身近な話題に関する自分の意見を英語で表現できる力を養う。授業を通じて、社会や文化に関する知識を深め、国際的な視点を得ることを目指す。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のリスニング力・リーディング力を伸ばす</li> <li>・身近な話題についての自分の意見を英語で表現できる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスの確認  授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方や評価、課題について）  復習：授業形式についての確認</p> <p>【第2回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 1（pp.1-4）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第3回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 1（pp.5-10）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第4回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 2（pp.11-14）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第5回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 2（pp.15-20）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第6回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 3（pp.21-24）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第7回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 3（pp.25-30）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第8回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 4（pp.31-34）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第9回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 4（pp.35-40）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第10回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 5（pp.41-44）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第11回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 5（pp.45-50）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第12回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 6（pp.51-54）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：小テストの準備  授業：Unit 6 (pp.55-60)、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る  【第 14 回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 7 (pp.61-64)、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る  【第 15 回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 7 (pp.65-72)、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p>								
授業開始前学習	今まで受講した英語科目で習ったことを復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	小テストや演習問題は授業内で解説する。 ライティング課題等は添削し、返却時に確認する。							
テキスト・教材	松本恵美子／西井賢太郎／Sam Little 著『PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST』(成美堂)							
参考書	英和・英英辞典							
評価の基準と方法	平常点 40% (小テスト、課題提出、アクティビティへの参加、授業態度等) および定期試験 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎
関連科目								
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上 (つまり、5 回以上) 欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他については 1 回目の授業で説明する。 なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	キャリア・イングリッシュⅣ		
科目分類	113-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Career EnglishⅣ	授業区分	講義
科目責任者	金沢 じゅん	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金沢 じゅん	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	基礎的な英語力を発展させ、TOEIC で要求されるレベルのリスニング・リーディング力を身につけるために模擬試験問題の演習を行う。ただし、TOEIC の演習に終始するのではなく、授業内のグループワークやディスカッションを通じて、より実践的かつ応用的な英語力を身につけ、身近な話題に関する自分の意見を英語で表現できる力を養う。授業を通じて、社会や文化に関する知識を深め、国際的な視点を得ることを目指す。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のリスニング力・リーディング力を伸ばす</li> <li>・身近な話題についての自分の意見を英語で表現できる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスの確認  授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方や評価、課題について）  復習：授業形式についての確認</p> <p>【第2回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 8（pp.73-76）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  該当箇所を振り返る</p> <p>【第3回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 8（pp.77-82）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第4回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 9（pp.83-86）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第5回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 9（pp.87-92）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第6回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 10（pp.93-96）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第7回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 10（pp.97-102）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第8回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 11（pp.103-106）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第9回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 11（pp.107-112）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第10回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 12（pp.113-116）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第11回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 12（pp.117-122）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第12回】  予習：小テストの準備  授業：Unit 13（pp.123-126）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。  復習：該当箇所を振り返る</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：小テストの準備          授業：Unit 13 (pp.127-132)、適宜、グループワークやディスカッションを行う。          復習：該当箇所を振り返る          【第14回】          予習：小テストの準備          授業：Unit 14 (pp.133-136)、適宜、グループワークやディスカッションを行う。          復習：該当箇所を振り返る          【第15回】          予習：小テストの準備          授業：Unit 14 (pp.137-143)、適宜、グループワークやディスカッションを行う。          復習：該当箇所を振り返る</p>								
授業開始前学習	今まで受講した英語科目で習ったことを復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	小テストや演習問題は授業内で解説する。 ライティング課題は添削し、返却時に確認する。							
テキスト・教材	松本恵美子／西井賢太郎／Sam Little 著『PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST』（成美堂）							
参考書	英和・英英辞典							
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、アクティビティへの参加、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎
関連科目								
その他	出席を重視する。全授業数の3分の1以上（つまり、5回以上）欠席した場合は単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とする。講義開始30分以上の遅刻は欠席とみなす。その他については1回目の授業で説明する。 なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	通訳・ガイドⅠ		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interpreting・Tour Guiding I	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドの基礎となる英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。日本の社会や文化の理解を深め、わかりやすい英語で紹介する力を養う。受講者には、予習・復習を入念に行い、授業内の活動や課題に積極的に参加することが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドの基礎となる知識や英語コミュニケーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：外国人に紹介したい日本の文化や習慣について考える  授業：オリエンテーション、Unit 1 導入  復習：Unit 1 の音読練習</p> <p>【第2回】  予習：Unit 1 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 1 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第3回】  予習：Unit 1 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 1 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第4回】  予習：Unit 2 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 2 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第5回】  予習：Unit 2 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 2 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第6回】  予習：Unit 3 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 3 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第7回】  予習：Unit 3 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 3 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第8回】  予習：Unit 1 - 3 の復習  授業：第1回～第7回の学習のまとめ  復習：課題点を明確にする</p> <p>【第9回】  予習：Unit 4 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 4 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第10回】  予習：Unit 4 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 4 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第11回】  予習：Unit 5 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 5 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第12回】  予習：Unit 5 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 5 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：Unit 6 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む          授業：Unit 6 に関するディスカッション、グループワーク          復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする          【第 1 4 回】          予習：Unit 6 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習          授業：Unit 6 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク          復習：学んだ表現を使う練習をする          【第 1 5 回】          予習：Unit 4 – 6 の復習          授業：第 9 回～第 1 4 回の学習のまとめ          復習：前期の学びを振り返る</p>									
授業開始前学習	通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。								
授業内課題の フィードバックの方法	小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。								
テキスト・教材	『Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語』 坂部俊行／岡島徳昭／Howard Tarnoff 著（南雲堂）								
参考書	授業で適宜紹介する。								
評価の基準と方法	プレゼンテーションなどの授業中の活動（40%）、課題提出（30%）、定期試験（30%）								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			◎		○	○	△		
関連科目									
その他	出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	通訳・ガイドⅡ		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interpreting・Tour Guiding II	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドの基礎となる英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。日本の社会や文化の理解を深め、わかりやすい英語で紹介する力を養う。受講者には、予習・復習を入念に行い、授業内の活動や課題に積極的に参加することが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドの基礎となる知識や英語コミュニケーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：Unit 8 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：オリエンテーション、Unit 8 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第2回】  予習：Unit 9 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 9 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第3回】  予習：Unit 9 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 9 のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第4回】  予習：Unit 10 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む（※Unit 7 に変更の可能性あり）  授業：Unit 10 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第5回】  予習：Unit 10 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習（※Unit 7 に変更の可能性あり）  授業：Unit 10 のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第6回】  予習：Unit 11 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 11 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第7回】  予習：Unit 11 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 11 のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第8回】  予習：Unit 8 - 11 の復習  授業：第1回～第7回の学習のまとめ  復習：課題点を明確にする</p> <p>【第9回】  予習：Unit 12 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 12 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第10回】  予習：Unit 12 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 12 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第11回】  予習：Unit 13 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む  授業：Unit 13 に関するディスカッション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第12回】  予習：Unit 13 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習  授業：Unit 13 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第13回】</p>			



<p>予習：Unit 1 4 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む          授業：Unit 1 4に関するディスカッション、グループワーク          復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする          【第14回】          予習：Unit 1 4 Message to a Friend の音読練習、トピックについて話す練習          授業：Unit 1 4のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク          復習：学んだ表現を使う練習をする          【第15回】          予習：Unit 1 2 - 1 4の復習          授業：第9回～第14回の学習のまとめ          復習：後期の学びを振り返る</p>									
授業開始前学習	通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。								
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。								
テキスト・教材	『Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語』 坂部俊行／岡島徳昭／Howard Tarnoff 著（南雲堂）								
参考書	授業で適宜紹介する。								
評価の基準と方法	プレゼンテーションなどの授業中の活動（40%）、課題提出（30%）、定期試験（30%）								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			◎		○	○	△		
関連科目									
その他	出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	通訳・ガイドⅢ		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interpreting・Tour GuidingⅢ	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドⅠ、Ⅱで培ってきた知識や能力を活かし、英語コミュニケーション能力をより一層磨くことを目的とする。日本の文化や社会に関する知識を深め、英語でわかりやすく紹介する力を強化する。逐次通訳の基礎訓練も行うため、受講者には予習・復習、授業への積極的な参加、日々の練習の積み重ねが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドに必要な英語力を強化し、逐次通訳の基本的な知識やスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：自分が好きな日本の文化について考える  授業：オリエンテーション、Chapter 1 導入、グループワーク  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第2回】  予習：Chapter 1 Reading の音読練習、7 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 1 グループワーク、シャドーイング  復習：シャドーイング、学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第3回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：ミニプレゼンテーション、訳出練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第4回】  予習：Chapter 2 Reading の音読練習、11 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 2 グループワーク、シャドーイング  復習：シャドーイング、学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第5回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：ミニプレゼンテーション、訳出練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第6回】  予習：Chapter 3 Reading の音読練習、15 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 3 グループワーク、シャドーイング  復習：シャドーイング、学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第7回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：ミニプレゼンテーション、訳出練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第8回】  予習：Chapter 1 - 3 の復習  授業：第1回～第7回の学習のまとめ  復習：課題点を明確にする</p> <p>【第9回】  予習：Chapter 4 Reading の音読練習、19 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 4 グループワーク、リプロダクション  復習：リプロダクション、学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第10回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：ミニプレゼンテーション（実技評価）、訳出練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第11回】  予習：Chapter 5 Reading の音読練習、23 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 5 グループワーク、リプロダクション  復習：リプロダクション、学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第12回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：ミニプレゼンテーション（実技評価）、訳出練習  復習：学んだ表現を使う練習をする</p> <p>【第13回】</p>			

予習：Chapter 6 Reading の音読練習、27 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 6 グループワーク、リプロダクション 復習：リプロダクション、学んだ表現を使う練習をする 【第 14 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：ミニプレゼンテーション（実技評価）、訳出練習 復習：学んだ表現を使う練習をする 【第 15 回】 予習：Chapter 4-6 の復習 授業：第 9 回～第 14 回の学習のまとめ 復習：前期の学びを振り返る									
授業開始前学習	通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。								
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。								
テキスト・教材	『Touring Japan in English 英語で学ぶ日本三選』 坂部俊行／岡島徳昭／William Noel 著（南雲堂）								
参考書	授業で適宜紹介する。								
評価の基準と方法	プレゼンテーションなどの授業中の活動（40％）、課題提出（30％）、定期試験（30％）								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			◎		○		△		
関連科目									
その他	出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	通訳・ガイドⅣ		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interpreting・Tour GuidingⅣ	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドⅠ,Ⅱ,Ⅲで培ってきた知識や能力を活かし、英語コミュニケーション能力をより一層磨くことを目的とする。日本の文化や社会に関する知識を深め、英語でわかりやすく紹介する力を強化する。逐次通訳の基礎訓練も行うため、受講者には予習・復習、授業への積極的な参加、日々の練習の積み重ねが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドに必要な英語力を強化し、逐次通訳の基本的な知識やスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：Chapter 7 Reading の音読練習、31 ページの問題に取り組む  授業：オリエンテーション、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第2回】  予習：Chapter 8 Reading の音読練習、35 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 8 グループワーク、訳出練習  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第3回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第4回】  予習：Chapter 9 Reading の音読練習、39 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 9 グループワーク、訳出練習  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第5回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第6回】  予習：Chapter 10 Reading の音読練習、43 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 10 グループワーク、訳出練習  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第7回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第8回】  予習：Chapter 8 - 10 の復習  授業：第1回～第7回の学習のまとめ  復習：課題点を明確にする</p> <p>【第9回】  予習：Chapter 11 Reading の音読練習、47 ページの問題に取り組む  授業：Chapter 11 グループワーク、訳出練習  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第10回】  予習：ミニプレゼンテーション準備  授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第11回】  予習：「京都観光案内プロジェクト」準備  授業：初見教材での訳出練習、グループワーク  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第12回】  予習：「京都観光案内プロジェクト」準備  授業：プレゼンテーション  復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする</p> <p>【第13回】</p>			

予習：「〇〇県観光案内プロジェクト」準備 授業：初見教材での訳出練習、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする <b>【第14回】</b> 予習：「〇〇県観光案内プロジェクト」準備 授業：プレゼンテーション（実技評価） 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする <b>【第15回】</b> 予習：Chapter 1 1 – 復習 授業：第9回～第14回の学習のまとめ 復習：後期の学びを振り返る									
授業開始前学習	通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。								
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。								
テキスト・教材	『Touring Japan in English 英語で学ぶ日本三選』 坂部俊行／岡島徳昭／William Noel 著（南雲堂） また、その他資料を適宜配布する。								
参考書	授業で適宜紹介する。								
評価の基準と方法	プレゼンテーションなどの授業中の活動（40%）、課題提出（30%）、定期試験（30%）								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			◎		○		△		
関連科目									
その他	出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	日本紹介の英語		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introducing Japan in English	授業区分	講義
科目責任者	ムスリン・イーリヤ (MUSULIN, Ilja)	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	I.ムスリン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	Students will develop the ability to introduce the places and culture representative of various regions of Japan, and learn to explain things Japanese which may be commonplace to them but unfamiliar to someone visiting Japan for the first time.		
到達目標	This course is designed to enhance the communicative skills necessary to introduce Japan to a foreign visitor. A range of regionally specific and diverse source materials introducing Japan and its culture via English will be presented to students. In addition to activities designed to develop core language ability, students will engage in a wide variety of student-centered skills based communicative tasks.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 : Think about how you would introduce Japan to a foreign visitor  授業 : Class introduction. Chapter 1: Japan's Top Three Castles, pp.6-9  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group skit (Speaking, with written review task)  復習 : Revise class notes</p> <p>【第2回】  予習 : Read next chapter and work on class activity  授業 : Chapter 2: Japan's Top Three Festivals, pp.10-13  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group skit (Speaking, with written review task)  復習 : Revise class notes</p> <p>【第3回】  予習 : Read next chapter and work on class activity  授業 : Chapter 3: Japan's Top Three Mountains, pp.14-17  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group skit (Speaking, with written review task)  復習 : Revise class notes</p> <p>【第4回】  予習 : Read next chapter and work on class activity  授業 : Chapter 4: Japan's Top Three Oldest Hot Springs, pp.18-21  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group task (Reading/writing based question and answer)  復習 : Revise class notes</p> <p>【第5回】  予習 : Read next chapter and work on class activity  授業 : Chapter 5: Japan's Top Three Gardens, pp.22-25  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group task (Reading/writing based question and answer)  復習 : Revise class notes</p> <p>【第6回】  予習 : Read next chapter and work on class activity  授業 : Chapter 6: Japan's Top Three Pottery Styles, pp. 26-29  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group task (Reading/writing based question and answer)  復習 : Revise class notes</p> <p>【第7回】  予習 : Read next chapter and work on class activity  授業 : Chapter 7: Japan's Top Three Night Views, pp.30-33  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group skit (Speaking, with written review task)  復習 : Revise class notes</p> <p>【第8回】  予習 : Read next chapter and work on class activity  授業 : Chapter 8: Japan's Top Three Famous Foods, pp.34-37  (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)  Activity: Group skit (Speaking, with written review task)  復習 : Revise class notes</p>			

<p>【第9回】            予習 : Read next chapter and work on class activity            授業 : Chapter 9: Japan's Top Three Limestone Caves, pp.38-41            (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)            Activity: Group skit (Speaking, with written review task)            復習 : Revise class notes</p> <p>【第10回】            予習 : Read next chapter and work on class activity            授業 : Chapter 10: Japan's Top Three Scenic Spots, pp. 42-45            (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)            Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task)            復習 : Revise class notes</p> <p>【第11回】            予習 : Read next chapter and work on class activity            授業 : Chapter 11: Japan's Top Three Waterfalls, pp.46-49            (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)            Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task)            復習 : Revise class notes</p> <p>【第12回】            予習 : Read next chapter and work on class activity            授業 : Chapter 12: Japan's Top Three Disappointing Places, pp.50-53            (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)            Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task)            復習 : Revise class notes</p> <p>【第13回】            予習 : Read next chapter and work on class activity            授業 : Chapter 13: Japan's Top Three Ekiben, pp.54-57            (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)            Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task)            復習 : Revise class notes</p> <p>【第14回】            予習 : Read next chapter and work on class activity            授業 : Chapter 14: Japan's Top Three Udon, pp.58-61            (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)            Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task)            復習 : Revise class notes</p> <p>【第15回】            予習 : Practice presentation            授業 : Student presentations: Introducing things Japanese (free topic)            (Writing and speaking task)            復習 : Review entire course</p>								
授業開始前学習	Please read as widely as possible on the subject of Japanese culture.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students will receive feedback on all assessed classwork.							
テキスト・教材	Toshiyuki Sakabe, Noriaki Okajima, and William Noel, "Touring Japan in English", Nanundo, 2015 (坂部俊行、岡島徳昭、ウィリアム ノエル『英語で学ぶ日本三選』、南雲堂、2015年)							
参考書	Morris, J. et al. [Eigo taiyaku de tabi suru Kyoto 英語対訳で旅する京都]、Jippisha, 2014 Morris, J. et al. [Eigo taiyaku de tabi suru Tokyo 英語対訳で旅する東京]、Jippisha, 2015							
評価の基準と方法	Individual class participation (reading, discussion, presentations): 40%, Group work (skits and other group tasks): 20%, Final written report: 40%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	
関連科目								
その他	Students must attend at least 2/3 of the lectures to pass the course							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	ボランティア英語		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Volunteer English	授業区分	講義
科目責任者	江連 成美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	The main aim of this course is to develop practical English skills for participation in volunteer activities. Throughout the course, the students will develop their ability to cope with problems that could happen in volunteer activities, and understand and explain Japanese culture and customs to those who are unfamiliar with their language and culture.		
到達目標	Students will develop practical English skills necessary for participation in volunteer activities. Students will develop an understanding of Japanese culture and customs, be able to explain these to other people in English, and exchange ideas on these topics in class.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：Please read newspaper articles or books about volunteer activities  授業：Orientation (aims and content of the course)  復習：Review the material covered in class</p> <p>【第2回】  予習：Watch the video (to be assigned in previous class)  授業：What is "Omotenashi"?  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第3回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：Communication strategies (pair work)  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第4回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：At the restaurant (pair work)  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第5回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：Giving directions (pair work)  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第6回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：Things to do in Japan- prepare for the presentation (pair work)  復習：Continue working on the presentation</p> <p>【第7回】  予習：Practice the presentation  授業：Things to do in Japan- presentation (pair work)  復習：Review the feedback from the instructor</p> <p>【第8回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：On the street (pair work)  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第9回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：Talking about Japanese culture (pair work) - prepare for the presentation  復習：Continue working on the presentation</p> <p>【第10回】  予習：Practice the presentation  授業：Talking about Japanese culture (pair work) - presentation  復習：Review the feedback from the instructor</p> <p>【第11回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：At the restaurant (pair work)  復習：Read over the material covered in class</p> <p>【第12回】  予習：Set reading (to be given in previous class)  授業：Dealing with emergency situations (pair work)  復習：Read over the material covered in class</p>			

<p>【第13回】  予習 : Set reading (to be given in previous class)  授業 : Final Project (preparation)  復習 : Read over the material covered in class</p> <p>【第14回】  予習 : Review the class materials and prepare for the test  授業 : Final Project (speaking test and final presentation) (1)  復習 : Review the feedback</p> <p>【第15回】  予習 : Review the class materials and prepare for the test  授業 : Final Project (speaking test and final presentation) (2)  復習 : Review the entire course</p>									
授業開始前学習	The students are recommended to participate in volunteer activities or read books/newspaper articles on volunteering.								
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback on all classwork activities.								
テキスト・教材	Lecture handouts will be provided by the instructor.								
参考書	Reference materials will be provided by the instructor.								
評価の基準と方法	Coursework 60%, Presentation and Speaking test 30%, Class Participation 10%								
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			◎				△	○	
関連科目									
その他	Students must attend at least 2/3 of the classes to pass the course								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	Japan Studies I		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japan Studies I	授業区分	講義
科目責任者	ムスリン・イーリヤ (MUSULIN, Ilja)	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	I.ムスリン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course provides an introduction to Anglophone Japan Studies. Basic knowledge of modern and contemporary Japanese Cultural History will be developed through a variety of topic based lectures. A foundational knowledge of Japanese Cultural History will be developed by lectures and set readings on the diversity of society on the Japanese islands, food culture, consumer culture, sleep, family and Buddhism in post-war Japan.		
到達目標	Cultivate a foundational knowledge of Japanese Cultural History through English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 : Investigate strategies for taking lectures in English  授業 : Orientation and introductory lecture: 'To The Ends of Japan'  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第2回】  予習 : Reading activity  授業 : Food (1) Pre-Modern Food Culture  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第3回】  予習 : Reading activity  授業 : Food (2) Modern Food Culture  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第4回】  予習 : Reading activity  授業 : Food and Consumer Culture (3)  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第5回】  予習 : Reading activity  授業 : Sleep  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第6回】  予習 : Reading activity  授業 : Family (1) Gender  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第7回】  予習 : Reading activity  授業 : Family (2) Generations  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  Students submit a review of content in lessons 1-6  復習 : Revise class notes</p> <p>【第8回】  予習 : Reading activity  授業 : 'Japanese Temple Buddhism' (1) Buddhist Sects  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.</p>			

復習 : Revise class notes  
【第 9 回】  
予習 : Reading activity  
授業 : 'Japanese Temple Buddhism' (2) Current Issues  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.  
Students receive feedback on their review of content

復習 : Revise class notes  
【第 10 回】  
予習 : Reading activity  
授業 : Documentary movie: 'Souls of Zen'  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Movie review activity  
【第 11 回】  
予習 : Movie review activity  
授業 : 3.11 research  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes  
【第 12 回】  
予習 : Reading activity  
授業 : Law and Order in Japan  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes  
【第 13 回】  
予習 : Reading activity  
授業 : Securing Japan  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.  
Students submit a review of content in lessons 7-13

復習 : Revise class notes  
【第 14 回】  
予習 : Reading activity  
授業 : The Arts (1) Folk Art  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes  
【第 15 回】  
予習 : Reading activity  
授業 : The Arts (2) Visual Arts  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.  
Students receive feedback on their second review of content

復習 : Review entire course

授業開始前学習	Read as widely as possible on Japanese cultural history							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on guided reading activities and on report plan.							
テキスト・教材	All materials to be provided by instructor.							
参考書	Richard Bowring, Peter Kornicki, "The Cambridge Encyclopedia of Japan (Cambridge World Encyclopedias)", Cambridge University Press, 1993.							
評価の基準と方法	Weekly class participation and homework: 40%. Mini presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		△			
関連科目								
その他	Students must attend 2/3 of classes to receive credit for this course							
予習・復習の	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							

所要時間	
実務経験を活かした 教育内容	

科目名称	Japan Studies II		
科目分類	113-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Japan Studies II	授業区分	講義
科目責任者	ムスリン・イーリヤ (MUSULIN, Ilja)	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	I.ムスリン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	This English medium course builds on the introduction to modern and contemporary Japanese Cultural History provided in Japan Studies I. Basic Japan Studies knowledge will be developed and new concepts introduced. Ongoing lectures will continue to develop the knowledge of Japanese Cultural History necessary for critical thinking on the topics introduced by the instructor, particularly technology and architecture, 3.11, politics, security and defense, education and the arts in postwar Japan.		
到達目標	Cultivate a developing knowledge of Japanese Cultural History through English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 : Investigate strategies for taking lectures in English  授業 : Orientation and introductory lecture: Diverse Japan (1): Cultural Diversity  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第2回】  予習 : Reading activity  授業 : Diverse Japan (2): Ethnic Diversity  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第3回】  予習 : Reading activity  授業 : Mass Media in Japan (1): Print Media  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第4回】  予習 : Reading activity  授業 : Mass Media in Japan (2): Broadcast Media  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第5回】  予習 : Reading activity  授業 : Work in Japan  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第6回】  予習 : Reading activity  授業 : Japan in Maps  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  復習 : Revise class notes</p> <p>【第7回】  予習 : Reading activity  授業 : Itinerant Holy Men in the Edo period  Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  Active reading/writing task.  Students submit a review of content in lessons 1-6</p>			

復習 : Revise class notes

【第 8 回】

予習 : Reading activity

授業 : 'Assembling Japan' (Technology and Architecture) (1) Pre-Modern Technology and Architecture  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 9 回】

予習 : Reading activity

授業 : 'Assembling Japan' (Technology and Architecture) (2) Modern Technology and Architecture  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.  
Students receive feedback on their review of content

復習 : Revise class notes

【第 10 回】

予習 : Reading activity

授業 : Japanese Movies (1): The Great Directors  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Movie review activity

【第 11 回】

予習 : Movie review activity

授業 : Japanese Movies (2): Pop Culture and Subculture  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 12 回】

予習 : Reading activity

授業 : Performing Arts (1): Pre-Modern Performing Arts  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 13 回】

予習 : Reading activity

授業 : Performing Arts (2): Modern Performing Arts  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.  
Students submit a review of content in lessons 7-13

復習 : Revise class notes

【第 14 回】

予習 : Reading activity

授業 : Education (1): Primary and Secondary Education  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.

復習 : Revise class notes

【第 15 回】

予習 : Reading activity

授業 : Education (2): Tertiary Education  
Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation  
Active reading/writing task.  
Students receive feedback on their second review of content

復習 : Review entire course

授業開始前学習	Students should read as widely as possible about Japanese culture.
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback on all assessed classwork.
テキスト・教材	All materials to be provided by instructor.
参考書	Richard Bowring, Peter Kornicki, "The Cambridge Encyclopedia of Japan (Cambridge World Encyclopedias)", Cambridge University Press, 1993
評価の基準と方法	Weekly guided reading assignments: 40%. Presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.



ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		△			
関連科目								
その他	Students must attend 2/3 of the classes in order to pass the course.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	海外留学準備		
科目分類	113-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Studying Abroad	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30 後期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-605
授業概要	「6か月留学」プログラムに参加するための準備授業です。指定された学生のみ履修可能です。ご注意ください。		
到達目標	You can prepare your self for the study abroad program. You would be able to express what you need or want flently. You would be able to explain the Japanese culture that you are familiar with.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：Read chapter 1 授業：On Cloud Nine (group work) 復習：Review chapter 1</p> <p>【第2回】 予習：Read chapter 2 授業：San Francisco, Here I am!(group work) 復習：Review chapter 2</p> <p>【第3回】 予習：Read chapter 3 授業：A Warm Welcome(group work) 復習：Review chapter 3</p> <p>【第4回】 予習：Read chapter 4 授業：Up and Down the Hills(group work) 復習：Review chapter 4</p> <p>【第5回】 予習：Read chapter 5 授業：A Little Cloud for Summer(group work) 復習：Review chapter 5</p> <p>【第6回】 予習：Read chapter 6 授業：Now I'm an international Student(group work) 復習：Review chapter 6</p> <p>【第7回】 予習：Read chapter 7 授業：I'd like to know a Bit More about You(group work) 復習：Review chapter 7</p> <p>【第8回】 予習：Read chapter 8 授業：Getting around la-La Land(group work) 復習：Review chapter 8</p> <p>【第9回】 予習：Read chapter 9 授業：You Sure Like Sports!(group work) 復習：Review chapter 9</p> <p>【第10回】 予習：Read chapter 10 授業：At a Restaurant(group work) 復習：Review chapter 10</p> <p>【第11回】 予習：Read chapter 11 授業：I'm Not Feeling Well(group work) 復習：Review chapter 11</p> <p>【第12回】 予習：Read chapter 12 授業：Day Trip to San Diego and Tijuana(group work) 復習：Review chapter 12</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : Read chapter 13 授業 : Let's Hit the Beach!(group work) 復習 : Review chapter 13 【第 14 回】 予習 : Read chapter 14 授業 : Buying Gifts(group work) 復習 : Review chapter 14 【第 15 回】 予習 : Read chapter 15 授業 : Farewell to My Friends(group work) 復習 : Review chapter 15								
授業開始前学習	Review your English textbooks							
授業内課題の フィードバックの方法	毎授業、課題として英語ニュースの要約と論評を行い提出、翌週に講評を行い返却							
テキスト・教材	『はじめての英会話コミュニケーション 留学編』 行時潔・長田順子・Anthony J.Parker 松柏社							
参考書								
評価の基準と方法	Grades are based on class participation (70%), class assignments (20%) and interviews (10%). Class attendance is mandatory.							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎						△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅠ		
科目分類	113-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げること も可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることできる。あるいは、日本と他国の 英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼ ミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。		
到達目標	基本的な研究方法を学び、適切に研究を進めることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケー ション力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：自己紹介の準備をする、ゼミの方針について自分の考えをまとめる 授業：自己紹介を行う。ゼミの方針について話し合う（ディスカッション）（発表） 復習：ゼミの方針と自身の研究について考える		
第2回	予習：自身の関心のあるテーマを列挙する 授業：関心のあるテーマについて発表し、意見交換する（ディスカッション）（発表） 復習：自分の研究テーマを決める		
第3回	予習：自分の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジメを作る		
第4回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（1）例 いじめ問題についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第5回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（2）例 生徒指導についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第6回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（3）例 生徒名簿、座席についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第7回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（4）例 駒女生の英語学習歴についての調査、研究計画についてのレポ ートの提出（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第8回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（5）例 日本と海外の入試問題の比較（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第9回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（6）例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、研究計画につ いてのレポートの講評（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第10回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（7）例 学習指導要領の変遷について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第11回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（8）例 英語の歌を使った文法指導法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第12回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する		

<p>授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（9）例 映画を使った英語学習法（発表）（ディスカッション）  復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>第13回  予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙げる  授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（10）例 語彙サイズと読解スピードの関係（発表）（ディスカッション）、  研究レポートの提出  復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>第14回  予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙げる  授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（11）例 多読の効果（発表）（ディスカッション）  復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>第15回  予習：前期発表者のレジュメを再読する  授業：全体の振り返りと、今後の研究について発表する。研究の進捗状況についてのレポートの講評（発表）（ディスカッション）  復習：これまでの研究をまとめ、今後の研究について考察する</p>								
授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業7回目、13回目に提出するレポートについては、2週間後（授業9回目、15回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する							
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜指示する							
評価の基準と方法	授業への参加態度 50点 発表とレポート 50点							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	英語コミュニケーションⅠ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	文法や単語を学ぶだけでは、英語を学んだとはいえません。なぜなら、言葉と文化は切っても切り離せない関係にあるからです。そして文化の中で、時間や機器に縛られずに自分の都合のよいときにアクセスできるのが言語文化の代表である文学です。このゼミでは、自分が興味を持った文化事象や文学作品、映画を選び、それについて深く理解していくことを目標としています。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる</li> <li>・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる</li> <li>・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：シラバスを確認 授業：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習：自分の研究の方向性確認		
第2回	予習：自分の研究の方向性について考える 授業：文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習：自分の研究の方向性と作品の内容確認		
第3回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習：ゼミ学習文献復習		
第4回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習：ゼミ学習文献復習		
第5回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習：ゼミ学習文献復習		
第6回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習：ゼミ学習文献復習		
第7回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習：ゼミ学習文献復習		
第8回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（1） 復習：ゼミ学習文献復習		
第9回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（2） 復習：ゼミ学習文献復習		
第10回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（3） 復習：ゼミ学習文献復習		
第11回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（4） 復習：ゼミ学習文献復習		
第12回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（5） 復習：ゼミ学習文献復習		
第13回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（6） 復習：ゼミ学習文献復習		
第14回	予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（7） 復習：ゼミ学習文献復習		
第15回	予習：前期ふりかえり 授業：まとめ 復習：後期に向けての課題確認		
授業開始前学習	翌週の学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること		
授業内課題の	必ず学期につき1回は発表を行い、それに基づいてミニレポートを作成する。ミニレポートは講評をして返却をする。		

フィードバックの方法								
テキスト・教材	特に一つのことを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてください。							
参考書	『イギリス文学史入門』川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』齊藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』西田実著 成美堂							
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけでなく、意見や質問を活発に述べることを求められます。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	英語コミュニケーションⅠ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	In this seminar of we will explore various topics in cultural studies. We will also consider the connections between culture and language. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習 : Preview the syllabus 授業 : Guidance and confirmation of course goals. 復習 : Students think about the direction of their research		
第2回	予習 : Students plan the direction of their research 授業 : Introduction to cultural studies 復習 : Students establish the direction and subject matter of their research		
第3回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第4回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第5回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第6回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第7回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第8回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第9回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第10回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第11回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (1) 復習 : Students work on research presentation materials		
第12回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (2) 復習 : Students work on research presentation materials		
第13回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (3) 復習 : Students work on research presentation materials		
第14回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Presentation reflections		
第15回	予習 : Continue working on presentation reflections 授業 : Review and feedback 復習 : Look at the themes and tasks in the 2nd semester		

授業開始前学習	Reflect on your own cultural experiences and be prepared to discuss them in class.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports.							
テキスト・教材	There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅠ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-619
授業概要	This seminar is for students who are beginning their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Students will learn to take a critical approach to the study of English diversity.</li> <li>・Students will develop their ability to find academic materials relevant to their research.</li> <li>・Students will develop their ability to read and understand a variety of scholarly and educational materials.</li> <li>・Students will improve their ability to explain and discuss research.</li> <li>・Students will improve their ability to understand and ask questions of their peers' research.</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course  授業：Confirm class aims, introduce the foundations of "English Diversity"  復習：Students consider the possible directions of their research for this semester</p> <p>【第2回】  予習：Students bring ideas about examples of diversity in English  授業：Research questions and discussion, methodologies 1.  復習：Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第3回】  予習：Students select a mini-research topic  授業：Research questions and discussion, methodologies 2.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第4回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, methodologies 3.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第5回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation guidance 1.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第6回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation guidance 2.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第7回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 1.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第8回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 2.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第9回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 3.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第10回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 4.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第11回】  予習：Students work on their research project</p>			

授業 : Presentations, discussion 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback 【第 12 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, Report guidance 1. 復習 : Students work on their report 【第 13 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, Report guidance 2. 復習 : Students work on their report 【第 14 回】 予習 : Students finish their report 授業 : Research questions and discussion, students submit report 復習 : Review class notes 【第 15 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Review and feedback 復習 : Look at tasks for the next semester								
授業開始前学習	Read as widely as possible about the history of English and different kinds of English that exist today.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive oral and written feedback from the instructor regarding presentations and reports, and feedback from their peers regarding presentations.							
テキスト・教材	There is no set text. Required readings will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Preparation and Participation in class discussions (40%) Presentation (30%) Research report (30%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	Each student will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. A written report will also be submitted. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅠ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	英語を軸とした言語全般の研究を行う。具体的には、意思を伝達する手段としての言語と人間の思考の間にはどのような因果関係があるのかについて、様々な事例を考察することで解き明かす。同時に、学術書や研究論文を講読することで、言語に対する向き合い方を学ぶ。また、個人研究発表や討論を通じて自身の考えを言語化すること、そして他者の意見を精査することの大切さも学ぶ。なお、学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語と思考の関係が理解できる。</li> <li>・英語に対する言語直感を養える。</li> <li>・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を俯瞰できる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※学生が個人研究で読む予定の学術書や研究論文、または教員が必要とする学術書や研究論文を、追加で講読することがある。 ※ペアワークやグループワークを取り入れる回がある。</p> <p>【第1回】 予習：シラバスを読んでくる。自身の研究のブレインストーミングをしておく。 授業：自己紹介・オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。</p> <p>【第2回】 予習：自身の興味関心をまとめ、発表の準備をする。 授業：興味関心についての発表および討論 復習：個人研究の方針を立てる。</p> <p>【第3回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（1） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第4回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（2） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第5回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（3） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第6回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（4） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第7回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（5） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第8回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（6） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第9回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（7） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第10回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（8） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第11回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（9） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第12回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。</p>			

<p>授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (10)  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第 13 回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (11)  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第 14 回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (12)  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第 15 回】  予習：自身の研究を概観する。  授業：レポート提出 前期の振り返り 後期に向けて  復習：自身の今後の研究方針を考える。</p>								
授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。							
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）							
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。							
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	英語コミュニケーションⅠ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、共に考えたいと思います。まずは、近代以降の市民社会の歩みを踏まえて、「法」の役割と問題点を確かめます。つぎに、国家の基本法である憲法と人権保障について、事例を含めて掘り下げます。さらに、国際社会による人権保障のあゆみを踏まえて、世界人権宣言と国際人権規約について学びます。最後に、各受講生が自由な研究テーマを選び、レポート作成と研究報告ができるように指導します。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とします。第1回研究報告および第1回レポート作成を目指します。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		

## 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）

※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。

## 【第1回】

予習：本授業シラバスの講読および研究希望分野の資料収集

授業：英コミ専攻における国際社会研究ゼミとして「法」を学ぶ意義：この演習の目的・内容・学習の方法

復習：【第1回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第2回】

予習：【第2回】授業レジュメ・資料の講読およびキーワードの確認

授業：法学の基礎：市民社会のあゆみと法の役割 【レジュメおよび資料】「ディスカッション」

復習：【第2回】授業レジュメの再読、ノートおよび配布プリントの整理

## 【第3回】

予習：【第3回】レジュメ・資料の講読およびキーワードの確認

授業：法学の基礎：法における2つの目的と責務 【レジュメおよび資料】「ディスカッション」

復習：【第3回】授業レジュメの再読、ノートおよび配布プリントの整理

## 【第4回】

予習：テキスト3～16頁の講読およびキーワードの確認

授業：日本国憲法の背景：憲法と個人の尊厳 【テキスト3～16頁】「ディスカッション」

復習：テキスト3～16頁の再読、【第4回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第5回】

予習：テキスト17～26頁の講読およびキーワードの確認

授業：日本国憲法の背景：戦後憲法の制定と「前文」の意味 【テキスト17～26頁】「ディスカッション」

復習：テキスト17～26頁の再読、【第5回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第6回】

予習：テキスト37～43頁の講読およびキーワードの確認

授業：憲法の目的と趣旨：平和主義原理の意義と今日の問題 【テキスト37～43頁】・研究指導（はじめに）「ディスカッション」

復習：テキスト37～43頁の再読、【第6回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第7回】

予習：テキスト15、29、53頁の講読およびキーワードの確認

授業：憲法の目的と趣旨：基本的人権尊重原理と人権の類型 【テキスト15、29、53頁】・研究指導（第Ⅰ章①）「ディスカッション」

復習：テキスト15、29、53頁の再読、【第7回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第8回】

予習：テキスト73～88頁の講読およびキーワードの確認

授業：基本的人権の尊重：包括的基本権について 【テキスト73～88頁】・研究指導（第Ⅰ章②）「ディスカッション」

復習：テキスト73～88頁の再読、【第8回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第9回】

予習：テキスト161～168頁の講読およびキーワードの確認

授業：基本的人権の尊重：福祉的国家思想と生存権 【テキスト161～168頁】・研究指導（第Ⅱ章①）「ディスカッション」

復習：テキスト161～168頁の再読、【第9回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第10回】

予習：テキスト281～282頁の講読およびキーワードの確認

授業：国際法の基礎：国際社会の法構造の特殊性 【テキスト281～282頁】・研究指導（第Ⅱ章②）「ディスカッション」

復習：テキスト281～282頁の再読、【第10回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第11回】

予習：テキスト282～294頁の講読およびキーワードの確認

授業：国際人権法：国連による人権保障のあゆみと国際人権章典 【テキスト282～294頁】・研究指導（第Ⅲ章）「ディスカッション」

復習：テキスト282～294頁の再読、【第11回】授業ノートおよび配布プリントの整理

## 【第12回】

予習：テキスト134～150頁の講読およびキーワードの確認



<p>授業：人権保障と刑罰：国際法と国内法の交錯する問題として【テキスト 134～150 頁】・研究指導（第IV章）「ディスカッション」  復習：テキスト 134～150 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理  【第 13 回】  予習：自己テーマに関する資料の収集  授業：全体研究指導：研究テーマ選定および文献検索の方法【テキスト 全学習頁】・研究指導（結びにかえて）「ディスカッション」  復習：【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理、添削事項の見直し  【第 14 回】  予習：自己テーマに関する資料の収集およびレポート骨子の作成  授業：個別研究指導：レジュメおよびレポート作成の方法【テキスト 全学習頁】・研究指導（参考文献について）「ディスカッション」  復習：【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理、添削事項の見直し「ディスカッション」  【第 15 回】  予習：【第 1 回】研究レポートの完成  授業：【研究テーマ】発展学習の手引き：【第 1 回】研究レポート提出および前期授業全体の体系的整理「ディスカッション」  復習：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p>								
授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業第 1 回目に出されたレポート課題に基づき第 6 回目以降に【第 1 回】研究報告を行い、また第 15 回目に【第 1 回】研究レポートを提出します。これについて第 15 回目に全体の講評と質問に対する回答を行います。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法』（有斐閣）							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関係の講義も履修してください。 ゼミ生の希望に基づいて、実務見学や懇親会なども行います。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅡ		
科目分類	113-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	前期同様、教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることが可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることができる。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に挙る。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。前期の研究をさらに進める。		
到達目標	前期に学んだ研究方法をもとに、研究計画を修正し、研究を完成させることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を一層伸ばすことを目的とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：自身の研究の方向性について考えをまとめる 授業：自身の研究のについて発表し、質問・意見を受ける（ディスカッション）（発表） 復習：自身の研究について再考する		
第2回	予習：自身の研究の進め方について考えをまとめる 授業：自身の研究を進める上で必要な調査等について発表し、意見交換する（ディスカッション）（発表） 復習：調査方法等を整理する		
第3回	予習：自分の今後の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジュメを作る		
第4回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（1）例 いじめ問題についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
第5回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（2）例 生徒指導についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
第6回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（3）例 生徒名簿、座席についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
第7回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（4）例 駒女生の英語学習歴についての調査、（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
第8回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（5）例 日本と海外の入試問題の比較（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
第9回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（6）例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
第10回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（7）例 学習指導要領の変遷について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
第11回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙る 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（8）例 英語の歌を使った文法指導法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る		
【第12回】			

<p>予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する          授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（9）例 映画を使った学習法（発表）（ディスカッション）          復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>【第13回】          予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する          授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（10）例 日本と海外の英語教育について（発表）（ディスカッション）          復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>【第14回】          予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する          授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（11）例 音声指導の工夫について（発表）（ディスカッション）          復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>【第15回】          予習：後期発表者のレジュメを再読する          授業：後期の振り返りと、今後の研究について発表する。（発表）（ディスカッション）          復習：後期の研究をまとめ、次年度の研究について考察する</p>								
授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたレポート等については GSE または Active Mail を活用してフィードバックを行う。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する							
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜指示する							
評価の基準と方法	授業への参加態度・提出物 50点 ゼミレポート 50点							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。 1月中旬に英語教科書出版社見学等を予定している。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	英語コミュニケーションⅡ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	ゼミ I で自分が興味を持った文化事象や文学作品、映画に、より深い理解を示すことを求めます。一つの考え方や理論に固執することなく、多くの研究書を参考にする努力を惜しまないでください。できるだけ論理的に文化事象や文学作品を理解することを目標としています。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる</li> <li>・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる</li> <li>・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる</li> <li>・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第 1 回 予習：シラバスを確認 授業：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習：自分の研究の方向性確認</p> <p>第 2 回 予習：自分の研究の方向性について考える 授業：文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習：自分の研究の方向性と作品の内容確認</p> <p>第 3 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 4 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 5 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 6 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 7 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 8 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（1） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 9 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（2） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 10 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（3） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 11 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（4） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 12 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（5） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 13 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（6） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 14 回 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（7） 復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第 15 回 予習：後期ふりかえり 授業：まとめ 復習：来年度に向けての課題確認</p>			
授業開始前学習	翌週の文献学習部分、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること		

授業内課題の フィードバックの方法	必ず学期につき1回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。							
テキスト・教材	特に一つのことを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてください。							
参考書	『イギリス文学史入門』川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』齊藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋 好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』西田 実著 成美堂							
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。各自のテーマにそって、1セメスターに少なくとも1回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけでなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。学期末に全ての英語コミュニケーションゼミの学生が集まり、合同発表会を行います。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅡ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	In this second semester, students will further develop their chosen topics of research in cultural studies. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習 : Students prepare to talk about their interests 授業 : Guidance. Students discuss their research interests. 復習 : Students work on a research plan		
第2回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students work on a research plan		
第3回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第4回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第5回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第6回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第7回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第8回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第9回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第10回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (9) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第11回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (10) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第12回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (11) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第13回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation workshop 復習 : Students work on research presentation materials		
第14回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Final presentation workshop		
第15回	予習 : Work on presentation reflections 授業 : Review and feedback 復習 : Look at the themes and tasks in the following academic year		



授業開始前学習	Think about the research you have done in cultural studies until now and prepare to summarize it.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports							
テキスト・教材	There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	英語コミュニケーションⅡ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-619
授業概要	This seminar is for students who are continuing their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Students will further learn to take a critical approach to the study of English diversity.</li> <li>・Students will continue to develop their ability to find academic materials relevant to their research.</li> <li>・Students will continue to develop their ability to read and understand a variety of scholarly and educational materials.</li> <li>・Students will continue to improve their ability to explain and discuss research.</li> <li>・Students will continue to improve their ability to understand and ask questions of their peers' research.</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course  授業：Confirm class aims, re-introduce the foundational aspects of studying and researching "English Diversity"  復習：Students consider the possible directions of their research for this semester</p> <p>【第2回】  予習：Students bring ideas about their research topic for this semester related to diversity in English  授業：Research questions and discussion, methodologies 1.  復習：Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第3回】  予習：Students select a mini-research topic  授業：Research questions and discussion, methodologies 2.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第4回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, methodologies 3.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第5回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation guidance 1.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第6回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation guidance 2.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第7回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 1.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第8回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 2.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第9回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 3.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第10回】  予習：Students work on their research project  授業：Research questions and discussion, presentation preparation 4.  復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback</p> <p>【第11回】</p>			

予習 : Students work on their research project 授業 : Presentations, discussion 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback 【第 12 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, Report guidance 1. 復習 : Students work on their report 【第 13 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, Report guidance 2. 復習 : Students work on their report 【第 14 回】 予習 : Students finish their report 授業 : Research questions and discussion, students submit report 復習 : Review class notes 【第 15 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Review and feedback 復習 : Look at tasks for the next semester, think about research direction for the fourth-year thesis								
授業開始前学習	Read as widely as possible about the history of English and different kinds of English that exist today.							
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive oral and written feedback from the instructor regarding presentations and reports, and feedback from their peers regarding presentations.							
テキスト・教材	There is no set text. Required readings will be provided by the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Preparation and Participation in class discussions (40%) Presentation (30%) Research report (30%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	Each student will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. A written report will also be submitted. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションゼミⅡ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅠ」に引き続き、英語を中心とした言語全般の研究を行う。特に、言語と思考の関係性を意識しながら事例を考察し、言語直感をさらに精錬させる。同時に、学術書や研究論文の講読も継続して行うことで、言語学的な視座を獲得する。なお、引き続き学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語と思考の関係をさらに深く理解できる。</li> <li>・英語に対する深い言語直感を養える。</li> <li>・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を客観的にみることができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※学生が個人研究で読む予定の学術書や研究論文、または教員が必要とする学術書や研究論文を、追加で講読することがある。  ※ペアワークやグループワークを取り入れる回がある。</p> <p>【第1回】  予習：シラバスを読んでくる。個人研究について見直しておく。  授業：オリエンテーション  復習：授業方針を確認する。</p> <p>【第2回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（1）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第3回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（2）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第4回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（3）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第5回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（4）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第6回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（5）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第7回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（6）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第8回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（7）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第9回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（8）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第10回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（9）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第11回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（10）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第12回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（11）</p>			

<p>復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第13回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（12）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第14回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（13）  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第15回】  予習：自身の研究を概観する。  授業：レポート提出 1年間の振り返り 来年度に向けて  復習：自身の今後の研究方針を考える。</p>								
授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。レポートについては個別にフィードバックする。							
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021年（ISBN: 978-4-480-07410-2）							
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。							
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションゼミⅡ		
科目分類	113-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、共に考えていきます。後期演習は、各受講生の前期末レポートに基づいて、具体的な研究報告を中心に進めていきます。はじめに、レジメの作成の仕方、参考文献の選び方、研究報告の仕方について個別に指導を行います。報告時には、ゼミ生全員に意見や感想を求めます。レジメは丁寧に添削して返却し、次のレポート作成へとつなげていただきます。各自のテーマへの理解をさらに深めてください。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とします。第 2 回報告と第 2 回レポート作成を目指します。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。			
【第 1 回】			
予習：各研究テーマに関する第 1 回研究レポートに基づいた資料収集			
授業：「英語コミュニケーションゼミⅡ」で学ぶ意義：演習の目的・内容・学習の方法（第 1 回提出レポートを踏まえて）			
復習：第 1 回研究レポートおよび報告レジメの見直し			
【第 2 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集			
授業：全体指導：レジメ作成・参考文献の調べ方・研究報告の方法			
復習：第 2 回授業ノートの整理および添削事項の見直し			
【第 3 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認			
授業：個別指導：レジメ作成・参考文献の調べ方・研究報告の方法（助言および添削指導）			
復習：第 3 回授業ノートの整理および添削事項の見直し			
【第 4 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（1）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（1）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（1）			
【第 5 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（2）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（2）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（2）			
【第 6 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（3）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（3）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（3）			
【第 7 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（4）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（4）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（4）			
【第 8 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（5）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（5）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（5）			
【第 9 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（6）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（6）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（6）			
【第 10 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（7）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（7）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（7）			
【第 11 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（8）			
授業：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（8）「ディスカッション」			
復習：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（8）			
【第 12 回】			
予習：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（1）			

<p>授業：ゼミ生による第2回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（9）「ディスカッション」  復習：報告者自身による第2回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（9）  【第13回】  予習：第2回研究報告に向けた資料収集とレジメの作成（10）  授業：ゼミ生による第2回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（10）「ディスカッション」  復習：報告者自身による第2回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（10）  【第14回】  予習：第2回レポートの作成に向けた資料収集と問題点の整理  授業：全体および個別指導：添削済みレジメに基づく第2回レポート作成の手引き「ディスカッション」  復習：個別指導に基づく各問題点の見直し  【第15回】  予習：第2回研究レポートの完成  授業：「研究テーマ」発展学習の手引き：第2回レポート提出および次回報告に向けた学習指針の提示  復習：第15回授業ノートの整理、および第3回研究報告レジメ作成に向けた資料収集</p>								
授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業第4回目以降における個別研究報告に対して、第2回研究報告レジメおよび第2回研究レポートに基づき講評と質問に対する回答を行います。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第4版補訂版）』（尚学社、2016年） 『ポケット六法』（有斐閣）							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち10回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	英語コミュニケーションⅢ		
科目分類	113-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げること も可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることできる。あるいは、日本と他国の 英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼ ミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。		
到達目標	基本的な研究方法を学び、適切に研究を進めることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケー ション力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：自己紹介の準備をする、ゼミの方針について自分の考えをまとめる 授業：自己紹介を行う。ゼミの方針について話し合う（ディスカッション）（発表） 復習：ゼミの方針と自身の研究について考える		
第2回	予習：自身の関心のあるテーマを列挙する 授業：関心のあるテーマについて発表し、意見交換する（ディスカッション）（発表） 復習：自分の研究テーマを決める		
第3回	予習：自分の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジメを作る		
第4回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（1）例 いじめ問題についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第5回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（2）例 生徒指導についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第6回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（3）例 生徒名簿、座席についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第7回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（4）例 駒女生の英語学習歴についての調査、研究計画についてのレポ ートの提出（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第8回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（5）例 日本と海外の入試問題の比較（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第9回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（6）例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、研究計画につ いてのレポートの講評（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第10回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（7）例 学習指導要領の変遷について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第11回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（8）例 英語の歌を使った文法指導法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジメを作る		
第12回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジメを熟読し、疑問点を列挙する		



<p>授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（9）例 映画を使った英語学習法（発表）（ディスカッション）  復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>第13回  予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙げる  授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（10）例 語彙サイズと読解スピードの関係（発表）（ディスカッション）、  研究の進捗状況についてのレポートの提出  復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>第14回  予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を挙げる  授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（11）例 多読の効果（発表）（ディスカッション）  復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る</p> <p>第15回  予習：前期発表者のレジュメを再読する  授業：全体の振り返りと、今後の研究について発表する。研究の進捗状況についてのレポートの講評（発表）（ディスカッション）  復習：これまでの研究をまとめ、今後の研究について考察する</p>								
授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業7回目、13回目に提出するレポートについては、2週間後（授業9回目、15回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する							
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜指示する							
評価の基準と方法	授業への参加態度 50点 発表とレポート 50点							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。 9月中旬に卒論・ゼミレポート合宿（場所未定）を予定している。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	英語コミュニケーションⅢ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	学生は各自のテーマをもとに、昨年度から引き続いて研究活動を行う。英語コミュニケーションゼミ III では、基本文献の講読をベースに、専門的な学術情報の収集方法、報告発表のスキル、ディスカッションの方法、論理的な思考などの指導に重点をおく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる</li> <li>・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる</li> <li>・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる</li> <li>・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる</li> <li>・他者の発表を理解し批判をすることができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：シラバスを確認  授業：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など  復習：自分の研究の方向性確認</p> <p>第2回 予習：自分の研究の方向性について考える  授業：文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明  復習：自分の研究の方向性と作品の内容確認</p> <p>第3回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第4回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第5回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第6回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第7回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第8回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（1）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第9回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（2）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第10回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（3）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第11回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（4）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第12回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（5）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第13回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（6）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第14回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（7）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第15回 予習：前期ふりかえり  授業：まとめ  復習：後期に向けての課題確認</p>			

授業開始前学習	翌週の文献学習、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること							
授業内課題の フィードバックの方法	必ず学期につき1回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。							
テキスト・教材	特に一つのことを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。							
参考書	『イギリス文学史入門』川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』斉藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋 好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』西田 実著 成美堂							
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも1回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけでなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。学期末に全ての英語コミュニケーションゼミの学生が集まり、合同発表会を行います。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅢ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	Students will deepen their research into their chosen topic in cultural studies. Students will learn methods of conducting research as well as how to report their findings. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習 : Preview the syllabus 授業 : Guidance and confirmation of course goals. 復習 : Students think about the direction of their research		
第2回	予習 : Students plan the direction of their research 授業 : Introduction to cultural studies 復習 : Students establish the direction and subject matter of their research		
第3回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第4回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第5回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第6回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第7回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第8回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第9回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第10回	予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第11回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (1) 復習 : Students work on research presentation materials		
第12回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (2) 復習 : Students work on research presentation materials		
第13回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (3) 復習 : Students work on research presentation materials		
第14回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Presentation reflections		
第15回	予習 : Continue working on presentation reflections 授業 : Review and feedback		

復習 : Look at the themes and tasks in the 2nd semester

授業開始前学習	Reflect on what you have studied in the seminar so far and be prepared to discuss it in class.							
授業内課題の フィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports.							
テキスト・教材	There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅢ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」に引き続き、この授業では英語という個別言語を様々な視点から丁寧に観察する。特に言語と思考の関係を意識しながら、学生が関心のある表現をつぶさに観察し、それらに納得のいく説明を与えていくことを目指す。同時に、自身の研究への示唆となるように学術書や研究論文を精読する。また、個人研究発表や討論を通じて自身の考えを言語化すること、そして他者の意見を精査することの大切さも学ぶ。なお、学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語と思考の関係が深く理解できる。</li> <li>・英語に対する言語直感を養える。</li> <li>・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を俯瞰できる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※学生が個人研究で読む予定の学術書や研究論文、または教員が必要とする学術書や研究論文を、追加で講読することがある。 ※ペアワークやグループワークを取り入れる回がある。</p> <p>【第1回】 予習：シラバスを読んでくる。自身の研究のブレインストーミングをしておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。</p> <p>【第2回】 予習：自身の興味関心をまとめ、発表の準備をする。 授業：興味関心についての発表および討論 復習：個人研究の方針を立てる。</p> <p>【第3回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（1） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第4回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（2） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第5回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（3） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第6回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（4） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第7回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（5） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第8回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（6） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第9回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（7） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第10回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（8） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第11回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（9） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第12回】</p>			

<p>予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。          授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（10）          復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。          【第13回】          予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。          授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（11）          復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。          【第14回】          予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。          授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（12）          復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。          【第15回】          予習：自身の研究を概観する。          授業：レポート提出 前期の振り返り 後期に向けて          復習：自身の今後の研究方針を考える。</p>								
授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。							
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021年（ISBN: 978-4-480-07410-2）							
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。							
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	英語コミュニケーションゼミⅢ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、受講生と共に考えていきます。すでに、各自のテーマは明確になっていると思います。3年次の研究成果を踏まえて、さらにレジュメを充実させていきましょう。事前指導とレジュメ作成、研究報告と討論、そしてレポート作成を繰り返しながら、自身のテーマへの理解を深めてください。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけます。第3回報告と第3回研究レポート作成を目指します。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		

## 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）

※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。

## 【第1回】

予習：各研究テーマに関する第2回研究レポートに基づいた資料収集

授業：「英語コミュニケーションゼミⅢ」で学ぶ意義；演習の目的・内容・学習の方法（第2回提出レポートを踏まえて）

復習：第2回研究レポートおよび第2回報告レジュメの見直し

## 【第2回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集

授業：全体指導；レジュメ作成・参考文献の調べ方・第3回研究報告の方法

復習：第3回授業ノートの整理および添削事項の見直し

## 【第3回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認

授業：個別指導；レジュメ作成・参考文献の調べ方・第3回研究報告の方法（助言および添削指導）

復習：第3回授業ノートの整理および添削事項の見直し

## 【第4回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（1）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（1）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（1）

## 【第5回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（2）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（2）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（2）

## 【第6回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（3）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（3）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（3）

## 【第7回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（4）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（4）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（4）

## 【第8回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（5）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（5）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（5）

## 【第9回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（6）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（6）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（6）

## 【第10回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（7）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（7）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（7）

## 【第11回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（8）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（8）（ディスカッション）

復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（8）

## 【第12回】

予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（9）

授業：ゼミ生による第3回研究報告；受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（9）（ディスカッション）

<p>復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（9）</p> <p>【第13回】</p> <p>予習：第3回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（10）</p> <p>授業：ゼミ生による第3回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（10）（ディスカッション）</p> <p>復習：報告者自身による第3回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（10）</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：第3回レポートの作成に向けた資料収集と問題点の整理</p> <p>授業：全体および個別指導：添削済みレジュメに基づく第3回レポート作成の手引き</p> <p>復習：個別指導に基づく各問題点の見直し</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：第3回レポートの完成</p> <p>授業：「研究テーマ」発展学習の手引き：第3回レポート提出および次回報告に向けた学習指針の提示</p> <p>復習：第15回授業ノートの整理、および第3回研究報告レジュメ作成に向けた資料収集</p>								
授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業第4回目以降における個別研究報告に対して、第3回提出レジュメおよび第3回報告レポートに基づき講評と質問に対する回答を行います。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第4版補訂版）』（尚学社、2016年）『ポケット六法』（有斐閣）							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち10回以上の出席が必要です。演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅣ		
科目分類	113-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	前期同様、教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることが可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることができる。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたいのかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。前期の研究をさらに進める。		
到達目標	前期に学んだ研究方法をもとに、研究計画を修正し、研究を完成させることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を一層伸ばすことを目的とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：前期までの研究の進捗状況を整理しておく 授業：各自の研究の進捗状況を説明する 復習：研究計画に修正を加える		
第2回	予習：先行研究について整理する 授業：研究のまとめ方について学ぶ 復習：研究のまとめのフォーマットを作る		
第3回	予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（1）例 いじめ問題についての考察 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第4回	発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（2）例 生徒指導についての考察 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第5回	発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（3）例 生徒名簿、座席についての考察 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第6回	発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（4）例 駒女生の英語学習歴についての調査 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第7回	発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（5）例 日本と海外の入試問題の比較 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第8回	発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（6）例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第9回	発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（7）例 学習指導要領の変遷について 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第10回	発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（8）例 英語の歌を使った文法指導法 復習：発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る		
第11回	予習：自分の研究を整理する 授業：研究レポートを作成する 復習：研究レポートの加筆修正をする		
第12回	予習：合同発表会のテーマを考える 授業：合同発表会のテーマを決定する 復習：合同発表会における自分の役割を確認する		
第13回	予習：合同発表会の準備をする 授業：合同発表会の練習 復習：練習の振り返りを行い、改善すべき点を改める		
第14回	予習：原稿を読み、発表の練習をする 授業：英語コミュニケーションゼミ合同発表会 復習：発表を振り返り、考察する		
第15回	予習：後期発表者のレジュメを再読する 授業：後期の振り返りと、今後の研究について発表する。 復習：後期の研究をまとめ、次年度の研究について考察する		
授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。 自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。		

	自身の研究に必要な文献を読む。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出されたレポート等については個別にフィードバックを行う。 共通課題については適宜取り上げ全員で共有する。							
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する							
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜指示する							
評価の基準と方法	授業への参加態度・提出物 50点 ゼミレポート 50点							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目名称	英語コミュニケーションⅣ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	前期から引き続いて研究活動行う。英語コミュニケーションゼミⅣでは、基本文献の講読をベースに、専門的な学術情報の収集方法、報告発表のスキル、ディスカッションの方法、論理的な思考などの指導に重点をおく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる</li> <li>・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる</li> <li>・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる</li> <li>・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる</li> <li>・他者の発表を理解し批判をすることができるようになる</li> <li>・他者の発表に対して適切なアドバイスを与えることができるようになる</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：シラバスを確認  授業：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など  復習：自分の研究の方向性確認</p> <p>第2回 予習：自分の研究の方向性について考える  授業：文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明  復習：自分の研究の方向性と作品の内容確認</p> <p>第3回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第4回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第5回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第6回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第7回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第8回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（1）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第9回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（2）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第10回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（3）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第11回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（4）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第12回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（5）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第13回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（6）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第14回 予習：ゼミ学習文献予習  授業：学生発表（討論・指導）（7）  復習：ゼミ学習文献復習</p> <p>第15回 予習：後期ふりかえり  授業：まとめ  復習：ゼミ論に向けての課題確認</p>			

授業開始前学習	翌週の文献学習、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること							
授業内課題の フィードバックの方法	必ず学期につき1回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。							
テキスト・教材	特に一つのことを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。							
参考書	『イギリス文学史入門』川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』齊藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋 好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』西田 実著 成美堂							
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも1回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけでなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。学期末に全ての英語コミュニケーションゼミの学生が集まり、合同発表会を行います。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	英語コミュニケーションⅣ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00~14:30 金曜日 13:00~14:30 後期 月曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-608
授業概要	Students will further deepen their research into their chosen topic in cultural studies. Along with presentations in English, students will focus on preparing a written thesis of their research. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習 : Students prepare to talk about their interests 授業 : Guidance. Students discuss their research interests. 復習 : Students work on a research plan		
第2回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students work on a research plan		
第3回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第4回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第5回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第6回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第7回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第8回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第9回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第10回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (9) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第11回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (10) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第12回	予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (11) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class		
第13回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation workshop 復習 : Students work on research presentation materials		
第14回	予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Final presentation workshop		
第15回	予習 : Work on presentation reflections 授業 : Review and feedback		



復習 : Look at the themes and tasks in the following academic year

授業開始前学習	Reflect on what you have researched in the seminar so far and be prepared to summarize it in class.							
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports							
テキスト・教材	There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書								
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションⅣ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 16:20～17:50 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅢ」に引き続き、英語を中心とした言語研究を行う。特にこの授業では、大学生生活の集大成としてのゼミ論文を完成させることに主眼を置き、それに向けて引き続き言語と思考の関係性を意識しながら事例をつぶさに観察する。同時に、学術書や研究論文の講読も継続して行うことで、言語学的な視座を獲得する。なお、引き続き学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語と思考の関係を深く理解し、応用することができる。</li> <li>・英語に対する深い言語直感を養える。</li> <li>・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を客観的にみることができる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※学生が個人研究で読む予定の学術書や研究論文、または教員が必要とする学術書や研究論文を、追加で講読することがある。 ※ペアワークやグループワークを取り入れる回がある。</p> <p>【第1回】 予習：シラバスを読んでくる。個人研究について見直しておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。</p> <p>【第2回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（1） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第3回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（2） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第4回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（3） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第5回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（4） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第6回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（5） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第7回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（6） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第8回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（7） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第9回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（8） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第10回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（9） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第11回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（10） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。</p> <p>【第12回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。</p>			

<p>授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (11)  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第13回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (12)  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第14回】  予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。  授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (13)  復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。  【第15回】  予習：自身の研究を概観する。  授業：レポート提出 1年間の振り返り 来年度に向けて  復習：自身の今後の研究方針を考える。</p>								
授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。							
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021年（ISBN：978-4-480-07410-2）							
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。							
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語コミュニケーションゼミⅣ		
科目分類	113-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、受講生と共に考えていきます。いよいよ研究の総仕上げです。最後の報告に向けて、しっかりとレジユメを作成してください。みなさんは2年間にわたり、ご自分のテーマについて真剣にレジユメ作成・報告・レポート作成を行ってきました。その成果を、ぜひゼミ論文として完成させてください。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけます。第3回報告とゼミ論文の完成を目指します。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。			
【第1回】 予習：各研究テーマに関する第3回研究レポートに基づいた資料収集 授業：「英語コミュニケーション専攻ゼミⅣ」で学ぶ意義：演習の目的・内容・学習の方法（第3回提出レポートを踏まえて） 復習：本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し			
【第2回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集 授業：全体指導：レジユメ作成・参考文献の調べ方・第4回研究報告の方法 復習：本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し			
【第3回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認 授業：個別指導：レジユメ作成・参考文献の調べ方・第4回研究報告の方法（助言および添削指導） 復習：本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し			
【第4回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（1） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（1）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（1）			
【第5回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（2） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（2）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（2）			
【第6回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（3） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（3）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（3）			
【第7回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（4） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（4）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（4）			
【第8回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（5） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（5）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（5）			
【第9回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（6） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（6）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（6）			
【第10回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（7） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（7）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（7）			
【第11回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（8） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（8）（ディスカッション） 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（8）			
【第12回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジユメの作成（9） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（9）（ディスカッション）			

<p>復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（9）</p> <p>【第13回】</p> <p>予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（10）</p> <p>授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（10）（ディスカッション）</p> <p>復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（10）</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：ゼミ論文作成に向けた資料収集と問題点の整理</p> <p>授業：全体および個別指導：添削済みレジュメに基づく「ゼミ論文」作成の手引き</p> <p>復習：個別指導に基づく各問題点の見直し</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：ゼミ論文の完成</p> <p>授業：「ゼミ論文」の提出と論文集作成：社会人としての自己研究テーマへの関わり方について（助言）</p> <p>復習：ゼミ論文集の製本</p>								
授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。そして、新たに得た知識をご自身の研究報告と論文に活かして下さい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業第4回目以降における個別研究報告に対して、第4回提出レジュメおよび第4回研究レポートに基づき毎回の講評と質問に対する回答を行います。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第4版補訂版）』（尚学社、2016年）『ポケット六法』（有斐閣）							
参考書	授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち10回以上の出席が必要です。演習への参加状況（50%）、および毎回のレポート（50%）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修して下さい。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	卒業論文							
科目分類	113-330-24	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者	各担当教員		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	中野・松山・ブラザ・福王・工藤		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-508				
授業概要	<p>大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。ここでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。</p> <p>具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。</p>							
到達目標	<p>各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。</p> <p>各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること</p>							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。</p> <p>授業の内容 全般にわたる諸注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である</li> <li>2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと</li> <li>3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと</li> <li>4. 論文全体の構成を常に意識すること</li> <li>5. なるべく早い段階で書き始めること</li> <li>6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること</li> <li>7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること</li> </ol> <p>卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。</p>								
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								
関連科目	各専門教育科目など							
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通じた地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間								





科目名称	日本文化実習		
科目分類	110-330-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice of Japanese Culture	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、江戸時代の京都の名所案内記である『京城勝覧』を翻刻・読解し、『京大絵図』という古地図で当時の状況を確認の上、『京城勝覧』に記載されていた京都の名所旧跡を 2 月初旬に訪問する。事前調査と現況調査により、京都を通じて日本文化の特徴の一端を考察する。授業では課題解決型学習・グループワーク・フィールドワークを行う。		
到達目標	1. 江戸時代の文献史料を実践的に読解することができる。 2. 文献史料に記載された史跡の現況から、日本文化の特徴を理解することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを読み、学修内容を確認する  授業：『京城勝覧』の解題  復習：授業の内容を整理する</p> <p>【第 2 回】  予習：史料該当部分の翻刻課題をフォームで提出する  授業：『京城勝覧』「洛中 東方」内裏～仙洞御所～寺町の翻刻と解説（課題解決型学習）  復習：読解した名所旧跡の場所を地図で確認する</p> <p>【第 3 回】  予習：史料該当部分の翻刻課題をフォームで提出する  授業：『京城勝覧』「洛中 東方」上御霊神社～相国寺～今出川の翻刻と解説（課題解決型学習）  復習：読解した名所旧跡の場所を地図で確認する</p> <p>【第 4 回】  予習：史料該当部分の翻刻課題をフォームで提出する  授業：『京城勝覧』「洛中 東方」誓願寺～祇園御旅所／御土居の翻刻と解説（課題解決型学習）  復習：読解した名所旧跡の場所を地図で確認する</p> <p>【第 5 回】  予習：グループで史料担当部分の翻刻・発表の準備をする  授業：『京城勝覧』「洛中 中・西」六角堂～本願寺～東寺の翻刻と発表（グループワーク）  復習：発表された名所旧跡の場所を地図で確認する</p> <p>【第 6 回】  予習：グループで史料担当部分の翻刻・発表の準備をする  授業：『京城勝覧』「洛外 初一日 東方」六波羅蜜寺～清水寺～知恩院の翻刻と発表（グループワーク）  復習：発表された名所旧跡の場所を地図で確認する</p> <p>【第 7 回】  予習：グループで史料担当部分の翻刻・発表の準備をする  授業：『京城勝覧』「洛外 第二日 東方」南禅寺～銀閣寺～吉田神社の翻刻と発表（グループワーク）  復習：発表された名所旧跡の場所を地図で確認する</p> <p>【第 8 回】  予習：グループで史料担当部分の翻刻・発表の準備をする  授業：『京城勝覧』「洛外 第三日 東南」三十三間堂～東福寺～伏見の翻刻と発表（グループワーク）  復習：発表された名所旧跡の場所を地図で確認する</p> <p>【現地での実習】  1 日目  ・『京城勝覧』で読んだ洛中の名所旧跡を訪ねる（フィールドワーク）  2 日目  ・『京城勝覧』で読んだ洛外の名所旧跡を訪ねる（フィールドワーク）  ・実習の成果を発表する（グループワーク）</p>			
授業開始前学習	京都に関する書籍を 1 冊読んでおくことが望ましい。		
授業内課題のフィードバックの方法	翻刻課題・グループ発表に対して、授業内で解説・コメントを行う。		
テキスト・教材	プリントを配付する。		
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。		

評価の基準と方法	翻刻課題30%、グループ発表40%、ミニレポート30%で評価する。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		◎
関連科目								
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、正課学外活動として、12月中の土日に1泊2日で京都を訪問する。現時点では12月9・10日を予定している（変更の可能性あり）。この授業の単位を修得するためには、正課学外活動への参加が必須である。参加費（新幹線分の交通費・宿泊費・一部の食事代）として、3万円台程度の負担が必要となる。受講者数によって金額が多少増減する可能性がある。新型コロナの影響により実習方法が変更される場合もある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。史料の読解、名所旧跡の見方などを講義する。							

科目名称	仏教文化実習		
科目分類	110-330-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice in Buddhist Culture	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川 義孝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00	研究室	10-507
授業概要	<p>仏教は、今から 1500 年以上前に日本に伝来し、その後、日本文化のさまざまな面と深く関わってきた。仏教が日本社会に定着する上で大きな役割を果たしたのが、寺院である。寺院は、金融、教育、医療、情報など、立地する地域社会にとって重要な役割を果たしている。つまり、寺院と地域社会の関わりを明らかに、日本の文化を知るための重要な部分ともなる。そこで、本実習では寺院が地域社会とどのような関わりをしてきたのか、寺院調査方法論を習得し、寺院から日本文化を考えるための方法論を学修していく。授業では、グループワーク、発表を行う。</p>		
到達目標	<p>1. 寺院と地域社会の関わりを調べる、分析することができる。 2. 寺院と地域社会との関わりから見えてくる日本文化を考察することができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスで授業内容を確認する。 授業：寺院と地域社会 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する</p> <p>【第 2 回】 予習：寺院の意味について調べる 授業：寺院調査の基礎知識① 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する</p> <p>【第 3 回】 予習：寺院の役割について調べる 授業：寺院調査の基礎知識② 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する</p> <p>【第 4 回】 予習：調査先の寺院の基礎情報を調べる 授業：調査先の寺院の歴史と文化財 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する</p> <p>【第 5 回】 予習：調査先の寺院について基礎情報を確認する 授業：寺院調査の実習（グループワーク） 復習：寺院調査で調べた事項をノートに整理する</p> <p>【第 6 回】 予習：寺院調査で調べて考えたことを確認する 授業：寺院調査の報告書の作成 復習：寺院調査の報告書の校正を行う</p> <p>【第 7 回】 予習：寺院調査の報告書を読む 授業：寺院調査の成果報告（発表） 復習：発表と質疑応答から考えた事項をノートに整理する</p> <p>【第 8 回】 予習：寺院と日本文化の関わりについて考える 授業：寺院から見た日本文化 レポート作成 復習：第 1 回から第 8 回までの授業について振り返る</p>			
授業開始前学習	大学の図書館にある日本の歴史と寺院に関する図書を読んでおく授業が理解しやすい。		
授業内課題のフィードバックの方法	授業で提出する課題・レポートについては、適宜、講評を行い、個別の質問等に回答する。		
テキスト・教材	特定のテキストは使用しない。適宜、プリントを配付する。		
参考書	今泉淑夫編『日本仏教史辞典』吉川弘文館、1999 年等。		
評価の基準と方法	配点（100 点満点における）は平常点（提出物）30 点、レポート 50 点、発表 20 点で評価する。レポートは寺院調査を踏まえての提出なので、寺院調査参加を原則義務つける。		

ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		◎
関連科目	『歴史資料論』、『民俗資料論』、『日本文化実習』は、本科目の理解を深める上で関連する科目である。							
その他	都内近郊の寺院調査を1回行う。交通し1,000円程度。新型コロナの影響により実習方法が変更される場合もある。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間(2時間×15週) + 予習・復習時間15時間(1時間×15週)							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員のうち、皆川義孝は各地の寺院調査・文化財保護業務の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、第2回～第3回まで、日本の寺院と地域社会の関わり、寺院の調査方法等について講義する。							

科目名称	日本文化研修							
科目分類	110-330-23	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Training in Japanese Culture		授業区分	演習・実習・実技				
科目責任者	弥久保 宏		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	弥久保 宏		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10		研究室	10-703				
授業概要	日本文化について、文献画像や映像を通じて多様な視点から学ぶことを目的とする。主に戦後昭和期の日本文化を家族、生活様式等を読み解くことにする。その上で、正課学外活動として関連施設（昭和館など）を訪れての研修を行い、観察力を養う。この授業では課題解決型学習を行う。							
到達目標	戦後、日本の家族形態や生活様式についての基本知識の習得と複眼的（比較文化的）な観察力を習得する。							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>【第1回】  予習：シラバスを読んでおく  授業：ガイダンス（授業回数と実施日や学外活動の場所、日時等の説明）  復習：ガイダンスでの要点を確認する</p> <p>【第2回】  予習：戦後昭和期の家庭を描いた主要な文献や映画をリストアップし時代背景を調べる  授業：戦後昭和期の日本の生活様式の変遷とその背景  復習：戦後昭和期を描いた日本映画や文献資料で当時の生活様式を確認する</p> <p>【第3回】  予習：DVD等で映画「東京物語」を鑑賞しておく  授業：小津安二郎監督「東京物語」にみる日本文化（家族形態、生活様式）の特徴  復習：東京物語に描かれている日本文化の特徴をまとめる</p> <p>【第4回】  予習：訪問先について調べる  授業：正課学外活動  復習：学外活動のまとめ</p> <p>【第5回】  予習：研修訪問先で調べた戦後昭和期の家庭や生活様式が変化すきっかけとなった政治、経済、社会的要因を調べる。  授業：研修訪問先で得られた成果の発表  復習：他の発表者の内容を参考にして自分の研修体験に厚みをつける。</p> <p>【第6回】  予習：レポート関連の資料整理  授業：レポート作成（課題解決型学習）  復習：レポートの推敲</p>								
授業開始前学習	戦後昭和期の家族を題材にした映画の鑑賞や文献を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎にミニ・コメントを提出させる。							
テキスト・教材	適宜、資料を配布する。							
参考書	適宜、授業中に紹介する。							
評価の基準と方法	授業での積極性（40点）、レポート（60点）の合計点。レポートは現場研修を踏まえての提出なので、現場研修参加を原則義務つける。							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○			△	◎
関連科目								

その他	<p>(重要事項)</p> <p>原則として正課学外活動(都内の昭和館)の参加を義務づける。交通費は1000円程度。全授業回数の3分の2以上の出席を満たさない者は、単位の対象から除外する。ガイダンスで講義日(正課学外活動)の提示を行うので、科目登録には、ガイダンスの出席を義務づける。事情によりガイダンスを欠席をした場合は、研究室を尋ねて了承を得てから科目登録を行うこと。新型コロナの影響により実習方法が変更される場合もある。</p>
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)
実務経験を活かした 教育内容	

科目名称	身体文化実習 I		
科目分類	110-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice of Corporal Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	別所 るみ子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	別所 るみ子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>しなやかな身体で美しく舞うバレエ、その基本的な練習を通して、美しい姿勢、身のこなしを学ぶ。日常生活のなかで役立つ美しい要素～立ち方、首・背中への伸ばし方など～を練習し日々活かす。実技中心の授業。毎回、基礎的内容を練習し、課題曲では作品を踊る楽しさを大切にする。バレエの歴史や作品に対する理解を深め、鑑賞する際にも役立つ知識を得て教養を深める。バレエ未経験者を対象とした授業構成だが、バレエ経験者の履修も歓迎する。</p>		
到達目標	<p>身体に対する意識を高め、美しい姿勢を日頃から心がけるようになる。 芸術としてのバレエを知ることで、芸術文化への理解を深める。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：「バレエ」という言葉からイメージするもの・ことを考える 授業：授業内容の説明と履修上の諸注意。ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション（実習） 復習：ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション</p> <p>第2回 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：バレエの歴史概要。パーレッスン～脚の使い方を重点的に。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：バレエの歴史概要確認。授業内容をエクササイズ名を確認して復習</p> <p>第3回 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：3大バレエ作品概要。パーレッスン～腕の使い方を重点的に（実習） 復習：3大バレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習</p> <p>第4回 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：著名なバレエ作品概要。パーレッスン～上体・首の使い方を重点的に。センターレッスン～空間・方向（実習） 復習：著名なバレエ作品の動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習</p> <p>第5回 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：パー＆センターレッスン～ワルツ。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：興味を持ったバレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習。</p> <p>第6回 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：世界のバレエ団概要。パー＆センターレッスン～回転を重点的に（実習） 復習：有名なバレエ団の劇場を検索して見る。授業内容を確認して復習、回転の首のつけ方</p> <p>第7回 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：課題曲の説明。パー＆センターレッスン～課題曲パート1 練習（実習） 復習：課題曲の振付、授業内容を確認して復習</p> <p>第8回 予習：ストレッチ、課題曲の動画を観る 授業：パー＆センターレッスン～課題曲パート2 (1～2)を練習（実習） 復習：課題曲の振付、授業内容を確認して復習</p> <p>第9回 予習：ストレッチ、課題曲の動画を観て練習 授業：パー＆センターレッスン～課題曲パート3 (2～3)を練習（実習） 復習：課題曲の振付、授業内容を確認して回転の首のつけ方を復習</p> <p>第10回 予習：ストレッチ、課題曲の動画を観てイメージを膨らませて練習 授業：パー＆センターレッスン～課題曲パート1・2・3を分けて練習、日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習</p> <p>第11回 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：パー＆センターレッスン～課題曲パート1 2 3を通して練習（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習</p> <p>第12回 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：パー＆センターレッスン～課題曲パート1 2 3を通して練習。各自のスマホで動画撮影（実習） 復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽にのって踊れるよう振付を覚えて練習</p>			



<p>第 13 回          予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を確認し練習          授業：バー&amp;センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 1 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表）          復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽とともに表現を深めて踊れるよう練習</p> <p>第 14 回          予習：発表 1 回目よりも良くなるように、細かい部分～動く方向、身体・顔の向き、腕の使い方を再確認し練習          授業：バー&amp;センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 2 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表）          復習：自分の動画を観て確認</p> <p>第 15 回          予習：授業 1 回～14 回に学んだことをふり返る。          授業：バー&amp;センターレッスン、日常生活での美しい姿勢・歩き方、授業のまとめ（実習）          復習：バレエから学んだことを日常生活に取り入れ自分のものにする。美しい姿勢を常に心がける</p>								
授業開始前学習	Wikipedia「バレエ」を読むと授業の理解が深まる。バレエ作品の動画を YouTube など観る。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内課題は個別にフィードバックし、返却時に全体の講評を行う。							
テキスト・教材								
参考書	授業期間中に数冊紹介する。							
評価の基準と方法	平常点（授業に対する積極性・授業態度）40 点、提出課題 40 点、課題曲 20 点							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○			◎	
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆バレエシューズが必要。購入希望者は授業 1 回目にサンプルを試したうえで購入を申込み、授業 2 回目に受取る。</li> <li>◆バレエ用練習着または体操服など、動きやすい服装、髪型で出席すること。</li> <li>◆定員 18 名、履修希望者が定員を上回る場合は履修制限をする。</li> <li>◆バレエの上手下手ではなく、真剣に学ぶ姿勢、個人の努力を重視する。</li> <li>◆バレエ用語は、日本のバレエクラスで一般的に使われている言葉を使用する。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	豪徳寺ダンススクール、毎日新聞カルチャーセンター、企業研修プログラムなどで指導した経験を活かして、初心者から経験者まで楽しく取り組めるよう構成している。舞踊家として国内外で舞台、映画に多数出演、表現に関わる現場の視点も交えて指導にあたる。							

科目名称	身体文化実習Ⅱ		
科目分類	110-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice of Corporal Culture II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤間 香鳳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤間 香鳳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着物の着付けを習得する。</li> <li>・着物を着て日本舞踊を踊る。</li> <li>・着物文化と知識を学ぶ。</li> <li>・日本舞踊を通して人との交わりを深める。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身で着付けとたたみ方を習得する。</li> <li>・日本舞踊を通して美しい立ち居振る舞いを目指す。</li> <li>・着物文化を知り理解することで日本文化に興味を持ってもらう。</li> <li>・日本舞踊の表現を通して日本文化の探求、コミュニケーション能力を高める。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：和服についての知識を確認  授業：オリエンテーション・着物着付け、たたみ方、帯結びをプリントで確認  復習：着付けに必要なゆかたセットの確認</p> <p>【第2回】  予習：着付けの順序をプリントで確認  授業：美しい着こなしと正しいたたみ方を知る  復習：美しく着付ける工夫と美しい仕草を確認</p> <p>【第3回】  予習：着物の帯の結び方と手直しの確認  授業：素早く美しく着付け美しい仕草を体験する  復習：着物の身のこなし、舞踊の動きを確認</p> <p>【第4回】  予習：着物を着付けての身のこなしと美しい仕草を予習  授業：美しい正座の姿勢と扇を使ってのお辞儀や歩き方を学ぶ  復習：着物のたたみ方をプリントで再確認</p> <p>【第5回】  予習：美しい着こなしと立ち居振る舞いについて確認  授業：舞扇の正しい持ち方、美しい使い方、着物のたたみ方実技テスト  復習：順番と仕草の確認と着付けの実技テストの準備</p> <p>【第6回】  予習：着付けの順番を確認し実技テストの準備  授業：着付けのテスト。「祇園小唄」手順確認  復習：踊りの手順を確認</p> <p>【第7回】  予習：踊りの手順を確認し、美しい動きができるかできているかを確認  授業：「祇園小唄」を踊る  復習：挨拶・踊り・終了の挨拶まで一連の流れを確認する</p> <p>【第8回】  予習：着物に合う和の化粧と髪型について調べる  授業：「祇園小唄」を踊る。  復習：和服に相応しい化粧のしかたを確認</p> <p>【第9回】  予習：礼装着物の着付けと帯結びについて調べる  授業：「祇園小唄」を踊る  復習：素早い着付けとたたみ方の確認</p> <p>【第10回】  予習：礼装着物の着付けとたたみ方の確認  授業：「祇園小唄」実技テスト  復習：扇子を使った正式な挨拶の確認</p> <p>【第11回】  予習：発表のための踊り込み  授業：「祇園小唄」グループ発表と鑑賞、相互評価  復習：グループ学習の反省と自己評価</p> <p>【第12回】  予習：「さくら さくら」の歌詞を調べる  授業：「さくら さくら」一番を踊る</p>			

復習 : 踊りの流れと手順の確認 【第13回】 予習 : 扇の使い方について確認 授業 : 「さくら さくら」二番を踊る 復習 : 曲想にあった季節感や背景を考えた踊りの復習 【第14回】 予習 : 発表会をイメージする 授業 : 「さくら さくら」実技テスト 復習 : 出来栄を確認する 【第15回】 予習 : 着物を着ての日常生活の立ち居振る舞いをイメージする 授業 : 正月に向けて挨拶、お茶の出し方茶の飲み方の実践 復習 : 自己の取り組みと成長を確認し今後の生活に生かす工夫をする								
授業開始前学習	・着付けに必要な着物道具についてインターネットで調べておく ・浴衣、半襦袢、足袋、着物用下着、ひも類など用意できる持ち物の確認をしておく							
授業内課題のフィードバックの方法	・出題されたプリントをチェックし、質問に答えたものを返却する。 ・身体表現について評価を行う。							
テキスト・教材	着物の着付けとたたみ方、帯結びのプリント							
参考書								
評価の基準と方法	①出席 15/100 ②正しく手早いたたみ方 10/100 ③正しく美しい着付け手 15/100 ④「祇園小唄」実技テスト 25/100 ⑤「さくらさくら」実技テスト 25/100 ⑥コミュニケーション力 5/100 ⑦クラスルーム（知識力、理解力、表現力） 5/100 7項目の 60/100 を合格基準点とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○			◎	
関連科目								
その他	・浴衣（着物）に必要な小物セット（浴衣、半襦袢、着物用下着、足袋、ひも類）をなるべく初回の授業に準備できると良いが、オリエンテーションで着物に必要な持ち物の説明を受けてからでも可。 ・着物（長襦袢が必要）と半幅帯の組み合わせでも可。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	藤間流の名取として多くの舞台を踏んできた経験と、師範として関わった文化センターや海外における舞踊指導経験を活かしながら、我が国の伝統文化の素晴らしさを、若き学生の方々に伝承していきたいと考えています。							

科目名称	プレゼンテーション実習 / プレゼンテーション実習 I		
科目分類	110-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice of Presentation Skills I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	10-612
授業概要	自己紹介・PR プレゼンテーション、アカデミック・プレゼンテーション、提案型プレゼンテーションの三つのプレゼンテーションの作成および実践を行う。		
到達目標	スライドを用いたプレゼンテーションの作成、発表に慣れることを目標に、よいプレゼンテーションの構成、スライド作成技術、発表技術を身に付ける。クラスメイトのプレゼンテーションを評価し、評価されることでプレゼンテーション技術の向上を図る。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：インターネットなどでよいプレゼンを見つけ、そのプレゼンの良いところを吸収する  授業：プレゼンテーションの基礎 / よいプレゼンテーションとは？  復習：その日の授業内容を振り返る</p> <p>【第 2 回】  予習：自己紹介・自己 PR の内容について考える  授業：自己紹介・自己 PR プレゼンの作成  復習：自己紹介・自己 PR プレゼンの作成が授業時間内に終わらない場合、次週までに完成させる</p> <p>【第 3 回】  予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う  授業：自己紹介・自己 PR プレゼンの発表と評価 I  復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる</p> <p>【第 4 回】  予習：プレゼンテーション評価シートの項目の確認しながらプレゼンの練習を行う  授業：自己紹介・自己 PR プレゼンの発表と評価 II  復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる</p> <p>【第 5 回】  予習：インターネットなどでよいスライドが用いられたプレゼンを見つけ、そのテクニックを吸収する  授業：プレゼンの技術 / 効果的なスライド作成のノウハウ  復習：アカデミック・プレゼンの構成について振り返る</p> <p>【第 6 回】  予習：アカデミック・プレゼンの内容について考える  授業：アカデミック・プレゼンの作成  復習：アカデミック・プレゼンの作成が授業時間内に終わらない場合、次週までに完成させる</p> <p>【第 7 回】  予習：プレゼンテーション評価シートの項目の確認しながらプレゼンの練習を行う  授業：アカデミック・プレゼンの発表と評価 I  復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる</p> <p>【第 8 回】  予習：プレゼンテーション評価シートの項目の確認しながらプレゼンの練習を行う  授業：アカデミック・プレゼンの発表と評価 II  復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる</p> <p>【第 9 回】  予習：インターネットなどで説得力のある提案型のプレゼンを見つけ、そのテクニックを吸収する  授業：プレゼンの技術 / 説得力のある構成  復習：提案型プレゼンの構成について振り返る</p> <p>【第 10 回】  予習：提案型プレゼンの内容について考える  授業：提案型プレゼンの作成 I  復習：アカデミック・プレゼンの作成が次週までに終わらなそう場合、作業を継続する</p> <p>【第 11 回】  予習：アカデミック・プレゼンの作成が今週中に終わらなそう場合、作業を継続する  授業：提案型プレゼンの作成 II  復習：アカデミック・プレゼンの作成が授業時間内に終わらない場合、次週までに完成させる</p> <p>【第 12 回】  予習：プレゼンテーション評価シートの項目の確認しながらプレゼンの練習を行う  授業：提案型プレゼンの発表と評価 I  復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：プレゼンテーション評価シートの項目の確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：提案型プレゼンの発表と評価Ⅱ 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる 【第 14 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目の確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：提案型プレゼンの発表と評価Ⅲ 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる 【第 15 回】 予習：これまでの授業を振り返る 授業：プレゼンの技術／質疑応答の技法 復習：プレゼン技術の自己評価を行う								
授業開始前学習	『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』第 27 章プレゼンテーションの方法 1：基本スキル (pp.128-134)、第 28 章プレゼンテーションの方法 2：演習 (pp.135-138) を読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法	作成したプレゼンテーションスライドおよび実践したプレゼンテーションに対し、プレゼンテーション評価シート（『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』p133）によりフィードバックを行う。							
テキスト・教材	授業中に適宜 PPT 映写、プリント等を配布する。							
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法	授業内課題 70%、期末課題 30%により評価する。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	△			◎	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	گرامマー・使える英文法 I		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Grammar I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、基礎的な英語の文法事項や構文について学習する。また、この授業では知識の習得ばかりではなく、実際に学習した文法項目をコミュニケーションの中で使うことができるよう、様々な活動を通して練習も行う。		
到達目標	品詞、動詞、代名詞、Wh-疑問文、過去形、完了形、進行形、未来を表す表現について基本的事項を理解し、それらを実際にコミュニケーションで用いることができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>授業は以下のとおり進める。なお、第4回以降は毎回、前回までに学習した内容に基づいた確認テストを行う。</p> <p><b>【第1回】</b>          予習：『総合英語 Forest（フォレスト）』など、英文法の参考書に目を通しておく（英文法の参考書であればこれ以外の書籍でも可）          授業：オリエンテーション、および、文法理解度の確認テスト（当日配布）（グループワーク）          復習：文法理解度確認テストを見直す</p> <p><b>【第2回】</b>          予習：文法書を読み、「品詞」について確認する。          授業：品詞について（当日ハンドアウトを配布）（グループワーク）          復習：授業で配布したハンドアウトの内容を復習</p> <p><b>【第3回】</b>          予習：教科書 pp. 1-6 を読み、問題を解く          授業：Unit 1 Profile (be 動詞)（教科書 pp. 1-6）（グループワーク）          復習：教科書 pp. 1-6 を再講読</p> <p><b>【第4回】</b>          予習：教科書 pp. 7-12 を読み、問題を解く          授業：Unit 2 Sports（一般動詞（1）自動詞・他動詞）（教科書 pp. 7-12）（グループワーク）          復習：教科書 pp. 7-12 を再講読</p> <p><b>【第5回】</b>          予習：教科書 pp. 13-18 を読み、問題を解く          授業：Unit 3 Special occasions（一般動詞（2）二重目的語、目的語と補語をとる動詞）（教科書 pp. 13-18）（グループワーク）          復習：教科書 pp. 13-18 を再講読</p> <p><b>【第6回】</b>          予習：教科書 pp. 19-24 を読み、問題を解く          授業：Unit 4 Families（人称代名詞）（教科書 pp. 19-24）（グループワーク）          復習：教科書 pp. 19-24 を再講読</p> <p><b>【第7回】</b>          予習：教科書 pp. 25-30 を読み、問題を解く          授業：Unit 5 Japan Quiz (Wh-疑問文)（教科書 pp. 25-30）（グループワーク）          復習：教科書 pp. 25-30 を再講読</p> <p><b>【第8回】</b>          予習：教科書 pp. 1-30 を読みなおし、問題を再度解く          授業：Unit 1 から Unit 5 までの復習（教科書 pp. 1-30）（グループワーク）          復習：教科書 pp. 1-30 を再講読</p> <p><b>【第9回】</b>          予習：教科書 pp. 31-36 を読み、問題を解く          授業：Unit 6 Love and Marriage（過去形）（教科書 pp. 31-36）（グループワーク）          復習：教科書 pp. 31-36 を再講読</p> <p><b>【第10回】</b>          予習：教科書 pp. 37-42 を読み、問題を解く</p>			

<p>授業：Unit 7 Life History（現在完了形（1）継続）（教科書 pp. 37-42）（グループワーク）  復習：教科書 pp.37-42 を再講読</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書 pp. 43-48 を読み、問題を解く  授業：Unit 8 Leisure（現在完了形（2）経験・完了）（教科書 pp. 43-48）（グループワーク）  復習：教科書 pp. 43-48 を再講読</p> <p>【第 12 回】  予習：教科書 pp. 49-54 を読み、問題を解く  授業：Unit 9 College Life（進行形（現在進行形・過去進行形））（教科書 pp. 49-54）（グループワーク）  復習：教科書 pp. 49-54 を再講読</p> <p>【第 13 回】  予習：教科書 pp. 55-60 を読み、問題を解く  授業：Unit 10 On Vacation（未来表現（be going to, will））（教科書 pp. 55-60）（グループワーク）  復習：教科書 pp. 55-60 を再講読</p> <p>【第 14 回】  予習：教科書 pp. 31-60 を読み直し、問題を再度解く  授業：Unit 6 から Unit 10 までの復習（教科書 pp. 31-60）（グループワーク）  復習：教科書 pp. 31-60 を再講読</p> <p>【第 15 回】  予習：教科書 pp. 1-60 を読み直し、問題を再度解く  授業：Unit 1 から Unit 10 までのまとめ（教科書 pp. 1-60）  復習：教科書 pp. 1-60 を再講読</p>								
授業開始前学習	これまで学習してきた英文法と語法を復習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業中に行うアクティビティー、および、小テストについては、こちらで目を通し、次回の授業で返却する。返却の際に、必要に応じ解説を行う。							
テキスト・教材	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett. 『Living Grammar (New Edition)』（成美堂） ISBN: 9784791972272							
参考書	喫タカユキほか『総合英語 Forest (フォレスト) 第7版』（桐原書店） 田中茂範『表現英文法』（コスモビア）							
評価の基準と方法	定期試験・授業中の演習など、総合的に行う。内訳は、定期試験（30%）、授業中の演習（20%）、小テスト（20%）、課題提出（10%）、授業態度（20%）である。							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	○
関連科目	英語学概論 I（第 12 回と第 13 回でこの授業の内容に基づいた発展的内容を学習する）							
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	گرامマー・使える英文法Ⅱ		
科目分類	113-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English Grammar Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、前期の学習内容を踏まえ、基本的な英語の文法事項や構文について定着を図ることを目標とする。特に、この授業では知識の習得ばかりではなく、実際に学習した文法項目をコミュニケーションの中で使うことができるよう、様々な活動を通して練習も行う。		
到達目標	助動詞、接続詞、受動態、副詞、分詞、比較級、最上級、前置詞、不定詞、動名詞、関係詞、仮定法について、基本的事項を理解し、それらを実際にコミュニケーションで用いることができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
授業は以下のとおり進める。なお、第3回以降は毎回、前回までの内容に基づいた確認テストを行う。			
【第1回】 予習：教科書 pp. 1-60 を講読 授業：（1）オリエンテーション （2）前期の復習（グループワーク） 復習：教科書 pp. 1-60 を再講読			
【第2回】 予習：教科書 pp. 61-66 を読み、問題を解く 授業：Unit 11 Out and About（助動詞（1）can, may など）（教科書 pp. 61-p.66）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 61-66 を再講読			
【第3回】 予習：教科書 pp. 67-72 を読み、問題を解く 授業：Unit 12 Rules（助動詞（2）must, should など）（教科書 pp.67-72）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 67-72 を再講読			
【第4回】 予習：教科書 pp. 73-78 を読み、問題を解く 授業：Unit 13 Folk Tales（接続詞（1）and, but, or, so）（教科書 pp. 73-78）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 73-78 を再講読			
【第5回】 予習：教科書 pp. 79-84 を読み、問題を解く 授業：Unit 14 News & Events（受動態）（教科書 pp. 79-84）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 79-84 を再講読			
【第6回】 予習：教科書 pp. 85-90 を読み、問題を解く 授業：Unit 15 Amazing Animals（頻度を表す副詞）（教科書 pp. 85-90）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 85-90 を再講読			
【第7回】 予習：教科書 pp. 91-96 を読み、問題を解く 授業：Unit 16 Feelings（-ing, -ed で終わる形容詞）（教科書 pp. 91-96）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 91-96 を再講読			
【第8回】 予習：教科書 pp. 61-96 を読み直し、問題を再度解く 授業：Unit 11 から Unit 16 までの復習（教科書 pp. 61-96）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 61-96 を再講読			
【第9回】 予習：教科書 pp. 97-102 を読み、問題を解く 授業：Unit 17 World Quiz（原級、比較級、最上級）（教科書 pp. 97-102）（グループワーク） 復習：教科書 pp. 97-102 を再講読			
【第10回】			

<p>予習：教科書 pp. 103-108 を読み、問題を解く          授業：Unit 18 Business (基本的な前置詞) (教科書 pp. 103-108) (グループワーク)          復習：教科書 pp. 103-108 を再講読</p> <p>【第 11 回】          予習：教科書 pp. 109-114 を読み、問題を解く          授業：Unit 19 Environment (接続詞 (2)) (教科書 pp. 109-114) (グループワーク)          復習：教科書 pp. 109-114 を再講読</p> <p>【第 12 回】          予習：教科書 pp. 115-120 を読み、問題を解く          授業：Unit 20 Old Sayings (不定詞と動名詞) (教科書 pp. 115-120) (グループワーク)          復習：教科書 pp. 115-120 を再講読</p> <p>【第 13 回】          予習：教科書 pp. 121-126 を読み、問題を解く          授業：Unit 21 Professions (関係詞) (教科書 pp. 121-126) (グループワーク)          復習：教科書 pp. 121-126 を再講読</p> <p>【第 14 回】          予習：教科書 pp. 127-132 を読み、問題を解く          授業：Unit 22 What If (仮定法) (教科書 pp. 127-132) (グループワーク)          復習：教科書 pp. 127-132 を再講読</p> <p>【第 15 回】          予習：教科書 pp. 61-132 を読み直し、問題を再度解く          授業：Unit 11 から Unit 22 までのまとめ (教科書 pp. 61-132)          復習：教科書 pp. 61-132 を再講読</p>								
授業開始前学習	これまで学習してきた英文法と語法を復習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業中に行うアクティビティ、および、小テストについては、こちらで目を通し、次回の授業で返却する。返却の際に、必要に応じて解説を行う。							
テキスト・教材	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett.『Living Grammar (New Edition)』(成美堂) ISBN: 9784791972272							
参考書	奥タカユキほか『総合英語 Forest (フォレスト) 第7版』(桐原書店) 田中茂範『表現英文法』(コスモピア)							
評価の基準と方法	定期試験・授業中の演習など、総合的に行う。内訳は、定期試験 (30%)、授業中の演習 (20%)、小テスト (20%)、課題提出 (10%)、授業態度 (20%) である。							
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	○
関連科目	英語学概論 I (第 12 回と第 13 回でこの授業の内容に基づいた発展的内容を学習する)							
その他	英語の辞書 (英和辞典、和英辞典等) を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	チャレンジ TOEIC		
科目分類	110-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Preparation TOEIC	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	井戸 桂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井戸 桂子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:30～16:00 火曜日 13:10～14:40 後期 火曜日 12:30～15:30	研究室	10-702
授業概要	TOEIC Listening and Reading Test を初めて受験するときのために、初級向けを中心に問題を解きます。基本的な語彙と基本的な文法事項の確認をします。問題演習を各回、Part 1 から Part 7 まで全パートを行います。量的にもチャレンジングです。		
到達目標	TOEIC の問題形式に慣れるように、初級から学修し始め、得点力が身につく。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
各課の【語彙と文法は、予習として、前の回にする】可能性もあります。			
<p>【第1回】  予習：1年次の必修科目「英語 B I II」のテキストを復習する。  授業：TOEIC について。語彙、形式の確認。  1 課の語彙と文法を学ぶ。Part 1 ～ 4 をする。  復習：第 1 課の語彙と Part 1～4 の復習。</p> <p>【第2回】  予習：テキスト、1 課から 3 課の文法項目の予習。  授業：1 課 Part 5～Part 7 2 課の語彙と文法  復習：文法の復習</p> <p>【第3回】  予習：2 課のテキスト、文法の予習  授業：2 課 Part 1～7  復習：2 課全 Part の復習。</p> <p>【第4回】  予習：3 課のテキスト、文法の予習。  授業：3 課の語彙と文法。Part 1～7  復習：本日の課の全 Part の復習（間違ったところの確認）</p> <p>【第5回】  予習：4 課のテキスト、文法の予習。  授業：4 課の語彙と文法。Part 1～7  復習：本日の課の全 Part の復習（間違ったところの確認）</p> <p>【第6回】まとめ①  予習：1 課から 4 課の文法と語彙を見直す。  授業：まとめ ① 1 課から 4 課の文法と語彙のまとめ  復習：文法と語彙の復習。</p> <p>【第7回】  予習：5 課のテキスト、文法の予習。  授業：5 課の語彙と文法。Part 1 ～ 7  復習：本日の全 Part の復習。</p> <p>【第8回】  予習：6 課のテキスト、文法の予習。  授業：6 課の語彙と文法。Part 1～7  復習：本日の全 Part の復習。</p> <p>【第9回】  予習：7 課のテキスト、文法の予習。  授業：7 課の語彙と文法。Part 1 ～ 7  復習：本日の全 Part の復習。</p> <p>【第10回】まとめ②  予習：第 5 課から 7 課の文法と語彙を見直す。  授業：まとめ ② 5 課から 7 課の文法と語彙のまとめ  復習：間違ったところを見直す。</p> <p>【第11回】  予習：8 課のテキスト、文法の予習  授業：8 課の語彙と文法。Part 1 ～ 7  復習：本日の全 Part の復習</p> <p>【第12回】  予習：9 課のテキスト、文法の予習</p>			

<p>授業：9課の語彙と文法。Part1～7  復習：本日の全 Part の復習  【第13回】  予習：10課のテキスト、文法の予習。  授業：10課の語彙と文法。Part1～7  復習：本日の全 Part の復習  【第14回】まとめ③  予習：第8課から10課の文法と語彙を見直す。  授業：まとめ ③ 8課から10課の文法と語彙のまとめ  復習：間違ったところを見直す。  【第15回】  予習：これまでのテキストを復習する。  授業：応用問題をする。  復習：これまでの文法と語彙を復習する。</p>								
授業開始前学習	必修英語を、よく復習してください。							
授業内課題の フィードバックの方法	答え合わせをしながら、質問を受けます。							
テキスト・教材	北尾泰幸他『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST:LEVEL 1』朝日出版							
参考書	授業中に提示します。							
評価の基準と方法	各回の授業参加度 (30%) まとめ①②③ (45%) 応用問題 (25%)							
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目	『キャリア イングリッシュ』『必修英語 AB』『英会話』							
その他	問題に慣れるように、毎回、全部のパートを学びます。したがって、予習量、問題量が多いです。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ビジネスインターンシップ		
科目分類	110-330-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Business Internship	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本(環)・田澤	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	3 年次後期中の事前学習を経て、春季休暇中等に、一般企業や公的団体等の職場において勤務実習を行います。就業体験を通して社会生活と職業生活の現場感覚を養うとともに、 1. 現実社会における人間関係とそこで求められる社会的スキルについて理解を深めること 2. 2 年次までの学習成果を確認するとともに、自己の将来像や今後の大学生活で学ぶべき課題について具体的な自己理解と目的意識をつかむこと の 2 点を学修目的とします。		
到達目標	次の 3 点を目標とします。 1. 職場で求められるビジネスマナーや社会常識を身につける 2. 組織におけるコミュニケーションについて理解し、報告・連絡・相談が確実にできるようになる 3. 問題意識をもって行動する思考態度を習得する		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンス（4 月オリエンテーション期間に実施） 復習：配布資料を再読し、履修と実習参加の注意点について確認してください。			
【第 2 回】 予習：シラバス・前回資料を熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：面接実施についての説明会 復習：面接を受ける際のポイントについてリサーチし、面接の準備を進めてください。			
【第 3 回】 予習：シラバス・前回資料を熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：事前学習 1：実習の目的と基本的な心構えについて 復習：授業内容を復習し、ポイントについて整理・確認してください。			
【第 4 回】 予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：事前学習 2：ビジネスマナー1 —— ケーススタディ（問題解決型学習） 復習：授業内容を復習し、ポイントについて整理・確認してください。			
【第 5 回】 予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：事前学習 3：ビジネスマナー2 —— ポイント確認（問題解決型学習） 復習：授業内容を復習し、ポイントについて整理・確認してください。			
【第 6 回】 予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：事前学習 4：職場組織についての理解とビジネス・コミュニケーション（問題解決型学習） 復習：授業内容を復習し、ポイントについて整理・確認してください。			
【第 7 回】 予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：事前学習 5：業界研究・企業研究、実習にあたっての諸注意 復習：授業内容を復習し、ポイントについて整理・確認してください。			
【第 8 回】 予習：事前学習全回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：業界研究・企業研究のためのリサーチ活動 復習：各自の実習先についてリサーチ活動を継続してください。			
【第 9 回】 予習：履歴書の書き方についてリサーチしてください。 授業：履歴書・自己紹介書、企業研究レポートの作成 復習：履歴書・自己紹介書を清書し、発送・提出準備を完了させてください。			

<p>【第10回】            予習：実習活動に際しての確認・質問事項を整理してください。            授業：実習準備と打合せ            復習：実習開始までに必要な準備作業を to do リストに整理してください。</p> <p>【第11回】            予習：実習先までの交通経路を確認するとともに、企業訪問時のポイントについて再確認しておいてください。            授業：実習先への事前訪問（実習）            復習：実習先までの通勤と現場での勤務に際して必要な準備を整理してください。</p> <p>【第12回】            予習：忘れ物などないか出勤前のチェックを励行してください。            授業：実習活動（実習）            復習：実習ノートのコメントを参考に、その日の自己評価と反省点をまとめてください。</p> <p>【第13回】            予習：記憶の鮮明なうちに、実習活動の記録・コメント・反省点をメモにまとめてください。            授業：実習レポートの作成            復習：実習レポートと報告 PPT を完成させ、提出してください。</p> <p>【第14回】            予習：各自の実習レポートを再読し、コメント・反省点を再確認しておいてください。            授業：実習成果について —— 報告と検討（ディスカッション）            復習：検討作業を通じて提起されたコメントをメモに整理してください。</p> <p>【第15回】            予習：各自の報告 PPT をもとに、プレゼンのリハーサルを行ってください。            授業：学内報告会（プレゼンテーション）            復習：報告会で提起された感想やコメントをメモに整理してください。</p>								
授業開始前学習	「言語表現演習 I II」「進路設計」を履修していること、および、「社会と教養演習 A～D」「キャリアテラシー」、2 年次の進路総合センター主催セミナーを積極的に履修・受講していることが前提となります。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。							
テキスト・教材	とくに指定しません。							
参考書	ガイダンス時や事前学習を通じて随時、必要に応じて指示します。							
評価の基準と方法	取り組み姿勢および実習先担当者による評価 70%、提出物と実習レポート 30%の配点で評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△		○			○	◎
関連科目	「言語表現演習 I II」「進路設計」「社会と教養演習 A～D」「キャリアテラシー」および「職業の世界」「組織マネジメント」「チームビルディング」「ビジネスと心理学」等の授業内容が実践的に活かせる実習活動です。							
その他	3 年生のみ履修可能です。履修にはいくつかの前提条件や注意事項があります。詳細については「ビジネスインターンシップ・オリエンテーション」（4 月のオリエンテーション期間に実施予定）および後期開始時の説明会で説明します。必ず出席してください。後期の集中授業として実施します。実施日時・伝達事項等に関する掲示や Web メールによる連絡を見落とさないよう注意してください。実習中の交通費・食費等の実費、諸経費は原則として自己負担です。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	観光学		
科目分類	120-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Tourism	授業区分	講義
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	観光学は歴史が浅い学問でありながら現代社会においてその重要性が増している。なぜならば、観光が人々の余暇活動の中心的な位置を占めており、今後観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われる。さらに、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきているからである。本授業では、観光学の基礎理論を中心に観光の新たな動きと現場での対応も触れる。観光に関わる基本的なことを広く学び、観光産業分野で起きていることや課題について理解を深める。		
到達目標	①観光の用語・歴史、観光の仕組みを理解する。 ②観光の各要素、各観光産業の内容を理解し、詳細な内容を研究する。 ③与えられたテーマに関しては、自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられる。グループワークでは、積極的に話し合い、意見を集約して仕上げることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバス参照  授業：観光を学ぶ意味、観光学とは？  復習：授業の方針を確認する。</p> <p>【第2回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光の定義、現代観光の構造と構成要素、現代観光の特色  復習：第2回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第3回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光の歴史①（欧米を中心に）  復習：第3回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第4回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光の歴史②（欧米を中心に）と新たな観光のあり方について  復習：第4回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第5回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光の歴史③（日本を含め、アジアを中心に）  復習：第5回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第6回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光文化ゼミの紹介  復習：第6回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第7回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光と交通  復習：第7回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第8回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光産業の構成と特徴  復習：第8回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第9回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光政策  復習：第9回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第10回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：観光対象と観光資源  復習：第10回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第11回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。  授業：魅力を高める観光資源の開発  復習：第11回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第12回】  予習：事前配布のレジュメで予習する。</p>			



授業：観光施設 復習：第 12 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。 【第 13 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：世界の観光地と統合型リゾート (IR) を考える。(グループ・ディスカッション) 復習：第 13 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。 【第 14 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：世界のリゾートについて 復習：第 14 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。 【第 15 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：学習内容の総括 復習：授業の全体概要を確認する。								
授業開始前学習	観光学概論や観光学総論、観光業界に関する資料を出来るだけ多く読むこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業 11 回目に行うグループワークショップについては 2 週後に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	自前教科書『観光学』 そのほか、適宜プリントを配布します。							
参考書	授業中に適宜参考書籍を紹介する。							
評価の基準と方法	授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			△
関連科目								
その他	普段から観光に関わることに興味をもって、マスコミ報道や観光図書に接することが望ましい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	観光政策論		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Policy Studies of Tourism	授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	<p>本科目では、観光学の応用分野のひとつである観光政策について学ぶ。観光政策の視座を得ることで、消費者やビジネスの視点ではなく、公共性や社会との関係性から観光を学ぶ。3部構成となっている。第1部は「持続可能な観光」をテーマに観光政策を担う国・地方の役割について、第2部は「観光と国際関係」をテーマに国際機関の役割・平和・国際協力について、第3部は「地域振興と観光まちづくり」をテーマに都市計画・景観・温泉地・テーマパーク・統合型リゾートなど具体的な事例から観光まちづくりについて学ぶ。特に DMO・DMC、行政職員、まちづくり会社、コンサルタント、旅行業・広告業として観光客誘致、地方創生、地域活性化に関心のある学生に特に推奨したい。行政・観光協会・DMO にインターンシップ実習を希望する学生は履修を勧める。</p>		
到達目標	<p>①持続可能な観光と観光振興についての知識を習得する。 ②持続可能な観光の実践者になれるようにする。 ③自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：授業の概要と方針 第1章 日本の観光の現状と観光政策 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第2回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第2章 観光政策の主体—国、地方— 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第3回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第3章 観光の功罪 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第4回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第4章 SDGsと持続可能な観光 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第5回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第5章 国際観光を支える国際機関の役割 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第6回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第6章 観光と平和 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第7回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第7章 観光と国際協力 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第8回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第8章 観光が地域振興で期待される背景 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第9回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第9章 テマパークと観光政策—リゾート法の失敗に学ぶ— 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第10回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第10章 景観と観光まちづくり—日本と世界の景観比較— 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第11回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：第14章 都市計画と観光まちづくり—Maasとショートウェイシティー— 復習：授業レポートの提出</p>			

<p>【第12回】  予習：教科書の該当箇所を読んでおく  授業：第11章 世界の統合型リゾート（IR）—日本のIR政策を考える—  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第13回】  予習：教科書の該当箇所を読んでおく  授業：第12章 温泉地の観光まちづくり  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第14回】  予習：教科書の該当箇所を読んでおく  授業：第13章 過疎地域の観光まちづくり  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第15回】  予習：教科書の該当箇所を読んでおく  授業：第15章 ニュー・ツーリズムと観光まちづくり（ディスカッション）  復習：授業レポートの提出</p>								
授業開始前学習	「観光学」で学んだことを復習しておくことで授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	鮫島卓『観光政策論』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	授業の中で、適宜紹介する。							
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テストの成績1回4点×15回（60%）、期末レポートの成績（40%）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目	観光政策論は、観光学の応用分野であり、観光学の基礎知識として「観光学」と共に履修することを勧める。鮫島ゼミ生及び鮫島ゼミを希望する学生は履修を勧める。							
その他	この授業で学んだことを実践するために「行政・観光協会」でのインターンシップ実習の履修を推奨する。また専門ゼミで鮫島ゼミを志望する人は履修するのが望ましい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は旅行業での国際観光イベントの企画実施、ハウステンボスの商品開発、国際協力機構（JICA）の観光開発コンサルタントとしてミャンマー・ブータンでの観光開発計画に従事した経験があり、現在でも全国各地の観光商品開発の研修・助言を行っている。期末レポートでは学生が希望する地域課題を明らかにしてその解決のための持続可能な観光まちづくりについて提案をもらう。							

科目名称	観光マーケティング論		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Tourism Marketing Theory	授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	本授業では、航空・宿泊・旅行・テーマパーク・観光地などの観光産業の事例を通して、経営学の応用分野であるマーケティング理論を学ぶ。マーケティングの知識は、新規事業開発、商品開発・イベント企画、広報宣伝業務に不可欠である。諸君が消費者でなく生産者の立場で企業経営の仕組みや社会を観る視点を養うことにもなる。就職活動における企業研究、自己分析にも有用である。特に将来、経営者・管理職・起業家、プランナー、コンサルタントを目指す学生には有益である。期末には、学生が希望する地域や企業を選び、マーケティング理論を活用してその実態を分析するレポート作成を行う。		
到達目標	① 観光マーケティングの基礎的な理論を習得する。 ② 観光産業のビジネスの仕組みや仕事内容を理解する。 ③ 自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：授業の概要と方針・評価方法の説明 観光マーケティングとは何か ～ディズニーリゾートを事例に～ 復習：授業レポートの提出			
【第2回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：ニーズとウォンツ ～旅行動機の背景と観光資源～《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
【第3回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：セグメンテーションとターゲティング ～旅行者は誰？～《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
【第4回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：ポジショニング ～選ばれる「強み」と「差別化」～《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
【第5回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：マーケティング・ミックス ～商品計画の要素～《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
【第6回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：購買決定プロセス～カスタマージャーニーと旅行先選択～《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
【第7回】 予習：授業の復習をしてテスト対策をする 授業：中間テスト《オンデマンド》 復習：授業レポートの提出			
【第8回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：企業会計の仕組み、価格と流通 ～旅行代金の舞台裏～《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
【第9回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：価格戦略と行動経済学の応用《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
【第10回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：サービス・マネジメント・システム～ディズニーリゾートの舞台裏《ディスカッション》			

<p>復習：授業レポートの提出</p> <p>【第11回】          予習：教科書の該当箇所を読んでおく          授業：リレーションシップ・マーケティング～リピーターを生み出す仕組み～《ディスカッション》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第12回】          予習：教科書の該当箇所を読んでおく          授業：観光のデジタル・マーケティング～インターネットと観光の関係～《ディスカッション》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第13回】          予習：教科書の該当箇所を読んでおく          授業：観光地のマーケティング①～DMOと観光地の特性～《ディスカッション》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第14回】          予習：教科書の該当箇所を読んでおく          授業：観光地のマーケティング②～コンセプト・商品化・プロモーション～《ディスカッション》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第15回】          予習：教科書の該当箇所を読んでおく          授業：期末レポートフィードバック          経験価値と新たなマーケティングの可能性          復習：授業レポートの提出</p>								
授業開始前学習	航空会社・ホテル・パッケージツアー・テーマパークなど様々なサービスを自分のお金で購入してサービスを享受する経験をできるだけ多くしていると授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	鮫島卓（2021）『観光マーケティング論』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	授業の中で、適宜紹介する。							
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テスト成績1回4点×15回（60%）、中間テストの成績（10%）、期末レポートの成績（30%）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目	観光マーケティング論は、観光学の基本科目であり、「観光学」と共に履修することを勧める。また観光文化コース専門ゼミで取組むツアープランニングにも有効な専門知識を得ることができる。							
その他	観光マーケティングは、マーケティング理論を観光分野に応用させたものである。従って、その理論は、業種を問わずすべての企業で役に立つ知識となるであろう。鮫島ゼミ生及び鮫島ゼミを希望する学生は受講を勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	教員は旅行会社でのツアー企画、国際観光イベントの企画運営、ハウステンボスの商品開発など、ツーリズム産業で新規事業開発を行ってきた。現在も ANA との学び旅の共同研究、種子島・対馬・稲城・多摩などの観光開発アドバイザーを担っており、実践経験に基づいた講義内容としている。							

科目名称	☆観光のPRとメディア／観光メディア		
科目分類	120-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Tourism Industry PR and Media／Media of Tourism	授業区分	講義
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	<p>観光客の興味関心を高め、購買欲や参加願望をくすぐる情報PRツールとしての観光地の土産物や、商店街、レジャーランド、祭りなどの他、移動と観光のためのインフラ（旅客機、豪華客船、鉄道、車など）にもスポットを当て、人々を旅に導く効果的なPR方法について広い角度から多彩な切り口で考察する。</p> <p>「視覚訴求型」パワーポイントの使用。人間の情報収集能力の中で、「見る」は「読む」の2倍の情報を処理でき、取り入れた情報も「読む、聞く」より「見る」方が記憶に残る。更に「聞く＋見る」の両方を使って説明を受けると、2時間後でも60%の情報が記憶されているデータがある。このことから、授業で使用するパワーポイントは、色彩とレイアウトで受講生が見やすく情報を整理し易い画面構成の「視覚訴求型」にしており、「見る＋聞く」の特に「見る」だけでも学生の受講意欲を上げるような視覚からの効果的な情報アウトプットを試みている。</p>		
到達目標	<p>「文字情報」は情報の詳細を正確に伝え、「ビジュアル（画像）情報」は情報の概要やイメージを伝える。数値で伝えれば情報は正確に伝わり、グラフや図にすれば情報の傾向や内容が、よりわかりやすくなる。多くの事例から情報伝達の効果的な手法を知ることで、学生は情報の効果的な扱い方について理解を深めることができる。また、より魅力的な観光プランの紹介や発表（4年次のツアープラン発表会など）にも応用することができるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：関心のある観光パンフレットをしてみる  授業：ガイドランス【「観光メディア」とは：観光業界における観光メディアの効能】  復習：観光メディアとは？の問いかけに、200字程度で回答する</p> <p>【第2回】  予習：関心のあるイベントをしてみる  授業：イベントと観光メディア：コンピュータテクノロジーの効果的な利用方法  復習：人気のテクノロジー型イベント例をネットで調べてみる</p> <p>【第3回】  予習：関心のある観光地の名物グルメを調べてみる  授業：食文化と観光メディア：ミシュランガイドと観光ガストロノミー  復習：どんな観光グルメが人気が高いか、その理由も調べてみる</p> <p>【第4回】  予習：関心のある観光地のレジャーランドを調べてみる  授業：レジャーランドと観光メディア：各地の比較検証：隆盛から廃墟化まで  復習：特定の観光地に誘うレジャーランドの実態を調べてみる</p> <p>【第5回】  予習：関心のある商店街を調べてみる  授業：商店街と観光メディア：歴史ある魅力的な観光スポットとして紹介  復習：伝統のある息の長い商店街の人気の理由を調べてみる</p> <p>【第6回】  予習：関心のある観光クルーズを調べてみる  授業：海の旅と観光メディア：豪華客船クルーズの実態と観光情報  復習：人気のあるクルーズの違いを比較検証してみる</p> <p>【第7回】  予習：関心のある鉄道（列車やトラム）をしてみる  授業：鉄道の旅と観光メディア：ビジュアル情報の効果的な使用方法  復習：観光に貢献した鉄道の例をネットで調べてみる</p> <p>【第8回】  予習：関心のある航空会社を調べてみる  授業：空の旅と観光メディア：価格から読み解く観光プロモーションの比較と検証  復習：自分が行きたい観光地へ誘うポスターの表紙をイメージしてみる</p> <p>【第9回】  予習：関心のあるドライブ観光のコースを調べてみる</p>			



授業：ドライブにまつわる観光事情と交通関連のメディア：標識やデザインによる危険回避や渋滞防止策とは  
 復習：自分が気になった交通標識について調べてみる。

【第 10 回】

予習：関心のある祭りを調べてみる  
 授業：祭りと観光メディア：参加型イベントから読み解く観光メディア  
 復習：自分が行ってみたい祭りの歴史と内容を調べてみる

【第 11 回】

予習：人気の観光土産を調べてみる  
 授業：土産物と観光メディア 1：観光土産の種類と人気ランキング  
 復習：出身国による観光土産の人気度を比較してみる

【第 12 回】

予習：ユニークな自動販売機を調べてみる  
 授業：土産物と観光メディア 2：観光土産から読み解くメディアの手法と効果  
 復習：観光土産を選ぶ理由を検証してみる

【第 13 回】

予習：話題性のある公衆トイレを探してみる  
 授業：オフィシャルサービスと観光メディア：訴求対象から読み解くメディアの質と量  
 復習：公衆トイレをサービスの観点から見直してみる

【第 14 回】

予習：観光地の案内で人を救うホスピタリティー「ピクトグラム」について考えてみる  
 授業：観光とプリントメディア：ピクトグラムとポスター  
 復習：観光客へのおもてなし精神について考える

【第 15 回】

予習：日本全国の難読地名を調べてみる  
 授業：地名と観光メディア：地名への理解と読解力、研究全体の整理  
 復習：魅力的な観光メディアを考えてみる

授業開始前学習	観光に関する PR メディアとして、web 広告だけでなく、駅貼りポスター、旅行代理店に置いてあるパンフレット、電車など乗り物内の中吊り広告、ネットに出てくる観光旅行の広告などのプリントメディアや観光広告を意識して見ておく授業が理解しやすく、社会性の涵養にも役に立つ準備となる。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ個別対応を行い、場合によっては次回講義の冒頭で全体に伝える形式で実施している。							
テキスト・教材	授業中に適宜配付する。							
参考書	授業を通じて適時紹介する。							
評価の基準と方法	毎回提出する課題レポートに重きを置き、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		
関連科目	地域観光資源研究（前期）を合わせて履修すると、より理解が深まる。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	ホスピタリティ概論		
科目分類	120-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Hospitality	授業区分	講義
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	現在のホスピタリティ産業界は、社会に対して大きな影響力と日々変化を見せており、その正確な情報の把握が今後の展望を担う重要な鍵になると考えられる。本授業はホスピタリティ産業の仕組みを理解したうえで、「関連専門知識の理解」と「ホスピタリティ産業の今後の方向性について議論する」ことで、ホスピタリティの基礎を学ぶ。		
到達目標	①ホスピタリティの用語と関連用語・歴史・ホスピタリティの仕組みを理解する。 ②ホスピタリティ関連産業の仕事内容を理解し、詳細な内容を研究する。 ③与えられたテーマに関しては、自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられる。グループワークでは、積極的に話し合い、意見を集約して仕上げることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：ホスピタリティについて調べ、考える 授業：授業のイントロダクション ホスピタリティとは？ 復習：授業内容の確認、ホスピタリティについて確認 【第2回】 予習：配布資料を読む 授業：ホスピタリティ理論（1）「ホスピタリティ」の概念、ホスピタリティの基本的性格 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第3回】 予習：配布資料を読む 授業：ホスピタリティ理論（2）ビジネス用語としての「ホスピタリティ」、「インターンシップ」の基本 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第4回】 予習：配布資料を読む 授業：ホスピタリティ理論（3）「ホスピタリティ、サービスと観光」 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第5回】 予習：配布資料を読む 授業：ホスピタリティ理論（4）「マナーとホスピタリティ」 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第6回】 予習：配布資料を読む 授業：ケーススタディー（1）リッツ・カールトンから学ぶホスピタリティ① 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第7回】 予習：配布資料を読む 授業：ケーススタディー（1）リッツ・カールトンから学ぶホスピタリティ② 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第8回】 予習：配布資料を読む 授業：ケーススタディー（2）医療とホスピタリティ 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第9回】 予習：配布資料を読む 授業：ケーススタディー（3）スターバックスから学ぶホスピタリティ 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第10回】 予習：配布資料を読む 授業：ケーススタディー（4）「航空・空港業界」から学ぶホスピタリティ 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第11回】 予習：配布資料を読む 授業：ケーススタディー（5）ディズニーリゾートから学ぶホスピタリティ① 復習：授業内容をベースに配布資料再読 【第12回】 予習：配布資料を読む 授業：グループディスカッション（事例研究ワークショップ） 復習：授業内容をベースに配布資料再読			

<p>【第13回】          予習：配布資料を読む          授業：ケーススタディー（5）ディズニーリゾートから学ぶホスピタリティ②          復習：授業内容をベースに配布資料再読</p> <p>【第14回】          予習：配布資料を読む          授業：ケーススタディー（6）ブライダル産業から学ぶホスピタリティ          復習：授業内容をベースに配布資料再読</p> <p>【第15回】          予習：授業全体をレビューする          授業：ホスピタリティ理論（5）ホスピタリティ・コーチング、ホスピタリティの今後の課題と総括          復習：授業全体を復習</p>								
授業開始前学習	日常生活におけるホスピタリティを考えておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材	自前教科書『ホスピタリティ概論』 そのほか、適宜プリントを配布します。							
参考書	授業の中で、適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			△
関連科目	インターンシップ実習科目の「インターンシップ実習 C」を履修する学生は本科目を履修することが望ましい。							
その他	普段からホスピタリティに関わることに興味をもって、マスコミ報道やホスピタリティ関連書籍に接することが望ましい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ホスピタリティ・マネジメント		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Hospitality Management	授業区分	講義
科目責任者	木内 伸樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 伸樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	現代社会において、「ホスピタリティ」の必要性が様々な産業で重要視されている。観光産業を始め、医療・介護事業や金融業、通信産業等においても、ホスピタリティの概念を多くの企業が導入し、満足度を上げる取り組みがおこなわれている。まずホスピタリティとホスピタリティ・マネジメントの概念を理解する。そしてホスピタリティの重要度の高い観光・レジャー産業、宿泊産業等の観光産業を中心とするホスピタリティ・マネジメントの取り組みを、理論的かつ実践的に考察する。授業では、グループワークやプレゼンテーションを行なう。		
到達目標	ホスピタリティとホスピタリティ・マネジメントの価値と重要性に対し理解を深め、企業の取り組みを説明できる。合わせて将来ホスピタリティ産業の組織などで、高いホスピタリティが発揮できる人材になる力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
『第1回』 予習：ホスピタリティとホスピタリティ・マネジメントとは何かを調べる 授業：ホスピタリティとホスピタリティ・マネジメント 復習：授業資料を再読みし、ホスピタリティとホスピタリティ・マネジメントについて整理する 『第2回』 予習：ホスピタリティ・マネジメントに求められる人材について調べる 授業：ホスピタリティ・マネジメントの人材とは「実習」 復習：授業資料を再読みし、ホスピタリティ・マネジメントに求められる人材について整理する 『第3回』 予習：自己イメージについて考える 授業：ホスピタリティと自己イメージ 復習：授業資料を再読みし、自分自身を見つめ直す 『第4回』 予習：ホスピタリティ・マネジメントの目的は何かについて調べる 授業：ホスピタリティのフレームワーク 復習：授業内の課題の言葉を他の言葉でリフレーミングし整理する 『第5回』 予習：配布した授業資料を再読みし、コミュニケーションの取り方についてまとめる 授業：ホスピタリティ・マネジメントのコミュニケーション 復習：各自のコミュニケーションの取り方を確認する 『第6回』 予習：配布した授業資料を読み、空欄に入る言葉を考える 授業：ホスピタリティ・マネジメントでの傾聴力と質問力 復習：様々な傾聴姿勢を見直し、質問力をつけるにはどうしたらいいか整理する 『第7回』 予習：イギリスのホスピタリティについて調べる 授業：英国流おもてなし 復習：イギリスのおもてなしについて、理解を深める 『第8回』 予習：日本と外国のホスピタリティの違いをレジュメを見て考える 授業：ホスピタリティ・マネジメントと文化 復習：文化的背景がことなる国々のホスピタリティへ取り組みを整理する。 『第9回』 予習：「国際観光」について調べる 授業：「国際観光」に求められるホスピタリティ・マネジメント「ディスカッション」 復習：日本に必要とされるホスピタリティ・マネジメントの取り組みについてまとめる 『第10回』 予習：「宗教的背景を持つ旅行者」に必要なものは何かについて調べる 授業：「宗教的背景を持つ旅行者」への配慮と日本の取り組み 復習：「宗教的背景を持つ旅行者」を理解し、ホスピタリティ・マネジメントとして何ができるかについてまとめる 『第11回』 予習：「クルーズ産業」について調べる 授業：ホスピタリティ・マネジメント「クルーズ産業」 復習：「クルーズ産業」のホスピタリティへの取り組みについてまとめる 『第12回』 予習：「バス事業」について調べる 授業：ホスピタリティ・マネジメント「バス事業」 復習：「バス事業」のホスピタリティへの取り組みについてまとめる			

<p>『第13回』          予習：「アクセシブル・ツーリズム」への東京都の取組みについて調べる          授業：「アクセシブル・ツーリズム」の取組み「ディスカッション」          復習：「アクセシブル・ツーリズム」に必要とされるホスピタリティ・マネジメントについて整理する</p> <p>『第14回』          予習：「ユニバーサル・ツーリズム」への日本の取組みについて調べる          授業：「ユニバーサル・ツーリズム」の取組み「ディスカッション」          復習：「ユニバーサル・ツーリズム」に必要とされるホスピタリティ・マネジメントについて整理する</p> <p>『第15回』          予習：どのように招待すると招待客は喜んでくれるかについて発表できるようまとめる          授業：ホスピタリティ・マネジメントのおもてなしプラン作成「課題解決型学習」          復習：おもてなしのテーブルセッティングを考える</p>								
授業開始前学習	「ホスピタリティ・マネジメント」に関する書物が数多く出版されている。様々な企業のホスピタリティ溢れる取り組みを、事例研究として読んでおくと、授業が一層理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートに、教員からの評価とアドバイスをおこなう。質疑応答は、メール等で個別に対応、指導する。							
テキスト・教材	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）							
参考書	服部 勝人（2011）「ホスピタリティ・マネジメント入門」丸善出版 塹江 隆（2008）「ビジネス実務 ホスピタリティと観光産業」文理閣							
評価の基準と方法	学期末レポートの成績（40%）、授業への積極性・態度・取組み姿勢（20%）、授業内課題(40%)の総合評価。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他	日常生活の中にも、ホスピタリティ・マネジメントを通してホスピタリティ産業に触れる機会は多々ある。企業が取り組むホスピタリティに目を向けて、各自の切り口で考察する力を養うことが望ましい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	27 年間にわたり外資系航空会社にて、マーケティング及び客室乗務部のスーパーバイザーとしての実務経験あり。航空会社で提供されるホスピタリティについて、社員に求められる資質・能力についての講義をする。							

科目名称	観光社会学		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Sociology of Tourism	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 奈緒子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 奈緒子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>観光社会学は、社会現象としての「観光」の本質を探究し、その成果を手掛かりに社会の本質をも考察することができる学問である。</p> <p>本授業は、現代社会の成り立ちを観光という観点から捉え、多様な観光現象の事例を通して現代社会における「新たな観光と持続可能な観光」のあり方について学ぶ。</p> <p>実践的学びを通して、在学中及び卒業後の職業生活や自身のライフスタイルにおいて「新しいツーリズムを創造する」一助となる。</p>		
到達目標	<p>①観光社会学の基礎的な理論を習得する。</p> <p>②観光社会学に関する事例を用いて、現代の多様な観光現象を理解する。</p> <p>③自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「観光」  授業：授業ガイダンス（概要と方針・評価方法の説明）  社会学における観光の位置づけ  復習：授業内配布物の見直し</p> <p>【第2回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「観光社会学」  授業：観光社会学とは《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第3回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「新たな観光」  授業：新たな観光とは《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第4回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「地域文化」  授業：観光と地域文化《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第5回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「文化、地域、開発」  授業：観光と地域創生《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第6回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「SDGs・持続可能性」  授業：持続可能な観光開発《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第7回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「インバウンド、アウトバウンド、観光」  授業：日本・海外における観光産業の事例《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第8回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「インバウンド、アウトバウンド、観光」  授業：日本・海外における観光産業の事例《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第9回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「地域開発、まちづくり」  授業：地域活性化《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第10回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「グローバル化」  授業：観光産業のグローバル化《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第11回】  予習：WEB検索、書籍による情報検索：キーワード「メディア、SNS」  授業：観光体験とメディア《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第12回】</p>			

<p>予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「ガイド、情報、発信」          授業 : 観光産業とツアー・ガイド 《ディスカッション》          復習 : 授業レポートの提出          【第 13 回】          予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「イノベーション」          授業 : 観光産業のイノベーション 《ディスカッション》          復習 : 授業レポートの提出          【第 14 回】          予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「ワーケーション」          授業 : 遊びと観光・仕事と余暇 《ディスカッション》          復習 : 授業レポートの提出          【第 15 回】          予習 : WEB 検索、書籍による情報検索          授業 : 期末レポートフィードバック          まとめ 観光社会学のこれから          復習 : 授業レポートの提出</p>								
授業開始前学習	授業開始前に授業の内容記載のキーワードを検索し、情報を得ておく授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	特定の教科書は使用しない。							
参考書	安村・堀野・遠藤・寺岡編著 「よくわかる観光社会学」ミネルヴァ書房 2011 その他、授業の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	平常点(出席レポート・授業への貢献) 50%、期末レポート 50%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	特になし。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数や理解度により授業の予定を変更することもある。</li> <li>・オンデマンドでの講義を 2 回含む予定</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	教員は、旅行会社に長らく従事し法人渡航における各種企画・添乗経験 (学生向けスタディーツアー、各種海外イベント企画、海外視察コーディネート、海外進出支援等) と、海外支店での法人事業立ち上げの経験を行ってきた実績を持つ。実践経験に基づいた講義内容としている。 ※総合旅行業務取扱管理者の資格有							



科目名称	観光人類学		
科目分類	120-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Anthropology of Tourism	授業区分	講義
科目責任者	ゼイヤー ウィン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、国際社会における人々の移動（観光を含む）が再び活発になりつつあり、それぞれの国や観光地は観光産業の復興に向けて様々な方針及び政策を打ち出している。しかし、現状的には近年それぞれの観光地が直面したオーバーツーリズムをはじめとする観光開発の様々な課題に対する対策は試行錯誤の段階にあるといえる。本講義は観光開発が対象化された地域社会にもたらす社会・文化変容・環境問題などを歴史的な視点から学習し、観光の場における重層的な人々の関係を中心に観光人類学的視点から読み解くことを目標とする。また観光は学際的な研究分野であり、「学」として観光に関する知識及び基礎的概念や理論を学ぶために、関連するその他の社会科学（社会学・歴史学・開発学等）の既存概念・理論を参照しながら授業を進行する。</p>		
到達目標	<p>本講義は「観光」と「社会・文化」の関係性に関するそれぞれテーマ性の異なる事例及び観光地を学習することによって、社会・文化に対する理解能力と地域社会の課題に対する分析力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 観光産業の社会的な役割を説明できるようになる。</li> <li>* 理論と実例を通して観光と文化の関係性を理解する。</li> <li>* 地域社会へ観光開発がもたらす影響の諸側面を理解する。</li> <li>* 文化をテーマにした観光の諸活動を理解する。</li> <li>* 観光開発を通して、観光地の地元社会が抱える課題に関する分析力向上を目指す。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光文化研究」  授業：授業趣旨説明＋自己紹介（観光研究×観光開発×東南アジア）  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第2回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光」  授業：観光の概要と構造  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第3回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化人類学」  授業：観光人類学とは：文化人類学と観光研究  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第4回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「植民地主義」  授業：観光と植民地主義 観光開発とは  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第5回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化政策・本質主義」  授業：観光の政治性：文化政策と観光開発  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第6回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「世界遺産」  授業：世界遺産と観光開発：東南アジアの事例から  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第7回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光文化」  授業：観光と文化変容 観光化による文化創造  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第8回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「擬似イベント」  授業：観光行動と観光体験  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第9回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「イメージ形成」  授業：観光とメディア 楽園のイメージ形成  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第10回】  予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ダークツーリズム」  授業：観光とノスタルジア  復習：授業内配布物・講義内容の見直し</p> <p>【第11回】</p>			



<p>予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光産業における女性のイメージ」          授業 : 観光とジェンダー          復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し  <b>【第 12 回】</b>          予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「タイ・少数民族」          授業 : 山岳少数民族のイメージと観光          復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し  <b>【第 13 回】</b>          予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光資源」          授業 : 観光と人・モノの移動          復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し  <b>【第 14 回】</b>          予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「ふるさとの資源化」          授業 : 観光と文化の資源化          復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し  <b>【第 15 回】</b>          予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光問題」          授業 : まとめ 観光人類学から観光を再考する          復習 : 授業内配布物の見直し、レポートのコメント・総評</p>								
授業開始前学習	参考文献に示している文献などで観光学習の基礎的知識について理解を深めておき、自分自身の過去の観光した経験に関するついて整理しておこう。また、観光に関わるニュースメディア・観光雑誌・インターネットなどで気になることがあったら、メモをとっておこう。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回のリアクションペーパー課題内容について、適宜見直しを行う。また、必要に応じて課題の記述内容を適宜授業内で紹介してコメントする。							
テキスト・教材	特定の教科書は使用しない。講義の中でプリントを配布する。参考とする文献、WEB サイトは適宜配布プリントの中で提示する。							
参考書	山下 晋司 「観光学キーワード」有斐閣双書 2011 安村克己その他（編）よく分かる観光社会学 2011 須藤廣その他（編）観光コミュニケーション論 2022							
評価の基準と方法	出席回数が学則の条件を満たした者を評価対象とする。 講義ごとに提出するリアクションペーパー課題(20%)、受講態度(20%)、期末レポート(60%)で評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	観光社会学							
その他	講義資料として、文献や映像を提示するので批判的に読み解いて欲しい。 なお、受講者数や理解度合いにより授業の予定を変更することもある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	旅行業実務論		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Travel Business	授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 金曜日 13:00~14:30 後期 木曜日 10:40~12:10 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-606
授業概要	旅行業は、交通運輸業・宿泊業と共にツーリズム産業の要となる重要な産業であり、経済面のみならず、社会・文化面・世界平和などにも貢献する産業である。近年、インターネットや AI などテクノロジーの進化と共に、グローバル競争や新しい業態が出現し、旅行業を取り巻く環境は大きく変化している。本科目では、旅行業の歴史、分類や特徴、最新の動向を理解すると共に、旅行実務の専門用語や仕事内容について学ぶことができる。ツアー商品企画の知識を習得し、期末課題ではツアー企画の実践を行う。また旅行会社へのインターンシップ実習の前提授業として、旅行業界への進路設計の一助となるであろう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 旅行業の歴史と旅行業の仕組みを体系的に理解する</li> <li>② 旅行実務の知識・専門用語を習得する</li> <li>③ 授業レポートを通じて文章力を向上させる</li> <li>④ 旅行企画を自分でできるようになる</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>予習：教科書の「はじめに」を読む            授業：授業の概要と方針・評価方法の説明・旅行業インターンシップ実習の概要            旅行業の歴史と旅行市場            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第2回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：旅行業の特徴と環境変化 《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第3回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：旅行会社の業務と組織 《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第4回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：航空手配実務の専門知識《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第5回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：宿泊手配実務の基礎知識《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第6回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：ツアー企画実務①ツアー企画の目的とマーケティング・プロセス《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第7回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：ツアー企画実務②事業化調査《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第8回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：ツアー企画実務③市場調査と旅行者ニーズ《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第9回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：ツアー企画の基礎知識④商品計画 《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第10回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：ツアー企画の基礎知識⑤価格決定と広告宣伝《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第11回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく            授業：販売接客サービスの実務 《ディスカッション》            復習：授業レポートの提出</p> <p>【第12回】            予習：教科書の該当箇所を読んでおく</p>			

授業：法人営業・MICE 実務《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 【第 13 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：インバウンド実務《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 【第 14 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：添乗・ガイドの実務《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 【第 15 回】 予習：発表の準備をする 授業：旅行業界への進路設計のための情報収集《ディスカッション》 復習：講評を参考にする								
授業開始前学習	旅行会社を通じて旅行商品の購入やサービスを受けて、実際に旅行をするとより理解が深まる。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	鮫島卓（2019）『旅行業実務論』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	授業の中で、適宜紹介する。							
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テスト成績 1 回 4 点×15 回（60%）、期末レポートの成績（40%）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目	この授業は、インターンシップ実習 A（旅行業）、海外インターンシップ実習の前提授業であり、科目希望者は履修が必要。観光文化コース専門ゼミで取組むツアープランにも有効な専門知識を得ることができる。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	担当教員は、21 年間の旅行業に従事した実務経験者であり、授業ではプロ目線の旅行業の専門知識の学習はもちろん、仕事のやりがいや苦労など実体験に基づいた話をすることができる。特に旅行業界への進路を希望する学生には、有意義な科目となるであろう。							

科目名称	宿泊業・飲食業実務論		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Hospitality and Catering Industries	授業区分	講義
科目責任者	大野 恵子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大野 恵子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本授業では、宿泊業が存在してきた歴史と変遷を考察し、宿泊業と旅行の関連性を学ぶ。宿泊業におけるマーケティング活動と収益性など専門的な知識を修得すると共に、ホテル・旅館経営の基本と収益構造の相違点を理解する。続いて、生活と文化から始まるフードビジネス（食品、外食産業）の基本的な歴史と背景を解説する。日本と欧米市場のフードビジネスにおいて、経営設計と管理手法が異なる実情と収益構成を理解する。		
到達目標	旅行の重要な構成要素である宿泊とフードビジネスの関与と要因を理解し、旅行産業における総合的な知識を構築するため、6の到達目標がある。①宿泊施設の歴史と変遷の理解 ②宿泊サービス業の経営戦略とマーケティングの修得 ③日本におけるホテルと旅館の位置づけの理解 ④フードの歴史と文化を理解 ⑤フードビジネスの経営戦略と収益設計の修得 ⑥フードビジネスの発展と方向性を理解		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：シラバスを参照し、宿泊産業と飲食業に関する参考文献を確認する。  授業：イントロダクション、宿泊業・飲食業実務論の概要と授業方法の説明  復習：授業スケジュールと受講ルール、宿泊産業と飲食業に関する参考文献の概要を再確認する。授業で配布した課題を提出する。</p> <p>【第2回】  予習：参考文献及び事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：宿泊施設の歴史と変遷  復習：配布資料を復習し、課題を提出する。</p> <p>【第3回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：ホテルの経営戦略における歴史と発展  復習：配布資料を復習し、課題を提出する。</p> <p>【第4回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：ホテルの市場構成と経営  復習：配布資料を復習し、演習問題を提出する。</p> <p>【第5回】  予習：事前に配布した資料を読み調べておく。質問をノートにまとめる。  授業：ホテルの収益設計  復習：配布資料を復習する。課題を小グループでディスカッションした後、提出する。</p> <p>【第6回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：ホテルのマーケティング  復習：配布資料を復習し、課題を提出する。</p> <p>【第7回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：ホテルの経営管理  復習：配布資料を復習し、演習問題を提出する。</p> <p>【第8回】  予習：参考文献及び事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：日本の宿泊産業と旅館  復習：配布資料を復習し、課題を提出する。</p> <p>【第9回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：旅館の経営と戦略  復習：配布資料を復習し、課題を提出する。</p> <p>【第10回】  予習：参考文献及び事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：フードの歴史と文化  復習：配布資料を復習し、演習問題を提出する。</p> <p>【第11回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：日本におけるフードビジネス市場  復習：配布資料を復習し、演習問題を提出する。</p> <p>【第12回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：フードビジネスの経営とサービス設計</p>			

<p>復習：配布資料を復習し、課題を小グループでディスカッションした後、提出する。  【第13回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：フードビジネスの経営と収益管理  復習：配布資料を復習し、課題を提出する。  【第14回】  予習：事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：UNESCO無形文化遺産と食文化、ミシュランガイド、フードビジネスとSDGs  復習：配布資料を復習し、課題を提出する  【第15回】  予習：参考文献及び事前に配布した資料を読み理解しておく。質問をノートにまとめる。  授業：観光ビジネスと経済  復習：配布資料を復習する。課題を小グループでディスカッションした後、レジュメを提出する。</p>								
授業開始前学習	ホテル、旅館、カフェ、レストランなどのウェブサイトから、各社のコンセプト、提供商品、新しいサービスへの取り組みなどを考察しておく。さらに、施設と設備、スタッフとサービスの相違点などを深く修得するにあたり、参考文献を読んでおく授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、講義にて配布するワーキングペーパー（課題または演習問題）に関して、翌週の講義初めに補足説明を行うと共に、個別質問に回答する。							
テキスト・教材	特に指定しない。毎回授業で資料を配布する。							
参考書	徳江順一郎著『宿泊産業論、ホテルと旅館の事業展開』（創成社）2020年 大浦裕二編著、佐藤和憲編著『フードビジネス論』（ミネルヴァ書房）2021年 日本フードサービス学会著『現代フードサービス論』（創成社）2015年							
評価の基準と方法	定期試験 60%、ディスカッション及び演習問題と課題の提出 40%により総合評価を行なう。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目								
その他	日本のホテルと外資系のホテル、そして旅館などに宿泊してみる。ロビーやパブリックエリアに立ち寄るだけでも宿泊業態の個性と顧客の動向が理解できる。加えて、日頃利用しているカフェやレストランのサービスを観察してみる。いつも満席である、または空席がたくさんある、待たされている顧客の態度、スタッフの対応など、全てが業績に反映している。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	フランス、パリに本部のあるインターナショナルホテル・グループの日本アジア地区支社長と日本地区コールセンターの運営管理を20年間に渡り統括した。日本市場に適合する流通チャネルの拡大、ウェブ・マーケティングとローカリゼーションを含むマーケティング・ミックス戦略の構築と実行から幅広い知識と経験がある。国内外のケース・スタディも参照し日本市場だけでなく国際的な視野で専門知識を修得する指導を行なう。							

科目名称	航空・空港業実務論		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Aviation and Airport Industries	授業区分	講義
科目責任者	木内 伸樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 伸樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	航空業務の中で特にエアライン業界の顔ともいえるキャビンアテンダント、グランドスタッフの業務を理解し、その業務に必要な知識を身に付ける。 合わせて空港を取り巻くまたホスピタリティ産業の一員として、業務を遂行する上での立ち振る舞い、身だしなみ、言葉遣いなど航空業界、空港業務で活躍できる人材となるために必要な接遇を学ぶ。		
到達目標	①企業理念に合わせた自分の強みをまとめる力を身につける。 ②航空業務のキャビンアテンダント、グランドスタッフの業務を理解する。 ③空港業務はどのような職種があるかを具体的に理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
『第1回』 予習：日本の航空会社のホームページを確認する 授業：航空業務のカスタマーサービス部門の業務（CA・GS） 復習：授業資料を再読み、カスタマーサービス部門の業務について整理する			
『第2回』 予習：日本の航空会社の旅客サービス業務などをホームページで確認する 授業：空港旅客サービスの基礎知識 復習：授業資料を再読み、旅客サービススタッフの業務について整理する			
『第3回』 予習：日本の航空会社の旅客サービス業務などをホームページで確認する 授業：客室業務の基礎知識 復習：授業資料を再読み、グランドスタッフの業務について整理する			
『第4回』 予習：指定した日本の航空会社の年次報告書をダウンロードし気になる内容を整理する 授業：日本の航空会社の企業理念研究①（グループワーク：企業理念と業務についてディスカッション） 復習：年次報告書を再読み、その理念がCA・GS業務にどう影響しているかを理解する			
『第5回』 予習：指定した日本の航空会社の年次報告書をダウンロードし気になる内容を整理する 授業：日本の航空会社の企業理念研究②（グループワーク：企業理念と業務についてディスカッション） 復習：年次報告書を再読み、その理念がCA・GS業務にどう影響しているかを理解する			
『第6回』 予習：年次報告書を再読み、その理念がCA・GS業務にどう影響しているかを整理する 授業：企業理念と自己理解（プレゼンテーション：企業理念に合わせた自分の強み） 復習：フィードバックを基に、企業理念と自分の強み、志望動機をまとめる			
『第7回』 予習：アルバイトなど接客の際に意識していることを考えてまとめておく 授業：表現力を鍛える（グループワーク：どのような表情や声掛けができるか） 復習：フィードバックを基に、自分の表現力の強みを再確認する			
『第8回』 予習：グランドスタッフの業務について資料を見直しておく 授業：航空旅客業務：搭乗手続 復習：旅券・査証・その他出入国書類の確認、航空券記載内容確認、座席指定と搭乗券発行などについて整理する			
『第9回』 予習：グランドスタッフの業務について資料を見直しておく 授業：搭乗手続きに関連して必要な業務知識 表現力を鍛える（グループワーク：どのような表情や声掛けができるか） 復習：出国手続き、予約・発券業務、団体の搭乗手続きなどの業務について整理する			
『第10回』 予習：どのような空港業務があるかウェブサイト・書籍などで確認しておく 授業：空港旅客業務：空港旅客サービス 復習：ラウンジサービス、搭乗案内業務など顧客をサポートし快適さを提供する業務について整理する			
『第11回』 予習：どのような空港業務があるかウェブサイト・書籍などで確認しておく 授業：空港旅客業務：空港旅客サービス 復習：ラウンジサービス、搭乗案内業務など顧客をサポートし快適さを提供する業務について整理する			
『第12回』 予習：客室乗務員についてウェブサイト・書籍などで確認しておく 授業：客室乗務員：保安要員、サービス要員としての業務 復習：客室乗務員の業務について整理する			



『第13回』 予習： 授業を通してアルバイトなど接客の際に活かしていることをまとめておく 授業： 航空・空港業務に携わるスタッフとしての基本的な心構え（グループワーク：ロールプレイ形式） 復習： 基本的な心構えについて実践してみる 『第14回』 予習： 授業を通してアルバイトなど接客の際に活かしていることをまとめておく 授業： 航空・空港業務に携わるプロとしての身だしなみと基本動作（グループワーク：ロールプレイ形式） 復習： 身だしなみと基本動作について日々心掛ける 『第15回』 予習： 丁寧な表現技法などについて調べておく 授業： 空港における接客の言葉遣い：挨拶、基本接客用語、敬語など 復習： 日々の生活で接客の言葉遣いを意識して使用する								
授業開始前学習	航空会社のホームページ、アニュアルレポートなどから、企業の理念、取組みなどについて資料をまとめ自分の意見を添えてファイリングする。							
授業内課題のフィードバックの方法	グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、航空・空港業務の現場の声を伝える。							
テキスト・教材	授業資料（プリント等）を適宜配布する。テキストは特に指定しない。							
参考書	図書館には航空・空港に関する雑誌や書物が多数あるので、積極的に利用し自らの参考書を見つけて欲しい。その他、適宜授業内で雑誌・書籍を紹介する。							
評価の基準と方法	学期末レポートの成績（40%）、授業への積極性・態度・取組み姿勢（20%）、授業内課題(40%)の総合評価。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目	ホスピタリティ・マネジメント							
その他	自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	27 年間にわたり外資系航空会社にて、マーケティング及び客室乗務部のスーパーバイザーとしての実務経験と旅行会社で添乗員としての経験あり。航空会社や観光産業で使用される観光英語について、専門用語を教え社員に必要とされる英語力についての講義をする。							



科目名称	広告・メディア実務論		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Advertising and Media Industries	授業区分	講義
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30~12:00 木曜日 10:30~12:00 後期 火曜日 10:30~12:00 木曜日 10:30~12:00	研究室	10-613
授業概要	人はみな情報をインプットし、咀嚼して、自分なりの考えや創造物をアウトプットする。そのアウトプットこそが周りから評価されるものである。そのインプット情報は、すべてメディアを通して得られる。それらメディアが、近年大きく変化している。インターネットが登場し、ブログ、動画サイト、フェイスブックなどソーシャルメディアなどネットの進化は留まるところを知らない。この授業では、新聞、雑誌、テレビなど既存メディアやネットメディアの基本とそこで発信されるジャーナリズムの基本を学ぶ。また、広告の役割を含めたそれらのビジネスモデルを考察する。		
到達目標	いろいろなメディアの成り立ち、意味、主義主張などの傾向を知ることができるようになる。 メディアにおける情報の真偽を見極められるようになる。 インスタグラム、フェイスブックやツイッターなど SNS の正しい使い方を学ぶことができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>※この授業は毎回以下の3部から構成される。</p> <p>1) 毎週、「今週気になったニュース」を発表。※毎週月曜日までにみんなと共有したい「今週のニュース」を提出してもらいます。提出されたニュースからいくつか選んで、そのニュースについての解説。</p> <p>2) 前週のフィードバック。※毎週授業のリアクションコメントを提出してもらいます。</p> <p>3) 新規のメディア授業</p> <p><b>第1回</b>          予習：自分が接しているメディア（テレビ・新聞・ラジオ・ネット・携帯）の頻度、時間を整理しておく。          授業：全般のガイダンスと学生全般のメディアへの接触度調査を元にして現在のメディアの状況を知る。（発表）          復習：いろいろなメディアにまんべんなく目を通す。</p> <p><b>第2回</b>          予習：メディアの役割を漠然とでかまわないので考えておく。          授業：メディアの役割（メディアの種類）。（発表）          復習：いろいろなメディアを意識して見てみる。</p> <p><b>第3回</b>          予習：テレビや新聞などが世の中に広まっていった順番を考える。          授業：メディアの変遷（メディアはどう変わっていったのか）。（発表）          復習：好きな雑誌はじめていろいろなメディアを見てみる。</p> <p><b>第4回</b>          予習：販売されている女性誌に目を通しておく。          授業：ファッション女性誌はどうやって創られるか？ 雑誌編集者の役割。（発表）          復習：好きなファッション女性誌を見てみる。</p> <p><b>第5回</b>          予習：新聞に目を通して、興味ある記事を読んでおく。          授業：新聞はどうやって創られるか？ ジャーナリズムとはなにか？ 新聞記者と書籍ライターとの違い。編集者との違い。（発表）          復習：新聞を手にとって、社会面、政治面、外交面など面によって内容の違いを確認する。</p> <p><b>第6回</b>          予習：新聞や雑誌に掲載されている広告をチェックしておく。          授業：ビジネスとしての出版と新聞メディア（広告との関係）。（発表）          復習：新聞や雑誌を手にとって、広告の入り方を見てみる。</p> <p><b>第7回</b>          予習：いろいろなブログ、ソーシャルメディアをチェックする。          授業：マスコミとブログ、ソーシャルメディア、その違い。（発表）          復習：ネットメディアの観察。</p> <p><b>第8回</b>          予習：YouTube、ニコニコ動画など動画メディアをチェックする。          授業：動画メディアとテレビの違い。（発表）          復習：いろいろな動画サイトの観察。</p> <p><b>第9回</b></p>			

予習：人気のあるブログ、ソーシャルメディアをチェックする。  
 授業：ブログとはなにか？ ブログメディアの可能性。（発表）  
 復習：新たな観点でおもしろいブログを探して見る。

第 10 回

予習：ネットのニュースメディアをチェックする。  
 授業：ネットがなにを変えるのか？ ネットメディアの特徴。（発表）  
 復習：いろいろなニュースメディアの Web サイトを見てみる。

第 11 回

予習：ネットで著作権違反をしていると思われるサイトをチェックしておく。  
 授業：メディアで表現する前に著作権のことを知っておこう。（発表）  
 復習：CC（クリエイティブコモンズ）のコンテンツを探してみる。

第 12 回

予習：インスタグラム、ツイッターなど SNS をチェックしておく。  
 授業：インスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどソーシャルメディアの正しい使い方。（発表）  
 復習：アカウントを開設して、他人のコンテンツを読んでみよう。

第 13 回

予習：ユーチューバーの動画サイトその他をチェックする。  
 授業：Youtube その他動画サイトの閲覧法と使い方。（発表）  
 復習：Youtube サイトにアカウントを開設してお気に入りを作る。

第 14 回

予習：最新ネットメディアを探しておく。  
 授業：進化するネットメディアに私たちはなにを考えて向き合うのか？（発表）  
 復習：新しいネットメディアを考える。

第 15 回

予習：自分の職業としての観点からネットメディアを観察しておく。  
 授業：メディアの未来。今後どのように進化していくのか。その他まとめ。（発表）  
 復習：クリエイティブの目で世の中を見る。

※講義内容は、そのときどきの社会の状況で変更する場合もある。

授業開始前学習	ネットのみならず、新聞や雑誌、テレビなど興味深く接する。それらのメディアを通して、毎日のニュースがどのように報道されているかを確認する。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。							
テキスト・教材	適宜資料を閲覧してもらいます。							
参考書								
評価の基準と方法	講義に対する積極性（40%）、各講義での提出レポート（20%）、最終レポート（40%）での総合評価で過ごします。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。							

科目名称	エンターテインメント業実務論		
科目分類	120-320-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Entertainment Industries	授業区分	講義
科目責任者	黒澤 行紀	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒澤 行紀	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	エンターテインメント産業の構造と概念を観光産業に関わる社会的背景から概観し、具体的な実務の現状を考察します。非日常的な集客施設であるテーマパーク、鑑賞レジャー（ミュージアム、劇場、スポーツ等）や日常的な外食産業や商業施設など各種エンターテインメント産業を事例としながら、その発展プロセスや地域的展開、実務の種類などの現状や課題について把握し可能性や問題点を検討します。授業内容は随時ディスカッションやグループワークを含めます。進行状況により授業内容が前後・変更します。		
到達目標	エンターテインメント産業が新しい観光文化の創造や地域活性に与える影響について理解し、観光・エンターテインメント実務に関する基本的な知識を動画などを使用しながら習得します。また、エンターテインメント産業の現状の把握と今後のエンターテインメント産業の推測ができるようになることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：観光およびエンターテインメント産業の内容を事前に調べておく  授業：講義内容および観光・エンターテインメント産業の概要と類型（日常と非日常）  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第2回】  予習：エンターテインメントって何かについて調べておく  授業：遊びの概念とは  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第3回】  予習：テーマパークの種類について調べておく  授業：テーマパーク産業の類型と現状  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第4回】  予習：ディズニーリゾートについて調べておく  授業：ディズニーリゾートの誕生と発展プロセス  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第5回】  予習：東京ディズニーリゾートについて調べておく  授業：東京ディズニーリゾートの形成と発展とサービス・ホスピタリティ  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第6回】  予習：USJについて調べておく  授業：TDRとUSJの違い  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第7/8回】  予習：ホスピタリティ産業の顧客満足の実態について調べておく  授業：テーマパークの顧客満足：1.動画など参考資料から 2.データ分析から  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第9回】  予習：クルーズについて調べておく  授業：クルーズ船を事例に  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第10回】  予習：美術館・博物館について調べておく  授業：ミュージアムを事例として  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第11回】  予習：万博について調べておく  授業：イベント・コンベンションを事例として  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第12/13回】  予習：日常の身近な集客施設について調べておく  授業：百貨店・ショッピングモール・外食産業を事例として：1.歴史と成り立ちについて 2.日本の現状と将来性について  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第14回】  予習：演劇・コンサートなど舞台芸術について調べておく  授業：舞台芸術（主に演劇）のハードとソフトについて劇団四季を事例として</p>			

<p>復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第15回】 予習：ラスベガスのエンターテインメント産業やカジノ（IRリゾート）について事前に調べておく 授業：地域とエンターテインメントーラスベガスと秋田を事例としてー 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>※ 講義内容が変更になることもあります。</p>								
授業開始前学習	エンターテインメント産業の基本的知識を学習もしくは体験しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内にてテーマごとの講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	講義中に配布する出席票および授業態度、講義後の授業レポートを60点（4点満点×15回）、期末レポート40点、合計100点で評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした 教育内容	ツーリズム関連のイベント企画・実務経験あり。地域活性や集客の課題、実践について講義する。							

科目名称	ライフイベントデザイン実務論		
科目分類	120-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Life Event Design in Practice	授業区分	講義
科目責任者	黒澤 行紀	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒澤 行紀	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ライフイベントをデザインするためには、人々が一生涯の間に経験する人生上の出来事を各段階において知る必要があります。この授業では、ライフコースの概念を学んだうえで、主に出生、結婚、高齢期から死にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、ホスピタリティ産業の視点とサービス提供者および消費者行動の視点を実務に沿って理解し、自らのキャリア形成や生き方も考えながらライフイベント 産業の仕組みを考察することを目的とします。ライフイベントの中で関わる産業を動画などを利用して理解してもらいますが、主にブライダルビジネスに関する内容が主となります。		
到達目標	本授業の到達目標は、以下の1～3です。 1. ライフイベントをデザインする産業の変化を時代背景と関連させて説明できるようになる 2. 「一生に一度のメモリアル」であるライフイベントの特徴を社会的な仕組みと関連させて説明できるようになる 3. ブライダルビジネスに必要な知識と教養を身につけるようになる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：ライフイベント に付随する産業の内容を事前に調べておく 授業：オリエンテーション：授業の概要や進め方についての説明、授業の目的を確認する 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第2回】 予習：ライフイベント とは何かについて調べておく 授業：ライフサイクルからライフコースへ（自分のライフイベントを作成し、発表） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第3回】 予習：ライフイベント とは何かについて調べておく 授業：ライフコース論の基礎的な概念（ライフイベント へのアプローチ方法） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第4回】 予習：出産について調べておく 授業：赤ちゃん関連産業について 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第5回】 予習：病院サービスについて調べておく 授業：病院のサービス・ホスピタリティ 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第6回】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：ブライダルとは 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第7/8回】 予習：海外の結婚について調べておく 授業：結婚の歴史と世界の結婚事情 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第9回】 予習：日本の結婚の慣習について調べておく 授業：ブライダルにまつわる慣習・由来 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第10/11回】 予習：婚礼や挙式について調べておく 授業：ブライダルの分類：日本について 1、西洋について 2 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第12回】 予習：ホテル産業の婚礼事情について調べておく 授業：ホテル等婚礼部門の組織と役割 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第13回】 予習：介護ビジネスについて調べておく 授業：介護事情について 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく 【第14回】			

<p>予習：葬式について調べておく          授業：葬儀・法事：宗教による分類、葬儀の形態、法事の種類、マナー          復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく  <b>【第15回】</b>          予習：第1回から14回までの内容について確認しておく          授業：授業の総括          復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>※ 講義内容が変更になることもあります。</p>								
授業開始前学習	ライフイベントやライフコースについての知識を得たり考えさせられたりするようなニュース、新聞・雑誌の記事、書籍などを見つけてくれるようしてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	<授業形態> この授業は、対面で行うことを想定しています。 <授業の進め方> 講義を中心としますが、受講者のみなさんからトピックを提供してもらったり、発表をしてもらったりします。 <授業後> 課題レポートの提出を求めます。 <課題等に対するフィードバック方法> 課題レポートに記載された内容・コメントを次の授業内で抜粋して取り上げ、フィードバックします。							
テキスト・教材								
参考書	安藤由美（2003）『現代社会におけるライフコース』日本放送出版協会 嶋崎尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社							
評価の基準と方法	課題レポートと授業態度 60点（4点満点×15回）、期末レポート 40点の合計 100点で評価します。 課題レポートと期末レポートは期限厳守です。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	☆短期インターンシップ°実習 A/インターンシップ°実習 A		
科目分類	120-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Short Term Internship A/Domestic Internship A	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・田代・本間・渡邊(光)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修もお勧めしておきたい。</p> <p>当科目では旅行業・宿泊・リゾート・テーマパーク業、航空業の短期インターンシップを行う。 短期の定義は原則 14 日間未満または実勤務 11 日未満とする。</p>		
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>本年度は、社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。履修希望者は後日発表する第 1 回目授業に必ず出席すること。第 1 回目に実習内容の説明と実習先を決定する。</p> <p>【第 1 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する 授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介 復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）</p> <p>【第 2 回】《ディスカッション》 予習：希望実習先企業の情報を下調べする 授業：講義「企業研究の技法」 復習：エントリーシートを提出</p> <p>【第 3 回】 予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える 授業：講義「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）</p> <p>【第 4 回】《実技訓練》 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー 復習：学んだことをふりかえり改善する</p> <p>【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先との面談の準備をする</p> <p>【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼の連絡をする</p> <p>◆実習は各受入先によって日程・期間（5 日間～）・参加条件は異なる。詳しくは事前授業で周知する。 ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。 ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。</p>			
授業開始前学習	実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。		
授業内課題の フィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。		
テキスト・教材	なし。		
参考書			



評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート」などにより、総合的に評価する。配点（100点満点）は、実習の取り組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）90点・実習日報・実習レポート10点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○			◎
関連科目	この科目は「旅行業実務論」「宿泊業・飲食業実務論」「航空・空港業実務論」「エンターテインメント業実務論」「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」「広告・メディア業実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第1回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邊はメディア業の実務経験を、本間は旅行業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目名称	☆短期インターンシップ°実習 B/インターンシップ°実習 B		
科目分類	120-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Short Term Internship B/Domestic Internship B	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・田代・本間・渡邊(光)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修もお勧めしておきたい。</p> <p>当科目ではA以外の業種（広告出版・ブライダル・観光協会・DMO・行政・金融等）の短期を行う。 短期の定義は原則 14 日間未満または実勤務 11 日未満とする。</p>		
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>本年度は、社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。履修希望者は後日発表する第 1 回目授業に必ず出席すること。第 1 回目に実習内容の説明と実習先を決定する。</p> <p><b>【第 1 回】</b>  予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する  授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介  復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）</p> <p><b>【第 2 回】《ディスカッション》</b>  予習：希望実習先企業の情報を下調べする  授業：講義「企業研究の技法」  復習：授業レポートを提出</p> <p><b>【第 3 回】</b>  予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える  授業：講義「履歴書の書き方」  復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）</p> <p><b>【第 4 回】《実技訓練》</b>  予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する  授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー  復習：学んだことをふりかえり改善する</p> <p><b>【第 5 回】</b>  予習：実習先企業の企業研究をする  授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について  復習：実習先との面談の準備をする</p> <p><b>【第 6 回】</b>  予習：アポイントの確認をする  授業：面談の実施  復習：お礼の連絡をする</p> <p>◆実習は各受入先によって日程・期間（5 日間～）・参加条件は異なる。詳しくは事前授業で周知する。  ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。  ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。</p>			
授業開始前学習	実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。		
テキスト・教材	なし。		
参考書			

評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート」などにより、総合的に評価する。配点（100点満点）は、実習の取り組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）90点・実習日報・実習レポート10点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○			◎
関連科目	この科目は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」「広告・メディア実務論」「ライブイベントデザイン実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第1回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邊はメディア業の実務経験を、本間は旅行業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目名称	☆中期インターンシップ実習／インターンシップ実習 C		
科目分類	120-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Medium Term Internship／Domestic Internship C	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・田代・本間・渡邊(光)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修も勧めておきたい。 当科目では、すべての業種にわたり原則 14 日間以上 30 日間未満または実勤務 21 日未満のインターンシップが対象となる。		
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>本年度は、社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。履修希望者は後日発表する第 1 回目授業に必ず出席すること。第 1 回目に実習内容の説明と実習先を決定する。</p> <p>【第 1 回】  予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する  授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介  復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）</p> <p>【第 2 回】《ディスカッション》  予習：希望実習先企業の情報を下調べする  授業：講義「企業研究の技法」  復習：授業レポートを提出</p> <p>【第 3 回】  予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える  授業：講義「履歴書の書き方」  復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）</p> <p>【第 4 回】《実技訓練》  予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する  授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー  復習：学んだことをふりかえり改善する</p> <p>【第 5 回】  予習：実習先企業の企業研究をする  授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について  復習：実習先との面談の準備をする</p> <p>【第 6 回】  予習：アポイントの確認をする  授業：面談の実施  復習：お礼の連絡をする</p> <p>◆実習は各受入先によって日程・期間（5 日間～）・参加条件は異なる。詳しくは事前授業で周知する。  ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。  ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。</p>			
授業開始前学習	実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。		
授業内課題の フィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。		
テキスト・教材	なし。		
参考書			

評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート」などにより、総合的に評価する。配点（100点満点）は、実習の取り組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）90点・実習日報・実習レポート10点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○			◎
関連科目	この科目は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」各種「実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第1回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邊はメディア業の実務経験を、本間は旅行業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目名称	海外インターンシップ実習		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overseas Internship	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張・杉野	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	観光ホスピタリティ産業は日本の新たな成長産業となっている。本授業では、観光ホスピタリティ産業の中核的産業である旅行業・ホテル業の実務知識を深めるため、事前学習とハワイでのインターンシップ実習を行う。ハワイでは、通常の旅行では経験できない高級リゾートホテル・旅行会社の舞台裏を体感することができる。また日米交流プログラムにも参加し、日米交流の懸け橋となる体験をする。最終的にコミュニケーションやビジネスマナーなど社会人基礎力を養うことも目的としている。		
到達目標	旅行業務・ホテル業務について実習を通じて理解を深める。また、日本と海外のホスピタリティの違いを学ぶ。さらにビジネスマナー・身だしなみなど社会人基礎力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読んでおく  授業：授業概要・インターンシップ実習概要や手続き・評価方法の説明  復習：配布資料の復習</p> <p>【第2回】  予習：配布資料を読んでおく  授業：接客実務の基礎知識とビジネスマナー  復習：配布資料の復習</p> <p>【第3回】  予習：配布資料を読んでおく  授業：海外渡航のための手続き、旅券・ESTA取得の説明など  復習：配布資料の復習</p> <p>【第4回】  予習：配布資料を読んでおく  授業：ハワイ観光資源研究と国際交流の意義  復習：配布資料の復習</p> <p>【第5回】  予習：リクルートスーツ・身だしなみを準備する  授業：身だしなみ・マナーセミナー  復習：学んだことを復習する</p> <p>【第6回】  予習：プレゼンテーションの準備をする  授業：英語での自己紹介と課題テーマのプレゼンテーション（プレゼンテーション）  復習：プレゼンテーションのふりかえり</p> <p>【第7回】  予習：リクルートスーツ・身だしなみを準備してプレゼンテーションの準備をする  授業：東京マリオットホテルとJTBを訪問、旅行説明会と課題テーマのプレゼンテーション（プレゼンテーション）  復習：学んだことを復習する</p> <p>【第8回】  予習：実習の準備をする  授業：12日間のハワイ海外実習  復習：日々実習レポート作成</p>			
授業開始前学習	ホテル業・旅行業に関する資料やハワイのガイドブック等を出来るだけ多く読むこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。		
テキスト・教材	なし。		
参考書			
評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習ノート」などにより、総合的に評価する。 配点（100点満点）は、実習の取り組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）90点・実習ノート10点とする。		

ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○			◎
関連科目	この科目は、「旅行業実務論」、「宿泊業・飲食業実務論」、「ホスピタリティ概論」、その他の「実務論」の中、どれか一つを既に履修又は履修中の学生（観光文化学類）であることが望ましい。							
その他	実習受入先には限度があるので、履修希望者が多数の場合は、学内選抜（面接）を行う。 履修希望者は、初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また、連絡事項はその都度掲示するので注意して見ること。さらに研修先はハワイ（ホノルル）とし、1 2 日間程度の予定で実施する。旅行費用は33～35万円程度であるが、参加人員の減少、国際情勢の変化、為替の大幅な変動などにより、実施時期・旅行費用の変更及び実施中止もあり得る。なお、海外での研修のため、旅行に不参加の場合は単位を付与しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	長期インターンシップ実習		
科目分類	120-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Long Term Internship	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・本間	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	観光ホスピタリティ産業の知識を深めるため、観光関連会社等でインターンシップを実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修者希望者は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティマネジメント」、各種「実務論」の履修を勧めておきたい。 問う科目では該当するすべての業種にわたり、原則1ヶ月以上の実勤務のインターンシップが対象となる。		
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーションを身につけることで、実習先での成果や評価を高める。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】            予習：希望する業種を各自でインターネット等を用いて調査する            授業：ガイダンス：授業計画、評価方法、実習先の紹介            復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）</p> <p>【第2回】            予習：希望する業種を各自でインターネット等を用いて調査する            授業：講義：「企業研究の技法」            復習：授業レポートを提出する</p> <p>【第3回】            予習：志望実習先を検討する            授業：講義：「履歴書の書き方」            復習：授業レポートを提出する（希望実習先エントリー）</p> <p>【第4回】            予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する            授業：元客室乗務員によるマナーセミナー            復習：学んだことをふりかえり改善する</p> <p>【第5回】            予習：実習先企業の企業研究をする            授業：実習前オリエンテーション：各実習内容説明、実習日報・レポートの提出について            復習：実習先企業との面談の準備をする</p> <p>【第6回】            予習：アポイントの確認をする            授業：面談の実施            復習：お礼を連絡する</p> <p>◆実習先によっては人数制限がかかる場合がある。</p>			
授業開始前学習	実習先企業や業界に関する文献をできるだけ多く読み、自分が希望する業種や企業を選定しておくのが望ましい。		
授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学修が不足している学生は呼び出し、個別指導を行う。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いを修正し、フィードバックを実施する予定である。		
テキスト・教材	特になし。		
参考書			
評価の基準と方法	実習先の評価を基本として、実習の取り組み姿勢、「実習日報」の提出状況や「実習レポート」の内容により総合的に評価する。配点（100点満点）は、実習先担当者による評価（90点）、実習日報・実習レポート（10点）とする。		
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成
			観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○			◎
関連科目	「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティマネジメント」、各種「実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	<p>将来、観光ホスピタリティ産業に就職希望する学生は履修が望ましい。</p> <p>履修希望者は、後日発表する第1回授業に必ず出席すること。</p> <p>また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom にも参加すること。</p> <p>なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。</p>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 120 時間 + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	<p>本科目は複数の実務経験者による指導科目である。担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邊はメディア業の実務経験を、本間は旅行業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMOの実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。</p>							

科目名称	国内旅行研修		
科目分類	120-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Domestic Travel Management Training	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・本間	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本授業では、国内旅行企画とその実践を通じて観光産業の仕組みとホスピタリティを学ぶことを目的とする。事前学習では旅行企画の仕方、プレゼンテーションの技法を学ぶ。学外実習として旅行会社の視察、ホテルの視察のほか、バスガイド実習と事前に企画した旅行プランの実践を行う沖縄本島での3泊4日の研修旅行を予定している。ホテル日航アリビラでの視察も行う。将来、観光産業を目指す学生はもちろん、社会人基礎力を養う有意義な機会になるであろう。		
到達目標	① 旅行企画を自らできるようになる。 ② グループワークを通じてコミュニケーション力を向上させる。 ③ 旅行企画発表やガイド実習でプレゼンテーション力を向上させる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】          予習：シラバスを読んでおく          授業：授業概要・研修旅行内容・評価方法の説明          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第2回】          予習：配布資料を読んでおく          授業：演習 自己紹介・添乗実務実習チームビルディング（チーム編成）          講義「添乗員実務とガイドの技法」          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第3回】          予習：配布資料を読んでおく          授業：ガイド実習準備《グループワーク》          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第4回】          予習：配布資料を読んでおく          授業：ガイド実習発表《プレゼンテーション》          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第5回】          予習：配布資料を読んでおく          授業：沖縄観光関係者によるオンライン講義「観光資源と地域課題」          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第6回】          予習：配布資料を読んでおく          授業：講義「旅行企画の技法」          演習 旅行企画の実践《グループワーク》          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第7回】          予習：企画の準備          授業：講義「プレゼンテーションの技法」 演習 旅行企画の実践《グループワーク》          演習 旅行企画の実践《グループワーク》          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第8回】          予習：企画の準備          授業：旅行企画の実践《グループワーク》          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第9回】          予習：プレゼンテーションの準備          授業：チーム別旅行プラン発表《プレゼンテーション》          復習：授業レポート記入と提出</p> <p>【第10回】学外実習          予習：発表の準備をする          授業：旅行会社訪問とプレゼンテーション《学外実習》          復習：改善点を修正する</p> <p>【第11回】学外実習          予習：旅行の準備をする          授業：3泊4日の研修旅行《学外実習》          復習：レポート提出</p>			

<p><b>【第12回】事後学習</b>          予習：発表の準備をする          授業：事後学習報告会(プレゼンテーション) ※参加者が合意した春休み期間中の日時に実施する          復習：実習レポート提出</p> <p>※3泊4日の研修旅行参加が必須となる          ※研修旅行は2月実施予定である          ※旅行内容は第1回授業時に提示する          ※コロナの感染状況によって内容が変わる場合がある</p>								
授業開始前学習	旅行会社や航空会社のサービスを実際に購入し、サービスを受ける経験があると授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回授業時に授業レポートの記入と提出を義務付ける。次回授業で講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	テキストは使用しないが、資料は適宜配布する。							
参考書	授業のなかで適宜紹介する。							
評価の基準と方法	グループワーク(50点)、実習レポート(30点)、事後学習の発表(20点)で総合評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎
関連科目	観光基本科目「ホスピタリティ概論」・「観光政策論」・「観光マーケティング論」、実務関連科目「旅行業実務論」・「宿泊業実務論」と合わせて履修するとより理解が深まる。							
その他	研修旅行は2月20日(火)～2月23日(金)の3泊4日を予定している。旅行日程は就職活動が本格化する3月と被らないよう設定している。また企業側に配慮願いを出すので、国内インターンシップ実習希望者も積極的に参加してほしい。尚、本科目は観光文化学類だけではなく人間総合学群であれば履修可能である。人数は最低10名としているため希望者数が満たない場合は実施しないことがある。また新型コロナによる緊急事態宣言発令の場合には研修旅行が中止や延期する場合がある。研修旅行費は9万円前後を予定している。研修旅行内容は第1回目の授業時に提示する。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間(2時間×15週) + 予習・復習時間15時間(1時間×15週)							
実務経験を活かした教育内容	授業では、実務経験者の担当教員や旅行会社等の事前授業がある。また研修旅行で添乗員実務研修・ビジネスマナー・観光商品企画の技術を身につける実践学習を行う。							

科目名称	海外旅行研修		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overseas Travel Management Training	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・張	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この授業では、海外旅行の渡航手続などの旅行実務を学ぶと共に韓国の歴史・文化・観光資源・都市政策を学んだ上で研修旅行を実施する。研修旅行では高級ホテル・旅行会社などを舞台裏を視察するほか、学生自ら旅行企画と実践をする。「韓国の過去と未来」をコンセプトとし、日本ではできない体験となる。海外旅行未経験者も観光文化学類ではない人間総合学群の他学類学生も歓迎する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で海外渡航の手続きができるようになる。</li> <li>・自分で旅行プランを企画し実践できるようになる。</li> <li>・韓国の歴史や観光資源について学ぶ。</li> <li>・グループワークや現地学生との交流でコミュニケーション力を向上する。</li> <li>・旅行企画発表でプレゼンテーション力を上げる。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読んでおく  授業：授業概要・評価方法の説明、自己紹介・チームビルディング  復習：配布資料の復習</p> <p>【第2回】  予習：配布資料を読んでおく  授業：講義「韓国の観光資源と歴史」  復習：配布資料の復習</p> <p>【第3回】  予習：配布資料を読んでおく  授業：講義「韓国の国際観光実務」（HIS 韓国支店）  復習：配布資料の復習</p> <p>【第4回】  予習：配布資料を読んでおく  授業：講義「旅行プランの調査法」「プレゼンテーションの技法」  復習：配布資料の復習</p> <p>【第5回】  予習：事前調査をする  授業：旅行プラン企画《グループワーク》  復習：プランの改善をする</p> <p>【第6回】  予習：事前調査をする  授業：旅行プラン企画《グループワーク》  復習：プレゼンテーションの準備をする</p> <p>【第7回】  予習：プレゼンテーションの準備をする  授業：旅行プラン全体発表《プレゼンテーション》  復習：プレゼンテーションのふりかえりをする</p> <p>【第8回】  予習：配布資料を読んでおく  授業：旅行説明会・渡航手続  復習：配布資料の復習</p> <p>【第9回】  予習：国際交流テーマの事前調査をする  授業：国際交流テーマ設定《グループワーク》  復習：復習をする</p> <p>【第10回】  予習：国際交流テーマの事前調査  授業：国際交流プレゼンテーション制作《グループワーク》  復習：プレゼンテーションの準備をする</p> <p>【第11回】  予習：国際交流テーマの事前調査  授業：国際交流プレゼンテーション発表《プレゼンテーション》  復習：プレゼンテーションのふりかえりと改善をする</p> <p>【第12回】  予習：訪問企業の研究</p>			

授業 : HIS 本社訪問、出発前確認、会社説明など《学外実習》 復習 : 出発の準備をする									
授業開始前学習	研修先である韓国に興味を持ち、何らかの資料（図書・ガイドブックなど）を読むこと。								
授業内課題のフィードバックの方法	韓国の現地大学でのプレゼンテーションについての準備を行い、旅行研修の前にプレゼンテーションについて意見交換、修正などを実施する予定である。								
テキスト・教材	必要に応じて配布する。								
参考書									
評価の基準と方法	授業態度（出席状況・意欲など）・レポート内容及び研修旅行での行動などにより総合的に評価する。配点（100点満点）は、授業態度30点・レポート20点・研修旅行での行動50点とする。								
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当				○		△		◎	
関連科目	なし								
その他	第1回授業時に授業実施日を告知するので履修を検討している学生は必ず出席する事。研修旅行に向けて9月より事前授業を行う。また、研修旅行先は韓国とし、9月に実施する。また企業に配慮願を出すので国内インターンシップ実習希望者も積極的に参加してほしい。尚、本科目は観光文化学類だけではなく人間総合学群所属であれば履修可能である。旅行費用は20万円程度の予定。新型コロナの感染状況によっては研修旅行を中止または延期する場合もある。また国際情勢の変化・為替の大幅な変動などにより、旅行先・実施時期・旅行費用の変更もあり得る。なお、海外での研修が目的のため旅行に不参加の場合は単位を付与しない。（注）履修希望者が僅少の場合は開講・実施しない。履修希望者が多い場合は、40人として先着順に制限する。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	海外留学(観光実務実習)準備		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Preparation for Study Abroad (Tourism Work Study Placement)	授業区分	講義
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張・杉野	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	海外留学(観光実務実習)を実施するために半年間、関連準備をする授業です。海外留学(観光実務実習)を希望する学生は、基礎的な英語力や留学に必要なノウハウを身に付け、対象国の文化や習慣について学びます。授業においてより具体的な学習計画を立て、実践することを目指します。また、この授業を履修する学生は、面談を定期的に行い、一人一人に合わせた学習計画を立てます。		
到達目標	マレーシア地域の大まかな歴史や文化の知識を通して、観光をする際のポイントを十分に抑えられるようにしましょう。また、自分で海外渡航の手続きができるようになります。さらに英語力や留学に必要なノウハウを身に付け、海外留学(観光実務実習)の準備を行います。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)</b>			
<p>【第1回】  予習 : シラバスを読んでおく  授業 : 授業概要・評価方法の説明  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第2回】  予習 : 配布資料を読んでおく  授業 : Getting to know each other (自己紹介の練習)  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第3回】  予習 : 配布資料を読んでおく  授業 : Classroom English (教室で使う英語を知る)  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第4回】  予習 : 配布資料を読んでおく  授業 : Talking about Japan (日本についてのプレゼンテーション)  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第5回】  予習 : 配布資料を読んでおく  授業 : Learning about Malaysia (英語でのミニ講義を聞く)  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第6回】  予習 : 配布資料を読んでおく  授業 : World Englishes (世界で話されている英語を知る)  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第7回】  予習 : リクルートスーツ・身だしなみを準備する  授業 : 身だしなみ・マナーセミナー、インターンシップの意義  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第8回】  予習 : 配布資料を読んでおく  授業 : 海外渡航のための手続き、旅券取得の説明など  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第9回】  予習 : 配布資料を読んでおく  授業 : 異文化コミュニケーションについて  復習 : 授業内容を振り返る</p> <p>【第10回】  予習 : これまでの授業を振り返る  授業 : マレーシアとシンガポールの観光資源について、授業の総括  復習 : 授業内容を振り返る</p>			
授業開始前学習	研修先であるマレーシアに興味を持ち、何らかの資料(図書・ガイドブックなど)を読むこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	この授業を履修する学生は、面談を定期的に行い、一人一人に合わせたフィードバックを予定している。海外留学(観光実務実習)内のインターンシップは、現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。		
テキスト・教材	必要に応じて配布する。		



参考書								
評価の基準と方法	授業態度（出席状況・意欲など）・レポート内容及び面談での行動などにより総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○
関連科目	海外留学(観光実務実習)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	世界遺産研究		
科目分類	120-321-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	World Heritage Research	授業区分	講義
科目責任者	大室 聡志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大室 聡志	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「世界遺産とは、地球の品位を守るもの」として、人類が後世に残すべき人類共通の財産です。1978年に最初の世界遺産12件が「世界遺産リスト」に記載されて以来、2022年3月現在、1154件の世界遺産が登録されており、そのうち25件が日本の世界遺産です。講師は旅行会社に20年以上務め、個人的にも50カ国以上旅をし、世界各国の世界遺産を実際に見てきた経験があります。この授業では、これらの経験を活かし、世界遺産の歴史、意義、価値を考察し、文化や宗教の多様性や歴史の教訓を学ぶとともに、自然の恵みや伝統の重みについても触れていきます。		
到達目標	目標： ①日本の世界遺産の概要を説明できるようになる。 ②世界の主要な世界遺産の概要を説明できるようになる。 ③日本や世界の地理感覚（どのあたりにどの国・地域があるか）を身につける。 ④疑問点を考えながら発表を聞くことで、批判的思考力を身につける。 ⑤発表担当者は、「問い」を立て調査し、まとめる力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回 予習：訪れたことがある世界遺産を調査する。 授業：自分（学生本人）と世界遺産のつながり 復習：確認のクイズに答える。（小課題①） 第2回 予習：知っている世界遺産をリストアップする。 授業：世界遺産の基礎知識 復習：確認のクイズに答える。（小課題②） 第3回 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する。 授業：日本の世界遺産（文化遺産） 復習：確認のクイズに答える。（小課題③） 第4回 予習：日本の世界遺産（自然遺産）について事前に調査する。 授業：日本の世界遺産（自然遺産） 復習：確認のクイズに答える。（小課題④） 第5回 予習：世界で最初の世界遺産について事前に調査する。 授業：世界で最初の世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑤） 第6回 予習：古代文明に関する世界遺産を事前に調査する。 授業：人類の誕生と古代文明に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑥） 第7回 予習：アジアの世界遺産について事前に調査する。 授業：アジア世界の形成と宗教に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑦） 第8回 予習：中世ヨーロッパの世界遺産について事前に調査する。 授業：中世ヨーロッパとルネサンス、大航海時代に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑧） 第9回 予習：アメリカ、アフリカに関する世界遺産を事前に調査する。 授業：アメリカ、アフリカに関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑨） 第10回 予習：オセアニアと東アジアに関する世界遺産を事前に調査する。 授業：オセアニアの文明と東アジアに関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑩） 第11回 予習：近代文明に関する世界遺産を事前に調査する。 授業：近代国家の成立と近代文明に関する世界遺産 復習：確認のクイズに答える。（小課題⑪）			

<p>第 12 回          予習：危機遺産について事前に調査する。          授業：テーマでみる世界遺産          復習：確認のクイズに答える。(小課題⑫)</p> <p>第 13 回          予習：世界の自然遺産について事前に調査する。          授業：世界の自然遺産          復習：確認のクイズに答える。(小課題⑬)</p> <p>第 14 回          予習：発表準備          授業：課題に対する学生発表 ※受講者が多い場合、発表を複数回に分けて行う場合がある。          復習：発表内容に対し、1 つ疑問点を見いだし、自分で調べ、記録する。(小課題⑭)</p> <p>第 15 回          予習：模擬試験に向けて復習          授業：授業内模擬試験 (世界遺産検定 3 級レベル)          復習：観光の観点からこれまでに学んだ世界遺産を振り返る。</p>								
授業開始前学習	日頃から世界遺産や主要な観光地に関心を持つとともに、UNESCO の世界遺産リスト < <a href="http://whc.unesco.org/ja/list/">http://whc.unesco.org/ja/list/</a> >を見ておく。 図書館にある世界遺産の DVD の視聴もお勧めする。							
授業内課題の フィードバックの方法	発表 (要領は初回授業にて指示する) については、授業後に教員からのフィードバックを行う。 授業後の小課題は、次回の授業の冒頭でコメントする。							
テキスト・教材	『わくわく学ぶ世界遺産 300』-世界遺産検定 2 級公式テキスト- (発行：NPO 法人世界遺産アカデミー) ※世界遺産検定受験予定者のみ購入を推奨する。							
参考書	『世界遺産検定』公式過去問題集 3・4 級 (発行：NPO 法人世界遺産アカデミー) 旅地図世界-世界の名所をめぐる誌上旅行- (発行：昭文社) 旅地図日本-全国の名所をめぐる誌上旅行- (発行：昭文社)							
評価の基準と方法	世界遺産についての発表と質疑応答 (最大 20% *)、授業後の小課題 (40%)、授業内模擬試験 (世界遺産検定 3 級レベル) (40%) などを総合的に判断します。 * 発表を行わない人の成績は 80 点が上限になります。 * 世界遺産検定受験者はボーナス加点を行うので、受験証をご提示ください。 * 授業前に既に合格している方にもボーナス加点を行うので、合格証をご提示ください。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				△		◎	
関連科目	日本・世界の歴史、文化史、宗教史、地理学、芸術、自然、観光学などの知識が身に付けられる科目と関連しています。							
その他	この授業では、世界遺産「研究」をするのは受講生の皆さんです。 世界遺産についてはインターネットで様々な情報が入手可能です。以下のサイトなどを参考にしてください。 文化庁 HP < <a href="https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/">https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/</a> > 日本 の 世 界 遺 産 一 覧 < <a href="https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/20200806_01.pdf">https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/20200806_01.pdf</a> > 日 本 の 世 界 文 化 遺 産 地 図 < <a href="https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/93295501_01.pdf">https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/93295501_01.pdf</a> > UNESCO HP < <a href="http://whc.unesco.org/ja/list/">http://whc.unesco.org/ja/list/</a> > 世界遺産オンラインガイド < <a href="https://worldheritagesite.xyz/">https://worldheritagesite.xyz/</a> >							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	旅行会社エイチ・アイ・エスに勤務して 23 年。そのうち、海外駐在 (ロシア) 7 年の経験もあります。趣味も旅行で、5 大陸すべてを網羅し、訪問海外国数は 50 カ国を超えました。そこで見てきた世界遺産について理解を深め、世界遺産検定 1 級も取得しています。旅行会社のプロとして捉える「世界遺産」と、一人の旅好きとして捉える「世界遺産」の両方の視点で世界遺産について説明します。また、世界遺産検定取得者として、世界遺産検定資格取得を意識した解説を進めます。そして、「世界遺産」を切り口に受講生の国際感覚を養い、世界がより近く							

科目名称	地域観光資源研究		
科目分類	120-320-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Regional Tourism Resource Research	授業区分	講義
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	※（コロナウイルスによる特殊な環境変化による観光への影響は特例と考えたうえで）、近年インバウンド（外国人観光客）の数が急激に増加し、日本は将来的に観光立国を目指すようになった。本講義では、国内各地に存在する個性溢れる観光地の魅力の中から、ユネスコの無形文化遺産に認定された「和食」の他、「温泉」「伝統工芸」「祭り」「駅弁」「癒し」などを地域の持つ観光資源と捉え、それらについて理解を深め、観光資源としての現状と将来の可能性、地域の活性回復のためのPR 戦略などについて考察する。また、履修人数にあわせてレキシブルにディスカッションやグループ発表などのグループワークを行う場合もある。		
到達目標	観光資源を軸にした地域の歴史、現状、復興のための PR 戦略、将来性などについて考察することにより、観光地の置かれた状況を把握できるため、社会と地域の関係性について理解を深めることができる。また、これまで観光客としての視点でしか地域との接点を持たなかった受講生は、客観的な目で冷静に地域を再評価し、復興、発展、隆盛のために必要となる批判的思考力を養うことができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：関心のある観光地について調べてみる  授業：ガイダンス[「地域観光資源研究」とは：無形文化財としての和食、伝統工芸、祭り、癒しの温泉を事例に解説]  復習：観光資源とは？の問いかけに、200字程度で回答する</p> <p>【第2回】  予習：関心のある地域の観光資源は何か調べてみる  授業：地域を代表する観光資源の調査、比較の仕方の基礎  復習：日本を代表する観光資源の写真をネットや本で調べる</p> <p>【第3回】  予習：インバウンドに人気のある地域の観光資源について調べてみる  授業：地域の主な観光資源と保全について（グループワーク）  復習：インバウンドと人気のある観光資源について、その嗜好性など人気の秘密を探る</p> <p>【第4回】  予習：世界と日本の危険な観光地について調べてみる  授業：観光客が危険な観光スポットを選んで訪れる理由について考える  復習：人気がある観光スポットの危険度を比較してみる</p> <p>【第5回】  予習：人気のある地域のグルメについて調べてみる  授業：地域観光とB級グルメ（伝統食とは異なる食：素材、種類、価格、宣伝、評価）  復習：インバウンドとB級グルメについて、その嗜好性など人気の秘密を探る</p> <p>【第6回】  予習：観光地ごとの駅弁について調べてみる  授業：観光資源としてのご当地グルメ「駅弁」  復習：主要な駅で人気がある駅弁について、人気の理由を調べる</p> <p>【第7回】  予習：人気のある温泉地について調べてみる  授業：地域観光をリードする温泉と温泉宿  復習：日本を代表する温泉について、基本レベルの説明ができるようにする</p> <p>【第8回】  予習：インバウンドが観光目的とする観光地におけるアートとは何か調べてみる  授業：地域観光とインバウンドへの情報メディア戦略としてのアート展示  復習：集客力のあるアート戦略は何か調べる</p> <p>【第9回】  予習：世界と日本の財政破綻した観光地域について調べてみる  授業：財政破綻した地域の事例から、実情と背景を調査  復習：なぜ破綻したのか、その理由と破綻回避について考える</p>			

<p>【第10回】          予習：歴史ある神前祭礼について調べてみる          授業：地域の歴史が培った伝統的観光資源「祭礼」について          復習：日本を代表する祭礼について、基本レベルの説明ができるようにする</p> <p>【第11回】          予習：インバウンドに人気があり、集客率の高い陶磁器を探してみる          授業：イベント観光資源としての陶磁器市と地域についての解説          復習：有名な陶磁器の生産地域についてまとめる</p> <p>【第12回】          予習：関心のある伝統工芸品について調べてみる          授業：観光資源として、地域を代表する伝統工芸（地域の歴史が培った芸術）について研究          復習：日本を代表する伝統工芸品の写真をネットや本で確認する</p> <p>【第13回】          予習：インバウンドに人気の神社・仏閣・古墳・城について調べてみる          授業：歴史ある建造物の紹介と、地域の現状について考える          復習：保全、継承のために地域が抱える問題を調べる</p> <p>【第14回】          予習：浮世絵とは何か調べてみる          授業：インバウンドが驚き、伝統工芸品として成立し得る浮世絵とは何か（グループ・ディスカッション）          復習：土産物として人気のある浮世絵を調べる</p> <p>【第15回】          予習：世界と日本の巡礼地について調べてみる          授業：巡礼の旅と地域の受け入れ努力を調査          復習：代表的な巡礼の旅について、基本レベルの説明ができるようにする</p>								
授業開始前学習	日本国内で関心のある都道府県ごとに、1：地域の和食（駅弁やグルメ）、2：地域の行事（祭礼や舞踊）、3：地域の土産物（伝統工芸）、4：地域の癒し（温泉や宿）の4つのキーワードで事前に少しでも調べておくと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入し、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜1人ずつ対応する場合と、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施する場合の2通りの方法で細かく対応している。							
テキスト・教材	授業中に適宜配付する。							
参考書	授業を通じて適時紹介する。							
評価の基準と方法	毎回提出する課題レポートに重きを置き、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	観光のPRとメディア（後期）を合わせて履修すると、より理解が深まる。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	国内観光資源研究 A(東京・首都圏)		
科目分類	120-321-12 (2022 年～入学者) 120-320-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Domestic Tourism Resource Research A (Tokyo / Greater Tokyo Area)	授業区分	講義
科目責任者	太田 亮吾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 亮吾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	東京および首都圏は、様々な地理的・社会的特性を持つ多彩な地域で構成される。この講義では、主として歴史の観点から東京を中心に具体的な事例を各回でそれぞれ取り上げ、地域の特性について解説をする。これにより、東京および首都圏には現在どのような観光資源がありうるか、その可能性を考察する。		
到達目標	東京の歴史的な成り立ちと地域の特性を理解し、基礎的な事柄が観光と結び付けて説明できるようになることを到達目標とする。あわせて、東京の観光資源および観光都市としての魅力や課題について考える力を身につけることをめざす。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】  予習 : シラバスを読んでおく  授業 : [導入]本講義の概要と東京に関する基本事項の解説  復習 : 授業の進め方について確認する</p> <p>【第 2 回】  予習 : 都心部の地図をみて主な地名を把握する  授業 : 古地図・絵図で眺める江戸の都市空間  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 3 回】  予習 : 身近にある文化財を調べる  授業 : 東京の文化財とその活用  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 4 回】  予習 : 東京都の地図で大きな公園がある場所を確認する  授業 : 公園・緑地からみる東京の都市構造  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 5 回】  予習 : 東京都内にある超高層建築物の所在を調べる  授業 : 東京のランドマークタワー  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 6 回】  予習 : 東京の地図で主な鉄道路線を確認する  授業 : 東京の鉄道とその発達  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 7 回】  予習 : 東京の地図で東京の主な河川や海岸線の形状を確認する  授業 : 水辺から眺める東京  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 8 回】  予習 : 身近にある橋を観察し特徴を整理する  授業 : 東京のさまざまな橋  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 9 回】  予習 : 現在の東京の観光案内を調べてその特徴を整理する  授業 : 東京における観光案内の今昔  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 10 回】  予習 : 東京都の地図を用いて主な繁華街の位置を調べる  授業 : 盛り場の形成と変遷  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 11 回】  予習 : 稲城市や周辺地域の地図ないし地形図を用いて地理的特徴を確認する  授業 : 多摩ニュータウンの造成と地域コミュニティ  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第 12 回】  予習 : 身近にある観光旅行の広告にはどのような特徴があるか考える  授業 : イメージが作り出す観光需要  復習 : 配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p>			



<p>【第13回】  予習：「ダークツーリズム」の意味を調べる  授業：観光資源としての戦争遺跡  復習：配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第14回】  予習：講義で取り上げた文化財に関する説明を確認する  授業：文化財活用をめぐる課題  復習：配布した授業プリントを読み返し要点をまとめる</p> <p>【第15回】  予習：提出したレポートを読み返す  授業：講義のまとめとレポート課題の講評  復習：各回で配布した授業プリントを再復習して定期試験に備える</p>								
授業開始前学習	インターネット検索や、大学図書館・自宅の近くの公共図書館の web サイトで公開している蔵書検索機能を用いて、東京の歴史や文化について書かれた文献を探し、どのような本があるか把握しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	レポート課題については、第15回講義で全体の講評を行う。							
テキスト・教材	テキスト（教科書）は特に指定しない。 各回の講義で、授業内容をまとめたプリントを配布する。							
参考書	各回の講義中および配布プリントで紹介する。							
評価の基準と方法	レポート課題の成績により評価を行う。レポートは授業期間中に2回出題する（配点は各レポートとも50点とし、合計100点満点で成績を判定する）。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他	授業プリント等の配布や課題の受付のため、クラスプロファイルおよびGWE(Google Workspace for Education)を活用する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	国内観光資源研究 B(東日本)		
科目分類	120-321-12 (2022 年～入学者) 120-320-12 (～2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Domestic Tourism Resource Research B (Eastern Japan)	授業区分	講義
科目責任者	古本 泰之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	古本 泰之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、日本国内の地域的特性を概観した後、北海道・東北地方・関東地方・中部地方にかけての東日本でみられる特色的な観光資源の特性、生活や産業等を精選し、地誌的に解説することで、東日本の地域的特性を考察する。		
到達目標	東日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、東日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】  予習：東日本における都道府県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく  授業：観光資源の種類と現状  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 2 回】  予習：東日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：東日本における世界遺産と国立公園の地域的展開  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 3 回】  予習：北海道地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：北海道地方の温泉観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 4 回】  予習：北海道地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：北海道地方の歴史文化観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 5 回】  予習：北海道地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：北海道地方の自然観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 6 回】  予習：東北地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：東北地方の温泉観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 7 回】  予習：東北地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：東北地方の歴史文化観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 8 回】  予習：東北地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：東北地方の自然観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 9 回】  予習：関東地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：関東地方の温泉観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 10 回】  予習：関東地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：関東地方の歴史文化観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 11 回】  予習：関東地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：関東地方の自然観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 12 回】  予習：中部地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：中部地方の温泉観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p>			

<p>【第13回】  予習：中部地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：中部地方の歴史文化観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第14回】  予習：中部地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：中部地方の自然観光資源と地域的特性  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第15回】  予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめるとともに定期試験の準備をする  授業：観光資源を評価する意義について理解する。  復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。</p>								
授業開始前学習	日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、地名や観光地理学的な見方・考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。							
テキスト・教材	特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直ししながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。							
参考書	山村順次編著（2012）『観光地理学（第2版）—観光地域の形成と課題—』同文館出版 （公財）日本交通公社（2014）『美しき日本 旅の風光』JTBパブリッシング							
評価の基準と方法	試験 70%、小レポート等平常点 30%を基準に、総合的に判断・評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	国内観光資源研究 C(西日本)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	国内観光資源研究 C(西日本)		
科目分類	120-321-12 (2022 年～入学者) 120-320-12 (~2021 年入学者)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Domestic Tourism Resource Research C (Western Japan)	授業区分	講義
科目責任者	小堀 貴亮	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小堀 貴亮	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、西日本における観光資源を類型別に概観した後、近畿地方・中国地方・四国地方・九州地方にかけての西日本でみられる特色的な観光資源の特性を地誌的に解説することで、西日本における観光資源の地域的特性を考察する。		
到達目標	西日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、西日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：西日本における府県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく  授業：西日本における観光資源の類型と現状  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 2 回】  予習：西日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：西日本における世界遺産と国立公園の地域的展開  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 3 回】  予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：西日本における温泉地の地域的特性①  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 4 回】  予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：西日本における温泉地の地域的特性②  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 5 回】  予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：近畿地方の観光資源と地域的特性①  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 6 回】  予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：近畿地方の観光資源と地域的特性②  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 7 回】  予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：中国地方の観光資源と地域的特性①  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 8 回】  予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：中国地方の観光資源と地域的特性②  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 9 回】  予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：四国地方の観光資源と地域的特性①  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 10 回】  予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：四国地方の観光資源と地域的特性②  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 11 回】  予習：九州地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：九州地方の観光資源と地域的特性①  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第 12 回】  予習：九州における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく  授業：九州地方の観光資源と地域的特性②  復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p>			

<p>【第13回】          予習：沖縄における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく          授業：沖縄の観光資源と地域的特性          復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第14回】          予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。          授業：西日本における観光資源を対象とした着地型観光          復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく</p> <p>【第15回】          予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。          授業：西日本における観光資源の総括          復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。</p>								
授業開始前学習	日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、観光地理学的な見方や考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。							
テキスト・教材	特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直ししながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。							
参考書	山村順次編著（2012）：『観光地理学(第2版)—観光地域の形成と課題—』同文館出版							
評価の基準と方法	課題 70%、平常点 30%（課題を含む）を基準に、総合的に判断・評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	国内観光資源研究 B(東日本)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1)		
科目分類	120-320-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overseas Tourism Resources Research A (Europe1)	授業区分	講義
科目責任者	米金 孝雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00 木曜日 10:00～10:40 木曜日 12:10～13:00	研究室	10-711
授業概要	映画・シャンソン・ワイン・自然・都市・など、フランス文化全体を映像を使用しながら講義する予定である。様々なフランス文化に触れ、西洋文化の中心であるフランスのエッセンスに触れる。		
到達目標	多様なフランス文化に接することにより、その文化・言語に興味を持ち、異文化を学ぶ楽しさを体験し、理解を深める。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：自分の興味あるフランス文化について、調べておくこと  授業：自己紹介、授業の概要、授業の進め方、勉強の仕方、評価、注意点など  フランスとは ①  復習：フランスとは①の復習</p> <p>【第2回】  予習：自分の興味あるフランス文化について、調べておくこと  授業：フランスとは ②  復習：フランスとは②の復習</p> <p>【第3回】  予習：興味、関心のあるフランス語を調べておくこと  授業：フランス語の言語的多様性①  復習：フランス語の言語的多様性①の復習</p> <p>【第4回】  予習：興味、関心のあるフランス語を調べておくこと  授業：フランス語の言語的多様性②  復習：フランス語の言語的多様性②の復習</p> <p>【第5回】  予習：パリについて調べておくこと  授業：花の都・パリ  復習：花の都・パリの復習</p> <p>【第6回】  予習：興味ある地方や都市について調べておくこと  授業：地方都市・フランスの自然①  復習：地方都市・フランスの自然①の復習</p> <p>【第7回】  予習：興味ある都市や地方について調べておくこと  授業：地方都市・フランスの自然②  復習：地方都市・フランスの自然②の復習</p> <p>【第8回】  予習：興味のある都市や地方について調べておくこと  授業：地方都市・フランスの自然③  復習：地方都市・フランスの自然③の復習</p> <p>【第9回】  予習 フランスワインについて調べておくこと  授業：フランスワイン①  復習：フランスワイン①の復習</p> <p>【第10回】  予習：フランスワインについて調べておくこと  授業：フランスワイン②  復習：フランスワイン②の復習</p> <p>【第11回】  予習：フランス映画について調べておくこと  授業：フランス映画①  復習：フランス映画①の復習</p> <p>【第12回】  予習：フランス映画について調べておくこと  授業：フランス映画②  復習：フランス映画②の復習</p>			

<p>【第13回】  予習：フランス音楽について調べておくこと  授業：フランス音楽①  復習：フランス音楽①の復習</p> <p>【第14回】  予習：フランス音楽について調べておくこと  授業：フランス音楽②  復習：フランス音楽②の復習</p> <p>【第15回】  予習：フランス語圏と植民地政策について調べておくこと  授業：フランス語圏と植民地政策  復習：フランス語圏と植民地政策の復習</p>								
授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、自分の興味ある分野を見つけること。							
授業内課題の フィードバックの方法	レポート・課題等の内容を熟考させ、自分の興味あるフランス文化について、意見や考えを端的に、また、積極的に表現できるように指導する。							
テキスト・教材	別途指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	配点： 課題・レポート・70点 平常点・30点。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	フランス語 文化交流論 A(日本とヨーロッパ) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	遅刻・欠席・課題未提出・授業態度などは評価に響くので、十分注意すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	海外観光資源研究 C(アジア 1)		
科目分類	120-320-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overseas Tourism Resources Research C (Asia1)	授業区分	講義
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	近年、様々な韓国ドラマや映画、音楽などの影響で、韓国は日本人にとってより身近な存在となっており、一連の流れで韓国を観光地として選択するなど、その注目度は増す一方である。本講では、韓国の歴史・自然・社会などを中心に韓国の地誌的な知識の理解を深めると同時に、日韓文化の相違点・共通点について学ぶ。さらに観光資源に関する基礎的な知識と専門的な知識を修得することを目的とする。		
到達目標	①韓国の歴史・自然・社会などを中心に地誌的に解説することで、韓国の地域的特性を考察する。 ②日本と韓国の文化の差異・共通点について理解し、説明することができる。 ③韓国の観光資源に関する基礎的な知識と専門的な知識を修得することを目的とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス、韓国に関する全体概要 復習：授業の方針を確認する。</p> <p>【第 2 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：異文化の理解について（韓国文化を事例として）① 復習：【第 2 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 3 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：異文化の理解について（韓国文化を事例として）② 復習：【第 3 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 4 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：朝鮮半島の自然環境と暮らし 復習：【第 4 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 5 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国と北朝鮮、朝鮮戦争について 復習：【第 5 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 6 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国の産業構造と地域性 復習：【第 6 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 7 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国政治と地域性 復習：【第 7 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 8 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国の行政区域と世界遺産について 復習：【第 8 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 9 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：「韓流」について①（ドラマ、映画） 復習：【第 9 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 10 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：「韓流」について②（音楽、アニメ） 復習：【第 10 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 11 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：日本と韓国の文化の差異・共通点について①（日・韓の結婚式について） 復習：【第 11 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第 12 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：日本と韓国の文化の差異・共通点について②（グループ・ディスカッション） 復習：【第 12 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p>			



<p>【第13回】  予習：事前配布のレジメで予習する。  授業：韓国の観光地①について  復習：【第13回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第14回】  予習：事前配布のレジメで予習する。  授業：韓国の観光地②について  復習：【第14回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第15回】  予習：事前配布のレジメで予習する。  授業：韓国における観光資源の総括  復習：前期授業の全体概要を確認する。</p>								
授業開始前学習	韓国関連資料や韓国文化・異文化コミュニケーションに関する書籍を出来るだけ多く読むこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材	特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他	質問、相談等がある時は、授業の前後に研究室に来ること							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	海外観光資源研究 D(アジア 2)		
科目分類	120-320-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overseas Tourism Resources Research D (Asia2)	授業区分	講義
科目責任者	保坂 律子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂 律子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～13:00 木曜日 16:10～16:40 後期 水曜日 10:00～13:00	研究室	10-709
授業概要	2008 年の北京オリンピック、2010 年の上海万博、そして 2022 年 2 月には初の冬季オリンピックが北京で開催されました。中国は近年の経済的躍進も相まって、ますます目が離せない隣国になっています。授業では多くの写真や映像、文字資料も利用し、多様性に富む豊かな文化と長い歴史を持つ中国の風土や地理、教育、文化、娯楽、食文化をはじめさまざまな視点から「中国の魅力」を学びます。		
到達目標	中国と日本の文化の共通点と相違点を具体的事例をあげて説明できる。中国の教育制度、風土と地理、交通事情、娯楽と余暇、食生活、建築などについて、日本との違いを指摘し、その理由を説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：中国と日本の文化の共通点、相違点について身近な事例を考えておく。  授業：中国概説、オリエンテーション  復習：配布された教科書の中身をざっとつかんでおく。</p> <p>【第 2 回】  予習：テキスト 2 頁～7 頁の講読  授業：国家のシンボル（テキスト 2 頁～7 頁）国旗、国歌、モチーフ等にみられる文化的意義の考察。（グループディスカッション）  復習：日本の国家のシンボルとは何か中国と比較し自分の言葉でまとめる。</p> <p>【第 3 回】  予習：テキスト 8 頁～13 頁の講読  授業：風土と地理（テキスト 8 頁～13 頁）他国と比べながら中国の風土と地理の特徴を学ぶ。  復習：テキスト中の白地図に中国各省の名称を書き入れる。日本との地形の違いを考えてみる。</p> <p>【第 4 回】  予習：テキスト 14 頁～17 頁の講読  授業：多民族国家（テキスト 14 頁～17 頁）多くの民族を抱える中国について知る。（グループディスカッション）  復習：自分にとっての民族とは何かを考え自分の言葉でまとめる。</p> <p>【第 5 回】  予習：テキスト 18 頁～23 頁の講読  授業：中国の足（テキスト 18 頁～23 頁）広い中国の様々な交通手段と庶民の「足」の変化を探る。  復習：中国の交通手段の特徴を自分の言葉でまとめる。</p> <p>【第 6 回】  予習：テキスト 24 頁～27 頁の講読  授業：教育制度と学校生活（テキスト 24 頁～27 頁）日本の教育制度との相違点とその理由を探る。（グループディスカッション）  復習：中国の学生と日本の学生の違いと長所、短所について考え自分の言葉でまとめる。</p> <p>【第 7 回】  予習：テキスト 28 頁～31 頁講読  授業：色のイメージ（テキスト 28 頁～31 頁）  復習：日中でイメージの異なる色について考え自分の言葉でまとめる。</p> <p>【第 8 回】  予習：テキスト 32 頁～33 頁の講読  授業：外来語とブランド（テキスト 32 頁～33 頁）（グループディスカッション）  復習：日本語の中にある外来語の起源について考え自分の言葉でまとめる。</p> <p>【第 9 回】  予習：テキスト 34 頁～39 頁の講読  授業：人気のアニメと子どもの遊び（テキスト 34 頁～39 頁）（グループディスカッション）  復習：日中共通の遊びについて考えて、人気アニメの受容について自分の言葉でまとめる。</p> <p>【第 10 回】  予習：テキスト 40 頁～44 頁の講読  授業：オリンピックと万博（テキスト 40 頁～44 頁）（グループディスカッション）  復習：オリンピックや万博が都市に与える影響を日本の場合について考えてみる。</p> <p>【第 11 回】  予習：テキスト 45 頁～48 頁の講読  授業：京劇（テキスト 45 頁～48 頁）中国の伝統芸能について考える。  復習：オペラ、歌舞伎と京劇の共通点を探る。</p> <p>【第 12 回】  予習：テキスト 49 頁～54 頁の講読  授業：消え行く古きよき町並み（テキスト 49 頁～54 頁）  復習：伝統的な町並み保存のメリット、デメリットについて書き出してまとめる。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習 : テキスト 55 頁～58 頁の講読          授業 : 伝統の味とファストフード (テキスト 55 頁～58 頁) (グループディスカッション)          復習 : 中国でのファストフードの受容について日本と比較して自分の言葉でまとめる。          【第 14 回】          予習 : テキスト 59 頁～62 頁の講読          授業 : 中国トイレ事情 (テキスト 59 頁～62 頁) (グループディスカッション)          復習 : トイレと都市の近代化について考えてみる。          【第 15 回】          予習 : テキストを読み返す。          授業 : 中国映画鑑賞          復習 : 授業を通じて最も印象に残ったことを家族または友人に話して聞かせる。</p>								
授業開始前学習	中国に関するニュースに関心を持ち、チャンスを見つけて留学生と交流するように心がける。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業終了時に提出されたリアクションペーパーに対して、毎回翌週の授業開始時にコメント及び回答する。							
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ 「中国文化紀行 (異文化との出会い中国)」保坂律子							
参考書								
評価の基準と方法	各回 (全 15 回) のリアクションペーパー 60 点、レポート 40 点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	海外観光資源研究 E (アジア 3)		
科目分類	120-320-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overseas Tourism Resources Research E (Asia3)	授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 金曜日 13:00~14:30 後期 木曜日 10:40~12:10 木曜日 13:00~14:30	研究室	10-606
授業概要	本科目は東南アジアの観光資源とその背景にある自然地理・生態系・歴史・文化を学ぶことを目的としている。近年、東南アジアは訪日旅行者の増加もあって、私たちにとても身近な存在になりつつある。しかし、私たちが普段見ている東南アジアへのまなざしは、日本からみた狭い視点での理解でしかない。東南アジアとて、ひとくくりにはできない多様な自然・文化・歴史がある。また東南アジアと日本の関係を知れば、日本文化の形成にも大きな影響を与えていることに驚くだろう。さらに、欧米、中国など大国の狭間にあるこの地域の社会・歴史・文化を学ぶことで、新たな世界観を得ることができる。この授業を受講して、ぜひ一度東南アジアの旅へ出かけてほしい。		
到達目標	① 東南アジアの観光資源とその背景にある自然地理・生態系・文化・歴史を学ぶ。 ② 東南アジアと日本との関係を学び、新たな世界観を得る。 ③ 自分で調べたことをもとに自分の考えを文章にできる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおく 授業 : 授業の概要と方針 東南アジアを学ぶ意義 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 2 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : 東南アジアの気候・地形・地質 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 3 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : 東南アジアの宗教と文化《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 4 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : 東南アジアの歴史と日本との関係《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 5 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : 東南アジアの経済と日本との関係《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 6 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : タイの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 7 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : ベトナムの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 8 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : シンガポールの観光資源とその背景《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 9 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : マレーシアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 10 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : インドネシアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p> <p>【第 11 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : フィリピンの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出</p>			

<p>【第12回】  予習：前回授業レポートのふりかえりをする  授業：カンボジアの観光資源とその背景《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第13回】  予習：前回授業レポートのふりかえりをする  授業：ミャンマー・ラオスの観光資源とその背景《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第14回】  予習：前回授業レポートのふりかえりをする  授業：東南アジアの中の日本《ディスカッション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第15回】  予習：前回授業レポートのふりかえりをする  授業：ふりかえり、期末レポートのフィードバック  復習：授業レポートの提出</p>								
授業開始前学習	東南アジアに関するニュースに触れておくとよい。また実際に東南アジアへの旅行を計画するとこの科目はより有益となる。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	特になし							
参考書	今井昭夫編著（2015）『東南アジアを知るための50章』明石書店 鶴見良行（1982）『バナナと日本人：フィリピン農園と食卓』岩波書店 助川成也（2021）『ビジネス教養 東南アジア』新星出版社							
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テストの成績1回4点×15回（60%）、期末レポートの成績（40%）で総合的に評価する。期末レポートは東南アジア地域のツアープランを企画することを予定している。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	2年次後期に海外留学（マレーシア）を検討している学生は履修を勧める。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は東南アジアすべての国を訪れている。また旅行会社での東南アジアを対象とした旅行企画を行ってきた。また、国際協力機構（JICA）の観光開発コンサルタントとしてラオス、ミャンマーでの観光開発計画に従事した経験もある。							

科目名称	海外観光資源研究 E(オセアニア)		
科目分類	120-320-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Overseas Tourism Resources Research E (Oceania)	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30 後期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30	研究室	10-605
授業概要	オセアニアの観光資源は、その地理・気候・歴史的要因から生まれた、多様性に富む魅力豊かなものです。まずその基本を知るために、地理・気候風土・歴史の流れに焦点をあてます。特に複雑な歴史はオセアニア地域の形成や現在の位置づけ、あるいは観光資源の取り扱い方法に大きく影響しています。同時にそれは観光資源の保全が大変魅力的なオセアニア地域の魅力を保全するための意識も形成しています。オセアニアという地域、さらにオセアニアを取り囲む複雑な文化について考えます。		
到達目標	オセアニア地域の大まかな歴史や文化の知識を通して、観光をする際のポイントを十分に抑えられるようにしましょう。また、知識の定着を通して観光資源の保全についても意識していきましょう。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	予習：オセアニアの地理的位置について把握する 授業：オリエンテーション・ヨーロッパによるオセアニアの発見 復習：授業内容・感想を提出		
第2回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：オーストラリア地域① 復習：授業内容・感想を提出		
第3回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：オーストラリア地域② 復習：授業内容・感想を提出		
第4回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ニュージーランド地域① 論評に講評を行い返却 復習：授業内容・感想を提出		
第5回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ニュージーランド地域② 復習：授業内容・感想を提出		
第6回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：メラネシア地域① 復習：授業内容・感想を提出		
第7回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：メラネシア地域② 復習：授業内容・感想を提出		
第8回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：メラネシア地域③ 復習：授業内容・感想を提出		
第9回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ミクロネシア地域① 復習：授業内容・感想を提出		
第10回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ミクロネシア地域② 復習：授業内容・感想を提出		
第11回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ミクロネシア地域③ 復習：授業内容・感想を提出		
第12回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ポリネシア地域① 復習：授業内容・感想を提出		
第13回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ポリネシア地域② 復習：授業内容・感想を提出		
第14回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ハワイ地域① 復習：授業内容・感想を提出		
第15回	予習：前回の授業で出された課題について調べる 授業：ハワイ地域② 復習：授業内容・感想を提出		
授業開始前学習	オセアニアに関する一般的案内書などを読んでおくとよい		

授業内課題の フィードバックの方法	授業内容についての簡単なまとめと感想を毎回授業終了時に提出をする。授業の内容に関しての質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名での回答を行い、提出をした課題に対して採点をし、場合によってはコメントをして返却をする。							
テキスト・教材	Google Classroom 内で資料を配布する							
参考書								
評価の基準と方法	授業内課題 40%、期末課題 60%(学生自身が選択した地域の観光ツアープランを作成します) 期限内の授業内課題の提出で出席を認定します。出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することはできません。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他	授業では、毎回レジュメを配布し、パワーポイント、ビデオ等の映像・音声資料を使用する							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	世界のミュージアム		
科目分類	120-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museums in Overseas	授業区分	講義
科目責任者	糟谷恵次	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	糟谷・張・田代・羽鳥・本間・渡邊(光)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、その館の特徴を解説します。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選んで、その文化的価値について検討を加え、その魅力を探ります。		
到達目標	観光文化資源としてのミュージアムの特徴を学び、ミュージアムの成立過程を研究することによって当該地の文化と歴史を把握します。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】 全担当教員 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス 担当教員全員による授業内容の説明 復習：シラバスを再読して授業内容を確認する</p> <p>【第2回】 羽鳥 担当 予習：プリマス植民地建設の歴史について調べる 授業：プリマス・プランテーション野外博物館 復習：ピルグリム・ファーザーズの生活と文化についてまとめる</p> <p>【第3回】 羽鳥 担当 予習：マサチューセッツ湾植民地（ボストン）建設の歴史について調べる 授業：ボストン・ティー・パーティー・シップ博物館 復習：アメリカ独立の経緯をまとめる</p> <p>【第4回】 羽鳥 担当 予習：ジョン万次郎について調べる 授業：ニューベッドフォード捕鯨博物館 復習：アメリカ人および日本人と鯨の関係についてまとめる</p> <p>【第5回】 羽鳥 担当 予習：ニューヨークの歴史について調べる 授業：自由の女神、エリス島博物館、メトロポリタン美術館 復習：1870年代から1920年代における移民史の特徴をまとめる</p> <p>【第6回】 羽鳥 担当 予習：ワシントン DC の歴史について調べる 授業：スミソニアン博物館群（アメリカ歴史館とアメリカ航空宇宙博物館） 復習：【第2回】～【第5回】の復習で課された課題をレポートしてまとめ、【第15回】目に提出すること</p> <p>【第7回】 糟谷 担当 予習：ベルリンについて調べておく 授業：「資料① ドイツのミュージアム ～ベルリン博物館島～」 復習：ベルリン博物館島のミュージアム群の特性について確認する</p> <p>【第8回】 糟谷 担当 予習：アルブレヒト・デューラーについて調べておく 授業：「資料② ドイツのミュージアム ～アルテ・ピナコテーク～」 復習：デューラーの自画像の変遷とその意味を確認する</p> <p>【第9回】 糟谷 担当 予習：グーテンベルクについて調べておく 授業：「資料③ ドイツのミュージアム ～グーテンベルク博物館～」 復習：活版印刷術の特性と意義について確認する</p> <p>【第10回】 糟谷 担当 予習：ピーテル・ブリューゲルについて調べておく 授業：「資料④ オーストリアのミュージアム ～ウィーン美術史美術館～」</p>			

<p>復習：ブリューゲルの作品のいずれかについてさらに詳しく調べてみる</p> <p>【第 11 回】 糟谷 担当 予習：クリムトについて調べておく 授業：「資料⑤ オーストリアのミュージアム ～オーストリア美術館～」 復習：19 世紀末芸術の特徴について確認する</p> <p>【第 12 回】 渡邊 担当 予習：国内で関心のあるミュージアムを調べておく 講義：インバウンドに人気の国内ミュージアム 復習：講義中に紹介されたミュージアムの魅力の違いを比較してみる</p> <p>【第 13 回】 田代 担当 予習：ニースとコートダジュールについて調べておく 授業：陽光に包まれた「ニース近代美術館」 復習：授業で紹介したアーティストについて興味あるアーティストの作品を調べてみる</p> <p>【第 14 回】 本間 担当 予習：海外で関心のあるミュージアムを調べておく 授業：『試験に出る』ミュージアム 復習：講義中に紹介されたミュージアムの魅力の違いを比較してみる</p> <p>【第 15 回】 張 担当 予習：韓国で関心のあるミュージアムを調べておく 講義：韓国のミュージアム 復習：講義中に紹介されたミュージアムの魅力の違いを比較してみる</p> <p>※この内容は暫定的です</p>								
授業開始前学習	「ミュージアム」とはどのような特徴をもつ施設であるのか、日本を含む世界の主要なミュージアムにはどのようなものがあるのか、調べておきましょう。							
授業内課題の フィードバックの方法	担当教員によって方法が異なります。授業内で毎回課題を提出する、授業内でテストをする、レポートを後日提出するなどです。授業内で提出した課題については、次の回に簡単な講評をします。							
テキスト・教材	特に指定しません。毎回レジュメ、資料等を配布します。							
参考書	各担当教員が適宜紹介する。							
評価の基準と方法	初回を 2 点、第 2 回～15 回の各回を 7 点(7×14=98 点)、合計 100 点とし、最後に担当者 6 人で協議して評価します。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	「日本のミュージアム」「アメリカの文化と歴史」「海外観光資源研究(ヨーロッパ A) (ヨーロッパ B)」ほか							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆ミュージアム研究／日本のミュージアム		
科目分類	120-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Museum Research／Museums in Japan	授業区分	講義
科目責任者	太田 英伶奈	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 英伶奈	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義は今日の日本におけるミュージアムへの理解を深めるべく、国内の様々なミュージアムについて幅広い知識を得られるよう設計されている。第 1、2 回を除き、毎回テーマに沿って国内から 3 館のミュージアムを取り上げ、沿革、展示内容や事業内容を解説する。必要に応じ、日本のミュージアムが抱える課題を指摘し、より良い展示や運営のあり方を考察する。		
到達目標	日本におけるミュージアムの成立過程と、今日存在する様々なミュージアムの種類を把握し、各ミュージアムの展示内容や事業内容を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。  授業：導入（ミュージアムとは何か、博物館法）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 2 回】  予習：正倉院の沿革と所蔵品について調べる。  授業：日本におけるミュージアムの成り立ち（正倉院、ウィーン万博）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 3 回】  予習：東京国立博物館の沿革と展示内容を調べる。  授業：総合的なミュージアム（東京国立博物館、九州国立博物館、インターメディアテック）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 4 回】  予習：京都国立博物館の沿革と展示内容を調べる。  授業：日本・東洋美術のミュージアム（京都国立博物館、根津美術館、錦木清方記念美術館）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 5 回】  予習：国立西洋美術館の沿革と展示内容を調べる。  授業：西洋・近代美術のミュージアム（国立西洋美術館、アーティゾン美術館、岡本太郎記念館）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 6 回】  予習：国立歴史民俗博物館の沿革と展示内容を調べる。  授業：考古・歴史のミュージアム（国立歴史民俗博物館、かみつけの里博物館、熊本県立装飾古墳館）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 7 回】  予習：名古屋科学館の沿革と展示内容を調べる。  授業：自然科学のミュージアム（名古屋科学館、地底の森ミュージアム、琵琶湖博物館）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 8 回】  予習：鉄道博物館の沿革と展示内容を調べる。  授業：産業のミュージアム（鉄道博物館、富岡製糸場、世界のタイル博物館）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 9 回】  予習：博物館明治村の沿革と展示内容を調べる。  授業：建築のミュージアム（博物館明治村、国立近現代建築資料館、建築倉庫）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 10 回】  予習：日本近代文学館の沿革と展示内容を調べる。  授業：文学のミュージアム（日本近代文学館、源氏物語ミュージアム、三島由紀夫文学館）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 11 回】  予習：鈴木大拙館の沿革と展示内容を調べる。  授業：思想・制度のミュージアム（鈴木大拙館、國學院大學博物館、憲政記念館）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 12 回】  予習：民音音楽博物館の沿革と展示内容を調べる。  授業：音楽・演劇・映像のミュージアム（民音音楽博物館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ）  復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：日本民藝館の沿革と展示内容を調べる。          授業：工芸・服飾のミュージアム（日本民藝館、文化学園服飾博物館、ポーラ文化研究所）          復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。  <b>【第14回】</b>          予習：国立民族学博物館の沿革と展示内容を調べる。          授業：文化人類系のミュージアム（国立民族学博物館、鳥羽市立海の博物館、国立アイヌ民族博物館）          復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。  <b>【第15回】</b>          予習：興味のあるミュージアムを見学し、プレゼンテーション（課題解決型学習）の下準備をする。          授業：自身が見学したミュージアムの展示上の工夫と、改善点をプレゼンテーションで提示する。※受講人数次第でプレゼンテーションからグループワークへの変更の可能性あり          復習：自身や他の受講者のプレゼンテーションを振り返り、今日の日本におけるミュージアムへの理解を深める。</p>								
授業開始前学習	「インターネットミュージアム」( <a href="https://www.museum.or.jp/">https://www.museum.or.jp/</a> ) 等、日本のミュージアムに関するポータルサイトを閲覧し、国内にどのようなミュージアムがあるかを把握する。その他、日本のミュージアムを取り扱った書籍や映像資料にて事前知識を得るのが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	履修者は毎授業後に KOMAJO ポータル上でコメントを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。							
テキスト・教材	適宜レジュメを配布する。							
参考書	必要に応じ、参考書を提示する。							
評価の基準と方法	毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、第15回授業時に行うプレゼンテーション（受講人数次第ではグループワーク）の内容により評価する。配点（100点満点における）はコメント40点、プレゼンテーション60点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	学芸員資格あり。また、独立行政法人の研究所にて文化財保護事業に携わる。本講義ではこれらの経験を活かし、日本のミュージアムの展示内容や事業内容を解説する。							

科目名称	☆西洋美術の旅／西洋美術の旅 I			
科目分類	120-331-12	単位数	履修ガイド参照	
英文名称	Western Art Journey／Western Art Journey I		授業区分	講義
科目責任者	太田 英伶奈	必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	太田 英伶奈	開講時期	履修ガイド参照	
オフィスアワー	-	研究室	-	
授業概要	古典ギリシア時代から第 2 次世界大戦後までの西洋美術の変遷を概観し、各時代の特徴を捉える。毎回ある時代（もしくは美術様式・運動）を取り上げ、主要な作例を通じて各時代の美術の特徴と背景にある歴史的事実や時代精神を考察する。多角的な視点から西洋美術の変遷を理解できるよう、講義で引用する作例は絵画・彫刻・工芸・建築の 4 分野に亘る。			
到達目標	古典ギリシア時代から第 2 次世界大戦後までの西洋美術が辿った足跡を大まかに把握し、各時代（もしくは美術様式・運動）に属する美術の特徴を理解する。			
アクティブ・ラーニング型授業	無			
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）				
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。  授業：導入、古典ギリシア、ヘレニズム美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 2 回】  予習：エトルリア、ローマ美術の作例を調べる。  授業：エトルリア、ローマ美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 3 回】  予習：古典末期、初期キリスト教美術の作例を調べる。  授業：古典末期、初期キリスト教美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 4 回】  予習：初期中世美術の作例を調べる。  授業：初期中世美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 5 回】  予習：ロマネスク美術の作例を調べる。  授業：ロマネスク美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 6 回】  予習：ビザンティン美術の作例を調べる。  授業：ビザンティン美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 7 回】  予習：ゴシック美術の作例を調べる。  授業：ゴシック美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 8 回】  予習：イタリア・ルネサンス、マニエリスム美術の作例を調べる。  授業：イタリア・ルネサンス、マニエリスム美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 9 回】  予習：北方ルネサンス美術の作例を調べる。  授業：北方ルネサンス美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 10 回】  予習：バロック、ロココ美術の作例を調べる。  授業：バロック、ロココ美術  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 11 回】  予習：新古典主義、ロマン主義の作例を調べる。  授業：18 世紀の美術（新古典主義、ロマン主義）  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 12 回】  予習：印象派、後期印象派の作例を調べる。  授業：19 世紀の美術 I（印象派、後期印象派）  復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>【第 13 回】</p>				

<p>予習：象徴主義、世紀末美術の作例を調べる。          授業：19世紀の美術Ⅱ（象徴主義、世紀末美術）          復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。  <b>【第14回】</b>          予習：抽象美術、シュルレアリスムの作例を調べる。          授業：20世紀の美術Ⅰ（抽象美術、シュルレアリスム）          復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。  <b>【第15回】</b>          予習：戦後美術の作例を調べる。          授業：20世紀の美術Ⅱ（戦後美術）          復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。</p>								
授業開始前学習	芳賀満ほか（2021）『西洋美術史』秋山聡・田中正之監修（美術出版ライブラリー 歴史編）（東京：美術出版社）で西洋美術史の大まかな流れを把握しておく、授業内容を理解する助けとなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	履修者は毎授業後に KOMAJO ポータル上でコメントを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しないが、時代区分等は芳賀満ほか（2021年）（授業開始前学習の欄を参照）に沿う。その他、適宜レジュメを配布する。							
参考書	（1992-97）『世界美術大全集 西洋編』（東京：小学館）（全28巻＋索引1巻）。その他、毎回授業内容に沿った参考書を提示する。							
評価の基準と方法	毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、学期末に提出するレポート（調査学習）の内容により評価する。配点（100点満点における）はコメント30点、レポート70点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	異文化交流 I		
科目分類	120-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cross-cultural Commuication I	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国は「移民の国」で、多人種・多民族国家です。従って、アメリカでは、過去から現在に至るまで異なる文化が出会い、交錯するなかで、「アメリカ文化」が形成されてきました。ここでは、アフリカ系アメリカ人が歩んできた歴史を辿りながら、異文化交流の場としてのアメリカを考察し、併せて史跡や観光資源について解説します。また、双方向型および課題解決型の授業を行うため、ほぼ毎回の授業でペア・ワークおよびグループワークを行います。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」とともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力の涵養を目標とします。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することを意味します。また、双方向・課題解決型の授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力とともに、アメリカの地理、歴史、観光資源に関する知識などを身につけられるように授業を行います。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第 1 回】 予習：テキスト「はじめに」を事前に読む 授業：ガイダンスとして授業計画・方針・成績評価の方法等を説明し、そのあとでアメリカに関する基本的な質疑応答を行う（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認と質問事項を記入する			
【第 2 回】 予習：テキスト 4 頁～5 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：黒人奴隷制の確立（大西洋奴隷貿易）（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1（テキスト 10 頁）、質問事項を記入する			
【第 3 回】 予習：テキスト 5 頁～8 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：チェサピーク湾地域の植民地（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 2（テキスト 10 頁）、質問事項を記入する			
【第 4 回】 予習：テキスト 8 頁～10 頁を講読し、疑問点のチェックする 授業：新共和国における奴隷制の位置づけ（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 3（テキスト 10 頁）、質問事項を記入する			
【第 5 回】 予習：テキスト 11 頁～13 頁を講読し、疑問点のチェックする 授業：2つのアメリカと2つの南部（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1（テキスト 17 頁）、質問事項を記入する			
【第 6 回】 予習：テキスト 13 頁～15 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：白人による奴隷解放運動（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 2（テキスト 17 頁）、質問事項を記入する			
【第 7 回】 予習：テキスト 15 頁～17 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：黒人による奴隷解放運動と黒人イメージの創出（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 3・4（テキスト 17 頁）、質問事項を記入する			
【第 8 回】 予習：テキスト 18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：西部への膨張（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1（テキスト 23 頁）、質問事項を記入する			
【第 9 回】 予習：テキスト 18 頁～21 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：奴隷問題の政治化（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 1～4（テキスト 23 頁）、質問事項を記入する			
【第 10 回】 予習：テキスト 34 頁～29 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業：連邦の分裂と奴隷解放宣言（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 2～3（テキスト 33 頁）、質問事項の記入する			
【第 11 回】 予習：テキスト 29 頁～33 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業：再建の時代（ペアワークおよびグループワーク） 復習：ノートの確認、課題 4（テキスト 33 頁）、質問事項を記入する			
【第 12 回】			



<p>予習 : テキスト 34 頁～39 頁を講読し、疑問点をチェックする          授業 : その後の黒人解放運動 (ペアワークおよびグループワーク)          復習 : ノートの確認、課題 1～5 (テキスト 51 頁)、質問事項を記入する          【第 13 回】          予習 : テキスト 40 頁～42 頁を講読し、疑問点をチェックする          授業 : 公民権運動 (ペアワークおよびグループワーク)          復習 : ノートの確認、課題 6～8 (テキスト 51 頁)、質問事項を記入する          【第 14 回】          予習 : テキスト 42 頁～44 頁を講読し、疑問点をチェックする          授業 : アフリカ系アメリカ人の現状 (ペアワークおよびグループワーク)          復習 : ノートの確認、課題 (テキスト 69 頁)、質問事項を記入する          【第 15 回】          予習 : テキスト 52 頁～60 頁を講読し、疑問点をチェックする          授業 : アメリカ社会像の変遷と多文化主義 (ペアワークおよびグループワーク)          復習 : ノートの確認、課題 1・2 (テキスト 69 頁)、質問事項を記入する</p>								
授業開始前学習	高校で使われる世界史の教科書、あるいはアメリカ史の入門書 (概説書) を読んでおいてください。							
授業内課題の フィードバックの方法	教科書にある「課題」(各章の最終頁に記載)のほか、数回レポート課題を出しますが、回答例または添削をする方法でフィードバックします。							
テキスト・教材	羽鳥修『異文化理解 I』(駒沢女子大学教科書シリーズ)							
参考書	教科書の巻末に参考文献一覧があるので参照してください。その他については、授業のなかで適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート (75%)、レポート課題 (20%)、発表など授業への参加姿勢 (5%)							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	「アメリカの文化と歴史 I・II」							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	異文化交流Ⅱ		
科目分類	120-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cross-cultural Commuication II	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国は「移民の国」で、多人種・多民族国家です。従って、アメリカは、過去から現在に至るまで異なる文化が出会い、交錯するなかで、「アメリカ文化」が形成されてきました。ここでは、幾つかのエスニックグループを取り上げ、彼らが歩んできた歴史を辿りながら、異文化交流の場としてのアメリカを考察し、併せて史跡や観光資源について説明します。また、授業形態はライブによる双方向型および課題解決型です。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的な文脈の中で「解釈」とともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力の涵養を目標とします。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することを意味します。また、双方向・課題解決型の授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力とともに、アメリカの地理、歴史、観光資源に関する知識などを身につけられるように授業を行います。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：アメリカの人種別別人口構成について、表を作成する 授業：授業計画、方針、成績評価の方法等についてを説明する 復習：アメリカの歴史統計に関するレファランス（授業で紹介する）をもとに予習の内容を修正する			
【第2回】 予習：イギリス系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：イギリスからの移民（プッシュ要因とプル要因）〈アクティブラーニング・課題解決型学習〉 復習：ノートの確認、疑問点を記入する			
【第3回】 予習：イギリス系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：イギリス系アメリカ人の文化的貢献 復習：ノートの確認、質問事項を記入、次回の授業で課題（イギリス系アメリカ人についてのまとめ）を提出する			
【第4回】 予習：ドイツ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：ドイツ系からの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習：ノートの確認、課題（テキスト8～9頁）、質問事項を記入する			
【第5回】 予習：ドイツ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：ドイツ系アメリカ人の文化的貢献 復習：ノートの確認、質問事項を記入、次回の授業で課題（ドイツ系アメリカ人についてまとめる）を提出する			
【第6回】 予習：アイルランド系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：アイルランドからの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習：ノートの確認、質問事項を記入する			
【第7回】 予習：アイルランド系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：アイルランド系アメリカ人の文化的貢献 復習：ノートの確認、質問事項を記入、次回に授業で課題（アイルランド系アメリカ人の文化的貢献についてまとめる）を提出する			
【第8回】 予習：イタリア系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：イタリア系からの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習：ノートの確認、質問事項を記入する			
【第9回】 予習：イタリア系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：イタリア系アメリカ人の文化的貢献 復習：ノートの確認、質問事項を記入、次回の授業で課題（イタリア系アメリカ人の文化的貢献についてまとめる）を提出する			
【第10回】 予習：ユダヤ系アメリカ人について調べる 授業：ユダヤ系移民の種類と渡米の理由 復習：ノートの確認、質問事項を記入する			
【第11回】 予習：ユダヤ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業：ユダヤ系アメリカ人の文化的貢献 復習：ノートの確認、質問事項を記入、次回の授業で課題（ユダヤ系アメリカ人の文化的貢献についてまとめる）を提出する			
【第12回】 予習：ヒスパニックの文化的貢献について調べる 授業：ヒスパニックの種類と渡米の理由			

復習 : ノートの確認、質問事項を記入する 【第 13 回】 予習 : ヒスパニックの文化的貢献について調べる 授業 : ヒスパニック意の文化的貢献 復習 : ノートの確認、質問事項を記入、次回の授業で課題（ヒスパニックの文化的貢献についてまとめる）を提出する 【第 14 回】 予習 : 「アメリカ人とはなにか」について考えてくる 授業 : アメリカ人の「自画像」 復習 : ノートの確認と疑問点を記入する 【第 15 回】 予習 : 多文化主義について調べる 授業 : 多文化主義 復習 : ノートの確認とまとめ								
授業開始前学習	高校で使用するレベルの世界史の教科書を読んでおいてください。							
授業内課題の フィードバックの方法	教科書にある「課題」（各章の最終頁に記載）のほか、数回のレポート課題を出しますが、回答例または添削する方法でフィードバックします。							
テキスト・教材	教科書は使用しません。							
参考書	授業のなかで適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート(75%)、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢（5%）							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	「アメリカの文化と歴史 I・II」							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	文化交流論 A(日本とヨーロッパ)		
科目分類	120-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cultural Exchange Studies A (Japan and Europe)	授業区分	講義
科目責任者	糟谷恵次	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	糟谷・弥久保・米金	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	近世以降、日本とヨーロッパは政治・経済・文化など、重層的な交流を絶えず行ってきた。これらの交流過程とその成果について、来日した政治家・軍人・文化人と渡欧した人々の足跡をたどりながら研究する。加えて、現代社会にまでみることのできる影響についても考える。		
到達目標	日本とヨーロッパ諸国との交流について、基本的な過程を理解したうえで、日本の近代化における諸外国の役割について論じることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】担当 担当全教員  予習：シラバスを読んでおく。  授業：担当教員が授業内容や評価について詳細な説明を行う。  復習：授業内容を再確認する。</p> <p>【第2回】担当 糟谷  予習：高等学校の歴史教科書等でヨーロッパの大航海時代について復習しておく。  授業：ヨーロッパとの出会い前史  復習：ザビエル来日以前のヨーロッパの状況を確認する。</p> <p>【第3回】担当 糟谷  予習：ザビエル、天正遣欧使節、慶長遣欧使節について調べておく。  授業：ザビエルと日本  復習：ザビエル来日の意義を考察する。</p> <p>【第4回】担当 糟谷  予習：鎖国期の日本とドイツとの関わりを調べておく。  授業：ドイツからの訪問者 ～ケンペルとシーボルト～  復習：ケンペルとシーボルトが観た日本を確認する。</p> <p>【第5回】担当 糟谷  予習：明治・大正期のドイツとの関わりを具体的に調べておく。  授業：森鷗外とドイツ  復習：森鷗外のドイツ留学体験の意義を確認する。</p> <p>【第6回】担当 弥久保  予習：イギリスがイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドによって構成される連合王国であることを調べておく。  授業：イギリスという国のカタチ（アングロサクソン系とケルト系の融合）。  復習：イギリスが連合王国として連合されてゆく歴史と背景をまとめる。</p> <p>【第7回】担当 弥久保  予習：日本とイギリスの交流の端緒となった1600年のウィリアム・アダムスと徳川家康について調べる。  授業：ウィリアム・アダムスが徳川幕府で果たした役割。  復習：江戸幕府の鎖国によってイギリスが排除された背景についてまとめる。</p> <p>【第8回】担当 弥久保  予習：幕末の日本を取り囲む欧米列強国の動向を調べる。  授業：幕末の日本の藩とイギリスの戦争とその影響。  復習：幕末にイギリスと戦争が与えた影響についてまとめる。</p> <p>【第9回】担当 弥久保  予習：明治維新期のイギリスとの交流を調べる。  授業：明治期における遣欧使節とお雇い外国人教師（イギリス）の果たした役割。  復習：遣欧使節とお雇い外国人教師（イギリス）が日英交流に果たした役割をまとめる。</p> <p>【第10回】担当 弥久保  予習：日英同盟が両国に果たした役割を調べる。  授業：日英同盟、第二次世界大戦、戦後の日英交流  復習：第二次世界大戦後の日英交流史をまとめる。</p> <p>【第11回】担当 米金  予習：フランスの国土・文化・教育について調べる。  授業：基本的なフランスの国土・文化・体制・教育について学ぶ。  復習：フランス語、フランス文化政策を確認する。</p> <p>【第12回】担当 米金  予習：フランスの植民地政策について調べる。  授業：フランスによる植民地政策・フランス語圏・フランス文化圏について学ぶ。  復習：フランス社会への同化主義を確認する。</p> <p>【第13回】担当 米金</p>			

<p>予習：フランスの家族制度・人生観・政治・経済について調べる。          授業：家族・人生・政治・経済・教育制度について学ぶ。          復習：日本との比較や日本への影響などを確認する。  <b>【第14回】担当 米金</b>          予習：フランスの事件・ニュース・出来事について調べる。          授業：2000年以降のフランスにおける重大事件について考察する。          復習：事件の背景にある複雑な原因を確認する。  <b>【第15回】担当 米金</b>          予習：ジャポニスムについて調べる。          授業：日本がヨーロッパ(フランス)に及ぼした文化的な影響力を考察する。          復習：万国博覧会とジャポニスムとの関係を確認する。</p>								
授業開始前学習	高校で使用した日本史・世界史の教科書や資料を再読しておくとの良い。併せて、ヨーロッパ諸国とアジア諸国の位置関係を地図上で確認する。							
授業内課題のフィードバックの方法	各担当ごとに、授業内容に関するレポート等を課し、内容について評価する。							
テキスト・教材	適宜、授業中に詳細な授業プリントと関連資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業中のレポートやテストによって評価するが、方法は担当者により異なる。授業回数に応じて評価点を、各担当者に配分する。評価点の配分は、初回2%、第2回以降は各回7%となる。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

☆文化交流論(日本とアメリカ)／文化交流論 B(日本とアメリカ)

科目名称	☆文化交流論(日本とアメリカ)／文化交流論 B(日本とアメリカ)		
科目分類	120-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cultural Exchange Studies B (Japan and United States of America)	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	日本とアメリカの関係は密接で、政治的、経済的、文化的レベルまで及んでいる。本講義では、日米の国家間・政府間の関係の歴史を 19 世紀半ばに来航したペリーの時期から太平洋戦争に突入した時期を中心に日米間の歴史を概観します。続いて、日系アメリカ人の歩んだ歴史、日米文化交流の歴史、北海道開拓の歴史、日米の文化交流の歴史と現状、そして日米の相互認識を概説します。こうしたテーマを概観しながら、日本とアメリカの観光資源についても適宜紹介・解説します。なお、授業形態は双方向型および課題解決型です。		
到達目標	密接な関係にある日本とアメリカの政治的、経済的、文化的交流の学びを通じて、日米の歩んできた歴史に関する基礎を把握するとともに、歴史的・文化的に注目すべき観光資源についての理解を深めることを目標とします。さらに、授業を通じて、主に傾聴力、筆記力、調べる力などが身に付けられるように授業を行います。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第 1 回】 予習：テキスト 1～3 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：授業計画、方針、成績評価等を説明し、日米の基本的知識について質疑を行います 復習：日米の基本的知識についての質疑でわからなかったことを理解する			
【第 2 回】 予習：テキスト 4～8 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：ペリー来航の背景 復習：ノートの確認と課題 1・2（テキスト 24 頁）に取り組む			
【第 3 回】 予習：テキスト 4～8 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：ペリー来航に対する日本の姿勢と 2 つの条約締結（DVD 鑑賞「安部正弘の外交戦略」と解説） 復習：ノートの確認と課題 3・4（テキスト 24 頁）に取り組む			
【第 4 回】 予習：テキスト 8～11 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：世紀転換期の日米関係 復習：ノートの確認と課題 5・6（テキスト 25 頁）に取り組む			
【第 5 回】 予習：テキスト 11～18 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日系アメリカ人 復習：ノートの確認と課題 8・9・11（テキスト 25 頁）に取り組む			
【第 6 回】 予習：テキスト 11～18 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日系アメリカ人（DVD 鑑賞と解説） 復習：ノートの確認と課題 8・9・11（テキスト 25 頁）に取り組む			
【第 7 回】 予習：テキスト 18～24 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：太平洋戦争への道、明治以前の日米人の交流史 復習：ノートの確認と万次郎と関係のあるアメリカの都市について調べる			
【第 8 回】 予習：テキスト 26～34 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：DVD（「ジョン万次郎」と「ジョセフ彦」）鑑賞と解説 復習：ノートの確認と課題 1・2・3（テキスト 25 頁）に取り組む			
【第 9 回】 予習：テキスト 35～41 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：北海道開拓の歴史 復習：ノートの確認と課題 1・2・3（テキスト 55 頁）に取り組む			
【第 10 回】 予習：テキスト 35～41 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：北海道開拓の歴史、DVD（「W・クラーク」）鑑賞と解説 復習：ノートの確認と課題 4（テキスト 55 頁）に取り組む			
【第 11 回】 予習：テキスト 41～50 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：アメリカ文化の「輸入」 復習：ノートの確認と課題 5・6（テキスト 55 頁）に取り組む			
【第 12 回】 予習：テキスト 50～55 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日本文化の「輸出」			

復習：ノートの確認と課題 7・8・9・10（テキスト 55 頁）に取り組む 【第 13 回】 予習：第 10・11 回の復習課題についての発表準備 授業：日米文化の輸出入の発表（プレゼンテーション：ただし履修者数により変更の可能性あり） 復習：発表の感想（800 字程度） 【第 14 回】 予習：テキスト 55～61 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日本人のアメリカ観 復習：ノートの確認と課題 1・2・3（テキスト 67 頁）に取り組む 【第 15 回】 予習：テキスト 61～66 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：アメリカ人の日本観 復習：ノートの確認と課題 4・5（テキスト 67 頁）に取り組む								
授業開始前学習	高校で日本史または世界史を履修した人は、教科書を読んでおいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題については、模範解答もしくは添削によりフィードバックします。							
テキスト・教材	羽鳥修『文化交流論 B（日本とアメリカ）』（駒沢女子大学教科書シリーズ、2010 年）							
参考書	教科書 69 頁を参照。その他は適宜紹介する。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（75%）、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢（5%）							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	「アメリカの文化と歴史 I・II」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	文化交流論 C(日本とアジア)		
科目分類	120-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Cultural Exchange Studies C (Japan and Asia)	授業区分	講義
科目責任者	加島 勝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加島 勝	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	仏教が韓半島の百済から伝えられた6世紀中頃以降、日本の文化は仏教を中心に発展してきた。そうした文化の一つに仏教工芸がある。奈良斑鳩（いかるが）の法隆寺には多種多様な仏教工芸品が伝えられ、その一部は法隆寺献納宝物として現在東京国立博物館に収蔵され、同館の法隆寺宝物館に展示されている。本授業はこの法隆寺献納宝物に含まれる仏教工芸品のさまざまな姿をインド、西域、中国、韓半島など東アジア諸地域の仏教美術史の中で様式論的研究方法を用いて、作品を通して具体的に理解することを目標としている。		
到達目標	古代仏教工芸品のさまざまな姿をインド、西域、中国、韓半島など東アジア諸地域の仏教美術史の中で様式論的研究方法を用いて、作品を通して具体的に理解できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>この授業は対面型授業で行います。  これまで公開していたシラバスでは第15回目の授業はディスカッションとしていましたが、ディスカッションは行わず教員がまとめを行いません。</p> <p>【第1回】  予習：法隆寺がどのような寺院であるか図書館やインターネットなどで自分なりに調べてみてください  授業：オリエンテーション。この授業の進め方や評価方法などについて説明する  復習：特にありません</p> <p>【第2回】  予習：配布プリントを通読する  授業：法隆寺の歴史  復習：法隆寺の歴史について授業内容を確認する</p> <p>【第3回】  予習：配布プリントを通読する  授業：法隆寺献納宝物の由来  復習：法隆寺献納宝物の由来について授業内容を確認する</p> <p>【第4回】  予習：配布プリントを通読する  授業：荘厳具1 仏舎利の荘厳①インド～中国～韓半島  復習：授業で取り上げた仏舎利の荘厳（インド～中国～韓半島）の内容を確認する</p> <p>【第5回】  予習：配布プリントを通読する  授業：荘厳具2 仏舎利の荘厳②日本  復習：授業で取り上げた仏舎利の荘厳（日本）の内容を確認する</p> <p>【第6回】  予習：配布プリントを通読する  授業：荘厳具3 玉虫厨子と伝橋夫人念持仏厨子①玉虫厨子の仏画と金工  復習：授業で取り上げた玉虫厨子の仏画と金工に関する内容を確認する</p> <p>【第7回】  予習：配布プリントを通読する  授業：荘厳具4 玉虫厨子と伝橋夫人念持仏厨子②伝橋夫人念持厨子の仏画と金工  復習：授業で取り上げた伝橋夫人念持厨子の仏画と金工に関する内容を確認する</p> <p>【第8回】  予習：配布プリントを通読する  授業：荘厳具5 灌頂幡①現状と問題点  復習：授業で取り上げた灌頂幡の現状と問題点に関する内容を確認する</p> <p>【第9回】  予習：配布プリントを通読する  授業：荘厳具6 灌頂幡②図様の主題と装飾意匠  復習：授業で取り上げた灌頂幡の図様の主題と装飾意匠に関する内容を確認する</p> <p>【第10回】  予習：配布プリントを通読する  授業：供養具1 胡瓶と竜首水瓶  復習：授業で取り上げた胡瓶と竜首水瓶に関する内容を確認する</p> <p>【第11回】  予習：配布プリントを通読する  授業：供養具2 軍持と浄瓶  復習：授業で取り上げた軍持と浄瓶に関する内容を確認する</p> <p>【第12回】  予習：配布プリントを通読する</p>			

授業：供養具3 鵲尾形柄香炉 復習：授業で取り上げた鵲尾形柄香炉に関する内容を確認する 【第13回】 予習：配布プリントを通読する 授業：供養具4 獅子鎮柄香炉と瓶鎮柄香炉 復習：授業で取り上げた獅子鎮柄香炉と瓶鎮柄香炉に関する内容を確認する 【第14回】 予習：配布プリントを通読する 授業：鏡鑑 海磯鏡 復習：授業で取り上げた海磯鏡に関する内容を確認する 【第15回】 予習：この授業のまとめの準備 授業：この授業のまとめ 復習：この授業のまとめの内容を確認する								
授業開始前学習	授業時に配布するプリントや紹介する参考書を事前に読んでおくことと授業の理解がしやすい							
授業内課題のフィードバックの方法	小レポート（200字程度）などの課題について、翌週にフィードバックする。							
テキスト・教材	授業時に必要に応じてプリントを配布する							
参考書								
評価の基準と方法	平常点（授業への取り組みと学期中の小レポート等）50%と毎回提出してもらう小レポート（200字程度）50%を基準とし、総合的に判断した上で一定基準に達した者を相対評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他	この授業を通して寺院や博物館・美術館を訪れ、実際の作品を鑑賞する勉強態度を身につけてほしい							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	イスラム文化論		
科目分類	120-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Religious Culture ( Islam)	授業区分	講義
科目責任者	太田 啓子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 啓子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	イスラム教は世界三大一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）のひとつです。その広がりはアジア、アフリカにとどまらず、ヨーロッパ、アメリカなどほぼ世界全体に及んでいます。このように世界規模の広がりを見せるイスラム教を信奉する人びと、すなわちムスリムたちはさまざまな自然地理条件・社会環境下にある諸地域において多様な文化を育んでいます。そこで本授業では、前半は主に宗教としてのイスラム教について、後半はイスラム教を背景に育まれた多様な文化について取り上げます。		
到達目標	宗教としてのイスラム教について基本的な知識を得ること、またイスラム教を背景に育まれた多様な文化を知ることを通じて、その宗教的普遍性、文化的多様性についての理解を深めることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第1回】</b>          予習：あらかじめ授業のシラバスに目を通しておくこと。          授業：ガイダンス          復習：「イスラム」という言葉から自分が連想するものを3つ考えておくこと。</p> <p><b>【第2回】</b>          予習：高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのイスラムに関連する部分を読み返しておくこと。          授業：イスラムとは何か          復習：なぜイスラム研究者は「イスラム教」ではなく、「イスラム」という呼称を用いるのか考えてみること。</p> <p><b>【第3回】</b>          予習：イスラム教とはどういう宗教なのか、簡単に調べておくこと。          授業：イスラムのキーワード          復習：「イスラム」「アッラー」「六信五行」「ウンマ」などについて復習しておくこと。</p> <p><b>【第4回】</b>          予習：『クルアーン』の日本語訳に、一部分で良いので、目を通しておくこと。          授業：クルアーンとムハンマド          復習：「クルアーン」「ムハンマド」「ハディース」などについて復習しておくこと。</p> <p><b>【第5回】</b>          予習：イスラム法にはどのような規定があるか、いくつか調べておくこと。          授業：イスラム法          復習：イスラム法の特徴と各法学派について復習しておくこと。</p> <p><b>【第6回】</b>          予習：イスラム神秘主義者（スーフィー）とはどういう人たちが、自分のイメージを考えておくこと。          授業：スーフィズム          復習：スーフィズムの成立過程と果たした役割について復習しておくこと。</p> <p><b>【第7回】</b>          予習：シーア派とスンナ派の違いについて、いくつか調べておくこと。          授業：シーア派とスンナ派          復習：シーア派とスンナ派が分かれた理由、その違いについて復習しておくこと。</p> <p><b>【第8回】</b>          予習：イスラム世界の政治の流れについて、高校の時に世界史を履修していた人は、教科書を読み返しておくこと。          授業：イスラムと政治          復習：7世紀～現代までのイスラム世界の政治の流れについて復習しておくこと。</p> <p><b>【第9回】</b>          予習：第3回の授業内容である「五行」について復習しておくこと。          授業：「史料を読んでみよう！(1) ヌッカ巡礼」(グループワーク)          復習：他の宗教の巡礼についても、1つで良いので調べてみること。</p> <p><b>【第10回】</b>          予習：アロマショップなどで、乳香（フランキンセンス）の匂いを実際に嗅いでおくこと。          授業：乳香と乳香をめぐる文化          復習：乳香がイスラム文化とキリスト教文化において果たした役割について復習しておくこと。</p>			

<p>【第 11 回】          予習：イスラームのガラス器について調べておくこと。          授業：ガラス器とイスラーム          復習：ガラス器を通じたヨーロッパとイスラーム世界の交流について復習しておくこと。</p> <p>【第 12 回】          予習：東京ジャーミイの HP (<a href="https://tokyocamii.org/ja/">https://tokyocamii.org/ja/</a>) を見ておくこと。          授業：モスク建築の変遷          復習：モスク建築とイスラーム世界の政治状況との結びつきについて復習しておくこと。</p> <p>【第 13 回】          予習：スターバックス、ドトールなどで、どのような国のコーヒーが扱われているか調べておくこと。          授業：世界飲料としてのコーヒー          復習：コーヒー飲用の習慣がどのように世界中に広がっていったのかを復習しておくこと。</p> <p>【第 14 回】          予習：イスラーム教徒の女性（ムスリマ）について自分が持っているイメージを考えておくこと。          授業：イスラームと女性          復習：授業を受ける前に自分が持っていたイスラーム教徒の女性イメージと、授業後に持ったイメージを比較してみる。</p> <p>【第 15 回】          予習：第 13 回の授業内容である「世界飲料としてのコーヒー」について復習しておくこと。          授業：「史料を読んでみよう！(2) コーヒーの流行」(グループワーク)          復習：コーヒー以外の嗜好品の歴史についても、1 つで良いので調べてみる。</p>								
授業開始前学習	高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのイスラームに関連する部分を読み返しておいてください。授業内容が理解しやすくなります。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げた内容について、毎回、授業内で課題を出しますので提出してください（提出は必須）。感想・質問がある場合には、課題を提出する際に、一緒に記入してください（こちらの記入は任意）。これらに対して次回の授業で教員より回答・補足説明を行います。							
テキスト・教材	東長靖『イスラームのとらえ方（世界史リブレット 15）』、山川出版社、1996 年。 * テキストがなくても受講可能です（授業はテキストがなくても理解できるように行います）。							
参考書	各回の授業時に、授業内容に関連する参考文献を紹介します。							
評価の基準と方法	定期試験 100% で評価します。 * 単位認定には 3 分の 2 以上の授業内課題を提出することが最低条件ですので注意してください。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎					△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	キリスト教文化論		
科目分類	120-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Religious Culture (Christianity)	授業区分	講義
科目責任者	太田 啓子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 啓子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ユダヤ教の影響を受けて成立したキリスト教は、今日、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカなどの世界の諸地域でもっとも信奉される宗教のひとつであると言えます。国際交流が加速度的に活発化している現代世界において、キリスト教を理解することはますます重要になってくると思われます。そこで本授業では、前半はキリスト教の成立・発展について、後半は主に日本とキリスト教の関わりについて学びます。		
到達目標	キリスト教の成立・発展の過程について基本的な知識を得ること、そしてキリスト教が日本に対して及ぼした影響を知ることを通じて、その宗教的普遍性、文化的多様性についての理解を深めることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		

各回の授業内容と課題学習（予習・復習）

【第1回】

予習：あらかじめ授業のシラバスに目を通しておくこと。

授業：ガイダンス

復習：「キリスト教」という言葉から自分が連想するものを3つ考えておくこと。

【第2回】

予習：高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのキリスト教に関連する部分を読み返しておくこと。

授業：キリスト教とユダヤ教

復習：キリスト教の起源について復習しておくこと。

【第3回】

予習：イエスについて自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。

授業：キリスト教の成立

復習：原始キリスト教会の誕生について復習しておくこと。

【第4回】

予習：元々ローマ帝国ではどのような宗教が信仰されていたか調べておくこと。

授業：キリスト教とローマ帝国

復習：キリスト教がローマ帝国の国教となった過程について復習しておくこと。

【第5回】

予習：東方教会、西方教会というワードについて、簡単に調べておくこと。

授業：キリスト教界の東西分裂

復習：ゲルマン民族のキリスト教受容と東方教会の歩みについて復習しておくこと。

【第6回】

予習：十字軍について自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。

授業：教皇権と十字軍

復習：十字軍と教皇権の失墜について復習しておくこと。

【第7回】

予習：ルターについて、簡単に良いので調べておくこと。

授業：宗教改革の時代①

復習：宗教改革がドイツ、スイスで起きた過程について復習しておくこと。

【第8回】

予習：ヘンリ8世、エリザベス1世について、簡単に良いので調べておくこと。

授業：宗教改革の時代②

復習：宗教改革がイギリス、フランスなどのヨーロッパ諸地域に波及していった過程について復習しておくこと。

【第9回】

予習：新島襄について、簡単に良いので調べておくこと。

授業：近代のキリスト教①

復習：アメリカにおけるキリスト教の発展と植民事業との関わりについて復習しておくこと。

【第10回】

予習：ダーウィンの進化論について、簡単に良いので調べておくこと。

授業：近代のキリスト教②

復習：近代科学の発達がキリスト教に及ぼした影響について復習しておくこと。

<p>【第11回】          予習：「エキュメニカル運動」とは何か、簡単に良いので調べておくこと。          授業：現代のキリスト教          復習：キリスト教の世界的な広がりについて復習しておくこと。</p> <p>【第12回】          予習：第8回の授業内容である「宗教改革」について復習しておくこと。          授業：「史料を読んでみよう！(1) 魔女狩り」(グループワーク)          復習：なぜ魔女狩りが起こったのか、考えてみよう。</p> <p>【第13回】          予習：ザビエルについて、自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。          授業：日本へのキリスト教宣教          復習：イエズス会の活動について復習しておくこと。</p> <p>【第14回】          予習：遠藤周作『沈黙』を読んでおくこと。          授業：近世日本のキリスト教政策          復習：キリスト教が禁止されることになった経緯について復習しておくこと。</p> <p>【第15回】          予習：第13回の授業内容である「日本へのキリスト教宣教」について復習しておくこと。          授業：「史料を読んでみよう！(2) フロイスの日本覚書」(グループワーク)          復習：フロイスの目に映った日本と、現代の日本を比べてみよう。</p>								
授業開始前学習	高校の時に世界史・日本史を履修していた人は、教科書、資料集などのキリスト教に関連する部分を読み返しておいてください。授業内容が理解しやすくなります。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げた内容について、毎回、授業内で課題を出しますので提出してください(提出は必須)。感想・質問がある場合には、課題を提出する際に、一緒に記入してください(こちらの記入は任意)。これらに対して次回の授業で教員より回答・補足説明を行います。							
テキスト・教材	嶺重淑『キリスト教入門：歴史・人物・文学』、日本キリスト教団出版局、2011年 *テキストがなくても受講可能です(授業はテキストがなくても理解できるように行います)。							
参考書	各回の授業時に、授業内容に関連する参考文献を紹介します。							
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価します。 *単位認定には3分の2以上の課題を提出期限内に提出することが最低条件ですので注意してください。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎					△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	旅行法規 I		
科目分類	120-330-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Tourism Laws and Regulations I	授業区分	講義
科目責任者	武井 智弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武井 智弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	旅行業界で働くためには必須となる旅行業法および関連する法令を学習する。 旅行業法の知識は旅行業務取扱管理者試験の必須事項となるため、この試験に合格できるレベルの解説を実施する。		
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験および総合旅行業務取扱管理者試験の「旅行業法及びこれに基づく命令」の科目で、合格に必要な 60 パーセントを点数できる力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：該当頁を一読する  授業：旅行業法令の概要と効果的な学習法、第 1 条(目的)  復習：法令の概要を再確認する</p> <p>【第 2 回】  予習：該当頁を一読する  授業：旅行業等の定義  復習：旅行業等の定義を理解する</p> <p>【第 3 回】  予習：該当頁を一読する  授業：登録(旅行業及び旅行業者代理業)  復習：登録制度を理解する</p> <p>【第 4 回】  予習：該当頁を一読する  授業：営業保証金 練習問題  復習：練習問題を再確認する</p> <p>【第 5 回】  予習：該当頁を一読する  授業：弁済業務保証金  復習：営業保証金と弁済業務保証金の違いを理解する</p> <p>【第 6 回】  予習：該当頁を一読する  授業：旅行業務取扱管理者  復習：10 の管理・監督事務を確認する</p> <p>【第 7 回】  予習：該当頁を一読する  授業：料金の揭示・旅行業約款 練習問題  復習：練習問題を再確認する</p> <p>【第 8 回】  予習：該当頁を一読する  授業：取引条件の説明、書面の交付  復習：71 頁 72 頁の表示内容を理解する</p> <p>【第 9 回】  予習：該当頁を一読する  授業：外務員の証明書、広告、標識の揭示、旅程管理、禁止行為  復習：該当頁を再読する</p> <p>【第 10 回】  予習：該当頁を一読する  授業：受託契約、事業の廃止等・業務改善命令・登録の取り消し等、練習問題  復習：練習問題を再確認する</p> <p>【第 11 回】  予習：該当頁を一読する  授業：旅行サービス手配業  復習：旅行業等と旅行サービス手配業の差異を理解する</p> <p>【第 12 回】  予習：該当頁を一読する  授業：旅行業協会  復習：法定 5 業務を確認する</p> <p>【第 13 回】</p>			



予習 : 該当頁を一読する 授業 : 雑則、罰則 復習 : 観光庁長官と都道府県知事が行うものを区別する 【第 14 回】 予習 : 今までの練習問題を再確認 授業 : 小テスト 復習 : 解答を再考 【第 15 回】 予習 : テキストの重要点を再確認 授業 : 最終テスト 復習 : 旅行業務取扱管理者試験受験のスケジュール作成								
授業開始前学習	旅行会社の店舗を訪問する。 扱っている商品、掲示されている証明書、店頭職員のつけている証明書等を確認する。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内または翌週に回答・解説の実施。 また個別に質問があった内容については翌週の授業において全員に解説を行う。							
テキスト・教材	『旅行業実務シリーズ ①旅行業法及びこれに基づく命令』（J T B 総合研究所）							
参考書								
評価の基準と方法	小テスト : 40% 最終テスト : 50% 平常点 : 10%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目	旅行法規Ⅱ							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	旅行会社勤務で得た知見を活かし、具体例を交えながら解説を実施する。 また業法に定義された事項を実際の事例をもとに具体的な解説も実施する。							

科目名称	旅行法規Ⅱ		
科目分類	120-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Tourism Laws and Regulations II	授業区分	講義
科目責任者	武井 智弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武井 智弘	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>本講義では「約款（やっかん）」について理解を深め、旅行業務取扱管理者試験合格レベルまでの理解を目的とする。旅行に行く際には様々な事業者を利用することになる。例えば旅行会社、宿泊施設（ホテル・旅館など）、運送サービス会社（貸切バス・航空・フェリー会社など）など複数の事業者が旅行者にサービスを提供するが、旅行者と各事業者の間の約束事項（契約事項）を事前に記したものが約款である。</p> <p>この「約款」が旅行・宿泊・運送契約等の基本となるものであり、旅行業界で働く人々の、日々発生する様々な事項に関して判断をするための基本となるものであり、この約款を理解することが旅行業界で働くための必須事項となっている。</p> <p>本講義では旅行会社との契約事項である「標準旅行業約款」を中心に、国内旅行業務取扱管理者試験において出題範囲となっている「貸切バス・国内航空・フェリー・宿泊」に関する約款の解説も実施する。</p>		
到達目標	国内旅行業務管理者試験の「約款」科目において、必要合格レベルである正答率 60%を獲得できる理解力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：該当頁を一読  授業：約款の概要と効果的な学習法 募集型企画旅行 第1章 総則  復習：国家試験合格のスケジュールを作成する</p> <p>【第2回】  予習：該当頁を一読  授業：募集型企画旅行 第2章 契約の締結、第3章 契約の変更  復習：契約条件を理解する 契約変更できる場合を理解する</p> <p>【第3回】  予習：該当頁を一読  授業：募集型企画旅行 第4章 契約の解除、第5章 団体・グループ契約  復習：契約解除はどのような場合にできるかを理解する</p> <p>【第4回】  予習：該当頁を一読  授業：募集型企画旅行 第6章 旅程管理、第7章 責任  復習：旅程管理とは何かを理解する</p> <p>【第5回】  予習：該当頁を一読  授業：受注型企画旅行 第1章 総則、第2章 契約の締結  復習：募集型との違いを理解する</p> <p>【第6回】  予習：該当頁を一読  授業：受注型企画旅行 第3章 契約の変更、第4章 契約の解除、第5章 団体・グループ契約、第6章 旅程管理  復習：募集型との共通点と違いをまとめる</p> <p>【第7回】  予習：該当頁を一読  授業：特別補償規程 第1章 補償金等の支払い、第2章 補償金等を支払わない場合、第3章 補償金等の種類及び支払額、第4章 事故の発生及び補償金等の請求の手続き  復習：補償金が支払われない場合をまとめる</p> <p>【第8回】  予習：該当頁を一読  授業：特別補償規程 第5章 携帯品損害補償、手配旅行契約 第1章 総則、第2章 契約の成立  復習：特別補償と損害賠償の関係を正しく理解する</p> <p>【第9回】  予習：該当頁を一読  授業：手配旅行契約 第3章 契約の変更・解除、第4章 旅行代金、第5章 団体・グループ、第6章 責任  復習：募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いをまとめ、理解する</p> <p>【第10回】  予習：該当頁を一読  授業：旅行相談契約 渡航手続代行契約  復習：練習問題を再確認</p> <p>【第11回】  予習：該当頁を一読  授業：国内旅客運送約款</p>			

復習：ポイントをまとめる 【第12回】 予習：該当頁を一読 授業：国内旅客運送約款 復習：ポイントをまとめ、練習問題を再確認 【第13回】 予習：該当頁を一読 授業：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款 フェリー標準運送約款 練習問題 復習：運賃・料金計算も意識して理解する 【第14回】 予習：該当頁を一読 授業：モデル宿泊約款 復習：ポイントをまとめる 【第15回】 予習：該当頁を一読 授業：最終テスト 復習：ポイントをまとめる								
授業開始前学習	主要旅行会社の Web サイトを閲覧し、お客様と旅行会社の約束である約款を一読し、どのような約束事が記されているかのイメージを持っておくこと。 特に指定はないが「募集型企画旅行の部」が一番親しみやすいと思われる。(パッケージツアーの約款)							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内または翌週に回答・解説の実施。 また個別に質問があった内容については翌週の授業において全員に解説を行う。							
テキスト・教材	『旅行業実務シリーズ ②旅行業約款、運送・宿泊約款』（JTB総合研究所）							
参考書								
評価の基準と方法	小テスト：40% 最終テスト：50% 平常点：10%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目	旅行法規 I							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	旅行会社勤務で得た知見を活かし、具体例を交えながら解説を実施する。 またその具体例を示すことにより約款の理解がいかに必要かの解説も実施する。							

科目名称	国内旅行実務論 I		
科目分類	120-330-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Domestic Travel I	授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>「国内旅行業務取扱管理者」、または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な国内旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。</p> <p>主に、JR の運賃・料金、営業規則などを学び、国内旅行実務に必要な専門的な知識を習得する。</p> <p>将来、旅行業で活躍したいと考え、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。</p>		
到達目標	JR の運賃・料金の算出方法、営業規則などを理解し、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の国内旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：テキストの第 1 部第 1 章（P10～P17）の通読  授業：旅客営業規則（テキスト：第 1 部第 1 章 P10～P17）  復習：旅客営業規則に関するポイントの整理</p> <p>【第 2 回】  予習：テキストの第 1 部第 2 章（P18～P25）の通読  授業：JR 乗車券類（テキスト：第 1 部第 2 章 P18～P25）  復習：JR 乗車券類に関するポイントの整理</p> <p>【第 3 回】  予習：テキストの第 1 部第 3 章（P26～P29）の通読  授業：運賃①運賃計算の原則（テキスト：第 1 部第 3 章 P26～P29）  復習：運賃計算の原則に関するポイントの整理</p> <p>【第 4 回】  予習：テキストの第 1 部第 3 章（P30～P35）の通読  授業：運賃②運賃計算例（テキスト：第 1 部第 3 章 P30～P35）  復習：運賃計算例に関するポイントの整理</p> <p>【第 5 回】  予習：テキストの第 1 部第 3 章（P36～P43）の通読  授業：運賃③連絡運輸、普通乗車券（テキスト：第 1 部第 3 章 P36～P43）  復習：連絡運輸、普通乗車券に関するポイントの整理</p> <p>【第 6 回】  予習：テキストの第 1 部第 3 章（P44～P55）の通読  授業：運賃④運賃計算の特例（テキスト：第 1 部第 3 章 P44～P55）  復習：運賃計算の特例に関するポイントの整理</p> <p>【第 7 回】  予習：テキストの第 1 部第 3 章（P56～P60）の通読  授業：運賃⑤普通乗車券の効力、運賃の割引（テキスト：第 1 部第 3 章 P56～P60）  復習：普通乗車券の効力、運賃の割引に関するポイントの整理</p> <p>【第 8 回】  予習：テキストの第 1 部第 4 章（P61～P65）の通読  授業：料金①料金計算の基本（テキスト：第 1 部第 4 章 P61～P65）  復習：料金計算の基本に関するポイントの整理</p> <p>【第 9 回】  予習：テキストの第 1 部第 4 章（P66～P73）の通読  授業：料金②新幹線の特急料金（テキスト：第 1 部第 4 章 P66～P73）  復習：新幹線の特急料金に関するポイントの整理</p> <p>【第 10 回】  予習：テキストの第 1 部第 4 章（P74～P92）の通読  授業：料金③在来線の特急料金（テキスト：第 1 部第 4 章 P74～P92）  復習：在来線の特急料金に関するポイントの整理</p> <p>【第 11 回】  予習：テキストの第 1 部第 4 章（P93～P103）の通読  授業：料金④乗継割引（テキスト：第 1 部第 4 章 P93～P103）  復習：乗継割引に関するポイントの整理</p> <p>【第 12 回】  予習：テキストの第 1 部第 4 章（P104～P119）の通読  授業：料金⑤その他新幹線の取扱い（テキスト：第 1 部第 4 章 P104～P119）  復習：その他新幹線の取扱いに関するポイントの整理</p>			

<p>【第13回】          予習：テキストの第1部第5章・第6章（P120～P128）の通読          授業：変更・取り消し・払い戻し、回数券（テキスト：第1部第5章・第6章 P120～P128）          復習：変更・取り消し・払い戻し、回数券に関するポイントの整理</p> <p>【第14回】          予習：テキストの第1部第7章（P129～P140）の通読          授業：団体乗車券の発売、団体運賃・料金の計算（テキスト：第1部第7章 P129～P140）          復習：団体乗車券の発売に関するポイントの整理</p> <p>【第15回】          予習：テキストの第1部第8章（P141～P145）の通読          授業：特別企画乗車券（テキスト：第1部第8章 P141～P145）/授業理解度の確認          復習：特別企画乗車券に関するポイントの整理</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。							
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ3 国内運賃・料金』（JTB 総合研究所） 授業資料は classroom でも配布							
参考書	適宜、授業内で紹介							
評価の基準と方法	各回の授業内課題 40%、単元ごとの確認テスト 40%、平常点（授業態度など） 20%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他	「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S. では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。							

科目名称	国内旅行実務論Ⅱ		
科目分類	120-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Domestic Travel Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>「国内旅行業務取扱管理者」、または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な国内旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。</p> <p>主に、国内の航空・その他運輸機関や宿泊機関の運賃や料金の仕組み、約款等の規則などを学び、国内旅行実務に必要な専門的な知識を習得する。</p> <p>また、「国内旅行実務論Ⅰ」でのJRの運賃・料金、営業規則などの演習問題も行う。</p> <p>将来、旅行業で活躍したいと考え、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。</p>		
到達目標	国内の航空・その他運輸機関や宿泊機関の運賃や料金の仕組み、約款等の規則などを理解し、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の国内旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：テキストの第2部第1章（P172～P177）の通読  授業：航空①航空券販売の概要（テキスト：第2部第1章 P172～P177）  復習：航空券販売の概要に関するポイントの整理</p> <p>【第2回】  予習：テキストの第2部第2章（P178～P189）の通読  授業：航空②運賃・料金（テキスト：第2部第2章 P178～P189）  復習：航空運賃・料金に関するポイントの整理</p> <p>【第3回】  予習：テキストの第2部第2章（P190～P209）の通読  授業：航空③変更・取り消し・払い戻し等、航空約款（テキスト：第2部第2章 P190～P209）  復習：航空券の変更・取り消し・払い戻し等、航空約款に関するポイントの整理</p> <p>【第4回】  予習：テキストの第3部第1章（P210～P215）の通読  授業：貸切バスの運賃・料金、貸切バス約款（テキスト：第3部第1章 P210～P215）  復習：貸切バスの運賃・料金、貸切バス約款に関するポイントの整理</p> <p>【第5回】  予習：テキストの第3部第2章（P216～P225）の通読  授業：フェリーの運賃・料金、フェリー約款（テキスト：第3部第2章 P216～P225）  復習：フェリーの運賃・料金、フェリー約款に関するポイントの整理</p> <p>【第6回】  予習：テキストの第4部第1章・第2章（P226～P236）の通読  授業：宿泊料金等、モデル宿泊約款（テキスト：第4部第1章・第2章 P226～P236）  復習：宿泊料金等、モデル宿泊約款に関するポイントの整理</p> <p>【第7回】  予習：テキストの第1部第1章・第2章（P10～P25）の通読  授業：演習問題①：JR①旅客営業規則  復習：旅客営業規則に関するポイントの整理</p> <p>【第8回】  予習：テキストの第1部第3章（P26～P43）の通読  授業：演習問題②：JR②運賃計算の原則  復習：運賃計算の原則に関するポイントの整理</p> <p>【第9回】  予習：テキストの第1部第3章（P44～P60）の通読  授業：演習問題③：JR③運賃計算の特例  復習：運賃計算の特例に関するポイントの整理</p> <p>【第10回】  予習：テキストの第1部第4章（P61～P92）の通読  授業：演習問題④：JR④料金計算  復習：料金計算に関するポイントの整理</p> <p>【第11回】  予習：テキストの第1部第4章（P93～P118）の通読  授業：演習問題⑤：JR⑤料金計算  復習：料金計算に関するポイントの整理</p> <p>【第12回】  予習：テキストの第1部第5章・第6章（P119～P127）の通読</p>			

<p>授業：演習問題⑥：JR⑥料金計算  復習：取り消し・払い戻しに関するポイントの整理  【第13回】  予習：テキストの第1部第7章・第8章（P128～P144）の通読  授業：演習問題⑦：JR⑦団体乗車券  復習：団体乗車券に関するポイントの整理  【第14回】  予習：第13回までの授業資料などを復習  授業：総合演習①：JR・航空・社線・宿泊の理解度総合チェック（模擬テストと解説）  復習：JR・航空・社線・宿泊の約款と運賃・料金計算に関するポイントの整理  【第15回】  予習：第13回までの授業資料などを復習  授業：総合演習②：授業理解度の確認  復習：JRの営業規則と運賃・料金計算に関するポイントの整理</p>									
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。							
テキスト・教材		JT B 総合研究所編『旅行業実務シリーズ3 国内運賃・料金』（JT B 総合研究所） ※昨年度「国内旅行実務論Ⅰ」履修者は、昨年度使用のテキストを使用可。 授業資料などはclassroomでも配布予定							
参考書		適宜、授業内で紹介							
評価の基準と方法		単元ごと的小テスト30%、授業内課題50%、平常点（授業態度・課題提出）20%							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	△		○
関連科目									
その他		「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。							
予習・復習の所要時間		講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容		旅行会社2社での約4年間の勤務経験があり、特にH.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。							



科目名称	海外旅行実務論 I		
科目分類	120-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Overseas Travel I	授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な海外旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。主に、海外旅行業務の基礎知識や関連する運輸機関などの知識、渡航手続や出入国に関する法令など専門的な知識を習得する。</p> <p>将来、旅行業で活躍したいと考え、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。</p>		
到達目標	海外旅行業務の基礎知識や関連する運輸機関などの知識、渡航手続や出入国に関する法令などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の海外旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：テキスト第 3 部第 1 章（海外旅行実務）P122～137 の通読  授業：時差の知識（テキスト：海外旅行実務 P122～137）  復習：時差、時差表、夏時間、時差の計算（2 地点間の所要時間）に関するポイントの整理</p> <p>【第 2 回】  予習：テキスト第 3 部第 2 章（海外旅行実務）P138～148 の通読  授業：航空の知識①航空会社、都市・空港コード、国際航空運賃とその他付加運賃、諸料金（テキスト：海外旅行実務 P138～148）  復習：航空会社、都市・空港コード、国際航空運賃とその他付加運賃、諸料金に関するポイントの整理</p> <p>【第 3 回】  予習：テキスト第 3 部第 3 章（海外旅行実務）P149～164 の通読  授業：航空の知識②航空時刻表の見方（テキスト：海外旅行実務 P149～164）  復習：航空時刻表の見方（OAG）に関するポイントの整理</p> <p>【第 4 回】  予習：テキスト第 3 部第 4 章（海外旅行実務）P165～174 の通読  授業：鉄道の知識①ヨーロッパの鉄道、ユーレイルバス、鉄道の設備（テキスト：海外旅行実務 P165～174）  復習：ヨーロッパの鉄道、ユーレイルバス、鉄道の設備に関するポイントの整理</p> <p>【第 5 回】  予習：テキスト第 3 部第 4 章（海外旅行実務）P175～183 の通読  授業：鉄道の知識②ヨーロッパ鉄道時刻表、アメリカ・カナダ・オーストラリア・アジアの鉄道（テキスト：海外旅行実務 P175～183）  復習：ヨーロッパ鉄道時刻表、アメリカ・カナダ・オーストラリア・アジアの鉄道に関するポイントの整理</p> <p>【第 6 回】  予習：テキスト第 3 部第 5 章（海外旅行実務）P184～189 の通読  授業：船舶の知識（テキスト：海外旅行実務 P184～189）  復習：定期客船航路、クルーズに関するポイントの整理</p> <p>【第 7 回】  予習：テキスト第 3 部第 6 章（海外旅行実務）P190～195 の通読  授業：ホテルの知識（テキスト：海外旅行実務 P190～195）  復習：ホテルの種類、客室、料金、朝食に関するポイントの整理</p> <p>【第 8 回】  予習：テキスト第 3 部第 7 章（海外旅行実務）P196～208 の通読  授業：食事の知識・その他知識（テキスト：海外旅行実務 P196～208）  復習：レストラン、メニュー、飲み物、各国の名物料理、レンタカー、通貨、海外旅行保険に関するポイントの整理</p> <p>【第 9 回】  予習：テキスト第 1 部第 1 章（出入国法令と実務）P12～15 の通読  授業：海外旅行の基礎知識（テキスト：海外旅行実務 P12～15）  復習：外国旅行事情、海外危険情報、感染症情報に関するポイントの整理</p> <p>【第 10 回】  予習：テキスト第 1 部第 2 章（出入国法令と実務）P16～27 の通読  授業：渡航手続①旅券と旅券申請（テキスト：出入国法令と実務 P16～27）  復習：旅券と旅券申請に関するポイントの整理</p> <p>【第 11 回】  予習：テキスト第 1 部第 2 章（出入国法令と実務）P28～41 の通読  授業：渡航手続②その他旅券申請に関する手続き（テキスト：出入国法令と実務 P28～41）  復習：その他旅券申請に関する手続きに関するポイントの整理</p> <p>【第 12 回】  予習：テキスト第 1 部第 3 章（出入国法令と実務）P42～54 の通読  授業：渡航手続③予防接種、査証手続き、外貨手続き（テキスト：出入国法令と実務 P42～54）  復習：予防接種、査証手続き、外貨手続きに関するポイントの整理</p>			

<p>【第13回】          予習：テキスト第2部第1章（出入国法令と実務）P56～67の通読          授業：出入国手続①日本の出国手続き、外国での出・入国手続き（テキスト：出入国法令と実務 P56～67）          復習：日本の出国手続き、外国での出・入国手続きに関するポイントの整理</p> <p>【第14回】          予習：テキスト第2部第1章（出入国法令と実務）P68～87の通読          授業：出入国手続②日本の入国手続き（テキスト：出入国法令と実務 P68～87）          復習：日本の入国手続き（検疫・動植物検疫・税関）に関するポイントの整理</p> <p>【第15回】          予習：テキスト第2部第2章（出入国法令と実務）P88～92の通読          授業：出入国手続③外国人の日本出入国（テキスト：出入国法令と実務 P88～92）/授業理解度の確認          復習：外国人の日本入国、日本在留、出国と再入国許可に関するポイントの整理</p>								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。							
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ5 海外旅行実務－出入国法令と実務、旅行実務』（JTB 総合研究所） 授業資料は classroom でも配布予定							
参考書	適宜、授業内で紹介							
評価の基準と方法	各回の授業内課題 40%、単元ごとの確認テスト 40%、平常点（授業態度など） 20%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S. では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。							

科目名称	海外旅行実務論Ⅱ		
科目分類	120-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practical Studies in Overseas Travel Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な海外旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、国際航空券と国際航空運賃について、その仕組みと規則、運賃計算の基礎など専門的な知識を習得する。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。		
到達目標	国際航空券と国際航空運賃について、その仕組みと規則、運賃計算の基礎などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の海外旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：テキストP10～P16の通読  授業：IATAと国際航空運賃①IATAとは、IATA 地理区分、GI（テキスト：P10～P16）  復習：IATAとは、IATA 地理区分、GI（旅行経路）に関するポイントの整理</p> <p>【第2回】  予習：テキストP17～P21の通読  授業：IATAと国際航空運賃②運賃の分類、運賃の適用、小児運賃、曜日運賃、有効期間（テキスト：P17～P21）  復習：運賃の分類、運賃の適用、小児運賃、曜日運賃、有効期間に関するポイントの整理</p> <p>【第3回】  予習：テキストP22～P29の通読  授業：IATAと国際航空運賃③通貨・換算、タリフ、アドオン運賃、付加運賃等（テキスト：P22～P29）  復習：通貨・換算、タリフ、アドオン運賃、付加運賃等に関するポイントの整理</p> <p>【第4回】  予習：テキストP30～P36の通読  授業：IATAと国際航空運賃④航空券の記載内容、e チケットお客様控え（テキスト：P30～P36）  復習：航空券の記載内容、e チケットお客様控えに関するポイントの整理</p> <p>【第5回】  予習：テキストP38～P43の通読  授業：運賃計算の基本①運賃計算上の旅程と各地点、通し運賃、フェアコンポーネント、マイルージ計算（テキスト：P38～P43）  復習：運賃計算上の旅程と各地点、通し運賃、フェアコンポーネント、マイルージ計算に関するポイントの整理</p> <p>【第6回】  予習：テキストP44～P51の通読  授業：運賃計算の基本②旅行形態、運賃計算結果表示（テキスト：P44～P51）  復習：旅行形態、運賃計算結果表示に関するポイントの整理</p> <p>【第7回】  予習：テキストP54～P67の通読  授業：運賃計算①マイルージ計算と運賃計算（テキスト：P54～P67）  復習：マイルージ計算と運賃計算に関するポイントの整理</p> <p>【第8回】  予習：テキストP68～P84の通読  授業：運賃計算②マイルージ計算の特例（テキスト：P68～P84）  復習：マイルージ計算の特例に関するポイントの整理</p> <p>【第9回】  予習：テキストP86～P99の通読  授業：キャリア運賃①キャリア運賃の適用規則（テキスト：P86～P99）  復習：キャリア運賃の適用規則に関するポイントの整理</p> <p>【第10回】  予習：テキストP100～P106の通読  授業：キャリア運賃②キャリア運賃の計算（テキスト：P100～P106）  復習：キャリア運賃の計算に関するポイントの整理</p> <p>【第11回】  予習：テキストP107～P117の通読  授業：キャリア運賃③運賃の結合（テキスト：P107～P117）  復習：運賃の結合に関するポイントの整理</p> <p>【第12回】  予習：テキストP118～P145の通読  授業：キャリア運賃④キャリア運賃の理解度チェック（テキスト：P118～P145）  復習：キャリア運賃の理解度チェックに関するポイントの整理</p> <p>【第13回】</p>			

予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題①主に国際航空運賃に関する演習問題 復習：国際航空運賃に関するポイントの整理 【第 14 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題②主に海外旅行実務に関する演習問題 復習：運賃の結合に関するポイントの整理 【第 15 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題③国家試験などの過去問演習 復習：国家試験などの過去問に関するポイントの整理								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。							
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 6 海外旅行実務－ 国際航空運賃、旅行業英語』（JTB 総合研究所） 授業資料は classroom でも配布予定							
参考書	適宜、授業内で紹介							
評価の基準と方法	単元ごとの小テスト 30%、授業内課題 50%、平常点（授業態度・課題提出） 20%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S. では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。							

科目名称	旅行業務取扱管理者試験特講		
科目分類	120-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	National Examination for Certified General Travel Service Supervisors Course	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 奈緒子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 奈緒子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	毎年9月上旬の日曜日に実施されている国内旅行業務取扱管理者試験に合格するため、既出国家試験問題や練習問題および模擬試験問題を中心に学習する。 今年度の国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指す、学習意欲のある学生を対象とする。 10月上旬の日曜日に行われる総合旅行業務取扱管理者試験の合格も意識し進める。		
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験に合格するため、旅行業法令、旅行関係約款、国内旅行実務(国内観光地理・その他)の試験3科目で、各科目とも60パーセント以上の得点する力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 1  復習 :国内観光資源過去問題解答・解説</p> <p>【第2回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 2  復習 :国内観光資源練習問題-1</p> <p>【第3回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 3  復習 :国内観光資源練習問題-2</p> <p>【第4回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 4  復習 :国内観光資源練習問題-3</p> <p>【第5回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 5  復習 :国内観光資源練習問題-4</p> <p>【第6回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 6  復習 :国内観光資源練習問題-5</p> <p>【第7回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 7  復習 :国内運賃・料金練習問題解説</p> <p>【第8回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :国内旅行実務 8  復習 :国内運賃・料金練習問題解説</p> <p>【第9回】  予習 :事前配布資料参照  授業 :旅行業法 1  復習 :旅行業法練習問題解説</p> <p>【第10回】  予習 :事前配布練習問題参照  授業 :旅行業法 2  復習 :旅行業法練習問題解説</p> <p>【第11回】  予習 :事前配布練習問題参照  授業 :旅行業約款 1  復習 :旅行業約款練習問題解説</p> <p>【第12回】  予習 :事前配布過去問題参照  授業 :旅行業約款 2  復習 :航空約款、運送約款、宿泊約款練習問題解説</p>			

<p>【第13回】  予習 :事前配布練習問題参照  授業 :模擬テスト1  復習 :模擬テストの解答・解説</p> <p>【第14回】  予習 :事前配布練習問題参照  授業 :模擬テスト2  復習 :模擬テストの解答・解説</p> <p>【第15回】  予習 :事前配布練習問題参照  授業 :模擬テスト3  復習 :模擬テストの解答・解説</p>								
授業開始前学習	・関連科目(旅行法規 I、旅行法規 II、国内旅行実務論 I、国内旅行実務論 II)を受講し、特講開始までに内容を講義内容を復習すること。 編入生など事情により関連科目を受講できなかった学生は、必ず自習した上で特講を受講すること。 ・事前に国内観光地理の資料を Classroom にて配布する。可否を分けるのが国内観光地理の学習量となる場合が多いため、特講受講までに国内観光地理に関する知識を増やして欲しい。							
授業内課題のフィードバックの方法	特講の授業内に解答・解説を行う。							
テキスト・教材	・旅行実務シリーズ 1『1 旅行業法及びこれに基づく命令』、2『2 旅行業約款、運送・宿泊約款』、3『3 国内運賃・料金』、4『4 国内観光資源』(いずれも JTB 総合研究所)※2023 年度版推奨だが他年度版でも可 ・配布資料							
参考書	『旅地図 日本』(昭文社)							
評価の基準と方法	小テスト:40%、模擬テスト:50%、平常点(授業への貢献)10%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目	旅行法規 I、旅行法規 II、国内旅行実務論 I、国内旅行実務論 II、観光地理(国内)							
その他	受験手続は各自で行うこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	旅行会社勤務および総合旅行業務取扱管理者試験合格歴を生かし、効率的に学習する方法を指導する。							



科目名称	☆観光の英語／観光の英語 I		
科目分類	120-310-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	English for Tourism／English for Tourism I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-713
授業概要	観光の英語では、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力の習得を目的とする。様々な観光の場面で出会う基本的な英語表現を学び、ペアワークやロールプレイで反復練習を多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。		
到達目標	観光英語検定 3 級レベルの到達を目標とする。具体的には、海外グループ旅行の自由行動の際に、英語を使って買い物をしたり、食事を頼んだりすることができ、訪日観光客に対し、簡単な道案内などができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第 1 回	<p>予習：シラバスを読むとともに、世界の国々の英語名称を調べる。</p> <p>授業：観光の英語とは／Tour 1 国名の英語</p> <p>復習：わからなかった国名を確認し、発音を練習する。</p>		
第 2 回	<p>予習：教科書（pp.7～9）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 2 スモール・トーク</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 3 回	<p>予習：教科書（p.10）を参照してインタビューの準備をする。</p> <p>授業：Tour 3 英語で交流しよう（グループワーク）</p> <p>復習：活動レポートを作成する（課題①）。</p>		
第 4 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.12）と重要表現（pp.13～14）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 4 空港・機内にて</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 5 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.23）と重要表現（p.24）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 5 出入国手続</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 6 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.28）と重要表現（pp.28～29）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 6 両替・通貨</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 7 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.32）と重要表現（pp.32～34）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 7 移動手段を使いこなす</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 8 回	<p>予習：これまでの授業で学んだ表現などを振り返る。</p> <p>授業：到達度確認のためのアクティビティ（Tour 1～7）</p> <p>復習：まとめてわからなかった部分を確認する。</p>		
第 9 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.40）と重要表現（pp.41～42）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 8 道を尋ねる（道案内の英語）</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 10 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.45）と重要表現（pp.46～47）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 9 ホテルにて</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 11 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.53）と重要表現（p.55）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 10 買い物をしよう</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 12 回	<p>予習：教科書の重要単語（p.60）と重要表現（pp.61～62）に取り組む。</p> <p>授業：Tour 11 食事を楽しむ</p> <p>復習：授業で学んだ表現を確認する。</p>		
第 13 回			



<p>予習：教科書の重要単語（p.69）と重要表現（pp.70～72）に取り組む。          授業：Tour 12 旅のトラブル          復習：授業で学んだ表現を確認する。</p> <p>第 14 回          予習：教科書の重要単語（p.73）と重要表現（pp.73～74）に取り組む。          授業：Tour 13 観光に出かけよう          復習：授業で学んだ表現を確認する。</p> <p>第 15 回          予習：これまでの授業で学んだ表現などを振り返っておく。          授業：到達度確認のためのアクティビティ（Tour 8～13）          復習：まとめてわからなかった部分を確認する。</p>								
授業開始前学習	飛行機、電車、地下鉄、バスなどの交通機関での英語のアナウンスや、観光地の英語の案内など、観光の場面での英語に関心を持ち、写真を撮るなど記録するようこころがける。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業の冒頭に事前学習に基づく小テストを行い、その場で解説する。課題①は翌週の授業で講評し、個別にコメントを付して返却する。							
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ「観光の英語」に基づくプリントを初回授業で配布します。また、学生の習熟度に応じて、トピックごとに異なる教材を用いる場合は、事前に配布する。							
参考書	教科書の参考文献を参照。その他、授業内で紹介する。「旅行英会話・海外旅行英会話 海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」（iPhone, iPad）、「旅行英会話 海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」（アンドロイド）の無料アプリをダウンロードしておくことをお勧めします。							
評価の基準と方法	試験（授業内模擬試験・定期試験を含む）（40%）、小テストと課題への取組（40%）及び授業内活動への積極的な貢献（20%）を総合して評価する。試験では、観光英語検定 3 級レベルの運用能力を問う。なお、観光英語検定の合格者（授業実施前の合格者を含む）には、合格級に応じてボーナス加点を行う。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎					△
関連科目	観光の英語、観光ガイドの英語、ホスピタリティの英語、通訳・ガイド、日本紹介の英語など							
その他	【重要】4月に1泊2日の都内研修を行う。英語による交流活動のほか、羽田空港見学、ユニバーサル検定（3級）講習等を予定している。出席と学生の主体的取り組みを重視する。その他の授業のルールは初回の授業で説明する。 *新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、定期試験が実施できない場合は、授業内にて模擬試験を実施する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	外務省職員として約 20 年の実務経験あり。外務省やバングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での要人対応や通訳経験を活かし、国際儀礼を踏まえながら実践的に英語を学べるよう工夫していきます。							

科目名称	☆観光ガイドブック講読／観光の英語Ⅱ		
科目分類	120-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Reading Tourist Guidebooks／English for TourismⅡ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木内 伸樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 伸樹	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	日本の豊かな観光資源や独自の文化や習慣に興味を持つ外国人旅行者が多く、日本を理解するのは短期間では難しい面がある。豊かな日本の観光資源を知り、その観光資源を英語で表現できるように習得する。さらに日本の文化や習慣、歴史的背景を英語で理解する。また日本の特定の観光地をガイドできる英語力を身に付ける。授業では、全員がペア・ワークとプレゼンテーションを行なう。The class will be partially conducted in English.		
到達目標	①日本の観光資源を理解し、英語で説明できる ②日本の文化や習慣、歴史的背景を英語で説明できる ③訪日観光客に対し観光プランを作成し、英語で観光地や名所を観光ガイドするプレゼンテーションを実施できる		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
『第1回』 予習：英語で自己紹介と好きな観光地を紹介できるようにまとめる 授業：オリエンテーション 授業概略説明 復習：授業資料を復習する			
『第2回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Recommending a tour” / Escorting a tour”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第3回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Taking a tour booking / Phonetic Alphabet（通話英語）（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第4回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Welcoming international tourists” / 日本の観光ガイドブック（英語版）（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第5回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Taking an airline reservation” / “A working tour of the Imperial palace east garden”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第6回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Giving flight information” / “A working tour of the Imperial palace east garden”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第7回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Helping passengers check in” / “A working tour of the Imperial palace east garden”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第8回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Working at the boarding gate” / “A working tour of Meiji shrine”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第9回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Offering in-flight services” / “A working tour of Meiji shrine”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第10回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Giving CIQ information” / “A working tour of Meiji shrine”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第11回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Taking a room reservation” / “A working tour of Asakusa”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			
『第12回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Welcoming guests” / “A working tour of Asakusa”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する			

『第13回』 予習：授業で扱うUnitを講読する 授業：“Helping guests” / “A working tour of Asakusa”（ペア・ワーク） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する 『第14回』 予習：授業で扱うUnitを講読する。観光ガイドの発表できるようまとめる 授業：“Dealing with complaints” / 観光ガイド（プレゼンテーション） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する 『第15回』 予習：授業で扱うUnitを講読する。観光ガイドの発表できるようまとめる 授業：“Sending guest off” / 観光ガイド（プレゼンテーション） 復習：授業で扱った単語、センテンスを復習する								
授業開始前学習	興味のある日本の観光地を選び出し、英語でどのように表現するかを調べておく。 公共交通機関での英語のアナウンスや、観光地の英語の案内など、観光の場面での英語に関心を持ち、写真で記録するなどがけられる。							
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、授業課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。 課題の詳細は授業内で指示する。							
テキスト・教材	藤田 玲子（2019）“English for Tourism Professionals” センゲージ・ラーニング 授業資料（プリント等）を適宜配布する。							
参考書	授業に沿って海外のガイドブックなど適宜紹介する。							
評価の基準と方法	試験又は中間・期末課題の成績（40%）、英語レポート・授業内の課題、プレゼンテーション（40%）授業への積極性・態度（20%）の総合評価。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	◎					
関連科目								
その他	積極的に英語に触れるように心掛ける。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	27 年間にわたり外資系航空会社にて、マーケティング及び客室乗務部のスーパーバイザーとしての実務経験と旅行会社で添乗員としての経験あり。航空会社や観光産業で使用される観光英語について、専門用語を交え社員に必要とされる英語力についての講義をする。							

科目名称	観光のフランス語		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	French for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	米金 孝雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00 木曜日 10:00～10:40 木曜日 12:10～13:00	研究室	10-711
授業概要	フランスやフランス語圏を旅行(観光)したシチュエーションを想定し、必要な語彙や表現を修得するとともに、写真を参照しながら主にパリの観光地を巡り、文化的教養を身につける。		
到達目標	フランス(フランス語圏)への旅行会話に必要な基礎的なフランス語の表現や発音を修得する。同時に、基本的なフランス文化にも触れる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
授業内容	<p>【第1回】  予習 : フランス語、フランス文化について簡単に調べておく  授業 : 自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など  復習 : アルファベットの復習</p> <p>【第2回】  予習 : 自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する1  授業 : 特有の音、アルファベット、フランス(パリ)を知る、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ(テキスト10～17頁)  復習 : 基本的なフランス語表現、アルファベットの復習</p> <p>【第3回】  予習 : レッスン1の音声を聞くこと  授業 : 綴り字と発音の仕方①、挨拶の仕方、名前を言う(16～19頁)  復習 : 音のルール、挨拶、数字、略語</p> <p>【第4回】  予習 : レッスン2の音声を聴くこと  授業 : パン屋での表現、買い物地スト、綴り字と発音の仕方、定冠詞・不定冠詞、男性形と女性形、定時の表現(20～22頁)(ペアワーク)  復習 : パン屋での表現、挨拶の仕方、定時の表現</p> <p>【第5回】  予習 : レッスン3の音声を聴くこと  授業 : インフォメーションで、タクシーで、国籍、職業、私は～です(avoir 動詞、Etre 動詞)、数字(23～25頁)(ペアワーク)  復習 : 職業名詞、国籍、avoir、Etre</p> <p>【第6回】  予習 : レッスン3,4の音声を聴くこと  授業 : 主語人称代名詞、自己紹介の仕方、身体の状態をいう、年齢を尋ねる、値段を尋ねる、エッフェル塔と凱旋門、好みの表現(26～28頁)(ペアワーク)  復習 : 自己紹介、対話練習、国籍、職業、年齢、身体の状態</p> <p>【第7回】  予習 : レッスン4,5の音声を聴くこと  授業 : ER 動詞、都市名、言語、好き嫌いの表現、国籍、職業、年齢、身体の状態(29～31頁)(ペアワーク)  復習 : 質問の仕方と答え</p> <p>【第8回】  予習 : レッスン5の音声を聴くこと  授業 : マルシェでの表現、数えられない名詞と部分冠詞。ER 動詞の変則系、否定表現、il y a～(32～35頁)(ペアワーク)  復習 : 複数形、否定文、冠詞の確認</p> <p>【第9回】  予習 : レッスン6の音声を聴くこと  授業 : パリの美術館、形容詞、支持形容詞、所有形容詞、家族、C'est～(36～38頁)(ペアワーク)  復習 : 色の形容詞、国の形容詞</p> <p>【第10回】  予習 : レッスン7の音声を聴くこと  授業 : 映画やカフェに誘う、行く・来るの表現、前置詞と定冠詞の縮約、どこかの表現、近接未来・近接過去、人称代名詞強勢形(40～42頁)  復習 : 近接未来、近接過去、en + 乗り物、対話練習</p> <p>【第11回】  予習 : レッスン8の音声を聴くこと</p>		

<p>授業：カフェやレストランで注文する、疑問代名詞、疑問副詞、不規則動詞（44～47頁）（ペアワーク）  復習：メニューの読み方、注文の仕方、疑問文の作り方、不規則動詞</p> <p>【第12回】  予習：レッスン9の音声を聴く  授業：時間を尋ねる、天候の表現、四季や週を言う、Ir 動詞、疑問形容詞、非人称構文（48～51頁）（ペアワーク）  復習：天候、季節、時間の表現</p> <p>【第13回】  予習：レッスン10の音声を聴く  授業：買い物での表現、vouloir, pouvoir, savoir, devoir 動詞、形容詞と副詞の比較級(52～55頁）（ペアワーク）  復習：買い物での表現、語彙を確認</p> <p>【第14回】  予習：レッスン11の音声を聴く  授業：道を尋ねる（56～57頁）、connaître 動詞（ペアワーク）  復習：道を尋ねる表現、動詞の活用</p> <p>【第15回】  予習：レッスン12の音声を聴く  授業：過去形と時の表現、er,ir,re 動詞（60-61頁）（ペアワーク）  復習：過去形と時の表現、授業内容全体(Lecon1～lecon15)の復習と確認</p>								
授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること							
授業内課題の フィードバックの方法	課題(レポート・練習問題・小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く							
テキスト・教材	navi.fr (なびふらんせ 1)							
参考書	適宜、授業内で資料を配布する。							
評価の基準と方法	【配点】：提出課題・レポート・小テスト 80 点、平常点 20 点							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○
関連科目	フランス語 海外観光資源研究 A (ヨーロッパ1) 文化交流論 A(日本とヨーロッパ) 言葉と心理							
その他	注意事項： フランス語履修者が望ましいが、フランス旅行・フランス文化に興味がある学生も歓迎する。 (前期 15 回の授業ではあるが、相当数の語彙や表現を修得する予定である。積極的な授業参加を期待する) 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	観光のドイツ語		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	German for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	岡野 史	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡野 史	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ドイツおよびドイツ語圏の国々を観光する際、ドイツ語そして文化、歴史、習慣についての知識があれば、その旅はより意義深いものとなります。この授業ではドイツ語文化圏についての理解を深めながら、観光をメインテーマとしたドイツ語表現を学びます。旅先での場面を想定したドイツ語の表現に触れつつ、多様な角度からドイツという国についての知識を身につけます。		
到達目標	ドイツ語圏を観光するための会話表現を習得する。ドイツ語の音に親しみ、旅先でよく耳にする言葉について聞き取ることができるようになる。観光そしてドイツ語話者との交流のための文化的知識を修得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：シラバスの内容を確認。  授業：ガイダンス、ドイツ語の読み方  テーマ「ヨーロッパにおけるドイツ語圏」  復習：授業内で扱った資料の確認、読み方の復習</p> <p>【第2回】  予習：ドイツで観光してみたい都市を考える  授業：挨拶と自己紹介、グループワーク  テーマ「首都ベルリン、東西ドイツ」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習</p> <p>【第3回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：数字と時間、グループワーク  テーマ「ドイツの自然と連邦制、様々なドイツの都市」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習</p> <p>【第4回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「～に行きたいです。」移動のためのドイツ語、グループワーク  テーマ「ドイツの交通機関の使い方、新聞、雑誌、ジャーナリズム」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習</p> <p>【第5回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「これはなんですか？」マーケットでのドイツ語、グループワーク  テーマ「ドイツの広場と様々なマーケット、住まいと気候」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備</p> <p>【第6回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「～はありますか？」スーパーやパン屋、カフェでのドイツ語、グループワーク  テーマ「ドイツと食」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習</p> <p>【第7回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「チケット売り場はどこですか？」博物館、劇場でのドイツ語、グループワーク  テーマ「博物館、美術館、図書館、劇場、オペラハウス、ドイツの文化施設」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備</p> <p>【第8回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「予約してあります」ホテルでのドイツ語、グループワーク  テーマ「ドイツにおける移民と亡命」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習</p> <p>【第9回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「あなたは何を学んでいますか？」大学生のためのドイツ語、グループワーク  テーマ「ドイツの教育制度、ドイツの大学」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習</p> <p>【第10回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「～が好きです」好みを伝えるドイツ語、グループワーク  テーマ「グリム童話、ゲーテ、ドイツの文学」</p>			



<p>復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習  【第11回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「体調が悪いです」緊急時のドイツ語、グループワーク  テーマ「音楽祭、German-Pop、ドイツの音楽」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習  【第12回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「どうして、どうやって？」理由・方法を尋ねるドイツ語、グループワーク  テーマ「ドイツの環境意識、政党」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習  【第13回】  予習：前回の授業での配布プリントを確認  授業：「日本はどんな国？」日本を紹介するためのドイツ語、グループワーク  テーマ「ドイツの郵便、ものづくりと企業」  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備  【第14回】  予習：第1～14回までに学んだ表現を復習。  授業：確認小テスト、相槌、掛け声、好意を伝えるドイツ語、グループワーク  復習：小テストの振り返り、授業内で扱った資料の確認、会話の練習、発表の準備  【第15回】  予習：グループワーク発表の準備  授業：観光プランの最終発表  復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習</p>								
授業開始前学習	ドイツ語圏の行ってみたい都市、観光スポットについて考えてみること。 ドイツ語既習者である必要はないが、ドイツ語がどのような言語なのか事前に確認しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出課題については、翌週に返却。発表課題については、その場で全体的なフィードバックを行う。							
テキスト・教材	随時プリントを配布。また映像、音声、写真や現地のパンフレットなどを資料として使用する。							
参考書	授業内で随時紹介する。							
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出課題）40%、確認小テスト20%、発表課題とレポート40%で評価。 発表課題についてはガイダンスで提示。参加人数によっては発表課題とレポートのどちらかになる場合もある（その際にも40%の評価割合に変更はなし）。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○
関連科目	ドイツ語							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	観光のスペイン語		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Spanish for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木下 令子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木下 令子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	スペイン語圏を旅行するとき、また日本で観光をするスペイン語圏の人々に出会ったとき、スペイン語で会話ができれば楽しさが倍増します。この授業では観光の様々な場面で使えるスペイン語の表現を学びます。授業ではロールプレイを多く取り入れ、コミュニケーション能力を養います。		
到達目標	スペイン語の音声に慣れて、観光の場面で使われる表現を聴き取り、積極的に発話できるようになることを目標とします。目標達成のために必要な最低限の文法事項を理解し、語彙を習得します。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読む。スペイン語がどの国で話されているか調べてみる。  授業：1課 オリエンテーション、アルファベット、挨拶（ペア・ワーク）  復習：1課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第2回】  予習：2課に目を通す。  授業：2課 飲み物を注文しよう（ペア・ワーク）  復習：2課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第3回】  予習：3課に目を通す。  授業：3課 自己紹介しよう（ペア・ワーク）  復習：3課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第4回】  予習：4課に目を通す。  授業：4課 場所を訪ねよう、料理の感想を言おう（ペア・ワーク）  復習：4課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第5回】  予習：5課に目を通す。  授業：5課 コンサートに誘おう（ペア・ワーク）  復習：5課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第6回】  予習：6課に目を通す。  授業：6課 空港案内所で（ペア・ワーク）  復習：6課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第7回】  予習：7課に目を通す。  授業：7課 ホテルでチェックイン（ペア・ワーク）  復習：7課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第8回】  予習：1課から7課まで復習する。  授業：8課 「復習しましょう(1)」1課～7課を復習し、復習テストを行う。（ペア・ワーク）  復習：8課を復習する。</p> <p>【第9回】  予習：9課に目を通す。  授業：9課 バルで（ペア・ワーク）  復習：9課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第10回】  予習：10課に目を通す。  授業：10課 バルやお店で（ペア・ワーク）  復習：10課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第11回】  予習：11課に目を通す。  授業：11課 レストランで（ペア・ワーク）  復習：11課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第12回】  予習：12課に目を通す。  授業：12課 買い物しよう（ペア・ワーク）  復習：12課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 13 課に目を通す。 授業 : 13 課 美術館に行こう (ペア・ワーク) 復習 : 13 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。 【第 14 回】 予習 : 14 課に目を通す。 授業 : 14 課 駅で訪ねよう、切符を買おう (ペア・ワーク) 復習 : 14 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。 【第 15 回】 予習 : 15 課に目を通す。 授業 : 15 課 「復習しましょう(2)」9 課~14 課を復習し、復習テストを行う。 (ペア・ワーク) 復習 : 15 課の復習。								
授業開始前学習	スペイン語がどの国で話されているか調べましょう。行ってみたい国や地域を探してみましょう。テレビのスペイン語講座を視聴してみてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回授業後に課題を出してもらい、翌週の授業でフィードバックします。							
テキスト・教材	適宜、授業内にてプリントを配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業への積極的参加と授業後提出する課題 80%、復習テスト課題(2 回)20%の総合評価。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○
関連科目								
その他	会話の授業なので、授業に積極的に参加することが重要です。恥ずかしがらずに大きな声で発音しましょう。また、興味のある国や地域について調べてみましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光の中国語		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Chinese for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	保坂 律子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂 律子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～13:00 木曜日 16:10～16:40 後期 水曜日 10:00～13:00	研究室	10-709
授業概要	ここ数年コロナ禍のため訪日観光客は減少している。しかし今世紀に入ってから観光地のみならず、駅で、飲食店で、デパートで多くの中国人を見かけるようになり、街を歩けば至る所で中国語が耳に入ってくる。本授業では中国語の使用場面を日本国内に想定し、中国語圏からの旅行者に対して、日本の観光スポット、地下鉄、人気商品、温泉の入り方などを簡単な中国語で紹介し、コミュニケーションの一助となるような「おもてなしの中国語」を学ぶ。		
到達目標	初対面の中国人と中国語で簡単な挨拶ができ、日本での買い物や観光スポット、交通手段を説明するのに必要なキーワードを中国語で説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：テキスト1頁～13頁の講読  授業：発音第1課（テキスト14頁～19頁）、4つの声調、単母音、複母音、練習問題（ペアワーク）  復習：声調、単母音、複母音の発音練習</p> <p>【第2回】  予習：テキスト20頁～25頁の講読  授業：発音第2課（テキスト20頁～25頁）、声母表、無気音、有気音、そり舌音（ペアワーク）  復習：声母、無気音、有気音、そり舌音の発音練習</p> <p>【第3回】  予習：テキスト26頁～31頁の講読  授業：発音第3課（テキスト26頁～31頁）鼻音を伴う母音、eのバリエーション、同じiでも異なる音（ペアワーク）  復習：鼻音を伴う母音の発音練習</p> <p>【第4回】  予習：テキスト32頁～41頁の講読  授業：発音第4課（テキスト32頁～41頁）声調変化、軽音、声調の組み合わせ、隔音記号（ペアワーク）  復習：声調変化の発音練習</p> <p>【第5回】  予習：テキスト42頁～47頁の講読  授業：第5課 日本到着～成田空港（人称代名詞、「～は～です」、「～の」、動詞述語文）（ペアワーク）  復習：第5課の音読、練習問題</p> <p>【第6回】  予習：テキスト48頁～53頁の講読  授業：第6課 ホテルチェックイン（「～したい」、名前の言い方、動詞「ある、いる」、中国語の「こそあど」（ペアワーク）  復習：第6課の音読、練習問題</p> <p>【第7回】  予習：テキスト54頁～59頁の講読  授業：第7課 夜景が綺麗（疑問詞の“多”、数の数え方、「～したことがある」、形容詞述語文）（ペアワーク）  復習：第7課の音読、練習問題</p> <p>【第8回】  予習：テキスト60頁～67頁の講読  授業：第8課 電車で（連動文、量詞、有”、時間量の言い方）（ペアワーク）  復習：第8課の音読、練習問題</p> <p>【第9回】  予習：教科書67頁までの単語、構文の復習  授業：中間テスト、第9課 化粧品売り場で（疑問詞、中国のお金の単位、“二”と“両”）  復習：小テストの解き直し</p> <p>【第10回】  予習：テキスト74頁～79頁の講読  授業：第10課 花火大会（年月日、曜日の言い方、「どうして～?」、年齢の言い方）（ペアワーク）  復習：第10課の音読、練習問題</p> <p>【第11回】  予習：テキスト80頁～85頁の講読  授業：第11課 日本の雑貨（「～も」、実現の言い方、2つの否定方式、前置詞「～で」）（ペアワーク）  復習：第11課の音読、練習問題</p> <p>【第12回】  予習：テキスト86頁～93頁の講読  授業：第12課 おいしい和牛をどうぞ（時刻の言い方、完了の言い方、反復疑問文、動詞の重ね型）（ペアワーク）  復習：第12課の音読、練習問題</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : テキスト 94 頁～99 頁の講読 授業 : 第 13 課 日本人の人気デザート (進行の表し方、選択疑問文、「～が好き」) (ペアワーク) 復習 : 第 13 課の音読、練習問題 【第 14 回】 予習 : テキスト 100 頁～105 頁の講読 授業 : 第 14 課 着物体験 (持続の表現、方位詞、「～できる」の表し方 3 種) (ペアワーク) 復習 : 第 14 課の音読、練習問題 【第 15 回】 予習 : テキスト 106 頁～105 頁の講読 授業 : 第 15 課 温泉に入る (結果補語、方向補語、「～しなければならない」) 復習 : 単語、重要構文の確認								
授業開始前学習	中国に関係するニュースに注意を払うように心がける。街で中国語圏からの観光客をみかけたら、思い切って声をかけてみる。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内に実施する中間テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのための復習ポイントを提示する。							
テキスト・教材	『ニーハオ！ニッポン ふりむけば中国語』(朝日出版社)							
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	中間テスト 40% 小テスト 30% 平常点 30% (課題提出・授業態度)							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○
関連科目	海外観光資源研究 D (アジア 2)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光の韓国語		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Korean for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	近年、様々な韓国ドラマや映画、音楽などの影響で、韓国は日本人にとってより身近な存在となった。実際に近隣諸国である韓国に多くの日本人が観光をする機会が増えており、韓国人が日本に観光客として訪れる機会も増えている。本講では、上記のような背景を踏まえながら、韓国語の基礎であるハングルの仕組みを理解した上で、「観光」の場面を想定した「観光の韓国語」について学ぶ。さらにドラマ、映画、音楽などの映像資料を活用しながら総合的には韓国文化について理解力を高める。		
到達目標	①ハングルの仕組みについて理解でき、簡単な韓国語の会話ができる。 ②韓国語で自己紹介ができる。 ③「観光客側」と「観光産業の従業員側」に想定される会話を、韓国語でマスターする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：オリエンテーション、韓国語、韓国に関する全体概要 復習：授業の方針を確認する。</p> <p>【第2回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：簡単な韓国語、ハングルの仕組み 復習：【第2回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第3回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国語の子音、母音について 復習：【第3回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第4回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国語のバッチムについて、韓国語のあいさつ・基本フレーズ 復習：【第4回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第5回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国語の基本文章、K-POPの紹介① 復習：【第5回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第6回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国語の疑問文、否定文、助詞、K-POPの紹介② 復習：【第6回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第7回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国語で自己紹介①（グループ・ディスカッション、発表） 復習：【第7回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第8回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国語で自己紹介②（グループ・ディスカッション、発表） 復習：【第8回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第9回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：空港で使う韓国語 復習：【第9回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第10回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：交通で使う韓国語 復習：【第10回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第11回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：宿泊で使う韓国語 復習：【第11回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p> <p>【第12回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：ショッピングで使う韓国語 復習：【第12回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。</p>			

<p>【第13回】  予習：事前配布のレジメで予習する。  授業：観光で使う韓国語  復習：【第13回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。  【第14回】  予習：事前配布のレジメで予習する。  授業：その他の観光場面で使う韓国語  復習：【第14回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。  【第15回】  予習：事前配布のレジメで予習する。  授業：：学習内容の総括、観光の韓国語の個人口頭テスト（グループ・ディスカッション、発表）  復習：授業の全体概要を確認する。</p>								
授業開始前学習	韓国語関連資料や韓国文化に関する書籍を出来るだけ多く読むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	韓国語に関するミニテストを行い、その結果について教員によるフィードバックをする。また、グループワークショップについては、1週間後に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	駒沢女子大学の自前教科書シリーズ「観光の韓国語」 その他、適宜プリントを配布します。							
参考書	授業中に適宜参考書籍を紹介する。							
評価の基準と方法	授業レポート 70点(各回 5点×14回)、中間発表・期末発表 30点、合計 100点で評価する。 なお5回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎					○
関連科目								
その他	質問、相談等がある時は、授業の前後に研究室に来ること							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	ホスピタリティ英語 I		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Hospitality English I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	万木 男也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	万木 男也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ホスピタリティ産業の現場で役に立つ英語、特にお客様に対して好印象を与える話し方や、丁寧な接客マナーを基本とした表現方法について学ぶ。 この授業では、リスニング能力とスピーキング能力の向上に有効とされているシャドウイング、暗唱、ディクテーションを中心に進める。 クラスメイトとのスキット・ロールプレイなどを通し、エアラインやホテル等のホスピタリティ関連の職場で役立つ英語表現や言い回しの基礎を身につける。		
到達目標	ホスピタリティ関連業界の現場で実際に使用する英語表現について学び、慣れ親しむことにより、リスニング、スピーキング能力を高め、英語で丁寧な接客対応が行える基礎力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
第1回 予習：事前にシラバスを読み授業の流れを把握する これまでの英語学習について振り返る 授業：オリエンテーション 授業の進め方について 復習：授業で練習した会話文の一部を暗記			
第2回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルフロント・チェックイン・ルーティン対応前半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第3回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルフロント・チェックイン・ルーティン対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第4回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルチェックアウト・ルーティン対応前半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第5回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルチェックアウト・ルーティン対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第6回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：レストラン・バー ルーティン対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第7回 予習：前半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業：課題スキットのプレゼンテーション 復習：フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる			
第8回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ゲストサービス対応前半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第9回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ゲストサービス対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第10回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：レザベーション・ルーティン対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第11回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：パッケージツアー参加者への対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
第12回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン リカー、ミールサービス対応			



復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱 第 13 回 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： エアライン 免税品販売対応対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱 第 14 回 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： エアライン お客様へのアナウンス対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱 第 15 回 予習： 前期授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業： 課題スキットのプレゼンテーション 復習： フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる								
授業開始前学習	前回の授業で学んだスキットの暗記							
授業内課題の フィードバックの方法	授業中に実施する小テスト、課題スキットのプレゼンテーションに対して随時講評を行い、個別の質問に回答する							
テキスト・教材	『ホテルの接客英会話』（三修社）+ 授業中に適宜配布する							
参考書	授業中に適宜紹介する							
評価の基準と方法	平常点 40%（授業への取組姿勢、小テスト） 定期課題スキットのプレゼンテーション 及び テスト 60%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		△			○
関連科目								
その他	出席を重視する・全授業数の 1/3 以上欠席した場合は単位取得不可。 授業開始後 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ホスピタリティ英語Ⅱ		
科目分類	120-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Travel Service English Ⅱ / Hospitality English Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	万木 男也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	万木 男也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ホスピタリティ産業の現場で役に立つ英語、特にお客様に好印象を与える話し方や丁寧な接客マナーを基本とした表現方法について学ぶ。 この授業では、リスニング能力とスピーキング能力の向上に有効とされているシャドウイング、暗唱、ディクテーションを中心に進める。 クラスメイトとのスキット・ロールプレイなどを通し、エアラインやホテル等のホスピタリティ関連の職場で実際に役立つ英語表現の基礎および応用力を身につける。		
到達目標	ホスピタリティ関連業界の現場で実際に使用する英語表現について学び、慣れ親しむことにより、リスニング、スピーキング能力を高め、イレギュラー対応も含めた英語での丁寧な接客対応が行える応用力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：事前にシラバスを読み授業の流れを把握する これまでの英語学習について振り返る 授業：オリエンテーション 授業の進め方について 復習：授業で練習した会話文の一部を暗記</p> <p>第2回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルフロント・チェックイン・イレギュラー対応前半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第3回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルフロント・チェックイン・イレギュラー対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第4回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルチェックアウト・イレギュラー対応前半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第5回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：レザベーション・断り方、イレギュラー対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第6回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：レストラン・バー イレギュラー対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第7回 予習：前半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業：課題スキットのプレゼンテーション 復習：フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる</p> <p>第8回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ルームサービスオーダー対応前半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第9回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ルームサービスオーダー対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第10回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ゲスト対応・病人対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第11回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン お客様へのサポート 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱</p> <p>第12回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記</p>			

授業：エアライン 入国案内対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱 第13回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン お客様との Spot Conversation 対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱 第14回 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン その他 (Pattern practice) 重要文型の応用練習 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱 第15回 予習：後半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業：課題スキットのプレゼンテーション 復習：フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる								
授業開始前学習	前回の授業で学んだスキットの暗記							
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に実施する小テスト、課題スキットプレゼンテーションに対して随時講評を行い、個別の質問に回答する							
テキスト・教材	『ホテルの接客英会話』（三修社）＋ 授業中に適宜配布する							
参考書	授業中に適宜配布する							
評価の基準と方法	平常点 40%（授業への取組姿勢、小テスト） 定期課題スキットのプレゼンテーション 及び テスト 60%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		△			○
関連科目								
その他	ホスピタリティ英語 I を受講済みである事が望ましい。 出席を重視する・全授業数の 1/3 以上欠席した場合は単位取得不可。 授業開始後 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミ I		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30~12:00 木曜日 10:30~12:00 後期 火曜日 10:30~12:00 木曜日 10:30~12:00	研究室	10-613
授業概要	世の中には数々のメディアがあります。観光分野でも各観光地ではメディアを通して、その魅力を外部に伝えようとしています。しかしまとまった量の文章や写真を発表することは簡単ではありません。文章力や撮影力はもとより、それらを編集して世に出す技術や手法が必要です。 このゼミでは基本的な「編集」を学びます。その中で観光メディアを考察し、この1年間は旅行ガイドブックをつくる技術と手法、つまり、企画・取材・原稿執筆・編集・デザイン・DTPを学び、最終的にグループにわかれてガイドブックを制作・発表します。また、コミュニケーションの基本を学び、インタビューの方法なども学びます。		
到達目標	1) 雑誌という媒体の歴史と特性を知る。2) 雑誌としての文章の書き方、デザイン、レイアウトの基本を学ぶ。3) 雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。4) 毎回の発表を通して、発表力をつけていく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
【第1回】 予習：自分が接しているメディア（テレビ・新聞・ラジオ・ネット・携帯）の頻度、時間を整理しておく。 授業：全般のガイダンスと学生全般のメディアへの接触度調査を元にして現在のメディアの状況を知る。 復習：いろいろなメディアにまんべんなく目を通す。			
【第2回】 予習：自己分析・自己紹介の準備をする。 授業：自己分析・自己紹介 復習：授業で行った自己分析・自己紹介を振り返り、再分析する。			
【第3回】 予習：いろいろな雑誌を見ておく 授業：雑誌を取り巻く現状を知る（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな雑誌を見てみる			
【第4回】 予習：いろいろな雑誌を見ておく 授業：一般的旅行雑誌やガイドブックの構成について、どのような内容から構成されているか（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな雑誌を見てみる			
【第5回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックのページ構成を見てみる 授業：台割の意味と役割、その作り方 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる			
【第6回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：就職関連合同ゼミ① 復習：就活の方法、意義などを再認識			
【第7回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックのなかの広告を見てみる 授業：雑誌における広告の役割について（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックの広告を見てみる			
【第8回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：企画の立て方（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる			
【第9回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：雑誌企画の要素とその集め方（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる			
【第9回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：雑誌制作に必要な役割（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる			
【第10回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：メディアによって異なる文章・文体を学ぶ 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる			
【第11回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：写真についての良し悪しと撮り方を学ぶ（グループ・ディスカッション）			

復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる  
【第12回】  
予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく  
授業：見開きのページデザインの要素を考える（グループ・ディスカッション）  
復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる  
【第13回】  
予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく  
授業：雑誌を制作するソフトウェアとは  
復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる  
【第14回】  
予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく  
授業：自分の制作したいガイドブックの企画を考えてみる（グループ・ディスカッション）  
復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる  
【第15回】  
予習：いままでの授業を振り返っておく  
授業：前期のまとめ  
復習：改めて前期に学んだことを確認しておく

※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。

授業開始前学習	世の中にあふれる雑誌やネットの情報を日々、注意深く観察しておきます。それらを通して、さまざまなことを自ら考え、自身の雑誌やガイドブックの制作に活かしていきましょう。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。							
テキスト・教材	指定しない							
参考書	指定しない							
評価の基準と方法	講義に対する積極性（50%）、各講義での提出レポート（40%）、最終レポート（10%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず3回で1回の欠席に匹敵する減点となります。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	「広告・メディア実務論」							
その他	ゼミは2年間にわたりますが欠席することなく、積極的に参加してください。2年間を通じて、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。							

科目名称	観光文化ゼミ I		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-713
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな土地勘を身に付けること、各ゼミ生が研究テーマを発掘・発展させることを目的とする。個別のテーマに基づき研究を進めるとともに、授業内でのグループ活動として英語による PR 作成を行う（第 5 回、第 7 回～第 12 回）。 グローバル、ローカル、グローカル、外国語、多様性、国際儀礼といったキーワードを知的好奇心でつなぎながら、①観光産業で役立つ英語と国際儀礼を実践的に学ぶとともに、②日本の魅力を発信し、英文観光情報を収集・分析する力を養う。		
到達目標	①今後専門ゼミで取り組む研究テーマを見つける。 ②観光や文化の観点から、新聞やニュースを読む習慣が身につく。 ③知らない場所を地図で探す習慣が身につく。 ④日本語及び英語でのプレゼンテーションに慣れる。 ⑤発表などに対し、質問ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第 1 回 予習：自分の関心事項（研究テーマの方向性）をゼミで説明できるように準備する。 授業：ゼミのテーマ・目標・進め方・グループワークの方法 復習：自己分析に基づき 1 年間の目標を定め、前期と後期に達成すべきことを考える。</p> <p>第 2 回 予習：世界地図や地球儀を見て、どこにどんな国があるか調べる。 授業：研究テーマの発掘方法（概論）／世界地図を見る 復習：授業で紹介した国の位置を確認する。</p> <p>第 3 回 予習：配布資料を読む。 授業：メディアの活用法・情報の集め方/大学生として身につけるべき国際教養 復習：授業内での議論や自分の関心を踏まえ、研究テーマの方向性を考える。</p> <p>第 4 回 予習：配布資料を読む。 授業：情報のまとめ方とプレゼンテーション 復習：教員のフィードバックを踏まえ、研究テーマの方向性を再考する。</p> <p>第 5 回 予習：配布資料を読む。 授業：英語での PR に向けたブレインストーミング（グループワーク） 復習：グループのメンバーと今後の作業予定を確認する。</p> <p>第 6 回 予習：配布資料を読む。 授業：就職関連合同ゼミ① 復習：就活の方法、意義などを確認する。</p> <p>第 7 回 予習：グループでの活動内容を振り返る。 授業：素案の作成（グループワーク） 復習：グループのメンバーと作業内容を共有する。</p> <p>第 8 回 予習：効率的に作業を進められるよう準備する。 授業：発表資料の作成（グループワーク） 復習：グループのメンバーと作業内容を共有する。</p> <p>第 9 回 予習：効率的に作業を進められるよう準備する。 授業：発表原稿の作成（グループワーク） 復習：グループのメンバーと作業内容を共有する。</p> <p>第 10 回 予習：効率的に作業を進められるよう準備する。 授業：英文原稿の作成（グループワーク） 復習：グループのメンバーと作業内容を共有する。</p> <p>第 11 回 予習：円滑に発表できるようメンバーと準備する。 授業：英語での PR の発表（プレゼンテーション） 復習：フィードバックを踏まえ、改善箇所を考える。</p> <p>第 12 回</p>			



<p>予習：授業内でどのような作業をすべきか計画する。          授業：発表内容の見直しと改善（グループワーク）          復習：グループのメンバーと最終 PR をまとめる。（課題①）</p> <p>第 13 回          予習：研究テーマについての発表の準備をする。          授業：研究テーマの大枠について報告と検討①          復習：授業内での議論や指摘を踏まえ、さらに研究テーマを発展させる。（課題②）</p> <p>第 14 回          予習：研究テーマについての発表の準備をする。          授業：研究テーマの大枠について報告と検討②          復習：授業内での議論や指摘を踏まえ、さらに研究テーマを発展させる。（課題②）</p> <p>第 15 回          予習：研究テーマについてどのような調査が必要か考える。          授業：後期に向けてやるべきことの精査          復習：前期の目標の達成状況を確認し、後期の研究計画を立てる。</p>								
授業開始前学習	①授業の内外で新聞や資料（英語のものを含む）をよく読むため、普段から「読む」習慣をつけておくこと。 ②簡単な文章を英語で表現できるよう、基本的な英単語・英文法などを復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題①は発表後に講評します。課題②は、発表後の講評に加え、翌週以降に個別にコメントを付けて返却します。							
テキスト・教材	授業の中で指示する他、プリントなどを配布する。							
参考書	個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。 地図や地図アプリ（どのようなものでも構わない）を必要に応じ参照できるよう準備しておいてください。							
評価の基準と方法	研究テーマへの取り組み（プレゼンテーション、課題②、期末レポート）（40%）、グループワーク（課題①）（30%）、ゼミへの知的貢献（ゼミでの積極性・ゼミ生の発表に対する反応などを含む）（30%）などを総合的に判断する。 そのほか、ゼミで力を入れたこと「ゼミチカ」の自己申告とその内容に応じてボーナス加点を行う。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	観光の英語をはじめとする英語関連科目は語学力向上に役立ちます。異文化交流、異文化理解、グローバル共生論などは、グローバルなものの方や国際教養の基礎になります。							
その他	ゼミ生同士の交流も異文化コミュニケーションの 1 つです。ゼミはグループでの作業が中心になります。自分の得意なところを活かし、苦手なところはゼミ生に助けをもらいながら、お互い協力して取り組んでください。 英語が苦手なゼミ生は、観光英語検定 3 級取得を目標に、語彙、文法、表現の力を伸ばしていきましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	外務省職員として約 20 年の実務経験あり。バングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での勤務や出張・観光で様々な国・地域を訪問した経験を活かし、異文化コミュニケーションやグローバルな時代の生き方を中心に受講生が国際教養を身につけられるよう演習を行う。							



科目名称	観光文化ゼミ I		
科目分類	120-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国を中心とする西半球の国々および日本を対象として、文化・歴史と観光の両面から研究します。2つの主要な目的は、ゼミ論文とツアープランの作成ですが、同目的のための作業を通じて調べる力、読む力、書く力、纏める力、発表する力を身につけます。また、授業ではレジメを作成して個別発表し、その後に質疑応答を行い、併せて適宜グループワークも行います。		
到達目標	ゼミ論とツアープランの作成という2年間の目的を達成するための第1準備段階として、アメリカ合衆国を中心とする西半球で興味関心のある国および日本の諸都市をピックアップして、歴史・文化・地理・観光資源などを調べる。その作業を通じて、読む力、書く力、調べる力、纏める力、発表する力などを身に付けることを目的とするが、ここでは特に調べるまとめる力とプレゼン力の身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：興味・関心のもっているアメリカの都市・町をメモ書きして授業に臨んでください  授業：方針と授業計画の説明ほか、予習の課題を発表する  復習：アメリカ50州の名称を地図に記入し、暗記する</p> <p>【第2回】  予習：配布資料①（アメリカの地理）の44頁～52頁を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料①について質疑応答  復習：ニューイングランド、中部大西洋岸、南部の特徴を把握する。</p> <p>【第3回】  予習：配布資料①（アメリカの地理）の52頁～55頁を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料①について質疑応答  復習：中西部、西部、南西部の特徴を把握する。</p> <p>【第4回】  予習：配布資料②（州別ガイド）の56頁～60頁を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料②について質疑応答（2人1組のグループワーク）  復習：MA、NY、PA、VAの歴史と文化など概要を把握する。</p> <p>【第5回】  予習：配布資料②（州別ガイド）の60頁～63頁を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料②について質疑応答（2人1組のグループワーク）  復習：FA、TX、CA、HWの歴史と文化など概要を把握する。</p> <p>【第6回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：就職関連合同ゼミ①  復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>【第7回】  予習：配布資料③（都市・名所ガイド）の66頁～134頁から2都市・名所を選び、レジメを作成する。  授業：担当者による発表と質疑応答  復習：レジメをもとに授業で得た知識をまとめる。（「学修ポートフォリオ」）</p> <p>【第8回】  予習：配布資料③（都市・名所ガイド）の66頁～134頁から2都市・名所を選び、レジメを作成する。  授業：担当者による発表と質疑応答  復習：レジメをもとに授業で得た知識をまとめる。（「学修ポートフォリオ」）</p> <p>【第9回】  予習：配布資料③（都市・名所ガイド）の66頁～134頁から2都市・名所を選び、レジメを作成する。  授業：担当者による発表と質疑応答  復習：レジメをもとに授業で得た知識をまとめる。（「学修ポートフォリオ」）</p> <p>【第10回】  予習：配布資料③（都市・名所ガイド）の66頁～134頁から2都市・名所を選び、レジメを作成する。  授業：担当者による発表と質疑応答  復習：レジメをもとに授業で得た知識をまとめる。（「学修ポートフォリオ」）</p> <p>【第11回】  予習：配布資料③（都市・名所ガイド）の66頁～134頁から2都市・名所を選び、レジメを作成する。  授業：担当者による発表と質疑応答  復習：レジメをもとに授業で得た知識をまとめる。（「学修ポートフォリオ」）</p> <p>【第12回】  予習：配布資料③（都市・名所ガイド）の66頁～134頁から2都市・名所を選び、レジメを作成する。</p>			

<p>授業：担当者による発表と質疑応答  復習：レジュメをもとに授業で得た知識をまとめる。（「学修ポートフォリオ」）  【第13回】  予習：配布資料④（「ゼミ論・卒論の手引き」）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料④についての質疑応答  復習：資料④の復習  【第14回】  予習：ゼミ論のテーマを考え、メモ書きする。  授業：ゼミ論のテーマに関する質疑応答  復習：ゼミ論のテーマに関する確認と資料の収集  【第15回】  予習：ゼミ論のテーマを考え、メモ書きする。  授業：ゼミ論のテーマに関する質疑応答  復習：ゼミ論のテーマに関する確認と資料の収集</p>								
授業開始前学習	「アメリカの文化と歴史Ⅰ・Ⅱ」、 「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」の既習者はノートを見直し、未履修者は教科書を一読しておくこと							
授業内課題の フィードバックの方法	予習の課題およびレジュメの発表について、履修学生と授業担当教員による「複眼的チェック」を実施する。							
テキスト・教材	使用する教材は配布する。							
参考書	授業のなかで適宜紹介します。							
評価の基準と方法	ゼミ論（50%）、発表（50%）							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	「アメリカの文化と歴史Ⅰ・Ⅱ」、 「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」、 「文化交流論 B（日本とアメリカ）」							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	観光文化ゼミ I		
科目分類	120-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究・発表・討論を行う。日・韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標にして準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。		
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：オリエンテーション、大学におけるゼミの意義、観光文化ゼミ D の全体説明 復習：授業の方針を確認する。</p> <p>【第2回】 予習：興味のある研究テーマを下調べしておく。 授業：異文化の理解について（韓国文化を事例として）① 復習：【第2回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第3回】 予習：興味のある研究テーマを下調べしておく。 授業：異文化の理解について（韓国文化を事例として）② 復習：【第3回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第4回】 予習：興味のある研究テーマを下調べしておく。 授業：異文化の理解について（韓国文化を事例として）③ 復習：【第4回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第5回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：グループディスカッション（3つのテーマから） 復習：グループディスカッションの方法、意義などを再認識</p> <p>【第6回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：就職関連合同ゼミ① 復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>【第7回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：「研究」とは？、「研究活動」の一連の流れ 復習：【第7回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第8回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：自分のテーマを決めよう、書籍の探し方 復習：各自研究テーマをもとにし、文献研究、インターネット検索を開始</p> <p>【第9回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：実際に自分のテーマに関連する書籍を探して読んでみよう 復習：各自研究テーマをもとにし、文献研究、インターネット検索を開始</p> <p>【第10回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：プレゼンテーションとは？、プレゼンテーションのやり方 復習：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。</p> <p>【第11回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業：自己紹介・研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。</p> <p>【第12回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業：自己紹介・研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション）</p>			

<p>復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第13回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：自己紹介・研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第14回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：自己紹介・研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第15回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：前期の総括、自己評価・夏休みの課題に関して  復習：ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える。</p>								
授業開始前学習	自分に興味がある分野に関して、さらに具体的にテーマを絞り、関連文献を読むように心がけて下さい。							
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。							
テキスト・教材	特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度など70%。報告30%。なお5回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミ I		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	前期は「イタリアの歴史と文化」をテーマに輪読、映画鑑賞、グループ研究を行う。イタリアは南北に長い地形や長い歴史、多様な地域性など日本との共通点も多い。イタリアとの比較を通じて日本を相対化する観察眼を養う。尚、輪読とは、専門書を読み、レジュメ作成、発表、議論を進めながら一人で読むよりも深い読解力を獲得できると同時に、調査力・思考力・コミュニケーション力の向上を図る学習法である。授業では毎回、ディスカッションがある。学生諸君には自分の考えを人前で話す訓練を通じて自分を表現することに自信をつけてほしい。グループ研究は、学生自らテーマを選び文献調査を行ってレポートとポスターに研究成果をまとめる。また 10 月のりんどろ祭でイタリア政府観光局と連携した模擬店を運営し、グループ研究の成果を発表する。尚、夏休みには日帰りフィールドスタディを予定している。		
到達目標	① 文献調査方法を習得する ② レジュメなど文書作成ができるようになる ③ 自分の考えを根拠をもって発言できるようになる ④ 旅行企画を通してイタリアの観光資源を学ぶ		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：演習/自己紹介ワーク《ディスカッション》 講義/授業方針と計画、イタリア観光資源動画鑑賞 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 2 回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/イタリア世界遺産バトル《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 3 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：講義/イタリアを舞台にした映画『ローマの休日』鑑賞《オンデマンド》 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）</p> <p>【第 4 回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/映画のふりかえり《ディスカッション》 講義/輪読の目的と進め方 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 5 回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/輪読（1）《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 6 回】 予習：質問を考えておく 授業：講義/就活講座「OG トーク」《OG ゲスト講師》 演習/質疑応答《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 7 回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/輪読（2）《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 8 回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/輪読（3）《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 9 回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/輪読（4）《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 10 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：演習/グループ研究（1）チームビルディングと調査対象（州）の検討《ディスカッション》 講義/観光資源の分類と文献調査法 復習：授業レポートの提出</p>			

<p>【第 11 回】          予習：グループ研究を進める          授業：演習/グループ研究（2）観光資源の発掘《グループワーク》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 12 回】          予習：グループ研究を進める          授業：講義/グループ研究（3）イタリアの旅行企画の技法(交通、宿泊、食事、旅程編集)          演習/旅行企画《グループワーク》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 13 回】          予習：グループ研究を進める          授業：演習/グループ研究（4）旅行企画《グループワーク》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 14 回】          予習：グループ研究を進める          授業：講義/グループ研究（5）スライド制作とプレゼンテーションの技法          演習/プレゼンテーションの準備 《グループワーク》          復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 15 回】          予習：発表の準備をする          授業：演習/研究成果発表 《プレゼンテーション》          復習：授業レポートの提出</p> <p>※夏休み期間中（9月）に埼玉県川越市日帰りフィールドスタディを行う。HIS 営業所、喜多院・重要伝統的建造物群保存地区を見学。</p>								
授業開始前学習	過去のゼミの活動は下記の鮫島ゼミのホームページでも公開している。 <a href="https://sametakulab.amebaownd.com/" target="_blank">鮫島研究室 HP</a>							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	鮫島卓『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ 陣内秀信（2010）『イタリアの街角から スローシティを歩く』弦書房							
参考書	池上英洋（2010）『イタリア 24の都市の物語』光文社							
評価の基準と方法	映画鑑賞の発表（10点）、輪読のレジュメや発表（50点）、グループ研究（40点）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。							
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。文献で知識を習得するだけでなく、映画・音楽・食などを通じてイタリアの文化にもふれる機会も設ける。ぜひイタリアへ旅してほしい。尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発の実務を行ってきた。現在教員の研究のテーマは「イタリア中小都市の観光政策」「地場産業と観光開発」「観光経験の教育的効果」である。							



科目名称	観光文化ゼミ I		
科目分類	120-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	渡邊ゼミは「自分が見たい未来を作っていくゼミ」です。様々な学びを通じて「問題を乗り越える力」の修得を目指します。3年生4月の時点で、自分が将来どんな職業につきたいかわからなくても慌てる必要はありません。初めから無理に大きな目標の達成だけを目指すのではなく、ゼミを通じて自分と向き合う時間を作るなかで、小さな自信をつける作業を積み重ねます。学生が不要なアンコンシャス・バイアスから解放され、安定した精神状態で学びを続けられるように「心理的安定性」を重視し、1人1人が自分に合った様々な可能性を探していきます。学生主体のゼミです。		
到達目標	チョーク&トーク型の受講姿勢から、自ら主体的に考えて情報をインプットし、それを自分らしくアウトプットできることを目指します。発信型の姿勢を意識し、経済産業省が周知している「前に踏み出す力（働きかけ力、実行力）」「考え抜く力（課題発見力、計画力）」を身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：自分がなりたい未来のイメージを思い浮かべる  授業：キャリア教育、アクティブラーニングについて（グループワーク）  復習：キャリア教育、アクティブラーニングの再確認</p> <p>【第2回】  予習：思い浮かべた未来のイメージを文字にしてみる  授業：PBLとSBL（グループワーク）  復習：PBLの再確認</p> <p>【第3回】  予習：自分がなりたい未来のイメージに近い仕事を調べる  授業：自己分析と自己啓発（グループワーク）  復習：ネット操作に慣れる</p> <p>【第4回】  予習：調べた仕事を大まかに区分けしてみる  授業：企業のSWOT分析（グループワーク）  復習：調べた内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：調べた仕事をセグメント化してみる  授業：企業を絞り込みと関心度の調査  復習：セグメントデータの整理</p> <p>【第6回】  予習：配布資料をよく読んでおく  授業：就職関連合同ゼミ①  復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>【第7回】  予習：仕事との相性をセグメント化してみる  授業：KJ法による自己分析  復習：セグメントデータの理解</p> <p>【第8回】  予習：自分の得意と苦手について考える  授業：KJ法データの整理（グループワーク）  復習：分析データを整理</p> <p>【第9回】  予習：自分の長所を3つ探してみる  授業：自分の長所をセグメント化  復習：自分の長所について整理する</p> <p>【第10回】  予習：関心のある仕事について考える  授業：自分の長所と仕事の相性を分析する  復習：相性について整理する</p> <p>【第11回】  予習：関心のある職種との相性を考える  授業：職種の調査（グループワーク）  復習：職種について整理</p> <p>【第12回】  予習：関心のある業種との相性を考える  授業：業種の調査（グループワーク）</p>			



復習：業種について整理 【第13回】 予習：自分と相性の良い働き方を考える 授業：企業の調査（グループワーク） 復習：企業について整理 【第14回】 予習：発表に備え、必要な材料を用意する 授業：調査データを発表 復習：発表データを整理 【第15回】 予習：効果的な発表を考える 授業：発表と補足 復習：足りない点について考える（PDCA）								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜1人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。							
テキスト・教材	必要に応じて授業で適宜、配布する。							
参考書	必要に応じて授業で適宜、配布する。							
評価の基準と方法	授業中の提出物など50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	地域観光資源研究（前期）と、観光のPRとメディア（後期）を履修しておくことが望ましい。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業中に具体的な指示をする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミ I		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40~12:10 木曜日 16:20~17:50 後期 水曜日 10:40~12:10 木曜日 16:20~17:50	研究室	10-720
授業概要	本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 最初に「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、実習することで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。 また、都内および近郊の観光地域での現地調査を通じて観光地の見方を考える。 なお、夏休み期間中に2泊3日での観光地調査を、宮崎県宮崎市で実施する。		
到達目標	①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表ができるようになる。 ②観光マーケティングの基礎を習得する。 ③観光地域の現地調査を通して、課題を発見する力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：イントロダクション・自己紹介 復習：授業の方針を確認する</p> <p>【第2回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：基礎スキル：ロジカルシンキング 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第3回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：基礎スキル：ファシリテーション 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第4回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：観光マーケティングの基礎① 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第5回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：観光マーケティングの基礎② 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第6回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：就職関連合同ゼミ① 復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>【第7回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：観光マーケティングの基礎③ 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第8回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：観光マーケティングの基礎④ 復習：各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を開始</p> <p>【第9回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：観光マーケティングの基礎⑤ 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第10回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションのやり方について整理し再確認する</p> <p>【第11回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第12回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える</p>			

<p>授業：研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション）  復習：ゼミで学習したことを復習しておく  【第13回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える  授業：研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション）  復習：ゼミで学習したことを復習しておく  【第14回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える  授業：研究発表のプレゼンテーション⑤（プレゼンテーション）  復習：ゼミで学習したことを復習しておく  【第15回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：前期の総括・自己評価  復習：半期間のゼミで身につけたことを振り返る</p> <p>※夏休み期間中にゼミ合宿（観光地調査）を、宮崎県宮崎市で実施する</p>								
授業開始前学習	以下に記載している参考書を事前に読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	適宜、講義資料を配布する。							
参考書	満尾良隆『観光学—基本と実践』（古今書院） じゃらんリサーチセンター『とーりまかし』（じゃらんリサーチセンター） <a href="https://jrc.jalan.net/tk/">https://jrc.jalan.net/tk/</a>							
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	観光文化ゼミⅡ-g							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的とし、産学連携による授業を行う。							

科目名称	観光文化ゼミⅡ		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-613
授業概要	このゼミでは、観光メディアを考察していきます。まずこの1年間は旅行ガイドブックをつくる技術と手法、つまり、企画・取材・原稿執筆・編集・デザイン・DTPを学び、最終的にグループにわかれてガイドブックを制作・発表します。後期は前期で学んだことを実際にソフトウェア（Word）を使用して実習していきます。ソフトウェアの使い方からレイアウトやデザインの方法を学びます。その他、日常的なニュースの中から、私たちに関係するものを選び、随時みんなで発表し話し合います。		
到達目標	1) 雑誌として魅力的な文章を書き、デザイン、レイアウトを実習して学ぶ。2) 雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。3) 毎回の発表を通して、発表力をつけていく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：前期の授業を振り返っておく  授業：各人の特性を確認し、雑誌制作をするグループを作る  復習：改めて企画を考えておく</p> <p>【第2回】  予習：雑誌やネットなどを利用して、企画を考えてみる  授業：グループにわかれて考えた企画の講評会（グループワーク）  復習：決まった企画について情報を収集する</p> <p>【第3回】  予習：雑誌やガイドブックを見てどのような要素でページが構成されているか確認しておく  授業：各グループで雑誌の要素・素材を考える（グループワーク）  復習：授業で考えた以外に要素が必要ないか各自確認しておく</p> <p>【第4回】  予習：どのようにして素材を収集するかを考えておく  授業：各グループで雑誌素材の収集方法を考える（グループワーク）  復習：授業で考えた以外に収集方法が必要ないか各自確認しておく</p> <p>【第5回】  予習：各自自分の役割を考えておく  授業：各グループ雑誌制作実習（1）（グループワーク）  復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第6回】  予習：今回やるべきことを各自考えておく  授業：各グループ雑誌制作実習（2）（グループワーク）  復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第7回】  予習：今回やるべきことを各自考えておく  授業：各グループ雑誌制作実習（3）（グループワーク）  復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第8回】  予習：今回やるべきことを各自考えておく  授業：各グループ雑誌制作実習（4）（グループワーク）  復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第9回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：就職関連合同ゼミ②  復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>【第10回】  予習：今回やるべきことを各自考えておく  授業：各グループ雑誌制作実習（5）（グループワーク）  復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第11回】  予習：今回やるべきことを各自考えておく  授業：各グループ雑誌制作実習（6）（グループワーク）  復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第12回】  予習：今回やるべきことを各自考えておく  授業：各グループ雑誌制作実習（7）（グループワーク）  復習：授業中でできなかったところをやっておく</p>			

<p>【第13回】          予習：今回やるべきことを各自考えておく          授業：各グループ雑誌制作実習（8）（グループワーク）          復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第14回】          予習：今回やるべきことを各自考えておく          授業：各グループで雑誌を完成させる（9）（グループワーク）          復習：授業中でできなかったところをやっておく</p> <p>【第15回】          予習：各自前期の自己評価をしておく          授業：相互講評会とまとめ          復習：改めてグループで作った雑誌の確認と評価を各自でしておく</p> <p>※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。</p>								
授業開始前学習	世の中にあふれる雑誌やネットの情報を日々、注意深く観察しておきます。それらを通して、さまざまなことを自ら考え、自身の雑誌やガイドブックの制作に活かしていきます。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。							
テキスト・教材	指定しない							
参考書	指定しない							
評価の基準と方法	講義に対する積極性（50%）、各講義での提出レポート（20%）、最終レポート（30%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず3回で1回の欠席に匹敵する減点となります。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	「広告・メディア実務論」「企業文化研究 D(広告・出版業)／広告出版業概論」							
その他	ゼミは2年間にわたりますが欠席することなく、積極的に参加してください。2年間を通じて、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。							

科目名称	観光文化ゼミⅡ		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-713
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな土地勘を身に付けること、各ゼミ生が研究テーマを発掘・発展させることを目的とする。 グローバル、ローカル、グローカル、外国語、多様性、国際儀礼といったキーワードを知的好奇心でつなぎながら、①観光産業で役立つ英語と国際儀礼を実践的に学ぶとともに、②日本の魅力を発信し、英文観光情報を収集・分析する力を養う。後期は、各自で簡単なツアープランを作成し発表する練習も行う。		
到達目標	①専門ゼミで取り組む研究テーマについての理解が深まる。 ②観光や文化の観点から、新聞やニュースを読み考える習慣が身につく。 ③頭の中の地図で世界の主要国や都市の場所をイメージできるようになる。 ④パワーポイントやレジュメを効果的に使ったプレゼンテーションができるようになる。 ⑤発表などに対し、的確な質問ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：夏期課題を提出する。 授業：後期の工程の確認、夏期課題に対するコメント 復習：後期に達成すべきこと（目標）を見直す。</p> <p>第2回 予習：外国人の日本に対するイメージ（A）を想像する。 授業：Lost in translation ①（ディスカッション） 復習：（A）と映画で描かれた日本のイメージを比較する（課題①）。</p> <p>第3回 予習：前回視聴した内容を振り返る。 授業：Lost in translation ②（ディスカッション） 復習：印象に残ったシーンとその理由をまとめる（課題②）。</p> <p>第4回 予習：前回視聴した内容を振り返る。 授業：Lost in translation ③（ディスカッション） 復習：印象に残ったシーンとその理由をまとめる（課題③）。</p> <p>第5回 予習：前回視聴した内容を振り返る。 授業：Lost in translation ④（ディスカッション） 復習：印象に残ったシーンとその理由をまとめる（課題④）。</p> <p>第6回 予習：配布資料を読む。 授業：ツアーの企画①（グループワーク） 復習：提示されたテーマにあったツアーを検討確認する。</p> <p>第7回 予習：作業内容をグループで確認する。 授業：ツアーの企画②（グループワーク） 復習：作業の進捗をグループで共有し、プランをまとめる。</p> <p>第8回 予習：円滑に発表できるよう準備する。 授業：ツアープランの発表 復習：他のグループのツアープランを評価する。</p> <p>第9回 予習：配布資料を読む 授業：就職関連合同ゼミ② 復習：就活の方法、意義などを確認する。</p> <p>第10回 予習：研究テーマについての発表の準備をする。 授業：研究テーマについての中間報告と検討①（ピアレビュー） 復習：授業内での議論や指摘を踏まえ、さらに研究テーマを発展させる。（課題⑤）</p> <p>第11回 予習：研究テーマについての発表の準備をする。 授業：研究テーマについての中間報告と検討②（ピアレビュー） 復習：授業内での議論や指摘を踏まえ、さらに研究テーマを発展させる。（課題⑤）</p> <p>第12回</p>			

<p>予習：合同研究発表会のポスターを見ておく。          授業：4年生の合同研究発表会を見学する。          復習：4年生の発表を評価する。</p> <p>第13回          予習：次年度の合同研究発表会に向けてのアイデアを考える。          授業：合同発表会の振り返りと次年度の構想（ブレインストーミング）          復習：次年度の合同研究発表のテーマについてアイデアを深める。</p> <p>第14回          予習：研究テーマの進捗と今後の課題を簡潔にまとめる。          授業：研究テーマについての期末報告          復習：授業内での議論や指摘を踏まえ、さらに研究テーマを発展させる。</p> <p>第15回          予習：研究テーマについてさらにどのような調査が必要か考える。          授業：次年度に向けた準備          復習：後期の授業を振り返り、4年次に向けての研究計画を立てる。</p>								
授業開始前学習	①授業の内外で新聞や資料（英語のものを含む）をよく読むため、普段から「読む」習慣をつけておくこと。 ②簡単な文章を英語で表現できるよう、基本的な英単語・英文法などを復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題①～④は、翌週授業の冒頭で講評します。課題⑤は発表後コメントをするとともに、個別にコメントを付して返却します。							
テキスト・教材	授業の中で指示する他、プリントなどを配布する。							
参考書	個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。							
評価の基準と方法	研究テーマへの取り組み（プレゼンテーション、課題⑤、期末レポート）（40%）、授業内課題①～④（30%）、ゼミへの知的貢献（ゼミでの積極性・ゼミ生の発表に対する反応などを含む）（30%）などを総合的に判断する。そのほか、ゼミで力を入れたこと「ゼミチカ」の自己申告とその内容に応じてボーナス加点を行う。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	英語関連科目、グローバル関連科目のほか、日本の歴史や文化についての科目も積極的に履修してください。海外の人たちとの交流において自分の国についての知識は必須です。							
その他	後期の後半は、研究テーマについての発表がメインになります。それぞれの発表のタイミングに合わせて、計画的に準備を進めていってください。 英語が苦手なゼミ生は、観光英語検定3級取得を目標に、語彙、文法、表現の力を伸ばしていきましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	外務省職員として約 20 年の実務経験あり。バングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での勤務や出張・観光で様々な国・地域を訪問した経験を活かし、異文化コミュニケーションやグローバルな時代の生き方を中心に受講生が国際教養を身につけられるよう演習を行う。							



科目名称	観光文化ゼミⅡ		
科目分類	120-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国を中心とする西半球の国々および日本を対象として、文化・歴史と観光の両面から研究します。2つの主要な目的は、ゼミ論文とツアープランの作成ですが、同目的のための作業を通じて主に調べる力、読む力、書く力、纏める力、発表する力を身につけることを目指します。また、授業ではレジュメを作成して個別発表し、その後に質疑応答を行い、併せて適宜グループワークも行います。		
到達目標	ゼミ論文とツアープランの作成という2年間の目的を達成するための第2準備段階として、アメリカ合衆国を中心とする西半球で興味関心のある国および日本の諸都市をピックアップして、歴史・文化・地理・観光資源などを調べる。その作業を通じて、読む力、書く力、調べる力、纏める力、発表する力などを身につけることを目標とするが、ここでは前期に続いて調べまとめる力とプレゼン力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：ゼミ論準備として「アメリカのアート」に関する資料①（教員が配布）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料①について質疑応答を行う。  復習：質疑応答をもとに「アメリカのアート」についてまとめる。</p> <p>【第2回】  予習：ゼミ論準備として「アメリカの文学」に関する資料②（教員が配布）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料②について質疑応答を行う。  復習：質疑応答をもとに「アメリカの文学」についてまとめる。</p> <p>【第3回】  予習：ゼミ論準備として「アメリカの演劇」に関する資料③（教員が配布）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料③について質疑応答を行う。  復習：質疑応答をもとに「アメリカの演劇」についてまとめる。</p> <p>【第4回】  予習：ゼミ論準備として「アメリカのショー」に関する資料④（教員が配布）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料④について質疑応答を行う。  復習：質疑応答をもとに「アメリカのショー」についてまとめる。</p> <p>【第5回】  予習：ゼミ論準備として「アメリカの映画」に関する資料⑤（教員が配布）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料⑤について質疑応答を行う。  復習：質疑応答をもとに「アメリカの映画」についてまとめる。</p> <p>【第6回】  予習：ゼミ論準備として「アメリカの音楽」に関する資料⑥（教員が配布）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料⑥について質疑応答を行う。  復習：質疑応答をもとに「アメリカの音楽」についてまとめる。</p> <p>【第7回】  予習：ゼミ論準備として「アメリカのスポーツ」に関する資料⑦（教員が配布）を読み、わからない箇所をチェックする。  授業：資料⑦について質疑応答を行う。  復習：質疑応答をもとに「アメリカのスポーツ」についてまとめる。</p> <p>【第8回】  予習：ゼミ論準備として資料①～⑦で興味関心をもった分野を選定する。  授業：予習にもつぎ、興味関心について質疑応答を行う。  復習：質疑応答に基づき次週の発表準備を確認する。</p> <p>【第9回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：就職関連合同ゼミ  復習：就職の方法、意義などを再認識</p> <p>【第10回】  予習：ゼミ論のテーマを決め、パワーポイント作成の準備をする。  授業：パワーポイントに基づく発表と質疑応答を行う。  復習：質疑応答の内容確認を行う。</p> <p>【第11回】  予習：ゼミ論のテーマを決め、パワーポイント作成の準備をする。  授業：パワーポイントに基づく発表と質疑応答を行う。  復習：質疑応答の内容確認を行う。</p> <p>【第12回】  予習：ゼミ論のテーマを決め、パワーポイント作成の準備をする。  授業：パワーポイントに基づく発表と質疑応答を行う。</p>			

<p>復習：質疑応答の内容確認を行う。</p> <p>【第13回】</p> <p>予習：ゼミ論のテーマを決め、パワーポイント作成の準備をする。</p> <p>授業：パワーポイントに基づく発表と質疑応答を行う。</p> <p>復習：質疑応答の内容確認を行う。</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：ゼミ論のテーマを決め、パワーポイント作成の準備をする。</p> <p>授業：パワーポイントに基づく発表と質疑応答を行う。</p> <p>復習：質疑応答の内容確認を行う。</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：後期授業の復習をする</p> <p>授業：レポート課題について説明する。</p> <p>復習：レポート課題の準備を始める。</p>								
授業開始前学習	前期の「復習」で作成したノートの確認							
授業内課題のフィードバックの方法	予習の課題およびレジュメの発表について、履修学生と授業担当教員による「複眼的チェック」を実施する。							
テキスト・教材	使用しない							
参考書	授業のなかで適宜紹介します。							
評価の基準と方法	個人およびグループ発表用のレジュメ・レポート・ゼミ論の作成（70%）、取り組みの姿勢を含む発表（30%）							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	「アメリカの文化と歴史Ⅰ・Ⅱ」、「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」、「文化交流論B（日本とアメリカ）」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅡ		
科目分類	120-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究・発表・討論を行う。日・韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標にして準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。		
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：夏季休暇中の研究活動を整理しておく。 授業：夏季休暇中の研究活動の報告、観光文化ゼミⅡの後期全体説明 復習：自分の研究課題を再認識し、詳細化しておく。</p> <p>【第2回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：異文化の理解について（日・韓の結婚式について）① 復習：【第2回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第3回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：異文化の理解について（韓国の大衆文化と日本）② 復習：【第3回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第4回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：アカデミック・ライティング（レジュメの書き方）① 復習：【第4回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第5回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：アカデミック・ライティング（レジュメの書き方）② 復習：【第5回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第6回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：アカデミック・ライティング（各自レジュメの発表・提出）③ 復習：【第6回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第7回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：プレゼンテーションとは？、プレゼンテーションのやり方① 復習：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。</p> <p>【第8回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：プレゼンテーションとは？、プレゼンテーションのやり方② 復習：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。</p> <p>【第9回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：就職関連合同ゼミ② 復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>【第10回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業：研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。</p> <p>【第11回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業：研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。</p> <p>【第12回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業：研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション）</p>			

<p>復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第13回】  予習：特になし  授業：4年生の合同発表会の見学  復習：4年生のツアープランのパンフレットを自分で分析してみる。  【第14回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第15回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ゼミナール全体のまとめ、授業評価アンケート  復習：ゼミで身につけたことを振り返り、今後の活用方法について考える。</p>								
授業開始前学習	自分に興味がある分野に関して、さらに具体的にテーマを絞り、関連文献を読むように心がけて下さい。							
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。							
テキスト・教材	特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度など70%。報告30%。なお5回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅡ		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	後期は3つのことを行う。第1に前期から進めているイタリアの観光と文化の研究成果について、イタリア政府観光局との産学連携で運営する模擬店で展示発表する。本年度のりんどう祭は10/14(土)・15(日)の2日間の開催である。第2に「イタリアと日本の観光政策の比較研究」として専門書の輪読を行う。輪読を通じて前期よりも読む力、調べる力、考える力、書く力、発表する力のレベルを上げる。第3に研究の進め方を学びながら研究テーマの探索を行い、4年次のゼミ論につなげていく。年明けからの就活に備えて4年生の内定者との交流も考えている。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① グループワークを通じてチームワーク・協調性を習得する</li> <li>② 輪読を通じて読む・調べる・考える・書く・発表する力をつける</li> <li>③ 自分の考えを根拠をもって発言できるようになる</li> <li>④ 自分の研究テーマを決める</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：演習/夏休みのふりかえり《ディスカッション》 講義/授業方針と計画、グループ研究(1) りんどう祭り準備 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第2回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習/My News(1)、グループ研究(2) りんどう祭り準備 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第3回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習/My News(2)、グループ研究(3) りんどう祭り準備 復習：授業レポートの提出(ふりかえり)</p> <p>【第4回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習/My News(3)、グループ研究(4) りんどう祭り準備 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第5回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/My News(4)、輪読(1)《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第6回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/My News(5)、輪読(2)《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第7回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/My News(6)、輪読(3)《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第8回】 予習：輪読の準備をする 授業：演習/My News(7)、輪読(4)《プレゼンテーション・ディスカッション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第9回】 予習：先輩学生への質問を準備する 授業：就職関連合同授業「内定者トーク」 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第10回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/My News(8)、フィールスタディバトル《プレゼンテーション》 講義/ゼミ論(1) 研究テーマと先行研究調査の方法 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第11回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：演習/My News(9)、ゼミ論(2) 研究テーマ探索ワーク(教科書 p.27) 講義/先行研究分析(教科書 p.28～p.29)</p>			

復習：授業レポートの提出 【第 12 回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/My News (10)、ゼミ論 (3) 先行研究調査発表①《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出 【第 13 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：合同発表会見学 復習：授業レポートの提出 【第 14 回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/My News (11)、ゼミ論 (4) 先行研究調査発表②《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出 【第 15 回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/My News (12)、ゼミ論 (5) 先行研究調査発表③《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出  ※春休み期間中に学生自主企画の観光地への日帰りフィールドスタディを予定している。								
授業開始前学習	過去のゼミの活動は下記の鮫島ゼミのホームページでも公開している。 <a href="https://sametakulab.amebaownd.com/" target="_blank">鮫島研究室 HP</a>							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	鮫島卓 (2022) 『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ 宗田好史 (2020) 『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社							
参考書	山口誠・須永和博・鈴木涼太郎 (2021) 『観光のレッスン—ツーリズム・リテラシー入門』新曜社							
評価の基準と方法	My News (10 点)、グループ研究の取り組み姿勢 (40 点)、輪読 (40 点)、ゼミ論研究テーマ (10 点) で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。							
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。文献で知識を習得するだけでなく、映画・音楽・食などを通じてイタリアの文化にもふれながら学生同士の懇親を深めてほしい。尚、ゼミの運営 (課題の出題・提出・評価) は Google Classroom を使う。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発の実務を行ってきた。現在教員の研究のテーマは「イタリア中小都市の観光政策」「地場産業と観光開発」「観光経験の教育的効果」である。							



科目名称	観光文化ゼミⅡ		
科目分類	120-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	3年生の後期では、学生に共通した心配事である就活への効果的な対応（履歴書、エントリーシートの書き方、面接練習）を行いながら、並行してゼミ論とツアープラン発表会の準備に入ります。スタートが早めのため学生は少し忙しいかもしれませんが、前期のゼミで自身が何に関心があるか輪郭が見えてきているので、無理なく自然にゼミ論とツアープラン発表会の内容も決まってくる。総じて、3年生の1年間を通して、将来どんな職業につきたいかも段階的に可視化できる進行内容になっています。「心理的安全性」を重視しながら進めます。		
到達目標	自ら主体的に考えてアウトプットできることを目指します。具体的には発信型の姿勢を意識し、「考え抜く力（課題発見力、計画力）」、「前に踏み出す力（働きかけ力、実行力）」、そして「問題解決力」を身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：前期の反省と後期の抱負を考える  授業：後期の進め方についてのガイダンス  復習：後期に実施する内容の再確認</p> <p>【第2回】  予習：ツアープラン発表会用の地域や場所を思い浮かべる  授業：調査による情報インプット  復習：調査内容をまとめる</p> <p>【第3回】  予習：思い浮かべた地域や場所の中からベストを絞り込む  授業：調査内容の整理と発表準備（ブレインストーミング）  復習：発表内容のまとめ</p> <p>【第4回】  予習：発表の準備  授業：調査内容のプレ発表（グループワーク）  復習：発表内容の振り返り整理</p> <p>【第5回】  予習：旅行したい場所の共通点を調査  授業：旅行コースのデータまとめ  復習：データの発表準備</p> <p>【第6回】  予習：仕事との相性を大まかに考えてみる  授業：調査内容の発表（グループワーク）  復習：分析の方法を整理</p> <p>【第7回】  予習：ゼミ論のテーマをいくつか思い浮かべてみる  授業：前期のKJ法による自己分析結果を整理  復習：ゼミ論のテーマを絞り込む</p> <p>【第8回】  予習：ゼミ論のテーマ発表準備  授業：ゼミ論のテーマのプレ発表（グループワーク）  復習：発表内容を整理</p> <p>【第9回】  予習：配布資料をよく読んでおく  授業：就職関連合同ゼミ②  復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>【第10回】  予習：前期の「関心のある仕事」について再考する  授業：自分に合うと思う仕事（業種、職種）を調査  復習：調査内容について整理する</p> <p>【第11回】  予習：前期の「関心のある企業」について再考する  授業：自分の行きたい企業を調査  復習：調査内容について整理する</p> <p>【第12回】  予習：行きたい企業に提出する「志望動機」を書いてみる  授業：志望動機の書き方の練習（グループワーク）  復習：練習内容について整理</p>			



<p>【第13回】          予習：ツアープランの事例をweb等で見ておく          授業：合同発表会見学          復習：発表内容について検討する</p> <p>【第14回】          予習：採用面接について考えてみる：後半          授業：プチ面接の実施（グループワーク：後半）          復習：改善点を整理</p> <p>【第15回】          予習：1年を通じた自身の行動について考える          授業：各自の発表とフィードバック          復習：自身に足りない点について考える（PDCA）</p>								
授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜1人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、ワークショップで進捗を確認することもある。							
テキスト・教材	必要に応じて授業で適宜、配布する。							
参考書	必要に応じて授業で適宜、配布する。							
評価の基準と方法	授業中の提出物など50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	地域観光資源研究（前期）と、観光のPRとメディア（後期）を履修しておくことが望ましい。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業中に具体的な指示をする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅡ		
科目分類	120-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-720
授業概要	<p>本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 観光文化ゼミⅠにて学んだ「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」を、実習を通じ習熟させることで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。 一部の授業回では、じゃらんリサーチセンターと連携し観光マーケティングを実習する。 また、都内および近郊の観光地域の現地調査を通じて観光地の見方を考える。 尚、期間中に観光地調査を神奈川県箱根町で実施する</p>		
到達目標	<p>①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表する力を高める。 ②観光マーケティングを実践する力を身につける。 ③観光地域の現地調査を通して、課題を発見し解決する力を身につける。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：観光地調査内容の説明 復習：授業の方針を確認する</p> <p>【第2回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：箱根および競合観光地域の現状分析 復習：各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を開始</p> <p>【第3回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：アンケート結果の分析 復習：各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を開始</p> <p>【第4回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：箱根視察の計画 復習：【第4回】ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第5回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：観光マーケティングの実践 復習：【第5回】ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第6回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：観光マーケティングの実践 復習：【第6回】ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第7回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：ゼミ論 研究計画① 復習：【第7回】ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第8回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：ゼミ論 研究計画② 復習：各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を継続</p> <p>【第9回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：就職関連合同ゼミ② 復習：就活の方法、意義などを再認識</p> <p>予習：配布資料を読んでおく 授業：ゼミ論 研究計画③ 中間発表（プレゼンテーション） 復習：各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を継続</p> <p>【第10回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習：【第10回】ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第11回】</p>			

<p>予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える          授業：研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション）          復習：【第11回】ゼミで学習したことを復習しておく          【第12回】          予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える          授業：研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション）          復習：【第12回】ゼミで学習したことを復習しておく          【第13回】          予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える          授業：研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション）          復習：【第13回】ゼミで学習したことを復習しておく          【第14回】          予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える          授業：研究発表のプレゼンテーション⑤（プレゼンテーション）          復習：【第14回】ゼミで学習したことを復習しておく          【第15回】          予習：配布資料を読んでおく。          授業：後期の総括・自己評価          復習：半期間のゼミで身につけたことを振り返る</p>								
授業開始前学習	以下に記載している参考書を事前に読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	適宜、講義資料を配布する。							
参考書	溝尾良隆『観光学—基本と実践』（古今書院） じゃらんリサーチセンター『とーりまかし』（じゃらんリサーチセンター） <a href="https://jrc.jalan.net/tk/">https://jrc.jalan.net/tk/</a>							
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他	観光地調査を神奈川県箱根町で実施する							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的に、産学連携により授業を行う。							

科目名称	観光文化ゼミⅢ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-613
授業概要	2年間のゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、国内外で300ホテル計70,000室以上を展開しているビジネスホテル「東横イン」の集客プランを作成、発表します。今期はプラン作成の方法を研究し、各自プランを作り、発表します。並行してテーマ研究も進め、ゼミ論を書きます。最終的には、観光文化学類での合同発表会で、2年間の研究成果を発表します。		
到達目標	まず、ゼミ論の執筆と集客プランの作成という2年間の目的を達成するための第3準備段階として、各自興味関心のある地域をピックアップして、歴史・文化・地理・観光資源などを調査します。これらを通して、調べる力、読む力、書く力、まとめる力、発表する力を身につけることが目標です。また同時に社会人として生きていく力と知恵を身につけていくことを目指します。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：3年次の自己評価をする  授業：授業方針と計画を説明し、3年次に決めたゼミ論のテーマを発表する。  復習：ゼミ論に見直しがないか自己評価する</p> <p>【第2回】  予習：後期に発表する集客プラン作成についての配布資料を読んでおく。  授業：旅行商品の企画（観光文化ゼミの受講生に対し、全体説明）  復習：【第2回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第3回】  予習：自分のゼミ論に見直しがある場合、その内容を具体的に見極め、ゼミ論の目次を作って見る  授業：見直しがある場合、見直しの発表。その後各自目次の発表。お互いにその内容を評価する（グループ・ワーク）  復習：自己評価と相互評価を確認する</p> <p>【第4回】  予習：目次に見直しがある場合、その内容を具体的に見極める。  授業：再度目次の発表。お互いにその内容を評価する（グループ・ワーク）  復習：自己評価と相互評価を確認する</p> <p>【第5回】  予習：目次ごとに調査・研究方法を考える  授業：目次ごとの調査・研究方法を発表する（グループ・ワーク）  復習：自己評価と相互評価を確認する</p> <p>【第6回】  予習：目次ごとに調査・研究方法についてその他の方法も模索する  授業：目次ごとのその他の調査・研究方法を発表する（グループ・ワーク）  復習：自己評価と相互評価を確認する</p> <p>【第7回】  予習：各自調査・研究を行なう  授業：各自調査・研究の状況を発表し、お互いに評価する（グループ・ワーク）  復習：他者評価に基づき、自己評価の見直しをする</p> <p>【第8回】  予習：後期の集客プラン発表に向けて各自場所を考えておく  授業：各自が考えた集客プランの場所を発表する  復習：発表を評価しておく</p> <p>【第9回】  予習：他者の発表の評価点を見極める  授業：前回発表した集客プランの内容について協議する（グループ・ワーク）  復習：協議を元にした集客プランの方向性を考えておく</p> <p>【第10回】  予習：最終的に採用される集客プランを考えておく  授業：最終的に発表する集客プランについて協議して決定する（グループ・ワーク）  復習：決定した集客プランを自分なりに見直す</p> <p>【第11回】  予習：見直した部分を整理しておく  授業：決定した集客プランについて、内容を協議する（グループ・ワーク）  復習：協議した内容を整理する</p> <p>【第12回】  予習：整理した内容を発表できるようにしておく  授業：決定した集客プランについて、各々が考えた内容を発表して評価する（グループ・ワーク）  復習：評価内容を検討する</p>			

<p>【第13回】          予習：検討した結果を整理する          授業：決定した集客プランについて、各人の内容を評価する（グループ・ワーク）          復習：協議した内容を整理する</p> <p>【第14回】          予習：整理したものから採用するものを考えておく          授業：各人の内容を取り入れて最終的な集客プランを決定する（グループ・ワーク）          復習：取り組みの方法論を考える</p> <p>【第15回】          予習：各内容の取り組みの方法論を整理する          授業：決定した集客プランの取り組みについて方法を決定する（グループ・ワーク）          同時にゼミ論の進行状況を確認する          復習：後期に向けて夏休み中にやっておくべきことを確認しておく</p> <p>※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。</p>								
授業開始前学習	今期は、ゼミ論とビジネスホテルの集客プランの作成という2つのことに取り組みます。それぞれの構想を各自描くべく、ビジネスホテルのインターネットサイトやいろいろな旅行パンフレットを旅行会社や観光地でもらって目を通していきましょう。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。							
テキスト・教材	適宜資料を配布します							
参考書								
評価の基準と方法	講義に対する積極性（50%）、各講義での提出レポート（40%）、最終レポート（10%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず3回で1回の欠席に匹敵する減点となります。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他	2年間にわたるゼミの後半になります。引き続き欠席することなく、積極的に参加してください。最後の1年間も、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサー、ビジネスホテルの広報顧問などを行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。							

科目名称	観光文化ゼミⅢ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-713
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな視野を広げていくことを目的とし、(1)ゼミ全体としては合同研究発表会に向けた準備を行うとともに、(2)ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文を完成させる。		
到達目標	①自分の選択した研究テーマについての発表を行い、ゼミ論文の第一次案を作成する。 ②ディスカッションでは、積極的に参加し、相手の意見を尊重しながら、意見の集約に貢献できる。 ③ゼミ生の発表に対して、コメントや質問をし、アドバイス（ピアレビュー）を行うことができる。 ④発表や論文などで提示されたデータが適切に用いられているか判断できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回  予習：ゼミ論文の雛形となる「プロ論文」（3年次後期の期末課題）を精査する。  授業：一年間の到達目標と工程表の確認  復習：各自の研究テーマについて何を論じたいのか簡潔にまとめる。</p> <p>第2回  予習：配布資料を読み、質問事項をまとめる。  授業：合同研究の進め方  復習：授業を参考に合同研究発表の内容について各自でアイデアをまとめる。</p> <p>第3回  予習：合同研究発表会のテーマについて簡潔にまとめる。  授業：合同研究発表会の構想（ブレインストーミング）  復習：提示されたアイデアを振り返る。</p> <p>第4回  予習：前回提示されたアイデアについての意見を簡潔にまとめる。  授業：合同研究発表会の構想（ディスカッション）  復習：授業で検討したアイデアをどのように発展させるべきか考える。</p> <p>第5回  予習：個人研究発表の準備をする。  授業：中間プレゼンテーションとピアレビュー（1）（授業内課題①）  復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文を執筆する。</p> <p>第6回  予習：個人研究発表の準備をする。  授業：中間プレゼンテーションとピアレビュー（2）（授業内課題①）  復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文を執筆する。</p> <p>第7回  予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。  授業：「国際観光への異文化間コミュニケーション論的アプローチ」（ディスカッション）  復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。</p> <p>第8回  予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。  授業：「観光立国ジャパン—異文化コミュニケーション力に関する一考察」（ディスカッション）  復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。</p> <p>第9回  予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。  授業：「外国人観光客への真の『おもてなし』（ディスカッション）  復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。</p> <p>第10回  予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。  授業：「観光接触場面における日本語—人気旅館からの考察」（ディスカッション）  復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。</p> <p>第11回  予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。  授業：「タイ英語学習のすすめ—観光コミュニケーションの考え方」（ディスカッション）  復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。</p> <p>第12回  予習：論文の評価基準（良い論文とはどのようなものか）について考える。  授業：論文評価基準（ピアレビューに向けての討論）  復習：授業内での討論を振り返り、各自のゼミ論文にどのような改善が必要か考える。</p>			



<p>第 13 回          予習：個人研究発表の準備をする。          授業：期末プレゼンテーションとピアレビュー（1）（授業内課題②）          復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文第一次案を作成する。</p> <p>第 14 回          予習：個人研究発表の準備をする。          授業：期末プレゼンテーションとピアレビュー（2）（授業内課題②）          復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文第一次案を作成する。</p> <p>第 15 回          予習：ゼミ論文第一次案に、さらにどのような調査・論点が必要か考える。          授業：前期の振り返りと後期に向けてやるべきこと          復習：ゼミ論文完成に向けた工程表を作る。</p>								
授業開始前学習	①授業の内外で新聞や資料（英語のものを含む）をよく読むため、普段から「読む」習慣をつけておくこと。 ②自分の研究テーマに関する文献収集を継続しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題①～②は、プレゼンテーション後に授業内で講評を行うとともに個別にコメントを付して返却する。							
テキスト・教材	授業の中で指示する他、プリントなどを配布する。							
参考書	個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。							
評価の基準と方法	研究テーマへの取り組み（授業内課題①と②）（40%）、期末課題（ゼミ論第一次案）（40%）ゼミへの知的貢献（ゼミでの積極性・ゼミ生の発表に対する反応などを含む）（30%）などを総合的に判断する。 そのほか、ゼミで力を入れたこと「ゼミチカ」の自己申告とその内容に応じてボーナス加点を行う。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	観光の英語をはじめとする英語関連科目は語学力向上に役立ちます。異文化交流、異文化理解、グローバル共生論などは、グローバルなものの見方や国際教養の基礎になります。							
その他	個人の研究計画は、ゼミ生が主体性をもって取り組み、行き詰まった際には教員にアドバイスを求めてください。また、グループでの活動は、各自の得意なところを活かして、積極的に貢献してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	外務省職員として約 20 年の実務経験あり。バングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での勤務や出張・観光で様々な国・地域を訪問した経験を活かし、異文化コミュニケーションやグローバルな時代の生き方を中心に受講生が国際教養を身につけられるよう演習を行う。							



科目名称	観光文化ゼミⅢ		
科目分類	120-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国を中心とする西半球の国々を対象として、文化・歴史と観光の両面から研究します。2つの主要な目的は、ゼミ論文とツアープランの作成です。これらの目的のための作業を通じて主に調べる力、読む力、書く力、纏める力、発表する力を身につけます。また、授業ではレジュメを作成して個別発表し、その後に質疑応答を行い、併せて適宜グループワークも行います。		
到達目標	ゼミ論とツアープランの作成という2年間の目的を達成するための第1準備段階として、3年次にはツアープランの作成を1度行いました。また、ゼミ論については3年次後期の課題としてスタートを始めました。今年度前期には、これら2つの目的を仕上げるために前半はゼミ論、後半はツアープランの作成に時間を費やす予定です。2年間の総仕上げとして、改めて到達目標を「読む力、書く力、調べる力、纏める力、発表する力」などの総合的な諸能力を身につけることにします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：3年次における課題の準備をする。  授業：方針と授業計画の説明ほか、予習の課題を発表する  復習：次々週発表の準備を確認する。</p> <p>【第2回】  予習：配布資料を読む。  授業：旅行商品の企画（観光文化ゼミの受講生に対する全体説明）  復習：配布使用をもとに授業内容の理解チェックをする。</p> <p>【第3回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第4回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第5回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第6回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第7回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第8回】  予習：ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ツアープランの課題を進める。</p> <p>【第9回】本日の復習  予習：ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ツアープランの課題を進める。</p> <p>【第10回】  予習：ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ツアープランの課題を進める。</p> <p>【第11回】  予習：ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ツアープランの課題を進める。</p> <p>【第12回】  予習：ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答</p>			

復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。 【第13回】 予習：ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。） 授業：プレゼンおよび質疑応答 復習：本日の復習および各自ツアープランの課題を進める。 【第14回】 予習：ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。） 授業：プレゼンおよび質疑応答 復習：本日の復習および各自ツアープランの課題を進める。 【第15回】 予習：ツアープランの合評会準備 授業：ツアープランの合評会 復習：本日の復習および各自ツアープランの課題を進める。								
授業開始前学習	各自で前半（第2回から第7回）はゼミ論、後半（第8回から第14回）はツアープランのためのPPTおよびレジュメの作成をする。							
授業内課題のフィードバックの方法	履修者と授業担当者による双方向型の質疑応答による実施する。また、自身が作成したPPTとレジュメだけでなく、他のゼミ生が作成・配布したPPTとレジュメを「学修ポートフォリオ」として蓄積したものを随時確認する。							
テキスト・教材	教科書は使用せず、適宜配布ないし紹介する。							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	ゼミ論（中間報告）とツアープラン（中間報告）の課題提出（60%）、発表及び質疑応答による授業への参加姿勢（40%）							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	「アメリカの文化と歴史 I・II」、「異文化交流 I・II」、「文化交流論 B（日本とアメリカ）」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅢ		
科目分類	120-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究・発表・討論を行う。日・韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標として準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。		
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：春季休暇中の研究活動を整理しておく。  授業：春季休暇中の研究活動の報告、観光文化ゼミⅢの全体説明  復習：自分の研究課題を再認識し、詳細化しておく。</p> <p>【第2回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：旅行商品の企画（全体説明）  復習：【第2回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第3回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：旅行商品の企画から販売（既存旅行商品の研究）  復習：【第3回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第4回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの作成（グループワークショップ）①  復習：各自プレゼンテーションの作成を進める。</p> <p>【第5回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの作成（グループワークショップ）②  復習：各自プレゼンテーションの作成を進める。</p> <p>【第6回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの作成（グループワークショップ）③  復習：各自プレゼンテーションの作成を進める。</p> <p>【第7回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの各自発表（グループワークショップ）①  復習：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。</p> <p>【第8回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの各自発表（グループワークショップ）②  復習：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。</p> <p>【第9回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション）  復習：【第9回】  ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第10回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。</p> <p>【第11回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。</p> <p>【第12回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。</p>			

<p>授業：研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第13回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第14回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：研究発表のプレゼンテーション⑤（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。  【第15回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：前期の総括、自己評価・夏休みの課題に関して  復習：ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える。</p>								
授業開始前学習	今期では、ツアープラン作成を中心にゼミを進行するので、各旅行会社のツアー商品を資料として集め、分析を行って下さい。自分のテーマに関しては、引き続き関連資料の集め、研究の深化、整理を行って下さい。							
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。							
テキスト・教材	特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度など70%。報告30%。なお5回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅢ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	前期は主にグループ研究としてイタリアの観光振興研究を行う。輪読もその一環として行う。イタリアは南北に長く起伏が多い地形、多様な地域文化や豊富な食文化、キリスト誕生以前の長い歴史、遅れた近代化など日本との共通点が多く比較研究に適した貴重な国である。グループ研究を通じて研究の進め方を習得し、後期に書き上げるゼミ論の助走期間とする。期末課題として各グループで 5000 字以上の共同執筆の研究論文を提出することを目標とする。またグループ研究の成果は2つの方法で広く発表する。第1に 10 月のりんどう祭でイタリア政府観光局と連携する模擬店でポスター発表をする。第2に 12 月の観光文化学類合同発表会でスライドを用いて研究発表をする。尚、夏休みには 1 泊 2 日のゼミ合宿を予定している。		
到達目標	① グループ研究で 5000 字以上の研究論文を書き上げる ② グループ研究で研究の進め方を習得する ③ 研究を通じて科学的思考を習得する		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：発表の準備をする  授業：演習 / 春休みのふりかえり、自己分析ワークショップ《ディスカッション》  講義/授業方針と計画、イタリアを学ぶ意義～日本とイタリアの共通点・相違点～、イタリア観光動画鑑賞  復習：授業レポートの提出（p.79-82 のコラムを読んで印象に残った点）</p> <p>【第 2 回】  予習：シラバスを読んでおく  授業：イタリアを舞台にした映画『ニューシネマパラダイス』鑑賞 《オンデマンド》  復習：授業レポートの提出（映画ふりかえり）</p> <p>【第 3 回】  予習：発表の準備をする  授業：演習/My News①、映画のふりかえり  演習/イタリア世界遺産バトル(プレゼンテーション)  グループ研究テーマ設定とチームビルディング 《グループワーク》  (①アグリツーリズモ研究/②アルベルゴディフォソ研究のいずれか)  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 4 回】  予習：輪読の準備をする、聞き手も該当箇所を読んで準備する  授業：演習/My News②、輪読（1）  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 5 回】  予習：輪読の準備をする、聞き手も該当箇所を読んで準備する  授業：演習/My News③、輪読（2）  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 6 回】  予習：輪読の準備をする、聞き手も該当箇所を読んで準備する  授業：演習/My News④、輪読（3）  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 7 回】  予習：輪読の準備をする、聞き手も該当箇所を読んで準備する  授業：演習/My News⑤、輪読（4）  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 8 回】  予習：教科書の該当箇所を読む  授業：講義/研究の進め方（1）研究計画と調査法（教科書 p.18～p.33、p.51～54） 《オンデマンド》  復習：授業レポートの提出（先行研究文献列挙）</p> <p>【第 9 回】  予習：発表の準備をする  授業：演習/My News⑥、先行研究調査発表①《プレゼンテーション》  復習：授業レポートの提出</p> <p>【第 10 回】  予習：発表の準備をする  授業：演習/My News⑦、先行研究調査発表②《プレゼンテーション》  復習：授業レポートの提出（ふりかえり）</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書の該当箇所を読む</p>			

<p>授業：講義/研究の進め方（2）調査分析の方法（教科書 p.55～p.59、p.73～p.78）          演習/グループ研究《グループワーク》          復習：授業レポートの提出          【第12回】          予習：教科書の該当箇所を読んでおく          授業：演習/My News⑧、グループ研究・分析方法の検討《グループワーク》          講義/研究の進め方（3）論文の構成と様式・書式（教科書 p.63～p.65）          復習：授業レポートの提出          【第13回】          予習：教科書の該当箇所を読んでおく          授業：演習/My News⑨、グループ研究・執筆《グループワーク》          講義/研究の進め方（4）研究発表の技法（教科書 p.60～p.62）          復習：授業レポートの提出          【第14回】          予習：グループ研究を進める          授業：演習/My News⑩、グループ研究・発表の準備《グループワーク》          復習：論文を提出する          【第15回】          予習：発表の準備をする          授業：演習/レジュメを使って研究成果発表《プレゼンテーション》          復習：授業レポートの提出（目標に対してのふりかえり）</p> <p>※期末課題はグループ研究の成果として共同執筆の研究論文を提出          ※夏休みに1泊2日ゼミ合宿を予定している。</p>								
授業開始前学習	過去のゼミの活動は下記の鮫島ゼミのホームページでも公開している。 <a href="https://sametakulab.amebaownd.com/" target="_blank">鮫島研究室 HP</a>							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	鮫島卓（2022）『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ 宗田好史（2012）『イタリアの村は美しく元気なのか：市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社							
参考書	宗田好史（2020）『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 陣内秀信（2010）『イタリアの街角から スローシティを歩く』弦書房 島村菜津（2013）『スローシティ 世界の均質化と闘うイタリアの小さな町』光文社 木村純子、陣内秀信（編）（2022）『イタリアのテリトリー戦略 甦る都市と農村の交流』白桃書房							
評価の基準と方法	イタリア世界遺産研究（10点）、My News（10点）、輪読（30点）、グループ研究（50点）から総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。							
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。文献で知識を習得するだけでなく、学外実習を通じて実践力も養ってほしい。尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発の実務を行ってきた。現在教員の研究のテーマは「イタリアの中小都市の観光政策」、「地場産業と観光開発」、「観光経験の教育的効果」である。							



科目名称	観光文化ゼミⅢ		
科目分類	120-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	これまでの様々な学びを通じて修得した「課題を乗り越える力」を可視化できるように行動し、個々の学生が自分なりの結果を出すことを目指します。3年次からの継続した学びの中で、4年生前期の時点ではゼミ論の執筆やツアープランの企画発表の準備を進めます。周囲の状況に惑わされず、ゼミを通じて落ち着いて自分と上手に向き合う時間を作るなかで、成果に繋がる行動を更に積み重ねます。不要なアンコンシャス・バイアスから解放される事で、「心理的安全性」を重視し、1人1人が自分に合った方向に進んでいきます。		
到達目標	主体的に様々な学びを通じて「課題を乗り越える力」の修得を目指します。そして、具体的な成果に繋がる行動をするために、安定した精神状態で学びを続けられるよう「心理的安全性」を重視し、1人1人が自分に合った進路を見つけることが目標です。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】          予習：これまでの自身の行動を再チェックする          授業：4年次の自己管理と進路選択の仕方（グループワーク）          復習：これまでしてきたことの再確認</p> <p>【第2回】          予習：思い浮かべた未来のイメージを文字にしてみる          授業：PBL（問題解決型）へのアプローチ指導          復習：PBLの再確認</p> <p>【第3回】          予習：自分になりたい未来のイメージに近い仕事を更に調べる          授業：自分に足りないモノについて考える          復習：ネット操作に慣れる</p> <p>【第4回】          予習：調べた仕事と自身のマッチングを考える          授業：研究テーマと自身のマッチング分析（グループワーク）          復習：調べた内容の整理</p> <p>【第5回】          予習：調べた内容をセグメント化してみる          授業：自身の関心がどこにあるのかを再確認          復習：セグメントデータの整理</p> <p>【第6回】          予習：整理したデータを読み返す          授業：自身の関心と業種のマッチングを考察          復習：マッチングについて理解する</p> <p>【第7回】          予習：仕事との相性をセグメント化してみる          授業：ゼミ論テーマ決定へのアプローチ          復習：セグメントデータの理解</p> <p>【第8回】          予習：自分の得意と苦手について考える          授業：ゼミ論データの収集の仕方（グループワーク）          復習：収集データを整理</p> <p>【第9回】          予習：自分の長所を3つ探してみる          授業：ゼミ論データの選択の仕方          復習：収集データについて整理する</p> <p>【第10回】          予習：関心のある仕事について考える          授業：収集データの利用の仕方（グループワーク）          復習：研究テーマとの相性について整理する</p> <p>【第11回】          予習：関心のある研究テーマとの相性を考える          授業：研究テーマの調査（グループワーク）          復習：研究テーマについて整理</p> <p>【第12回】          予習：関心のある研究テーマを深く考察しておく          授業：研究テーマの決定（グループワーク）</p>			



復習：研究テーマについて整理 【第13回】 予習：研究テーマの関連事項についても調べておく 授業：研究テーマについてまとめる準備をする 復習：研究テーマの整理 【第14回】 予習：研究テーマ発表に備え、必要な材料を用意する 授業：研究テーマを発表 復習：発表データを整理 【第15回】 予習：効果的な発表について考える 授業：発表と補足 復習：自身の発表の足りない点について考える（PDCA）								
授業開始前学習	3年次から学んで積み重ねてきたことをよく思い出し、自身の関心のある事柄や進みたい方向について考えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜1人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。							
テキスト・教材	必要に応じて適宜配付する。							
参考書	必要に応じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の提出物など50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅢ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-720
授業概要	<p>本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 最初に「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、実習することで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。</p> <p>(1) ゼミ全体では、合同発表会に向けた準備を行う (2) ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文に向けた準備を行う</p> <p>なお、夏休み期間中に観光地調査を宮崎県宮崎市で実施する。</p>		
到達目標	<p>①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表ができるようになる。 ②自分の選択したゼミ論文研究テーマについての発表を行う。 ③ゼミ生の発表に対してコメントや質問をし、アドバイスを行うことができる。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：イントロダクション 復習：授業の方針を確認する</p> <p>【第2回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の構想①（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第3回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の構想② 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第4回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：アカデミック・ライティング① 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第5回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：アカデミック・ライティング② 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第6回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第7回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第8回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション③（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第9回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション④（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第10回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション⑤（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第11回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション⑥（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第12回】</p>			

<p>予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える          授業：合同発表会の準備①          復習：ゼミで学習したことを復習しておく          【第13回】          予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える          授業：合同発表会の準備②          復習：ゼミで学習したことを復習しておく          【第14回】          予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える          授業：合同発表会の準備③          復習：ゼミで学習したことを復習しておく          【第15回】          予習：配布資料を読んでおく。          授業：前期の総括・自己評価          復習：半期間のゼミで身につけたことを振り返る</p> <p>※夏休み期間中に観光地調査を宮崎県宮崎市で実施する</p>								
授業開始前学習	以下に記載している参考書を事前に読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	適宜、講義資料を配布する。							
参考書	溝尾良隆『観光学—基本と実践』（古今書院） じゃらんリサーチセンター『とーりまかし』（じゃらんリサーチセンター） <a href="https://jrc.jalan.net/tk/">https://jrc.jalan.net/tk/</a>							
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお5回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	観光文化ゼミⅡ-g							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的とし、産学連携による授業を行う。							

科目名称	観光文化ゼミⅣ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-613
授業概要	2年間のゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、国内外で300ホテル計70,000室以上を展開しているビジネスホテル「東横イン」の集客プランを作成、発表します。今期はプラン作成の方法を研究し、各自プランを作り、発表します。並行してテーマ研究も進め、ゼミ論を書きます。最終的には、観光文化学類での合同発表会で、2年間の研究成果を発表します。		
到達目標	ゼミ論の執筆とビジネスホテルの集客プランの作成という2年間の目的を達成するための最終段階です。ゼミ論では各自ピックアップした興味関心のある地域の、歴史・文化・地理・観光資源などを調査してゼミ論を書き進め、完成させます。集客プランの発表は、前期に決定した集客プランの内容を具体的なものに落とし込んで、パンフレットとプレゼン資料を制作、発表します。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
※課題制作はPCおよびwordなどの書類制作ソフトが必要です。			
【第1回】 予習：後期の研究計画の概要を考えてくる。 授業：後期の活動計画・研究計画を立てる。 復習：授業での話し合いを振り返り、後期の計画を立てる。			
【第2回】 予習：集客プラン作成についての配布資料を読んでおく 授業：：パンフレット制作について（観光文化ゼミの受講生に対し、全体説明） 復習：【第2回】ゼミで学習したことを復習しておく。			
【第3回】 予習：集客プランの構成原案を考えてくる。 授業：集客プラン作成(1) テーマ、具体的な行き先の決定（グループ・ワーク） 復習：決定したことを再考する。			
【第4回】 予習：集客プラン原案を立ててくる。 授業：集客プラン作成(2) 旅程原案決定・役割分担決定（グループ・ワーク） 復習：原案を再考し、自分の分担を確認する。			
【第5回】 予習：各自分担部分を調べ、発表の準備をする。 授業：集客プラン作成(3) 旅程・集客タイトル最終決定（グループ・ワーク） 復習：集客プラン素案を再考する。			
【第6回】 予習：各自分担部分を調べ、発表の準備をする。 授業：集客プラン作成(4) 各自分担部分発表・調整（グループ・ワーク） 復習：各自調べた分担部分を再考する。			
【第7回】 予習：ゼミ論中間報告の準備をする。 授業：ゼミ論中間報告 復習：ゼミ論中間報告を再考し、研究計画を進める。			
【第8回】 予習：各自分担部分を調べ、発表の準備をする。（グループ・ワーク） 授業：集客プラン作成(5) 各自分担部分発表・調整 復習：各自調べた分担部分を再考する。			
【第9回】 予習：集客プランパンフレットを完成させる 授業：集客パンフレット発表（グループ・ワーク） 復習：集客プランパンフレットの調整・修正をする。			
【第10回】 予習：集客プランのプレゼン資料を完成させる。 授業：集客プラン発表（グループ・ワーク） 復習：プレゼン資料の調整・修正をする。			
【第11回】 予習：各自分担に従い準備を進める。パンフレット・パワーポイント・発表原稿を準備する。 授業：集客プラン発表練習（グループ・ワーク） 復習：授業での気付いた点を修正する。			
【第12回】 予習：発表会の最終準備をする。（グループ・ワーク） 授業：合同発表会予行演習			

<p>復習：合同発表会に向けて最終調整をする。  【第13回】  予習：合同発表会の最終準備をする。  授業：観光文化ゼミ合同集客プラン発表会  復習：合同発表会・集客プラン作成の過程すべてを振り返り考察する。  【第14回】  予習：ゼミ論を完成させる。  授業：合同発表会の振り返り・ゼミ論指導  復習：ゼミ論の修正点があれば修正する。  【第15回】  予習：後期の自己評価を準備しておく。  授業：後期の振り返り・自己評価・2年間のゼミ活動の総括  復習：ゼミ論を完成させる。</p> <p>※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。</p>								
授業開始前学習	<p>今期は、ゼミ論とビジネスホテルの集客プランの作成という2つのことに取り組みます。それぞれの構想を各自描くべく、ビジネスホテルのインターネットサイトやいろいろな旅行パンフレットを旅行会社や観光地でもらって目を通しておきましょう。</p>							
授業内課題のフィードバックの方法	<p>授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。</p>							
テキスト・教材	<p>適宜資料を配布します</p>							
参考書								
評価の基準と方法	<p>講義に対する積極性（50%）、各講義での提出レポート（20%）、最終レポート（30%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず3回で1回の欠席に匹敵する減点となります。</p>							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他	<p>2年間にわたるゼミの最後の期になります。引き続き欠席することなく、積極的に参加してください。今期も、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。</p>							
予習・復習の所要時間	<p>講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）</p>							
実務経験を活かした教育内容	<p>担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサー、ビジネスホテルの広報顧問などを行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。</p>							

科目名称	観光文化ゼミⅣ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-713
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな視野を広げていくことを目的とし、(1)ゼミ全体としては合同研究発表会に向けた準備を行うとともに、(2)ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文を完成させる。		
到達目標	①自分の選択した研究テーマについての発表を行い、ゼミ論文をまとめる。 ②グループワークでは、全体の状況を見渡し、自分の強みを活かしながら、他のゼミ生と協力して取り組むことができる。 ③発表などに対して、積極的にコメントや質問をし、適切なアドバイス(ピアレビュー)を行うことができる。 ④発表や論文などに説得力を持たせるため、適切なデータを選択し、効果的に用いることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>第1回  予習 : ゼミ論文の雛形となる第一次案(前期の期末課題)を精査する。  授業 : 後期の到達目標と工程表の確認  復習 : 授業での話し合いを踏まえ、自分の研究の工程表を作成する。</p> <p>第2回  予習 : 配布資料を読み、質問事項をまとめる。  授業 : 発表資料の作り方  復習 : 授業の内容を参考に合同研究発表会のアイデアを考える。</p> <p>第3回  予習 : 自分のゼミ論を読み、引用・参考文献が明示されているか確認する。  授業 : ゼミ論執筆にあたって(引用の仕方など)  復習 : 授業の内容を参考に、ゼミ論の引用部分などを書き直す。</p> <p>第4回  予習 : 自分のアイデアを発表する準備をする。  授業 : 合同研究発表会でのテーマの検討  復習 : 授業で出されたテーマ案を検討する。</p> <p>第5回  予習 : テーマ案についての意見をまとめる。  授業 : 合同研究発表会でのテーマの精査(ディスカッション)  復習 : 授業での話し合いを踏まえ、具体的な発表内容を検討する。</p> <p>第6回  予習 : 自分がどのような貢献ができるか考える。  授業 : 役割分担の決定・工程表の作成(グループワーク)  復習 : 合同研究発表会に向けて自分がすべきことを整理する。</p> <p>第7回  予習 : 個人研究発表の準備をする。  授業 : ゼミ論文中間発表とピアレビュー(1)(授業内課題①)  復習 : 発表を踏まえ、ゼミ論文をまとめる。</p> <p>第8回  予習 : 個人研究発表の準備をする。  授業 : ゼミ論文中間発表とピアレビュー(2)(授業内課題①)  復習 : 発表を踏まえ、ゼミ論文をまとめる。</p> <p>第9回  予習 : 各自の担当に基づき、合同研究発表会の準備をする。  授業 : 合同研究発表の全体像の確認(グループワーク)  復習 : 他の担当と進捗を確認する。</p> <p>第10回  予習 : 各自の担当に基づき、合同研究発表会の準備をする。  授業 : パンフレットの作成(グループワーク)  復習 : 他の担当と進捗を確認する。</p> <p>第11回  予習 : 各自の担当に基づき、合同研究発表会の準備をする。  授業 : パワーポイントの作成(グループワーク)  復習 : 他の担当と進捗を確認する。</p> <p>第12回  予習 : 各自の担当に基づき、合同研究発表会の準備をする。  授業 : 発表原稿の作成(グループワーク)  復習 : 他の担当と進捗を確認する。</p>			

<p>第 13 回          予習 : 合同研究発表会の準備をする。          授業 : 合同研究発表会          復習 : 各ゼミの発表を評価する。</p> <p>第 14 回          予習 : 合同研究発表会での気づきの点をまとめる。          授業 : 合同研究発表会のふりかえり          復習 : 次年度の発表者へのアドバイスをまとめる。</p> <p>第 15 回          予習 : ゼミ論を完成させる。          授業 : 後期のまとめ・2 年間のゼミ活動の振り返り          復習 : ゼミでの活動を評価する。</p>								
授業開始前学習	①授業の内外で新聞や資料（英語のものを含む）をよく読むため、普段から「読む」習慣をつけておくこと。 ②自分の研究テーマに関する文献収集を継続しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題①は、プレゼンテーション後に授業内で講評を行うとともに、個別にフィードバックを行う。							
テキスト・教材	授業の中で指示する他、プリントなどを配布する。							
参考書	個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。							
評価の基準と方法	研究テーマへの取り組み（授業内課題①及びゼミ論文）（40%）、合同研究発表会に向けた取り組み（発案、分担作業でのリーダーシップなど）（30%）、ゼミへの知的貢献（ゼミでの積極性・ゼミ生の発表に対する反応などを含む）（30%）などを総合的に判断する。 そのほか、ゼミで力を入れたこと「ゼミチカ」の自己申告とその内容に応じてボーナス加点を行う。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	観光の英語をはじめとする英語関連科目は語学力向上に役立ちます。異文化交流、異文化理解、グローバル共生論などは、グローバルなもの見方や国際教養の基礎になります。							
その他	個人の研究計画は、ゼミ生が主体性をもって取り組み、行き詰まった際には教員にアドバイスを求めてください。また、グループでの活動は、各自の得意なところを活かして、積極的に貢献してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	外務省職員として約 20 年の実務経験あり。バングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での勤務や出張・観光で様々な国・地域を訪問した経験を活かし、異文化コミュニケーションやグローバルな時代の生き方を中心に受講生が国際教養を身につけられるよう演習を行う。							



科目名称	観光文化ゼミⅣ		
科目分類	120-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国を中心とする西半球の国々を対象として、文化・歴史と観光の両面から研究します。2つの主要な目的は、ゼミ論文とツアープランの作成です。これらの目的のための作業を通じて調べる力、読む力、書く力、纏める力、発表する力を身につけます。また、授業ではレジュメを作成して個別発表し、その後に質疑応答を行い、併せて適宜グループワークも行います。		
到達目標	ゼミ論とツアープランの作成という2年間の目的を達成するための第1準備段階として、3年次にはツアープランの作成を1度行いました。また、ゼミ論については3年次後期の課題としてスタートを始めました。今年度前期には、これら2つの目的を仕上げするために前半はゼミ論、後半はツアープランの作成に時間を費やす予定です。2年間の総仕上げとして、改めて到達目標を「読む力、書く力、調べる力、纏める力、発表する力」など諸能力を身につけることにします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：3年次における課題の準備をする。  授業：授業計画の説明  復習：次々週発表の準備を確認する。</p> <p>【第2回】  予習：配布資料を読む。  授業：パンフレットの作成（観光文化ゼミの受講生に対する全体説明）  復習：配布資料で理解を確認する。</p> <p>【第3回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第4回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第5回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第6回】  予習：ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前にPPTとレジュメを配布すること。）  授業：プレゼンおよび質疑応答  復習：本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。</p> <p>【第7回】  予習：合同発表会用パンフの準備  授業：合同発表会用パンフの確認（グループワーク）  復習：合同発表会用パンフの手直し</p> <p>【第8回】  予習：合同発表会のパンフの準備  授業：合同発表会用パンフの確認（グループワーク）  復習：合同発表会用パンフの手直し</p> <p>【第9回】  予習：合同発表会用パンフの準備  授業：合同発表会用パンフの確認（グループワーク）  復習：合同発表会用パンフの手直し</p> <p>【第10回】  予習：合同発表会用PPTの準備  授業：合同発表会用PPTの確認（グループワーク）  復習：合同発表会用PPTの手直し</p> <p>【第11回】  予習：合同発表会用PPTの準備  授業：合同発表会用PPTの確認（グループワーク）  復習：合同発表会用PPTの手直し</p> <p>【第12回】  予習：合同発表会の準備  授業：合同発表会の予行発表（グループワーク）  復習：合同発表会の最終確認</p>			

<p>【第13回】  予習：ツアープランの合評会準備  授業：ツアープラン合同発表会  復習：合同発表会の反省</p> <p>【第14回】  予習：ゼミ論の準備  授業：ゼミ論のプレゼンおよび質疑応答  復習：ゼミ論提出の準備</p> <p>【第15回】  予習：ゼミ論の準備  授業：ゼミ論のプレゼンおよび質疑応答  復習：ゼミ論提出の準備</p>								
授業開始前学習	各自で前半（第2回から第7回）はゼミ論、後半（第8回から第14回）はツアープランのためのPPTおよびレジュメの作成をする。							
授業内課題のフィードバックの方法	履修者と授業担当者による双方向型の質疑応答による実施する。また、自身が作成したPPTとレジュメだけでなく、他のゼミ生が作成・配布したPPTとレジュメを「学修ポートフォリオ」として蓄積したものを随時確認する。							
テキスト・教材	教科書は使用せず、適宜配布ないし紹介する。							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	ゼミ論とツアープランの課題提出（70%）、発表及び質疑応答による授業への参加姿勢（30%）							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	「アメリカの文化と歴史 I・II」、「異文化交流 I・II」、「文化交流論 B（日本とアメリカ）」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅣ		
科目分類	120-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究・発表・討論を行う。日・韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標にして準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。		
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：夏季休暇中の研究活動を整理しておく。  授業：夏季休暇中の研究活動の報告、観光文化ゼミⅣの後期全体説明  復習：自分の研究課題を再認識し、詳細化しておく。ツアープランについても再認識し、詳細化しておく。</p> <p>【第2回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：パンフレット制作について（全体説明）  復習：【第2回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第3回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：アカデミック・ライティング（ゼミ論の準備）①  復習：【第3回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第4回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：アカデミック・ライティング（ゼミ論の準備）②  復習：【第4回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第5回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ゼミ論の仮提出、ツアープランの代表作を選出  復習：【第5回】ゼミで学習したことを復習しておく。</p> <p>【第6回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの作成①旅のテーマ、旅行先の決定  復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。</p> <p>【第7回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの作成②日程表の決定、各自役割分担  復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。</p> <p>【第8回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの作成③最終ツアープランの完成。  復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。</p> <p>【第9回】  予習：配布資料を読んでおく。  授業：ツアープランの作成④ツアープランの微調整、各自役割の発表（プレゼンテーション）  復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。</p> <p>【第10回】  予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。  授業：ツアープランパンフレットの発表（プレゼンテーション）  復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。</p> <p>【第11回】  予習：ゼミ生全員が一致団結してプレゼンテーションを準備し、発表に備える。  授業：合同ゼミ発表会の予行演習①（プレゼンテーション）  復習：発表の最終準備をする。</p> <p>【第12回】  予習：合同ゼミ発表会の最終調整  授業：合同ゼミ発表会の予行演習②（プレゼンテーション）</p>			

復習：合同ゼミ発表会について再認・分析をする。 【第13回】 予習：合同ゼミ発表会の感想を各自まとめる。 授業：観光文化ゼミの合同ゼミ発表会（プレゼンテーション） 復習：関連議論を行い、今後すべきものを整理する。 【第14回】 予習：ゼミ論・卒論の相談内容をメモする。 授業：合同ゼミ発表会の反省会、ゼミ論指導 復習：論文最終チェック 【第15回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：ゼミ全体のまとめ、授業評価アンケート、研究の総括及びゼミ論指導 復習：ゼミで身につけたことを振り返り、今後の活用方法について考える。								
授業開始前学習	今期では、ツアープラン作成を中心にゼミを進行するので、各旅行会社のツアー商品を資料として集め、分析を行って下さい。自分のテーマに関しては、引き続き関連資料の集め、研究の深化、整理を行って下さい。							
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。							
テキスト・教材	特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度など70%。報告30%。なお5回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅣ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	後期は4年間の学びの集大成として2つのことを行う。第1に学生個人の研究テーマをもとにゼミ論を完成させ、研究発表を行う。第2に前期から進めてきたグループ研究の成果発表として、りんどう祭でのポスター発表(10月)と観光文化学類合同発表会(12月)で口頭発表を行う。ゼミ論やグループ研究を通じて、能動的な学び(読む・聞く・考える・書く・発表する)の向上を図ると同時に、自分の可能性を広げてほしい。		
到達目標	① ゼミ論を完成させ、研究発表を行う ② 研究を通じて科学的思考を習得する ③ 研究を通じて未知の挑戦をして自信をつける		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/合宿のふりかえり《プレゼンテーション》 講義/授業方針と計画 講義/グループ研究(1) 研究ポスターの作り方 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第2回】 予習：教科書の該当箇所を読む 授業：イタリアを舞台にした映画『ローマの休日』鑑賞 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第3回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/グループ研究(2) りんどう祭展示の準備 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第4回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習/グループ研究(3) りんどう祭展示の準備 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第5回】 予習：教科書の該当箇所を読んで研究を進める 授業：講義/ゼミ論(1) 研究の進め方・先行研究調査法・研究テーマの作り方(教科書 p.20～33) 演習/ テーマの探索 (教科書 p.27) 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第6回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/ゼミ論(2) 先行研究調査発表《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第7回】 予習：教科書の該当箇所を読んで研究を進める 授業：講義/ゼミ論(3) 調査と分析の方法(教科書 p.30～59) 演習/調査と分析の方法の検討 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第8回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/ゼミ論(4) 研究計画発表《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第9回】 予習：教科書の該当箇所を読んで研究を進める 授業：講義/ゼミ論(5) 論文の様式・書式(教科書 p.63～65) 演習/ 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第10回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習/グループ研究(4) 合同発表会準備《グループワーク》 復習：授業レポートの提出</p> <p>【第11回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習/グループ研究(5) 合同発表会準備《グループワーク》</p>			

復習：授業レポートの提出 【第12回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習/グループ研究（6）合同発表会準備《グループワーク》 復習：授業レポートの提出 【第13回】 予習：発表の準備をする 授業：観光文化学類合同発表会 復習：授業レポートの提出 【第14回】 予習：研究を各自で進める 授業：講義/研究発表レジュメの作り方 各種アンケート回答 復習：授業レポートの提出 【第15回】 予習：発表の準備をする 授業：演習/ゼミ論研究発表会、4年間のふりかえり《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出  ※ゼミ論は初稿を12/22（金）までに提出 ※ゼミ論最終原稿は1/17（水）までに提出								
授業開始前学習	過去のゼミの活動は下記の鮫島ゼミのホームページでも公開している。 <a href="https://sametakulab.amebaownd.com/" target="_blank">鮫島研究室 HP</a>							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	鮫島卓（2022）『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書								
評価の基準と方法	ゼミ論の評価（50点）、グループ研究（りんどう祭り・合同発表会）の取組姿勢（50点）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。							
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。文献で知識を習得するだけでなく、学外実習を通じて実践力も養ってほしい。尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）はGoogle Classroomを使う。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発の実務を行ってきた。現在教員の研究のテーマは「観光の教育的効果」と「中山間地域の観光開発論」である。							

科目名称	観光文化ゼミⅣ		
科目分類	120-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	これまでの様々な学びを通じて修得した「問題を乗り越える力」を結集します。3 年次からの継続した学びの中で、4 年生後期の時点ではゼミ論の執筆やツアープランの企画発表の準備も終えるように進めます。周囲の状況に惑わされず、ゼミを通じて落ち着いて自分と上手に向き合う時間を作るなかで、成果に繋がる行動を更に積み重ねます。不要なアンコンシャス・バイアスから解放される事で、「心理的安全性」を重視し、ゼミ生全員が自分に合った方向に進んでいきます。		
到達目標	これまで継続して「課題を乗り越える力」の修得を目指してきましたが、4 年生後期には具体的な成果を出すことを目標とします。安定した精神状態で学びを続けられるよう「心理的安全性」を重視しつつ、3 年次から培ってきた様々な努力を結集し、1 人 1 人が充実した学生生活を送り、自分に合った進路を見つけることが目標です。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：前期までの自身の行動とその結果を再チェックする  授業：4 年次後期の自己管理の仕方（グループワーク）  復習：前期までに実施してきたことの再確認</p> <p>【第 2 回】  予習：思い浮かべた未来のイメージを言葉にしてみる  授業：PBL（問題解決型）へのアプローチ指導（やるべきことの説明）  復習：PBL の再確認</p> <p>【第 3 回】  予習：自分がなりたい未来のイメージを再考  授業：自分の得意と苦手について考える  復習：考えたポイントをまとめておく</p> <p>【第 4 回】  予習：イメージした内容と自身とのマッチングを考える  授業：なりたいイメージと自身のマッチング分析（グループワーク）  復習：調べた内容の整理</p> <p>【第 5 回】  予習：調べた内容をセグメント化してみる  授業：自身の進みたい方向を再確認  復習：セグメントデータの整理</p> <p>【第 6 回】  予習：仕事との自身のマッチングを多角度から考える  授業：KJ 法の活用による進路考察（グループワーク）  復習：分析の方法を整理</p> <p>【第 7 回】  予習：仕事と自身の相性をセグメント化してみる  授業：進路決定へのアプローチ  復習：セグメントデータの理解</p> <p>【第 8 回】  予習：絶対になりたくない未来も考えてみる  授業：進路決定のためのデータ収集の仕方（グループワーク）  復習：収集データを整理</p> <p>【第 9 回】  予習：ツアープラン発表の準備  授業：プランデータの読み解き方と利用法（グループワーク）  復習：収集データについて整理する</p> <p>【第 10 回】  予習：関心のあるプランについて情報収集する  授業：プラン決定と発表のための調査（グループワーク）  復習：選んだプランについて情報を整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：関心のあるプランとの相性を考える  授業：プランの決定とパワポ制作（グループワーク）  復習：選んだプランについて再整理する</p> <p>【第 12 回】  予習：関心のあるプランを深く考察しておく  授業：発表方法のブラッシュアップ（グループワーク）  復習：発表方法について整理</p>			



<p>【第13回】  予習：発表前の最終チェック  授業：発表会（グループワーク）  復習：発表の反省</p> <p>【第14回】  予習：これまでの成果について振り返ってみる  授業：自身の大学生活について考察と発表  復習：これまでの収集データを整理</p> <p>【第15回】  予習：卒業後の自身について考える  授業：豊富な発表と補足  復習：自身の発表の足りない点について考える（PDCA）</p>								
授業開始前学習	3年次から学んで積み重ねてきたことをよく思い出し、自身の関心のある事柄や進みたい方向について考えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜1人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に伝える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。							
テキスト・教材	必要に応じて適宜配付する。							
参考書	必要に応じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の提出物など50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	観光文化ゼミⅣ		
科目分類	120-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 16:20～17:50	研究室	10-720
授業概要	<p>本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 最初に「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、実習することで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。</p> <p>(1) ゼミ全体では、合同発表会に向けた準備を行う (2) ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文に向けた準備を行う</p>		
到達目標	<p>①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表ができるようになる。 ②自分の選択したゼミ論文研究テーマについての発表を行う。 ③ゼミ生の発表に対してコメントや質問をし、アドバイスを行うことができる。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：イントロダクション 復習：授業の方針を確認する</p> <p>【第2回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ①（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第3回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ②（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第4回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ③（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第5回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ④（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第6回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ⑤（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第7回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ⑥（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第8回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ⑦（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第9回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ⑧（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第10回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ⑨（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第11回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ⑩（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく</p> <p>【第12回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える</p>			

授業：合同発表会の準備 ①（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく 【第 13 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：合同発表会（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく 【第 14 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：合同発表会の振り返り 復習：ゼミで学習したことを復習しておく 【第 15 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：後期の総括・自己評価 復習：半期間のゼミで身につけたことを振り返る ※各自の研究についてゼミ論文に向けた指導を適宜行う								
授業開始前学習	以下に記載している参考書を事前に読んでおく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材	適宜、講義資料を配布する。							
参考書	溝尾良隆『観光学—基本と実践』（古今書院） じゃらんリサーチセンター『とーりまかし』（じゃらんリサーチセンター） <a href="https://jrc.jalan.net/tk/">https://jrc.jalan.net/tk/</a>							
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	観光文化ゼミⅢ-g							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的とし、産学連携による授業を行う。							

科目名称	卒業研究							
科目分類	120-330-24			単位数	履修ガイド参照			
英文名称	Graduation Projects			授業区分				
科目責任者	各担当教員			必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	田代・杉野・羽鳥・張・鮫島・本間・渡邊			開講時期	履修ガイド参照			
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613			
授業概要	<p>大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。</p> <p>具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。</p>							
到達目標	<p>各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。</p> <p>各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること</p>							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である</li> <li>2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと</li> <li>3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと</li> <li>4. 論文全体の構成を常に意識すること</li> <li>5. なるべく早い段階で書き始めること</li> <li>6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること</li> <li>7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること</li> </ol> <p>卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。</p>								
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	
関連科目	各専門教育科目など							
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通じた地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間								



科目名称	心理学の基礎		
科目分類	130-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introductory Psychology	授業区分	講義
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川・糟谷・保坂・丸山・米金	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～12:10 火曜日 09:00～12:10 後期 月曜日 09:00～12:10 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-707
授業概要	<p>大学生生活2年目となる時期に改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための基本的な技術と姿勢を養うことを目標とする。ゼミ単位での授業と全体での授業を組み合わせて進めていくものとする。</p> <p>課題についてのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの実践、また外部講師による講義の聴講等を通して、主体性をもって大学での学習に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにする。ゼミ生や教員との交流を深める機会にもしてもらいたい。</p>		
到達目標	<p>大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業スケジュールを確認しておくこと  授業：ガイダンス：「心理学類での学びを見つめ直す」（教科書 pp.6-12）  復習：ガイダンスの内容をまとめておくこと</p> <p>【第2回】  予習：教科書の該当箇所（pp.37-46）に目を通しておくこと  授業：研究・ゼミ紹介①  復習：各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと</p> <p>【第3回】  予習：教科書の該当箇所（pp.47-55）に目を通しておくこと  授業：研究・ゼミ紹介②  復習：各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと</p> <p>【第4回】  予習：教科書の該当箇所（pp.56-64）に目を通しておくこと  授業：研究・ゼミ紹介③  復習：各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと</p> <p>【第5回】  予習：教科書の該当箇所（pp.13-16）に目を通しておくこと  授業：心理学を生かした進路の設計を考える（課題解決型学習）  復習：授業の内容を振り返る</p> <p>【第6回】  予習：配布資料に目を通しておくこと  授業：映像表現と心理  復習：授業の内容を振り返る</p> <p>【第7回】  予習：教科書の該当箇所（pp.17-18）に目を通しておくこと  授業：「形式」を「思考」と「表現」に活かす①（ポートフォリオ面談①）（ディスカッション）  復習：担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること</p> <p>【第8回】  予習：教科書の該当箇所（pp.19-23）に目を通しておくこと  授業：「形式」を「思考」と「表現」に活かす②（ポートフォリオ面談②）（ディスカッション）  復習：担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること</p> <p>【第9回】  予習：教科書の該当箇所（pp.24-29）に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと  授業：心理学的なロジックを実践する①（ポートフォリオ面談③）（ディスカッション）  復習：担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること</p> <p>【第10回】  予習：教科書の該当箇所（pp.30-34）に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと  授業：心理学的なロジックを実践する②（ポートフォリオ面談④）（ディスカッション）  復習：担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること</p> <p>【第11回】  予習：大学卒業後の進路選択に関する情報を検索しておく  授業：大学での学びと進路について考える①：「導入と解説」編（グループワーク・ディスカッション）  復習：授業内容を振り返り進路選択に関して自分の長所・短所を整理する</p> <p>【第12回】</p>			

<p>予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく          授業：大学での学びと進路について考える②：「体験」編（グループワーク・ディスカッション）          復習：プレゼンテーションに関する講義内容の要点を整理しておくこと          【第13回】          予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく          授業：大学での学びと進路について考える③：「さらに体験」編（グループワーク・ディスカッション）          復習：各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと          【第14回】          予習：アドバイザークラスの選択について検討しておくこと          授業：アドバイザークラスの振り分け          復習：アドバイザークラスの担当教員からの指示に対応しておくこと          【第15回】          予習：レポートの確認          授業：前期の振り返りと期末レポートの提出          復習：担当教員の指示に従ってレポートの内容とアドバイザークラスの選択について確認しておくこと</p>								
授業開始前学習	本講義は、心理学類としての学びの姿勢を捉え直し、3年次の専門ゼミを選択する際に重要な情報を提示する内容になっている。自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくことを勧めたい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で講評の機会を設け、重要なポイントについて振り返る。							
テキスト・教材	自前教科書『心理学の基礎』（心理学類編）							
参考書								
評価の基準と方法	授業への出席が3分の2以上であることが単位取得の前提条件となる。授業への参加態度・積極的貢献 60%と提出物・発表 40%とする。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				
関連科目	基礎ゼミⅠ・Ⅱ							
その他	本講義は、3年次以降の専門ゼミの担当教員が、ゼミの内容を直接説明する機会も多く設定されていることから、ゼミの選択に関して非常に重要な機会となる。また心理学類の学生として身に付けておくべきスキルなども実践を交えて講義をするので、出席を重視することはもちろん、学生の積極的な参加を求める。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	心理学実験 I		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：実験（心理学）について調べる  授業：授業内容説明、心理学実験について、実験の練習  復習：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する</p> <p>【第 2 回】  予習：錯視について調べる  授業：錯視の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する  授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：錯視の実験レポート作成</p> <p>【第 4 回】  予習：学習の理論、学習の転移について調べる  授業：両側性転移の実験 1  復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 5 回】  予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する  授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：両側性転移の実験レポート作成</p> <p>【第 6 回】  予習：触空間弁別閾、極限法について調べる  授業：触空間 2 点閾の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 7 回】  予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する  授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：触空間弁別閾の実験レポート作成</p> <p>【第 8 回】  予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる  授業：重さの感覚尺度の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する  授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成</p> <p>【第 10 回】  予習：連合学習、学習曲線について調べる  授業：連合学習の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する  授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：連合学習の実験レポート作成</p> <p>【第 12 回】  予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する  授業：社会的態度尺度の測定 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について</p>			

<p>復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成  【第13回】  予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする  授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）  復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する  【第14回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集・分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果を整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する  授業：グループ実験3 発表資料の作成、グループ実験の発表（報告）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方について、適宜、全体で講評をする。また、個別に指導を行うこともある。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜、実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65点とレポート評価 35点とする。単位取得には、少なくとも全体の3分の2以上の出席と、3分の2以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60時間 + 予習・復習時間 30時間（2時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験 I		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴 建映	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴 建映	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：実験（心理学）について調べる  授業：授業内容説明、心理学実験について、実験の練習  復習：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する</p> <p>【第 2 回】  予習：錯視について調べる  授業：錯視の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する  授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：錯視の実験レポート作成</p> <p>【第 4 回】  予習：学習の理論、学習の転移について調べる  授業：両側性転移の実験 1  復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 5 回】  予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する  授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：両側性転移の実験レポート作成</p> <p>【第 6 回】  予習：触空間弁別閾、極限法について調べる  授業：触空間 2 点閾の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 7 回】  予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する  授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：触空間弁別閾の実験レポート作成</p> <p>【第 8 回】  予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる  授業：重さの感覚尺度の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する  授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成</p> <p>【第 10 回】  予習：連合学習、学習曲線について調べる  授業：連合学習の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する  授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：連合学習の実験レポート作成</p> <p>【第 12 回】  予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する  授業：社会的態度尺度の測定 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について</p>			

<p>復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成  【第13回】  予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする  授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）  復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する  【第14回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集・分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果を整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する  授業：グループ実験3 発表資料の作成、グループ実験の発表（報告）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方について、適宜、全体で講評をする。また、個別に指導を行うこともある。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜、実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65点とレポート評価 35点とする。単位取得には、少なくとも全体の3分の2以上の出席と、3分の2以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60時間 + 予習・復習時間 30時間（2時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験 I		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：実験（心理学）について調べる  授業：授業内容説明、心理学実験について、実験の練習  復習：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する</p> <p>【第 2 回】  予習：錯視について調べる  授業：錯視の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する  授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：錯視の実験レポート作成</p> <p>【第 4 回】  予習：学習の理論、学習の転移について調べる  授業：両側性転移の実験 1  復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 5 回】  予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する  授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：両側性転移の実験レポート作成</p> <p>【第 6 回】  予習：触空間弁別閾、極限法について調べる  授業：触空間 2 点閾の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 7 回】  予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する  授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：触空間弁別閾の実験レポート作成</p> <p>【第 8 回】  予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる  授業：重さの感覚尺度の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する  授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成</p> <p>【第 10 回】  予習：連合学習、学習曲線について調べる  授業：連合学習の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する  授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：連合学習の実験レポート作成</p> <p>【第 12 回】  予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する  授業：社会的態度尺度の測定 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について</p>			



<p>復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成  【第13回】  予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする  授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）  復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する  【第14回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集・分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果を整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する  授業：グループ実験3 発表資料の作成、グループ実験の発表（報告）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方について、適宜、全体で講評をする。また、個別に指導を行うこともある。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜、実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65点とレポート評価 35点とする。単位取得には、少なくとも全体の3分の2以上の出席と、3分の2以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60時間 + 予習・復習時間 30時間（2時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験Ⅱ		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第2回】 予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果2 結果分析とレポート作成について 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成			
【第3回】 予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第4回】 予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：一対比較法の実験レポート作成			
【第5回】 予習：SD法について調べる 授業：SD法によるイメージの測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、SD法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第6回】 予習：SD法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD法によるイメージの測定2 結果分析とレポート作成について 復習：SD法によるイメージの測定レポート作成			
【第7回】 予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成			
【第8回】 予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第9回】 予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定2 結果分析とレポート作成について 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成			
【第10回】 予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第11回】 予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：認知的葛藤の実験レポート作成			
【第12回】 予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）			



<p>復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材等の確認  【第13回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション）  復習：実験データを整理する  【第14回】  予習：実験テーマの文献を調査する  授業：グループ実験3 データの分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果について整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。発表の用意をする  授業：グループ実験4 発表資料の作成、グループ実験の発表（グループディスカッション）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも、3 分の 2 以上の出席とレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。  各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。  実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。  a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験Ⅱ		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴 建映	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴 建映	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第2回】 予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果2 結果分析とレポート作成について 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成			
【第3回】 予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第4回】 予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：一対比較法の実験レポート作成			
【第5回】 予習：SD法について調べる 授業：SD法によるイメージの測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、SD法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第6回】 予習：SD法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD法によるイメージの測定2 結果分析とレポート作成について 復習：SD法によるイメージの測定レポート作成			
【第7回】 予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成			
【第8回】 予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第9回】 予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定2 結果分析とレポート作成について 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成			
【第10回】 予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第11回】 予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：認知的葛藤の実験レポート作成			
【第12回】 予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）			

<p>復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材等の確認  【第13回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション）  復習：実験データを整理する  【第14回】  予習：実験テーマの文献を調査する  授業：グループ実験3 データの分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果について整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。発表の用意をする  授業：グループ実験4 発表資料の作成、グループ実験の発表（グループディスカッション）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも、3 分の 2 以上の出席とレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。  各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。  実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。  a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験Ⅱ		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第2回】 予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果2 結果分析とレポート作成について 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成			
【第3回】 予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第4回】 予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：一対比較法の実験レポート作成			
【第5回】 予習：SD法について調べる 授業：SD法によるイメージの測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、SD法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第6回】 予習：SD法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD法によるイメージの測定2 結果分析とレポート作成について 復習：SD法によるイメージの測定レポート作成			
【第7回】 予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成			
【第8回】 予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第9回】 予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定2 結果分析とレポート作成について 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成			
【第10回】 予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第11回】 予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：認知的葛藤の実験レポート作成			
【第12回】 予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）			

<p>復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材等の確認  【第13回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション）  復習：実験データを整理する  【第14回】  予習：実験テーマの文献を調査する  授業：グループ実験3 データの分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果について整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。発表の用意をする  授業：グループ実験4 発表資料の作成、グループ実験の発表（グループディスカッション）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも、3 分の 2 以上の出席とレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。  各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。  実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。  a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学研究法 I		
科目分類	130-311-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods in Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○ 研究における倫理、について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考えから、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。 第 I 期では、実証的研究法（量的研究）として心理学研究に数多く採用されている、実験法と調査法について、その方法論や手続きを学び、理解する。さらに心理学研究における倫理について理解する。		
到達目標	心理学の実証的研究法（量的研究）としての実験法と調査法について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題が設定されたとき、実験法・調査法でその課題を研究する研究計画を作成できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】 予習：心理学で用いられる研究方法について調べる 授業：心理学の研究方法について（教科書 1 頁から 2 頁） 復習：実験法、調査法、観察法を比較する</p> <p>【第 2 回】 予習：実験法の定義について調べる 授業：実験法とは（教科書 3 頁から 6 頁） 復習：実験法の必要性をまとめる</p> <p>【第 3 回】 予習：実験統制（コントロール）について調べる 授業：実験法の手続きと基本事項 1 問題の設定～反応の統制（教科書 7 頁から 10 頁） 復習：2 次変数のコントロールを確認する</p> <p>【第 4 回】 予習：実験デザイン（実験計画）について調べる 授業：実験法の手続きと基本事項 2 反応の観察、記録、測定、実験結果の分析（教科書 11 頁から 15 頁） 復習：具体的な「実験者の及ぼす効果」を考えてまとめる</p> <p>【第 5 回】 予習：資料（知覚の実験）を講読する 授業：実験法研究における倫理、実験法研究例（知覚の実験）（教科書 16 頁から 18 頁） 復習：資料（知覚の実験）の実験計画を確認する</p> <p>【第 6 回】 予習：資料（知覚の実験）の問題点、疑問点をまとめる 授業：実験法研究例から発展研究へ（教科書 19 頁から 22 頁） 復習：自分の発展研究（追実験）を作成する 実験法についての資料調べとレポート作成</p> <p>【第 7 回】 予習：質問紙法について調べる 授業：調査法とは（教科書 23 頁から 26 頁 第 1 回テスト（実験法） 復習：社会調査法の具体例を探す</p> <p>【第 8 回】 予習：国勢調査について調べる 授業：調査法の手続きと基本事項 1 分類と調査目標・調査仮説（教科書 27 頁から 31 頁） 実験法のレポート提出 復習：面接調査法と郵送調査法を比較する</p> <p>【第 9 回】 予習：資料の調査項目例を講読する 授業：調査法の手続きと基本事項 2 調査票の構成～調査の実施（教科書 32 頁から 36 頁） 第 1 回テストの講評 復習：調査項目の分類を整理する</p> <p>【第 10 回】 予習：標本抽出について調べる 授業：調査法の統計的知識（教科書 37 頁から 39 頁） 復習：サンプリング誤差に関する問題を解く</p> <p>【第 11 回】 予習：資料（調査法研究）を講読する 授業：調査法研究における倫理、調査法研究例（教科書 40 頁） 復習：資料（調査法研究）のについて方法を整理する</p> <p>【第 12 回】 予習：資料（調査法研究）の問題点、疑問点をまとめる 授業：調査法研究例から発展研究へ（教科書 40 頁）</p>			



<p>復習：自分の発展研究（追試験）計画を作成する 調査法についての資料調べとレポート作成  【第13回】  予習：資料（心理学研究における統計）を講読する  授業：実験法におけるデータの分析（教科書 41 頁から 46 頁）  復習：資料の実験例について集計を行う  【第14回】  予習：資料（心理学研究における統計）の記述統計について講読する  授業：調査法におけるデータの分析（教科書 47 頁から 53 頁） 第2回テスト（調査法）  復習：資料の調査例について集計を行う  【第15回】  予習：ノートから実験法と調査法のキーワードをピックアップする  授業：実験法と調査法の比較、研究法用語の整理（教科書 54 頁から） 第2回テストの講評 調査法のレポート提出  復習：実験法と調査法のキーワードを整理して再確認する</p>								
授業開始前学習	心理学の基本的知識を学習しておく授業が理解しやすい。 (心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)							
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、14 回目を実施する単元テスト（第 1 回テスト、第 2 回テスト）については、1,2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。このほかに適宜資料を配布する。							
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣） アン・サール著、宮本・渡邊（訳）、2005、『心理学研究法入門』（新曜社）							
評価の基準と方法	授業課題(授業内課題、復習課題)の評価(50%)、2 回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が 70 点台（成績評価「良」）になるように点数調整を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	
関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。							
その他	科学的に「こころ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数分の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、単位を認定しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	心理学研究法Ⅱ		
科目分類	130-311-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods in Psychology II	授業区分	講義
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○ 研究における倫理について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。第Ⅱ期では、実証的研究法として 方法論的価値が見直されている観察法と面接法について、その方法論と手続きを学び、理解する。また、研究によって得られた心理学データ（資料）の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きを理解する。		
到達目標	心理学の実証的研究法である観察法、検査法、面接法、さらに統計的分析について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題を設定し、観察法、検査法で実施する研究計画を作成する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：テキスト1頁～3頁の講読 授業：観察法とは、観察法の内容と分類の理解 テキスト(p) 1～3 復習：キーワードの確認、テキスト3頁の課題1, 2を自習			
【第2回】 予習：テキスト4頁～6頁の講読 授業：観察法の基本事項1（手続き～記録法まで） テキスト(p) 4～6 復習：キーワードの確認、テキスト6頁 課題1, 2, 3を自習			
【第3回】 予習：テキスト7頁～9頁の講読 授業：観察法の基本事項2（実施～信頼性の検討まで） テキスト(p) 7～9 復習：キーワードの確認、テキスト9頁 課題1, 2を自習			
【第4回】 予習：テキスト10頁～13頁の講読 授業：参加観察法 テキスト(p) 10～13 復習：キーワードの確認、テキスト12頁 課題1, 2を自習			
【第5回】 予習：配付資料 研究例の講読 授業：観察法研究例 テキスト(p) 14 復習：キーワードの確認、テキスト14頁 問題を自習			
【第6回】 予習：テキスト15頁～18頁の講読 授業：観察法研究例 テキスト(p) 15～18 復習：キーワードの確認、テキスト18頁 発展学習を自習 観察法についての資料調べとレポート作成			
【第7回】 予習：テキスト19頁～23頁の講読 授業：心理検査法とは テキスト(p) 19～23 第1回テスト（観察法） 復習：キーワードの確認、テキスト23頁 課題1			
【第8回】 予習：テキスト24頁～26頁の講読 授業：心理検査法2 テキスト(p) 24～26 観察法のレポート提出 復習：キーワードの確認			
【第9回】 予習：テキスト27頁～29頁の講読 授業：心理尺度の構成1（測定対象と尺度、尺度の信頼性と妥当性） テキスト(p) 27～29 第1回テストの講評 復習：キーワードの確認、テキスト29頁 課題1, 2, 3, 4を自習			
【第10回】 予習：テキスト30頁～32頁の講読 授業：心理尺度の構成2（尺度の作成 テキスト(p) 30～32 復習：キーワードの確認、テキスト32頁 発展学習を自習			
【第11回】 予習：テキスト33頁～35頁の講読 心理検査法、面接法の研究例を探す 授業：面接法とは テキスト(p) 33～35 復習：キーワードの確認、面接法研究例を探す			
【第12回】 予習：心理検査法、面接法の研究例を探す 授業：心理検査法、面接法の研究例について			

復習：心理検査法,面接法についての資料調べとレポート作成 【第13回】 予習：テキスト36頁～48頁の講読 授業：心理データ分析に必要な統計1(記述統計) テキスト(p)33～38 統計2(統計的検定) テキスト(p)39～48 復習：キーワードの確認、例題、課題を自習 【第14回】 予習：テキスト49頁～53頁の講読 授業：心理データの分析例1(調査法データ) テキスト(p)49～53 第2回テスト(心理検査法、面接法) 復習：キーワードの確認、例題、課題を自習 【第15回】 予習：テキスト54頁～のチェック、最重要語の整理(研究法用語の整理) 授業：研究法用語の整理 第2回テストの講評 心理検査法,面接法のレポート提出 復習：上記研究法に関わる用語を再チェックする。練習問題を自習する。								
授業開始前学習	心理学の基本的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。(心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)							
授業内課題のフィードバックの方法	授業7回目、14回目を実施する単元テスト(第1回テスト、第2回テスト)については、1,2週後(授業9、15回目)に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト(駒沢女子大学教科書シリーズ)・教材を指示する。このほかに適宜資料を配布する。							
参考書	中島・子安等(編)、1999、『心理学辞典』(有斐閣) アン・サール著、宮本・渡邊(訳)、2005、『心理学研究法入門』(新曜社)							
評価の基準と方法	授業課題(授業内課題、復習課題)の評価(50%)、2回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が70点台(成績評価「良」)になるように点数調整を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	
関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験実習Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。							
その他	科学的に「こころ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数の3分の2以上の出席がない場合は、単位を認定しない(授業回数の3分の2以上の出席者のみを評価対象にする)。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間(2時間×15週) + 予習・復習時間60時間(4時間×15週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学概論		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Psychology	授業区分	講義
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	○心理学の成り立ちと学問的特徴、○心理学が明らかにした人の心の基本的な仕組み及び働き、を学修する。心理学は、科学的方法を駆使して、「こころ」についての研究を行う学問である。この授業では、心理学の歩みと様々な研究を紹介し、心理学の全体像を理解し・基礎的知識を修得することを目標とする。 現代心理学全般を学ぶが、主に、心理学の歴史から始め、環境を理解する感覚・知覚、人の発達過程、性格や個人差を研究する心理学分野を詳しく理解する。		
到達目標	○心理学の成り立ちと学問的特徴、○心理学が明らかにした人の心の基本的な仕組み及び働きを理解した上で、心理学の全体像、心理学の歴史、感覚知覚心理学、発達心理学、性格心理学などの分野に関わる基本的用語（理論や研究）を説明ができるようになる。 具体的研究例について、自分なりに接近して感想をもつ。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：心理学のイメージをまとめる 授業：心理学とは（成り立ちと学問的特徴）（配付プリント1頁から3頁） 復習：心理学の分野を確認する</p> <p>第2回 予習：心理学の始まりについて調べる 授業：心理学の歴史（成り立ちと学問的特徴）（配付プリント4頁から6頁） 復習：心理学に関係の深い研究分野をまとめる</p> <p>第3回 予習：感覚について調べる 授業：環境を理解する（配付プリント7頁から9頁） 復習：感覚に関する法則を整理する</p> <p>第4回 予習：視覚について調べる 授業：視知覚1（配付プリント10頁から12頁） 復習：錯視についてまとめる</p> <p>第5回 予習：資料（知覚の実験）を講読する 授業：視知覚2（知覚の実験）（配付プリント13頁から14頁） 復習：資料（知覚の実験）の実験計画を確認する</p> <p>第6回 予習：人の成長について疑問点をまとめる 授業：発達について（配付プリント15頁から17頁） 復習：自分の成長を振り返る</p> <p>第7回 予習：発達段階について調べる 授業：発達過程（配付プリント18頁から20頁） 第1回テスト（心理学の成立～知覚） 復習：発達段階を憶える</p> <p>第8回 予習：発達の要因について調べる 授業：発達の理論（配付プリント21頁から23頁） 復習：発達理論を裏付ける事例を探す</p> <p>第9回 予習：青年期について調べる 授業：青年期（配付プリント24頁から26頁） 第1回テスト（心理学の成立～知覚）の講評 復習：青年期の問題についてまとめる</p> <p>第10回 予習：老人期について調べる 授業：老人期（配付プリント27頁から29頁） 復習：高齢化社会を考える</p> <p>第11回 予習：性格について調べる 授業：性格とは（配付プリント30頁から32頁） 復習：資料（調査法研究）のについて方法を整理する</p> <p>第12回 予習：性格検査を調べる 授業：性格の測定（配付プリント33頁から35頁） 復習：性格検査の分類を整理する レポートに関する資料調べとレポート作成に向けて</p> <p>第13回 予習：資料（性格について）を講読する 授業：性格の理論（配付プリント36頁から37頁） 復習：性格理論と検査の関係を整理する</p> <p>第14回 予習：学力について調べる 授業：知能について（配付プリント38頁から40頁） 第2回テスト（発達～） 復習：知能の測定についてまとめる</p> <p>第15回 予習：配付プリントとノートからキーワードを見直す 授業：感覚から知能まで心の基本的な仕組みを振り返る（配付プリント41頁から45頁） 第2回テストの講評 復習：キーワードを整理して再確認する</p>			

授業開始前学習	「心理学入門Ⅰ・Ⅱ」、「心理学Ⅰ・Ⅱ」の内容を復習しておく。 今までに出合った「心理学」に関する体験について、ふり返り、再度調べておく授業への関心が高まる。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業7回目、14回目に実施する単元テスト（第1回テスト、第2回テスト）については、1,2週後（授業9、15回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。							
テキスト・教材	授業開始時に指示する。このほかに適宜資料を配布する。							
参考書	鹿取廣人、杉本敏夫編、『心理学』第5版（東京大学出版会） 中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣） このほか配付資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	授業課題(授業内課題と復習課題)の評価(50%)、2回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が70点台（成績評価「良」）になるように点数調整を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	△	◎			
関連科目	「心理学入門Ⅰ」、「心理学入門Ⅱ」、「心理学Ⅰ」、「心理学Ⅱ」							
その他	心理学の視点から、人への科学的理解を深める。 授業回数の3分の2以上の出席がない場合は、単位を認定しない。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	臨床心理学概論		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Clinical Psychology	授業区分	講義
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-710
授業概要	臨床心理学は、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学であると同時に、より広い意味での自己理解・他者理解を促進するツールでもある。本講では、臨床心理学の基本的な概念について概説する。まず、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不応や障害などを扱っていく。さらに、こうした問題を援助技法するための各種アプローチと、臨床心理学的実践の各領域についても理解を深める。		
到達目標	1. 臨床心理学の基本的な概念・用語について、説明できる。 2. 心理的課題・問題について、ライフサイクルの観点から説明できる。 3. 代表的な心理療法の技法の特徴について、基礎的事項を説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：テキスト pp.2-17 の購読 授業：1. 臨床心理学入門（ミニ・レポート課題①） 復習：臨床心理学の歴史的背景と定義、意義</p> <p>【第2回】 予習：テキスト pp.20-26 の購読 授業：2. 臨床心理学の対象 1 正常と異常（ミニ・レポート課題②） 復習：正常・異常の判断基準、心理臨床家の視点（課題解説）</p> <p>【第3回】 予習：テキスト pp.27-32 の購読 授業：3. 臨床心理学の対象 2 乳幼児期（ミニ・レポート課題③） 復習：乳児期・幼児期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第4回】 予習：テキスト pp.32-45 の購読 授業：4. 臨床心理学の対象 3 児童期・青年期（ミニ・レポート課題④） 復習：児童期・青年期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第5回】 予習：テキスト pp.45-49 の購読 授業：5. 臨床心理学の対象 4 成人期（ミニ・レポート課題⑤） 復習：成人期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第6回】 予習：テキスト pp.49-54 の購読 授業：6. 臨床心理学の対象 5 老年期（ミニ・レポート課題⑥） 復習：老年期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第7回】 予習：テキスト pp.56-88 の購読 授業：7. 臨床心理学的人間理解（ミニ・レポート課題⑦） 復習：心理アセスメント、心理面接、心理テスト、行動観察（課題解説）</p> <p>【第8回】 予習：テキスト pp.90-100 の購読 授業：8. 臨床心理学的援助の方法 1 環境調整・ガイダンス／精神力動的アプローチ（ミニ・レポート課題⑧） 復習：環境調整とガイダンス、精神分析療法の特徴（課題解説）</p> <p>【第9回】 予習：テキスト pp.100-107 の購読 授業：9. 臨床心理学的援助の方法 2 行動療法・認知行動療法（ミニ・レポート課題⑨） 復習：行動療法・認知行動療法の特徴（課題解説）</p> <p>【第10回】 予習：テキスト pp.107-112 の購読 授業：10. 臨床心理学的援助の方法 3 クライアント中心療法（ミニ・レポート課題⑩） 復習：クライアント中心療法の特徴（課題解説）</p> <p>【第11回】 予習：テキスト pp.113-126 の購読 授業：11. 臨床心理学的援助の方法 4 遊戯療法・芸術療法（ミニ・レポート課題⑪） 復習：遊戯療法・芸術療法（表現療法）の特徴（課題解説）</p> <p>【第12回】 予習：テキスト pp.170-178 の購読 授業：12. 臨床心理学的援助の方法 5 家族療法・グループアプローチ（ミニ・レポート課題⑫） 復習：家族療法・グループアプローチの特徴（課題解説）</p>			

<p>【第13回】          予習：テキスト pp.178-182 の購読          授業：13. 臨床心理学的援助の方法 6 コミュニティアプローチ（ミニレポート課題⑬）          復習：コミュニティアプローチの特徴（課題解説）</p> <p>【第14回】          予習：テキスト pp.184-219 の購読          授業：14. 臨床心理学的実践の領域（ミニレポート課題⑭）          復習：教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、医療領域、産業領域、大学・研究所領域、私設心理相談領域（課題解説）</p> <p>【第15回】          予習：テキスト pp.222-234 の購読          授業：15. 臨床心理学の学び方（ミニレポート課題⑮）          復習：自己理解、スーパーヴィジョン（課題解説）</p>								
授業開始前学習	指定されたテキストの目次に目を通し、この科目で必要とされる全体図を把握しておくが良い。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に課すミニレポートについては、授業の最後に毎回提出を求める。また、ミニレポートから把握された全体的傾向については、次回の講義で解説を加える。							
テキスト・教材	野島一彦編著 2020 『臨床心理学への招待 第2版』ミネルヴァ書房 その他に、必要に応じて適宜資料を提示する。							
参考書								
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、授業時間内に毎回課すミニレポート（2点×15回＝30点）と、確認テスト（70点）の合計100点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目	心理学入門Ⅰ・Ⅱ、心理学Ⅰ・Ⅱ、心理学概論、発達心理学Ⅰ・Ⅱ、心理療法論Ⅰ・Ⅱ							
その他	公認心理師の国家試験の受験資格を得るために必須の科目である。 授業中に口頭で重要性を指摘された点についても、ノートをとれるよう努力すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。							



科目名称	心理学統計法		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Statistics	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学を学ぶ上で必要な統計学の基礎を学ぶ。 またパソコン実習を通じて、データ分析のスキルを身につける。		
到達目標	記述統計学の考え方を理解する。 表計算アプリ（EXCEL・Google スプレッドシート）を用いてグラフの作成やデータの分析ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：「統計 WEB－統計学の時間」の web ページを閲覧する  授業：統計学とデータ  復習：復習テスト（統計学とデータ）</p> <p>【第 2 回】  予習：統計学の時間「2. 度数分布とヒストグラム」「3. さまざまな代表値」を閲覧する  授業：ヒストグラムと代表値  復習：復習テスト（ヒストグラムと代表値）</p> <p>【第 3 回】  予習：統計学の時間「4. 箱ひげ図と幹葉表示」「6. 分散と標準偏差」を閲覧する  授業：散布度  復習：復習テスト（散布度）</p> <p>【第 4 回】  予習：統計学の時間「26. 相関分析」を閲覧する  授業：散布図と相関  復習：復習テスト（散布図と相関）</p> <p>【第 5 回】  予習：統計学の時間「26. 相関分析」を閲覧する  授業：相関係数  復習：復習テスト(相関係数)</p> <p>【第 6 回】  予習：統計学の時間「27. 回帰分析」を閲覧する  授業：回帰直線  復習：復習テスト（回帰直線）</p> <p>【第 7 回】  予習：統計学の時間「5. データの集計と表現」を閲覧する  授業：クロス表と連関  復習：復習テスト（クロス表と連関）</p> <p>【第 8 回】  予習：配付プリント（第 1～10 回）の購読  授業：グループ実習（1）  復習：レポートの作成の準備</p> <p>【第 9 回】  予習：配付プリント（第 1～10 回）の購読  授業：グループ実習（2）  復習：レポートの作成</p> <p>【第 10 回】  予習：統計学の時間「9. 確率と期待値」「11. 確率変数と確率分布」を閲覧する  授業：確率と確率分布（1）確率の基本  復習：復習テスト（確率と確率分布（1））</p> <p>【第 11 回】  予習：「13. いろいろな確率分布 1」「14. いろいろな確率分布 2」「15. いろいろな確率分布 3」を閲覧する  授業：確率と確率分布（2）二項分布と正規分布  復習：復習テスト（確率と確率分布（2））</p> <p>【第 13 回】  予習：統計学の時間「23-1. 検定とは」「23-2. 検定で使う用語」を閲覧する  授業：統計的仮説検定の考え方（1）二項検定  復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（1））</p> <p>【第 14 回】</p>			



<p>予習：統計学の時間「24-3. 2 標本 t 検定とは」「24-1. 母平均の検定」を閲覧する          授業：統計的仮説検定の考え方（2）平均値の差の検定          復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（2））  <b>【第 15 回】</b>          予習：配付プリント（第 1～14 回）の購読          授業：アンケートデータの分析と期末レポートの作成の準備          復習：期末レポートの作成</p>									
授業開始前学習	パソコンの基本操作、表計算アプリの使い方（グラフの作成、関数）を学んでおくとよい。 なお受講にあたって、数学的な知識は一切不要である。								
授業内課題の フィードバックの方法	web で復習テストを行い、結果をフィードバックする。								
テキスト・教材	web サイト「統計 WEB – 統計学の時間」 { <a href="https://bellcurve.jp/statistics/course/">https://bellcurve.jp/statistics/course/</a> }								
参考書	本丸諒『文系でも仕事に使える統計学はじめての一步』かんき出版（2018） （授業で使用するわけではありませんが、わかりやすく書かれたテキストなので購入をお勧めします）								
評価の基準と方法	授業への取り組み（復習テスト含む）（40%）、レポート（30%）、テスト（30%）によって評価を行う。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			○		○		◎		
関連科目	心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法、心理データ解析法								
その他	復習テストは Google のアンケートツールで行います（内容は、統計学の用語や統計量の計算などです）。 期末試験は、復習テストの内容をもとに出題します（事前に公開した問題の中から出題します）。 グループ実習では簡単な web アンケートを作成し、データを収集・分析、その結果をレポートにまとめる課題を行う予定です。 期末課題として web アンケートのデータを収集・分析した結果をレポートにまとめる課題を課す予定です。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	心理データ解析法		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Data Analysis in Psychology	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学を学ぶ上で必要な統計学の基礎を学ぶ。 またパソコンを用いた実習を通じて、データの分析手法を身につける。		
到達目標	推測統計学、特に統計的仮説検定の考え方・使い方を理解する。 質問紙調査の基本を身につける。 因子分析の考え方・使い方を理解する。 表計算及び統計分析アプリ (Jamovi) の使い方を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
【第 1 回】 予習 : 統計学の時間 「13. いろいろな確率分布 1」「14. いろいろな確率分布 2」を閲覧する 授業 : 二項分布と正規分布 復習 : 復習テスト (二項分布)			
【第 2 回】 予習 : 統計学の時間 「16. 標本と抽出法」を閲覧する 授業 : 母集団からの標本抽出 復習 : 復習テスト (集団と標本)			
【第 3 回】 予習 : 統計学の時間「18. 母平均の点推定」「19. 母平均の区間推定」を閲覧する 授業 : 母数の推定 復習 : 復習テスト (母数の推定)			
【第 4 回】 予習 : 統計学の時間 「25-2. 二項分布を用いた検定」を閲覧する 授業 : 統計的検定の考え方 (前期の復習) 復習 : 復習テスト (二項検定の検定)			
【第 5 回】 予習 : 統計学の時間 「24-3. 2 標本 t 検定とは」「24-4. 対応のない 2 標本 t 検定」を閲覧する 授業 : 平均値の差の検定 (1) 対応のない t 検定 復習 : 復習テスト (平均値の差の検定)			
【第 6 回】 予習 : 統計学の時間 「24-5. 対応のある 2 標本 t 検定」を閲覧する 授業 : 平均値の差の検定 (2) 対応のある t 検定 復習 : 復習テスト (平均値の差の検定)			
【第 7 回】 予習 : 統計学の時間「25-5. 独立性の検定」「25-7. 母比率の差の検定」を閲覧する 授業 : 独立性の検定・母比率の差の検定 復習 : 復習テスト (独立性の検定・母比率の差の検定)			
【第 8 回】 予習 : 統計学の時間「23-4. 第 1 種の過誤と第 2 種の過誤」「31-2. 効果量 1」「31-3. 効果量 2」 授業 : 統計的検定の留意点 復習 : 復習テスト (統計的検定の留意点)			
【第 9 回】 予習 : 「jamovi 完全攻略ガイド 第 9 章」の購読 授業 : 因子分析の考え方 復習 : 復習テスト (因子分析)			
【第 10 回】 予習 : 「jamovi 完全攻略ガイド 第 9 章」の購読 授業 : 因子分析の実際 復習 : 因子分析課題の提出			
【第 11 回】 予習 : 配布資料の購読 授業 : 質問紙調査と心理尺度の考え方・グループ研究の準備 復習 : 復習テスト (質問紙調査と心理尺度)			
【第 12 回】 予習 : 配付プリントの購読 (第 1～10 回) の購読 授業 : グループ研究 (1) 質問紙 (web アンケート) の作成 復習 : レポートの作成			

<p>【第13回】          予習：配付プリントの購読（第1～10回）の購読          授業：グループ研究（2）データの集計・分析          復習：レポートの作成</p> <p>【第14回】          予習：配付プリントの購読（第1～10回）の購読          授業：グループ研究（3）データの分析・レポートの作成          復習：レポートの作成</p> <p>【第15回】          予習：配付プリントの購読（第1～10,13回）の購読          授業：グループ研究（4）レポート作成（個人指導）          復習：レポートの作成</p>								
授業開始前学習	「心理学統計法」を受講しておくことが望ましい。 なお受講にあたり数学的な知識は一切不要である。							
授業内課題の フィードバックの方法	復習の一環として Google のアンケートツールを用いて復習テストを実施し、結果をフィードバックする。							
テキスト・教材	web サイト『bellcurve 統計 WEB』 <a href="https://bellcurve.jp/statistics/">https://bellcurve.jp/statistics/</a> web サイト『放送大学-身近な統計』 <a href="https://upo-net.ouj.ac.jp/mijika/">https://upo-net.ouj.ac.jp/mijika/</a> web サイト 芝田 征司（著）『jamovi 完全攻略ガイド』2021-06-30 <a href="https://bookdown.org/sbtseiji/jamovi_complete_guide/">https://bookdown.org/sbtseiji/jamovi_complete_guide/</a>							
参考書	本丸諒（著）『文系でも仕事に使える統計学はじめての一步』かんき出版 2018 年 芝田 征司（著）『数学が苦手でもわかる心理統計法入門—基礎から多変量解析まで 単行本』サイエンス社 2017 年 小塩真司・西口利文（編）『質問紙の手順』ナカニシヤ出版 2007 年 Danielle J Navarro & Dvid R Foxcroft（著） 芝田 征司（訳）『jamovi で学ぶ心理統計』 <a href="https://bookdown.org/sbtseiji/lswjamovi/">https://bookdown.org/sbtseiji/lswjamovi/</a>							
評価の基準と方法	授業への取り組み（35%）、宿題（35%）、期末レポート課題（30%）によって評価を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	
関連科目	心理学統計法、心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ							
その他	グループ実習では、グループでテーマを決め web アンケートによる質問紙調査を行い、結果を分析する課題を行う予定である。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学英語講読		
科目分類	130-330-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Readings in English	授業区分	講義
科目責任者	大谷 華	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大谷 華	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	英語で書かれた心理学のテキストや論文を講読し、心理学英語文献の読解力を身につける。心理系大学院への進学も視野に入れる。 英語文献を和訳し、その内容を理解する。 心理学および一般的な英単語と英文和訳のテストを行い、語彙を増やす。 受講人数と受講生の関心に応じて、内容は柔軟に対応する。		
到達目標	1. 英語語彙力を高め、長文英語が読めるようになる。 2. 心理学研究の考え方と専門用語を理解することを目的とする。 3. 心理学文献を自らの学びに役立てるための基礎的読解力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】ガイダンス 予習： シラバスを読んで、確認事項や質問があれば準備する。英文法などの復習 授業： ガイダンス（授業内容、進め方、課題テキストの配布、等）、読解力テスト</p> <p>【第2回】文献Ⅰ 予習： ①Motivation の和訳、英単語テキスト（一般）p.152-p.159 授業： 英単語テスト（一般）p.152-p.159、Motivation の講読</p> <p>【第3回】文献Ⅰ 予習： ②Memory の和訳、英単語テキスト（一般）p.160-p.167 授業： 英単語テスト（一般）p.160-p.167、Memory の講読</p> <p>【第4回】文献Ⅰ 予習： ③Attachment の和訳、英単語テキスト（一般）p.168-p.175 授業： 英単語テスト（一般）p.168-p.175、Attachment の講読</p> <p>【第5回】心理学論文読解の基礎 予習： 英単語テキスト（一般） 授業： 英文和訳テスト（一般）、心理学文献（日本語）検索と書誌情報</p> <p>【第6回】文献Ⅱ 予習： 英単語テキスト（社会）p.92-p.101 授業： 英単語テスト（社会）p.92-p.101、心理学文献（英語）検索と書誌情報。社会心理学文献の分担決め</p> <p>【第7回】文献Ⅱ 予習： 社会心理学文献の担当部分の和訳、英単語テキスト（発達）p.62-p.69 授業： 英単語テスト（発達）p.62-p.69、社会心理学文献のグループ講読・発表準備</p> <p>【第8回】文献Ⅱ 予習： 社会心理学文献の発表準備。英語文献（文献Ⅳ）の選択・検索・書誌情報提出。英単語テキスト（発達）p.70-p.75 授業： 英単語テスト（発達）p.70-p.75、社会心理学文献のグループ発表</p> <p>【第9回】文献Ⅲ 予習： ヴィゴツキー論文（p.1-p.3）の和訳。英単語テキスト（社会、発達） 授業： 英文和訳テスト（社会、発達）。ヴィゴツキー論文の講読①、文献Ⅳのための個人面談</p> <p>【第10回】文献Ⅲ 予習： ヴィゴツキー論文（p.4-p.5）の和訳。英単語テキスト（研究法）p.76-p.83 授業： 英単語テスト（研究法）p.76-p.83、ヴィゴツキー論文の講読②、文献Ⅳのための個人面談</p> <p>【第11回】文献Ⅲ 予習： ヴィゴツキー論文（p.6-p.7）の和訳。英単語テキスト（研究法）p.84-p.91 授業： 英単語テスト（研究法）p.84-p.91、ヴィゴツキー論文の講読③、文献Ⅳのための個人面談</p> <p>【第12回】文献Ⅲ 予習： ヴィゴツキー論文（p.8-p.9）の和訳。英単語テキスト（性格・知能）p.134-p.141 授業： 英単語テスト（性格・知能）p.134-p.141、ヴィゴツキー論文の講読④、文献Ⅳのための個人面談</p> <p>【第13回】文献Ⅲ 予習： ヴィゴツキー論文（p.10）の和訳。英単語テキスト（研究法、性格・知能） 授業： 英文和訳テスト（研究法、性格・知能）。ヴィゴツキー論文の講読⑤、文献Ⅳのための個人面談</p> <p>【第14回】文献Ⅲ 予習： ヴィゴツキー論文の復習。英単語テキスト（キーパーソン）p.214-p.221。文献Ⅳの前半和訳提出 授業： 心理学知識テスト（キーパーソン）。ヴィゴツキー論文の読解確認テスト</p> <p>【第15回】過去問 予習： 文献Ⅳの書誌情報・和訳・読解・総括課題の提出 授業： 心理系院試過去問（英語）の例題と解説</p>			

授業開始前学習	受講は、翻訳ソフトなどを使わずに、基本的な英文読解ができることを前提とします。初回授業で読解力テストを行うので、各自で復習をして臨んでください。なお、心理学の授業ですから、授業内で英文法等の指導は行いません。英文読解力不足の受講生には追加課題を課しますが、その場合は負担が多くなるので、受講に際してはよく考えて選択してください。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業中の単語テスト、リアクションペーパーなどは、翌週の授業でフィードバックします。							
テキスト・教材	英語テキスト：授業時に配布します。 英単語テキスト：『心理院単』山崎有紀子、ISBN 978-4-8163-5604-9							
参考書								
評価の基準と方法	授業参加 40%（発表、リアクションペーパー、読解確認テスト、など）、単語テスト 20%、提出物 40%（毎週の予習、随時指示される課題、など）によって評価します。出席しているだけでは単位は取れません。また、指定する成績評価課題の受験・提出、提出課題の3分の2以上の期限内提出、3分の2以上の出席を単位取得の必須要件とします。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かすことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△			
関連科目								
その他	毎週、予習（英文和訳）を授業前日 21：00 までに提出してもらいます（google classroom）。授業前に和訳をしていないと、受講生が授業中にできることはありません。15 週のすべてで少なくとも 4 時間の予習時間が必要です。また、文献Ⅳは冬期休暇を含む 4 週間を使って行う課題になります。自分の限られた時間の中で、他の受講科目の課題等とのバランスをよく考えて、受講を決めてください。 和訳は翻訳ソフトを使わずに行うことを求めます。また、和訳の解答配布はありません。受講生が発表する和訳（スライド提示）と講師コメントが授業内容になります。積極的に参加し、わからないことは質問してください。 この授業では、すべての英語力レベルの学生が、それぞれ受講開始時よりもより高いレベルで心理学英語文献を読解できるようになることを目指します。よって、自己成長の態度と努力を評価します。すでに高い英語読解力を持っている学生に対しても吹きこぼれがないように努めます。ただし、あなたがすでに自分の英語読解力で満足しており求められる努力をしないならば、この授業はあなたには適さないので、受講するかどうかを再検討してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	知覚・認知心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Perception and Cognition	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	周囲の環境を知覚する、過去の出来事を思い出す、考えて判断を下すといった心の働きは、「認知」機能と呼ばれるが、そうした「認知」の働きは、どのような性質を持ち、どのような基盤の上に成り立っているのだろうか？この講義では、簡単な実験や観察を行いながら人間の認知機能、特に知覚・記憶・思考の性質やしぐみについて体験的に学ぶ。		
到達目標	知覚・記憶・思考の研究法、基本原理を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読み用語を調べる  授業：知覚・認識の働きと知覚・認知心理学の方法  復習：復習テスト（知覚・認識の働きと知覚・認知心理学の方法に関するキーワードの確認）</p> <p>【第2回】  予習：レジュメ(色の知覚)の購読  授業：色の知覚  復習：復習テスト（色の知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第3回】  予習：レジュメ(空間と動きの知覚)の購読  授業：空間と運動の知覚  復習：復習テスト（空間と運動の知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第4回】  予習：レジュメ(知覚の知性)の購読  授業：知覚の知性  復習：復習テスト（知覚の知性に関するキーワードの確認）</p> <p>【第5回】  予習：レジュメ(顔・物体の知覚)の購読  授業：顔・物体の知覚  復習：復習テスト（顔・物体の知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第6回】  予習：レジュメ（注意と知覚）の購読  授業：注意と知覚  復習：復習テスト（注意と知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第7回】  予習：レジュメ（記憶の測定と分類）の購読  授業：記憶の測定と分類  復習：復習テスト（記憶の測定と分類に関するキーワードの確認）</p> <p>【第8回】  予習：レジュメ（記憶の原理）の購読  授業：記憶の原理  復習：復習テスト（記憶の原理に関するキーワードの確認）</p> <p>【第9回】  予習：レジュメ（記憶術と学習法）の購読  授業：記憶術と学習法  復習：復習テスト（記憶術と学習法に関するキーワードの確認）</p> <p>【第10回】  予習：レジュメ（記憶の忘却と変容）の購読  授業：記憶の忘却と変容  復習：復習テスト（記憶の忘却と変容に関するキーワードの確認）</p> <p>【第11回】  予習：レジュメ（カテゴリーと知識）の購読  授業：カテゴリーと知識  復習：復習テスト（カテゴリーと知識に関するキーワードの確認）</p> <p>【第12回】  予習：レジュメ（判断と意思決定）の購読  授業：判断と意思決定  復習：復習テスト（判断と意思決定に関するキーワードの確認）</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : レジメ (思考のバイアス) の購読 授業 : 思考のバイアス 復習 : 復習テスト (思考のバイアスに関するキーワードの確認) 【第 14 回】 予習 : レジメ (潜在認知) の購読 授業 : 潜在認知 復習 : 復習テスト (潜在認知に関するキーワードの確認) 【第 15 回】 予習 : レジメ (推論と思考) の購読 授業 : 推論と思考 復習 : 復習テスト (推論と思考に関するキーワードの確認)								
授業開始前学習	特になし							
授業内課題の フィードバックの方法	web で復習テストを実施し、結果をフィードバックする。							
テキスト・教材	使用しない (毎回 PDF 等を配布する)							
参考書	服部雅史ほか『基礎から学ぶ認知心理学－人間の認識の不思議』有斐閣 (2015 年)							
評価の基準と方法	授業への取り組み (復習テスト・感想含む) (35%)、課題 (35%)、期末試験 (30%)により評価を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目	学習・言語心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ							
その他	簡単な知覚や記憶の実験を行う課題を 6～7 回課す予定である (単位取得にあたっては課題を 50%以上提出することが必要)。 毎回授業後に復習テストと授業の感想の提出を課す予定である。 期末テストは、復習テストをもとに作成した予想問題を公開し、その中から出題する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	学習・言語心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Learning and Language	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人や動物には、経験から学習し、行動を適応的に修正する仕組みが備わっている。講義の前半では学習の性質やしぐみについて学ぶ。また、人はことばを使って考えたり、複雑な情報を他者に伝達したりすることができる。講義の後半では、言語心理学、発達心理学、動物心理学の知見を交えながら人間の言語能力やコミュニケーションの性質・しぐみについて学ぶ。		
到達目標	学習心理学・言語心理学の研究法、基礎的知見を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読み用語を調べる  授業：非連合学習と古典的条件づけ  復習：復習テスト（非連合学習と古典的条件づけに関するキーワードの確認）</p> <p>【第2回】  予習：レジュメ（道具的条件づけ）の購読  授業：道具的条件づけ  復習：復習テスト（道具的条件づけに関するキーワードの確認）</p> <p>【第3回】  予習：レジュメ（社会的学習・技能学習）の購読  授業：社会的学習  復習：復習テスト（社会的学習・技能学習）に関するキーワードの確認）</p> <p>【第4回】  予習：レジュメ（回避学習・動機づけ）の購読  授業：回避学習・動機づけ  復習：復習テスト（回避学習・動機づけ）に関するキーワードの確認）</p> <p>【第5回】  予習：レジュメ（学習研究の応用）の購読  授業：学習研究の応用  復習：復習テスト（学習研究の応用に関するキーワードの確認）</p> <p>【第6回】  予習：レジュメ（言語能力の起源）の購読  授業：言語能力の起源  復習：復習テスト（言語能力の起源」に関するキーワードの確認）</p> <p>【第7回】  予習：レジュメ（言語能力の生物学的基盤）の購読  授業：言語能力の生物学的基盤  復習：復習テスト（言語能力の生物学的基盤に関するキーワードの確認）</p> <p>【第8回】  予習：レジュメ（言語の生得説）の購読  授業：言語の生得説  復習：復習テスト（言語の生得説に関するキーワードの確認）</p> <p>【第9回】  予習：レジュメ（言語と認知）の購読  授業：言語と認知  復習：復習テスト（言語と認知に関するキーワードの確認）</p> <p>【第10回】  予習：レジュメ（音声知覚と単語認知）の購読  授業：音声知覚と単語認知  復習：復習テスト（音声知覚と単語認知に関するキーワードの確認）</p> <p>【第11回】  予習：レジュメ（文の理解と記憶）の購読  授業：文の理解と記憶  復習：復習テスト（文の理解と記憶に関するキーワードの確認）</p> <p>【第12回】  予習：レジュメ（語用論とコミュニケーション）の購読  授業：語用論とコミュニケーション  復習：復習テスト（語用論とコミュニケーションに関するキーワードの確認）</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : レジメ ( 比喩と認知 ) の購読 授業 : 比喩と認知 復習 : 復習テスト ( 比喩と認知に関するキーワードの確認 ) 【第 14 回】 予習 : レジメ ( コミュニケーションの発達 ) の購読 授業 : コミュニケーションの発達 復習 : 復習テスト ( コミュニケーションの発達に関するキーワードの確認 ) 【第 15 回】 予習 : レジメ ( ことばの発達 ) の購読 授業 : ことばの発達 復習 : 復習テスト ( ことばの発達に関するキーワードの確認 )								
授業開始前学習	特になし							
授業内課題の フィードバックの方法	web で復習テストを実施し、結果をフィードバックする							
テキスト・教材	使用しない ( 毎回レジメを配布する )							
参考書	初回授業時に参考書を紹介する。また授業資料に参考文献を掲載する。							
評価の基準と方法	授業への取り組み ( 復習テスト・感想 ) ( 35% ) 、課題 ( 35% ) 、期末試験 ( 30% ) により評価を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目	知覚・認知心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ							
その他	宿題・レポートとして実験やことばの分析を行う課題を 5 ～ 6 回課す予定である ( 単位を取得するには課題を 3 回以上提出する必要がある ) 。 毎回授業後に復習テストと感想の提出が求められる。 期末テストは、事前に予想問題を公開しその中から出題する予定である。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 ( 2 時間×15 週 ) + 予習・復習時間 60 時間 ( 4 時間×15 週 )							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	感情・人格心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Emotion and Personality	授業区分	講義
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-715
授業概要	私たちは誰もが『感情』と『人格』を持って生きている。それらのありようは人によって異なり、“その人らしさ”を構成している。つまり、『感情』と『人格』について学ぶことは、自分自身への理解の深化につながりうるだろう。本講義では、『感情』および『人格』に関する心理学的理論について学び、受講生が“自分らしさ”についてより深く考えられるようになることを目指す。		
到達目標	『感情』および『人格』に関する心理学的理論について、基礎的なものを学ぶ。学んだ内容をふまえながら、受講生が自分自身の『感情』や『人格』について振り返り、より理解を深める。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：『感情』および『人格』という言葉の意味を調べておく 授業：イントロダクション（講義の目的・授業の進め方・注意点など） 復習：今後の授業で特に学びたい点についてまとめておく</p> <p>第2回 予習：日常的に体験する感情について振り返る 授業：感情が存在する理由 復習：配付資料を見直す</p> <p>第3回 予習：感情と身体の関係について考える 授業：感情はいかに生起するのか：感情と身体 復習：配付資料を見直す</p> <p>第4回 予習：子どもの頃と現在の感情表現の仕方を比較する 授業：感情の発達 復習：配付資料を見直す</p> <p>第5回 予習：印象深い記憶（思い出）にはどのような感情が伴っているか思い返す 授業：感情と記憶 復習：配付資料を見直す</p> <p>第6回 予習：『類型』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か①：類型論 復習：配付資料を見直す</p> <p>第7回 予習：『特性』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か②：特性論 復習：配付資料を見直す</p> <p>第8回 予習：子どもの頃の自分の人格について思い返す 授業：人格の形成過程①：乳幼児期 復習：配付資料を見直す</p> <p>第9回 予習：自らの人格の変化・成長について振り返る 授業：人格の形成過程②：学童期～老年期 復習：配付資料を見直す</p> <p>第10回 予習：他者の人格を測る方法についてイメージする 授業：人格の測定①：質問紙法 復習：配付資料を見直す</p>			

<p>第 11 回          予習：『投射』という言葉の意味について調べておく          授業：人格の測定②：投射法          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 12 回          予習：絵を描くことで何が表現されるのか振り返っておく          授業：人格の測定③：描画法          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 13 回          予習：自分の人格の健康な部分とそうでない部分について省みる          授業：人格と病理：パーソナリティ障害          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 14 回          予習：『男らしさ』『女らしさ』について自分が抱いているイメージを整理しておく          授業：人格と性別          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 15 回          予習：これまでの授業の疑問点を整理する          授業：感情と人格の関わり          復習：期末レポートを作成する</p>								
授業開始前学習	特に必要ない。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業後に寄せられた感想や疑問に対しては、次回以降の授業の中で適宜回答する。							
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。							
参考書	『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかるパーソナリティ心理学』（ミネルヴァ書房）							
評価の基準と方法	授業の取り組み状況（60点）と期末レポート課題（40点）をもとに総合的に評価をする。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他	講義順序が一部変更となる場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。臨床現場において質問紙法や投射法を用いてクライアントの感情・人格にアプローチした経験も踏まえ、講義を行う。							

科目名称	神経・生理心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Neuro- and Physiological Psychology	授業区分	講義
科目責任者	玉木 宗久	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	玉木 宗久	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>脳の損傷によって生じる高次脳機能障害の多様な様相を学びながら、心をつくりだしている脳の構造と機能についての理解を深めると共に、近年、著しい進歩を遂げている脳科学の知見を取り上げながら、神経心理学の現状と課題について議論することを目的とする。</p> <p>なお、各障害の特性については、可能な範囲で疑似体験等を行いながら、体験的に理解できるようにする。</p>		
到達目標	高次脳機能障害、及び脳の構造と機能の関係に関する基礎的な知識を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第1回】</b>          予習：テキストp 1-6の確認          授業：オリエンテーション（授業、評価方法等について／神経心理学とは）          復習：テキストp 1-6の確認</p> <p><b>【第2回】</b>          予習：テキストp 6-13の確認          授業：神経心理学の歴史          復習：テキストp 6-13の確認</p> <p><b>【第3回】</b>          予習：テキストp 14-37の確認          授業：脳の解剖学的基礎と計測法          復習：テキストp 14-37の確認</p> <p><b>【第4回】</b>          予習：テキストp 47-52の確認          授業：視覚の障害（失認を中心に）          復習：テキストp 47-52の確認</p> <p><b>【第5回】</b>          予習：テキストp 53-58の確認          授業：注意の障害（半側空間無視を中心に）          復習：テキストp 53-58の確認</p> <p><b>【第6回】</b>          予習：テキストp 58-65の確認          授業：記憶の障害（健忘症を中心に）          復習：テキストp 58-65の確認</p> <p><b>【第7回】</b>          予習：テキストp 65-72の確認          授業：行為の障害（失行症を中心に）          復習：テキストp 65-72の確認</p> <p><b>【第8回】</b>          予習：テキストp 72-77の確認          授業：言語の障害（失語症を中心に）          復習：テキストp 72-77の確認</p> <p><b>【第9回】</b>          予習：テキストp 77-82の確認          授業：社会性の障害          復習：テキストp 77-82の確認</p> <p><b>【第10回】</b>          予習：テキストp 82-94の確認          授業：半球間離断症候群／遂行機能の障害</p>			

<p>復習：テキストp 8 2-9 4の確認</p> <p>【第11回】          予習：テキストp 9 5-1 0 2の確認          授業：学習障害（LD）          復習：テキストp 9 5-1 0 2の確認</p> <p>【第12回】          予習：テキストp 1 0 2-1 0 8の確認          授業：注意欠如多動症（ADHD）          復習：テキストp 1 0 2-1 0 8の確認</p> <p>【第13回】          予習：テキストp 1 0 8-1 1 3の確認          授業：自閉症スペクトラム症（ASD）          復習：テキストp 1 0 8-1 1 3の確認</p> <p>【第14回】          予習：テキストp 1 2 4-1 5 5の確認          授業：アセスメントと支援          復習：テキストp 1 2 4-1 5 5の確認</p> <p>【第15回】          予習：テキストp 1-1 5 5の確認（必要があるところ）          授業：まとめ／新しい障害観          復習：テキストp 1-1 5 5の確認（必要があるところ）</p>								
授業開始前学習	認知（心理学）の基礎を学習しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内の課題としては、各授業後に感想を書いてもらう。感想の中で出てきた疑問や質問に対しては、授業の中で説明を加えるようにする。							
テキスト・教材	テキスト 柴崎光世・橋本優花里（2021）『手を動かしながら学ぶ神経心理学』朝倉書店（東京）							
参考書	河内十郎 著（2013）『神経心理学—高次脳機能研究の現状と課題—』培風館（東京） ※以前授業のテキストとして使っていた本です。 その他の資料 適宜、補足資料を配付する							
評価の基準と方法	課題レポートの成績で評価を行う。単位修得には試験粗点で60%以上の得点をとることが必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	発達障害等の障害のある児童生徒への教育相談、及び学校コンサルテーションの実務経験があり、現在も公認心理師、特別支援教育スーパーバイザーとして、それらの活動に従事している。また、研究においては、NIRS、MRI、脳波、アイトラッキング等による生理指標計測を実施してきた。現在は、神経心理学のアセスメント尺度（遂行機能に関わるもの）の開発に従事している。これらの経験を生かし、高次脳機能障害及び脳の構造と機能に関する基礎的な知識について講義を行う。							

科目名称	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学 I)		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Social, Group and Family Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>本授業では、「社会・集団」の心理をテーマに、心理学のなかでも「個人」から「集団」の心理まできわめて広範囲な心理的事象を研究対象とする社会心理学の基礎を概観する。</p> <p>個人の心理とは「自己」に関連する心理、集団の心理とは、家庭における「家族」、学校・職場といった「組織」、災害時などの「集合行動」、国によって異なる「文化」の心理などである。</p> <p>このような個人と集団の心理について、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、集団及び文化が個人に及ぼす影響を取り上げる。</p>		
到達目標	<p>社会心理学の研究対象に社会・文化、組織・集団、対人関係、個人（自己）の心理があることがわかる。</p> <p>社会心理学における「社会・文化」、「集団・組織」、「対人関係」の中での個人と他者との相互作用や影響に関わる基礎概念や理論を学び、研究対象ごとに社会的行動のメカニズムを説明でき、自分の考えを明確にできる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	<p>予習：第1章（テキスト1頁～17頁）の購読</p> <p>授業：「社会心理学の成立とその独自性」（テキスト1頁～17頁）</p> <p>復習：社会心理学における歴史と心理学の中での独自性の確認</p>		
第2回	<p>予習：第2章（テキスト19頁～36頁）の購読</p> <p>授業：「社会の見方（社会的知覚）」（テキスト19頁～36頁）</p> <p>復習：社会的知覚の概念と研究の確認</p>		
第3回	<p>予習：第3章（テキスト37頁～51頁）の購読</p> <p>授業：「行動の結果と原因についての認知」（テキスト37頁～51頁）</p> <p>復習：社会的認知の概念と原因帰属の研究の確認</p>		
第4回	<p>予習：第4章（テキスト53頁～68頁）の購読</p> <p>授業：「個人に特有な行動の一貫性」（テキスト53頁～68頁）</p> <p>復習：パーソナリティ認知の概念と研究の確認</p>		
第5回	<p>予習：第5章（テキスト69頁～74頁）の購読</p> <p>授業：「自己の見方1（自己意識、自己概念）」（テキスト69頁～74頁）</p> <p>復習：社会心理学における自己意識、自己概念の研究の確認</p>		
第6回	<p>予習：第5章（テキスト74頁～82頁）の購読</p> <p>授業：「自己の見方2（自尊心、自己呈示、自己開示）」（テキスト74頁～82頁）</p> <p>復習：社会心理学における自尊心、自己呈示、自己開示の研究の確認</p>		
第7回	<p>予習：第6章（テキスト83頁～100頁）の購読</p> <p>授業：「対人関係の親密化と悩ましさのメカニズム」（テキスト83頁～100頁）</p> <p>復習：対人魅力と親密な関係の研究の確認</p>		
第8回	<p>予習：第7章（テキスト101頁～108頁）の購読</p> <p>授業：「他者への攻撃」（テキスト101頁～108頁）</p> <p>復習：攻撃行動と反社会的行動の研究の確認</p>		
第9回	<p>予習：第7章（テキスト108頁～119頁）の購読</p> <p>授業：「他者への援助」（テキスト108頁～119頁）</p> <p>復習：援助行動と向社会的行動の研究の確認</p>		
第10回	<p>予習：第8章（テキスト121頁～126頁）の購読</p> <p>授業：「人との関わり方（コミュニケーション）」（テキスト121頁～126頁）</p> <p>復習：コミュニケーション、社会的スキル、セルフモニタリングの研究の確認</p>		
第11回	<p>予習：第9章（テキスト137頁～157頁）の購読</p> <p>授業：「集団とリーダーシップ」（テキスト137頁～157頁）</p> <p>復習：集団、集団規範、リーダーシップ研究の確認</p>		
第12回	<p>予習：第10章（テキスト159頁～178頁）の購読</p> <p>授業：「他者への影響力（同調と服従）」（テキスト159頁～178頁）</p> <p>復習：同調行動、権威への服従の研究の確認</p>		
第13回	<p>予習：第11章（テキスト179頁～195頁）の購読</p> <p>授業：「集合現象の不思議－流言・群集・流行－」（テキスト179頁～195頁）</p> <p>復習：集合行動、流言、群衆、流行の研究の確認</p>		
第14回	<p>予習：第12章（テキスト197頁～218頁）の購読</p> <p>授業：「文化の影響」（テキスト197頁～218頁）</p> <p>復習：異文化比較、文化的自己観、集団主義、個人主義の研究の確認</p>		
第15回	<p>予習：授業で学んだことの総復習（テキスト1頁～218頁）</p> <p>授業：社会・集団心理学の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント）</p> <p>復習：社会心理学の研究から自己、対人関係、集団、文化の心理を考察</p>		



授業開始前学習	心理学の概論書などを読み、心理学の基礎知識があることが望ましい。受講生自ら、自分自身の周囲にある身近な心理現象、自分のこころ、集団、人間関係のあり方に関心をもって講義に参加してほしい。								
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストは実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストについては当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。								
テキスト・教材	中里至正・松井洋・中村真編著『新・社会心理学の基礎と展開』（八千代出版） 2014年発行 2,400円+税								
参考書	授業の中で推薦図書を紹介する。								
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（60点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テストへの参加：40点）によって総合的に評価する。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			○	△	◎	○			
関連科目	「対人関係論」で紹介される研究とは、応用・理論的背景において密接な関連がある。								
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学の体験実習として心理テストも実施する。 授業資料の取り扱いについては授業中に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 社会心理学は、心理学のなかでも対象範囲が広く（個人～集団）、身近な社会現象・対人行動に積極的な問題意識をもって臨んでほしい。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Social, Group and Family Psychology Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	<p>昨今、家族を巡っては、非婚晩婚化、少子高齢化、核家族化等が指摘されるが、ほかにも児童虐待や DV、離婚と父母の不和に伴う子どもの問題等、家族や家庭が抱える問題がある。また、非行の背景に、家庭の機能不全や家族間の葛藤が生じていることもある。</p> <p>それぞれに存在する家族について、家族心理学を柱としながら法律学、社会学等の多様な視点からも光を当て、社会とのかかわりや個人にとつての意味を考察していく。特に個人の発達課題とともに、家族も成長と変化を遂げるという家族ライフサイクル論を中心とした上で、家族支援の理論と技法に関する授業を行う。</p>		
到達目標	<p>家族をシステムの及び力動的に理解する視点を学び、家族のライフサイクルとその中で生じる多様な問題について理解を深める。また、家族関係において生じる諸問題について、概要と支援方法を学ぶ。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第 1 回】</b>          予習：最近 1 箇月にあった家族に関するニュースや報道について調べる。          授業：イントロダクション（家族と社会を知る意義、家族を取り巻く状況）          復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p><b>【第 2 回】</b>          予習：民法（家族法）を眺めてくる。          授業：家族の定義（家族の様々な定義、戸籍制度と民法から見た家族等）          復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p><b>【第 3 回】</b>          予習：配布資料を閲読する。          授業：家族システム理論の基本          復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p><b>【第 4 回】</b>          予習：配布資料を閲読する。          授業：家族の特徴を理解するための鍵概念①（家族の構造と機能）          復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p><b>【第 5 回】</b>          予習：配布資料を閲読する。          授業：家族の特徴を理解するための鍵概念②（家族の発達の側面と家族ライフサイクル論）          復習：第 4 回及び第 5 回の内容（鍵概念）をまとめる。</p> <p><b>【第 6 回】</b>          予習：配布資料を閲読する。          授業：家族のライフサイクル(配偶者選択から結婚へ)          復習：アサーションについて振り返り学習を行う。</p> <p><b>【第 7 回】</b>          予習：配布資料を閲読する。          授業：家族のライフサイクル(新婚期の夫婦)          復習：授業内に行ったワーク（ペアワーク等）を振り返り、まとめる。</p> <p><b>【第 8 回】</b>          予習：出産、育児をめぐる社会問題について調べる。          授業：家族のライフサイクル(子どもの出生と育児の段階)          復習：授業内に検討した課題について、さらに調べる。</p> <p><b>【第 9 回】</b>          予習：児童期・青年期の子どもがいる家族が抱える問題について調べる。          授業：家族のライフサイクル(児童期・青年期の子どもとその家族)          復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p><b>【第 10 回】</b>          予習：配布資料を閲読する。          授業：家族のライフサイクル（中年期の夫婦）          復習：授業内に行った事例研究の問題をまとめる。</p> <p><b>【第 11 回】</b>          予習：高齢者を取り巻く家族問題について調べる。          授業：家族のライフサイクル(老年期の家族)          復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p><b>【第 12 回】</b>          予習：最近の児童虐待に関するニュースや記事を調べる。          授業：家族が直面する問題①（児童虐待）</p>			

<p>復習：参考図書や配布資料を閲読する。  【第13回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族が直面する問題②（DV）  復習：DVの加害と被害の概要についてまとめる。  【第14回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族が直面する問題③（親の離婚と子どもをめぐる問題）  復習：参考図書や配布資料を閲読する。  【第15回】  予習：最近1年間にあった非行に関するニュースや記事を調べる。  授業：家族が直面する問題④（子どもの非行）  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p>								
授業開始前学習	家族が直面する問題や家族に関する法制度等に関するニュース、インターネット記事等に関心を持っておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	小レポート等やリアクションペーパーの内容は、次講の冒頭に解説等を行う。							
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。 テキストは特に指定しないが、中釜洋子ほか著『家族心理学』（有斐閣ブックス）を購入しておくのが望ましい。							
参考書								
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、レポート課題により60%、授業で指示する課題（小レポート等）による40%の配分で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として家庭事件の実務経験がある。これらの経験を踏まえて、講義を行い、適宜、事例を紹介する。							

科目名称	発達心理学 I		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Developmental Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	生涯にわたる人間の発達を身体的・心理的・社会的な観点からとらえ、その過程における基本的かつ重要な発達心理学上の知見について講義形式で解説する。中でも特に、乳児期から青年期に至るまでの事柄を中心に取り上げる。		
到達目標	主に乳幼児期から青年期にかけての身体的・心理的・社会的な発達に関する基礎的な知識を習得し、その知識に基づいて自身や他者の発達上の問題について思考する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：発達心理学について調べる  授業：発達心理学が扱う「発達」とは何か  復習：自身が発達心理学を学ぶ目的や意義について振り返る</p> <p>【第 2 回】  予習：教科書の該当箇所（p.1-22）の講読と疑問点の抽出  授業：乳児期 I：乳児が感じる世界  復習：乳児期における認知の特徴と発達、乳児相手の調査方法について整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：教科書の該当箇所（p.23-46）の講読と疑問点の抽出  授業：乳児期 II：他者とのかかわり  復習：愛着（アタッチメント）や、共同注意の発達について整理する</p> <p>【第 4 回】  予習：教科書の該当箇所（p.47-56）の講読と疑問点の抽出  授業：幼児期 I：幼児期の言語発達  復習：ピアジェの発達段階、言語と表象について整理する</p> <p>【第 5 回】  予習：教科書の該当箇所（p.56-68）の講読と疑問点の抽出  授業：幼児期 II：心の理論  復習：誤信念課題や、心の理論、社会的知能の発達について整理する</p> <p>【第 6 回】  予習：教科書の該当箇所（p.69-87）の講読と疑問点の抽出  授業：幼児期 III：自己の育ちと他者との関係  復習：幼児期における自己の発達や、遊びの発達について整理する</p> <p>【第 7 回】  予習：教科書の該当箇所（p.88-96）の講読と疑問点の抽出  授業：児童期 I：論理的思考のはじまり  復習：具体的操作期の特徴について整理する</p> <p>【第 8 回】  予習：教科書の該当箇所（p.97-109）の講読と疑問点の抽出  授業：児童期 II：現実を超えた思考のはじまり  復習：形式的操作期の特徴、最近接発達領域について整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：教科書の該当箇所（p.110-129）の講読と疑問点の抽出  授業：児童期 III：社会性の発達  復習：児童期における自己概念の発達、道徳性と向社会性の発達について整理する</p> <p>【第 10 回】  予習：教科書の該当箇所（p.130-138）を講読し、疑問点を抽出する  授業：青年期 I：自分らしさへの気づき  復習：第二性徴、アイデンティティについて整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書の該当箇所（p.138-150）を講読し、疑問点を抽出する  授業：青年期 II：アイデンティティの確立へ向かって  復習：アイデンティティ・ステータスについて整理する</p> <p>【第 12 回】  予習：教科書の該当箇所（p.151-161）を講読し、疑問点を抽出する  授業：青年期 III：青年期の人間関係  復習：親子関係のモデル、友人関係の発達について整理する</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：教科書の該当箇所（p.161-168）を講読し、疑問点を抽出する          授業：青年期Ⅳ：青年期と問題行動          復習：青年期の問題行動と、その発達上の意義について整理する          【第14回】          予習：教科書の該当箇所（p.169-192）を講読し、疑問点を抽出する          授業：成人期：人生の成熟とライフイベント          復習：成人期に起こる出来事と、心の変化について整理する          【第15回】          予習：教科書の該当箇所（p.214-233）を講読し、疑問点を抽出する          授業：文化と発達：発達と文化の多様性          復習：I R E 構造、実践の中での学習について整理する</p>								
授業開始前学習	発達心理学や保育に関する入門書に目を通しておくことを勧める。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出された課題に対する講評や補足は、翌週以降の授業内で行う。							
テキスト・教材	藤村宣之（編著）『発達心理学：周りの世界とかわりあいながら人はいかに育つか』[第2版]（ミネルヴァ書房） 初版と第2版とではページ数等の細かな部分で内容が異なるため、購入の際は注意してもらいたい。							
参考書	授業の進行に合わせて参考資料を紹介する。							
評価の基準と方法	小テスト 20%、試験 40%、課題提出 40%。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目								
その他	教科書を用いた予習や復習が重要となるため、忘れずに購入してもらいたい。 課題提出等に GWE（Google Workspace for Education）を利用する。前期の授業開始前には、Classroom のクラスコードが KOMAJO ポータルのクラスプロフィールの授業資料として公開されるので、確認のうえ登録しておくこと。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	発達心理学Ⅱ(高齢者心理学)		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Developmental Psychology II	授業区分	講義
科目責任者	松永 博子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松永 博子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、生涯発達の視点から老化を理解し、老化に伴う心理機能や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得するとともに、高齢者の社会的援助に対する心理社会的な視点を持つことを狙いとする。具体的には、高齢者特有の身体的な問題は、心理的な側面への影響が大きいため、加齢に伴う身体機能の変化や疾病が心理機能にもたらす影響について学ぶ(認知症等)。また、高齢者に至る経緯について自分自身もまたなりうるということを自覚し、主体的に自身の人生に取り組むための素養を養う。		
到達目標	本講義の目標は、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、高齢期の心理的特徴のみならず身体的・社会的側面を含めて統合的に捉えるための知識を身につけることである。高齢期には、加齢による心身機能の変化に加え、障害による影響などによってその状態は異なり、個別的な課題が生じやすい。それぞれの高齢者に合わせた対応や支援を考えることが望ましい。障害への支援という点のみならず、生涯発達の段階で如何に予防していくか、についても取り組む。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】ガイダンス  予習：高齢者心理学について、学びたいこと・知りたいことを整理する  授業：高齢者および高齢者に関する社会的状況の基礎知識、平均寿命、健康寿命  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第2回】エイジズム  予習：前回の授業内で指示する  授業：高齢者に対するイメージ、個別ワーク(尺度)  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第3回】発達と老化(1)  予習：前回の授業内で指示する  授業：発達と発達課題、老化の概念、加齢のメカニズム、サクセッフル・エイジング  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第4回】発達と老化(2)  予習：前回の授業内で指示する  授業：生涯発達・加齢理論(離脱理論、活動理論、SOC、SST)、高齢者の多様性  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第5回】パーソナリティと適応  予習：前回の授業内で指示する  授業：高齢期のパーソナリティ、情動・感情(幸福感)、心理的適応  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第6回】心理機能の変化(1)  予習：前回の授業内で指示する  授業：心理的ウェルビーイング、エイジングパラドクス、感覚機能の変化とその影響  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第7回】心理機能の変化(2)  予習：前回の授業内で指示する  授業：認知情報処理(注意、記憶)(ディスカッション)  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第8回】知能の変化  予習：前回の授業内で指示する  授業：知的機能、日常知能、言語能力、知恵(英知)の加齢変化  *グループワークの実施について検討する  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第9回】認知症(1)  予習：前回の授業内で指示する  授業：ドキュメンタリー視聴&amp;ワーク  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第10回】認知症(2)  予習：前回の授業内で指示する  授業：ドキュメンタリー視聴&amp;ワーク  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第11回】認知症(3)  予習：前回の授業内で指示する  授業：認知症について医学的説明・若年性認知症  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第12回】老いの自覚</p>			



<p>予習：前回の授業内で指示する  授業：老性自覚、ストレス、うつ、孤独感、自己実現と生きがい  復習：配布資料を見直す  【第13回】終末期と死  予習：前回の授業内で指示する  授業：高齢期の死、死別、悲嘆のプロセス、スピリチュアリティ  復習：配布資料を見直す  【第14回】グループワークもしくは個別ワーク  予習：前回の授業内で指示する  授業：発表の準備（グループワークもしくは個別ワーク）  *グループワークに実施について生徒達と協議する  復習：配布資料を見直す  【第15回】グループもしくは個別ワーク発表  予習：発表の準備  授業：発表、授業全体のまとめ（プレゼンテーション）  復習：配布資料を見直す</p>								
授業開始前学習	毎回の授業内容や配布資料について復習し、日常生活で高齢者と接する機会があれば、授業で得た知識をもとに高齢者心理学的な視点を生かして関わることができると望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内のプレゼンには講評を行い、翌週の講義の際に補足説明及び質疑応答を行う。ワークについても授業内で講評を行うと共に、個別の質問に回答する（小レポートはポータルサイト及びメール等にて提出）。							
テキスト・教材	ポータルサイトを通じて、毎回資料を配布する。 授業開始前までに、ダウンロードし、予習・復習に活用してほしい。							
参考書	必要に応じて、適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業参加の積極度および授業内の小レポート（50%）、ワーク（25×2=50%）により評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目								
その他	ポータルサイトを通じて、毎回の授業で参考資料を配布する。予習・復習を兼ねて、次回の授業までにすべての配布資料を読んでおくこと。また、ダウンロードした資料はPC等に本講座のファイルホルダーを設置し、わからなくならないよう格納しておくこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チームの研究者として高齢者の就労支援に関する研究を行っています。サクセスフル・エイジングのテーマの際や認知症について、自殺対策についてなどは、実際に行っている研究について皆さんに情報提供したいと考えています。							



科目名称	障害者・障害児心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology for Adults & Children with Disabilities	授業区分	講義
科目責任者	河合 美千代	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 美千代	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	身体障害、知的障害及び精神障害などの概要を理解し、障害者・障害児の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。また、福祉現場あるいは身近な事案などを用いた課題等に取り組むことで理解を深める。 ※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。		
到達目標	障害の特性などを理解し、適切な支援の実施、必要な支援につなげることができるようになるために、障害者・障害児を取り巻く心理社会的課題や社会資源の内容や機能を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：自分の持つ権利について調べる  授業：人間の持つ権利と障害者（グループワーク）  復習：自分の持つ権利と障害者が持つ権利について考える</p> <p>【第2回】  予習：障害の概念について調べる  授業：障害の概念（グループワーク）  復習：障害の概念についてまとめる</p> <p>【第3回】  予習：身体障害について調べる  授業：身体障害（グループワーク）  復習：身体障害についてまとめる</p> <p>【第4回】  予習：精神障害について調べる  授業：精神障害（グループワーク）  復習：精神障害についてまとめる</p> <p>【第5回】  予習：知的障害について調べる  授業：知的障害（グループワーク）  復習：知的障害についてまとめる</p> <p>【第6回】  予習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）について調べる  授業：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）（グループワーク）  復習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）についてまとめる</p> <p>【第7回】  予習：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）について調べる  授業：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）（グループワーク）  復習：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）についてまとめる</p> <p>【第8回】  予習：自分のコミュニケーションの特徴をまとめる  授業：社会的コミュニケーション障害（グループワーク）  復習：社会的コミュニケーション障害についてまとめる</p> <p>【第9回】  予習：自分の得意な家事と苦手な家事についてまとめる  授業：ためこみ症の人への理解と支援  復習：生物・心理・社会モデルについてまとめる</p> <p>【第10回】  予習：障害者虐待について調べる  授業：障害者虐待（グループワーク）  復習：障害者虐待についてまとめる</p> <p>【第11回】  予習：自分が何かを決めるときのプロセスを一つ書く  授業：意思決定支援（グループワーク）  復習：意思決定の支援をするときの注意点についてまとめる</p> <p>【第12回】  予習：家族の機能について調べる  授業：家族支援（グループワーク）  復習：家族にとっての危機の意義についてまとめる</p> <p>【第13回】</p>			

予習：成年後見制度について調べる 授業：成年後見制度の概要と課題 復習：成年後見制度についてまとめる <b>【第 14 回】</b> 予習：身近な法律・制度について調べる 授業：障害者に関わる法律、制度（グループワーク） 復習：障害者にかかわる法律・制度についてまとめる <b>【第 15 回】</b> 予習：障害を持った場合に受けれるサービス、機関と専門職などについて調べる 授業：障害者福祉サービスと関わる機関や専門職（グループワーク） 復習：障害者に関わるサービス、機関と専門職の役割についてまとめる								
授業開始前学習	各回のテーマに関して、新聞やテレビ、書籍などから情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出する 3 回のレポート（A4 1 枚以内）については、2 週間後をめぐりに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	小澤温編『よくわかる障害者福祉 第 7 版』（ミネルヴァ書房）							
参考書								
評価の基準と方法	小テストまたはミニワーク（40%）、レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○	○			
関連科目	特になし							
その他	特になし							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	比較行動学		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Ethology	授業区分	講義
科目責任者	石島 このみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石島 このみ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	比較行動学とは、ヒトとヒト以外の動物の行動を比較することで、ヒトの動物としての独自性・ヒトの他の動物との共通性を確認し、その存在の特性を理解することを目指す学問領域である。本講義では、行動の発現のしくみ、生存上の機能、発達、進化などを扱う比較行動学の見方を概説するとともに、その関連領域についても紹介していく。それを通じて、我々ヒトがどのような霊長類であるのかについて理解を深めることを狙いとする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヒトとヒト以外の動物の行動を比較することで、我々ヒトがどのような動物（霊長類）であるのかを理解する</li> <li>●比較行動学的なモノの見方を習得し、それを適用しながら現代のヒトの社会における諸問題について考察する力を身につける</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>予習：シラバスを読み、質問を考えておく  第1回：比較行動学とは  復習：第1回配布プリントの確認</p> <p>予習：「Tinbergenの4つのなぜ」について調べる  第2回：Tinbergenの4つの問い  復習：第2回配布プリントの確認</p> <p>予習：Tinbergenの4つの問いにおける「至近要因」について確認する  第3回：行動の因果  復習：第3回配布プリントの確認</p> <p>予習：Tinbergenの4つの問いにおける「究極要因」について確認する  第4回：行動の機能  復習：第4回配布プリントの確認</p> <p>予習：Tinbergenの4つの問いにおける「発達要因」について確認する  第5回：行動の発達  復習：第5回配布プリントの確認</p> <p>予習：Tinbergenの4つの問いにおける「系統進化要因」について確認する  第6回：行動の進化  復習：第6回配布プリントの確認</p> <p>予習：ボノボ、チンパンジーにおける社会・行動について調べる  第7回：霊長類の社会・行動  復習：第7回配布プリントの確認</p> <p>予習：「なわばり」について調べる  第8回：空間と行動  復習：第8回配布プリントの確認</p> <p>予習：「性選択」について調べる  第9回：性と行動  復習：第9回配布プリントの確認</p> <p>予習：ヒト以外の動物における子育てについて、関心があることを調べる  第10回：子育て（1）  復習：第10回配布プリントの確認</p> <p>予習：ヒトにおける子育てについて、関心があることを調べる  第11回：子育て（2）  復習：第11回配布プリントの確認</p> <p>予習：「心の理論」について調べる  第12回：心の理論  復習：第12回配布プリントの確認</p>			

予習：「儀式的闘争」について調べる 第 13 回：攻撃性 復習：第 13 回配布プリントの確認  予習：集団内あるいは集団間のコミュニケーションについて，関心があることを調べる 第 14 回：集団とコミュニケーション 復習：第 14 回配布プリントの確認  予習：第 1 回から第 14 回の内容の復習 第 15 回：総括 復習：全配布プリントの確認								
授業開始前学習	特に課さない。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題として，毎回アクションペーパーを課す。翌週の講義にて，アクションペーパーにより得られた意見を紹介すると共に，質問に回答する。							
テキスト・教材	スライド・配布資料							
参考書	授業の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	リアクションペーパー（40%）と定期試験（60%）により評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	発達臨床		
科目分類	130-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Developmental Clinical Psychology	授業区分	講義
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>「発達の心理臨床」、「発達障害」をテーマに学ぶ。  「発達の心理臨床」では、「ライフサイクル理論、発達とつまずき」、乳児期の「愛着形成、育児不安」、幼児期の「落ち着きのない子ども」、児童期の「いじめ、勉強ざらい」、青年期の「不登校」、成人期の「離婚・ひきこもり」、高齢期の「心身の機能低下とうつ」、「発達障害」、「児童虐待」などを学ぶ。  「発達障害」では自閉症スペクトラム障害 (ASD) や AD/HD (注意欠如・多動性障害)、心理臨床的アプローチでは認知行動療法について取り上げる。</p>		
到達目標	<p>生涯発達心理学における発達段階が理解できる。  臨床発達心理学における基本的知識を学び、各発達段階で生じやすい心理臨床的問題への臨床発達心理学的アプローチについて自分なりに考えることができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第1回】  予習 : まえがきと目次 (i 頁～vii 頁) の購読  授業 : 「発達臨床と心理学」 (テキスト i 頁～vii 頁)  復習 : 臨床発達心理学の学問領域と専門性についての確認とコラムの購読</p> <p>【第2回】  予習 : 1 章 (テキスト 1 頁～10 頁) の購読  授業 : 「ライフサイクルの様々な理論—発達とつまずき— (1)」 (テキスト 1 頁～10 頁)  復習 : 発達とライフサイクル、発達の要因の確認</p> <p>【第3回】  予習 : 1 章 (テキスト 10 頁～19 頁) の購読  授業 : 「ライフサイクルの様々な理論—発達とつまずき— (2)」 (テキスト 10 頁～19 頁)  復習 : 発達理論の確認およびコラムの購読</p> <p>【第4回】  予習 : 2 章 (テキスト 21 頁～37 頁) の購読  授業 : 「乳児期の問題—愛着形成、育児不安—」 (テキスト 21 頁～37 頁)  復習 : 愛着 (アタッチメント) と育児不安に関する研究の確認</p> <p>【第5回】  予習 : 3 章 (テキスト 39 頁～54 頁) の購読  授業 : 幼児期の問題—落ち着きのない子ども— (テキスト 39 頁～54 頁)  復習 : ピアジェの認知発達、心の理論、AD/HD に関する研究の確認およびコラムの購読</p> <p>【第6回】  予習 : 4 章 (テキスト 55 頁～61 頁) の購読  授業 : 「児童期の問題—いじめ、勉強ざらい— (1)」 (テキスト 55 頁～72 頁)  復習 : 学習意欲の研究に関する研究の確認</p> <p>【第7回】  予習 : 4 章 (テキスト 62 頁～72 頁) の購読  授業 : 「児童期の問題—いじめ、勉強ざらい— (2)」 (テキスト 55 頁～72 頁)  復習 : いじめの研究に関する研究の確認およびコラムの購読</p> <p>【第8回】  予習 : 5 章 (テキスト 73 頁～89 頁) の購読  授業 : 「青年期の問題—不登校—」 (テキスト 73 頁～89 頁)  復習 : 不登校に関する研究の確認およびコラムの購読</p> <p>【第9回】  予習 : 6 章 (テキスト 91 頁～107 頁) の購読  授業 : 「成人期の問題—離婚・ひきこもり—」 (テキスト 91 頁～107 頁)  復習 : DV (ドメスティック・バイオレンス)、社会的引きこもりに関する研究の確認およびコラムの購読</p> <p>【第10回】  予習 : 7 章 (テキスト 109 頁～125 頁) の購読  授業 : 「高齢期の問題—心身の機能低下とうつ—」 (テキスト 109 頁～125 頁)  復習 : 身体機能の低下、精神障害に関する研究の確認およびコラムの購読</p> <p>【第11回】  予習 : 8 章 (テキスト 127 頁～141 頁) の購読  授業 : 「生涯発達にかかわる臨床—発達障害・虐待—」 (テキスト 127 頁～131 頁)  復習 : AD/HD (注意欠如・多動性障害) をはじめとした発達障害に関する研究の確認</p> <p>【第12回】  予習 : 8 章 (テキスト 127 頁～141 頁) の購読</p>			

<p>授業：「生涯発達にかかわる臨床—発達障害・虐待—」（テキスト131頁～141頁）  復習：児童虐待に関する研究の確認およびコラムの購読  【第13回】  予習：9章（テキスト143頁～159頁）の購読  授業：「開発教育、予防教育」（テキスト143頁～159頁）  復習：開発教育と予防教育としての心理教育に関する研究の確認およびコラムの購読  【第14回】  予習：10章（テキスト130頁～141頁）の購読  授業：「臨床的なアプローチ—認知行動療法に焦点を当てて—」（テキスト130頁～141頁）  復習：CBTなどエビデンスベースに基づいた心理療法に関する研究の確認およびコラムの購読  【第15回】  予習：テキスト（1章～10章）、コラムの確認  授業：発達臨床の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント）  復習：乳児期～高齢期までの各発達段階の特徴と心理臨床的問題を理解する</p>								
授業開始前学習	「発達心理学」または「生涯発達心理学」に関する本を読んで各年齢の発達段階を調べておくこと。 「発達障害」、「児童虐待」、「不登校」、「いじめ」、「ひきこもり」に関する本を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題の フィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストについては実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストは当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。							
テキスト・教材	渡辺弥生・榎本淳子（編）『発達と臨床の心理学』ナカニシヤ出版 2012年発行 2,000円＋税							
参考書	American Psychiatric Association（著）日本精神神経学会（監修）高橋一郎・大野裕（監訳）『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』（医学書院）2014年発行 4,500円＋税							
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（60点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テスト参加：40点）によって総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目	「発達心理学」、「教育心理学」、「臨床心理学」が学べる科目と関連する。							
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布する。 資料の取り扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 子どものこころの問題、臨床発達心理学、特に乳幼児の心理や親子関係、発達障害に関心がある者の受講を歓迎する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。学校のスクールカウンセラー、カウンセリングオフィスのほか、保育園・幼稚園、小学校、中学校、児童養護施設の現場で発達臨床を実践してきた経験を活かし、発達臨床に求められる知識・技能についての講義をする。							

科目名称	対人関係論		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interpersonal Relations	授業区分	講義
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	対人関係の研究の日常生活への応用、特に大学生など「若者の対人関係」について社会心理学的研究の成果と知見を学ぶ。本講義では、若者である大学生にとって身近な恋愛、友人関係、特に気になる就職活動、ダイエット、占い、ネットから犯罪・非行まで、豊富なトピックを題材に社会心理学の奥深さを知る。心理メカニズムを明らかにするだけでなく、うまくいく恋愛、友人関係、内定を獲得する就職活動への対処法も取り上げ、単なる専門知識の獲得にとどまらない対人関係や自分自身へのライフデザイン実現への応用も視野に入れている。		
到達目標	対人関係の研究が私たちの身近な日常生活の問題と密接な関わりがあることが理解できる。 社会心理学のなかでも対人感情や対人関係に関わる研究を学ぶことで、社会心理学的な問題への意識を高め、自分自身の問題として、自分の感情コントロールや対人関係への対処を考えることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：テキストの目次、はじめに（i～viii 1頁）の購読  授業：社会心理学と若者の対人関係（テキストi～viii頁）  復習：テキストの目次、はじめにの確認</p> <p>【第2回】  予習：第1章（テキスト2頁～15頁）の購読  授業：「羞恥心と世間」（テキスト2頁～15頁）  復習：世間、羞恥心に関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第3回】  予習：第2章（テキスト16頁～31頁）の購読  授業：「心のブレーキと少年犯罪」（テキスト16頁～31頁）  復習：恥意識、犯罪・非行抑制に関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第4回】  予習：第3章（テキスト32頁～45頁）の購読  授業：「罪悪感とモラルの心理」（テキスト32頁～45頁）  復習：罪悪感に関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第5回】  予習：第4章（テキスト46頁～59頁）の購読  授業：「気まずい場の心理とその対処法」（テキスト46頁～59頁）  復習：困惑、社会的相互作用に関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第6回】  予習：第5章（テキスト60頁～75頁）の購読  授業：「他者からの嫌われ感とその対処法」（テキスト60頁～75頁）  復習：自我漏洩感、社交不安障害に関する確認、トピックの購読</p> <p>【第7回】  予習：第6章（テキスト76頁～91頁）の購読  授業：「嫉妬・妬みと他者との比較」（テキスト76頁～91頁）  復習：嫉妬と嫉みの違い、シャーロンフロイデに関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第8回】  予習：第7章（テキスト92頁～105頁）の購読  授業：「うまくいかない友人関係とその対処法」（テキスト92頁～105頁）  復習：衡平理論、自己開示、社会的スキルに関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第9回】  予習：第8章（テキスト106頁～119頁）の購読  授業：「他者を傷つけることと怒りの対処法」（テキスト106頁～119頁）  復習：攻撃行動、怒り、自己愛に関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第10回】  予習：第9章（テキスト120頁～133頁）の購読  授業：「恋に落ちる心理と彼氏・彼女の作り方」（テキスト120頁～133頁）  復習：対人魅力、親密な関係、進化心理学に関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第11回】  予習：第10章（テキスト134頁～147頁）の購読  授業：「ダイエットとファッション、占い」（テキスト134頁～147頁）  復習：瘦身願望、ボディ・イメージに関する研究の確認、トピックの購読</p> <p>【第12回】  予習：第11章（テキスト148頁～161頁）の購読  授業：「インターネットとコミュニケーション」（テキスト148頁～161頁）</p>			



<p>復習：CMC研究、対人不安に関する研究の確認、トピックの購読  【第13回】  予習：第12章（テキスト162頁～175頁）の購読  授業：「内定のもらえる自己呈示と就職面接」（テキスト162頁～175頁）  復習：自己呈示、セルフ・モニタリングに関する研究の確認、トピックの購読  【第14回】  予習：トピックス（テキストの各章）と心理尺度と文献（テキスト182頁～227頁）の購読  授業：社会的適応と自己・他者の心理（テキスト182頁～227頁）  復習：各章のトピックスと心理尺度の確認、関連文献の購読  【第15回】  予習：テキスト（1頁～227頁）およびキーワードの再確認  授業：対人関係論（若者の対人関係）の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント）  復習：自分の身近な社会生活に置き換えて若者の対人関係を考察する</p>									
授業開始前学習	受講生は、自分自身の心理、周囲の人間関係への積極的な関心、社会における若者の対人関係の実態と身近な心理現象に対する問題意識をもって講義に臨んでほしい。								
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストは実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストについては当該授業回または遠隔教育ツールのなかで解説を行う。								
テキスト・教材	永房典之（編著）『なぜ人は他者が気になるのか？—人間関係の心理』（金子書房）2008年発行 2,300円＋税								
参考書	授業時に適宜紹介する。								
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（60点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テスト参加：40点）によって総合的に評価する。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			○	△	◎	○			
関連科目	「社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ⅰ）」で紹介される研究とは、基礎・理論的背景において密接な関連がある。								
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学の体験実習として心理テストや質問紙を実施することがある。 授業資料の取り扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 大学四年間は、人生でも非常に貴重な人間関係や社会的資源である人脈を形成できるきわめて重要な時期である。ただ何となく過ごすのではなく、自身の「自己実現」や「就職」につながる視点をもってほしい。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	現代心理学実習		
科目分類	130-330-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Practice of Contemporary Psychology	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原・丸山	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>心理学の基礎的な実験技術をもとに、より実践的な事象を科学的に分析するための方法を習得する。実習内容は、行動観察、協同的問題解決、質問紙調査の実際、コミュニケーション行動の記録と分析、生理的指標を用いた実験の構想と実施である。問題・仮説の設定から実験・調査の実施、取得データの分析、レポート作成、プレゼンテーションに至る、一連の心理学実験の進め方に従って授業を展開する。毎回授業に積極的に参加して実験・調査を実施に携わり、取得データの分析方法や結果について思考する姿勢を身につけてもらいたい。</p>		
到達目標	<p>現代の心理学における課題を理解すること。実験・調査の実施にかかるさまざまな側面（刺激の作成、実験協力者の募集、データ解析の仕方）を理解し、自身の関心のあるテーマを研究する際にそれらの知識やスキルを応用できるようになること。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：心理学における実験および「ハノイの塔」について調べる  授業：協同的問題解決：「ハノイの塔」を用いて①：導入と実験（実習・グループワーク）  復習：授業の流れについて確認しておく</p> <p>【第2回】  予習：実験データの内容を整理しておく  授業：協同的問題解決：「ハノイの塔」を用いて②：データ解析とレポート作成の手引き（実習・グループワーク）  復習データを集計・整理し、レポートを作成しておく</p> <p>【第3回】  予習：非言語情報について調べておく  授業：非言語情報を含むコミュニケーションの分析①：導入と実験（実習・グループワーク）  復習データの内容を確認しておく</p> <p>【第4回】  予習：データの内容と分析方法について確認しておく  授業：非言語情報を含むコミュニケーションの分析②：データ解析（実習・グループワーク）  復習データを集計・整理し、レポートを作成する</p> <p>【第5回】  予習：実験データの内容を整理しておく  授業：非言語情報を含むコミュニケーションの分析③：データ解析（続き）とレポート作成の手引き（実習・グループワーク）  復習データを集計・整理し、レポートを作成する</p> <p>【第6回】  予習：「質問紙調査」について調べておく  授業：質問紙調査の作成と実施①：任意の調査テーマを設定して質問項目を作成し、調査を行う（実習・グループワーク）  復習データの入力を完了しておく</p> <p>【第7回】  予習：入力済みのデータを確認しておく  授業：質問紙調査の作成と実施②：信頼性・妥当性を検討する（1）（実習・グループワーク）  復習信頼性・妥当性について整理する</p> <p>【第8回】  予習：入力済みのデータを確認しておく  授業：質問紙調査の作成と実施③：信頼性・妥当性を検討する（2）（実習・グループワーク）  復習：信頼性・妥当性について整理する</p> <p>【第9回】  予習：入力済みのデータを確認しておく  授業：質問紙調査の作成と実施④：結果の整理とレポート作成の手引き（実習・グループワーク）  復習：信頼性・妥当性を確認し、レポートを作成する</p> <p>【第10回】  予習：触知覚について調べておく  授業：触知覚による探索：点字課題を用いて①：導入と実験（実習・グループワーク）  復習データの内容を確認しておく</p> <p>【第11回】  予習：データの内容と分析方法について確認しておく  授業：触知覚による探索：点字課題を用いて②：データ解析（実習・グループワーク）  復習データの内容を確認しておく</p> <p>【第12回】  予習：実験データの内容を整理しておく  授業：触知覚による探索：点字課題を用いて③：データ解析（続き）とレポート作成の手引き（実習・グループワーク）</p>			

復習データを集計・整理し、レポートを作成する 【第 13 回】 予習：興味のある心理学の実験テーマについて調べる 授業：実験機器を用いたグループ実験①：計画と実験準備、実験機器の操作の習熟、刺激の作成、実験実施（実習・グループワーク） 復習グループ実験の内容を整理する 【第 14 回】 予習：各グループごとに実験内容とデータの確認しておく 授業：実験機器を用いたグループ実験②：実験実施、データの整理と発表準備（実習・グループワーク） 復習：実験データの整理と発表準備 【第 15 回】 予習：発表資料を作成しておく 授業：実験機器を用いたグループ実験③：グループ実験の結果を発表する（実習・グループワーク・発表） 復習：グループ実験のレポート作成								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	実験を実施した授業回の後にはデータ解析やレポート作成に支障がないように実験内容を振り返り、記録の確認をしておく。データ分析の授業回の後にはレポート作成に不備がないように解析結果の整理をしておく。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜実習資料を配付する。							
参考書	坂口典弘・山本健太郎（著）『心理学レポート・論文の書き方：演習課題から卒論まで』講談社（2017 年刊）							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも、3 分の 2 以上の出席とレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○				○
関連科目	心理学実験Ⅰ・Ⅱ							
その他	コンピュータによりデータ分析を行うので、Excel を習得しておくこと。 各実験終了後に作成するレポートの提出について、提出指定日から 1 週間を過ぎた場合は受け取らない。 実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理的アセスメント I		
科目分類	130-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Assessment I	授業区分	講義
科目責任者	片岡 優介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	片岡 優介	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理的アセスメント I では、心理検査の中でも質問紙法を中心に取り上げる。私たちは様々な質問紙法によって自分自身の性格、考え方、行動傾向などを理解することができる。質問紙によって把握された結果によって、集団の中での自分の位置を把握することができる。繰り返し質問紙に回答することで、過去の自分と比較することもできる。本授業では、実際に質問紙に回答する機会も設ける。信頼性や妥当性といった用語だけでなく、測定している概念についても説明を行うことで、質問紙に答えることによって得た結果をより深く理解できるようにする。		
到達目標	臨床心理アセスメントに関する理解を深め、心理検査の目的や意義、実施方法を学ぶ。実際に心理検査を体験し、その有用性と限界について実践的に理解し、心理検査の意義と役割に関する理解を深めることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習 臨床心理アセスメントについて調べる  授業 臨床心理アセスメントと心理検査  復習 第 1 回配布資料の見直し</p> <p>【第 2 回】  予習 共感について調べる  授業 共感に関する質問紙の体験と説明  復習 第 2 回配布資料の見直し</p> <p>【第 3 回】  予習 共感について調べる  授業 共感を理解する  復習 第 3 回配布資料の見直し</p> <p>【第 4 回】  予習 利他行動について調べる  授業 利他行動に関する質問紙の体験と説明  復習 第 4 回配布資料の見直し</p> <p>【第 5 回】  予習 利他行動について調べる  授業 利他行動を理解する  復習 第 5 回の配布資料の見直し</p> <p>【第 6 回】  予習 動機づけについて調べる  授業 動機づけに関する質問紙の体験と説明  復習 第 6 回配布資料の見直し</p> <p>【第 7 回】  予習 動機づけについて調べる  授業 動機づけを理解する  復習 第 7 回配布資料の見直し</p> <p>【第 8 回】  予習 1 人であることについて調べる  授業 1 人であることに関する質問紙の体験と説明  復習 第 8 回配布資料の見直し</p> <p>【第 9 回】  予習 1 人であることについて調べる  授業 1 人であることを理解する  復習 第 9 回配布資料の見直し</p> <p>【第 10 回】  予習 不安について調べる  授業 不安に関する質問紙の体験と説明  復習 第 10 回配布資料の見直し</p> <p>【第 11 回】  予習 不安について調べる  授業 不安を理解する  復習 第 11 回配布資料の見直し</p> <p>【第 12 回】  予習 強迫症について調べる  授業 強迫症に関する質問紙の体験と説明  復習 第 12 回配布資料の見直し</p>			

<p>【第13回】  予習 強迫症について調べる  授業 強迫症を理解する  復習 第13回配布資料の見直し</p> <p>【第14回】  予習 発達障害について調べる  授業 発達障害に関する質問紙の体験と説明  復習 第14回配布資料の見直し</p> <p>【第15回】  予習 発達障害について調べる  授業 発達障害を理解する  復習 第15回配布資料の見直し</p>									
授業開始前学習	臨床心理アセスメント、心理検査（特に質問紙法）の概要について事前に学習しておく、授業を理解しやすくなる。								
授業内課題の フィードバックの方法	授業後のリアクションペーパー等で寄せられた感想や疑問に対しては、適宜授業の中でコメントや回答を行う。								
テキスト・教材	スライドと配布資料								
参考書									
評価の基準と方法	所定の出席数を満たし、かつ、一定回数の質問紙の回答の体験をした者について期末レポート課題（100点）にて総合的に評価をする。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○	△		
関連科目									
その他									
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	心理的アセスメントⅡ		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Assessment Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	笠原 千秋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	笠原 千秋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>臨床心理アセスメントとは人の心理を観察、面接、そして心理検査などの方法を用いて理解し、臨床心理支援に活かすものである。</p> <p>この授業では心理検査の中からは特に投影法を取り上げる。</p> <p>基礎的な理論、留意点、検査の特徴や意義、実施方法などを学習し、その上で授業内で実習を行い検査を実際に体験する。</p> <p>臨床現場での検査の活用例を学習するため事例の紹介を行う。</p>		
到達目標	<p>①臨床心理アセスメントの基礎知識や留意点、特に投影法の目的や意義、実施方法を学ぶ。</p> <p>②心理検査を実施し所見レポートを作成することで心理アセスメントの実際を体験的に理解する。</p> <p>③投影法の有用性と限界を考察する。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：臨床心理アセスメントについて調べる  授業：オリエンテーション・臨床心理アセスメントとは  復習：第1回配布資料の見直し</p> <p>【第2回】  予習：観察法の概要について調べる  授業：観察法の概要  復習：第2回配布資料の見直し</p> <p>【第3回】  予習：面接法の概要について調べる  授業：面接法の概要  復習：第3回配布資料の見直し</p> <p>【第4回】  予習：心理検査・投影法について調べる  授業：心理検査・投影法の概要  復習：第4回配布資料の見直し</p> <p>【第5回】  予習：TAT・ロールシャハテストについて調べる  授業：TAT・ロールシャハテストの概要  復習：第5回配布資料の見直し</p> <p>【第6回】  予習：検査レポート作成とフィードバックについて調べる  授業：検査レポート作成とフィードバックの概要  復習：第6回配布資料の見直し</p> <p>【第7回】  予習：描画法について調べる  授業：描画法（1）バウムテスト・風景構成法・雨中人物画の概要  復習：第7回配布資料の見直し</p> <p>【第8回】  予習：雨中人物画について調べる  授業：描画法（2）雨中人物画の実施（実習）  復習：第8回配布資料の見直し</p> <p>【第9回】  予習：雨中人物画について調べる  授業：描画法（3）雨中人物画の解釈  復習：雨中人物画の解釈をまとめる</p> <p>【第10回】</p>			

<p>予習：SCTについて調べる  授業：SCT（1）SCTの実施（実習）  復習：第10回配布資料の見直し</p> <p>【第11回】  予習：SCTについて調べる  授業：SCT（2）SCTの解釈  復習：SCTの解釈をまとめる</p> <p>【第12回】  予習：P-Fスタディについて調べる  授業：P-Fスタディ（1）P-Fスタディの実施（実習）  復習：第12回配布資料の見直し</p> <p>【第13回】  予習：P-Fスタディについて調べる  授業：P-Fスタディ（2）P-Fスタディのスコアリング  復習：P-Fスタディのスコアリングをまとめる</p> <p>【第14回】  予習：P-Fスタディについて調べる  授業：P-Fスタディ（3）P-Fスタディの解釈  復習：P-Fスタディの解釈をまとめる</p> <p>【第15回】  予習：実施した検査の振り返り  授業：実施した検査の振り返りと総括  復習：実施した検査をまとめる</p>								
授業開始前学習	心理アセスメントⅠの復習、心理検査（特に投影法検査）の概要について事前に学習しておくことと授業が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後のリアクションペーパーの感想や疑問に対して授業内でコメントや回答を行う。							
テキスト・教材	スライドと配布資料							
参考書	津川律子・遠藤裕乃（編）（2019）． 心理的アセスメント 公認心理師の基礎と実践 14 遠見書房							
評価の基準と方法	リアクションペーパーの提出（40％）と期末レポート課題（60％）にて総合的に評価する。 授業内容に検査の実習を含むため出席を基本とする。 また心理検査の被験者になり自分の心理状態を把握する内容を含むため、強い不安のない者の履修を勧める。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目								
その他	授業の進捗状況によって内容、順番は変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	臨床心理アセスメントの実務経験あり。適宜事例など紹介する							



科目名称	心理学的支援法 I		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods of Psychological Support I	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「人が人を助ける・支える」とはどのようなことでしょうか。心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学習します。I では、心理学的支援やケースワークの歴史、定義、原則、過程や良好なコミュニケーション方法について押さえてから、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを学びます。それぞれに短い事例を回答することを通して、アプローチの理解を深めていきます。援助的コミュニケーションについても触れます。		
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、カウンセリングや援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とします。I では、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを習得し、問題を抱える人々の解決にどのように適用できるのか、事例への発表やディスカッションを通して、主体的に考察できるようにします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：授業シラバスの確認  授業：オリエンテーション  復習：授業内容、授業の進め方の確認</p> <p>【第 2 回】  予習：資料 1 の講読—人が人を支えることについて考える  授業：心理学的支援とは何か：歴史、定義、構造、原則  復習：心理学的支援・ケースワークの歴史、定義、構造、原則のキーワードの確認</p> <p>【第 3 回】  予習：資料 1 の講読—心理学的支援について考える  授業：心理学的支援とは何か：過程、良好なコミュニケーション方法  復習：心理学的支援・ケースワークの過程、良好なコミュニケーション方法の確認</p> <p>【第 4 回】  予習：資料 2 講読—受容と共感について調べてみよう  授業：クライアント中心アプローチ  復習：クライアント中心療法のキーワードの確認と事例 2 への回答</p> <p>【第 5 回】  予習：資料 3 の講読—エコマップについて調べてみよう  授業：事例 2 の発表・ディスカッション、エコロジカルアプローチ  復習：ライフモデルのキーワードの確認と事例 3 への回答</p> <p>【第 6 回】  予習：資料 4 の講読—オペラント条件づけについて調べてみよう  授業：事例 3 の発表・ディスカッション、行動アプローチ  復習：応用行動分析のキーワードの確認と事例 4 への回答</p> <p>【第 7 回】  予習：資料 5 の講読—エリスの ABC 理論について調べてみよう  授業：事例 4 の発表・ディスカッション、認知アプローチ  復習：認知療法のキーワードの確認と事例 5 への回答</p> <p>【第 8 回】  予習：資料 6 の講読—リンデマンの急性悲嘆反応について調べてみよう  授業：事例 5 の発表・ディスカッション、危機介入アプローチ  復習：危機介入理論のキーワードの確認と事例 6 への回答</p> <p>【第 9 回】  予習：資料 7 の講読—パウルマンについて調べてみよう  授業：事例 6 の発表・ディスカッション、問題解決アプローチ  復習：問題解決アプローチのキーワードの確認と事例 7 への回答</p> <p>【第 10 回】  予習：資料 8 の講読—課題中心アプローチについて調べてみよう  授業：事例 7 の発表・ディスカッション、課題中心アプローチ  復習：課題中心アプローチのキーワードの確認と事例 8 への回答</p> <p>【第 11 回】  予習：資料 9 の講読—家族療法について調べてみよう  授業：事例 8 の発表・ディスカッション、システム（家族療法）アプローチ  復習：構造派家族療法のキーワードの確認と事例 9 への回答</p> <p>【第 12 回】  予習：資料 10 の講読—セツルメント運動について調べてみよう  授業：事例 9 の発表・ディスカッション、エンパワメントアプローチ</p>			

<p>復習：エンパワメントアプローチのキーワードの確認と事例 10 への回答  【第 13 回】  予習：資料 11 の印刷と講読—社会構築主義について調べてみよう  授業：事例 10 の発表・ディスカッション、ナラティブアプローチ  復習：ナラティブアプローチのキーワードの確認と事例 11 への回答  【第 14 回】  予習：資料 12 の講読—援助的コミュニケーションについて調べてみよう  授業：事例 11 の発表・ディスカッション、援助的コミュニケーション  復習：援助的コミュニケーションについてまとめる  【第 15 回】  予習：これまでの資料の講読  授業：心理学的支援のこれから  復習：心理学的支援の課題についてまとめる  ※資料番号と事例番号を統一させるため、事例 1 はなく、事例 2～11 です。</p>								
授業開始前学習	心理学的支援や対人援助に関する本を読んでおくことで授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	復習として事例を回答し、翌週の授業で発表、ディスカッションしてもらいますが、その回答内容に対してコメントします。							
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。							
参考書								
評価の基準と方法	期末レポート（80%）、事例課題（全10回）（20%）							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			△	
関連科目								
その他	授業資料は事前に配付しますので、予習に活用してください。授業の進捗状況などにより、部分的に内容を変更することがあります。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。							

科目名称	心理学的支援法Ⅱ		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods of Psychological Support Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「人が人を助ける・支える」とはどのようなことでしょうか。心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学びます。Ⅱでは、Ⅰで学んだエコロジカルアプローチ、行動アプローチ、ナラティブアプローチの理解を深めるため、長い事例を用いて、グループワークによるディスカッションや発表により参加型の授業を図り、心理学的支援を実践的に学んでいきます。職業倫理やコミュニティ心理学と心の健康教育についても触れます。		
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動やカウンセリングに活用できる能力と態度を育てることを目標とします。Ⅱでは、Ⅰで学んだアプローチの理解をさらに深めるため、長い事例に取り組み、グループワークによるディスカッションや発表を通して、心理学的支援について実践的、主体的に考えられるようにします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業シラバスの確認  授業：オリエンテーション  復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】  予習：公認心理師協会の倫理綱領について調べてみよう  授業：職業倫理とケースワークの原則  復習：倫理綱領とバーステックの7原則の内容の確認</p> <p>【第3回】  予習：エコロジカルアプローチについて確認する  授業：エコロジカルアプローチによる支援と事例1（不登校）の紹介  復習：ライフモデルのキーワードの確認</p> <p>【第4回】  予習：事例1-1の質問に回答  授業：事例1：1.アセスメントを行う（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第5回】  予習：事例1-2、3の質問に回答  授業：事例1：2.人へ介入する、3.環境へ介入する（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第6回】  予習：事例1-4、5の質問に回答  授業：事例1：4.人と環境の接点へ介入する、5.終結し、評価する（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第7回】  予習：行動アプローチについて確認する  授業：行動アプローチによる支援と事例2（多動性障害）の紹介  復習：応用行動分析のキーワードの確認</p> <p>【第8回】  予習：事例2-1の質問に回答  授業：事例2：1.問題の捉え方を調べる（発表とディスカッション）  復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第9回】  予習：事例2-2、3の質問に回答  授業：事例2：2.応用行動分析の理解、3.目標設定（発表とディスカッション）  復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第10回】  予習：事例2-4、5の質問に回答  授業：事例2：4.目標の実行、5.モニタリング・終結（発表とディスカッション）  復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第11回】  予習：ナラティブアプローチについて確認する  授業：ナラティブアプローチによる支援と事例3（児童虐待のトラウマ）の紹介  復習：ナラティブアプローチのキーワードの確認</p> <p>【第12回】  予習：事例3-1、2の質問に回答  授業：事例3：1.ドミナントストーリーの傾聴、2.問題の外在化（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p>			

<p>【第13回】          予習：事例3-3の質問に回答          授業：事例3：3.ユニークな結果の発見（発表とディスカッション）          復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第14回】          予習：事例3-4、5の質問に回答          授業：事例3：4.5.オルタナティブストーリーの作成と強化（発表とディスカッション）          復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第15回】          予習：コミュニティ心理学や心の健康について調べてみよう          授業：コミュニティ心理学と心の健康教育          復習：コミュニティ心理学と心の健康教育のキーワードの確認</p>								
授業開始前学習	心理学的支援法や対人援助に関する本を読んでおく授業が理解しやすい。心理学的支援法Ⅰの履修者は配付資料を復習してください。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後半では各自が具体的な事例に取り組み、回答を板書してもらいますが、回答内容についてコメントします。							
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。							
参考書								
評価の基準と方法	レポート（80%）、事例発表・ディスカッション（20%）							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かす自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			△	
関連科目								
その他	講義資料は事前に配付しますので、予習で購読（質問には回答）してください。受講者数によって事例の発表とディスカッションの方法を検討します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。							

科目名称	心理療法論 I		
科目分類	130-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychotherapy I	授業区分	講義
科目責任者	藤川 麗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-712
授業概要	本授業では、現在、世界的に広く用いられている心理療法のアプローチのひとつである、認知行動療法の基本的な理論と技法について学ぶことを目標とする。認知行動療法という学問の成り立ちと歴史について概観した後、認知行動アプローチによる心理的問題の理解の仕方、問題への介入のためのさまざまな技法について紹介する。事例や視覚教材を提示して実際のケースを検討したり、自分自身の体験を素材として認知行動療法の枠組みで分析したり、実際に日常生活の中で技法を使用してみたりすることにより、体験的に理解を深める。		
到達目標	認知行動療法の特徴を理解する。認知行動療法の主要な理論と技法（機能分析、応用行動分析、曝露技法、曝露反応妨害法、認知的概念化、認知再構成法、マインドフルネス等）について理解し、説明することができるようになる。自分の日常生活にあてはめて理論や方法を理解できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：臨床心理学概論を履修した者は、内容を復習しておく  授業：認知行動療法とは何か  復習：【第 1 回】配布資料の復習</p> <p>【第 2 回】  予習：「ケースフォーミュレーション」という用語について調べる  授業：認知行動療法の方法  復習：【第 2 回】配布資料の復習</p> <p>【第 3 回】  予習：「機能分析」という用語について調べる  授業：行動を理解し、介入する 1 機能分析  復習：【第 3 回】配布資料の復習</p> <p>【第 4 回】  予習：「応用行動分析」という用語について調べる  授業：行動を理解し、介入する 2 応用行動分析  復習：【第 4 回】配布資料の復習</p> <p>【第 5 回】  予習：自分の行動の機能を分析してみる  授業：行動を理解し、介入する 3 事例検討（グループディスカッション）  復習：課題 1（レポート）の作成</p> <p>【第 6 回】  予習：「不安障害」について調べてみる  授業：感情を理解し、介入する 1 曝露技法 課題 1（応用行動分析）の提出  復習：【第 6 回】配布資料の作成</p> <p>【第 7 回】  予習：「強迫性障害」について調べてみる  授業：感情を理解し、介入する 2 曝露反応妨害法（グループディスカッション）  復習：課題 2（小レポート）の作成</p> <p>【第 8 回】  予習：自分の考え方の特徴について考えてみる  授業：認知を理解し、介入する 1 認知的概念化 課題 2（曝露技法）の提出  復習：【第 8 回】配布資料の復習</p> <p>【第 9 回】  予習：自分の考え方の特徴について考えてみる  授業：認知を理解し、介入する 2 認知再構成法  復習：【第 9 回】配布資料の復習</p> <p>【第 10 回】  予習：自分の考えを観察してみる  授業：認知を理解し、介入する 3 事例検討（グループディスカッション）  復習・課題 3（レポート）の作成</p> <p>【第 11 回】  予習：「マインドフルネス」という用語について調べる  授業：認知行動療法の新しい流れ 1 課題 3（認知再構成法）の提出  復習【第 11 回】配布資料の復習</p> <p>【第 12 回】  予習：「マインドフルネス」の練習法について調べる  授業：認知行動療法の新しい流れ 2</p>			

<p>復習【第 12 回】配布資料の復習  【第 13 回】  予習：最近自分がストレスを感じる程度、感じる状況について考えてみる  授業：さまざまな技法 1 ストレス・マネジメント・プログラム  復習：ストレスへの対処法について考える  【第 14 回】  予習：自分が日ごろ行っているリラクゼーション法について考えてみる  授業：さまざまな技法 2 リラクゼーション（身体技法）  復習：リラクゼーション法を実践してみる  【第 15 回】  予習：自分が上達したいコミュニケーションの場面について考えてみる  授業：さまざまな技法 3 ソーシャル・スキル・トレーニング  復習：これまでの配布資料の復習</p>								
授業開始前学習	臨床心理学概論を履修した者は、内容を復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回、GoogleForms を活用しミニテスト等の課題を実施する。質問に対しては、随時授業時間内にフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない（授業中に随時配布する）。							
参考書	特に指定しない。							
評価の基準と方法	毎回の課題（15 回分）のうち 3 分の 2（10 回分）以上の提出を単位取得の前提とする。 毎回の課題（小テスト等：5 点×15 回＝75 点）、レポート課題 3 回（課題 1・課題 3＝10 点×2 回＝20 点、課題 2＝5 点×1 回＝5 点、合計 25 点）の総合点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目	臨床心理学概論、心理療法論Ⅱ							
その他	特になし。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、認知行動療法の基礎と実践について講義する。							



科目名称	心理療法論Ⅱ		
科目分類	130-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychotherapy II	授業区分	講義
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-710
授業概要	精神分析的な心理療法の実践に必要な、人の心の力動的な理解、すなわち、無意識的な心のダイナミクスという側面から人間の心や行動についての理解を深める。その上で、面接室でクライアントとセラピストの間でどのような意識的・無意識的交流が生じるか、それを「here and now」でどのように扱い、援助に繋げていくかを演習を通して学んでいく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神分析的な心理療法の基本的な概念・用語について、説明できる。</li> <li>2. 精神分析的な心理療法のアプローチについて、説明できる。</li> <li>3. 生じている心理的行動的問題について、精神分析的な心理療法観点から説明できる。</li> <li>4. 心の仕組みと代表的な防衛機制について、説明できる。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】</p> <p>予習 「精神分析療法」について調べてみる</p> <p>授業 1. サイコセラピー入門—サイコセラピーとは何か／ヘンゼルとグレーテルの物語（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解：精神分析的な心理療法（精神分析的な精神療法）、意識、前意識、無意識</p> <p>【第2回】</p> <p>予習 「ヘンゼルとグレーテルの物語」再読</p> <p>授業 2. サイコセラピー入門—グレーテルとの出会い（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解：診断面接</p> <p>【第3回】</p> <p>予習 「治療契約」について調べてみる</p> <p>授業 3. サイコセラピー入門—宝探しの条件（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解：治療契約</p> <p>【第4回】</p> <p>予習 「治療同盟」について調べてみる</p> <p>授業 4. サイコセラピー入門—協力体制の確立（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解：治療同盟</p> <p>【第5回】</p> <p>予習 「転移」について調べてみる</p> <p>授業 5. サイコセラピー入門—あたかも魔女のごとく（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解：転移</p> <p>【第6回】</p> <p>予習 「逆転移」について調べてみる</p> <p>授業 6. サイコセラピー入門—「落とし穴」という名の道しるべ（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解—逆転移</p> <p>【第7回】</p> <p>予習 精神分析における「夢」や「失錯行為」について調べてみる</p> <p>授業 7. サイコセラピー入門—無意識への王道（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解—夢</p> <p>【第8回】</p> <p>予習 「抵抗」について調べてみる</p> <p>授業 8. サイコセラピー入門—行く手を阻むもの（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解—抵抗</p> <p>【第9回】</p> <p>予習 「ワーキング・スルー」について調べてみる</p> <p>授業 9. サイコセラピー入門—ワーキング・スルー1（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解—徹底操作（ワーキング・スルー）</p> <p>【第10回】</p> <p>予習 「ワーキング・スルー」について調べてみる</p> <p>授業 10. サイコセラピー入門—ワーキング・スルー2（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解—徹底操作（ワーキング・スルー）</p> <p>【第11回】</p> <p>予習 「治療終結」について調べてみる</p> <p>授業 11. サイコセラピー入門—さようならをもう一度（PBL）</p> <p>復習 キーワードの理解：治療終結</p> <p>【第12回】</p> <p>予習 これまでの治療経過について振り返っておく</p> <p>授業 12. 症例「グレーテル」再考—精神力動的「読み」について／導入期（PBL）</p> <p>復習 治療経過の理解：心的内界（心的世界）、自己、対象、対象関係</p>			



<p>【第13回】          予習 これまでの治療経過について振り返っておく          授業 13. 症例「グレーテル」再考—最盛期／ワーキング・スルーから終結へ          復習 治療経過の理解の理解：転移、抵抗、ワーキング・スルー、内在化（PBL）</p> <p>【第14回】          予習 「防衛機制」について調べてみる          授業 14. 自我の諸機制 1—抑圧、否認、取り入れ、同一化、隔離、知性化、合理づけ、反動形成、やり直し（PBL）          復習 防衛された感情・考え／使用した防衛機制</p> <p>【第15回】          予習 「防衛機制」について調べてみる          授業 15. 自我の諸機制 2—置き換え、投影、投影性同一視、退行（防衛としての退行）、昇華、分裂、原始的理想化、脱価値化、攻撃化（PBL）          復習 防衛された感情・考え／使用した防衛機制</p>									
授業開始前学習	「臨床心理学概論」で使用したテキストの「精神分析療法」の節を復習しておくが良い。								
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課されたワークおよび復習問題については、授業終了後に毎回提出を求め、採点対象とする。また、そこで把握された全体的傾向については、次回の授業で解説を加える。								
テキスト・教材	丸田俊彦 『サイコセラピー練習帳—グレーテルの宝探し』 岩崎学術出版社 ※テキストがワークブックになっているので、テキストなしでは課題に取り組みません。初回授業の前に購入を済ませるようにしてください。								
参考書	馬場禮子 『改訂 精神分析的人格理論の基礎—心理療法を始める前に』 岩崎学術出版社								
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、毎回の課題提出（ワーク：2点×15回＝30点＋復習テスト3問：全問正解で1点×15回分の計45点分）、定期テスト期間中の確認テスト（55点分）の合計100点で評価する。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			△		◎	○			
関連科目	臨床心理学概論								
その他	テキストがワークブックとなっている。授業は演習形式で行う。授業の視聴後、その回のワーク及びその回の授業内容の復習テストを提出する。授業時間内での両方の提出を以て、「出席」とカウントする。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。								

科目名称	☆心理学研究実践実習／臨床心理学実習		
科目分類	130-330-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Research Practical Training／Practice of Clinical Psychology	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	片岡 優介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	片岡 優介	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人が安心して自分のことを話すために援助者になにができるだろうか。援助者は様々なことに気をつけなければならない。例えば、相手が安心して話せるように、援助者は自分の緊張や不安に気づき、整えることが必要である。更に、相手が分かってもらえていると感じられるように、言葉の内容だけでなく、話し方や姿勢など非言語的なメッセージにも気を配ることが大切である。相手のためにできることはたくさんある。この授業の目的は、自分の心身のクセを知り、相手の思いを聴く方法を実践し、人を支える奥深さを体験することである。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の多様な側面を捉え、自分が他者に与える影響に気づくことができるようになること。</li> <li>・他者の体験を言葉だけでなく非言語的な側面も含めて想像し、理解できるようになること。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：人間関係の体験学習について調べる  授業：1. ガイダンス   人間関係の体験学習について  復習：人間関係の体験学習について振り返る</p> <p>【第2回】  予習：呼吸について調べる  授業：2. 身体のワーク①   呼吸  復習：呼吸について振り返る</p> <p>【第3回】  予習：聞き返しについて調べる  授業：3. 援助のワーク①   聞き返し  復習：聞き返しについて振り返る</p> <p>【第4回】  予習：非言語コミュニケーションについて調べる  授業：4. 気づきのワーク①   非言語コミュニケーション①  復習：非言語コミュニケーションについて振り返る</p> <p>【第5回】  予習：問題解決について調べる  授業：5. 協調のワーク①   問題解決①  復習：問題解決について振り返る</p> <p>【第6回】  予習：是認について調べる  授業：6. 援助のワーク②   是認  復習：是認について振り返る</p> <p>【第7回】  予習：姿勢、体幹について調べる  授業：7. 身体のワーク②   姿勢・体幹  復習：姿勢、体幹について振り返る</p> <p>【第8回】  予習：非言語コミュニケーションについて調べる  授業：8. 気づきのワーク②   非言語コミュニケーション②  復習：非言語コミュニケーションについて振り返る</p> <p>【第9回】  予習：話のまとめ方について調べる  授業：9. 援助のワーク③   話のまとめ方  復習：動機づけ面接における是認について振り返る</p> <p>【第10回】  予習：問題解決について調べる  授業：10. 協調のワーク②   問題解決②  復習：非言語コミュニケーションについて振り返る</p> <p>【第11回】  予習：あそびについて調べる  授業：11. 身体のワーク③   あそび  復習：あそびについて振り返る</p> <p>【第12回】  予習：質問について調べる  授業：12. 援助のワーク④   質問</p>			

復習：質問について振り返る 【第13回】 予習：非言語コミュニケーションについて調べる 授業：13. 気づきのワーク③   非言語コミュニケーション③ 復習：非言語コミュニケーションについて振り返る 【第14回】 予習：問題解決について調べる 授業：14. 協調のワーク③   問題解決③ 復習：問題解決について振り返る 【第15回】 予習：伝え方について調べる 授業：15. 援助のワーク⑤   伝え方 復習：伝え方について振り返る								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	授業後のリアクションペーパー等で寄せられた感想や疑問に対しては、適宜授業の中でコメントや回答を行う。							
テキスト・教材	スライド・配布資料を用いる。							
参考書								
評価の基準と方法	所定の出席数を満たし、かつ、実習のワークに参加した者について期末レポート（100点）にて評価を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○				○
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容や講義の順序を一部変更する可能性があります。</li> <li>・本授業は体験学習が中心のため、積極的な出席が望まれます。</li> </ul> ※自分の特徴に気づき、人と関わるワークを行います。精神的に不安定で受講に不安などがある場合は、必ず事前に相談してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	健康・医療心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Health and Medical Psychology	授業区分	講義
科目責任者	飯田 敏晴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 敏晴	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10	研究室	10-717
授業概要	本講義は、次の4点について概説します。 1) ストレスと心身の疾病との関係について説明します。 2) 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について論じます。 3) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について具体例を紹介しつつ、その理解を促します。 4) 災害時等に必要な心理に関する支援について論じます。		
到達目標	1) ストレスと心身の疾病との関係を説明できる。 2) 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 3) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 4) 災害時等に必要な心理に関する支援を説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスで授業のスケジュールを確認する 授業：授業の紹介、ストレスと心身の疾病との関係（生活習慣と心の健康） 復習：配布資料に基づいて、健康・医療心理学の概要をまとめる</p> <p>【第2回】 予習：ストレスの心理学について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（ストレス症状） 復習：ストレス症状の特徴や、その対応をまとめる</p> <p>【第3回】 予習：心身症について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（心身症） 復習：心身症についての日本の特徴についてまとめる</p> <p>【第4回】 予習：キャブランの「予防」について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（予防の考え方） 復習：予防の倫理的問題について、授業資料を振り返りながらまとめる</p> <p>【第5回】 予習：精神疾患について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（精神疾患） 復習：精神疾患について、その特徴をまとめる</p> <p>【第6回】 予習：がんについて調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（がん） 復習：授業内容に基づいて、その課題と支援についての概観を把握する</p> <p>【第7回】 予習：HIV/AIDSを検索語として、調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（後天性免疫不全症候群、難病） 復習：授業内容に基づいて、その課題と支援についての概観を把握する</p> <p>【第8回】 予習：チーム医療について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（チーム医療と多職種連携、リエゾン精神医学） 復習：チーム医療における心理職の職能を理解する</p> <p>【第9回】 予習：生活の質や、ICF（国際生活機能分類）について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（生活の質） 復習：授業内容を自分なりにまとめる</p> <p>【第10回】 予習：保健活動における心理的支援（発達相談） 授業：人間の「発達」と「障害」を検索語として調べる 復習：発達相談の特徴についてまとめる</p> <p>【第11回】 予習：日本における自殺対策や、産業精神保健について調べる 授業：保健活動における心理的支援（うつ、自殺対策、職場復帰支援） 復習：自殺対策について自分なりに、その特徴や支援をまとめる</p> <p>【第12回】</p>			

<p>予習：ギャンブル依存、アルコール依存などについて調べる  授業：保健活動における心理的支援（依存症）  復習：依存症に関わる地域での心理的支援について、まとめる  【第13回】  予習：高齢者、老老介護や、その関連政策について調べる  授業：保健活動における心理的支援（認知症高齢者）  復習：認知症に関わる地域での心理的支援について、まとめる  【第14回】  予習：大規模災害の状況および、その後の状況を調べる  授業：災害時等の心理的支援（心理的応急処置）、災害時等の心理的支援（心のケアチーム、災害派遣精神医療チーム、支援者のケア）  復習：心理的応急処置についてその特徴をまとめる  【第15回】  予習：これまでの授業の復習  授業：授業内試験と解説  復習：試験結果と解説を踏まえて、自身が得点が取れなかった箇所の見直しをすること</p>								
授業開始前学習	人間の行動変容に関する基本的知識（学習心理学など）や身体についての基本的知識を学習しておくと思われ。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に作成する Reaction については次回授業までに、フィードバックする。原則として、クラウドを活用する予定。							
テキスト・教材	公認心理師ベーシック講座 健康・医療心理学（講談社）							
参考書	『心の健康教育（金子書房）』、『看護学テキスト NICE 病態・治療論 12 精神疾患』（南江堂）、『健康・医療心理学』（ナカニシヤ出版）、『健康心理学概論』（実務教育出版）、『健康心理学・入門』（有斐閣）、山蔦 圭輔（著）『ベーシック健康心理学—臨床への招待』（ナカニシヤ出版）、『健康・医療心理学』（医歯薬出版）「ほか							
評価の基準と方法	毎回の授業後に提出する Reaction（15%）、学期はじめに提示され学期末までに提出する Brief Report(25%)、試験（60%）のそれぞれの成績による。それらの成績をもとに 100 点満点換算で 60 点以上の者に単位を認定する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かすことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	心理学の基礎 臨床心理学概論 感情・人格心理学 社会・集団心理学 教育・学校心理学							
その他	第1回目の授業資料をよく確認してください。欠席した場合、classroomにある資料を確認の上で、Reactionを次の授業までに提出してください。Reactionは、当該回の次の講義日までに提出してください。授業内容は、履修生の要望や進度に応じて、修正することがあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	総合病院における実務経験あり。健康・医療心理学の理論や研究成果に、実践を交えながら、講義する。							

科目名称	福祉心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology for Social Welfare	授業区分	講義
科目責任者	河合 美千代	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 美千代	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>私たちが生活している社会で福祉が必要とされていることの意味について考え、虐待などの事象を生む社会背景や人々の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。</p> <p>※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。</p>		
到達目標	<p>福祉現場や身近な実際の事案などを用いて、福祉について自分のこととして具体的に考えられるようになる。また、人を支援する仕事に就いた時に、適切な支援ができる基礎となる知識を身に着ける。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：福祉の領域について調べる  授業：福祉領域の概観（私たちの生活に福祉が必要とされる社会的背景）（グループワーク）  復習：福祉が身近に感じられる事柄についてまとめる</p> <p>【第2回】  予習：自分の生活の中でどのような権利があるかを調べる  授業：社会福祉の基本的理念（基本的人権、権利擁護、ノーマライゼーションなど）（グループワーク）  復習：社会福祉の基本的理念についてまとめる</p> <p>【第3回】  予習：子育て環境をめぐる現状について調べる  授業：子どもの福祉（子育て環境をめぐる現状と支援）（グループワーク）  復習：子育て支援についてまとめる</p> <p>【第4回】  予習：児童相談所の援助業務について調べる  授業：子どもの福祉（児童虐待の背景要因と支援）（グループワーク）  復習：児童虐待についてまとめる</p> <p>【第5回】  予習：障害者の範囲について調べる  授業：障害者の福祉（障害者の生活と支援・合理的配慮）（グループワーク）  復習：障害者の福祉についてまとめる</p> <p>【第6回】  予習：高齢者の定義について調べる  授業：高齢者の福祉（高齢者の生活と支援）（グループワーク）  復習：高齢者の福祉についてまとめる</p> <p>【第7回】  予習：高齢者虐待の背景について調べる  授業：高齢者の福祉（高齢者虐待の背景要因と支援）（グループワーク）  復習：高齢者虐待についてまとめる</p> <p>【第8回】  予習：DVとは何かについて調べる  授業：家庭の福祉（DVへの理解と支援）（グループワーク）  復習：DV被害者への支援についてまとめる</p> <p>【第9回】  予習：ひきこもりとはどういう状態なのかを調べる  授業：ひきこもりの人への支援（グループワーク）  復習：ひきこもりの人への支援についてまとめる</p> <p>【第10回】  予習：生活保護制度について調べる  授業：生活困窮者に対する支援（グループワーク）  復習：生活困窮者に対する支援についてまとめる</p> <p>【第11回】  予習：自分が人に相談する時に、相手に求めるものをまとめる  授業：相談援助に必要な技術（グループワーク）  復習：相談援助に必要な技術についてまとめる</p> <p>【第12回】  予習：高齢者を介護する家族の心情について調べる</p>			



授業：家族・職員への支援(グループワーク) 復習：家族・職員への支援についてまとめる 【第 13 回】 予習：自分が何かを決定する時に妨げられた時の思いを書く 授業：相談援助における意思決定への支援 (グループワーク) 復習：意思決定支援についてまとめる 【第 14 回】 予習：事例を検討する目的を調べる 授業：相談援助事例の検討 (事例) (グループワーク) 復習：相談援助事例の検討についてまとめる 【第 15 回】 予習：なぜ連携が必要なのかについて調べる 授業：専門職の役割と連携 (グループワーク) 復習：専門職の役割と連携についてまとめる								
授業開始前学習	各回のテーマに関して情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出する 3 回のレポート (A4 1 枚以内) については、2 週間後をめぐりに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	川畑直人・大島剛・郷式徹監修/川畑隆・笹川宏樹・宮井研治編著『公認心理師の基本を学ぶテキスト 17 福祉心理学 福祉分野での心理職の役割』(ミネルヴァ書房)							
参考書	中島健一編『福祉心理学』(遠見書房) 菅野恵『福祉心理学を学ぶ 児童虐待防止と心の支援』(勁草書房) 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編集『福祉心理学の世界：人の成長を辿って』(ナカニシヤ出版)							
評価の基準と方法	小テストまたはミニワーク 40 パーセント、レポート 60% で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	特にありません							
その他	特にありません							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	教育・学校心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Educational and School Psychology	授業区分	講義
科目責任者	太齋 慧	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太齋 慧	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	教育・学校心理学は、心理学の知見を学校教育の現場に活かし、心理教育的援助サービスの充実を図ろうとする学問です。 本講義では臨床心理学、コミュニティ心理学等の知見を通して、スクールカウンセラーの役割や基本的な考え方を理解し、児童・生徒やその関係者、コミュニティへの支援について学ぶことを目的とします。		
到達目標	教育・学校心理学、スクールカウンセリングについての重要な概念や考え方を理解し、説明できるようになる。また実際に自分がスクールカウンセラーになったときに、どのように児童・生徒やその関係者、コミュニティを支援していかを考えられるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 シラバスを読み、質問や確認事項があればまとめておく  授業 ガイダンス 授業の概要、進め方について  復習 【第1回】で扱った用語や概念についてまとめておく</p> <p>【第2回】  予習 【第2回】の配布資料を読んでおく  授業 教育・学校心理学とは  復習 教育・学校心理学とは何かについてまとめておく</p> <p>【第3回】  予習 【第3回】の配布資料を読んでおく  授業 学校における心理支援とは  復習 学校における心理支援についてまとめておく</p> <p>【第4回】  予習 【第4回】の配布資料を読んでおく  授業 システム、コミュニティを捉える視点  復習 システム、コミュニティを捉える視点についてまとめておく</p> <p>【第5回】  予習 【第5回】の配布資料を読んでおく  授業 個人を捉える視点 発達心理学を中心に  復習 個人を捉える視点についてまとめておく</p> <p>【第6回】  予習 【第6回】の配布資料を読んでおく  授業 支援のためのコミュニケーション（グループワーク）  復習 学んだ考え方や体験について振り返りまとめておく</p> <p>【第7回】  予習 【第7回】の配布資料を読んでおく  授業 アセスメントとは  復習 アセスメントについてまとめておく</p> <p>【第8回】  予習 【第8回】の配布資料を読んでおく  授業 発達障害の理解と支援  復習 発達障害の理解と支援についてまとめておく</p> <p>【第9回】  予習 【第9回】の配布資料を読んでおく  授業 不登校の理解と支援  復習 不登校の理解と支援についてまとめておく</p> <p>【第10回】  予習 【第10回】の配布資料を読んでおく  授業 いじめの理解と支援  復習 いじめの理解と支援についてまとめておく</p>			

<p>【第 11 回】  予習 【第 11 回】の配布資料を読んでおく  授業 非行の理解と支援  復習 非行の理解と支援についてまとめておく</p> <p>【第 12 回】  予習 【第 12 回】の配布資料を読んでおく  授業 学習支援 「認知カウンセリング」の視点から  復習 学習支援についてまとめておく</p> <p>【第 13 回】  予習 【第 13 回】の配布資料を読んでおく  授業 コミュニティとしての学校の支援  復習 コミュニティとしての学校の支援についてまとめておく</p> <p>【第 14 回】  予習 【第 14 回】の配布資料を読んでおく  授業 学校の中のマイノリティ 性的マイノリティ (LGBTQ+) を例に  復習 学校の中のマイノリティについてまとめておく</p> <p>【第 15 回】  予習 【第 15 回】の配布資料を読んでおく  授業 学校と「居場所」  復習 学校と「居場所」についてまとめておく</p>								
授業開始前学習	心理学, 臨床心理学, 発達心理学の基本的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。入門書や概論書を読んでおくことをお勧めします。							
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパー等の内容については, 次回の講義内でフィードバックします。							
テキスト・教材	適宜, 資料を配布します。							
参考書								
評価の基準と方法	・定期試験 70% ・小テストまたは小レポート 30% ※単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と, 人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と, 社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と, 心理学の知見を活かすことのできる思考力の養成			心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と, 実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目								
その他	受講者の人数, 興味関心により授業の内容, 順番については変更することがあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	心理支援職としての実務経験を活かし, 現場における問題の理解と支援について講義します。							

科目名称	司法・犯罪心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Forensic and Criminal Psychology	授業区分	講義
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	<p>非行や犯罪の動向には、社会情勢の変化や社会の課題が反映されていることが多い。また、非行や犯罪の発生とそこからの立ち直りについては、発達やパーソナリティ、家族関係、学校や仕事、地域社会など様々な要因が影響を及ぼすものであり、司法・犯罪領域の基本的事項や理論等を多角的な視点から知っておくことには意義がある。本講では、①司法・犯罪領域の制度や理論、②主に心理学的見地からのアセスメントと支援の方法、③この領域における専門機関やそこで活躍する専門職の実践について、事例等を適宜紹介しながら、幅広く講義する。また、司法領域に持ち込まれる家庭問題を解決するために、心理学的な視点がどのように活かされているかについても家事事件の概要を通して解説する。授業では、ペアワークや小グループでのディスカッションを行い、学生に発表を求めることもある。</p>		
到達目標	<p>司法・犯罪領域に関わる社会の出来事に関心を抱き、自分なりの意見を持つようになる。 司法・犯罪領域における制度や理論、専門機関等の概要について説明できる。 非行や犯罪を多角的に捉える必要性を理解し、アセスメントや支援における心理学の知見の活用を実際を学ぶ。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習 最近の非行、犯罪に関する報道や記事を調べる。 授業 イントロダクション（授業の進め方、司法・犯罪心理学の領域） 復習 配布資料を見返す。</p> <p>【第2回】 予習 犯罪白書や配布資料等を概観する。 授業 非行・犯罪の動向と少年非行の歴史の変遷 復習 課題①。配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第3回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論①（生物－心理－社会モデル、リスクアセスメント等） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第4回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論②（心理学理論を中心に） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第5回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論③（社会学理論を中心に） 復習 非配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第6回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論④（ライフコース理論） 復習 課題②。非行・犯罪理論について理解を深め、整理する。</p> <p>【第7回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 刑事司法手続と情状鑑定 復習 刑事司法手続についてまとめる。</p> <p>【第8回】 予習 少年法を概観する。 授業 少年司法手続と少年法 復習 少年司法手続と刑事司法手続の違いについてまとめる。</p> <p>【第9回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 家庭裁判所の審判と家庭裁判所調査官の調査 復習 課題③。家庭裁判所の審判と科学的調査機能についてまとめる。</p> <p>【第10回】 予習 少年院法や少年鑑別所法を概観する。 授業 少年に対する処遇と支援①（少年鑑別所、少年院） 復習 配布資料を見返す。</p> <p>【第11回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 少年に対する処遇と支援②（児童自立支援施設、児童相談所） 復習 配布資料を見返す。</p>			

<p>【第12回】  予習 更生保護法を概観する。  授業 少年に対する処遇と支援③（保護観察所）  復習 配布資料を見返す。少年保護関係機関等の処遇について理解を深め、まとめる。</p> <p>【第13回】  予習 配布資料や参考図書にあたる。  授業 刑務所の処遇と医療観察制度  復習 課題④。配布資料を見返す。</p> <p>【第14回】  予習 犯罪被害者等支援施策の歴史を調べる。  授業 犯罪被害者の支援  復習 犯罪被害者等の支援について理解し、まとめる。</p> <p>【第15回】  予習 配布資料や参考図書にあたる。  授業 家庭問題の解決に向けた支援（家事事件を通しての理解）  復習 家庭問題を抱えたクライアントへの対応に当たり必要な知識・考え方についてまとめる。</p>								
授業開始前学習	非行や犯罪、少年法に関連するニュースに関心を持ち調べる。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業で指示した課題等については、全体の講評という形でフィードバックする。							
テキスト・教材	テキストは使わない。授業で適宜、資料を配布し、文献を推薦、紹介する。							
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのかー成人犯罪への道をたどらせないためにー』（合同出版）							
評価の基準と方法	所定の出席状況を踏まえ、レポート課題により60%、授業で指示する課題（小レポート、小テスト等）による40%の配分で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	家庭裁判所調査官としての実務経験をもとに、司法・犯罪領域の問題について、多角的な視点から理解する必要性や、特に心理学の知見を活用して理解し支援する方法について講義する。							

科目名称	産業・組織心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Industrial and Organizational Psychology	授業区分	講義
科目責任者	新井 素子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	新井 素子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ほとんどの人は、大学などを卒業した後は生涯にわたり職業に従事して働く生活を送ると思われる。働くということには、キャリア形成や職場でのパフォーマンスの向上、働く人のメンタルヘルスなど様々な問題が関わる。他方、働くということには成長や喜びをもたらす面もある。この授業には「キャリア形成」、「モチベーション」、「ストレスマネジメント」などの職場における問題や組織における人の行動に対する基本的な知識や理解を深める。		
到達目標	産業心理学の基本的知識を習得する。特にキャリア形成、動機づけ理論、および職場のコミュニケーションについて習得すると共に、心理学からみた職場におけるメンタルヘルスの問題と臨床的活動の実際などについての理解を深める。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：自分が将来、どのようなキャリアを積みたいのかにつき考える。 授業：イントロダクション（講義の目的・授業の進め方・注意点など）、産業・組織心理学に対するイメージをつかむ。 復習：授業の内容で興味のあるテーマにつき、新聞・ニュースなどをチェックする。			
【第2回】 予習：自分がこれまで関わった組織の特徴について考える。 授業：組織の特徴やそれに関する心理学の基礎を理解する。ヒューマン・エラーについて理解する。 復習：心理学の視点から、組織について考察する。			
【第3回】 予習：自分の将来のキャリア形成について考える。 授業：キャリア形成①－青年期におけるキャリア形成について知り、理解を深める。 復習：授業で得られた青年期の課題についての知識を自分の現在の課題に当てはめて考える。			
【第4回】 予習：身近な人（親やきょうだい、先輩など）のキャリアを形成につき、聞いたり調べたりする。 授業：キャリア形成②－スーパーの理論などキャリアにまつわる理論について知り、理解を深める。 復習：学んだ理論を参照しながら、自分の現在・将来のキャリア形成について再考する。			
【第5回】 予習：自分はどのようなときにやる気が出るのか、なぜやる気が出るのかなどについて考える。 授業：ワーク・モチベーション①－マズローの5段階欲求や科学的管理法などについて、基本的な知識を習得する。 復習：マズローのモデルに基づいて、自分が現在どの段階にいるのかなどを考察する。			
【第6回】 予習：どのようにすれば、自分で自分のやる気を引き出すことができるのかについて考える。 授業：ワーク・モチベーション②－期待理論や目標設定理論などについて、基本的な知識を習得する。 復習：自分自身に授業で学んだ知識をあてはめ、目標を達成するためにはどうしたらよいか、その方法を考える。			
【第7回】 予習：周囲の人（友達や家族など）に、どのようにやる気を引き出しているのか、その方法を聞いてみる。 授業：ワーク・モチベーション③－自分のやる気について理解を深める。 復習：これまで習得した知識を元に、自分のモチベーションのあり方について振り返る。			
【第8回】 予習：身の回りで就職活動を体験した人（親やきょうだい、先輩等）に就職活動の様子を聞いてみる。 授業：心理学の視点から、採用活動や面接についての基礎的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ知識などを自分の就職活動にあてはめて考察する。			
【第9回】 予習：職場の人間関係についてのニュースや新聞の中から、気になる記事についてピックアップして読んでおく。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係①－職場の人間関係、集団の発達などについて基本的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ人間関係の発達についての知識などを、自分が所属するグループにあてはめて考察する。			
【第10回】 予習：新聞や書籍などから、職場の人間関係を改善した例について調べる。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係②－コンフリクト・マネジメントについて基本的な知識を習得する。 復習：授業で得た知識や考え方により、どのようにコンフリクトが解決できるか、その方策を考える。			
【第11回】 予習：リーダーシップがある人の特徴について考える。 授業：リーダーシップについての基本的な知識や考え方を習得する。 復習：授業で得た知識などを踏まえ、リーダーシップがある人の要因を分析する。			
【第12回】 予習：自分がどのような消費活動を行っているか、特に購買行動について考える。 授業：購買行動をめぐる売り手・買い手に関係する心理学的な知識を習得する。 復習：授業で得た知識や考え方を踏まえ、自分の購買行動を振り返る。			
【第13回】			

<p>予習 : 働く人のメンタルヘルスに関わるニュースについて調べる。          授業 : 働く人のメンタルヘルス① - 職場におけるストレスとその対応について基本的な知識を習得する。          復習 : 職場でどのようなストレス対処策が実施されているのかにつき調べる。          【第 14 回】          予習 : 新聞や書籍などから働く人のメンタルヘルスに関わる問題について調べる。          授業 : 働く人のメンタルヘルス② - 様々なストレス理論について理解を深める          復習 : ストレス理論を自分に当てはめて、自分自身のストレス対応を考える。          【第 15 回】          予習 : 自分のストレス解消法について考えてみる。          授業 : 働く人のメンタルヘルス③ - これまでのまとめ(セルフケアの勧め)          復習 : 自分でセルフケアを実践してみる。</p>								
授業開始前学習	①新聞・ニュースで、授業に関連する気になるニュースをチェックしておく。 ②自分自身のアルバイトや今後の就職活動において気になる問題を考えておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内でミニレポートを実施し、翌週または 2 週後に全体の講評と個別の質問などにコメントをするなど、フィードバックを行う。							
テキスト・教材	スライドと配布資料を用いる。その他の参考文献は講義内で随時紹介する。							
参考書	田中堅一郎（編）『産業・組織心理学エッセンシャルズ』（ナカニシヤ出版）							
評価の基準と方法	ミニテスト 100%（レポート含む） ※全講義回数のうち 1 / 3 以上欠席の場合は単位取得不可							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かす自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	消費者心理学							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	消費者心理学		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Consumer Psychology	授業区分	講義
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会心理学における「消費者・消費行動の心理」について学ぶ。 生産者のマーケティング、ブランド選択、価格判断、消費者間コミュニケーション、購買意思決定、比較広告、ネット、地域性、日本・外国の文化といった消費者心理研究の基本的内容を概観する。		
到達目標	社会心理学には、購買行動を含めた消費行動、消費者に役立つ研究領域があることを理解できる。 社会心理学における消費者の態度や認知、消費行動についての研究を学ぶことで、消費者としての自分、就職活動や就職後の仕事に役立つ知見を自分なりに考えることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：序章（1頁～13頁）の購読 授業：「消費行動の社会心理学」（テキスト1頁～13頁） 復習：消費行動の社会心理学アプローチの確認および関連文献の購読</p> <p>【第2回】 予習：1章（テキスト16頁～25頁）の購読 授業：「ブランド選択の心理」（テキスト16頁～25頁） 復習：商品選択とブランド選択に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第3回】 予習：2章（テキスト26頁～38頁）の購読 授業：「消費者の価値意識」（テキスト26頁～38頁） 復習：マクロとミクロの消費者の価値意識に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第4回】 予習：3章（テキスト40頁～51頁）の購読 授業：「消費者の非計画購買過程」（テキスト40頁～51頁） 復習：消費者の非計画購買に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第5回】 予習：4章（テキスト52頁～63頁）の購読 授業：「消費者の価格判断の過程」（テキスト46頁～59頁） 復習：心的モノサシと価格判断に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第6回】 予習：5章（テキスト66頁～79頁）の購読 授業：「消費者間相互作用と購買意思決定」（テキスト60頁～75頁） 復習：口コミとマーケティングに関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第7回】 予習：6章（テキスト80頁～94頁）の購読 授業：「インターネットを通じた消費者間コミュニケーション過程」（テキスト80頁～94頁） 復習：インターネットと消費行動に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第8回】 予習：7章（テキスト96頁～107頁）の購読 授業：「比較広告と消費行動」（テキスト96頁～107頁） 復習：比較広告に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第9回】 予習：8章（テキスト108頁～117頁）の購読 授業：「悪質商法におけるコミュニケーションと消費者行動」（テキスト108頁～117頁） 復習：悪質商法と資格商法に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第10回】 予習：9章（テキスト118頁～128頁）の購読 授業：「企業のリスク・コミュニケーションと消費行動」（テキスト118頁～128頁） 復習：企業におけるリスク・コミュニケーションに関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第11回】 予習：10章（テキスト130頁～141頁）の購読 授業：「サービスの地域性と消費行動」（テキスト130頁～141頁） 復習：接客サービスの地域性に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第12回】 予習：11章（テキスト142頁～154頁）の購読 授業：「地域性を考慮した広告の効果」（テキスト142頁～154頁） 復習：地域限定と地域ステレオタイプの広告に関する研究の確認および関連文献の購読</p> <p>【第13回】</p>			



<p>予習：12章（テキスト156頁～163頁）の購読          授業：「文化受容と消費行動」（テキスト156頁～163頁）          復習：日本のポピュラー文化の受容に関する研究の確認および関連文献の購読【第14回】          予習：13章（テキスト164頁～175頁）の購読          授業：「消費行動の文化的意味」（テキスト164頁～175頁）          復習：消費行動の文化差に関する研究の確認および関連文献の購読【第15回】          予習：テキスト1章～13章の再確認          授業：消費行動の心理の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント）          復習：消費者心理学を通じて現代社会と身近な消費行動を考察する</p>								
授業開始前学習	社会心理学に関連する本、マーケティング調査、広告、購買行動、ビジネス心理に関連する本の購読。							
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、調査票については実施後の当該授業回または次回の授業回、学習成果の確認テストは当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。							
テキスト・教材	竹村和久（編）『消費行動の社会心理学－消費する人間のこころと行動』（北大路書房）2000年発行 2,500円＋税							
参考書	社会行動研究会（翻訳）ロバート・B・チャルディーニ（著）『影響力の武器（第三版）－なぜ、人は動かされるのか』（誠信書房）2014年発行 2,700円＋税							
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（60点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・調査票参加：40点）によって総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	「社会・集団心理学」、「対人関係論」とは基盤となる心理学領域や研究方法で関連する。							
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学やマーケティング調査の体験学習として調査実施することがある。 授業資料の扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 一般心理学に関心がある者、なかでもマーケティング方法や購買行動の知識を高めることで就職活動や将来の仕事に活用したい者を歓迎する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	コミュニティ心理学		
科目分類	130-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Community Psychology	授業区分	講義
科目責任者	藤川 麗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-712
授業概要	人の心の問題を、個人とその個人を取り巻くコミュニティ（集団）との関係という視点から理解する、コミュニティ心理学の授業である。心の問題を理解するための理論と、理論に基づく予防策や対応法について、事例を通して学ぶ。また、学校現場における支援、精神障害者に対する支援、虐待問題への支援、被災者への支援など、現実が生じているさまざまな心理的問題への支援方法について学んでいく。		
到達目標	コミュニティ心理学の基本的理念である、「コミュニティ感覚」、「予防」、「エンパワメント」、「連携と協働」等の概念について理解し、説明できるようになる。コミュニティ心理学の実践方法である、「危機介入法」、「コンサルテーション」、「連携と組織作り」について、課題を通して理解を深め、自分なりに支援方法を考えることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「コミュニティ」という用語について調べておく。 授業：ガイダンス、コミュニティ心理学の歴史 復習：【第1回】配布資料の復習</p> <p>【第2回】 予習：前回授業の配布資料を再読する 授業：コミュニティ心理学の基本的理念 復習：【第2回】配布資料の復習</p> <p>【第3回】 予習：「危機介入法」という用語について調べておく 授業：危機理論と危機介入法 1 危機理論とは 復習：【第3回】配布資料の復習</p> <p>【第4回】 予習：前回授業の配布資料を再読する 授業：危機理論と危機介入法 2 危機介入の方法 復習：レポート課題1の作成</p> <p>【第5回】 予習：課題1の作成 授業：危機理論と危機介入法 3 危機介入の事例（ディスカッション） レポート課題1の提出 復習：レポート課題1の見直し</p> <p>【第6回】 予習：「コンサルテーション」という用語について調べておく 授業：コンサルテーション 1 コンサルテーションとは 復習：レポート課題2の作成</p> <p>【第7回】 予習：レポート課題2の作成 授業：コンサルテーション 2 コンサルテーションの事例（ディスカッション） レポート課題2の提出 復習：レポート課題2の見直し</p> <p>【第8回】 予習：「コラボレーション」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 1 コラボレーションとは 復習：【第8回】配布資料の復習</p> <p>【第9回】 予習：「スクールカウンセラー」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 2 スクールカウンセリング 復習：【第9回】配布資料の復習</p> <p>【第10回】 予習：「精神障害者」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 3 精神障害者への支援 復習：【第10回】配布資料の復習</p> <p>【第11回】 予習：「児童虐待」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 4 子育て支援 復習：【第11回】配布資料の復習</p> <p>【第12回】 予習：「社会的引きこもり」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 5 若者への支援 復習：【第12回】配布資料の復習</p>			

<p>【第13回】          予習：レポート課題3の準備          授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション6 被災者・被害者の支援1          復習：レポート課題3の作成</p> <p>【第14回】          予習：レポート課題3の準備          授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション7 被災者・被害者の支援2          復習：レポート課題3の作成</p> <p>【第15回】          予習：レポート課題3を完成させる          授業：授業のまとめ レポート課題3の提出（プレゼンテーション）          復習：授業内容のふりかえりを行う</p>								
授業開始前学習	ニュースや新聞を通じてさまざまな社会問題に触れ、自分がどのようなコミュニティに興味を感じるか考えておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で課題（小テストもしくはミニット・ペーパー等）の提出を求め、その次の回で全体に対して質問やコメントへの返答を行う。							
テキスト・教材	特に指定しない（授業中に随時配布する）。							
参考書	特に指定しない。							
評価の基準と方法	毎回後の小テストもしくはミニット・ペーパーの提出（4点×15回＝60点）、レポート課題1（10点）、レポート課題2（10点）、レポート課題3（20点）の総合点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	なし。							
その他	特になし。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かしてコミュニティにおける心理支援の理念と実践について講義する。							

科目名称	スポーツ心理学		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Sports Psychology	授業区分	講義
科目責任者	小松 陽香	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小松 陽香	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	スポーツ心理学の観点から、多角的にスポーツを捉え、スポーツの現場に必要な基礎的な理論と知見について学ぶ。スポーツ現場の現状を理解し、講義を通して得た知識を用いることで、スポーツ競技者が主体となってパフォーマンスの向上や精神の安定を導くこと、スポーツ現場に対して効果的な介入を行うための基礎的な知識を身に付けることを目標とする。		
到達目標	スポーツ心理学に関する基礎的な理論と知見について理解する。スポーツが持つ心理的効果や動機づけなどのスポーツ現場の現状の把握や技法の習得を通して、パフォーマンスの向上や効果的なスポーツ活動を導く方法を具体的に検討できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：シラバスを確認しておく  授業：スポーツ心理学の概要、授業の目的・評価について  復習：自分自身の興味、関心が高いテーマを確認する</p> <p>【第2回】  予習：ストレス認知について調べておく  授業：スポーツとストレス認知について  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第3回】  予習：ストレス対処について調べておく  授業：スポーツとストレス対処について  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第4回】  予習：自尊感情について調べておく  授業：スポーツと関係の深い心理要素について①（自尊感情）  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第5回】  予習：動機づけと自己効力感について調べておく  授業：スポーツと関係の深い心理要素について②（動機づけ、自己効力感）  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第6回】  予習：自分の現在の目標について考えておく  授業：目標設定の理論について  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第7回】  予習：スポーツ選手が抱える可能性の高い心理的問題について調べておく  授業：スポーツ選手が抱える可能性の高い心理的問題と対処法について  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第8回】  予習：ソーシャルサポートについて調べておく  授業：スポーツ活動におけるソーシャルサポートについて  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第9回】  予習：方略認知について調べておく  授業：スポーツと関係の深い心理要素について③（方略認知）  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第10回】  予習：心理的競技能力について調べておく  授業：心理的競技能力について  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第11回】  予習：メンタルコントロールについて調べておく  授業：心理状態とパフォーマンスの関係①（メンタルコントロール）  復習：授業資料を見直す</p> <p>【第12回】  予習：リラクゼーションとサイキングアップについて調べておく 実習前に自分の健康状態を確認しておく  授業：心理状態とパフォーマンスの関係②（リラクゼーションとサイキングアップ）（実習）  復習：授業資料を見直すこと</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : イメージによる課題のトレーニングについて調べておく 授業 : 心理状態とパフォーマンスの関係③ (イメージによる課題のトレーニング) (実習) 復習 : 授業資料を見直すこと 【第 14 回】 予習 : メンタルトレーニング指導について調べておく 授業 : スポーツメンタルトレーニング指導について 復習 : 授業資料を見直すこと 【第 15 回】 予習 : トランスセオレティカルモデルについて調べておく 授業 : スポーツ活動への取り組み段階とスポーツ活動促進への心理的介入について 復習 : 授業資料を見直すこと								
授業開始前学習	スポーツ心理学がスポーツに与える影響や、競技場面においてスポーツ心理学が果たす役割について考えておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業毎回の小レポートについては、翌週に全体の講評と質問の回答をする。							
テキスト・教材	授業時に資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	レポート 40%、平常点 (小レポート) 60%による。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他	授業内容は学生の興味・関心、世相を踏まえ、内容を調整する可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人体の構造と機能及び疾病		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Human Body Structure, Function and Diseases	授業区分	講義
科目責任者	金 智慧	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金 智慧	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心身機能と身体構造、および様々な疾病や障害に関する知識を習得し、医療領域での心理援助がどのように行われるかを、ビデオやワーク、事例を用いながら実践的に理解していく。全人的医療の観点から、精神科・心療内科における事例だけでなく、より広い医療領域において心理支援が必要な事例に対する心理援助の在り方、チーム医療の中での心理職の仕事について学び、医療領域で幅広く活躍する心理職の役割を考察していく。		
到達目標	医療領域における心理職の役割と心理援助の実際について理解を深めることを目標とする。心身機能と構造や、様々な疾病および障害の基本的な知識を習得し、事例に基づいて医療現場で用いられる心理療法を実践的に理解する。それによって、医療現場における心理的な支援を必要とする問題を理解し、心理職の専門性は何かという問いに対する考察を深めることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：臨床心理学の基礎知識をまとめ、復習する  授業：オリエンテーション、医療領域で働く心理職の仕事  復習：第1回の配布資料の見直し</p> <p>【第2回】  予習：心理アセスメントについて調べる  授業：医療領域における心理援助の流れ  復習：第2回の配布資料の見直し</p> <p>【第3回】  予習：強迫性障害について調べる  授業：強迫性障害の心理援助  復習：第3回の配布資料の見直し</p> <p>【第4回】  予習：心的外傷後ストレス障害について調べる  授業：心的外傷後ストレス障害の心理援助  復習：第4回の配布資料の見直し</p> <p>【第5回】  予習：うつ病について調べる  授業：うつ病の心理援助  復習：第5回の配布資料の見直し</p> <p>【第6回】  予習：統合失調症について調べる  授業：統合失調症の心理援助  復習：第6回の配布資料の見直し</p> <p>【第7回】  予習：摂食障害について調べる  授業：摂食障害の心理援助  復習：第7回の配布資料の見直し、中間レポート</p> <p>【第8回】  予習：発達障害について調べる  授業：発達障害（自閉スペクトラム障害）の心理援助  復習：第8回の配布資料の見直し</p> <p>【第9回】  予習：発達障害について調べる  授業：発達障害（ADHD；注意欠陥多動性障害、SLD；限局性学習障害）の心理援助  復習：第9回の配布資料の見直し</p> <p>【第10回】  予習：SST（社会生活技能訓練）について調べる  授業：SST（社会生活技能訓練）  復習：第10回の配布資料の見直し</p> <p>【第11回】  予習：提示された事例をもとに心理支援を考える  授業：事例から考える心理支援  復習：第11回の配布資料の見直し</p> <p>【第12回】  予習：アンガーマネジメントについて調べる  授業：アンガーマネジメント</p>			

復習：第 12 回の配布資料の見直し 【第 13 回】 予習：チーム医療について調べる 授業：チーム医療 復習：第 13 回の配布資料の見直し 【第 14 回】 予習：多職種連携、他機関との連携について調べる 授業：多職種連携 復習：第 14 回の配布資料の見直し 【第 15 回】 予習：これまでの授業の振り返り 授業：「こころの健康」とは何か、心理職の専門性とは何か 復習：期末レポート								
授業開始前学習	基礎心理学や臨床心理学の基礎知識に関する学習をしておくことで授業が理解しやすくなる。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業の中で実施したワークや講義の内容について、ミニレポートを提出してもらう。感想や疑問に対し、授業の中で回答していく。							
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する（または Classroom での資料データのアップデートを実施）							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度（15 点）、毎回提出するミニレポート（45 点）、最終レポート（40 点）にて総合的に評価する。 ※全講義回数のうち 1 / 3 以上欠席（またはミニレポートの未提出）の場合は単位取得不可							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目								
その他	心理援助において専門知識の習得は必要不可欠ですが、習得した専門知識を実践において活かしていくためには、自分で考える力やコミュニケーション能力を育むことが必要になります。本講義では、単なる知識習得にとどまらず、履修生一人ひとりが自分で考えたことや感じたことを大切にしたいうえで、自分の考えや意見を他者と共有することを前提としています。そのためには積極的な姿勢を持って講義に参加することが望ましいでしょう。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床、精神保健福祉の実務経験あり。各領域における心理援助の経歴をもとに、精神疾患の基礎知識および心理援助、医療領域における実践・課題について講義する。							



科目名称	精神疾患とその治療		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychiatric Disorders and Treatments	授業区分	講義
科目責任者	小口 芳世	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小口 芳世	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	精神医学について概説し、精神疾患の診断・治療の総論事項をふまえながら、精神疾患各論について解説する。		
到達目標	精神医学のアウトライン、精神疾患の診断と治療双方ならびに各精神疾患に関する基礎的事項を説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】精神医学総論  予習：精神医学総論について調べる  授業：精神医学総論について  復習：精神医学総論について復習する</p> <p>【第2回】精神疾患の診断と診断基準  予習：精神疾患の診断と診断基準について調べる  授業：精神疾患の診断と診断基準について  復習：精神疾患の診断と診断基準について復習する</p> <p>【第3回】精神疾患の治療  予習：精神疾患の治療について調べる  授業：精神疾患の治療について  復習：精神疾患の治療について包括的に復習する</p> <p>【第4回】神経発達症  予習：神経発達症について調べる  授業：神経発達症について  復習：神経発達症について復習する</p> <p>【第5回】統合失調症  予習：統合失調症について調べる  授業：統合失調症について  復習：統合失調症について復習する</p> <p>【第6回】気分障害  予習：気分障害について調べる  授業：気分障害について  復習：気分障害について復習する</p> <p>【第7回】不安症、強迫症  予習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について調べる  授業：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について  復習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について復習する</p> <p>【第8回】ストレス関連障害、解離症  予習：ストレス関連障害、解離症について調べる  授業：ストレス関連障害、解離症について  復習：ストレス関連障害、解離症について復習する</p> <p>【第9回】食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群  予習：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について調べる  授業：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について  復習：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について復習する</p> <p>【第10回】物質関連障害、嗜癖性障害  予習：物質関連障害、嗜癖性障害について調べる  授業：物質関連障害、嗜癖性障害について  復習：物質関連障害、嗜癖性障害について復習する</p> <p>【第11回】神経認知障害、せん妄  予習：神経認知障害、せん妄について調べる  授業：神経認知障害、せん妄について  復習：神経認知障害、せん妄について復習する</p> <p>【第12回】てんかん、器質性精神障害  予習：てんかん、器質性精神障害について調べる  授業：てんかん、器質性精神障害について  復習：てんかん、器質性精神障害について復習する</p> <p>【第13回】パーソナリティ障害、性関連障害</p>			

予習：パーソナリティ障害、性関連障害について調べる 授業：パーソナリティ障害、性関連障害について 復習：パーソナリティ障害、性関連障害について復習する <b>【第 14 回】緩和医療</b> 予習：緩和医療について調べる 授業：緩和医療について 復習：緩和医療について復習する <b>【第 15 回】医療機関との連携、まとめ</b> 予習：医療機関との連携について調べる 授業：医療機関との連携について 復習：医療機関との連携について復習する									
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題は原則、設けない（一部、成績には入らない演習として求める場合がある）。							
テキスト・教材									
参考書									
評価の基準と方法		定期試験の成績（90%）と授業の参加態度（10%）による。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○	△		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	精神病跡学		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Pathography	授業区分	講義
科目責任者	松岡 努	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松岡 努	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、何らかの精神疾患や心理的問題を抱えながらも創作活動を続けた画家や作家による作品などを手がかりに、その精神病理や心理状態について理解を深めていく。読んだり見たり聴いたりすることのできる具体的な作品を媒介とすることで、イメージすることが難しい精神病理や心の問題について理解し、また、人間の精神と人間の創造性についての見識を深める。		
到達目標	①精神医学的な分類について、入門的な知識を理解できるようになる。②授業で取り上げた人物の精神病理と作品との関連について理解できるようになる。③精神病理学的視点から、授業で取り上げていない人物の精神病理と作品について、自らまとめることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習： あらかじめ授業のシラバスを読んでおくこと  授業： ガイダンス（自前教科書配布） 精神病跡学とは  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.1-p.6）</p> <p>【第2回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.7-p.10）  授業： 精神病理学概説 前半（1. 主に心因によるもの）  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.7-p.10）</p> <p>【第3回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.11-p.17）  授業： 精神病理学概説 後半（2. 主に内因によるもの、3. 主に器質因によるもの）  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.11-p.17）</p> <p>【第4回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.18-p.28）  授業： 夏目漱石の作品と病跡  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.18-p.28）</p> <p>【第5回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.29-p.36）  授業： 芥川龍之介の作品と病跡  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.29-p.36）</p> <p>【第6回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.37-p.41）  授業： ヴァン・ゴッホの作品と病跡  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.37-p.41）</p> <p>【第7回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.42-p.46）  授業： 佐伯祐三の作品と病跡  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.42-p.46）</p> <p>【第8回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.47-p.50）  授業： ムンクの作品と病跡  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.47-p.50）</p> <p>【第9回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.51-p.56）  授業： フリーダ・カーロの作品と病跡  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.51-p.56）</p> <p>【第10回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.57-p.62）  授業： カミーユ・クロデルとロダン―エピソード― その1  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.57-p.62）</p> <p>【第11回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.63-p.68）  授業： 高村智恵子と高村光太郎―エピソード― その2  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.63-p.68）</p> <p>【第12回】  予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.69-p.73）  授業： 山下清とヘンリー・ダーガーの作品と病跡  復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.69-p.73）</p> <p>【第13回】</p>			

予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.74-p.78） 授業： アウトサイダーアートについて 復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.74-p.78） 【第 14 回】 予習： テキストの該当箇所を読んでおくこと（テキスト p.79-p.83） 授業： グスタフ・マラーの作品と病跡 復習： テキストの該当箇所を読み返しておくこと（テキスト p.79-p.83） 【第 15 回】 予習： テキストの中の興味のあるところを読み直しておくこと 授業： 精神病跡学総括 復習： テキストの授業で触れたところをもう一度目を通しておくこと								
授業開始前学習	シラバスの授業内容にあげられている作家・芸術家たちの作品を鑑賞しておくことをお勧めする。							
授業内課題の フィードバックの方法	小テストはその場で答えを確認し、自らの理解度をチェックする。レポートは評価ポイントをチェックした上で返却する。							
テキスト・教材	自前教科書を使用する。							
参考書	授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	各回の授業についてのコメントシートの作成（各回 5 点 × 15 回、計 75 点）。また、レポートを 1 回提出する（25 点）。合計 100 点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目	「感情・人格心理学」「臨床心理学概論」「精神疾患とその治療」など							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間 × 15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間 × 15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	教育相談		
科目分類	110-411-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Educational Counseling	授業区分	講義
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	テーマ：児童生徒の臨床心理学的理解と活用 教育相談や生徒指導などにおいて、児童生徒の心理を理解することは非常に重要である。本授業では、カウンセリングをはじめとした臨床心理学の基礎知識をもとに児童生徒への理解を深め、カウンセリングマインドに基づく支援を学ぶことを目的とする。学校では、個人心理や発達だけでなく、関係性や集団・コミュニティ・社会・文化の検討も必要となるため、幅広い視野から児童生徒の心理理解ができるよう、様々な見方・考え方を扱う。ワークによるアクティブラーニングを通して自身の見解を省察する活動も積極的に取り入れる。		
到達目標	カウンセリングをはじめとした臨床心理学の知見をもとに、児童生徒への理解を深め、実践に活用できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：特に必要はない 授業：児童生徒理解①臨床心理学の観点から 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第2回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒理解②発達心理学の観点から 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第3回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒理解③教育心理学の観点から 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第4回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒理解④社会心理学の観点から 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第5回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒理解⑤発達障害・学習障害 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第6回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒理解⑥知的障害・知能検査 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第7回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒理解⑦自殺・自傷行為 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第8回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒を支援する方法①認知行動療法・ワークを用いたアクティブラーニング 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第9回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒を支援する方法②動機付け面接法・ワークを用いたアクティブラーニング 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第10回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒を支援する方法③ナラティブセラピー 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第11回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒への具体的支援①修復的実践 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第12回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒への具体的支援②コンサルテーション 復習：配布資料の見返し</p>			

<p>【第13回】  予習：事前配布資料の熟読  授業：児童生徒への具体的支援③関係者会議・ワークを用いたアクティブラーニング  復習：配布資料の見返し</p> <p>【第14回】  予習：事前配布資料の熟読  授業：児童生徒への具体的支援④いじめ対策  復習：配布資料の見返し</p> <p>【第15回】  予習：事前配布資料の熟読  授業：児童生徒の心理を包括的に理解し支援する  復習：これまでの資料の見返し</p>								
授業開始前学習	特に必要ない。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の小レポートについては、次の授業時に全体に向けてフィードバックを行う。授業で課するレポート課題については、修正点やアドバイス等コメントを記載した上で返却する。							
テキスト・教材	初回までにそろえるべきものはない。授業内で別途指示する。							
参考書	文部科学省 (2022). 生徒指導提要 (改訂版) <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm</a> ウインズレイド, J. ウィリアムズ, M. (2016). いじめ・暴力に向き合う学校づくり—対立を修復し, 学びに変えるナラティブ・アプローチ— 新曜社.							
評価の基準と方法	最終レポートによる評価 30%と、各回のミニレポートによる評価 70%の合算で評価する							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		△
関連科目								
その他	1. 実習室、実習備品の都合により内容もしくは講義順序を一部変更する可能性がある。 2. 本授業は体験学習も行うため、積極的な出席が望まれる。また、各種心理アセスメントや臨床心理技法の体験が含まれるため、精神的に不安定で受講に不安がある場合は、必ず事前に相談すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	教育相談を現場とした心理臨床の実務経験あり。教育相談で求められる知識と対応について講義する。							

科目名称	文芸と心理		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Literature and Psychology	授業区分	講義
科目責任者	糟谷 恵次	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	糟谷 恵次	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～13:40 後期 月曜日 10:50～13:00 木曜日 12:10～13:00	研究室	10-604
授業概要	古今の文学や芸術作品に潜む心理学的な問題やテーマを探る。		
到達目標	個々の文学作品に接しながら、心理学的なテーマ・問題性を明確に把握し考察する力を養う。またフロイトやユングの心理学的文芸理解の方法の一端に慣れる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：これまでに読んだ外国文学について思い返してみる  授業：授業の概要説明  復習：初回に配布する資料1の復習</p> <p>【第2回】  予習：芸術心理学について調べてみる  授業：芸術心理学／文芸心理学とは何か  復習：資料2の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第3回】  予習：資料の作品梗概を読んでおく  授業：ソポクレス『オイディプス王』とフロイトの理解  復習：資料3の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第4回】  予習：資料の作品梗概を読んでおく  授業：アプレイウス『アモールとプシケー』 物語の梗概と理解  復習：資料4の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第5回】  予習：『ハムレット』原作を読んでみる  授業：シェイクスピア『ハムレット』前半を鑑賞する  復習：資料5の独白シーンを再読する</p> <p>【第6回】  予習：『ハムレット』原作を読んでみる  授業：シェイクスピア『ハムレット』後半を鑑賞する  復習：資料5の独白シーンを再読する</p> <p>【第7回】  予習：資料5の該当部分を読んでおく  授業：シェイクスピア『マクベス』を鑑賞する  復習：資料5の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第8回】  予習：資料6の該当部分を読んでおく  授業：民間童話の深層心理(1) イソップ童話 他  復習：資料6の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第9回】  予習：資料6の該当部分を読んでおく  授業：民間童話の深層心理(2) グリム童話  復習：資料6の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第10回】  予習：資料7を読んでおく  授業：創作童話の心理 『ふしぎの国のアリス』  復習：資料7の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第11回】  予習：資料8に挙げられている翻訳テキスト抜粋部分を読んでおく  授業：『星の王子さま』（1）こころの変化を読み解く  復習：資料8の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第12回】  予習：資料8の該当部分を読んでおく  授業：『星の王子さま』（2）物語のテーマを考察する  復習：資料8の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p> <p>【第13回】</p>			



<p>予習 : 資料 9 に掲載されている『夢十夜』全文を読んでおく          授業 : 夏目漱石『夢十夜』について考察する          復習 : 資料 9 の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する          【第 14 回】          予習 : 資料 9 の該当部分に挙げられている「元型」について調べておく          授業 : 夢の解釈 (フロイトとユング)          復習 : 資料 9 の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する          【第 15 回】          予習 : ここまでの資料を読み直してみる          授業 : フロイトとユングの心理学的解釈の相違点を確認する          復習 : 資料 15 の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する</p>								
授業開始前学習	講義で対象とする作品の邦訳を事前に通読しておくことが望ましい。少なくとも、授業時に配布する資料を利用しながら、梗概(あらすじ)レベルまでは理解しておきたい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回行われる授業内容理解の確認課題に関しては次回の授業の冒頭で振り返る。							
テキスト・教材	授業時に資料を配布する。							
参考書	参考とすべき文学作品、評論、研究書等は配布資料に記載する。							
評価の基準と方法	毎回の授業の最後に行われる確認課題 (60%)と期末レポート (40%) によって総合評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○			○		
関連科目	「言葉と心理」、「外国文学／ヨーロッパの文学」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	言葉と心理		
科目分類	130-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Language and Psychology	授業区分	講義
科目責任者	保坂律子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂・米金	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	第1回～第8回：「今日は天気が良いね」と発話した場合でも、各々の感情は様々です。『今日はピクニックだ、晴れてよかった』⇒ [嬉しい]、「今日はせっかくこんなに天気の良いのに、僕は仕事だ。友人はお休みなのに」⇒ [悲しい]。講義では、このような複雑な「コトバと感情」のメカニズムについて考察する。(米金担当) 第9回～第15回：意思疎通の上で言葉は大切な手段であるが、自分の意図が上手く相手に伝わらないことがある。この授業では感謝と謝罪に焦点をあて、さまざまな事例を扱いながら「言葉と心理」について考察する。(保坂担当)		
到達目標	第1回～第8回：「言葉と心理」に関わる研究を通して、言葉のメカニズムを学び、「言語の運用」が、心理面・感情面にどのように影響するのかを理解できる(前半米金担当)。 第9回～15回 「感謝と謝罪」を表す表現について、日本語にみられる特徴と、他の言語における表現との違いを心理的側面から考察し、具体例をあげてそれぞれ説明できる(後半保坂担当)。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】 予習：「言葉と心理」とが、自分自身にとってどのように関わってくるのかを考えておくこと。 授業：自己紹介、講義の進め方・授業内容・課題・レポート・評価等についての説明。 復習：次回までに、与えられた内容について考察すること。</p> <p>【第2回】 予習：前回の授業の復習。 授業：主要な「言葉と心理」に関わる研究分野の紹介。 復習：紹介した研究や研究者について調べておくこと。</p> <p>【第3回】 予習：言語的(言葉による)コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：どのような言語的自己表現をすれば、対話者との会話が成り立つのかを考えること。</p> <p>【第4回】 予習：非言語的コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：非言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：非言語的コミュニケーションの伝達手段の復習。</p> <p>【第5回】 予習：語用論・発話行為について調べておくこと。 授業：語用論・発話行為とは何か。 復習：語用論・発話行為と心理の関係を再考すること。</p> <p>【第6回】 予習：談話分析・インターアクション分析について調べておくこと。 授業：談話分析・インターアクション分析についての考察。 復習：談話分析・インターアクション分析を再考すること。</p> <p>【第7回】 予習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学について調べておくこと。 授業：ポリフォニー理論と社会言語学・言語心理学についての考察 復習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学を再考すること。</p> <p>【第8回】 予習：修辞学と文体論・記号学について調べておくこと。 授業：修辞学と文体論・記号学についての考察。 復習：修辞学と文体論・記号学を再考すること。</p> <p>【第9回】 予習：これまで自分の気持ちをうまく伝えられなかった場面を思い出す。 授業：「言葉をつかむ」ことについて考える。 復習：授業の振り返りをまとめる。</p> <p>【第10回】 予習：最近人にお礼を言ったこと、謝ったことの例を考えておく。 授業：感謝と謝罪の相違点 復習：授業の振り返りをまとめる。</p> <p>【第11回】 予習：大事な約束に遅刻した場面を想定し、自分の言葉で遅れた理由を考えておく。 授業：謝罪の言葉と心理1(グループディスカッション) 復習：授業の振り返りをまとめる。</p> <p>【第12回】 予習：誘いを断る場面を想定し、自分の言葉で断る理由を考えておく。</p>			

<p>授業：謝罪の言葉と心理 2（グループディスカッション）  復習：授業の振り返りをまとめる。  【第 13 回】  予習：「寒くない？」と聞かれた場面を想定し、その返答を考えておく。  授業：意図の伝え方と心理（グループディスカッション）  復習：授業の振り返りをまとめる。  【第 14 回】  予習：プレゼントを渡す場面を想定し、その時添える言葉を考えておく。  授業：感謝の伝え方と心理（グループディスカッション）  復習：授業の振り返りをまとめる。  【第 15 回】  予習：お世話になった人にお礼をする場面を想定し、気持ちを伝える言葉を考えておく。  授業：感謝の言葉と心理  復習：「感謝のエピソード」を書く。</p>								
授業開始前学習	第 1 回～第 8 回：「心理と言葉」についての書物や研究など、事前に目を通しておくこと。（米金担当） 第 9 回～第 15 回：日本語と外国語に関するエッセイや評論等に触れるように心がけると理解が深まる。（保坂担当）							
授業内課題の フィードバックの方法	第 1 回～第 8 回：毎回授業内容を自分なりに検討し、次週の講義までに理解を深めておくこと。（米金担当） 第 9 回～第 14 回：毎回提出される授業内課題は翌週の授業内で講評する。（保坂担当）							
テキスト・教材	講義内にて担当教員より適宜資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	教員より課された課題の発表、提出状況により各教員 50%（合計 100%）で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○			○		
関連科目	フランス語 中国語							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学ゼミ I		
科目分類	130-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	心理学の実践・研究分野では、言葉（言語・非言語）を通して心理を理解することが多い。近年では、数値などに置き換えず、言葉をそのまま分析しようとする質的研究法への関心が高まっている。本ゼミでは、質的研究法の哲学的基礎といくつかの方法を学んだ上で、関心に応じて実際の素材を分析・考察していく。やや伝統的な心理学とは異なる認識論の学習や、実際に手を動かすこと、議論を通して批判的に考察することが求められるため、積極的な参加を期待したい。		
到達目標	質的研究法によって、自らの関心を心理学研究の枠組みから体系化し、分析することができる。また、こうした方法論の習得を通して、物事を批判的・多角的に考察することができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：事前に配布した課題論文を読む  授業：イントロダクション  復習：出題された課題に取り組む</p> <p>【第 2 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：課題論文の発表①（発表）  復習：発表内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第 3 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：課題論文の発表②（発表）  復習：発表内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第 4 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：質的研究法の基礎—理論編  復習：講義内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第 5 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：質的研究法の基礎—方法編  復習：講義内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第 6 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：質的研究法の実際—データを取る（実習）  復習：授業を踏まえて実際にデータを取得</p> <p>【第 7 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：質的研究法の実際—データを整理する（実習）  復習：授業を踏まえてデータを整理する</p> <p>【第 8 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：質的研究法の実際—KJ 法①（概要の講義）  復習：内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第 9 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：質的研究法の実際—KJ 法②（ラベルづくり）（グループワーク）  復習：授業を踏まえてラベルづくりをする</p> <p>【第 10 回】  予習：発表課題に取り組む  授業：質的研究法の実際—KJ 法③（グループ編成）（グループワーク）  復習：授業を踏まえてグループ編成をする</p> <p>【第 11 回】  予習：発表課題に取り組む  授業：質的研究法の実際—KJ 法④（図解化）（グループワーク）  復習：授業を踏まえて図解化をする</p> <p>【第 12 回】  予習：出題された課題に取り組む  授業：質的研究法の実際—KJ 法⑤（叙述化）  復習：授業を踏まえて叙述化をする</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 出題された課題に取り組む 授業 : 質的研究法の実際—KJ 法⑥ (発表) 復習 : 発表へのフィードバックを読む 【第 14 回】 予習 : 出題された課題に取り組む 授業 : 質的研究法の実際—KJ 法⑦ (発表) 復習 : 発表へのフィードバックを読む 【第 15 回】 予習 : 出題された課題に取り組む 授業 : KJ 法のまとめ 復習 : 講義内容についての配布プリントの復習								
授業開始前学習	関心のあるテーマについて、自分なりに関連書籍・論文にあたってみる。							
授業内課題のフィードバックの方法	特に分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。							
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する							
参考書	川喜田二郎 (2017) 『発想法 改版—創造性開発のために』中公新書 能智正博 (2011) 『臨床心理学をまなぶ 6 質的研究法』東京大学出版会							
評価の基準と方法	発表 6 0 %・授業への貢献 4 0 %							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学実験 I・II							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学ゼミ I		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-715
授業概要	ゼミの全体的なテーマは、『心を観察し、問いかける』ことである。これは、「目の前にいるこの人はどんな人なのか?」、「いかに生きてきたのか?」、「どうしてそうせざるを得なかったのか?」といった問いに対して、「もしかしたら、～～なのかもしれない」といった仮説を立てることを指している。『心を観察し、問いかける』ことは心理専門職による心理アセスメントの本質である。しかし、心理専門職でなくとも、心理アセスメントの基本的なやり方、考え方を学ぶことで、私たちは日常生活において相手のことをさらに深く、的確に理解し、よりよく関わるができるようになるかもしれない。そして、『観察』や『面接』といった手法を用いる『研究』においても、学びが活きる可能性がある。 そこで、3年次の前期は、心理学的研究の基礎について学び、ゼミ論文/卒業論文を書くことについて具体的にイメージできるようになることを目指す。次に、ペアワークやグループワークを通して、心理アセスメントの基本的なスキルを身につけていく。そして、夏休み中に試行インタビューを実施するための準備を進める。		
到達目標	心理学的研究の基礎について学び、各自がゼミ論文/卒業論文を書くことについて具体的にイメージできるようになる。 ペアワークやグループワークを通して、心理アセスメントの基本的なスキルを身につける。 教員のサポートを得つつ、ゼミ生同士で協働的な関係を構築することができる。 自らが研究者となってインタビュー調査を実施するイメージをつかむ。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
第1回 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス 自己紹介/ゼミの内容と進め方について 復習：配布資料を読み返す			
第2回 予習：他の授業で習った『心理アセスメント』について復習しておく 授業：心理アセスメントのワーク① 限られた情報から仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す			
第3回 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク② 観察を通して仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す			
第4回 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク③ 面接を通して仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す			
第5回 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク④ 仮説を文章化する 復習：配付資料を読み返す			
第6回 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク⑤ 仮説について発表・協議する 復習：配付資料を読み返す			
第7回 予習：基礎ゼミ等で学んだ学術論文の読み方について復習しておく 授業：心理学的研究の基礎① いかに探し出すのか 復習：配付資料を読み返す			
第8回 予習：基礎ゼミ等で学んだ文献検索の方法について復習しておく 授業：心理学的研究の基礎② いかに読むのか 復習：配付資料を読み返す			
第9回 予習：基礎ゼミ等で学んだ文献内容の要約の書き方について復習しておく			

<p>授業：心理学的研究の基礎③ いかにも内容をまとめるのか  復習：配付資料を読み返す</p> <p>第10回  予習：インタビューを用いた心理学的研究を検索する  授業：インタビュー（面接）の基礎  復習：配付資料を読み返す</p> <p>第11回  予習：試行インタビューのテーマや対象について考えておく  授業：ゼミ面談①  復習：面談をふまえ試行インタビューの計画を立てる</p> <p>第12回  予習：試行インタビューのテーマや対象について考えておく  授業：ゼミ面談②  復習：面談をふまえ試行インタビューの計画を立てる</p> <p>第13回  予習：試行インタビューのテーマや対象について考えておく  授業：ゼミ面談③  復習：面談をふまえ試行インタビューの計画を立てる</p> <p>第14回  予習：試行インタビューの計画を資料にまとめる  授業：試行インタビュー計画発表会①  復習：計画発表会の内容とコメントを振り返る</p> <p>第15回  予習：試行インタビューの計画を資料にまとめる  授業：試行インタビュー計画発表会②  復習：計画発表会の内容とコメントを振り返る</p>								
授業開始前学習	日常生活において自分なりの“問い”（なぜ？／どうして？）を見つけておくこと。 文献の検索方法や読み方、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などについて、2年次までの授業で身につけたことを復習しておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	ワークや発表の内容について、授業内で個別にフィードバックを行う。 試行インタビューの計画発表会においては、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	適宜紹介する。							
評価の基準と方法	ワークや試行インタビュー計画会における発表（60%）、および授業への取り組み姿勢（40%）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅡ・Ⅲ・Ⅳ							
その他	3年次に身につけたスキルをもとに、4年次にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							



科目名称	心理学ゼミ I		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。3年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について理解を深め、研究方法の基礎を身に付けていくことを目標とする。3年生前期は、基礎文献の購読と発表、専門機関の見学（予定）を行う。		
到達目標	司法・犯罪領域の専門書を読みこなし、まとめ、発表する能力を身に付けながら、基礎的理論の習得を目指す。専門機関の役割とそこで活躍する専門職の実践について理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：非行や家族問題でニュースになったことをメモしてくる。  授業：ガイダンス（ゼミの進め方、全体計画の説明等）  復習：ガイダンスの振り返り</p> <p>【第 2 回】  予習：関心がある司法・犯罪領域のテーマを考える  授業：発表（自分が関心のあるテーマ）、文献研究の方法、発表の担当決め  復習：文献等の検索を行い、購読する文献等を選定する。</p> <p>【第 3 回】  予習：ゼミ面談の準備を行う。購読する文献等の検索  授業：ゼミ面談、購読する文献等の検索  復習：面談の振り返りを行う。</p> <p>【第 4 回】  予習：【第 4 回】で扱う専門書の購読  授業：専門書の購読①（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 5 回】  予習：【第 5 回】で扱う専門書の購読  授業：専門書の購読②（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 6 回】  予習：【第 6 回】で扱う専門書の購読  授業：専門書の購読③（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 7 回】  予習：【第 7 回】で扱う専門書の購読  授業：専門書の購読④（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 8 回】  予習：非行や犯罪に関する記事を調べる。  授業：事例研究、判例紹介  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 9 回】  予習：【第 9 回】で扱う論文の購読  授業：研究論文購読①（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 10 回】  予習：【第 10 回】で扱う論文の購読  授業：研究論文購読②（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 11 回】  予習：【第 11 回】で扱う論文の購読  授業：研究論文購読③（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第 12 回】  予習：【第 12 回】で扱う論文の購読  授業：研究論文購読④（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p>			

<p>【第13回】  予習：関係機関見学に向けての文献等の購読  授業：関係機関見学に向けて、文献等の購読（発表、ディスカッション）  復習：授業を踏まえての整理</p> <p>【第14回】  予習：関係機関見学に際しての質問事項を考える。  授業：関係機関の見学（予定）  復習：見学の結果をまとめる。</p> <p>【第15回】  予習：課題作成に向けた準備を行う。  授業：関係機関の見学の振り返り、ディスカッション、レポート課題作成  復習：授業全体の振り返りを行う。</p>								
授業開始前学習	この領域において、自分が関心のある文献や小説、漫画、新聞等を読み、どのような社会問題が起こっているのかを把握しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表やディスカッションを踏まえて、適宜、コメントをする。							
テキスト・教材	特に指定しない。授業の中で適宜紹介する。							
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのか』（合同出版）							
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、授業での発表50%、授業の取組状況30%、レポート課題20%の配分で総合評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	司法・犯罪心理学， 家族心理学を受講しておくことが望ましい。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献や論文の講読は分担を決め、担当者が内容、疑問点、討議したい事項などをレジュメとしてまとめ発表する。まとめ方、発表の仕方を学ぶ機会なので、巧拙は心配いらない。発表、ディスカッションには積極的な参加が望まれる。</li> <li>・3年生前期には関係機関見学、後期には家庭裁判所の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。交通費は各自負担となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件， 家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえた講義を行う。							

科目名称	心理学ゼミ I		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学研究の構造と研究法について知識を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。3年前期は、各自が関心を抱いたテーマに関する研究論文を批判的に講読し、ディスカッションによって理解を深めること、グループワークによって文献研究を行う。		
到達目標	心理学の研究論文の構造を理解し、批判的に読むための視点を身につける。研究テーマの設定の仕方と文献研究の方法を理解し、グループ研究を通して身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：ゼミで学びたいテーマについて考え、メモを作成する  授業：ガイダンス スピーチ（ゼミで学びたいこと） 履修相談  復習：ガイダンスの内容を復習し、発表を希望する回を決めておく</p> <p>【第 2 回】  予習：【第 1 回】で配布された資料の講読  授業：心理学研究の構造と手順  復習：キーワード(臨床心理学の実践性と実証性)の復習</p> <p>【第 3 回】  予習：基礎ゼミで学んだ文献検索の方法を復習しておく  授業：文献研究の方法  復習：図書館で文献検索を行い、発表する研究論文を検討する。</p> <p>【第 4 回】  予習：第 3 回で入手した文献を読んでおく  授業：文献研究の批判的講読とは  復習：図書館で文献検索を行い、発表する研究論文を選択する</p> <p>【第 5 回】  予習：【第 5 回】で発表される資料の講読  授業：心理学研究論文の講読 1（プレゼンテーションとグループディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 6 回】  予習：【第 6 回】で発表される研究論文の講読  授業：心理学研究論文の講読 2（プレゼンテーションとグループディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 7 回】  予習：【第 7 回】で発表される研究論文の講読  授業：心理学研究論文の講読 3（プレゼンテーションとグループディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 8 回】  予習：【第 8 回】で発表される研究論文の講読  授業：心理学研究論文の講読 4（プレゼンテーションとグループディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 9 回】  予習：【第 9 回】で発表される研究論文の講読  授業：心理学研究論文の講読 5（プレゼンテーションとグループディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 10 回】  予習：【第 10 回】で発表される研究論文の講読  授業：心理学研究論文の講読 6（プレゼンテーションとグループディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 11 回】  予習：【第 11 回】で発表される研究論文の講読  授業：心理学研究論文の講読 7（プレゼンテーションとグループディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 12 回】  予習：【第 12 回】で発表される研究論文の講読  授業：心理学研究論文の講読 8（プレゼンテーションとグループ・ディスカッション）  復習：授業でのコメントを参考にして研究論文を読み直す</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：グループ研究のテーマに関する文献を図書館で調べる 授業：グループ研究 1 テーマの検討（グループワーク） 復習：収集した文献の講読 【第 14 回】 予習：文献検索を続ける、研究計画を考える 授業：グループ研究 2 文献検索・テーマの検討（グループワーク） 復習：研究計画の検討と発表の準備 【第 15 回】 予習：発表の準備 授業：グループ研究 3 グループ研究のテーマ報告（プレゼンテーション） 復習：授業全体の振り返りとレポート作成								
授業開始前学習	心理学研究法の基礎的な知識が必要である。基礎ゼミ I・II や心理学入門で学んだ文献研究の方法について復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	文献講読の発表については、授業内でディスカッションとフィードバックを行う。グループ研究のプレゼンテーションについても、授業内でディスカッションとコメントを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。講読する文献は、適宜プリントを配布する。							
参考書	特に指定しない。							
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での報告（60 点）、授業態度（30 点）、レポート（10 点）による。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かす自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「基礎ゼミ I・II」や「心理学入門」で学んだ文献研究の方法について、各自の文献講読と発表、グループ研究でのテーマ設定を通してより深く理解する。							
その他	講義と発表・討論を行う。発表の回は、発表者の報告の後、全員でディスカッションを行ったり、グループに分かれて課題を行ったりする。積極的に授業に参加することが求められる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の実践と研究の関連について講義する。							

科目名称	心理学ゼミ I		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00~16:00 後期 金曜日 13:00~16:00	研究室	10-710
授業概要	3年生前期では、臨床心理学的テーマについて、小グループでのPBL (problem based learning) を行う。自分が関心を持った事例・記事を紹介し、紹介された事例について、グループで臨床心理学的な観点から問題抽出を行う。抽出された問題について、グループで手分けして調べ、成果をまとめ、抄録集 (Google ドキュメント) とスライド (Google スライド) を用いてグループ発表する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索を適切に行えるようになる。</li> <li>2. 事象における臨床心理学的問題点を抽出できる。</li> <li>3. 抽出された問題を理解、解決するために必要な知識を、先行研究から得ることができる。</li> <li>4. 具体的な個別の事象を、臨床心理学の一般概念に還元して説明できる。</li> <li>5. グループ・ワークで、自分の意見を分かり易く説明し、かつ、他者の意見を受けとめることができる。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第1回】  予習 : アドバイザークラスでの成果を踏まえ、関心テーマを検討  授業 : イントロダクション/関心テーマの確認/グループ分け  復習 : 効率よく取り組めるよう、シラバスにて半期の流れを確認</p> <p>【第2回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 1 : 事例の選択・提示  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第3回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 2 : 用語調べ 1  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第4回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 3 : 用語調べ 2  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第5回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 4 : 問題抽出 3  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第6回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 5 : 問題の理解と対応 1  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第7回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 6 : 問題の理解と対応 2</p> <p>【第8回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 7 : さらなる理解に必要な知識・概念 1  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第9回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 8 : さらなる理解に必要な知識・概念 2  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第10回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 9 : さらなる理解に必要な知識・概念 3  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第11回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 10 : 発表準備 1 (Word 抄録作成)  復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合</p> <p>【第12回】  予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索  授業 : 小グループ PBL 11 : 発表準備 2 (Word 抄録作成・提出)</p>			

復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合 【第13回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループPBL12：発表準備3（PPTスライド作成） 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合 【第14回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループPBL13：発表準備4（PPTスライド作成・提出） 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合 【第15回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループPBL14：発表会 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合								
授業開始前学習	文献の調べ方やレポートの書き方、発表の仕方について、基礎ゼミで身につけたことを復習しておくが良い。							
授業内課題のフィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、グループ得点（30点）、個人得点（70点）の計100点で評価する。なお、グループ得点は、発表会の抄録10点、スライド10点、発表10点（質疑応答を含む）からなる。個人得点は、毎回のグループワークへの取り組み3点×15回＝45点、発表会の司会・指定討論等15点、指定討論以外のディスカッション10点からなる。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かすことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学関連の科目を広く履修していることが役立つ。							
その他	図書館の積極的利用が望まれる。また、CiNiiなどの文献データベースを活用できるようになることが望まれる。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							



科目名称	心理学ゼミ I		
科目分類	130-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	<p>心理学ゼミ I -f は、認知心理学とその応用研究について学ぶ。 とくに、以下 2 つのテーマについて、文献購読、研究例の発表・グループ討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。</p> <p>心理学ゼミ I -f の演習テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」 (認知心理学の応用研究)</li> <li>2. 「言葉の使用とその認知機能について」</li> </ol>		
到達目標	<p>認知心理学について概要を理解し、代表的認知機能（感覚、知覚、記憶）研究成果を説明できるようになる。個々の研究を詳しく調べる方法と技術、調べた内容を発表する技能を身につける（パワーポイントの使用法など）。さらに、1 つのテーマ研究について発表ができるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：心理学辞典等で認知心理学について調べる 授業：ゼミガイダンス 内容確認 認知心理学について 復習：認知心理学の研究範囲についてまとめる</p> <p>【第 2 回】 予習：資料 1（英文） 7P の講読 授業：心理学の範囲について 講読演習 資料 1（英文） 7P～8P 復習：身の回りの心理学的問題を考察する</p> <p>【第 3 回】 予習：資料 1（英文） 8P～9P の講読 授業：心理学の広範囲な研究例について 講読演習 資料 1（英文） 8P～9P（発表） 復習：5 つのトピックスから興味ある 1 点を取り上げレポートを作成する</p> <p>【第 4 回】 予習：資料 1（英文） 10P～12P の講読 授業：心理学の歴史について 講読演習 資料 1（英文） 10P～12P（発表） 復習：実験心理学の起源を整理する</p> <p>【第 5 回】 予習：資料 1（英文） 13P～14P の講読 授業：心理学の研究枠組みについて 講読演習 資料 1（英文） 13P～14P（発表） 復習：心理学の認知的枠組みを日本語でまとめる</p> <p>【第 6 回】 予習：資料 1（英文） 15P～16P の講読 授業：心理学と生物学について 講読演習 資料 1（英文） 15P～16P（発表） 復習：生物学的指標について整理する 英文講読レポートの資料調べと作成</p> <p>【第 7 回】 予習：資料 1（英文） 17P～20P の講読 授業：心理学の研究方法について 講読演習 資料 1（英文） 17P～20P 英文講読レポート提出 復習：相関的方法（相関研究）を日本語でまとめる</p> <p>【第 8 回】 予習：資料 2（認知心理学 日本語） 120P～125P の講読 授業：認知機能と脳について 復習：脳の仕組みに関するキーワードを整理する</p> <p>【第 9 回】 予習：資料 2 126P～129P の講読 授業：認知機能 1 認知を支える脳について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：脳に関するキーワードを整理する</p> <p>【第 10 回】 予習：資料 2 130P～134P の講読 授業：認知機能 2 視覚について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：視覚に関するキーワードを整理する</p> <p>【第 11 回】 予習：資料 2 136P～140P の講読 授業：認知機能 3 学習について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：条件づけについて確認する</p> <p>【第 12 回】 予習：資料 2 142P～144P の講読</p>			



<p>授業：認知機能 4 知覚・認知について 発表とグループ討論 (プレゼンテーション、ディスカッション)  復習：認知に関するキーワードを整理する 認知機能講読レポートの資料調べと作成  【第 13 回】  予習：資料 2 146P～148P の講読  授業：認知機能 5 認知機能の理論について 発表とグループ討論 認知機能講読レポート提出 (プレゼンテーション、ディスカッション)  復習：認知の状況論についてまとめる  【第 14 回】  予習：資料 2 150P～153P の講読  授業：認知機能 6 記憶について 発表とグループ討論 (プレゼンテーション、ディスカッション)  復習：記憶に関するキーワードを整理する  【第 15 回】  予習：資料 2 154P～156P の講読  授業：認知機能 7 記憶のモデルについて 発表とグループ討論 (プレゼンテーション、ディスカッション)  復習：短期記憶と長期記憶についてまとめる</p>								
授業開始前学習	授業開始前学習 認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間後 (授業 9、15 回目) に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。							
参考書	中島・子安等 (編)、1999、『心理学辞典』(有斐閣)							
評価の基準と方法	発表内容 (2 回) と学期内のレポート (2 回) により評価を行う。 (全体を 100 点としたとき) 配点は、発表内容評価 50 点と学期内レポート評価 50 点とする。 発表内容評価には、授業内での討論状況を加味する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「認知心理学」を履修しておく内容が良くわかる							
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉 (言語使用) について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業を 3 の 1 を超えて欠席した場合は、単位を修得できない。 単位修得には、課題発表 (2 回) と学期末のレポート提出 (1 回) を行うことが必要である。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学ゼミ I		
科目分類	130-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミ I-h」は、発達心理学および認知心理学といった領域を中心に上げつつ、心理学の近年の動向や実践の場にも目を配りながら学びを深め、心理学的なものの方（科学的探求のロジック）を身に付けることを目標とする。		
到達目標	卒業論文・ゼミ論文のテーマを検討するための基礎的な知識を習得し、そのテーマに関連する先行研究の文献や資料の要点を把握できるようになること。グループ・ディスカッションの基本を知ること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第 1 回】 予習：授業スケジュールを確認しておくこと 授業：ゼミのガイダンス 学外での観察とゼミの内容確認（生涯発達心理学について） 復習：発達心理学および認知心理学の研究範囲について振り返る			
【第 2 回】 予習：資料①の講読および疑問点の抽出（参考書 p.1-22） 授業：発達心理学の研究領域について（1：乳児期その1）講読演習（資料①）（発表） 復習：資料①の内容を振り返る			
【第 3 回】 予習：資料②の講読および疑問点の抽出（参考書 p.23-46） 授業：発達心理学の研究領域について（2：乳児期その2）講読演習（資料②）（発表） 復習：資料②の内容を振り返る			
【第 4 回】 予習：資料③の講読および疑問点の抽出（参考書 p.47-68） 授業：発達心理学の研究領域について（3：幼児期）講読演習（資料③）（発表） 復習：資料③の内容を振り返る			
【第 5 回】 予習：資料④の講読および疑問点の抽出（参考書 p.69-86） 授業：発達心理学の研究領域について（4：児童期）講読演習（資料④）（発表） 復習：資料④の内容を振り返る			
【第 6 回】 予習：資料⑤の講読および疑問点の抽出（参考書 p.87-112） 授業：発達心理学の研究領域について（5：思春期）講読演習（資料⑤）（発表） 復習：資料⑤の内容を振り返る			
【第 7 回】 予習：資料⑥の講読および疑問点の抽出（参考書 p.113-130） 授業：発達心理学の研究領域について（6：青年期）講読演習（資料⑥）（発表） 復習：資料⑥の内容を振り返る			
【第 8 回】 予習：資料⑦の講読および疑問点の抽出（参考書 p.131-152）および学外での観察に関する準備 授業：発達心理学の研究領域について（7：成人初期）講読演習（資料⑦）および学外での観察に備えての議論（グループワーク） 復習：資料⑦の内容および観察に関する議論を振り返る			
【第 9 回】 予習：資料⑧の講読および疑問点の抽出（参考書 p.153-174）および学外での観察に関する準備 授業：発達心理学の研究領域について（7：中年期）講読演習（資料⑧）および学外での観察に備えての議論（グループワーク） 復習：資料⑧の内容および観察に関する議論を振り返る			
【第 10 回】 予習：資料⑨の講読および疑問点の抽出（参考書 p.175-204）および学外での観察に関する準備 授業：発達心理学の研究領域について（7：老年期）講読演習（資料⑨）および学外での観察に備えての議論（グループワーク） 復習：資料⑨の内容および観察に関する議論を振り返る			
【第 11 回】 予習：学外での観察に関する準備 授業：発達心理学のまとめとしての実践の観察（グループワーク） 復習：実際の観察と発達心理学のなかで関心を持ったキーワードとの関連を振り返る			
【第 12 回】 予習：学外での観察のまとめおよび資料⑩の購読 授業：学外での観察の振り返り（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：資料⑩の内容を振り返る			
【第 13 回】			

予習：資料①の講読および疑問点の抽出 授業：発達心理学の課題と方法（発表） 復習：資料①の内容を振り返る 【第14回】 予習：資料②の講読および疑問点の抽出 授業：発達心理学の課題と方法（発表） 復習：資料②の内容を振り返る 【第15回】 予習：これまでの購読した資料および観察の内容を振り返っておく 授業：前期授業のまとめ 復習：これまで使用した資料や観察の内容を振り返り、キーワードを整理する								
授業開始前学習	発達心理学の入門書を読み、その概要を理解しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	講読した文献資料およびディスカッションの内容を振り返る。特にディスカッションの際に作成したメモやノートの内容にもとづき、反省点も踏まえて授業内で講評の機会を設ける。							
テキスト・教材	テキスト・教材は適宜指示し、資料を配布する。							
参考書	岡本祐子・深瀬裕子（編著）『エピソードでつかむ 生涯発達心理学』ミネルヴァ書房，2013年刊							
評価の基準と方法	授業内での発表（40%）と学期末のレポート（1回：40%）、授業態度・授業への貢献（20%）をもとに総合的に評価を決定する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学関連の授業は全て関連があると考えてほしい。							
その他	発達心理学、認知心理学などの概要を把握することはもちろんだが、本授業では、それらの領域の知見をできるだけ身近に感じてもらうために予備的な実験や調査を計画するような実践的な内容も実施していく予定である。また受講者の興味や関心などに応じて柔軟にテーマを設定していく場合もある。資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用のUSBメモリを用意すること。  東京近郊にて正課外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅡ		
科目分類	130-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	3年後期では、質的研究法のうち会話分析とディスコース分析を取り上げる。また、言葉を量的に分析する対応分析（テキストマイニング）についても扱う。後期は、批判的思考を養うとともに、問題設定からデータ収集、分析、結果の考察までの心理学における実証的な流れを体験して卒業論文の執筆に役立つ能力を身につけることが目標である。		
到達目標	質的研究法によって、自らの関心を心理学研究の枠組みから体系化し、分析することができる。また、こうした方法論の習得を通して、物事を批判的・多角的に考察することができるようになる。さらに、卒業論文作成の基礎となる手続きに習熟する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：事前に配布した課題論文を読む 授業：イントロダクション 復習：出題された課題に取り組む			
【第2回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—会話分析①（概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習			
【第3回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—会話分析②（データ取得）（実習） 復習：授業を踏まえてデータを取得する			
【第4回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—会話分析③（文字起こし）（実習） 復習：授業を踏まえて文字起こしを行う			
【第5回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—会話分析④（シークエンスの分析）（実習） 復習：授業を踏まえてシークエンスの分析を行う			
【第6回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—ディスコース分析①（概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習			
【第7回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—ディスコース分析②（テキストの分析）（実習） 復習：授業を踏まえてテキストの分析を行う			
【第8回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—ディスコース分析③（映像の分析）（実習） 復習：授業を踏まえて映像を分析する			
【第9回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—ディスコース分析④（広告の分析）（実習） 復習：授業を踏まえて広告を分析する			
【第10回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—ディスコース分析⑤（発表） 復習：発表へのフィードバックを読む			
【第11回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—テキストマイニング①（概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習			
【第12回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際—テキストマイニング②（曲・ウェブの分析）（実習） 復習：授業を踏まえて曲・ウェブを分析する			
【第13回】			

予習 : 出題された課題に取り組む 授業 : 質的研究法の実際—テキストマイニング③ (発表) 復習 : 発表へのフィードバックを読む 【第 14 回】 予習 : 出題された課題に取り組む 授業 : 質的研究法の実際—質的研究法の進め方 (概要の講義) 復習 : 内容についての配布プリントの復習 【第 15 回】 予習 : 出題された課題に取り組む 授業 : 質的研究法の実際—リサーチエスジョンと先行研究 (実習) 復習 : 授業を踏まえてリサーチエスジョンと先行研究をまとめる								
授業開始前学習	関心のあるテーマについて、自分なりに関連書籍・論文にあたってみる。							
授業内課題のフィードバックの方法	各分析過程および結果発表において適宜コメントを行う。レポートは添削して返却する。							
テキスト・教材	プリントを配布する。							
参考書	鈴木聡志 (2007) 『会話分析・ディスコース分析—ことばの織りなす世界を読み解く (ワードマップ)』新曜社 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版							
評価の基準と方法	授業での発表・調べ学習の成果 60%, 授業への貢献 40%							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学実験 I・II							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅡ		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-715
授業概要	<p>ゼミの全体的なテーマは、『心を観察し、問いかける』ことである。これは、「目の前にいるこの人はどんな人なのか?」、「いかに生きてきたのか?」、「どうしてそうせざるを得なかったのか?」といった問いに対して、「もしかしたら、～～～なのかもしれない」といった仮説を立てることを指している。『心を観察し、問いかける』ことは心理専門職による心理アセスメントの本質である。しかし、心理専門職でなくとも、心理アセスメントの基本的なやり方、考え方を学ぶことで、私たちは日常生活において相手のことをさらに深く、的確に理解し、よりよく関わることができるようになるかもしれない。そして、『観察』や『面接』といった手法を用いる『研究』においても、学びが活きる可能性がある。</p> <p>3年次の後期は、夏休み中に各自で行った試行インタビューについて報告し、調査研究におけるインタビューという手法について理解を深める。そして、興味・関心を持った先行研究の内容について資料にまとめて発表し、ゼミ生同士で議論を重ねながら、各自が研究テーマ = “問い” を見つけることを目指す。最終的に、研究テーマ発表会にてプレゼンテーションを行う。</p>		
到達目標	<p>3年次の前期に引き続き、心理学的研究の基礎について学び、各自がゼミ論文／卒業論文を書くことについて具体的にイメージできるようになる。</p> <p>調査研究におけるインタビューという手法について理解を深める。</p> <p>ゼミ生同士の協働を通して、自分の研究テーマを見つることができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>第1回</b>  予習：夏休み中に各自で試行インタビューを行う  授業：ガイダンス 今後のスケジュールの確認  復習：試行インタビュー報告会の資料を作成する</p>			
<p><b>第2回</b>  予習：試行インタビュー報告会の準備を進める  授業：試行インタビュー報告会①  復習：報告会の内容とコメントを振り返る</p>			
<p><b>第3回</b>  予習：試行インタビュー報告会の準備を進める  授業：試行インタビュー報告会②  復習：報告会の内容とコメントを振り返る</p>			
<p><b>第4回</b>  予習：試行インタビュー報告会の準備を進める  授業：試行インタビュー報告会③  復習：報告会の内容とコメントを振り返る</p>			
<p><b>第5回</b>  予習：質的研究法について調べる  授業：インタビュー内容の整理・分析法①  復習：配付資料を読み返す</p>			
<p><b>第6回</b>  予習：第5回授業にて配布された資料を読み返す  授業：インタビュー内容の整理・分析法②  復習：配付資料を読み返す</p>			
<p><b>第7回</b>  予習：興味・関心を持った先行研究について資料にまとめる  授業：先行研究の発表（紹介）①  復習：発表した先行研究を読み返す／関連する他の先行研究を検索する</p>			
<p><b>第8回</b>  予習：興味・関心を持った先行研究について資料にまとめる  授業：先行研究の発表（紹介）②  復習：発表した先行研究を読み返す／関連する他の先行研究を検索する</p>			
<p><b>第9回</b>  予習：興味・関心を持った先行研究について資料にまとめる</p>			



<p>授業：先行研究の発表（紹介）③  復習：発表した先行研究を読み返す／関連する他の先行研究を検索する</p> <p>第10回  予習：研究テーマ発表会の準備をする  授業：ゼミ面談①  復習：面談をふまえ発表会資料を作成する</p> <p>第11回  予習：研究テーマ発表会の準備をする  授業：ゼミ面談②  復習：面談をふまえ発表会資料を作成する</p> <p>第12回  予習：研究テーマ発表会の準備をする  授業：ゼミ面談③  復習：面談をふまえ発表会資料を作成する</p> <p>第13回  予習：研究テーマ発表会の準備をする  授業：研究テーマ発表会①  復習：発表会の内容とコメントを振り返る</p> <p>第14回  予習：研究テーマ発表会の準備をする  授業：研究テーマ発表会②  復習：発表会の内容とコメントを振り返る</p> <p>第15回  予習：研究テーマ発表会の準備をする  授業：研究テーマ発表会③  復習：発表会の内容とコメントを振り返る</p>								
授業開始前学習	3年次前期のゼミで習得した内容について振り返っておくこと。不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	研究テーマ立案の進行状況に合わせて、授業内で個別にフィードバックを行う。試行インタビュー報告会および研究テーマ発表会では、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	適宜紹介する。							
評価の基準と方法	試行インタビュー報告会および研究テーマ発表会の内容（60%）、および授業への取り組み姿勢（40%）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人々が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅲ・Ⅳ							
その他	3年次に身につけたスキルをもとに、4年次にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							



科目名称	心理学ゼミⅡ		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。3年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について理解を深め、研究方法の基礎を身に付けていくことを目標とする。3年生後期は、グループ研究を通して、そのテーマが抱える問題の分析と考察を行うとともに、研究方法の基本を学ぶ。家庭裁判所の見学も行う（予定）。		
到達目標	グループ研究を通して、研究方法の基本を身に付ける。司法・犯罪領域の社会問題についての分析と考察を行う姿勢を身に付ける。 家庭裁判所の機能と家庭裁判所調査官の役割について理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：夏季に文献等を調べ、グループ研究のテーマを考える。 授業：ガイダンス（全体計画の説明等）、グループ研究のテーマの検討（グループワーク） 復習：検討結果の整理を行う。</p> <p>【第2回】 予習：グループ研究のテーマの発表の準備を行う。 授業：グループ研究のテーマの発表、ディスカッション 復習：ディスカッションの結果の整理を行う。</p> <p>【第3回】 予習：配布資料を精読する。 授業：研究計画の立て方（講義）、研究計画の立案（グループワーク） 復習：グループワークの結果を整理する。</p> <p>【第4回】 予習：研究計画を検討する。 授業：研究方法（講義）、研究計画の立案（グループワーク） 復習：配布資料の見返し</p> <p>【第5回】 予習：グループ研究の作業内容を検討する。 授業：文献の整理及び研究結果のまとめ方（講義）、グループ研究① 復習：グループ研究の整理を行う。</p> <p>【第6回】 予習：グループ研究の作業内容を検討する。 授業：グループ研究② 復習：グループ研究の整理を行う。</p> <p>【第7回】 予習：グループ研究の作業内容を検討する。 授業：グループ研究③ 復習：研究結果の整理に向けて、役割分担を考える。</p> <p>【第8回】 予習：グループ研究の作業内容を検討する。 授業：グループ研究④ 復習：研究結果の整理を行う。</p> <p>【第9回】 予習：グループ研究の作業内容を検討する。 授業：グループ研究⑤ 復習：研究結果の整理を行う。</p> <p>【第10回】 予習：研究結果の発表内容の構成等を考える。 授業：グループ研究⑥、研究結果の発表の準備① 復習：発表資料の作成を行う。</p> <p>【第11回】 予習：発表資料の作成、ゼミ面談の準備 授業：研究結果の発表の準備②、ゼミ面談 復習：発表資料の作成、発表担当個所の整理を行う。</p> <p>【第12回】 予習：各グループの作成資料等の精読 授業：グループ研究の発表、ディスカッション</p>			

復習：発表の振り返り 【第13回】 予習：家庭裁判所の機能と家庭裁判所調査官の役割を調べる。 授業：家庭裁判所見学に向けて、文献等の購読（発表、ディスカッション） 復習：ディスカッションの結果の振り返り 【第14回】 予習：家庭裁判所見学に際しての質問事項を考える。 授業：家庭裁判所の見学（予定） 復習：見学の結果をまとめる。 【第15回】 予習：課題作成に向けた準備を行う。 授業：家庭裁判所の見学の振り返り、レポート課題作成 復習：授業全体の振り返り。4年生で行う研究のテーマを検討する。								
授業開始前学習	関心のあるテーマの文献を読み、グループ研究のテーマを考えておくこと							
授業内課題のフィードバックの方法	発表やディスカッションを踏まえて、適宜、コメントをする。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのか』（合同出版）							
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、グループ研究の取組状況50%、グループ研究の発表成果30%、レポート課題20%の配分で総合評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	司法・犯罪心理学， 家族心理学を受講しておくことが望ましい。							
その他	・グループ学習を行うので、互いに協力し、自主的な姿勢で臨む必要がある。 ・3年生前期には関係機関見学、後期には家庭裁判所の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求め。交通費は各自負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件， 家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえた講義を行う。							

科目名称	心理学ゼミⅡ		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学研究の構造と研究方法について知識を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。3年後期のゼミでは、受講生が定めたテーマに従ってグループで文献研究を実施し、関心を抱いた問題への理解を深めるとともに、臨床心理学の研究法を学ぶ。		
到達目標	グループで文献研究を実施することを通して、研究テーマの設定の仕方、批判的な文献講読の力、発表の仕方などを身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：グループ研究のテーマを検討しておく。  授業：ガイダンス グループ研究のテーマの検討・提出  復習：グループ研究のテーマについて文献を収集する。</p> <p>【第2回】  予習：グループ研究の準備として文献を収集する。  授業：文献の収集と講読1 テーマの検討（グループワーク）  復習：収集した文献を講読する。</p> <p>【第3回】  予習：収集した文献を講読する。  授業：文献の収集と講読2 テーマ決定（グループワーク）  復習：収集した文献を講読する。</p> <p>【第4回】  予習：収集した文献を講読する。  授業：文献の整理と論点の検討1（グループワーク）  復習：さらに文献を収集する。</p> <p>【第5回】  予習：収集した文献を講読する。  授業：文献の整理と論点の検討2（グループワーク）  復習：さらに文献を収集する。</p> <p>【第6回】  予習：文献を整理し、発表の準備をする。  授業：文献の整理と論点の検討3（グループワーク）  復習：文献を整理し、発表の準備をする。</p> <p>【第7回】  予習：文献を整理し、発表の準備をする。  授業：発表の準備1 発表資料の作成（グループワーク）  復習：発表資料を作成する。</p> <p>【第8回】  予習：発表の準備をする。  授業：発表の準備2 発表資料の作成（グループワーク）  復習：発表資料を完成させる。</p> <p>【第9回】  予習：プレゼンテーションの準備をする。  授業：発表会（プレゼンテーション）  復習：発表に対するフィードバックを確認する。</p> <p>【第10回】  予習：文献を収集する。  授業：卒業論文／ゼミ論文のテーマの検討1  復習：文献を収集する。</p> <p>【第11回】  予習：文献を収集する。  授業：卒業論文／ゼミ論文の文献収集と講読2  復習：文献の要点を整理する。さらに文献を収集する。</p> <p>【第12回】  予習：文献を講読する。  授業：卒業論文／ゼミ論文の文献収集と講読3  復習：文献の要点を整理する。さらに文献を収集する。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習 : 文献を講読する。          授業 : 卒業論文/ゼミ論文の文献収集と講読 4          復習 : 文献の要点を整理する。さらに文献を収集する。          【第 14 回】          予習 : 文献を講読する。          授業 : 卒業論文/ゼミ論文のテーマ決定          復習 : 卒業論文/ゼミ論文のテーマをまとめておく。          【第 15 回】          予習 : 卒業論文/ゼミ論文のテーマをまとめておく。          授業 : 研究テーマの発表 (プレゼンテーション) 研究テーマに関するレポートの提出          復習 : 発表に対するフィードバックを確認する。</p>								
授業開始前学習	グループ研究のテーマについて、文献を参考に考えておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	研究の遂行に関しては、授業内で随時グループごとにフィードバックを行う。最終的な研究発表に対しては、全体でのディスカッションとコメントシートを用いてフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	随時紹介する。							
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業 (グループワーク) への積極的貢献 (45 点)、グループ研究の発表成果 (45 点)、卒論もしくはゼミ論テーマに関するレポート (10 点) による。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミ I の内容を発展させ、心理学ゼミ III・IV の基礎となる内容である。							
その他	グループ学習なので、受講生同士で協力し、自主的に学ぶ積極的な姿勢が必要である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践の関連という視点を踏まえて指導を行う。							

科目名称	心理学ゼミⅡ		
科目分類	130-310-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-710
授業概要	3 年生後期では、前期に身につけた知識や関心をもとに、4 年生で取り組む研究テーマを決定し、研究計画書を作成、発表する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索を適切に行えるようになる。</li> <li>2. 事象における臨床心理学的問題点を抽出できる。</li> <li>3. 抽出された問題を理解、解決するために必要な知識を、先行研究から得ることができる。</li> <li>4. 具体的な個別の事象を、臨床心理学の一般概念に還元して説明できる。</li> <li>5. 他者に自分の意見を分かり易く説明し、かつ、他者からの意見を受けとめて生産的なディスカッションを行うことができる。</li> <li>6. 心理学研究の研究計画を立てられる。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 1（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 2 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 2（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 3 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 3（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 4 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 4（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 5 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 5（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 6 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 6（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 7 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 7（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 8 回】  予習：文献検索  授業：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 8（含、グループ・ディスカッション）  復習：文献検索</p> <p>【第 9 回】  予習：文献検索  授業：研究計画発表会準備：研究計画書（Google ドキュメント）作成  復習：文献検索</p> <p>【第 10 回】  予習：文献検索  授業：研究計画発表会準備：研究計画書（Google ドキュメント）作成・提出  復習：文献検索</p> <p>【第 11 回】  予習：文献検索  授業：研究計画発表会準備：プレゼン資料（Google スライド）作成  復習：文献検索</p> <p>【第 12 回】  予習：文献検索</p>			

授業 : 研究計画発表会準備 : プレゼン資料 (Google スライド) 作成・提出 復習 : 文献検索 【第 13 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画発表会 (発表、司会、指定討論など) 復習 : 文献検索 【第 14 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画修正 復習 : 文献検索 【第 15 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画修正・提出 復習 : 文献検索								
授業開始前学習	3 年前期に集めた資料から、自分の研究論文の核となりそうな文献をピックアップしておくといよ。							
授業内課題の フィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。							
テキスト・教材								
参考書	Web 検索だけでなく、臨床心理学関連の学会が発行している学術雑誌などの目次や研究内容などを図書館で直に確認すること。							
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 3 点×15 回=45 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点、司会・指定討論など 15 点、修正された研究計画書 10 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミ I							
その他	研究への取り組みにおいては、図書館や各種文献データベースの積極的利用が望まれる (オンラインで入手できない文献を図書館で、あるいは、図書館を通して入手する場合は、利用申請の仕方についてポータルサイトの情報を確認すること)。研究計画作成では、必ずその日の成果を発表し、互いにコメントし合うこと (ワークへの取り組みの評価点に含む)。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目名称	心理学ゼミⅡ		
科目分類	130-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	心理学ゼミⅠ-fに引き続き、心理学ゼミⅡ-fは、認知心理学とその応用研究について学ぶ。 とくに以下2つのテーマについて、文献購読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 心理学ゼミⅡ-fの演習テーマ 1. 「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」 (認知心理学の応用研究) 2. 「言葉の使用とその認知機能について」		
到達目標	認知心理学の代表的認知機能（記憶、言語、思考）に関する研究成果、実社会への応用研究を説明できるようになる。 個々の研究を詳しく調べる方法と技術、調べた内容を発表する技能を身につける（パワーポイントの使用法など）。さらに、1つのテーマ研究について発表ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：前期内容復習 授業：認知心理学について 授業説明 復習：基本事項確認</p> <p>【第2回】 予習：ウェブ利用を確認しておく 授業：心理学研究資料の利用 1 復習：興味ある研究論文を検索する</p> <p>【第3回】 予習：研究論文を収集しておく 授業：心理学研究資料の利用 2 復習：興味ある研究論文をまとめる（資料化する）</p> <p>【第4回】 予習：心理学研究の選定 授業：心理学研究発表資料の作成 1 復習：自分の発表資料の作成</p> <p>【第5回】 予習：心理学研究の選定 授業：心理学研究発表資料の作成 2 復習：自分の発表資料の作成</p> <p>【第6回】 《【第6回】～【第15回】の内容は、個別研究テーマにより変更されることがある》 予習：資料2 157P～159Pの講読 授業：記憶のモデルについて 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：意味記憶とエピソード記憶についてまとめる</p> <p>【第7回】 予習：資料4 1P～5Pの講読 授業：言葉の認知心理学研究について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：言葉の認知心理学研究に関するキーワード確認</p> <p>【第8回】 予習：資料4 6P～10Pの講読 授業：音韻理解の認知心理学研究について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：音韻理解に関するキーワード確認</p> <p>【第9回】 予習：資料4 27P～30Pの講読 授業：単語理解の認知心理学研究について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：単語理解に関するキーワード確認 認知心理学の応用レポート2の資料調べと作成</p> <p>【第10回】 予習：資料4 53P～59Pの講読 授業：視覚的単語理解の認知心理学研究について 発表とグループ討論 認知心理学の応用レポート2 提出（プレゼンテーション） 復習：視覚的単語理解に関するキーワード確認</p> <p>【第11回】 予習：資料4 103P～112Pの講読 授業：文理解の認知心理学研究について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：文理解に関するキーワード確認</p> <p>【第12回】 予習：資料3 167P～169Pの講読</p>			



<p>授業：住環境と認知心理学について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション）  復習：最近の住環境騒音に関する研究の検索  【第 13 回】  予習：資料 3 170P～171P の講読  授業：騒音と認知心理学について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション）  復習：最近の騒音に関する研究の検索  【第 14 回】  予習：資料 3 172P～173P の講読  授業：自然環境と認知心理学について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション）  復習：最近の自然環境に関する研究の検索  【第 15 回】  予習：資料 3 174P～175P の講読  授業：特殊環境と認知心理学について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション）  復習：特殊環境に関する研究の検索</p>								
授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題発表時に発表者へ個別フィードバックを行う。また、発表資料について、発表の翌週に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。							
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）							
評価の基準と方法	授業時提出課題と授業での発表内容（2 回）と学期末レポート（1 回）により評価を行う。 配点は、授業時提出課題が 20%、授業での発表内容（2 回）が 30%、学期末レポート（1 回）が 30%とする。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「認知心理学」を履修しておくことと内容が良くわかる。							
その他	<p>認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。</p> <p>資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。</p> <p>授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。</p> <p>単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。</p>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅡ		
科目分類	130-310-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅡ-h」は、「心理学ゼミⅠ-h」に引き続いて、発達心理学および認知心理学といった領域の理解を深めつつ、実験や調査を実施するための具体的方法を身に付けることを目標とする。		
到達目標	卒業論文・ゼミ論文の研究計画書を作成すること。そのために前期の「心理学ゼミⅠ-h」に引き続き、テーマを検討するための基礎的な知識を習得し、そのテーマに関連する先行研究の文献や資料の要点を把握できるようになること。グループ・ディスカッションに慣れること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：授業スケジュールを確認しておくこと 授業：ゼミのガイダンス 内容確認 認知心理学と発達心理学の交差部分について 復習：発達心理学および認知心理学の研究範囲について振り返る</p> <p>【第2回】 予習：資料の講読①および疑問点の抽出 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習（グループワーク） 復習：資料の内容を振り返る</p> <p>【第3回】 予習：資料の講読②および疑問点の抽出 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習（グループワーク） 復習：資料の内容を振り返る</p> <p>【第4回】 予習：資料の講読③および疑問点の抽出 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習（グループワーク） 復習：資料の内容を振り返る</p> <p>【第5回】 予習：資料の講読④および疑問点の抽出 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習（グループワーク） 復習：資料の内容を振り返る</p> <p>【第6回】 予習：資料の講読⑤および疑問点の抽出 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習（グループワーク） 復習：資料の内容を振り返る</p> <p>【第7回】 予習：資料の講読⑥および疑問点の抽出 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習（グループワーク） 復習：資料の内容を振り返る</p> <p>【第8回】 予習：資料の講読⑦・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習および卒業研究の構想準備（グループワーク）（ディスカッション） 復習：資料の内容および卒業研究の構想準備の議論を振り返る</p> <p>【第9回】 予習：資料の講読⑧・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習および卒業研究の構想準備（グループワーク）（ディスカッション） 復習：資料⑧の内容および観察に備えての議論を振り返る</p> <p>【第10回】 予習：資料の講読⑨・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習および卒業研究の構想準備（グループワーク）（ディスカッション） 復習：資料の内容および学外での観察に備えての議論を振り返る</p> <p>【第11回】 予習：卒業研究に向けた資料検索 授業：検索した資料の内容を精査し、まとめる（グループワーク）（ディスカッション） 復習：観察の内容を振り返る</p> <p>【第12回】 予習：資料の講読⑩・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業：精査した資料の内容を発表する（プレゼンテーション） 復習：発表の内容を振り返る</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：資料の講読⑩・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備          授業：精査した資料の内容を発表する（プレゼンテーション）          復習：発表の内容を振り返る          【第14回】          予習：資料の講読⑪・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備          授業：精査した資料の内容を発表する（プレゼンテーション）          復習：発表の内容を振り返る          【第15回】          予習：購読した資料（①から⑪まで）の内容を振り返る          授業：検索・発表した資料の内容のまとめ          復習：これまで使用した資料および観察内容を振り返り、キーワードを整理する</p>								
授業開始前学習	発達心理学の入門書を読み、その概要を理解しておくことを勧めたい。							
授業内課題のフィードバックの方法	講読した文献資料およびディスカッションの内容を振り返る。特にディスカッションの際に作成したメモやノートにもとづき、反省点も踏まえて授業内で講評の機会を設ける。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業内での発表（40%）と学期末のレポート（1回：40%）、授業態度・授業への貢献（20%）をもとに総合的に評価を決定する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学関連の授業は全て関連があると考えてほしい。							
その他	<p>発達心理学、認知心理学などの概要を把握することはもちろんだが、本授業では、それらの領域の知見をできるだけ身近に感じてもらうために予備的な実験や調査を計画するような実践的な内容も実施していく予定である。また受講者の興味や関心などに応じて柔軟にテーマを設定していく場合もある。資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用のUSBメモリを用意すること。</p> <p>東京近郊にて正課外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅢ		
科目分類	130-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	各自が自分の関心に沿った質的心理学研究を行い、それを卒業論文をはじめとした研究論文としてまとめることを目指す。特に前期では、自らの関心を心理学の問いに落とし込みリサーチクエストを立て、先行研究の調査とデータの取得を行うことが目標となる。		
到達目標	自らの関心を心理学の方法論に沿って位置付け直し、リサーチクエストに沿って先行研究の整理やデータの取得を行うことができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：自身の研究テーマを絞る  授業：イントロダクション  復習：出題された課題に取り組む</p> <p>【第2回】  予習：自身の研究テーマをまとめる  授業：リサーチクエストおよび研究テーマの発表①（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第3回】  予習：自身の研究テーマをまとめる  授業：リサーチクエストおよび研究テーマの発表②（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第4回】  予習：自身の研究テーマをまとめる  授業：リサーチクエストおよび研究テーマの発表③（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第5回】  予習：自身の調査方法を考えておく  授業：調査における倫理的配慮について  復習：講義内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第6回】  予習：自身の調査方法を考えておく  授業：質的研究におけるインタビュー調査  復習：講義内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第7回】  予習：自身の調査方法をまとめる  授業：質的研究における観察調査  復習：講義内容についての配布プリントの復習</p> <p>【第8回】  予習：実際に調査をはじめめる  授業：調査の途中経過の確認と整理①  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第9回】  予習：実際に調査をはじめめる  授業：調査の途中経過の確認と整理②  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第10回】  予習：調査の途中経過をまとめる  授業：調査の途中経過についての発表①（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第11回】  予習：調査の途中経過をまとめる  授業：調査の途中経過についての発表②（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第12回】  予習：調査の途中経過をまとめる  授業：調査の途中経過についての発表③（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：分析に取り組む 授業：質的研究法の具体的分析手順：データの整理（実習） 復習：配布プリントの復習 【第14回】 予習：分析に取り組む 授業：質的研究法の具体的分析手順②：コード化（実習） 復習：配布プリントの復習 【第15回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の具体的分析手順③：カテゴリー化（実習） 復習：配布プリントの復習								
授業開始前学習	関心のあるテーマについて、自分なりに先行研究を調べておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。							
テキスト・教材	各自の用いる方法によって異なるため、授業内で適宜指示する。							
参考書	樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版 川喜田二郎（2017）『発想法 改版—創造性開発のために』中公新書 能智正博（2011）『臨床心理学をまなぶ6 質的研究法』東京大学出版会 鈴木聡志（2007）『会話分析・ディスコース分析—ことばの織りなす世界を読み解く（ワードマップ）』新曜社							
評価の基準と方法	発表60%・授業への貢献40%							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅢ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。4年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について考察を深めつつ、各自が関心を持ったテーマで研究を進め、論文としてその成果をまとめることが目標である。4年生前期は、各自が研究テーマを選定し、研究計画を立案し、実際の研究に着手する。		
到達目標	個人研究のテーマを定め、研究計画を立案する。文献や先行研究の調査と購読を進め、研究計画をブラッシュアップするとともに、研究方法の準備を行う。 これら研究計画とその方法論を検討していく中で、討議する力や計画的に作業を進めていく力も併せて身に付けていく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：研究テーマを検討しておく。  授業：ガイダンス（全体計画の説明等）、研究テーマの確認  復習：研究テーマの再検討を行う。</p> <p>【第2回】  予習：配布資料の購読、ゼミ面談の準備  授業：調査・研究方法について、研究計画の立案①、ゼミ面談  復習：研究計画の立案</p> <p>【第3回】  予習：配布資料の購読、ゼミ面談の準備  授業：研究計画の立案②、ゼミ面談  復習：研究計画の立案</p> <p>【第4回】  予習：研究計画を踏まえ、文献等を調査する。  授業：研究計画の立案③、プレゼンテーションの準備  復習：プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>【第5回】  予習：プレゼンテーションの準備を行う。  授業：研究計画のプレゼンテーションとディスカッション①  復習：ディスカッションの結果を整理する。</p> <p>【第6回】  予習：プレゼンテーションの準備を行う。  授業：研究計画のプレゼンテーションとディスカッション②  復習：ディスカッションの結果を整理する。</p> <p>【第7回】  予習：研究計画を見直す。  授業：研究計画の再検討  復習：研究計画を確定する。</p> <p>【第8回】  予習：先行研究等の調査と購読を進める。  授業：先行研究等の購読とまとめ①  復習：先行研究等のまとめを行う。</p> <p>【第9回】  予習：先行研究等の調査と購読を進める。  授業：先行研究等の購読とまとめ②  復習：先行研究等のまとめを行う。</p> <p>【第10回】  予習：先行研究等の購読を進め、レジュメの作成を行う。  授業：先行研究等の購読とまとめ③  復習：先行研究等のまとめを行う。</p> <p>【第11回】  予習：先行研究等のレジュメの作成を行う。  授業：先行研究等のレジュメ作成、提出  復習：授業内でのフィードバック、ディスカッションの結果を整理する。</p> <p>【第12回】  予習：配布資料の購読  授業：研究結果の分析について。調査・研究法の準備</p>			

復習：授業内容を整理する。 【第13回】 予習：調査・研究法の準備と実施を進める。 授業：調査・研究法の準備と実施① 復習：調査・研究法の準備と実施を進める。 【第14回】 予習：調査・研究法の準備と実施を進める。 授業：調査・研究法の準備と実施② 復習：調査・研究法の準備と実施を進める。 【第15回】 予習：研究の進捗状況の説明できるようにしておく。 授業：調査・研究法の準備と実施③、研究の進捗の確認 復習：レポート課題の作成								
授業開始前学習	関連する文献や先行研究を収集し、購読を始め、研究テーマを検討しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	研究計画の発表に対して、授業内でディスカッションを行い、これを踏まえてコメントする。研究の実施や論文作成に向けて、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。授業内で適宜紹介する。							
参考書	特に指定しない。							
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、研究計画の発表50%、レジュメ20%、レポート20%、ディスカッションの貢献10%の配分で総合評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目								
その他	・卒業論文もしくはゼミ論文という形で個人研究の成果をまとめることが必須である。自主的、積極的に研究を進める姿勢が求められる。 ・前期には関係機関見学、後期には家庭裁判所の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。交通費は各自負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件、家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえたフィードバック等を行う。							



科目名称	心理学ゼミⅢ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。4年前期のゼミでは、受講生が各自関心のあるコミュニティを選択し、そのコミュニティにおける心理的問題について調査を計画し、発表・実施する。		
到達目標	4年生の一年間を通して実施する個人研究のテーマと研究計画を確定する。可能であれば、調査や実験を実施することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：卒業論文あるいはゼミ論文のテーマを考えておく  授業：ガイダンス 研究テーマの確認 履修相談  復習：面談でのコメントを受けて、テーマについてさらに検討する</p> <p>【第2回】  予習：【第1回】で配布された資料の講読  授業：研究計画の立案1  復習：研究計画を立てる</p> <p>【第3回】  予習：【第2回】で配布された資料の講読  授業：研究計画の立案2  復習：研究計画を立てる</p> <p>【第4回】  予習：研究計画を立てる  授業：研究計画の発表1（プレゼンテーション）  復習：フィードバックを踏まえて研究計画を再検討する</p> <p>【第5回】  予習：研究計画を立てる  授業：研究計画の発表2（プレゼンテーション）  復習：フィードバックを踏まえて研究計画を再検討する</p> <p>【第6回】  予習：研究計画を立てる  授業：研究計画の発表3（プレゼンテーション）  復習：フィードバックを踏まえて研究計画を再検討する</p> <p>【第7回】  予習：研究計画を立てる  授業：研究計画の発表4（プレゼンテーション）  復習：フィードバックを踏まえて研究計画を再検討する</p> <p>【第8回】  予習：研究計画を立てる  授業：研究計画の発表5（プレゼンテーション）  復習：フィードバックを踏まえて研究計画を再検討する</p> <p>【第9回】  予習：研究計画を見直す  授業：研究計画の再検討 個人面談  復習：フィードバックを踏まえて研究計画を検討する</p> <p>【第10回】  予習：調査実施に向けて準備をする  授業：調査の準備と実施1  復習：質問紙など、調査実施に必要なものを作成する</p> <p>【第11回】  予習：調査実施に向けて準備をする  授業：調査の準備と実施2  復習：調査実施に向けて準備をする 可能であれば調査を実施する</p> <p>【第12回】  予習：調査実施に向けて準備をする  授業：調査の準備と実施3  復習：調査実施に向けて準備をする 可能であれば調査を実施する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：調査実施に向けて準備をする 授業：調査の準備と実施4 復習：調査実施に向けて準備をする 可能であれば調査を実施する 【第14回】 予習：データ処理の計画を確認する 授業：データ分析1 復習：データ分析を進める 【第15回】 予習：データ処理の計画を確認する 授業：データ分析2 復習：レポート課題の作成								
授業開始前学習	自分が希望する研究テーマに関する先行研究を収集し、講読しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	研究計画の発表に対しては、授業内でディスカッションとコメントを行う。卒業論文の作成に向けて随時個別に指導やフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	特に指定しない。							
評価の基準と方法	出席3分の2以上が単位取得の前提条件。授業での発表（60点）、授業への積極的貢献（30点）、期末レポート（10点）による。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「卒業論文」において心理学の実証的研究を行うために必要である。							
その他	特になし。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践との関連という視点を踏まえて指導を行う。							

科目名称	心理学ゼミⅢ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-710
授業概要	心理学ゼミⅠ・Ⅱで身につけた知識、スキルを活かし、ゼミ論・卒論で取り組むテーマを決定する。3年後期に作成した研究計画書に従い、計画を実行し、結果を分析し、考察を深めていく。ゼミの時間を使って研究を進めるとともに、各自の進捗状況に応じてレジュメを用意し、中間発表会にて発表する。最終的には、ゼミ論・卒論をまとめる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学研究を計画・実行できる。</li> <li>2. 得られたデータについて、先行研究で得られた知見なども活用しながら、自分なりの考察ができる。</li> <li>3. 自分が行った心理学研究の成果について、プレゼンテーションできる。</li> <li>4. 心理学研究に必要な倫理的事項について、自分の研究に適用できる。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：シラバスを読み、通年の流れを理解／研究計画書の検討 授業：1. 研究実施1（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第2回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：2. 研究実施2（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第3回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：3. 研究実施3（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第4回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：4. 研究実施4（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第5回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：5. 研究実施5（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第6回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：6. 研究実施6（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第7回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：7. 研究実施7（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第8回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：8. 研究実施8（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第9回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：9. 研究実施9（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第10回】 予習：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業：10. 研究実施10（含. グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理			
【第11回】 予習：発表準備 授業：11. 中間発表会準備1：抄録（Google ドキュメント）作成 復習：中間発表会用抄録の作成			
【第12回】 予習：発表準備 授業：12. 中間発表会準備2：抄録（Google ドキュメント）作成・提出 復習：中間発表会用抄録の完成、提出			

<p>【第13回】  予習：発表準備  授業：13. 中間発表会準備3：プレゼンテーション（Google スライド）の作成・提出  復習：中間発表会用プレゼンテーションの完成、提出</p> <p>【第14回】  予習：発表準備  授業：15. 中間発表会1（発表、司会、指定討論）  復習：紹介された心理学用語、文献の整理</p> <p>【第15回】  予習：発表準備  授業：15. 中間発表会2（発表、司会、指定討論）  復習：紹介された心理学用語、文献の整理</p>									
授業開始前学習	論文の書き方（形式）について、身につけておくとよい。								
授業内課題の フィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。								
テキスト・教材	特になし。								
参考書	臨床心理学関連の各学会が発行している学術雑誌を参考にするとよい。 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 <a href="https://psych.or.jp/manual/">https://psych.or.jp/manual/</a>								
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 2点×15回 = 30点、発表会の抄録 10点、スライド 10点、発表 10点（質疑応答を含む）、司会・指定討論など 15点、論文の途中稿 25点の、計 100点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○	○	△	
関連科目	心理学ゼミ I・II								
その他	特になし。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。								

科目名称	心理学ゼミⅢ		
科目分類	130-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	心理学ゼミⅡに引き続き、2つのテーマ（1.「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と2.「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献購読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 とくにⅢでは、興味ある研究論文を精読し、各自が追試または発展研究の研究計画を立てる。各自の研究計画の発表・グループ討論を行うと共に、少数サンプルの試行研究を実施し、データを整理・分析し、結果をレポートにまとめる。		
到達目標	認知、記憶に関するより専門的研究について理解を深め、個別の研究について理解するとともに、評価できる点、改善点などの意見を述べる事が出来るようになる。 先行研究を参考にして、追試を行うことができる技術力（研究の計画と立案、刺激の作成、措置の操作、コンピュータを用いたデータ分析等）を身につける。自分のテーマ研究について発表できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：資料1 83P～85Pの講読 授業：記憶のモデルについて 復習：記憶のモデルに関するキーワードを整理する</p> <p>【第2回】 予習：資料1 86P～87Pの講読 授業：2 貯蔵庫モデルの根拠について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：2 貯蔵庫モデルに関するキーワードを整理する</p> <p>【第3回】 予習：資料1 88P～90Pの講読 授業：2 貯蔵庫モデルへの反論について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：処理水準モデルについてまとめる</p> <p>【第4回】 予習：資料1 90P～94Pの講読 授業：記憶情報の変換について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：符号化についてまとめる</p> <p>【第5回】 予習：資料1 94P～99Pの講読 授業：リハーサルについて 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：リハーサルに関するキーワードを整理する</p> <p>【第6回】 予習：資料1 101P～102Pの講読 授業：エピソード記憶について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：自分自身のエピソード記憶の事例をまとめる 認知心理学レポートの資料調べと作成</p> <p>【第7回】 予習：資料1 102P～105Pの講読 授業：意味記憶について 発表とグループ討論 認知心理学のレポート提出①（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：意味記憶に関するキーワードを整理する</p> <p>【第8回】 予習：資料1 106P～107Pの講読 授業：記憶の変容について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：目撃情報の変容について、自分の事例を考察する</p> <p>【第9回】 予習：資料1 108P～110Pの講読 授業：記憶内容の忘却について 発表とグループ討論 レポート講評①（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：忘却による失敗について、自分の事例を考察する</p> <p>【第10回】 予習：各自の研究事例追実験(目的と方法)を作成する 授業：追実験の発表(パワーポイントを使って) 復習：発表コメントへの回答をまとめる</p> <p>【第11回】 予習：実験計画表を作成 授業：実験計画表のチェック（刺激、器具、装置、教示について） 復習：実験計画表の修正</p> <p>【第12回】 予習：実験刺激の材料確認</p>			

授業：実験刺激の作成 復習：実験教示の作成 認知心理学レポートの資料調べと作成 【第 13 回】 予習：実験環境の設定、チェック 授業：実験の実施 認知心理学のレポート提出 ② 復習：実験実施、データ収集 【第 14 回】 予習：データ収集 授業：データ収集と結果の整理（データ入力） 復習：実験データの入力・分析 【第 15 回】 予習：実験データの入力・分析、整理 授業：データ分析と仮説の検討 レポート講評② 復習：レポートの作成								
授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。							
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）							
評価の基準と方法	発表内容（2 回）と学期内のレポート（2 回）により評価を行う。 （全体を 100 点としたとき）配点は、発表内容評価 50 点と学期内レポート評価 50 点とする。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「知覚・認知心理学」を履修しておく内容が良くわかる。							
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅢ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-715
授業概要	3年次のゼミを通して見つけた各自の研究テーマ = “問い” に対する仮説を探索するために調査研究を行い、最終的にその成果を卒業論文もしくはゼミ論文という形にまとめることを目指す。4年次の前期は、関連する先行研究をさらに読み進めることで、各自の抱えている“問い”をより明確化する。また、インタビュー等の調査を行う者については、その計画を立て、実行し、データを収集する。中間報告会では、各自の調査研究の途中経過についてプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自の“問い”に対する仮説を探索するための研究計画を確定させる。 先行研究を読み進め、その内容や課題点について適切に理解し、自らの調査研究に活かすことができる。 調査研究をスタートし、必要なデータを収集することができる。 中間報告会において、調査研究の途中経過についてプレゼンテーションを行い、教員およびゼミ生と積極的に意見交換することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：3年次ゼミで習得した内容について振り返っておく 授業：ガイダンス 今後の調査研究スケジュールの確認 復習：今後のスケジュールを立てる</p> <p>第2回 予習：第1回授業にて配布された資料を再読する 授業：研究計画の立案① 復習：配付資料を読み返す</p> <p>第3回 予習：第2回授業にて配布された資料を再読する 授業：研究計画の立案② 復習：配付資料を読み返す</p> <p>第4回 予習：第3回授業にて配布された資料を再読する 授業：調査研究における倫理的配慮 復習：倫理的な側面から研究計画を再考する</p> <p>第5回 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認① 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する</p> <p>第6回 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認② 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する</p> <p>第7回 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認③ 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する</p> <p>第8回 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認④ 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する</p> <p>第9回 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談① 復習：面談をふまえて報告会資料を作成する</p> <p>第10回</p>			



予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談② 復習：面談をふまえ報告会資料を作成する  第 11 回 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談③ 復習：面談をふまえ報告会資料を作成する  第 12 回 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会① 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る  第 13 回 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会② 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る  第 14 回 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会③ 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る  第 15 回 予習：調査研究の進捗状況について整理しておく 授業：後期スケジュールの立案 復習：スケジュールを必要に応じて修正する								
授業開始前学習	3 年次ゼミで習得した内容について振り返っておくこと。不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	調査研究の進行状況に合わせて、授業内で個別にフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	適宜紹介する。							
評価の基準と方法	中間報告会の発表内容（60%）、および授業への取り組み姿勢（40%）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミ I・II・IV							
その他	4 年次後期にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目名称	心理学ゼミⅢ		
科目分類	130-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅢ-h」では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆にかかる具体的な作業を進め、論文の完成を目指す。各自で発達心理学、認知心理学などの領域に関するテーマを選択し、その内容に沿った調査を実施し、その結果をまとめるための総合的なスキルを身につけることを目的とする。		
到達目標	卒業論文・ゼミ論文の作成に必要な調査や実験を実施し、データの収集ができること。そのための準備やコミュニケーションを適切に行うことができること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業スケジュールの確認  授業：卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールを立てる  復習：授業の振り返り</p> <p>【第2回】  予習：卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールをまとめたメモを作成しておく  授業：卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールの確認と準備作業（課題解決型学習）  復習：教員から指摘されたポイントについて整理する</p> <p>【第3回】  予習：卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールの最終確認  授業：研究実施準備および実施①（課題解決型学習）（発表）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第4回】  予習：作業内容の進捗状況を整理する  授業：研究実施準備および実施②（課題解決型学習）（発表）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第5回】  予習：作業内容の進捗状況を整理する  授業：研究実施準備および実施③（課題解決型学習）（発表）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第6回】  予習：作業内容の進捗状況を整理する  授業：研究実施①（課題解決型学習）（発表）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第7回】  予習：作業内容の進捗状況を整理する  授業：研究実施②（課題解決型学習）（発表）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第8回】  予習：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備  授業：研究実施③および観察に備えての議論（課題解決型学習）（ディスカッション）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第9回】  予習：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備  授業：研究実施④および観察に備えての議論（課題解決型学習）（ディスカッション）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第10回】  予習：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備  授業：研究実施⑤および観察に備えての議論（課題解決型学習）（ディスカッション）  復習：作業内容の進捗状況を整理する</p> <p>【第11回】  予習：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備  授業：学外での観察結果をまとめる（グループワーク）  復習：観察内容について振り返る</p> <p>【第12回】  予習：作業内容の進捗状況の整理および観察内容を整理する  授業：研究の進捗状況に関する中間報告①（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：中間報告の内容とコメントを振り返る</p> <p>【第13回】</p>			

予習：作業内容の進捗状況を整理する 授業：研究の進捗状況に関する中間報告②（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：中間報告の内容とコメントを振り返る 【第14回】 予習：作業内容の進捗状況を整理する 授業：研究の進捗状況に関する中間報告③（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：中間報告の内容とコメントを振り返る 【第15回】 予習：作業内容の進捗状況を整理し後期授業のスケジュールを立てておく 授業：後期の研究実施スケジュールを立てる（課題解決型学習） 復習：授業内容の振り返り									
授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくことと授業が理解しやすい。								
授業内課題のフィードバックの方法	作成資料や発表内容について授業内でフィードバックを与える。								
テキスト・教材	授業時に適宜指示する。								
参考書									
評価の基準と方法	授業内での発表（40%）と学期末のレポート（1回：40%）、授業態度・授業への貢献（20%）をもとに総合的に評価を決定する。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○	○	△	
関連科目	「認知心理学」を履修しておくことと内容が良く分かる。								
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用のUSBメモリを用意すること。  東京近郊にて正課外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	心理学ゼミⅣ		
科目分類	130-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	各自が自分の関心に沿った質的心理学研究を行い、それを卒業論文をはじめとした研究論文としてまとめることを目指す。後期では、習得したデータの分析と考察を行い、それを卒業論文をはじめとする研究論文にまとめることが目標となる。		
到達目標	自らの関心に基づいて取得したデータを、心理学の方法論に沿って分析・考察して、それを心理学論文の形でまとめることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：進捗状況をまとめる  授業：イントロダクション  復習：出題された課題に取り組む</p> <p>【第2回】  予習：進捗状況をまとめる  授業：分析結果（途中経過）の発表①（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第3回】  予習：進捗状況をまとめる  授業：分析結果（途中経過）の発表②（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第4回】  予習：進捗状況をまとめる  授業：分析結果（途中経過）の発表③（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第5回】  予習：分析を進める  授業：執筆における注意点について①（全体の構成）  復習：配布プリントの復習</p> <p>【第6回】  予習：分析を進める  授業：執筆における注意点について②（方法の記述）  復習：配布プリントの復習</p> <p>【第7回】  予習：分析を進める  授業：執筆における注意点について③（結果の記述）  復習：配布プリントの復習</p> <p>【第8回】  予習：分析を進める  授業：執筆における注意点について④（考察の記述）  復習：配布プリントの復習</p> <p>【第9回】  予習：分析を進める  授業：執筆における注意点について⑤（目的の再記述）  復習：配布プリントの復習</p> <p>【第10回】  予習：分析を進める  授業：研究結果のプレゼンテーションに関する講義  復習：配布プリントの復習</p> <p>【第11回】  予習：研究結果をまとめる  授業：研究結果発表①（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第12回】  予習：研究結果をまとめる  授業：研究結果発表②（プレゼンテーション）  復習：指摘された点について再考する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 研究結果をまとめる 授業 : 研究結果発表③ (プレゼンテーション) 復習 : 指摘された点について再考する 【第 14 回】 予習 : 研究結果をまとめる 授業 : 研究結果発表④ (プレゼンテーション) 復習 : 指摘された点について再考する 【第 15 回】 予習 : 研究過程を振り返る 授業 : まとめ 復習 : 配布プリントの復習								
授業開始前学習	先行研究と調査の途中経過についてまとめておくこと							
授業内課題の フィードバックの方法	分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。							
テキスト・教材	各自の用いる方法によって異なるため、授業内で適宜指示する。							
参考書	松井豊 (2010)『改定新版心理学論文の書き方——卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社。							
評価の基準と方法	発表 7 0 %・授業への貢献 3 0 %							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅣ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。4年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について考察を深めつつ、各自が関心を持ったテーマで研究を進め、論文としてその成果をまとめることが目標である。4年生後期は、各自が進めてきた研究の成果を論文にまとめ、発表し、4年間の集大成とする。		
到達目標	各自が定めた研究テーマについて、計画的に研究を進め、その成果を卒業論文あるいはゼミ論文としてまとめる。研究結果を効果的にプレゼンテーションするスキルを身に付ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：研究の進捗よくを発表できるように準備する。  授業：ガイダンス（全体計画の説明等）、研究の進捗よくの確認  復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。</p> <p>【第2回】  予習：配布資料の購読  授業：結果のまとめ方と論文執筆  復習：配布資料の見返し</p> <p>【第3回】  予習：研究計画に基づき、研究を進める。  授業：調査・研究法の実施①、ゼミ面談  復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。</p> <p>【第4回】  予習：研究計画に基づき、研究を進める。  授業：調査・研究法の実施②、ゼミ面談  復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。</p> <p>【第5回】  予習：研究計画に基づき、研究を進める。  授業：調査・研究法の実施③、中間報告会の準備  復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。</p> <p>【第6回】  予習：プレゼンテーションの準備を行う。  授業：中間報告会①  復習：ディスカッションの結果を整理する。</p> <p>【第7回】  予習：プレゼンテーションの準備を行う。  授業：中間報告会②  復習：ディスカッションの結果を整理する。</p> <p>【第8回】  予習：研究計画に基づき、研究を進める。  授業：結果の分析と考察①  復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。</p> <p>【第9回】  予習：研究計画に基づき、研究を進める。  授業：結果の分析と考察②  復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。</p> <p>【第10回】  予習：研究計画に基づき、研究を進める。  授業：結果の分析と考察③  復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。</p> <p>【第11回】  予習：研究経過の報告の準備を行う。  授業：研究経過の報告、論文執筆①  復習：論文執筆を進める。</p> <p>【第12回】  予習：研究経過の報告の準備を行う。論文執筆を進める。  授業：研究経過の報告、論文執筆②  復習：論文執筆を進める。</p>			

<p>【第13回】  予習：論文執筆を進める。  授業：論文執筆③、発表会の準備  復習：論文を完成させる。</p> <p>【第14回】  予習：発表の準備を行う。  授業：発表会  復習：発表会の振り返りを行う。</p> <p>【第15回】  予習：発表の準備を行う。  授業：発表会  復習：発表会の振り返りを行う。</p>									
授業開始前学習	心理学ゼミⅢの結果を踏まえ、適宜、研究を進めておくこと。								
授業内課題の フィードバックの方法	研究の実施や論文作成に向けて、随時フィードバックを行う。								
テキスト・教材	特に指定しない。授業内で適宜紹介する。								
参考書	特に指定しない。								
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、研究論文（卒業論文、ゼミ論文）60%、授業への取組姿勢及び発表40%の配分で総合評価する。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○	○	△	
関連科目									
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文もしくはゼミ論文という形で個人研究の成果をまとめることが必須である。自主的、積極的に研究を進める姿勢が求められる。</li> <li>前期には関係機関見学、後期には家庭裁判所の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。交通費は各自負担となる。</li> </ul>								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件、家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえたフィードバック等を行う。								



科目名称	心理学ゼミⅣ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。4年後期のゼミでは、各自が関心を持つコミュニティの心理的問題について調査結果を分析し、論文にまとめる。また、発表会で研究内容についてプレゼンテーションを行う。		
到達目標	心理学の実証的研究方法について理解を深め、自分の実施した研究方法、データ分析の方法を習得する。研究の成果を卒業論文あるいはゼミ論文としてまとめる。効果的なプレゼンテーションの方法について習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：研究の進行状況をまとめ、発表用にメモを作成する。  授業：ガイダンス 研究の進行状況の報告  復習：研究計画に沿って作業を進める。</p> <p>【第2回】  予習：参考文献 p 134-139 の講読  授業：結果のまとめ方と論文執筆の方法 1  復習：授業内容を参考にデータの分析を進める。</p> <p>【第3回】  予習：参考文献 p 140-143 の講読  授業：結果のまとめ方と論文執筆の方法 2  復習：授業内容を参考にデータの分析を進める。</p> <p>【第4回】  予習：データを分析し、結果をまとめる。  授業：データの分析と考察 1  復習：授業での討論を踏まえてさらにデータの分析とまとめを進める。</p> <p>【第5回】  予習：データを分析し、結果をまとめる。  授業：データの分析と考察 2  復習：授業での討論を踏まえてさらにデータの分析とまとめを進める。</p> <p>【第6回】  予習：データを分析し、結果をまとめる。  授業：データの分析と考察 3  復習：授業での討論を踏まえてさらにデータの分析とまとめを進める。</p> <p>【第7回】  予習：参考文献 p 144-149 の講読  授業：考察のまとめ  復習：授業の内容を参考に結果のまとめと考察の作業を進める。</p> <p>【第8回】  予習：論文執筆を進める。  授業：論文執筆と発表資料の準備 1  復習：論文執筆を進める。</p> <p>【第9回】  予習：論文執筆を進める。  授業：論文執筆と発表資料の準備 2  復習：論文執筆と発表の準備を進める。</p> <p>【第10回】  予習：参考文献 p 182-185 の講読  授業：論文執筆と発表資料の準備 3  復習：発表会に向けてプレゼンテーションの構成やパワーポイントを作成する。</p> <p>【第11回】  予習：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。  授業：発表会 1（プレゼンテーション）  復習：発表の振り返り</p> <p>【第12回】  予習：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。  授業：発表会 2（プレゼンテーション）  復習：発表の振り返り</p> <p>【第13回】</p>			

予習：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業：発表会 3（プレゼンテーション） 復習：発表の振り返り 【第 14 回】 予習：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業：発表会 4（プレゼンテーション） 復習：発表の振り返り 【第 15 回】 予習：ゼミ論文を完成させる。 授業：発表会 5（プレゼンテーション）ゼミ論文の提出 復習：1 年間のゼミの振り返りを行う。								
授業開始前学習	心理学ゼミⅢで作成した研究計画に沿って、調査を進めておく必要がある。							
授業内課題の フィードバックの方法	ゼミ論文・卒業論文の進行状況に合わせて、個別に授業内でフィードバックを行う。最終的な発表会においては、全体での質疑応答とコメントシートを用いたフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	白井利明・高橋一郎（2008）『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房							
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（40 点）、授業への積極的貢献（30 点）、レポート（卒業論文／ゼミ論文）（30 点）による。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「卒業論文」において心理学の実証的研究を行うために必要である。							
その他	特になし。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践の関連という視点を踏まえて指導を行う。							

科目名称	心理学ゼミⅣ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-710
授業概要	心理学ゼミⅢに引き続き、ゼミ論・卒論で取り組む研究計画を実行し、結果を分析し、考察を深めていく。ゼミの時間を使って研究を進めるとともに、各自の進捗状況に応じてレジュメを用意し、研究成果を全体発表会にて発表する。最終的には、ゼミ論・卒論を執筆する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学研究を計画・実行できる。</li> <li>2. 得られたデータについて、先行研究で得られた知見なども活用しながら、自分なりの考察ができる。</li> <li>3. 自分が行った心理学研究の成果について、プレゼンテーションできる。</li> <li>4. 自分が行った心理学研究を、論文としてまとめられる。</li> <li>5. 心理学研究に必要な倫理的事項について、自分の研究に適用できる。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：先行研究からの問題提起と自分の研究目的の振り返り  授業：1. 論文の書き方：説明（含、グループ・ディスカッション）  復習：構成、文体、引用文献等、執筆ルールの振り返り</p> <p>【第2回】  予習：論文の書き方に関する配布プリントの確認  授業：2. 論文作成 2-1（含、グループ・ディスカッション）  復習：「序論」の完成</p> <p>【第3回】  予習：論文の書き方に関する配布プリントの確認  授業：2. 論文作成 2-2（含、グループ・ディスカッション）  復習：「方法」の完成</p> <p>【第4回】  予習：論文の書き方に関する配布プリントの確認  授業：2. 論文作成 2-3（含、グループ・ディスカッション）  復習：「結果」の完成</p> <p>【第5回】  予習：論文の書き方に関する配布プリントの確認  授業：2. 論文作成 2-4（含、グループ・ディスカッション）  復習：「考察」の完成</p> <p>【第6回】  予習：論文の書き方に関する配布プリントの確認  授業：2. 論文作成 2-5（含、グループ・ディスカッション）  復習：「結論」、「要約」の完成</p> <p>【第7回】  予習：「引用文献」リストの整理  授業：2. 論文作成 2-6（含、グループ・ディスカッション）  復習：「引用文献」リストの完成、卒論・ゼミ論の中間提出</p> <p>【第8回】  予習：発表準備  授業：3. 全体発表会準備 3-1（含、グループ・ディスカッション）  復習：全体発表会用抄録（Google ドキュメント）の完成・提出</p> <p>【第9回】  予習：発表準備  授業：3. 全体発表会準備 3-2（含、グループ・ディスカッション）  復習：中間発表会用プレゼンテーション（Google スライド）の完成・提出</p> <p>【第10回】  予習：発表準備・予演  授業：4. 全体発表会 4-1（発表、司会、指定討論）  復習：質疑応答、ディスカッションの振り返り</p> <p>【第11回】  予習：発表準備・予演  授業：4. 全体発表会 4-2（発表、司会、指定討論）  復習：質疑応答、ディスカッションの振り返り</p> <p>【第12回】  予習：文献収集、再分析、考察の見直し等  授業：5. 論文の加筆修正 5-1（含、グループ・ディスカッション）</p>			

復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理 【第 13 回】 予習 : 文献収集、再分析、考察の見直し等 授業 : 5. 論文の加筆修正 5-2 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理 【第 14 回】 予習 : 文献収集、再分析、考察の見直し等 授業 : 5. 論文の加筆修正 5-3 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理、卒論・ゼミ論の最終提出 【第 15 回】 予習 : 文献収集、再分析、考察の見直し等 授業 : 5. 論文の加筆修正 5-4 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理									
授業開始前学習	研究倫理、および、論文の書き方について身につけておくとよい。								
授業内課題の フィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。								
テキスト・教材	特になし。								
参考書	日本心理学会「2022 年改訂版 執筆・投稿の手びき」 <a href="https://psych.or.jp/manual/">https://psych.or.jp/manual/</a> その他、臨床心理学関連の各学会が発行している学術雑誌を参考にするとよい。								
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 2 点×15 回 = 30 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点 (質疑応答を含む)、司会・指定討論など 15 点、論文の完成稿 25 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライド、論文の提出が必須である。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○	○	△	
関連科目	心理学ゼミ I・II・III								
その他	研究への取り組みにおいては、図書館および各種文献データベースの積極的利用が望まれる (オンラインで入手できない文献を図書館で、あるいは、図書館を通して入手する場合は、利用申請の仕方についてポータルサイトの情報を確認すること)。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)								
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。								

科目名称	心理学ゼミⅣ		
科目分類	130-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	心理学ゼミⅢに引き続き、2つのテーマ（1.「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と2.「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献購読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 Ⅳでは、Ⅲで行った各自の追試・発展研究を発表し、次の検討事項を考察する。この考察をもとに、さらなるオリジナル研究について計画を立てる。		
到達目標	認知、記憶に関するより専門的研究について理解を深め、個別の研究について理解するとともに、評価できる点、改善点などの意見を述べる事が出来るようになる。 先行研究を参考にして、追試を行うことができる技術力（研究の計画と立案、刺激の作成、措置の操作、コンピュータを用いたデータ分析等）を身につける。自分のテーマ研究について発表できるようになる。 さらに、各自が実施した研究について、分かりやすく発表するための技術を身につける。また、レポート作成・添削を通して、心理学の論文形式をしっかりと身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表準備（プレゼンテーション）1（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する</p> <p>【第2回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表（プレゼンテーション）2（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する</p> <p>【第3回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表（プレゼンテーション）3（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する</p> <p>【第4回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施 1 復習：データ整理</p> <p>【第5回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施 2 復習：データ整理</p> <p>【第6回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施 3 復習：データ整理</p> <p>【第7回】 予習：発表資料の作成 授業：実験結果の発表資料作成 復習：発表資料の提出</p> <p>【第8回】 ◎【第8回】～【第13回】は実験結果の発表・討論と並行して以下の作業（報告書作成）を進める 予習：発表準備 授業：実験結果の発表 復習：発表の整理</p> <p>【第9回】 予習：実験計画表をパワーポイントでまとめる 授業：実験環境のチェック 復習：実験の試行（データを増やす。実験の実施・データ収集を行う）</p> <p>【第10回】 予習：結果の整理 データ入力 を確認する 授業：結果の整理のチェック 復習：実験データの入力</p> <p>【第11回】 予習：結果の整理 集計作業 を確認する 授業：結果の整理のチェック 集計作業 について 復習：実験データの入力・分析</p>			

<p>【第12回】          予習：結果の整理 データ分析と仮説の検討 を確認する          授業：結果の整理 データ分析と仮説の検討 のチェック          復習：実験データの分析を確認する</p> <p>【第13回】          予習：結果の整理 図表の作成 を確認する          授業：結果の整理 図表の作成 のチェック          復習：実験データの分析・図表作成を確認する</p> <p>【第14回】          予習：考察 既存研究結果との比較検討 を確認する          授業：考察 既存研究結果との比較検討 について          復習：主要な結果について、結果と考察を作成し、図表をつける。</p> <p>【第15回】          予習：実験報告の準備（主要な結果のみ）          授業：実験の報告会（プレゼンテーション、ディスカッション）          復習：実験の反省点をまとめる</p>								
授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業3回目に提出する追実験計画については、翌週に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。							
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）							
評価の基準と方法	発表内容（2回）と学期末のレポート（1回）により評価を行う。 （全体を100点としたとき）配点は、発表内容評価50点と学期末レポート評価50点とする。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かすことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「知覚・認知心理学」を履修しておく内容が良くわかる。							
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用のUSBメモリを用意すること。 授業の3分の1を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、課題発表（2回）と学期末のレポート提出（1回）を行う必要がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学ゼミⅣ		
科目分類	130-310-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-715
授業概要	3年次のゼミを通して見つけた各自の研究テーマ = “問い” に対する仮説を探索するために調査研究を行い、最終的にその成果を卒業論文もしくはゼミ論文という形にまとめることを目指す。4年次の後期は、各自の調査研究の結果を分析し、学術的論文の形式に従って文章化していく。最終報告会では、各自の論文内容についてプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自の“問い”に対する仮説を探索し、その経過と成果を学術的論文としてまとめ、完成させることができる。完成させた論文の内容についてプレゼンテーションを行い、教員およびゼミ生と積極的に意見交換することができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>第1回</b>  予習：夏休み中に研究を進めておく  授業：ガイダンス 今後の論文執筆スケジュールの確認  復習：今後のスケジュールを立てる</p> <p><b>第2回</b>  予習：研究の進行状況についてまとめておく  授業：夏休み中の経過報告会①  復習：経過報告会で得られたコメントを振り返る</p> <p><b>第3回</b>  予習：論文執筆の進行状況についてまとめておく  授業：夏休み中の経過報告会②  復習：経過報告会で得られたコメントを振り返る</p> <p><b>第4回</b>  予習：論文の『問題と目的』部分について研究指導用資料を作成する  授業：論文執筆①『問題と目的』  復習：論文の『問題と目的』部分を完成させる</p> <p><b>第5回</b>  予習：論文の『方法』『結果』部分について研究指導用資料を作成する  授業：論文執筆②『方法』『結果』  復習：論文の『方法』『結果』部分を完成させる</p> <p><b>第6回</b>  予習：論文の『考察』部分について研究指導用資料を作成する  授業：論文執筆③『考察』  復習：論文の『考察』部分を完成させる</p> <p><b>第7回</b>  予習：論文の『結論』『引用文献』部分について研究指導用資料を作成する  授業：論文執筆④『結論』『引用文献』  復習：論文の『結論』『引用文献』部分を完成させる</p> <p><b>第8回</b>  予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める  授業：論文執筆と最終報告会の準備①  復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める</p> <p><b>第9回</b>  予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める  授業：論文執筆と最終報告会の準備②  復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める</p> <p><b>第10回</b>  予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める  授業：論文執筆と最終報告会の準備③  復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める</p>			



<p>第 11 回          予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める          授業：論文執筆と最終報告会の準備④          復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める</p> <p>第 12 回          予習：最終報告会の準備をする          授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会①          復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る</p> <p>第 13 回          予習：最終報告会の準備をする          授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会②          復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る</p> <p>第 14 回          予習：最終報告会の準備をする          授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会③          復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る</p> <p>第 15 回          予習：最終報告会の準備をする          授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会④          復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る</p>								
授業開始前学習	夏休み中に各自で調査研究を進めておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	論文執筆の進行状況に合わせて、授業内で個別にフィードバックを行う。 最終報告会においては、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。							
テキスト・教材	特に指定しない。							
参考書	適宜紹介する。							
評価の基準と方法	論文の完成（70%）、および授業への取り組み姿勢（30%）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ							
その他	ゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目名称	心理学ゼミⅣ		
科目分類	130-310-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅣ-h」では、「心理学ゼミⅢ-h」に引き続き、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆にかかる具体的な作業を進め、論文の完成を目指す。各自で発達心理学、認知心理学などの領域に関するテーマを選択し、その内容に沿った調査を実施し、その結果をまとめるための総合的なスキルを身につけることを目的とする。		
到達目標	「心理学ゼミⅢ-h」に引き続き、卒業論文・ゼミ論文の作成に必要な調査や実験を実施すること。取得データを分析し、論文を完成させること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業スケジュールを確認しておく  授業：「心理学ゼミⅢ-h」での進捗を整理し、卒業論文・ゼミ論文にかかる作業を確認する  復習：授業の振り返り</p> <p>【第2回】  予習：研究内容を論文としてまとめる方法を調べておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業①（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第3回】  予習：研究内容を論文としてまとめる方法を調べておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業②（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第4回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業③（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第5回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業④（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第6回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑤（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第7回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑥（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第8回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑦（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第9回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑧（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第10回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑨（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第11回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑩（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第12回】  予習：研究内容と進捗を整理しておく  授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑪（課題解決型学習）（発表）  復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：研究内容と進捗を整理しておく 授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業②（課題解決型学習）（発表） 復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する 【第14回】 予習：最終報告会の準備を完了させる 授業：最終報告会①（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：最終報告会の内容とコメントを振り返り 【第15回】 予習：最終報告会の準備を完了させる 授業：最終報告会②（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：最終報告会の内容とコメントの振り返り								
授業開始前学習	認知心理学・発達心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	作成した資料・原稿およびプレゼンテーション資料等は適宜添削を行う。授業内でもフィードバックの機会を設ける。							
テキスト・教材	授業時に適宜指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	論文の完成（70%）、論文への取り組み姿勢（30%）をもとに総合的に評価を決定する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「発達心理学」を履修しておくことと内容が良くわかる。							
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用のUSBメモリを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	公認心理師の職責		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Professionalism of Licensed Psychologists	授業区分	講義
科目責任者	綾城初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・田中・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師について、その基本的態度を身につけられるよう、役割、意義、倫理、法的義務及び主要領域の業務について学ぶ。講義はすべて公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員によって行われる。公認心理師取得のために大学院進学を検討している学生は必ず履修すること。なお、講義ではアクティブラーニングによって学びを深めるため、グループ・ディスカッションを積極的に活用する。主体的かつ協働的な参加が必須な授業である点に留意すること。		
到達目標	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師の職責について学び、その基本的知識と態度を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の役割（教科書 2 頁～25 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第2回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の法的義務及び倫理（教科書 58 頁～69 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第3回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師のトレーニングの実際（教科書 40 頁～57 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第4回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務①：保健医療 a（教科書 108 頁～119 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第5回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務②：保健医療 b（教科書 108 頁～119 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第6回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務④：司法・犯罪 a（教科書 148 頁～159 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第7回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務⑤：司法・犯罪 b（教科書 148 頁～159 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第8回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務⑥：福祉（教科書 120 頁～135 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第9回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師と多職種連携（教科書 90 頁～107 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第10回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師とスーパービジョン（教科書 40 頁～57 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第11回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師とコンサルテーション（教科書 90 頁～107 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第12回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師とアウトリーチ・地域連携（教科書 90 頁～107 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p>			

<p>【第13回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：情報の取り扱いおよびクライアントの安全の確保（教科書 70 頁～89 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第14回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務⑥：教育（教科書 136 頁～147 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第15回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師における支援者の在り方（教科書 26 頁～39 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p>									
授業開始前学習	テキストに目を通しておくこと。								
授業内課題の フィードバックの方法	発表・レポートや課題に対して、教員によるコメントによってフィードバックを行う。								
テキスト・教材	下山晴彦（監修・編著） 佐藤隆夫・本郷一夫（監修） 慶野遥香（編著）（2020）公認心理師スタンダードテキストシリーズ『公認心理師の職責』ミネルヴァ書房。								
参考書	授業内で別途指示するが、授業内で疑問などが生じた場合は参考図書として以下のテキストも有用である。 野島一彦（編）（2018）『公認心理師の職責』野島一彦・繁樹算男監修「公認心師の基礎と実践」シリーズ 遠見書房。								
評価の基準と方法	少なくとも3分の2以上の出席を前提に、平常点（毎回の授業への積極的な取り組み）25点・各回ミニレポートあるいは小テスト75点（5点×15回）。ミニレポートや小テストを提出しない場合は欠席とみなす。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当				△	◎	○			
関連科目	公認心理師の受験資格を得るためには4年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。								
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員全員が心理臨床の実務経験を有している。各回では、それぞれの経験を活かして、公認心理師に求められる在り方について講義・演習を行う。								

科目名称	関係行政論		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Legal and Administrative Systems	授業区分	講義
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・田中・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理援助を行う際には、関連する「法」や「制度」があることを理解し、その枠組みの中で適切に行う必要がある。この授業では、心理援助に関連する様々な法や制度についての知識や理念を学修する。さらに、心理援助の各領域（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業）ごとに、具体的な事例をもちいて少人数のグループ・ディスカッションを行い、実際のケースや対応についての理解を深める。		
到達目標	心理援助には、多くの関連する法や条例、制度があることを理解し、法律や制度に照らして適切な心理援助のあり方を検討できるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回  予習：教科書第1章講読  授業：法・制度の基本と公認心理師【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第1章の学習チェック</p> <p>第2回  予習：教科書第2章講読  授業：公認心理師の法的立場と多職種連携【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第2章の学習チェック</p> <p>第3回  予習：教科書第3章講読  授業：公認心理師の各分野への展開【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第3章の学習チェック</p> <p>第4回  予習：教科書第4章講読  授業：保健医療分野に係る法律・制度(1) 医療全般【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第4章の学習チェック</p> <p>第5回  予習：教科書第5章講読  授業：保健医療分野に係る法律・制度(2) 精神科医療【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第5章の学習チェック</p> <p>第6回  予習：教科書第6章講読  授業：保健医療分野に係る法律・制度(3) 地域保健・医療【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第6章の学習チェック</p> <p>第7回  予習：教科書第10章講読  授業：教育分野に係る法律・制度【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第10章の学習チェック</p> <p>第8回  予習：教科書第7章講読  授業：福祉分野に係る法律・制度(1) 児童福祉【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第7章の学習チェック</p> <p>第9回  予習：教科書第8章講読  授業：福祉分野に係る法律・制度(2) 障害者・障害児福祉【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第8章の学習チェック</p> <p>第10回  予習：教科書第9章講読  授業：福祉分野に係る法律・制度(3) 高齢者福祉【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第9章の学習チェック</p>			



<p>第 11 回            予習：教科書第 11 章講読            授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(1) 刑事【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 11 章の学習チェック</p> <p>第 12 回            予習：教科書第 13 章講読            授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(3) 少年【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 13 章の学習チェック</p> <p>第 13 回            予習：教科書第 12 章講読            授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(2) 家事【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 12 章の学習チェック</p> <p>第 14 回            予習：教科書第 14 章講読            授業：産業・労働分野に係る法律・制度【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 14 章の学習チェック</p> <p>第 15 回            予習：教科書第 15 章講読            授業：いのちを守る法律——生殖医療・自殺・貧困・事故・災害【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 15 章の学習チェック</p>								
授業開始前学習	特になし。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内に出されたレポート課題について、全体の講評と質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材	『公認心理師の基礎と実践 第 23 巻 関係行政論 (第 2 版)』(遠見書房)							
参考書	『現任者講習会テキスト改訂版』(金剛出版) その他、授業を通じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法	評価の基準と方法 少なくとも 3 分の 2 以上の出席を前提に、平常点 (授業態度・議論への積極的貢献) 25 点・各回ミニレポートあるいは小テスト 75 点 (5 点×15 回)。ミニレポートや小テストを提出しない場合は欠席とみなす。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かすことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目	公認心理師の受験資格を得るためには 4 年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、担当教員全員が心理臨床の実務経験を有している。各回では、それぞれの経験を活かして、公認心理師に求められる法的な知識や関係機関について講義・演習を行う。							



科目名称	心理演習		
科目分類	130-331-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Psychology	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>以下の事項について、役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通じて、基本的な水準の知識及び技能を習得する。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を必要とする者等に関する知識及び技能の習得（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等）</p> <p>(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>(ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ</p> <p>(エ) 多職種連携及び地域連携</p> <p>(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
到達目標	<p>①心理的支援の4業務について、説明できるようになる。</p> <p>②援助の基礎となる基本的なコミュニケーションの技術を身につけ、場に応じた社会性のある態度で人と関わられるようになる。</p> <p>③クライアントのニーズを心理・社会・生物的な多様な視点からとらえ、複数の支援計画を検討できるようになる。</p> <p>④事例に即して、チームアプローチや多職種連携及び地域連携の必要性について、説明できるようになる。</p> <p>⑤事例に即して、公認心理師としての職業倫理や法的義務を説明できるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習： あらかじめ授業のシラバスを読んでおくこと  授業： ガイダンス、自己紹介（インタビューによる他己紹介）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第2回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 基本的なコミュニケーション技法（ロールプレイング・グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第3回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 心理面接（ロールプレイング）：傾聴の基本姿勢（ペアワーク）  復習： 授業ノートの整理、録音データの文字おこし</p>			
<p>【第4回】  予習： 前回の授業の録音データの文字おこし  授業： 共感的傾聴の振り返り（課題研究型授業）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題①の作成</p>			
<p>【第5回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習①：教育場面におけるクライアントの理解とニーズの把握（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第6回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習②：教育/福祉場面における心理査定（WISCを中心に・グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第7回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習③：教育/福祉場面における支援計画（WISCを中心に・グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第8回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 職業倫理・法的義務①：教育場面における秘密保持義務とその例外状況（いじめなど・ディスカッション）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題②の作成</p>			
<p>【第9回】  予習： 配布資料を読んでおくこと</p>			

<p>授業： 実践的演習④：医療場面におけるクライアントの理解とニーズの把握（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第10回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑤：医療場面における心理査定（テスト・バッテリーについて）と支援計画（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第11回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑥：医療/産業・労働場面におけるチームアプローチ、多職種連携（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第12回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 職業倫理・法的義務②：医療/司法・犯罪場面における秘密保持義務とその例外状況（自傷他害など・ディスカッション）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題③の作成</p> <p>【第13回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑦：さまざまな場面でのチームアプローチ、多職種連携（課題研究型授業）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第14回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑨：こんなときどうする？—困難事例への対応（課題研究型授業）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題④の作成</p> <p>【第15回】  予習： 授業ノートの整理  授業： まとめ、心理実習にむけて  復習： 授業ノートを用いて、授業で学んだことを振り返っておくこと</p>								
授業開始前学習	「心理学的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」など関連の公認心理師科目を復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施するロールプレイや事例検討、ディスカッションなどにおいて、随時フィードバックをおこなう。							
テキスト・教材	授業内で資料を配布する。							
参考書	授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	4回のレポート課題（各20点×4回、計80点）、授業ノートが20点、合計100点満点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○	◎	○
関連科目	「心理実習」							
その他	4月に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある公認心理師・臨床心理士の教員が担当する。							

科目名称	心理実習		
科目分類	130-331-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Practice	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解にもとづき、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受けて、以下の（ア）から（ウ）に掲げる事項について修得する。</p> <p>（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ  （イ） 多職種連携及び地域連携  （ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
到達目標	<p>保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実地実習、および事前事後学習を通じて、以下にあげる項目を目標とする。</p> <p>①それぞれの分野に応じて、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの特徴を説明することができるようになる。  ②それぞれの分野に応じて、多職種連携及び地域連携の特徴を説明することができるようになる。  ③それぞれの分野に応じて、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明することができるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第1回】</b>  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：保健医療分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第2回】</b>  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：保健医療分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p><b>【第3回】</b>  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：保健医療分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第4回】</b>  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：福祉分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第5回】</b>  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：福祉分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p><b>【第6回】</b>  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：福祉分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第7回】</b>  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：教育分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第8回】</b>  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：教育分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p><b>【第9回】</b>  予習： 実習の体験をまとめておくこと</p>			

<p>授業： 事後学習：教育分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第10回】  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：司法・犯罪分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第11回】  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：司法・犯罪分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p>【第12回】  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：司法・犯罪分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第13回】  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：産業・労働分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第14回】  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：産業・労働分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p>【第15回】  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：産業・労働分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p>								
授業開始前学習	「心理的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」「心理演習」など関連の公認心理師科目を復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	事前学習、実地実習、事後学習のそれぞれにおいて、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材	授業内で資料を配布する。							
参考書	授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題（グループワーク）（各分野5点×5＝25点）、実習ノート（5ヶ所（福祉は4日分）；5点×8＝40点）、事後学習課題（プレゼンテーション）（各分野5点×5＝25点）、実習の参加態度（10点）、合計100点満点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○	○	◎
関連科目	「心理演習」							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること。</li> <li>・夏季休暇中に正課外活動を行う。実費等、実施については授業内で説明する。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある公認心理師・臨床心理士の教員が担当する。							

科目名称	卒業論文							
科目分類	130-331-24	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者	各担当教員		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	綾城・田中・藤川・藤城・富士原・依田・丸山		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40		研究室	10-714				
授業概要	<p>大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。ここでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。</p> <p>具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。</p>							
到達目標	<p>各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。</p> <p>各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。</p> <p>専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。</p> <p>各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること</p>							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。</p> <p>授業の内容 全般にわたる諸注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である</li> <li>2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと</li> <li>3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと</li> <li>4. 論文全体の構成を常に意識すること</li> <li>5. なるべくはやい段階で書き始めること</li> <li>6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること</li> <li>7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること</li> </ol> <p>卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。</p>								
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	各専門教育科目など							
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通じた地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間								



科目名称	住空間デザインの基礎 I		
科目分類	140-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Living Space Design I	授業区分	講義
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木・神村・三戸・橋田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-509
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をとおして、デザインの基礎を实践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習：事例研究</p> <p>【第 2 回】 予習：デザイン構想 授業：「イルミネーションポスター」課題説明 復習：「イルミネーションポスター」課題作業</p> <p>【第 3 回】 予習：作業継続 授業：「イルミネーションポスター」課題作業 復習：作業継続</p> <p>【第 4 回】 予習：作業継続 授業：「イルミネーションポスター」課題作業 復習：作業継続</p> <p>【第 5 回】 予習：作業継続 授業：「イルミネーションポスター」課題作業 復習：作業継続</p> <p>【第 6 回】 予習：事例研究 授業：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習：作業継続</p> <p>【第 7 回】 予習：作業継続 授業：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習：作業継続</p> <p>【第 8 回】 予習：作業継続 授業：「現場見学」事前課題グループ発表（グループワーク・発表） 復習：事例研究</p> <p>【第 9 回】 予習：展示作品確認 授業：「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習：作業継続</p> <p>【第 10 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業 復習：作業継続</p> <p>【第 11 回】 予習：「現場見学」事前課題確認 授業：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習：「現場見学」事後課題作成</p> <p>【第 12 回】 予習：作業継続</p>			



授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続 【第13回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続 【第14回】 予習：発表準備 授業：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習：実施に向けた計画を練る 【第15回】 予習：前期課題の見直し 授業：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習：夏期課題作業								
授業開始前学習	住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題							
授業内課題の フィードバックの方法	「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第3-5回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第9回）  「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第6,7回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第8回）  「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第12,13回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第14回）							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点30点、課題内容70点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II							
その他	・コロナ感染状況により対面授業が実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、感染状況により実施できない可能性がある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	住空間デザインの基礎Ⅱ		
科目分類	140-310-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Living Space Design Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木・神村・三戸・橋田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-509
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示空間企画・実施において、共同作業の中で個人の役割を見だし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習：前期課題の計画案を修正、課題作業継続</p> <p>【第2回】 予習：作業継続 授業：りんどう祭 学類作品展示準備 復習：作業継続</p> <p>【第3回】 予習：作業継続 授業：りんどう祭 学類作品展示準備 復習：りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続</p> <p>【第4回】 予習：りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業：りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習：展示撤去</p> <p>【第5回】 予習：事例研究 授業：「インテリアパースの作成」課題説明 復習：「インテリアパースの作成」課題作業</p> <p>【第6回】 予習：作業継続 授業：「インテリアパースの作成」課題作業 復習：作業継続</p> <p>【第7回】 予習：作業継続 授業：「インテリアパースの作成」課題作業 復習：作業継続</p> <p>【第8回】 予習：作業継続 授業：「インテリアパースの作成」課題作業 復習：作業継続</p> <p>【第9回】 予習：「現場見学」事前課題確認 授業：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習：「現場見学」事後課題作成</p> <p>【第10回】 予習：過去の課題を整理して持参準備 授業：「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習：「作品ポートフォリオ」作業</p> <p>【第11回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続</p> <p>【第12回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業</p>			

復習：作業継続 【第13回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続 【第14回】 予習：便覧の所定箇所を読んでおく 授業：次年度コースおよびゼミ説明 復習：コース選択調査票記入 【第15回】 予習：後期課題の見直し 授業：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習：春期課題作業								
授業開始前学習	住空間デザインの基礎 I で設定した夏期課題							
授業内課題の フィードバックの方法	「りんどう祭 学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスを行う。(第2,3回) 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスを行う(第4回) 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。(第6-8回) 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。(第15回) 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。(第11-13回) 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。(第15回)							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	平常点(授業態度・提出期限厳守)、課題内容により評価する。 平常点30点、課題内容70点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザインの基礎 I							
その他	・コロナ感染状況により対面授業が実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外(土曜日など)に予定しているが、感染状況により実施できない可能性がある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具(色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規)、データ保存用USB等は各自で準備すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間30時間(2時間×15週) + 予習・復習時間60時間(4時間×15週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	平面と立体表現の基礎		
科目分類	140-311-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Plane and 3-Dimensional Expression Basics	授業区分	講義
科目責任者	鈴木・堀邊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木(利)・高橋(怜)・手塚・堀邊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。		
到達目標	三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバス参照  授業：ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明  復習：道具の使い方練習</p> <p>【第2回】  予習：立方体の作成  授業：スチレンボードによる立方体の製作の指導  復習：提出課題の自習</p> <p>【第3回】  予習：事例検索  授業：課題Ⅰ（大小複数の立方体による連続する建築空間の構成）  復習：提出課題の自習</p> <p>【第4回】  予習：提出課題の自習  授業：課題Ⅰ エスキース  復習：提出課題の自習</p> <p>【第5回】  予習：提出課題の自習  授業：課題Ⅰ エスキース  復習：提出課題の自習</p> <p>【第6回】  予習：発表準備  授業：課題Ⅰ 講評及び課題Ⅱ 説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成)（プレゼンテーション）  復習：課題内容の確認</p> <p>【第7回】  予習：提出課題の自習  授業：課題Ⅱ エスキース  復習：提出課題の自習</p> <p>【第8回】  予習：提出課題の自習  授業：課題Ⅱ エスキース  復習：提出課題の自習</p> <p>【第9回】  予習：提出課題の自習  授業：課題Ⅱ エスキース  復習：提出課題の自習</p> <p>【第10回】  予習：発表準備  授業：課題Ⅱ 講評及び課題Ⅲ 説明（上記2課題の平面表現）（プレゼンテーション）  復習：課題内容の確認</p> <p>【第11回】  予習：提出課題の自習  授業：課題Ⅲ エスキース  復習：提出課題の自習</p> <p>【第12回】  予習：提出課題の自習  授業：課題Ⅲ エスキース  復習：提出課題の自習</p> <p>【第13回】</p>			

予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習 【第14回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習 【第15回】 予習：発表準備 授業：講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習：授業プロセスの振り返り								
授業開始前学習	出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事							
授業内課題のフィードバックの方法	各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。							
テキスト・教材	特になし							
参考書	適宜紹介する							
評価の基準と方法	課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100点満点に於ける）は、課題評価 40点・エスキース 20点・授業に対する取り組み 40点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		△	
関連科目	建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門							
その他	模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	製図の基礎		
科目分類	140-311-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Drafting Basics	授業区分	講義
科目責任者	山崎・李	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅・山崎・李・小鹿	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶ。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の1つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。また、授業では個人演習やディスカッションを通して学びを深める。		
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる図面表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間を正しく理解し、また図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：テキストp.04-05、p.15の精読  授業：ガイダンス  復習：製図の基本、製図用具の基本の復習</p> <p>【第2回】  予習：テキストp.06-13の精読  授業：製図の用具、線の練習 p.06-13（個人演習・ディスカッション）  復習：製図の用具、線の練習の復習</p> <p>【第3回】  予習：テキストp.18-23の精読  授業：木造 平面図 通り芯・柱 p.18-23（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 平面図 通り芯・柱 までの製図仕上</p> <p>【第4回】  予習：テキストp.18-23の精読  授業：木造 平面図 柱・壁 p.18-23（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 平面図 柱・壁までの製図仕上</p> <p>【第5回】  予習：テキストp.18-23の精読  授業：木造 平面図 建具・家具 p.18-23（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 平面図 建具・家具までの製図仕上</p> <p>【第6回】  予習：テキストp.18-23の精読  授業：木造 平面図 家具・設備機器 p.18-23（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 平面図 家具・設備機器までの製図仕上</p> <p>【第7回】  予習：テキストp.18-23の精読  授業：木造 平面図 寸法・仕上げ p.18-23（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 平面図 寸法・仕上げまでの製図仕上</p> <p>【第8回】  予習：テキストp.24-27の精読  授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 断面図の仕上げ</p> <p>【第9回】  予習：テキストp.24-27の精読  授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 断面図の完成</p> <p>【第10回】  予習：テキストp.28-31の精読  授業：木造 立面図 p.28-31（個人演習・ディスカッション）  復習：木造 立面図の完成</p> <p>【第11回】  予習：テキストp.68-73の精読  授業：RC造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション）  復習：RC造 平面図</p> <p>【第12回】  予習：テキストp.68-73の精読  授業：RC造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション）  復習：RC造 平面図</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : テキスト p.68-73 の精読 授業 : RC 造 平面図 p.68-73 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 平面図の完成 【第 14 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 断面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 断面図の完成 【第 15 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 立面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 立面図の完成								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別エスキスを実施する。							
テキスト・教材	「新しい建築の製図」 学芸出版社							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度と課題の総合点で評価する。 授業態度 20% 課題合計点 80%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目								
その他	シャープペンシル・定規等の製図用具一式を毎回持参すること。 原則、製図用紙は課題ごとに配布する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	図学と透視画の基礎		
科目分類	140-311-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics	授業区分	講義
科目責任者	李・堀邊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・小鹿・堀邊・秋山	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法(パース図法)による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。		
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第1回】  予習 : 「パース」「透視画」という言葉を調べておく  授業 : ガイダンス p002-009  復習 : 必要製図用具を確認し、用意する</p> <p>【第2回】  予習 : 製図用具の確認と持参  授業 : 基礎平面図形(1) (演習課題)  復習 : 3次元を表す2次元図面名を覚える</p> <p>【第3回】  予習 : 先回に書いた図面を確認、持参  授業 : 基礎平面図形(2) (演習課題)  復習 : 基礎平面図形配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第4回】  予習 : 正投影図(1) 事前配布資料を予習  授業 : 正投影図(1) (演習課題) p024-025, p052-053  復習 : 正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第5回】  予習 : 正投影図(2) 事前配布資料を予習  授業 : 正投影図(2) (演習課題) p024-025, p052-053  復習 : 正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第6回】  予習 : 内観パース(1) 事前配布資料を予習  授業 : 内観パース(1) 住宅 (グリッド法 a) (演習課題) p052-069  復習 : 内観パース(1) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第7回】  予習 : 内観パース(1) 配布資料と作成した図の状況を確認  授業 : 内観パース(2) 住宅 (グリッド法 a) 着彩 (演習課題) p052-069  復習 : 内観パース(2) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第8回】  予習 : 内観パース (3) 用の事前配布資料を確認、予習  授業 : 内観パース(3) 住宅 (グリッド法 b) (演習課題) p052-069  復習 : 内観パース(3) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第9回】  予習 : 内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着彩用具準備  授業 : 内観パース(4) 住宅 (グリッド法 b) 着彩 (演習課題) p052-069  復習 : 内観パース(4) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第10回】  予習 : 内観パース (5) 用の事前配布資料を確認、予習  授業 : 内観パース(5) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069  復習 : 内観パース(5) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第11回】  予習 : 内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認  授業 : 内観パース(6) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069  復習 : 内観パース(6) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第12回】  予習 : 事前配布資料を確認、予習  授業 : 外観パース(1) 商業施設 (D点法) (演習課題)  復習 : 外観パース(1) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業 : 外観パース(2) 商業施設 (D 点法) (演習課題) 復習 : 外観パース(2)配布資料と作成した図を確認 【第 14 回】 予習 : 外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業 : 外観パース(3) 商業施設 (D 点法) 着彩 (演習課題) 復習 : 外観パース(3)配布資料と作成した図を確認 【第 15 回】 予習 : ここまでの各自の提出物状況を確認 授業 : 講評 復習 : 作成してきた図をすべて確認								
授業開始前学習	製図の基礎 の学習内容を確認しておく理解しやすい							
授業内課題の フィードバックの方法	各課題の実施後に講評を行う。							
テキスト・教材	村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』(市ヶ谷出版社) その他、適宜必要資料を配布							
参考書								
評価の基準と方法	積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目	製図の基礎							
その他	製図用具一式、着色画材等を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目担当教員のうち、佐藤は建築・インテリアデザインの実務経験を有している。その指導経験を活かし、建築・インテリアデザイン等の実務に役立つ実習を行う。							

科目名称	建築・インテリアデザイン入門		
科目分類	140-331-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Architecture and Interior Design	授業区分	講義
科目責任者	佐藤勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤・茂木・山崎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	建築・インテリア計画の基礎的なプロセスと考え方について学ぶ。日本の近代・現代における住宅作品を題材に、住宅の計画手法を習得する。また、身近な空間のスケール感を身につけ、インテリアの計画手法についても習得する。授業では演習課題やプレゼンテーションを行う。		
到達目標	建築やインテリアデザインの基本的な考え方を習得すること。図面の読み方、寸法計画、環境計画、内装計画などの空間デザインプロセスの基礎を理解し、建築・インテリアデザインを多面的な視点から捉えられること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業準備  授業：ガイダンス  復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】  予習：住宅の建築計画 事前学習  授業：住宅の建築計画とは？  復習：住宅の建築計画 資料確認</p> <p>【第3回】  予習：寸法計画(1) 事前学習  授業：寸法計画(1) (演習課題)  復習：寸法計画(1) 資料確認</p> <p>【第4回】  予習：敷地の読み方と分析 事前学習  授業：敷地の読み方と分析 (演習課題)  復習：敷地の読み方と分析 資料確認</p> <p>【第5回】  予習：住宅の機能を考える 事前学習  授業：住宅の機能を考える (演習課題)  復習：住宅の機能を考える 資料確認</p> <p>【第6回】  予習：住宅の動線計画を考える 事前学習  授業：住宅の動線計画を考える (演習課題)  復習：住宅の動線計画を考える 資料確認</p> <p>【第7回】  予習：実際の住宅を分析・考察する 課題準備  授業：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(1) (演習課題)  復習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業</p> <p>【第8回】  予習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業  授業：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(2) (演習課題)  復習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業、まとめ</p> <p>【第9回】  予習：住宅のインテリア計画 事前学習  授業：住宅のインテリア計画とは？  復習：住宅のインテリア計画 資料確認</p> <p>【第10回】  予習：寸法計画(2) 事前学習  授業：寸法計画(2) (演習課題)  復習：寸法計画(2) 資料確認</p> <p>【第11回】  予習：図面の読み方 事前学習  授業：図面の読み方 (演習課題)  復習：図面の読み方 資料確認</p> <p>【第12回】  予習：室内環境の考え方 事前学習  授業：室内環境の考え方 (演習課題)  復習：室内環境の考え方 資料確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習：内装計画の考え方 事前学習 授業：内装計画の考え方（演習課題） 復習：内装計画の考え方 資料確認 【第14回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題準備 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(1)（演習課題） 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業 【第15回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(2)（プレゼンテーション） 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題まとめ								
授業開始前学習	前期「製図の基礎」科目の内容を見直してしておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出後の授業で講評を行う。							
テキスト・教材	特になし							
参考書								
評価の基準と方法	課題と授業態度等を総合して評価する。 配点（100点満点）は、課題①30点、課題②30点、授業態度等40点とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎		△	
関連科目								
その他	必要な道具等は授業中に適宜説明する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員全員が建築・インテリアデザイン分野の実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が建築・インテリアデザインの実務に役立つ講義と実習を行う。							

科目名称	プロダクトデザイン入門		
科目分類	140-330-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Product Design	授業区分	講義
科目責任者	李 志炯	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50	研究室	1-207
授業概要	この授業ではプロダクトデザインの背景、社会との関連性、デザインプロセス、ユーザ調査のための手法とデータの分析、コンセプト作成のための手法などプロダクトをデザインする際に必要な基礎を学びます。 また、プロダクトの中で建築・インテリアデザインの観点から「くらしの環境」と関連性が高い陶芸デザイン、テキスタイルデザイン、家具デザインの特性および活用について事例を通して学びます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインプロセスを理解し、基礎を身に付けることを目標とします。</li> <li>・2年次から学ぶ陶芸デザイン、テキスタイルデザイン、家具デザインの基礎を身に付けることを目標とします。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】            予習：シラバスを読む。シラバスに記載されている参考書の第1章を読む。            授業：プロダクトデザインとは。            復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインについて調べる。</p> <p>【第2回】            予習：生活空間にある織物をよく観察する（どんな織り方、素材かを観察してもらう）            授業：テキスタイルデザインとは。テキスタイルデザインの体験。            復習：テキスタイルデザインの種類と手法について調べる。</p> <p>【第3回】            予習：シラバスに記載されている参考書の第2、3章を読む。            授業：プロダクトデザインと社会、プロダクトデザインとビジネス            復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインと社会の関係について調べる。</p> <p>【第4回】            予習：シラバスに記載されている参考書の第4章を読む。            授業：デザインプロセスについて。ユーザ調査のための手法。            復習：書籍、インターネット等でデザインプロセスについて調べる。</p> <p>【第5回】            予習：シラバスに記載されている参考書の第5章を読む。            授業：ユーザ調査の事例を紹介。統計学を用いた調査データの分析方法について。            復習：書籍、インターネット等で統計学について調べる。</p> <p>【第6回】            予習：デザイン分野におけるユーザ調査の意義について調べる。            授業：インテリアデザインにおけるユーザ調査と分析データの活用について。            復習：各デザイン分野におけるユーザ調査と分析データの活用について調べる。</p> <p>【第7回】            予習：ユーザ調査の分析データの活用性について調べる。            授業：ユーザ調査と分析データの活用について。関連の課題を実施（課題①）。            復習：書籍、インターネット等でユーザ調査の分析データの活用性について調べる。</p> <p>【第8回】            予習：生活空間にある陶芸品をよく観察する（どんな作り方、素材かを観察してもらう）            授業：陶芸デザインとは。陶芸デザインの体験。            復習：陶芸デザインの種類と手法について調べる。</p> <p>【第9回】            予習：シラバスに記載されている参考書の第6、7章を読む。            授業：コンセプト作成のための手法。視覚化のための手法。            復習：書籍、インターネット等でコンセプトの意義と手法について調べる。</p> <p>【第10回】            予習：コンセプト作成について調べる。            授業：コンセプト作成と視覚化について。関連の課題を実施（課題②）。            復習：第10回目の資料をもう一度確認する。</p> <p>【第11回】            予習：デザイン分野における発想力の重要性について調べる。            授業：コンセプトと発想について。            復習：第11回目の資料をもう一度確認する。</p> <p>【第12回】            予習：書籍、インターネット等で舞台デザインについて調べる。            授業：舞台デザインと発想について。関連の課題を実施（課題③）。            復習：第12回目の資料をもう一度確認する。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：生活空間にある家具をよく観察する（どんな作り方、素材かを観察してもらう）          授業：家具デザインとは。家具デザインの体験。          復習：家具デザインの種類と手法について調べる。          【第14回】          予習：書籍、インターネット等で文化と住まいについて調べる。          授業：文化と発想について。関連の課題を実施（課題④）。          復習：第14回目の資料をもう一度確認する。          【第15回】          予習：身近にあるくらしの環境とデザインについて調べる。          授業：くらしの環境とデザインについて。          復習：第1～14回目の資料をもう一度確認する。</p>								
授業開始前学習	プロダクトデザインに関する書籍を読むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	この授業では課題を4回行います。各課題の回答案を授業で共有し、自分と他者の考えの差異を確認します。また、その差異を理解し、それを基に多様な発想ができるように授業中に討論します。							
テキスト・教材	配付資料							
参考書	プロダクトデザインの基礎・スマートな生活を実現する71の知識（株式会社ワークスコーポレーション）							
評価の基準と方法	授業への取り組み30%、課題、レポートなど提出物70%で評価。 出席が3分2以下、または提出物が不足している場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎		△	
関連科目	「建築・インテリアデザイン入門」 "リビングデザイン"はくらしの場である空間のデザインとくらしの道具であるもののデザインを同時に学ぶことで身につきます。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回目、第8回目、第13回目に予定されているテキスタイルデザイン、陶芸デザイン、家具デザインの体験では、担当教員が関連の道具、材料を準備します。</li> <li>・テキスタイルデザイン、陶芸デザイン、家具デザインの体験では汚れてもいい服装を着用すること。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	この授業では、プロダクトデザインの実務経験がある教員が担当し実際の制作に関する知識を生かした現実的な指導が受けられます。							

科目名称	設計製図 I		
科目分類	140-331-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Design and Drafting I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤(勉)・三戸・佐藤(陽)・徳田・真泉・正木	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	小店舗を併用した住宅の計画及び設計を行う。敷地に対して最適な住宅の計画、設計、小店舗部分についてはインテリアの計画を行い、建築設計とインテリアデザインを総合的に学ぶ。図面作成方法やプレゼンテーション手法なども指導する。授業では、与えられた課題に対しての実習、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。		
到達目標	住宅の計画および設計、建築図面の作成の基礎を修得する。 インテリアデザインの計画および設計、インテリア図面の作成の基礎を修得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを確認しておく  授業：ガイダンスと課題「小店舗併用住宅」の説明  復習：材料、道具の確認</p> <p>【第 2 回】  予習：敷地分析と規模確認  授業：敷地分析と事例研究（実習）（プレゼンテーション）  復習：事例収集</p> <p>【第 3 回】  予習：店舗のプログラム構想  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 4 回】  予習：中間発表用図面作成  授業：中間発表（プレゼンテーション）  復習：中間発表の講評確認</p> <p>【第 5 回】  予習：修正・検討  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 6 回】  予習：修正・検討  授業：建築図面の作成（実習）  復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 7 回】  予習：修正・検討  授業：建築図面の作成、模型制作（実習）  復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 8 回】  予習：模型材料購入  授業：模型制作（実習）  復習：模型作業続き</p> <p>【第 9 回】  予習：事例収集  授業：小店舗のインテリア計画（実習）  復習：修正・検討</p> <p>【第 10 回】  予習：修正・検討  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 11 回】  予習：図面の作図方法確認  授業：インテリア図面の作成（実習）  復習：修正・検討</p> <p>【第 12 回】  予習：修正図面作図  授業：インテリア図面の作成（実習）  復習：修正・検討</p> <p>【第 13 回】</p>			



予習：模型制作準備 授業：インテリア模型の作成（実習） 復習：修正・検討 【第14回】 予習：模型制作準備 授業：インテリア模型の作成（実習） 復習：修正・検討 【第15回】 予習：提出準備 授業：プレゼンテーション・講評（プレゼンテーション） 復習：講評確認・作品記録								
授業開始前学習	「製図の基礎」で学んだ製図方法、「建築・インテリアデザイン入門」で修得した模型表現について復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業で教員のチェックを受け、内容についてアドバイスをを行う。 第4回、第15回のプレゼンテーションについては講評を行う。							
テキスト・教材								
参考書	「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」（市ヶ谷出版社） 「新しいインテリアデザインの実技」（市ヶ谷出版社） 「第3版コンパクト建築設計資料集」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法	課題作品点と平常点（授業態度など・提出期限厳守）を総合して評価する。 配点（100点満点）は、課題作品点70点、平常点30点とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	△	○	
関連科目	関連科目 建築・インテリアデザイン入門、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A							
その他	建築・インテリアデザイン入門を修得しないと履修できない。（段階科目） 建築計画 A およびインテリアデザイン計画 A と同時に履修する事を勧める。 製図道具（製図用ペン、面取り三角定規等）、模型制作に必要な道具（カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等）と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。 授業開始後すぐに作業の説明等があるため、遅刻は厳禁。遅刻3回で欠席1回分とする。 履修者を6グループに分け、それぞれ担当の教員が受け持つ。担当や教場については初回授業でアナウンスする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。							

科目名称	設計製図Ⅱ		
科目分類	140-331-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Design and Drafting II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木・神村	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・堀邊・川村・リウ・イル・李・神村・内海・手塚	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	シェアハウスの計画及び設計を行う。敷地分析からコンセプトの立案、平面・断面・動線計画、インテリア計画、ランドスケープ計画などを踏まえた総合的な建築・インテリアデザインの計画・設計スキルを学ぶ。計画内容を図面や模型等で表現し、プレゼンテーションを行う。		
到達目標	建築・インテリアデザインの総合的な計画・設計スキルを習得する。建築・インテリアデザインの図面や模型等の作成方法やプレゼンテーション力を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスの内容を確認する  授業：ガイダンスと課題「シェアハウス」の説明  復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】  予習：シェアハウスの資料収集を行う  授業：敷地分析・コンセプト立案・事例研究（実習）  復習：事例研究を行う</p> <p>【第3回】  予習：雑誌や書籍、ネット等を活用してシェアハウスの資料収集を行う  授業：エスキース（実習）  復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第4回】  予習：エスキースのための準備をする  授業：エスキース（実習）  復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第5回】  予習：エスキースのための準備をする  授業：エスキース（実習）  復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第6回】  予習：中間発表の準備をする  授業：中間発表1（基本計画について）（プレゼンテーション）  復習：講評で指摘された箇所について改善する</p> <p>【第7回】  予習：エスキースのための準備をする  授業：エスキース（実習）  復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第8回】  予習：製図作業を進める  授業：建築図面の作成（実習）  復習：製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第9回】  予習：製図作業を進める  授業：建築図面の作成（実習）  復習：製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第10回】  予習：製図作業を進める  授業：建築図面の作成（実習）  復習：製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第11回】  予習：中間発表の準備をする  授業：中間発表2（図面レイアウトについて）（プレゼンテーション）  復習：講評で指摘された箇所について改善する</p> <p>【第12回】  予習：インテリア図面作業を進める  授業：インテリア図面の作成（実習）  復習：作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : インテリア図面作業を進める 授業 : インテリア図面の作成 (実習) 復習 : 作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする 【第 14 回】 予習 : 模型材料を準備する 授業 : プレゼンテーションシート・模型の作成 (実習) 復習 : プレゼンテーションシート・模型を完成させる 【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 講評内容をもとに、自己評価を行う								
授業開始前学習	「設計製図 I」の課題を見直し、自己評価をまとめておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合いを促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材	適宜資料を配布する。							
参考書	「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」(市ヶ谷出版社) 「新しいインテリアデザインの実技」(市ヶ谷出版社) 「第 3 版コンパクト建築設計資料集」日本建築学会編 (丸善出版)							
評価の基準と方法	課題とプレゼンテーション、授業態度を総合して評価する。 配点 (100 点満点)は、課題 50 点、プレゼンテーション 20 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	△	○	
関連科目	設計製図 I、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A							
その他	製図道具 (製図用ペン、面取り三角定規等)、模型制作に必要な道具 (カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等) と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目の担当者は建築・インテリアの実務経験を有しており、その経験を活かして建築・インテリアデザインの実習を行う。							

科目名称	住空間とライフスタイル		
科目分類	140-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Living Space and Lifestyle	授業区分	講義
科目責任者	伊藤 香織	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	伊藤 香織	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>ライフスタイルは時代の流れとともに変化し、近年は非常に多様化している。快適な生活を送るためには、ライフスタイルと住空間の関係が重要である。</p> <p>住宅における様々な生活シーンと空間との関係を理解し、多様化するライフスタイルにあった住空間を考えるための知識を習得することを目的としている。</p> <p>なお、対面授業が可能な場合は、ディスカッションやグループ発表などのグループワークを行うことも検討する。</p>		
到達目標	<p>多様化するライフスタイルに対応した、様々な生活シーンと住空間の関係を理解できるようになる。</p> <p>さらに、ライフスタイルと住空間の関係性について、自らの考えや意見を的確にまとめられるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第1回】</b>  予習 シラバスを読み込んでおく  授業 ガイダンス  復習 授業のテーマと目的をよく理解しておく</p> <p><b>【第2回】</b>  予習 住空間の変遷をリサーチ  授業 住空間とライフスタイルの変遷  復習 住空間とライフスタイルの変遷のレジュメを確認</p> <p><b>【第3回】</b>  予習 食空間についてリサーチ  授業 食空間とライフスタイル①  復習 食空間とライフスタイル①のレジュメを確認</p> <p><b>【第4回】</b>  予習 食空間についてリサーチ  授業 食空間とライフスタイル②  復習 食空間とライフスタイル②のレジュメを確認</p> <p><b>【第5回】</b>  予習 サニタリー空間についてリサーチ  授業 サニタリー空間とライフスタイル①  復習 サニタリー空間とライフスタイル①のレジュメを確認</p> <p><b>【第6回】</b>  予習 サニタリー空間についてリサーチ  授業 サニタリー空間とライフスタイル②  復習 サニタリー空間とライフスタイル②のレジュメを確認</p> <p><b>【第7回】</b>  予習 家事動線についてリサーチ  授業 家事動線の考え方  復習 家事動線の考え方のレジュメを確認</p> <p><b>【第8回】</b>  予習 収納計画についてリサーチ  授業 収納計画①  復習 収納計画①のレジュメを確認</p> <p><b>【第9回】</b>  予習 収納計画についてリサーチ  授業 収納計画②  復習 収納計画②のレジュメを確認</p> <p><b>【第10回】</b>  予習 子育て空間についてリサーチ</p>			

授業	子育て空間とライフスタイル①							
復習	子育て空間とライフスタイル①のレジュメを確認							
【第 11 回】								
予習	子育て空間についてリサーチ							
授業	子育て空間とライフスタイル② (グループ・ワーク)							
復習	子育て空間とライフスタイル②のレジュメを確認							
【第 12 回】								
予習	高齢者の住空間についてリサーチ							
授業	高齢者の住空間とライフスタイル							
復習	高齢者の住空間とライフスタイルのレジュメを確認							
【第 13 回】								
予習	リフォームについてリサーチ							
授業	リフォームの考え方①							
復習	リフォームの考え方①のレジュメを確認							
【第 14 回】								
予習	リフォームについてリサーチ							
授業	リフォームの考え方②							
復習	リフォームの考え方②のレジュメを確認							
【第 15 回】								
予習	これまでの授業で取り上げたテーマの中から、自分の最も興味があるテーマを見つける							
授業	半期のまとめ							
復習	全 15 回の授業内容をよく理解する							
授業開始前学習	下記に示した「参考書」を含め、ライフスタイルに関する書籍や雑誌を読んだり、住空間の事例を調べる機会を持つようになると、授業に関心を持って臨める。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で実施する課題については、後日授業内でコメント等によりフィードバックする。							
テキスト・教材	授業中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書	「図説 住まいの計画 住まい方から住空間をデザインする 新訂版」林知子/大井絢子他著 彰国社刊 「私たちの住まいと生活」水村容子/井上由起子/渡邊美樹 編 彰国社刊 「間取りの方程式」飯塚豊著 エクスナレッジ刊 「世界で一番美しい住宅デザインの教科書」中山繁信著 エクスナレッジ刊							
評価の基準と方法	出席（受講態度含む）、各授業ミニアンケート、最終レポートを総合して評価する。 配点は、出席点 30 点、ミニアンケート 20 点、最終レポート 50 点。 出席回数が 10 回未満の場合は、単位修得不可。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○			
関連科目	インテリアデザイン論 住空間とインテリアプロダクト							
その他	授業の順番等は、適宜変更することもある							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	企業におけるこれまでの研究開発や商品企画経験を活かし、具体的な商品例や事例を取り入れて講義する。							

科目名称	福祉住環境デザイン		
科目分類	140-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Housing Environment for Elderly and Disabled	授業区分	講義
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	高齢者や障がい者を取り巻く社会状況を把握し、福祉住環境に関連する分野についての基礎的な知識を身につける。また、高齢者や障がい者が安全・安心して生活するための具体的な住環境整備の手法を学ぶ。授業では演習課題やフィールドワークを行う。		
到達目標	福祉の視点から住環境について考え、高齢者や障がい者が安全・安心して生活できる環境を整備するための手法や、その背景にある社会制度などについての基礎的な知識を習得する。高齢者や障がい者の身体的・精神的特性を理解したうえで、住環境を整備するための具体的な手法を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：ガイダンス 復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性（演習課題1） 復習：テキストを再読し、「少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性」について復習する</p> <p>【第3回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：福祉に関する制度としくみ（演習課題2） 復習：テキストを再読し、「福祉に関する制度としくみ」について復習する</p> <p>【第4回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：高齢者や障害者の日常生活（演習課題3） 復習：テキストを再読し、「高齢者や障害者の日常生活について」復習する</p> <p>【第5回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ①移動（演習課題4） 復習：テキストを再読し、「移動のための基本技術」について復習する</p> <p>【第6回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ②水廻り（演習課題5） 復習：テキストを再読し、「水廻りの基本技術」について復習する</p> <p>【第7回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ③温熱環境（演習課題6） 復習：テキストを再読し、「温熱環境の基本技術」について復習する</p> <p>【第8回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ④インテリアデザイン（演習課題7） 復習：テキストを再読し、「インテリアデザインの基本技術」について復習する</p> <p>【第9回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ⑤屋外空間（演習課題8） 復習：テキストを再読し、「屋外空間の基本技術」について復習する</p> <p>【第10回】 予習：体験場所について調べる 授業：シニアシミュレーション体験（フィールドワーク） 復習：体験レポートをまとめる</p> <p>【第11回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：高齢期の住まい方①（演習課題9） 復習：テキストを再読し、「高齢期の住まい方」について復習する</p> <p>【第12回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：高齢期の住まい方②（演習課題10） 復習：テキストを再読し、「高齢期の住まい方」について復習する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : テキスト (指定されたページ) を読む 授業 : 福祉のまちづくり① (演習課題 11) 復習 : テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する 【第 14 回】 予習 : テキスト (指定されたページ) を読む 授業 : 福祉のまちづくり② (演習課題 12) 復習 : テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する 【第 15 回】 予習 : 前回までの要点を読み返す 授業 : まとめ 復習 : 演習課題を復習する								
授業開始前学習	バリアフリーについてインターネットや書籍等で調べる。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回演習課題を実施し、講義の中で解説を行いながらフィードバックする。							
テキスト・教材	適宜プリントを配布する							
参考書	「心地よいバリアフリー住宅をデザインする方法」(エクスマレッジ)							
評価の基準と方法	ミニテストと演習課題、授業態度を総合して評価する。 配点 (100 点満点) は、ミニテストと演習課題 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎			
関連科目								
その他	「シニアシミュレーション体験」は身近なバリアフリーを考える体験課題として実施します。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	環境デザイン		
科目分類	140-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Environmental Design	授業区分	講義
科目責任者	中津 大悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中津 大悟	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	持続可能な発展（サステナブル・ディベロップメント）を理解するため、地球の生態系保全（エコロジー）について考える「地球環境」の基礎知識を踏まえ、住宅や建築物における人間の快適性を追求する「生活環境」に重点を置いた「環境デザイン」を学ぶ。		
到達目標	建築をとりまく環境を様々な側面から捉えて理解し、これからの循環型社会・持続可能な社会づくりに主体的に参画できるよう、応用力をつける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】	予習：「環境」「デザイン」の意味を考える 授業：環境デザインの基本的な考え方 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第2回】	予習：「地球温暖化」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～エネルギーの消費と地球温暖化 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第3回】	予習：「再生可能エネルギー」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～再生可能エネルギーと創エネ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第4回】	予習：「持続可能な社会」について調べる 授業：地球環境 ～身近なエコと環境ラベリング制度 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第5回】	予習：「世界の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第6回】	予習：「日本の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第7回】	予習：身近な「光環境」を見つける 授業：生活環境 ～光環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第8回】	予習：身近な「温熱環境」を見つける 授業：生活環境 ～温熱環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第9回】	予習：身近な「空気環境」を見つける 授業：生活環境 ～空気環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第10回】	予習：身近な「音環境」を見つける 授業：生活環境 ～音環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第11回】	予習：「緑化」の効用について調べる 授業：生活環境 ～室内環境と緑化① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第12回】	予習：身近な「緑化」空間を見つける 授業：生活環境 ～室内環境と緑化② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第13回】			

予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる <b>【第14回】</b> 予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる <b>【第15回】</b> 予習：これまでの授業内容で不明点を確認する 授業：生活環境デザインのまとめ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	小レポートの内容に関して授業内で解説（または講評、補足）を適宜行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	レポート、出席状況で評価を行う。 詳細については学生の理解度を勘案し調整するものとする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	建築設計の実務経験を活かし、 環境諸問題に対し、建築分野を出発点とした際の接点や問題解決へのアプローチ（環境デザイン）について講義。							

科目名称	色彩デザイン		
科目分類	140-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Color Design	授業区分	講義
科目責任者	滝沢 真美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	滝沢 真美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	幅広い複合領域にまたがる色彩学を広く浅く全般的に学ぶのではなく、建築やインテリアの分野に必要な基礎知識に絞り理解を深める。さらに、その知識を実践的に応用できるように、講義だけではなくワークや配色実習を通して体験的に学ぶ。カラーコーディネーター検定受験に関しても、基礎的な知識を習得できるようにカリキュラムに組み込んでいる。		
到達目標	建築インテリア分野で必要なマンセルカラーシステムを理解する。さらにマンセルシステムに基づく HUE&TONE システムを学び、建築インテリア空間で使われる色の特徴と配色テクニックを理解する。色彩心理学的な視点からカラーイメージについて学び、好きな色を使いこなす方法を理解する。さらに、現在の主要なインテリアテイストについて学び、好きか嫌いかという感覚で捉えられがちな色やデザインを、ターゲットやコンセプトに合わせて建築インテリアの分野で、実践的に使えるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：この授業の中で知りたい色彩の知識は何かを考えてくる  授業：色の果たす役割、建築インテリア分野における色の重要性  復習：これから学ぶ授業の全体像を把握しておく。自分がこの授業で学びたいことを明確にしておく</p> <p>【第2回】  予習：色が見える状況はどんな時か考えておく  授業：色が見える仕組み 1 色と光の関係（プリント使用・参考書併用）  復習：照明と色について自分の家のインテリアを観察する。課題レポート作成</p> <p>【第3回】  予習：読みやすいサイン、読みにくいサインを探しておく  授業：色が見える仕組み 2 視覚のメカニズムとカラーユニバーサルデザイン（プリント使用・参考書併用・教科書 p58～59）  復習：カラーユニバーサルデザインについて復習をしておく。課題レポート作成</p> <p>【第4回】  予習：テレビの画面とカラー印刷物について、ルーペを使って観察してくる  授業：色を作る仕組み 加法混色と減法混色（プリント使用・参考書併用） / デザイントーン一覧表の作成(実習)  復習：点描画の絵画を観察し中間混色について理解する。課題レポート作成/ デザイントーンの一覧表の完成</p> <p>【第5回】  予習：自分の知っている色名をチェックする  授業：色を伝える方法 1 色名（プリント使用・参考書併用・教科書 p63）（発表）  復習：色名の分類について復習し、知らない色名についてチェックしておく。課題レポート作成</p> <p>【第6回】  予習：教科書 1 章を通読しておく  授業：色を伝える方法 2 色の三属性とマンセルカラーシステム（教科書 1 章 p9～13）（色相環作成実習）  復習：マンセルの色相、明度、彩度を理解できているか確認しておく。課題レポート作成</p> <p>【第7回】  予習：教科書 1 章を通読しておく  授業：色を伝える方法 3 HUE&amp;TONE システム（教科書 1 章 p14～23）（トーン判別実習）  復習：トーンの成り立ち、2 分類、4 分類について理解ができているか確認する。課題レポート作成</p> <p>【第8回】  予習：教科書 2 章を通読しておく  授業：HUE&amp;TONE システムの応用 &amp; インテリア空間で使われる色の特徴（教科書 2 章 p26～38）（嗜好色調査）  復習：自分の好きな色とインテリアで使っている色の関連をチェックする。課題レポート作成</p> <p>【第9回】  予習：スーパーマーケットでミカンのネット、オクラのネットの色を確認しておく  授業：対比と同化、色の心理的効果（プリント使用・参考書併用）（実習）  復習：色は周りの状況で違って見えることを確認しておく。課題レポート作成</p> <p>【第10回】  予習：自分の好きな配色について調べておく  授業：6 つの基本配色テクニックの紹介と配色実習 1（教科書 3 章 p40～47）（実習）  復習：教科書 3 章 1 節を通読し基本 6 配色テクニックの全体像を理解する。練習用シートの完成</p> <p>【第11回】  予習：基本 6 配色テクニックについて復習をしておく  授業：6 つの基本配色テクニックの配色実習 2（教科書 3 章 p40～47）（実習）  復習：教科書 3 章を通読しておく。提出用シートの完成</p> <p>【第12回】  予習：教科書 3 章 2 節を通読しておく  授業：配色センスアップの方法とインテリア分野への応用（教科書 3 章 p48～58）  復習：配色テクニックをインテリア空間で応用する際のポイントを確認しておく。課題レポート作成</p>			

<p>【第13回】          予習：教科書4章を通読しておく          授業：インテリア空間で好きな色を使う方法&amp;イメージスケールの紹介（教科書4章 p62～87&amp;6章1節 p116～121）          復習：第6章1節を読みイメージスケールについて理解を深めておく</p> <p>【第14回】          予習：教科書5章を通読しておく          授業：主要なインテリアテイストの配色実習（教科書5章 p90～113）（実習）          復習：主要なインテリアテイストの色やデザインの表現方法を復習しておく</p> <p>【第15回】          予習：レポート試験に備えて授業全体の復習をしておく          授業：日本の色（講義）&amp;レポート試験          復習：授業全体を振り返る</p>								
授業開始前学習	各回ごとに、指定の予習項目を記載しているので、それをよく読み実施すること。 特に、最終回はレポート試験を実施するので、全体の復習して授業にのぞむこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回レポート課題を出す。提出状況はチェックするが、個々のレポートの添削は行わない。次回の授業の冒頭に模範解答を口頭で発表する。最終回のレポート試験は、この中から出題するので、理解が不足している場合は、授業中に質問をし、理解しておくこと。							
テキスト・教材	テキスト：『住宅インテリアのための実践カラーテクニック 改訂版』ISBN978-4-904403-26-6 滝沢真美著（トソー出版）定価 3300 円 教材：新デザイントーン 130 シリーズ色紙 B8 発売元/（株）日本カラーデザイン研究所 定価 1210 円 テキストと教材は必ず教科書販売期間中にセットで丸善キャンパスショップ駒沢学園店を通して購入しておくこと。 特に実習で使用する教材は市販していないので注意すること。テキストと教材を購入しないものの受講は認めない。							
参考書	『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス公式テキスト』東京商工会議所編（中央経済社） 特に、検定試験受験予定者は参考書として購入しておくことが望ましい。							
評価の基準と方法	最終回のレポート試験 80 点 6つの基本配色テクニック実習シート 20 点 合計 100 点で 60 点以上を合格とする							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎			
関連科目								
その他	座学だけでなく、実際の生活の中から美しい色彩を見つける姿勢を持ちながら、授業に臨んで欲しい							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	カラーマーケティングおよび色彩計画の専門家として、ハウスメーカー、建材メーカーなどの商品開発のための委託研究やコンサルティング、インテリアコーディネーター向けのセミナーを行っているため、その実践的な知識をインテリアを学ぶ学生に講義する。							

科目名称	CAD I		
科目分類	140-311-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	CAD I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸・鈴木	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸・佐藤(陽)・鈴木(利)・高橋(怜)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CAD ソフトは VectorWorks（イーアンドイー株式会社）を使用する。		
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても独力でモデリングができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読んでおく。テキスト購入。  授業：ガイダンス  復習：教場、機材、ログイン方法再確認。</p> <p>【第2回】  予習：教科書 p.010-021 下読み  授業：作業環境と基本操作 p.010-021  復習：教科書 p.010-021 の例題自習</p> <p>【第3回】  予習：教科書 p.022-026 下読み  授業：作図操作に慣れる p.022-026  復習：教科書 p.022-026 の例題。p.026 画面表示の検討</p> <p>【第4回】  予習：教科書 p.027-036 下読み  授業：基本図形(1) p.027-036  復習：教科書 p.027-036 の例題。p.021 の属性パレット確認。</p> <p>【第5回】  予習：教科書 p.037-042 下読み  授業：基本図形(2) p.037-042  復習：教科書 p.037-042 の例題。</p> <p>【第6回】  予習：教科書 p.043-044 下読み  授業：名刺と表札を作る p.043-044  復習：名刺課題の提出</p> <p>【第7回】  予習：取り込みたい画像（写真等）の準備  授業：スキャナを使って画像を取り込む  復習：スキャナ課題の提出</p> <p>【第8回】  予習：一般図（前期「製図の基礎」）の種類を復習しておく。  授業：住宅の平面図兼配置図を描く(1) p.045-068  復習：開口部の表現は前期「製図の基礎」より復習しておく。</p> <p>【第9回】  予習：教科書 p.069-087 下読み  授業：住宅の平面図兼配置図を描く(2) p.069-087  復習：教科書 p.087 までの作業完了</p> <p>【第10回】  予習：教科書 p.088-099 下読み  授業：住宅の平面図兼配置図を描く(3) p.088-099  復習：教科書 p.099 までの作業完了</p> <p>【第11回】  予習：教科書 p.100-101 下読み  授業：住宅の断面図を描く(1) p.100-101  復習：教科書 p.101 までの作業完了</p> <p>【第12回】  予習：教科書 p.102-107 下読み  授業：住宅の断面図を描く(2) p.102-107  復習：教科書 p.107 までの作業完了</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 教科書 p.108-112 下読み 授業 : 住宅の立面図を描く p.108-112 復習 : 教科書 p.112 までの作業完了 【第 14 回】 予習 : 教科書 p.113-115 下読み 授業 : ビューポート、シートレイア p.113-115 復習 : 教科書 p.115 までの作業完了 【第 15 回】 予習 : 提出済み課題の確認。 授業 : 到達度チェック 復習 : 到達度チェック問題でできなかった部分の確認								
授業開始前学習	「製図の基礎」で学んだ手描きの製図方法について復習しておく。 テキストを購入しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。 学習用教材については、示された手順に従って各自が繰り返し練習・復習ができる。 各自の提出内容について、評価の基準を明示して採点し返却を行う。							
テキスト・教材	最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション (学芸出版社)							
参考書	「はじめての設計製図」<建築のテキスト> 編集委員会 (学芸出版社)							
評価の基準と方法	授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目	CAD II							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。</li> <li>・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。</li> <li>・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。</li> <li>・再履修者は CADI-a、CADI-b、CADI-c、CADI-d のどれを履修してもよいが、初回授業で履修したいコマを申しでること。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	CAD II		
科目分類	140-311-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	CAD II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっている CAD ソフト VectorWorks を用いて、3D の基本を学び、住宅や商業施設などの建築物のモデリングやプレゼンテーション技術を習得する。		
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても自力でモデリングができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：授業テキストの見直し  授業：ガイダンス  復習：授業計画の再確認</p> <p>【第 2 回】  予習：該当ページの通読  授業：モデリングの基礎  復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 3 回】  予習：該当ページの通読  授業：三面図(1)  復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 4 回】  予習：該当ページの通読  授業：三面図(2)  復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 5 回】  予習：該当ページの通読  授業：三面図とモデリング  復習：課題以外の形状のモデリングを試行する</p> <p>【第 6 回】  予習：該当ページの通読  授業：住宅（木造）のモデリング(1)  復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 7 回】  予習：該当ページの通読  授業：住宅（木造）のモデリング(2)  復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 8 回】  予習：該当ページの通読  授業：住宅（木造）のモデリング(3)  復習：自由な要素を追加してモデリングを試行する</p> <p>【第 9 回】  予習：該当ページの通読  授業：商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(1)  復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 10 回】  予習：該当ページの通読  授業：商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(2)  復習：自由な要素を追加してモデリングを試行する</p> <p>【第 11 回】  予習：該当ページの通読  授業：商業施設（RC 造）のテクスチャマッピング  復習：自由なテクスチャを追加してモデリングを試行する</p> <p>【第 12 回】  予習：該当ページの通読  授業：建築物のプレゼンテーション  復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 13 回】</p>			



予習：該当ページの通読 授業：応用課題 1 住宅（木造）のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する 【第 14 回】 予習：該当ページの通読 授業：応用課題 2 住宅（RC 造）のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する 【第 15 回】 予習：過去課題を見直す 授業：到達度チェック 復習：到達度チェック 内容の見直し									
授業開始前学習	「CAD I」で学んだ 2 次元の操作方法について、復習しておく。								
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、学生の中からとくに代表的なものを複数選び、スクリーンに表示しながら解説してフィードバックする。								
テキスト・教材	「最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション」（学芸出版社）								
参考書									
評価の基準と方法	授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎		○		
関連科目	CAD I								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。</li> <li>・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。</li> <li>・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。</li> <li>・この授業を履修するには、「CAD I」を修得済であること。</li> </ul>								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所において CAD を用いた住宅設計を実践してきた実務経験を活かし、CAD の基本操作から 3D の作図方法などを演習する。								

科目名称	CADⅢ		
科目分類	140-331-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	CADⅢ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	VecterWorks(CAD ソフト)を用いて、三次元データを CG にするための技能を習得する。 また、他のアプリケーションを用いて、効果的なプレゼンテーション表現についても学ぶ。		
到達目標	CAD ソフト、画像処理ソフト等を用いて、図面、3D パースなどを含むプレゼンテーション資料が作成できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：授業準備 授業：概要、3D ボリューム作成レビュー 復習：授業計画の確認</p> <p>【第 2 回】 予習：3D フィレットと NURBS 曲線等 事前学習 授業：3D フィレットと NURBS 曲線等 復習：3D フィレットと NURBS 曲線等 見直し</p> <p>【第 3 回】 予習：課題演習 a ボリューム作成補足 事前学習 授業：課題演習 a ボリューム作成補足 復習：課題演習 a ボリューム作成補足 見直し</p> <p>【第 4 回】 予習：課題演習 b テクスチャについて 事前学習 授業：課題演習 b テクスチャについて 復習：課題演習 b テクスチャについて 見直し</p> <p>【第 5 回】 予習：課題演習 c マッピングについて 事前学習 授業：課題演習 c マッピングについて 復習：課題演習 c マッピングについて 見直し</p> <p>【第 6 回】 予習：課題演習 d テクスチャの編集と作成 事前学習 授業：課題演習 d テクスチャの編集と作成 復習：課題演習 d テクスチャの編集と作成 見直し</p> <p>【第 7 回】 予習：課題演習 e ライティング 1 事前学習 授業：課題演習 e ライティング 1 復習：課題演習 e ライティング 1 見直し</p> <p>【第 8 回】 予習：課題演習 f ライティング 2 事前学習 授業：課題演習 f ライティング 2 復習：課題演習 f ライティング 2 見直し</p> <p>【第 9 回】 予習：課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 事前学習 授業：課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 復習：課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 見直し</p> <p>【第 10 回】 予習：課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 事前学習 授業：課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 復習：課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 見直し</p> <p>【第 11 回】 予習：課題演習 i 3D データの補足 事前学習 授業：課題演習 i 3D データの補足 復習：課題演習 i 3D データの補足 見直し</p> <p>【第 12 回】 予習：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 事前学習 授業：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 復習：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 見直し</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 課題演習 k 添景を合成する 事前学習 授業 : 課題演習 k 添景を合成する 復習 : 課題演習 k 添景を合成する 見直し 【第 14 回】 予習 : 課題演習 l CG 完成作業 事前学習 授業 : 課題演習 l CG 完成作業 復習 : 課題演習 l CG 完成作業 見直し 【第 15 回】 予習 : 全授業内容の再確認 授業 : まとめ 復習 : 見直し								
授業開始前学習	「CAD I」「CAD II」で学習した Vectorworks の 2 次元、3 次元の基本的操作を復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。							
テキスト・教材	必要資料を適宜配布する。							
参考書	「10 日間でマスター！ Vectorworks」(エクснаレッジムック)							
評価の基準と方法	出席状況、授業中の演習課題の提出内容および受講態度 3 割、提出作品 7 割の総合的な判断に基づき評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		○	
関連科目	CAD I、CAD II							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「CAD II」までの単位を取得していること。</li> <li>・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。</li> <li>・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。</li> <li>・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	プレゼンテーション技法		
科目分類	140-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Presentation Techniques	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・鈴木(利)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	CADにて取得してきた VectorWorks(CAD ソフト)の技能に加え、手書きスケッチ、グラフィックソフト等を融合して、よりレベルの高い建築、インテリア等のプレゼンテーションを学ぶ。		
到達目標	VectorWorks(CAD ソフト)の 2D,3D の上級技能を習得し、手書きスケッチやグラフィックソフト等と融合して建築、インテリア等のプレゼンテーション能力向上を目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】  予習 : CADII の内容を復習しておく  授業 : 概要  復習 : 基本 3D ボリューム作成技法を確認</p> <p>【第 2 回】  予習 : 習得済みの CAD 技能を復習しておく  授業 : CAD 技能レビュー (実習)  復習 : CAD 技能全般を見直す</p> <p>【第 3 回】  予習 : cad の 3D 表現の活用、レンダリングを確認しておく  授業 : 課題演習 a cad の 3D 表現の活用、陰線消去 (実習)  復習 : 3D 表現の活用、陰線消去を復習</p> <p>【第 4 回】  予習 : 陰線消去を 活用したパース例を調べる  授業 : 課題演習 b 陰線消去活用によるパースの作成 (実習)  復習 : 陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る</p> <p>【第 5 回】  予習 : 陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る  授業 : 課題演習 c 陰線消去活用によるパースの作成 (実習)  復習 : 陰線消去活用によるパースの作成を進める</p> <p>【第 6 回】  予習 : Illustrator、Photoshop の機能を確認  授業 : 課題演習 d Illustrator、Photoshop による着色 (実習)  復習 : Illustrator、Photoshop による着色を復習する</p> <p>【第 7 回】  予習 : Illustrator、Photoshop による着色を進める  授業 : 課題演習 e Illustrator、Photoshop による着色 (実習)  復習 : Illustrator、Photoshop による着色を完成</p> <p>【第 8 回】  予習 : 添景を 使用したパースの例を調べる  授業 : 課題演習 f 添景の合成 (実習)  復習 : 添景の合成機能を復習する</p> <p>【第 9 回】  予習 : プレゼンテーションレイアウト例を調べる  授業 : 課題演習 g レイアウト演習 1 (実習)  復習 : レイアウトを進める</p> <p>【第 10 回】  予習 : 理解し易いプレゼンテーションを研究する  授業 : 課題演習 h プレゼンテーション演習 1 (実習)  復習 : プレゼンテーション資料作成を進める</p> <p>【第 11 回】  予習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完例を調べる  授業 : 課題演習 i グラフィックソフトによるスケッチ補完 (実習)  復習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完技術を復習</p> <p>【第 12 回】  予習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完を進める  授業 : 課題演習 j グラフィックソフトによるスケッチ補完 (実習)  復習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完の完成</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : レイアウトエスキース案をつくる 授業 : 課題演習 k レイアウト演習 2 (実習) 復習 : レイアウトを進める 【第 14 回】 予習 : プレゼンテーションに向けての作業を進める 授業 : 課題演習 I プレゼンテーション演習 2 (プレゼンテーション・講評・ディスカッション) 復習 : プレゼンテーションをレビューし次なる課題の発見を行う 【第 15 回】 予習 : 提出課題をレビューしておく 授業 : まとめ (講評) 復習 : 提出課題への講評をレビューする								
授業開始前学習	CAD II の内容を復習しておく							
授業内課題のフィードバックの方法	制作時の質問には可能な限り都度回答する。また各自の制作状況を公開することで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材	必要資料を適宜配布する							
参考書	「10 日間でマスター！ Vectorworks」(エクснаレッジムック)							
評価の基準と方法	課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。 授業を 3 分の 1 以上欠席した学生は単位を取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		○	
関連科目	CAD II							
その他	その他 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	デザイン分野における実務経験を生かし、CAD やグラフィックソフトを用いたプレゼンテーションができるよう演習をおこなう。							

科目名称	☆インターンシップ実習／学外実習		
科目分類	140-330-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Off-Campus Practice	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊・三宅・茂木・山崎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	学外実習は、学生が、企業・公共組織などでの社会活動の体験をとおして、その社会性を養います。学生は、企業におもむき、学校での学習・研究の成果や「自身の生き方」が社会でどのように評価されるかを体験し、「自己を高める」意味を見つめます。実習終了後、実習内容をまとめ発表を行います。		
到達目標	学外実習の主旨を正しく理解し、事前に周到な準備を行えること。実習中は適切な判断の下に行動し、必要な知識を習得できること。実習後はその成果を就職活動等に向けて活用できること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読む  授業：事前授業1 大学と社会  復習：事前授業の復習を毎週ノートにまとめる</p> <p>【第2回】  予習：自分の履歴を書き出す  授業：事前授業2 自己をみつめる1  復習：自分の履歴を読みやすく見やすくまとめる</p> <p>【第3回】  予習：履歴書の下書き  授業：事前授業3 自己をみつめる2  復習：問題点を抽出し履歴書の完成</p> <p>【第4回】  予習：新聞を読む  授業：事前授業4 社会人の教養1  復習：キーワードをまとめる</p> <p>【第5回】  予習：新聞を読む  授業：事前授業5 社会人の教養2  復習：キーワードを抽出し学友とディスカッション</p> <p>【第6回】  予習：キャリアハンドブックを読む  授業：事前授業6 社会人としてのマナー  復習：学友とマナーチェック</p> <p>【第7回】  予習：学友、教職員と会話の実践訓練をする  授業：事前授業7 会社の間人関係  復習：問題点を抽出し記録する</p> <p>【第8回】  予習：研修企業調査  授業：事前授業8 企業研究（発表）  復習：企業調査のまとめ</p> <p>【第9回】  予習：学外実習準備  授業：学外実習（夏季集中）（実習）  復習：実習日誌作成</p> <p>【第10回】  予習：実習日誌確認  授業：学外実習（夏季集中）（実習）  復習：実習日誌作成</p> <p>【第11回】  予習：実習日誌確認  授業：学外実習（夏季集中）（実習）  復習：実習日誌作成</p> <p>【第12回】  予習：実習日誌確認  授業：学外実習（夏季集中）（実習）  復習：実習日誌作成</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 実習日誌確認 授業 : 学外実習 (夏季集中) (実習) 復習 : 実習日誌作成 【第 14 回】 予習 : 実習日誌確認 授業 : 学外実習 (夏季集中) (実習) 復習 : 実習日誌作成 【第 15 回】 予習 : 実習報告プレゼンテーション準備 授業 : 成果発表会および総括 (発表) 復習 : 学外実習ふりかえり								
授業開始前学習	これまでの作品の整理、ブラッシュアップなどを含め、実習先に持参するポートフォリオを作成しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	事前授業のレポート等の提出後、および実習終了後の発表会にて講評を行う。							
テキスト・教材	適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	レポート (プレゼンテーション)、実習ノート、実習態度などによる総合評価。配点(100 点満点における)は、授業態度等 30 点、提出物 30 点、実習受講態度 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	◎		○		
関連科目								
その他	原則として 2 週間の実習を行うが、受講には条件がある。(詳細は、履修ガイド及び学外実習関連掲示を参照) 実習に先立って行われる学外実習オリエンテーションは必ず出席する。実習先へのお礼、手みやげ代として実習費がかり、原則として返却しない。実習先への交通費、かかる経費等実費はすべて自己負担。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築インテリア関連企業での実務経験を活かし、建築・インテリア分野での仕事に求められる資質・能力について講義する。							



科目名称	フィールドワーク		
科目分類	140-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Fieldwork	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木 利彦	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木(利)・三宅	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	地域に育まれた伝統的な文化や建物・街並みを調査・体験し、伝統工芸や食文化などに触れることにより、その土地の生活文化を調査研究する。 授業では、ディスカッションやグループ発表などのグループワークやプレゼンテーションを実施する。さらに、現地を訪れてフィールドワーク実習を行う。		
到達目標	現地を訪れ学ぶために必要となる的確な計画立案力・情報収集力を身につける。特色あるその土地の文化や工芸、インテリアや建築などの知識を深める。グループワークや団体行動を通して、社会で必要となる力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスをよく読む 授業：事前授業1（4月）：ガイダンス 復習：配布資料をよく読む</p> <p>【第2回】 予習：実習エリアの資料収集 授業：事前授業2（5月）：課題説明・フィールドワーク行動計画（グループワーク） 復習：訪問先の検討</p> <p>【第3回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業3（6月）：フィールドワーク訪問先調査研究1（グループワーク） 復習：訪問先資料の整理</p> <p>【第4回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業4（7月）：フィールドワーク訪問先調査研究2（グループワーク） 復習：訪問先資料のまとめ</p> <p>【第5回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業5（8月）：フィールドワーク訪問先研究発表（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：資料の完成</p> <p>【第6回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録</p> <p>【第7回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録</p> <p>【第8回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録</p> <p>【第9回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録</p> <p>【第10回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録</p> <p>【第11回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録</p> <p>【第12回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録</p> <p>【第13回】</p>			

予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録 【第 14 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録 【第 15 回】 予習：発表準備 授業：実習成果の発表・まとめ（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：報告書の完成								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	計画立案から調査研究・実習の間、ディスカッションを通してフィードバックする。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	この科目は団体行動となるため授業態度と協調性を重視する。事前授業及び報告会などへの出席・提出物・授業態度 50%、フィールドワーク実習 50%で評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は国内（主に地方）での集中講義を実施するため、費用が 1 人 3 ～ 5 万円程度かかる予定。</li> <li>・履修者は初回授業に必ず出席すること。</li> <li>・2023 年度は実施形態を 2 泊 3 日としているが、社会事情（新型コロナ感染拡大など）により短縮実施もあり得る。</li> <li>・履修人数が 60 名を超えた場合は抽選を行う。最少および最大催行人数を設定する。大学側との協議の結果、実施できない可能性もある。</li> <li>・団体行動のため、指示に従わない等の場合は履修を取り消していただきます。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	インテリアデザイン I		
科目分類	141-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤・リヴィエレ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	飲食店舗にはレストラン、カフェ、バー、屋台などのさまざまな種類と特徴がある。課題を通して、用途や条件をふまえた飲食店舗のインテリアデザインの設計プロセスを習得する。設計条件の把握、飲食店舗の機能や要素の理解、飲食店におけるインテリア設計の基本知識などを総合的に習得する。授業では実習および中間・最終プレゼンテーションを行う。		
到達目標	課題の主旨を正しく理解し、適切な問題設定の下にインテリアを計画すること。そのインテリアの目的に合う適切な手法で、空間を正確に表現できること。またその内容を人に的確に伝えられること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを読んでおく  授業：ガイダンス 課題①出題  復習：課題① 参考事例調査</p> <p>【第 2 回】  予習：テキスト 001 項～010 項、コンセプトの検討  授業：エスキース・作業①－1（実習）  復習：条件の整理、制作作業</p> <p>【第 3 回】  予習：テキスト 011 頁～034 頁、計画の検討  授業：エスキース・作業①－2（実習）  復習：問題点の整理、制作作業</p> <p>【第 4 回】  予習：テキスト 047 頁～070 頁、立体表現の検討  授業：エスキース・作業①－3（実習）  復習：制作作業</p> <p>【第 5 回】  予習：講評会準備  授業：課題①講評（プレゼンテーション） 課題②出題  復習：課題② 参考事例調査</p> <p>【第 6 回】  予習：参考事例調査、コンセプトの検討  授業：エスキース・作業②－1（実習）  復習：条件の整理</p> <p>【第 7 回】  予習：テキスト 010 頁～034 頁、平面計画の検討  授業：エスキース・作業②－2（実習）  復習：平面計画作業</p> <p>【第 8 回】  予習：テキスト 035 頁～046 頁、断面計画の検討  授業：エスキース・作業②－3（実習）  復習：断面計画作業</p> <p>【第 9 回】  予習：平面・断面計画の検討  授業：エスキース・作業②－4（実習）  復習：平面・断面計画作業</p> <p>【第 10 回】  予習：中間講評準備  授業：課題②中間講評（プレゼンテーション）  復習：コメントセッション資料自習</p> <p>【第 11 回】  予習：テキスト 072 頁～090 頁、模型表現の検討  授業：エスキース・作業②－5（実習）  復習：模型制作作業</p> <p>【第 12 回】  予習：模型制作作業  授業：エスキース・作業②－6（実習）  復習：模型制作ブラッシュアップ</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : テキスト 091 頁~106 頁、プレゼンテーションの検討 授業 : エスキース・作業②-7 (実習) 復習 : プレゼンテーション制作作業 【第 14 回】 予習 : プレゼンテーション制作作業 授業 : エスキース・作業②-8 (実習) 復習 : プレゼンテーション制作作業 【第 15 回】 予習 : 最終講評準備 授業 : 課題②最終講評 (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの整理									
授業開始前学習	教科書「新しいインテリアデザインの実技」の各章を読んでおくこと。								
授業内課題の フィードバックの方法	中間講評会及び最終講評会にて作品のプレゼンテーションと講評を行う。								
テキスト・教材	村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』(市ヶ谷出版社) このほかに必要な資料は指示またはプリントを配布する。								
参考書	授業にあわせ推薦図書、参考図書を紹介する。								
評価の基準と方法	授業は演習と講義などで進める。よって評価は受講態度、提出内容、提出期限を重視する。配点(100 点満点における)は受講態度等 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満の場合は、単位修得不可。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			△		○	◎	○		
関連科目	インテリアデザイン計画 B								
その他	エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)								
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員 2 名は建築・インテリアデザインの実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生がインテリアデザインの実務に役立つ実習を行う。								

科目名称	インテリアデザインⅡ		
科目分類	141-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・駒井	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ホテルは単に宿泊する機能だけでなく、ロビー、レストラン、バー、物販、式典、会合など、さまざまな用途施設の複合空間である。課題を通して、ホテルの立地条件や客層をふまえた具体的なインテリアデザインの設計プロセスを学ぶ。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に学習する。		
到達目標	課題の立地条件や客層をふまえた実践的なインテリアデザインの設計プロセスを課題演習の中で理解する。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に習得しながら、各自の計画内容をわかりやすく表現することを目標とする		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読み確認する  授業：ガイダンス、課題①出題  復習：ガイダンスを受けて準備物の確認を行う</p> <p>【第2回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業①-1（実習）  復習：エスキース・作業①-1 復習 各自の詳細スケジュール作成</p> <p>【第3回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業①-2（実習）  復習：エスキース・作業①-2、各自内容再確認 資料整理</p> <p>【第4回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業①-3（実習）  復習：発表準備を進める</p> <p>【第5回】  予習：発表準備  授業：課題①講評、課題②出題（プレゼンテーション・講評・ディスカッション）  復習：課題①講評復習、課題②準備確認</p> <p>【第6回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業②-1（実習）  復習：エスキース・作業②-1 復習 スケジュール作成</p> <p>【第7回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業②-2（実習）  復習：エスキース・作業②-2、各自内容再確認 資料整理</p> <p>【第8回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業②-3（実習）  復習：エスキース・作業②-3、エスキース展開</p> <p>【第9回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業②-4（実習）  復習：エスキース・作業②-4、エスキース進展、発表準備</p> <p>【第10回】  予習：発表準備  授業：課題②中間講評（発表・講評・ディスカッション）  復習：中間講評内容レビュー、詳細スケジュール確認</p> <p>【第11回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業②-5（実習）  復習：エスキース・作業②-5、エスキース展開</p> <p>【第12回】  予習：エスキース準備  授業：エスキース・作業②-6（実習）  復習：エスキース・作業②-6、エスキース進展</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②-7 (実習) 復習 : エスキース・作業②-7、エスキース制作作業 【第 14 回】 予習 : エスキース準備 提出準備 授業 : エスキース・作業②-8 (実習) 復習 : エスキース・作業②-8 提出準備 【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題②最終講評 (プレゼンテーション・講評・ディスカッション) 復習 : 講評レビュー								
授業開始前学習	宿泊施設の様々な事例を調べておくことを推奨する。							
授業内課題のフィードバックの方法	エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材	教科書 : 「新しいインテリアデザインの実技」市ヶ谷出版社 このほかに必要な資料は指示またはプリントを配布する。							
参考書	授業にあわせ推薦図書、参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法	授業は演習と講義などで進める。よって評価は出席、受講態度、提出内容、提出期限を重視する。配点 (100 点満点における) は出席・受講態度 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満 (授業回数 3 分の 2 未満) の場合は、単位修得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	◎	○	
関連科目	インテリアデザイン計画 C							
その他	エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。 設計製図 I、インテリアデザイン I を履修済みであること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	複数の担当教員は共にホテルインテリアデザイナーとしての実務経験を生かし、宿泊施設のインテリアデザイン提案ができるよう演習をおこなう							

科目名称	インテリアデザイン論		
科目分類	141-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Interior Design	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30 後期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30	研究室	1-202
授業概要	インテリア空間を理解し、空間のデザインを促すための論である。 インテリア空間をデザインするためには、さまざまなインテリアの要素、要因などの知識が必要である。 要素、要因の観点は多種多様であるが、この論では、空間の考え方と有り様を中心に論ずる。 その内容を各自が問題意識を持ち、研究・習得する。授業では小課題のグループ発表などを行う。		
到達目標	インテリアデザインを考える上で必要な知識を幅広く身につけること。それらの知識をふまえ、小課題やレポートを通して、インテリア空間を自分の視点で正確に読み取り、的確に表現できること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読み込んでおく  授業：ガイダンス  復習：授業のテーマと目的を良く理解しておく（小課題1）</p> <p>【第2回】  予習：インテリアデザインと聞いてイメージするキーワードの考察  授業：インテリアデザインとは（小課題1 グループ発表）  復習：インテリアデザインの領域の再確認</p> <p>【第3回】  予習：住まい以外の好きな空間  授業：何も無かった空間  復習：インテリアデザインの用途別分類（小課題2）</p> <p>【第4回】  予習：日本と海外の住まいの違い  授業：様々な空間（小課題2 グループ発表）  復習：日本と海外の空間の歴史とその違いと特徴を認識</p> <p>【第5回】  予習：自分の家の玄関のリサーチ  授業：靴を脱ぐ住まい  復習：玄関、畳の名称や寸法</p> <p>【第6回】  予習：季節の行事  授業：人の動作、行動と寸法  復習：モジュールについて（小課題3）</p> <p>【第7回】  予習：自分の部屋にある家具の確認  授業：家具の役割（小課題3 グループ発表）  復習：家具の種類、用途の再確認</p> <p>【第8回】  予習：自分の部屋の収納量をリサーチ  授業：収納  復習：部屋別の収納家具やその寸法、デザインの再確認</p> <p>【第9回】  予習：自分の部屋の照明のリサーチ  授業：自然のあかりと人工のあかり  復習：あかりの種類の確認（小課題4）</p> <p>【第10回】  予習：自分のキッチンのリサーチ  授業：台所、風呂、便所（小課題4 グループ発表）  復習：キッチン、風呂、トイレに使われている素材の確認</p> <p>【第11回】  予習：自分の寝室のリサーチ  授業：寝室、玄関  復習：寝室、玄関に使われている素材の確認</p> <p>【第12回】  予習：自分の家の中に使われている素材の整理  授業：素材1  復習：自分の家の床・壁・天井など素材を確認</p> <p>【第13回】</p>			



予習：自分の好きな素材・色を探す 授業：素材2 復習：素材の種類、トレンドの確認 【第14回】 予習：自分の好きな家具のデザイン 授業：まとめ1 復習：室内環境の再認識 【第15回】 予習：自分の好きなインテリアスタイル 授業：まとめ2 復習：15回の授業内容を良く理解しておく								
授業開始前学習	「図学と透視画の基礎」授業で使用した教科書「新しいインテリアデザインの実技」第1章1-1と1-2をよく読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	小課題ワークシート提出後の授業でグループ発表と講評を行う。							
テキスト・教材	授業に必要な資料は指示、又は配布する。 作業に必要な用具、教材は指示に応じて各自用意する。							
参考書	授業にあわせて、推選図書、参考書を紹介する。							
評価の基準と方法	小課題と最終レポート、受講態度等を総合して評価する。 配点（100点満点における）は、小課題等20点、受講態度等30点、最終レポート50点の配分とする。 出席が10回未満の場合は、単位修得不可。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザインⅠ、インテリアデザインⅡ							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	建築、インテリアデザインの実務経験あり。建築・インテリアデザイン分野の実務に役立つ内容について講義する。							

科目名称	インテリアデザイン計画 A		
科目分類	141-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design A	授業区分	講義
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	住宅のインテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話を介して朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察し、学んでいく。実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、住空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目的とする。授業では、演習課題や課題発表などのワークと共に、グループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、住空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを読み込んでおく  授業：ガイダンス  復習：授業のテーマと目的を良く理解しておく</p> <p>【第 2 回】  予習：インテリアデザインでイメージすることを整理  授業：住空間インテリアデザイン概論（演習課題 1）  復習：住空間のインテリアデザインの領域の再確認</p> <p>【第 3 回】  予習：自分の家のエントランス空間をリサーチ  授業：エントランス空間（演習課題 2）  復習：自分の家のエントランス空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 4 回】  予習：自分の家のリビング空間のリサーチ  授業：リビング空間（演習課題 3）  復習：自分の家のリビング空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 5 回】  予習：自分の家のダイニング空間のリサーチ  授業：ダイニング空間（演習課題 4）  復習：自分の家のダイニング空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 6 回】  予習：自分の家のいちばん人が集うところをリサーチ  授業：実測① 人が集う空間のスケール把握（グループワーク 1）（グループ発表 1）  復習：実測①の分析資料を作成</p> <p>【第 7 回】  予習：自分の家のキッチン空間のリサーチ  授業：キッチン空間（演習課題 5）  復習：自分の家のキッチン空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 8 回】  予習：自分の家の働く空間のリサーチ  授業：働く空間（演習課題 6）  復習：自分の家の働く空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 9 回】  予習：自分の家のサニタリー空間をリサーチ  授業：サニタリー空間（演習課題 7）  復習：自分の家のサニタリー空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 10 回】  予習：自分の家の機能的な空間をリサーチ  授業：実測② 機能的空間のスケール把握（グループワーク 2）（グループ発表 2）  復習：実測②の分析資料を作成</p> <p>【第 11 回】  予習：自分の家の寝室空間のリサーチ  授業：寝室空間（演習課題 8）  復習：自分の家の寝室空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 12 回】  予習：自分の家または、知人の子供の空間のリサーチ  授業：子供のための空間（演習課題 9）  復習：自分の家または知人の子供の空間の部材・素材の確認</p>			

<p>【第13回】          予習：自分がイメージする和のキーワード、機能などリストアップ          授業：和の空間（演習課題10）          復習：自分の家の中の和空間の部材・素材の確認</p> <p>【第14回】          予習：自分の家の個人的な空間をリサーチ          授業：実測③ 個人的空間のスケール把握（グループワーク3）（グループ発表3）          復習：実測③の分析資料を作成</p> <p>【第15回】          予習：自分の好きな住空間を探してくる（雑誌などで）          授業：講評（課題発表1）          復習：15回の授業内容をよく理解しておく</p>								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。暮らしている住まいの空間を出来るだけ観察するように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法	演習を実施した際には、講義内での解説を行う。課題発表やグループ発表では、講評を行う。							
テキスト・教材	授業中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書	講義中に指示する。							
評価の基準と方法	事例研究レポート・見学レポート・授業態度を総合して評価。配点は、研究レポート30点、見学レポート40点、平常点（授業態度・課題提出・授業内演習）30点。出席回数が授業の3分の2未満は単位取得不可。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ							
その他	学外で見学会を行うことがあります。その際に必要な交通費・入場料などの経費は自己負担となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。建築・インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザイン計画 B		
科目分類	141-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design B	授業区分	講義
科目責任者	出原 秀仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	出原 秀仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話、そして朝昼晩といった時間経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時にインテリアデザインの前提となる「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性和それらの構築方法を「シーンメイクスペースデザイン」を通して理解してゆくことを目的とする。		
到達目標	自身が対峙する空間の「課題」が明確にでき、「コンセプト」「ターゲット設定」「提供価値」と必然となる具体解決提案に結びつけることができるようになること。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを一読俯瞰し、授業進行概要を把握しておく。  授業：ガイダンス  復習：ガイダンス内容と自身の学習目的を確認する。</p> <p>【第 2 回】  予習：空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。  授業：シーンメイクスペースデザイン概論  復習：自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。</p> <p>【第 3 回】  予習：空間の情緒的要素を伝達する方法を考えておく。  授業：空間計画にける脚本づくり  復習：身近な空間の情報を文章化してみる。</p> <p>【第 4 回】  予習：「価値」という言葉の意味を調べておく。  授業：空間価値  復習：自身の興味ある商業店舗の空間価値を考えてみる。</p> <p>【第 5 回】  予習：「らしさ」と「共通イメージ」という言葉の意味を調べておく。  授業：「らしさ」と「共通イメージ」  復習：頭の中に浮かぶイメージをキーワードとして記述してみる。</p> <p>【第 6 回】  予習：自身が行うデザインはいつもどこから出てくるのかを考えておく。  授業：デザインのプロセス  復習：イメージとデザインの関係性を再確認する。</p> <p>【第 7 回】  予習：デザインと企画の差異について考えておく。  授業：空間構築のコンセプト（1）  復習：デザイン行為において文字をあつかうことを実践してみる。</p> <p>【第 8 回】  予習：紙面やWEBで頻繁に目にするキーワードを調べておく。  授業：空間構築のコンセプト（2）  復習：時代のキーワードについて考えてみる。</p> <p>【第 9 回】  予習：デザインや制作の目的について考えておく。  授業：空間構築の目標設定  復習：5w1hについて再確認する。</p> <p>【第 10 回】  予習：自身の商品・サービスの購入基準は何か考えておく。  授業：空間の「機能価値」と「意味的価値」（1）  復習：良いコミュニケーションとはなにかを再確認する。</p> <p>【第 11 回】  予習：健康志向について調べておく。  授業：環境と衛生  復習：配布資料を再読し、環境と衛生について理解を深める。</p> <p>【第 12 回】  予習：「属性」の意味を調べておく。  授業：「イメージ」と「デザイン」（1）  復習：配布資料を再読し、「イメージ」について理解を深める。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：配布資料に記載の「イメージ」と「デザイン」のキーワードを理解しておく。          授業：「イメージ」と「デザイン」（２）          復習：配布資料を再読み、「イメージ」と「デザイン」の関係について理解を深める。  <b>【第 14 回】</b>          予習：3 R について調べておく          授業：環境配慮設計          復習：集客施設における環境配慮事例を調べてみる。  <b>【第 15 回】</b>          予習：講義内容を振り返り、疑問点があれば抽出しておく。          授業：講評          復習：本講義で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	提出された課題回答を全体分析し、講義中にフィードバックする。							
テキスト・教材	講義中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	評価の配点は、出席状況を 70 点満点、2 回の課題内容・提出期限を 30 点満点の配分とする。 出席が 10 回以下（講義回数の 3 分の 2 回）、または 2 題の課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザイン I、インテリアデザイン計画 C							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	空間デザインと空間事業企画及び計画の実務経験あり。 商業空間、宿泊空間、博物館、医療治療空間などを実践してきた経験を活かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。							

科目名称	インテリアデザイン計画 C		
科目分類	141-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design C	授業区分	講義
科目責任者	出原 秀仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	出原 秀仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時に多様なインテリアデザインのフィールドとその事例を通して、「シーンメイクスペースデザイン」におけるコミュニケーションとプレゼンテーションの重要性も理解してゆく。		
到達目標	常に世の中の最新動向と問題点に目を向ける意識向上。自身のコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルにおける課題の自覚とその克服を目指した向上指針を明確にする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：シラバスを俯瞰し、授業進行を把握しておく。  授業：ガイダンス  復習：ガイダンス内容と自身の目的を確認する。</p> <p>【第 2 回】  予習：空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。  授業：シーンメイクスペースデザイン概論  復習：自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。</p> <p>【第 3 回】  予習：情景という観点で、自身の興味ある対象空間の良さを考えておく。  授業：シーンの構成要素  復習：講義で得た思考、理論、概念を元に身近な実空間で考察してみる。</p> <p>【第 4 回】  予習：空間にかかわるデザインの領域をおよび分野を調べておく。  授業：デザインのフィールド  復習：配布資料を再読し、デザインのフィールドを再確認する。</p> <p>【第 5 回】  予習：近年話題の商業施設を調べておく。  授業：商業施設  復習：配布資料を再読し、特に開発コンセプトについての理解を深める。</p> <p>【第 6 回】  予習：ディスプレイデザインについて調べておく。  授業：ディスプレイデザイン（1）  復習：講義で紹介された、実デザインを net や文献で再確認する。</p> <p>【第 7 回】  予習：空間における I C T ツール（映像や装置など）について調べておく。  授業：ディスプレイデザイン（2）  復習：講義で得た知識の基づきデザインのメッセージ性についての理解を深める。</p> <p>【第 8 回】  予習：ホテル&amp;リゾートにおける集客のキャッチコピーを数点調べておく。  授業：ホテル&amp;リゾート（1）  復習：配布資料を再読し、多様なホテルブランドの成り立ちについての理解を深める。</p> <p>【第 9 回】  予習：近年話題のホテル&amp;リゾート施設を調べておく。  授業：ホテル&amp;リゾート（2）  復習：ホテル&amp;リゾートに対する多様なニーズとコンセプトを再確認する。</p> <p>【第 10 回】  予習：舞台やステージ演出に必要と思われる要素を調べておく。  授業：ステージセット（舞台美術）  復習：舞台美術の演出構成要素を再確認する。</p> <p>【第 11 回】  予習：テーマパークの非日常性について考えておく。  授業：テーマパーク  復習：ストーリーの重要性を認識し、大学の課題や自身のポートフォリオ制作に活用する。</p> <p>【第 12 回】  予習：「コンセプト」と「イメージ」の違いについて調べておく。  授業：コンセプチュアルアーキテクチャー  復習：配布資料を再読し、建築計画におけるコンセプトの必要性を再認識する。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：自身のポートフォリオなどプレゼンテーションツールの強み弱みを認識しておく。          授業：プレゼンテーション          復習：講義内容を自身の目標と照らし合わせ、プレゼンにおける自身の問題点と課題を明確にする。  <b>【第14回】</b>          予習：知財とはなにか？を調べておく。          授業：著作権と意匠法          復習：特許庁HPなどを参考に知財について理解を深める。  <b>【第15回】</b>          予習：授業内容を振り返り、疑問点質問があれば抽出しておく。          授業：講評          復習：授業で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題回答を全体分析し、講義内に全員へフィードバックする。							
テキスト・教材	講義中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	評価の配点は、出席状況を70点満点、2回の課題内容・提出期限を30点満点の配分とする。 出席が10回以下（講義回数の3分の2回）、または2題の課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザインⅡ、インテリアデザイン計画B							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	空間デザインと空間事業企画及び計画の実務経験あり。 商業空間、宿泊空間、博物館、医療治療空間などを実践してきた経験を活かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。							



科目名称	家具デザイン I		
科目分類	141-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Furniture Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・野田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	リビングデザインの重要な要素である家具の主要な材料となる木材について「加工材料学」と連動しながら素材の特性や加工方法、道具の使い方と家具図の描き方などを学びます。 工房で手工具の使い方から木の加工方法、またデザインや制作の際に必要な家具図の描き方をCADを使いながら学び、さらに家具模型の制作までを学びます。		
到達目標	基本的な木材の特徴を学びながら木工用手工具の使い方を覚え、安全に使えるようになる。 また建築やインテリアとは異なる家具図の描き方を身に付けることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：教科書1頁～3頁を読んでおくこと。  授業：家具デザインとは。  復習：「家具デザイン」について再確認しておく。</p> <p>【第2回】  予習：教科書4頁～11頁を読んでおくこと。  授業：はかる、たたく  復習：「はかる、たたく」について復習しておくこと。</p> <p>【第3回】  予習：教科書13頁～19頁を読んでおくこと。  授業：切る、削る  復習：「切る、削る」について復習しておくこと。</p> <p>【第4回】  予習：教科書21頁～26頁を読んでおくこと。  授業：彫る、あける  復習：「彫る、あける」について復習しておくこと。</p> <p>【第5回】  予習：教科書27頁～28頁を読んでおくこと。  授業：抜く、締める  復習：「抜く、締める」について復習しておくこと。</p> <p>【第6回】  予習：教科書29頁～32頁を読んでおくこと。  授業：仮固定する、磨く  復習：「仮固定する、磨く」について復習しておくこと。</p> <p>【第7回】  予習：教科書34頁、56～77頁を読んでおくこと。  授業：接着する、仕上  復習：「接着する、仕上」について復習しておくこと。</p> <p>【第8回】  予習：配付資料をよく見ておくこと。  授業：CADによる板取図の描き方その1  復習：板取図の描き方を復習しておくこと。</p> <p>【第9回】  予習：配付資料をよく見ておくこと。  授業：CADによる板取図の描き方その2  復習：板取図の描き方を復習しておくこと。</p> <p>【第10回】  予習：配付資料をよく見ておくこと。  授業：CADによる3Dモデリングその1  復習：3Dモデリングの方法を復習しておくこと。</p> <p>【第11回】  予習：配付資料をよく見ておくこと。  授業：CADによる3Dモデリングその2  復習：3Dパースの描き方を復習しておくこと。</p> <p>【第12回】  予習：配付資料をよく見ておくこと。  授業：CADによる三面図の描き方その1  復習：三面図の描き方を復習しておくこと。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習 : ・配付資料をよく見ておくこと。          授業 : ・CAD による三面図の描き方その2          復習 : ・三面図の描き方を復習しておくこと。          【第 14 回】          予習 : ・今までに学んだ CAD による家具図の描き方を確認しておく。          授業 : ・理解度の確認ミニテスト          復習 : ・テスト結果に基づき、自分の問題点を再確認する。          【第 15 回】          予習 : ・家具模型の材料について調べておくこと。          授業 : ・家具模型の作り方          復習 : ・作り方を再確認しておくこと。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で行うミニテストなどで自身の理解度を把握し、個別の指導により問題点を把握し改善する。							
テキスト・教材	自前教科書「家具デザイン」及び配付資料							
参考書								
評価の基準と方法	・授業への取り組み 30%、課題提出物及びレポートなど提出物 70%で総合的に評価。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	「加工・材料学」の同時履修を強く推奨。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工房設備の関係で【定員 16 名】の 2 クラス開講（合計 32 名）とする。クラス分けは教員の指示に従うこと。</li> <li>・履修希望者が定員を超えた場合、抽選を行う。その際、上位学年と初回授業出席者を優先する。</li> <li>・履修希望者が定員を超えた場合の調整は初回授業で行うので、履修を希望する場合は必ず出席すること。</li> <li>・学外での見学レポート課題がある。その際の交通費、入場料等の費用は自己負担とする。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	家具デザインの実務経験のある教員が担当しており、実務に即した図面の描き方や木の加工方法などを学ぶことが出来る。							

科目名称	家具デザインⅡ		
科目分類	141-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Furniture Design II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・野田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>わたしたちの生活に欠かせない一番身近な家具である「すわるかかち」=「イス」について考える。          生活の道具として、本当に座りやすく美しい「すわるかかち」=「イス」とはどのようなものなのか？          合板という木質材料の特性を理解しながら人が「すわる」という行為のために必要なかたちについて考察し、デザインすることで検証する。          前期に身に付けた道具の使い方や木の加工技術を生かしながら実際に工房で製作を行い、頭で考えるだけではなく素材に触れ自分の手で制作した「すわるかかち」に実際に座ることで「身体で発見する」を目指す。</p>		
到達目標	<p>前半は、前期に学んだ家具デザインの基本を使いながら合板という材料の特性を生かした「すわるかかち」のデザインをする。          後半は、実際に木工房で製作を行い、完成した「すわるかかち」に座ってみて自身のデザイン検証を行うことを目標とする。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】          予習：身の回りの座る道具について調査すること。          授業：「すわるかかち」とは          復習：「すわるかかち」について再確認しておく。</p> <p>【第2回】          予習：「すわる」行為について研究しておくこと。          授業：「すわる」行為についての問題点の発見          復習：問題点の整理</p> <p>【第3回】          予習：かかちのスタディー、スケッチなど          授業：「すわる」行為における問題点に対する解決方法の検討          復習：スケッチ、スタディモデルのブラッシュアップ</p> <p>【第4回】          予習：スケッチ、スタディモデルの更なるブラッシュアップ          授業：解決方法のかかちによる展開          復習：スケッチのブラッシュアップ</p> <p>【第5回】          予習：有名デザイナーによる名作イスを研究すること。          授業：解決方法のかかちによる展開その2          復習：スケッチやスタディモデルの更なるブラッシュアップ</p> <p>【第6回】          予習：前期の授業で配布された CAD 図面の資料を再確認しておく。          授業：CAD による三面図や 3D パースの制作          復習：プレゼンテーション用図面の出力</p> <p>【第7回】          予習：模型材料の準備          授業：プレゼン用模型の制作          復習：プレゼンテーションの準備</p> <p>【第8回】          予習：プレゼンテーションの準備          授業：中間発表会（プレゼンテーション）          復習：講評会における指摘事項の再確認</p> <p>【第9回】          予習：プレゼンテーションで指摘された内容で図面を修正しておくこと。          授業：板取作業(実習)          復習：背面の修正</p> <p>【第10回】          予習：制作の準備          授業：部品の切り出し(実習)          復習：図面の修正</p> <p>【第11回】          予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと          授業：部品の加工作業、その他(実習)          復習：特になし</p> <p>【第12回】          予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと          授業：組み立て作業、その他(実習)</p>			

<p>復習：制作上で明らかになったデザインの変更点による図面の修正  【第13回】  予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと  授業：組み立て、仕上げ作業、その他(実習)  復習：制作上の変更点による図面の修正  【第14回】  予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと  授業：組み立て、仕上げ作業(実習)  復習：デザインの変更点による図面の修正  【第15回】  予習：講評会用の図面、模型の準備  授業：講評会、実証体験(発表)  復習：講評会での検証結果をレポートにまとめる。</p>								
授業開始前学習	前期で習った家具図の描き方、3Dモデリングのやり方などを復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業内で、個々のデザインに対してエスキスを行い、ブラッシュアップに繋げていく。 授業期間の中間で各自のデザインプレゼンテーションを行い、講評によるデザイン改善を行う。 最終授業で実際の制作物による講評会を行い、個々のデザインへの評価を伝え質問等に回答する。 自分のデザインに対する客観的な視点からの意見を取り込み、今後のデザイン改善に繋げていく。							
テキスト・教材	自前教科書「家具デザイン」及び配付資料							
参考書								
評価の基準と方法	授業への取り組み30%、課題提出物や完成作品及びレポートなど70%で総合的に評価。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	前期科目「加工・材料学」※履修済であることを強く推奨。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工房設備の関係で【定員8名】の1クラス開講とする。</li> <li>・履修希望者が定員を超えた場合は上位学年を優先する。</li> <li>・学外での見学レポート課題がある。その際にかかる経費は自己負担とする。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	家具デザインの実務経験がある教員が担当。実務と同じデザインプロセスの体験や木材の加工技術などを身に付けることができる。							

科目名称	家具デザインⅢ		
科目分類	141-330-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Furniture Design Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	<p>地域貢献としてのものづくりを考える。          大学のある稲城市の市民が使うための家具をデザインし、制作する。          地域社会との関わりを意識し、人々の集う場としてふさわしい環境を生み出せるデザインを考える。          稲城市と連携しながら具体的に設置する場所と使う人々を設定し、その条件を踏まえ安全で快適に使用できるデザインを考える課題解決型学修。          実際に制作したものは、稲城市に寄贈し市民に利用してもらう予定。</p>		
到達目標	<p>学生が提案したデザインのプレゼンテーションを行い、関係者による投票で実際に制作するデザインを選定する。その制作はグループワークで行う。          それらの経験によってプレゼンテーション能力やグループワークにおける協調性、またコミュニケーション能力を身に付ける。          また二次次に身に付けた木の加工技術のスキルアップを目標とする。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】          予習：シラバスを読んでおくこと          授業：「つどうかたち」の意味          復習：「つどうかたち」の意味を各自考え、まとめておくこと。</p> <p>【第2回】          予習：身近な「つどうかたち」の実例を集める          授業：「つどうかたち」の実例検証、スケッチによるスタディ          復習：「つどうかたち」のデザインを考えスケッチにまとめておく。</p> <p>【第3回】          予習：「つどうかたち」のスケッチを描く          授業：「つどうかたち」のデザインスタディー、スケッチやモデルによる検証作業          復習：「つどうかたち」のスタディモデルを複数作成してみる</p> <p>【第4回】          予習：「つどうかたち」のスタディモデルをブラッシュアップ          授業：「つどうかたち」のデザインスタディーモデルによるデザイン検証          復習：3Dモデリングによるデザインスタディ作業</p> <p>【第5回】          予習：3Dモデリングから三面図を作成          授業：「つどうかたち」の三面図とスタディモデルによる検証作業          復習：絞り込んだデザインをさらにブラッシュアップする</p> <p>【第6回】          予習：CADによる三面図や3Dパース制作          授業：CADによる三面図や3Dパースによるデザイン検証          復習：検証結果をプレゼンテーション用の三面図やパースに反映させる</p> <p>【第7回】          予習：プレゼンテーションに向けてデザインの再確認          授業：プレゼンテーション用モデルの作成及びデザイン検証          復習：プレゼンテーション用図面とモデルの準備</p> <p>【第8回】          予習：プレゼンテーション（講評会）に向けて発表の準備          授業：プレゼンテーション（講評会）及び投票          復習：講評を受けてデザインの修正またはブラッシュアップ</p> <p>【第9回】          予習：今週制作作業の確認と準備          授業：制作その1・グループ編成、作業分担など（グループワーク）          復習：翌週作業の段取り確認</p> <p>【第10回】          予習：今週制作作業の確認と準備          授業：制作その2・木取り作業、部品製作（グループワーク）          復習：翌週作業の段取り確認</p> <p>【第11回】          予習：今週制作作業の確認と準備          授業：制作その3・部品製作及び組み立て作業（グループワーク）          復習：翌週作業の段取り確認</p> <p>【第12回】</p>			

予習：今週制作作業の確認と準備 授業：制作その4・組み立て及び研磨作業(グループワーク) 復習：翌週作業の段取り確認 【第13回】 予習：今週制作作業の確認と準備 授業：制作その5・研磨作業及び塗装作業(グループワーク) 復習：翌週作業の段取り確認 【第14回】 予習：今週制作作業の確認と準備 授業：制作その6・仕上げ(グループワーク) 復習：講評会の準備(提出物の制作や修正) 【第15回】 予習：講評会の準備 授業：講評会(プレゼンテーション) 復習：全体の作業を通してレポートを作成								
授業開始前学習	地域貢献におけるものづくりや地域貢献活動、プロボノについて調べておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業でデザインエスキスをを行い、問題点や修正点を指摘する。 稲城市の関係者に対するデザインプレゼンテーションを行い、参加者からの客観的な視点による感想や意見を取り込み、デザイン改善に繋げていく。 また、実際に市内に設置し市民に使用してもらうことで、問題点を検証し今後のデザインにフィードバックさせる。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	授業への取り組み50%、提出物及びレポート50%。 特に後半の制作におけるグループワークでの協調性を重視、評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	◎	
関連科目	履修希望者は前期科目「加工・材料学」を履修済であるか、同時履修を強く推奨。 「家具デザインII」を履修済であることを強く推奨。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工房設備の関係で定員9名とする。</li> <li>・履修希望者が定員を超えた場合は調整を行う。その際、「家具デザインII」と「加工・材料学」を履修済であることを優先する。</li> <li>・定員を超えた場合の調整は、初回授業で行うので希望者は必ず出席すること。</li> <li>・学外での見学レポート課題がある。それにかかる費用は自己負担とする。</li> <li>・設置場所の調査のため、現地への交通費等が発生する可能性があるが、その際の費用は自己負担とする。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	実務経験のある教員が担当。実務と同じデザインプロセスの体験や加工技術などを身に付けることができる。							

科目名称	☆家具デザイン論／家具デザイン研究		
科目分類	141-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Studies of Furniture Design	授業区分	講義
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・野田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	前半は、自分の空間のための収納のデザインを考える。 収納という家具は、それが置かれる「空間」と収納される「もの」によって外側と内側から様々な制約を受ける、いわばダブルバインド状態にある。 そのような収納について考察し、新しい収納のあり方をデザインする。 後半は、名作イスについて研究する。学類が所有する名作イスの素材やデザイナーについて各自の視点で調査し発表を行う。		
到達目標	自分の部屋におく自分が所有するモノのための収納、というというリアルな設定を通して考えることで、新しい収納家具のあり方をデザインできる力を身に付ける。また後半の課題では、名作イスの名作といわれるその理由について考え、独自の視点による名作の基準を発見する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：授業説明とオリエンテーション 復習：自分の部屋の収納とモノの状態について調べる</p> <p>【第2回】 予習：自分の部屋の収納についてまとめておく 授業：収納家具のデザインについて 復習：問題点、課題の整理</p> <p>【第3回】 予習：自分の部屋の「もの」の理想な収納状態を考える 授業：デザインスタディその1 復習：スケッチなどの整理</p> <p>【第4回】 予習：収納する「もの」の調査結果をまとめる 授業：デザインスタディその2 復習：今日のスタディ結果を整理しておく</p> <p>【第5回】 予習：製図の準備 授業：CADによる図面化その1 復習：今日の授業内容の整理、振り返り</p> <p>【第6回】 予習：CADの準備 授業：CADによる図面化その2 復習：今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認</p> <p>【第7回】 予習：CADの準備 授業：CADによる図面化その3 復習：今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認</p> <p>【第8回】 予習：CADの準備 授業：CADによる図面化その4 復習：今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認</p> <p>【第9回】 予習：模型制作の準備 授業：プレゼン模型の制作 復習：プレゼンの準備</p> <p>【第10回】 予習：プレゼンの準備 授業：「講評会」プレゼンテーション 復習：感想文提出</p> <p>【第11回】 予習：指定された名作イスについて調べる 授業：名作イスとはその1 復習：その日の授業の振り返り、ノートの整理</p> <p>【第12回】 予習：指定された名作イスについて調べる 授業：名作イスとはその2</p>			



復習 : その日の授業の振り返り、ノートの整理 【第 13 回】 予習 : 建築家「アルネ・ヤコブセン」について調べておく 授業 : 動画視聴 復習 : 感想文を書く 【第 14 回】 予習 : 発表の準備 授業 : 名作イス研究プレゼンテーションその 1 復習 : 感想レポートの作成 【第 15 回】 予習 : 各自の発表準備 授業 : 各自の名作イス研究プレゼンテーションその 2 復習 : 感想レポートの作成								
授業開始前学習	既存の収納家具について調査しておくこと。 名作イスについて調べておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	プレゼンテーションや毎回のエスキスに対する講評を通して、自身のデザインに対する問題点を確認する。							
テキスト・教材	配布資料							
参考書	適宜指示							
評価の基準と方法	授業への取り組み 30%、課題提出物及びレポートの評価 70%							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	◎	
関連科目	家具デザイン I、家具デザイン II、家具デザイン III、加工・材料学							
その他	・家具デザイン I、家具デザイン II、家具デザイン III、加工・材料学を履修したうえで履修することを強く推奨。 ・学外での見学レポート課題があるが、見学にかかる費用は自己負担とする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	実務経験のある教員が担当。							

科目名称	☆陶芸デザイン入門／陶芸デザイン I		
科目分類	141-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Ceramic Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡辺信史	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中(真)・渡辺(信)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>陶器の「ロクロ成形」の基本を経験する事により、普段の生活の中にある「器」がどのように「制作」・「製造」されているのかをより具体的に考察、研究する。</p> <p>また、制作する際には、「自ら」もしくは「誰かが」が使用する事を考えデザインする。食生活に欠かせない器をデザインする時の要素である形、大きさ、重さ、色、柄、収納性、食べ物との関係、いい雰囲気、魅力等をバランスよく考える。また各人、陶磁器にはどんなものがあるか？その歴史は？資料を集め、研究する。</p> <p>実習・資料制作の2課題を行う。</p>		
到達目標	ロクロ成形の基本を理解し、既存の陶磁器への理解を深める。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読む  授業：オリエンテーション（課題解決型学習）  復習：配布資料を読み問題抽出</p> <p>【第2回】  予習：参考資料を見る  授業：ロクロ成形 ワークショップ（発表）  復習：アイデア研究 問題点の整理</p> <p>【第3回】  予習：参考資料収集 アイデアスケッチ  授業：ロクロ成形（実習）  復習：参考資料まとめ 問題点の整理</p> <p>【第4回】  予習：アイデアスケッチ  授業：ロクロ成形（実習）  復習：アイデア研究 問題点の整理</p> <p>【第5回】  予習：アイデアスケッチ  授業：ロクロ成形（実習）  復習：手捻りによる取っ手付きの器のまとめ 問題点の整理</p> <p>【第6回】  予習：参考資料収集 アイデアスケッチ  授業：ロクロ成形（実習）  復習：アイデア研究 問題点の整理</p> <p>【第7回】  予習：陶磁器研究  授業：課題説明・質疑応答  復習：課題の理解</p> <p>【第8回】  予習：陶磁器研究  授業：資料制作  復習：資料検討・問題点の整理</p> <p>【第9回】  予習：陶磁器研究  授業：資料制作  復習：資料検討・問題点の整理</p> <p>【第10回】  予習：陶磁器研究  授業：資料制作  復習：資料検討・問題点の整理</p> <p>【第11回】  予習：資料を検討  授業：資料発表（プレゼンテーション）  復習：問題点の整理</p> <p>【第12回】  予習：絵付けアイデア検討  授業：「ろくろ制作」見本に沿って制作する（実習）</p>			

復習：「ろくろ制作」のまとめ 問題点の整理 【第13回】 予習：絵付けアイデア検討 授業：絵付け 釉かけ（課題解決型学習） 窯詰め（実習）（グループワーク） 復習：絵付け・釉かけのまとめ 【第14回】 予習：配布資料を読む 授業：窯だし（実習） 作品の写真撮影 プレゼンテーション制作説明（グループワーク） 復習：プレゼンテーション研究 【第15回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ふりかえり 制作作品を使う								
授業開始前学習	・料理雑誌や図書館、インターネットを活用し、自分が作りたい器・絵付けのイメージを固める。 ・普段使用している器の「サイズ」や「使い心地」を考察しておく。 ・自分が好きな陶磁器を探す。							
授業内課題のフィードバックの方法	制作する前には、各人アイデアチェックを行い、ディスカッションを通して幅広い考察を行う。授業11回・15回目の講評では、制作した器及び資料について発表を行い、個別に講評、質問に回答する。							
テキスト・教材	必要な資料は指示、または配布する							
参考書								
評価の基準と方法	出席状況、提出作品、積極的な授業態度で評価を行う。配点は、実習50%・資料制作50%とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	・この授業は、段階授業なのでプロダクトデザイン入門を修得していない学生は履修できない。							
その他	工房設備の関係で、希望者が多い場合履修制限をかける場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間60時間＋予習・復習時間30時間（2時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	現在、陶芸作家として陶器のデザイン、制作、販売を行っております。株式会社 九つ井（このついで）にて、蕎麦屋店舗にて実際に使用する器のデザイン、制作の実務経験がある。本学にて長年にわたる非常勤講師の実務経験があり、これらを活かして現在の教育に従事する。							

科目名称	☆陶芸デザインA/陶芸デザインII		
科目分類	141-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Ceramic Design II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 真理子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	土橋・渡辺(真)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>陶磁器における代表的な成形法、タタラ技法（板作り）による花器の制作を行う。</p> <p>① 2～10mm の板状の粘土は、柔らかいうちは丸めるなどで形作ることが出来、型などに押しつけることで変形させることも出来る。また板状の粘土を少し乾かし、板同士を張り合わせることで形を作ることも出来る。このように一つの技法でも粘土の状態により適する形やデザインがあることを理解し制作を進める。</p> <p>② 花器の制作をするにあたり、1 つ花（草花や苔、ドライフラワーなど）を各自選定し、その花のための花器をデザイン制作する。</p> <p>③ 設置空間に調和する器物の研究をする。</p>		
到達目標	タタラ技法の制作工程を理解することと 選定した花の研究 と 花器と花と設置空間の調和 といった複合的要素を組み合わせてデザインすることで、より高いデザイン力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読む  授業：オリエンテーション（課題解決型学習）  復習：配布資料をよく読み授業計画を確認するあれ</p> <p>【第2回】  予習：身近にある花器を調査する  授業：粘土板（タタラ）のワークショップ（発表）（プレゼンテーション）（課題解決型学習）  復習：粘土板（タタラ）のワークショップのまとめ</p> <p>【第3回】  予習：固いたタラ箱の展開を研究する  授業：花器資料の資料の発表。課題①-固いたタラと柔らかいたタラの成形の研究 アイデアスケッチ マケット制作（課題解決型学習）  復習：タタラ箱のマケット制作</p> <p>【第4回】  予習：参考資料を見る 箱制作準備  授業：課題①-固いたタラと柔らかいたタラのアイデアチェック 制作発表（発表）（プレゼンテーション）（グループディスカッション）  復習：アイデアスケッチ マケット制作の展開</p> <p>【第5回】  予習：固いたタラのアイデアスケッチ マケット制作まとめ  授業：課題①-固いたタラと柔らかいたタラの研究制作（実習）  復習：固いたタラ マケット問題点抽出</p> <p>【第6回】  予習：固いたタラのアイデアスケッチ  授業：課題①-固いたタラの研究制作（実習）  復習：固いたタラ マケット問題点抽出</p> <p>【第7回】  予習：器物に花を生ける  授業：課題①-講評（発表）（プレゼンテーション）  復習：器物の空間設定の検討</p> <p>【第8回】  予習：暮らしの中の器物を調査  授業：課題②造形花器 アイデア研究（課題解決型学習）（実習）</p> <p>復習：柔らかい造形のアイデア検討</p> <p>【第9回】  予習：アイデアスケッチ マケット制作  授業：課題②造形花器 アイデアチェック（発表）（プレゼンテーション）（グループディスカッション）（実習）  復習：アイデアスケッチ マケット制作の展開</p> <p>【第10回】  予習：アイデアスケッチ  授業：課題②造形花器 制作 マケットから実作へ（実習）  復習：バランス検討</p> <p>【第11回】  予習：アイデア検討  授業：課題②造形花器 制作（実習）  復習：空間と器物のバランス研究</p> <p>【第12回】</p>			

予習：柔らかな造形花器に花を活ける 授業：課題②造形花器 講評（発表）（プレゼンテーション） 復習：課題②振り返り 【第13回】 予習：花器、空間、植物のバランス検討 授業：プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（実習）（ディスカッション） 復習：プレゼンテーション研究 【第14回】 予習：花器の設定空間を検討 授業：上絵基礎 プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（ディスカッション） 復習：器物と植物のまとめ 【第15回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：振り返り 設定空間に花を活けてみる								
授業開始前学習	自分の作りたい形、雰囲気などを検索し、資料等まとめておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業 4、9 回目はチェックを全体で行い、アイデアを煮詰める。授業 7、13 回目は実作を個別にチェックし問題点を整理する。授業 15 回目の全体講評では、実作、プレゼン資料で発表を行い、個別に講評、質問に答える。							
テキスト・教材	必要な資料は指示、または配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	タタラ技法の工程理解度 30%、提出作品 50%、プレゼンテーション 20%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自身の陶作品制作活動の経験を活かし、焼き物を通じて自己を表現することの楽しさを伝えていきたい。美術大学での陶芸実習指導を長年行っている。器物からオブジェまで幅広く制作をしている。土橋も同様に制作活動を行っており、また指導の経験がある。							

科目名称	☆陶芸デザインB/陶芸デザインⅢ		
科目分類	141-330-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Ceramic Design Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池田大介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池田・土橋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>陶磁器の代表的な制作方法のひとつである、電動ロクロによるカップ&amp;ソーサーの制作を行う。 成形、施釉、焼成といった陶磁器制作に関する一連の工程、技術を経験することにより、日常生活で使われる器がどのようにして制作されているかを学ぶ。</p> <p>日常生活でも使用頻度の高いコーヒーや紅茶を飲む器・カップ&amp;ソーサーの歴史や飲み方、茶葉の種類、サイズ、素材、また付属として使う器物を調査研究する。形状の研究ではカップと把手、カップとソーサーのバランスを考えると同時に、飲み易さ、洗いやすさ、収納といった使い心地（機能性）も研究する。空間や飲みたいものを限定し、魅力的な作品を制作する。制作を通して土という素材の特徴を理解し、総合的なデザイン力を養い、高い技術力を養うことを目的とする。</p> <p>プレゼンテーションでは自分の制作意図や目的、実際の使用感を提示した上で、他者の意見や感想を聞きより良い器とは何なのかを考察、研究する。</p>		
到達目標	カップ&ソーサーの歴史を学び、限定した飲み物に応じたカップ&ソーサーが制作できるようになる。総合的なデザイン力を身に付けることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読む 授業：オリエンテーション（課題解決型学習） 復習：授業のテーマを理解し授業日程を把握。茶器の資料収集</p> <p>【第2回】 予習：世界のカップ&amp;ソーサーを調査 お茶と茶器を調査 授業：カップ&amp;ソーサーに関する資料提出。アイデアチェック ワークショップ（発表）（プレゼンテーション） 復習：アイデアの検討 問題点の抽出</p> <p>【第3回】 予習：お茶の飲み方を調査 アイデアスケッチ 授業：カップ&amp;ソーサーセットの制作 土練り カップ本体（実習） 復習：問題点の抽出</p> <p>【第4回】 予習：各自選択したお茶の研究 アイデアスケッチ 授業：カップ&amp;ソーサーセットの制作 カップと把手（実習） 復習：器物のバランス検討</p> <p>【第5回】 予習：器物の部品と全体のバランスを検討 アイデアスケッチ 授業：カップ&amp;ソーサーセットの制作 ソーサー 中間チェック（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：問題点の抽出</p> <p>【第6回】 予習：アイデアスケッチ 授業：カップ&amp;ソーサーセットの制作 カップとソーサー（課題解決型学習） 復習：問題点の抽出</p> <p>【第7回】 予習：全体のバランスを検討の上微調整 アイデアスケッチ 授業：カップ&amp;ソーサーセットの制作 中間チェック（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：全体のバランスを検討</p> <p>【第8回】 予習：お茶と器、空間についての資料収集 アイデアスケッチ 授業：削り、把手の制作、ソーサー制作（課題解決型学習）（実習） 復習：問題点の抽出</p> <p>【第9回】 予習：アイデアスケッチ 試作研究 授業：ソーサーの制作（課題解決型学習）（実習） 復習：全体のバランスを検討、カップとソーサーと付属物まとめ</p> <p>【第10回】 予習：空間の中の茶器を検討 カフェ訪問 授業：ソーサーの削り→乾燥へ（課題解決型学習）（実習） 復習：器物のかたち、色彩、大きさ等の問題抽出</p> <p>【第11回】 予習：絵付け、釉薬の検討</p>			

<p>授業：素焼きの窯詰め、絵の具、釉薬の使い方（実習）（グループワーク）  復習：全体のバランスを再確認  【第12回】  予習：絵付け、釉薬の検討  授業：絵付け、釉掛け（課題解決型学習）（実習）（グループワーク）  復習：全体のバランスを再確認  【第13回】  予習：絵付け、釉薬の検討  授業：窯詰め 本焼成 プレゼン研究説明（課題解決型学習）（実習）（グループワーク）  復習：  【第14回】  予習：プレゼンテーション研究  授業：窯出し 写真撮影 プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（実習）（グループワーク）（ディスカッション）  復習：  【第15回】  予習：プレゼンテーション研究  授業：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション）  復習：ふりかえり 茶器を使う</p>								
授業開始前学習	カフェに行きコーヒーや紅茶を飲んでみる。自分が飲みたいものは何か。器物の雰囲気はどんな感じがいいか考える。雑誌等を参考に作りたい形のイメージを固め、たくさんスケッチする。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業2回目はチェックを全体で行い、アイデアを煮詰める。授業7回目は実作を全体でチェックし問題点を整理する。授業15回目の全体講評では、実作、プレゼンボードで発表を行い、個別に講評、質問に回答する。							
テキスト・教材	必要な資料は指示、または配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度、課題への取り組み方、積極性 50点 提出作品とプレゼンテーションを50点とする。 ※実技授業のため基本的な技術の習得度、授業への積極的な取り組みを評価します。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を修得済みであること。</li> <li>汚れてもいい服装を着用し、爪を切り、髪は後ろでまとめておくこと。</li> <li>ショップ、カフェ等の見学の実費は各自負担とする。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目です。担当教員のうち、池田大介は陶芸家として器の制作、販売をしております。信楽にある株式会社羅工房にて陶磁器のデザイン、制作、販売の実務経験がある。また、他大学の一般の方に向けた講座や陶芸教室での実務経験もある。土橋美緒も同様に制作活動を行っており、また指導の経験がある。							



科目名称	陶芸デザイン研究		
科目分類	141-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Studies of Ceramic Design	授業区分	講義
科目責任者	渡邊 真理子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 真理子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	陶芸素材、制作工程、制作技法、やきもの史、国内外の作家及び作品などを資料を通して幅広く解説する。第1回～第5回では陶芸の基礎知識の解説をしていく。第6回～第10回では制作過程に関する事を中心に作品解説していく。第11回～第14回では陶芸の分野ごとに作品解説していく。第15回授業は合評を行う。		
到達目標	陶芸全般を学ぶことにより、知識・思考から生まれる創造性の幅を広げたデザイン力を身につける事を目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：陶芸の作品とはどのようなものがあるか調べる  授業：陶芸の基礎知識  復習：陶芸基礎の項目を整理しておく</p> <p>【第2回】  予習：陶芸素材について調べる  授業：陶芸素材と制作工程  復習：素材と工程について整理しておく</p> <p>【第3回】  予習：制作技法を調べる  授業：制作技法と焼成  復習：焼成について整理しておく</p> <p>【第4回】  予習：焼き物の歴史を調べる  授業：やきもの史の基礎  復習：やきもの史をまとめる</p> <p>【第5回】  予習：身近な焼き物の産地を調べる  授業：日本国内の生産地とその特徴  復習：日本国内の生産地を確認する</p> <p>【第6回】  予習：粘土と磁器土の違いを調べる  授業：粘土と磁器土について  復習：陶器と磁器の違いをまとめる</p> <p>【第7回】  予習：第2回の授業復習と見直し  授業：釉薬の調合について  復習：素材と釉薬についてまとめる</p> <p>【第8回】  予習：第3回の授業復習と見直し  授業：焼成温度・窯について  復習：窯の種類や焼成法を整理する</p> <p>【第9回】  予習：第3回の制作技法の復習と見直し  授業：装飾について  復習：装飾技法をまとめる</p> <p>【第10回】  予習：上絵について調べる  授業：上絵付けについて  復習：上絵について整理する</p> <p>【第11回】  予習：身の回りの生活陶器を調べる  授業：生活陶器の考察  復習：生活陶芸のデザイン画を描く</p> <p>【第12回】  予習：身近なタイルのデザインを調べる  授業：建築素材、タイルの考察  復習：壁面タイルのデザイン画を描く</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 陶芸のオブジェ作品を調べる 授業 : オブジェ焼きの考察 復習 : オブジェ焼きをまとめる 【第14回】 予習 : イギリス北欧陶芸作家を調べる 授業 : イギリス、北欧陶芸の考察 復習 : イギリス北欧陶芸をまとめる 【第15回】 予習 : 陶芸作品をデザインする 授業 : コンセプトボードの講評 復習 : 素材・技法と思考についてまとめる								
授業開始前学習	展覧会などで実物の陶芸作品に数多く接しておく							
授業内課題の フィードバックの方法	各回、その授業で扱った内容に即した課題（レポートやデザイン画）をだします。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	各授業課題のレポートまたはデザイン画成績40%、第10・14回課題でのデザイン画と制作意図の成績60%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	自身の陶作品制作活動の経験を活かし、受講生が発想から実制作までの一連のイメージが想像しやすい講義をする。実物陶作品を見る機会を増やしてもらいたいので、毎授業陶芸の展覧会を紹介する。							

科目名称	☆テキスタイルデザイン入門／立体織デザイン I		
科目分類	141-330-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	3-Dimensional Textile Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	加藤 富喜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 富喜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	・スツール（柳宗理 パタフライスツール）の座面布をデザインし、住居空間におけるテキスタイルの効果を考察する。作品は、数種類の織組織を学習した上で、ワール糸やアクリル糸を用いて、木枠型の織機または卓上織機で制作し、実物大に仕上げる。		
到達目標	・織の技法による、色彩や柄、質感の効果を理解し、デザインや制作を行うことで、どのようなテキスタイルによって、住居空間の雰囲気が変わるのか、イメージできるようになること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読んでくる  授業：オリエンテーション・テキスタイルについてと織布の特徴  復習：身近にあるテキスタイルを意識して見るようにする</p> <p>【第2回】  予習：教室にある織機を見ておく  授業：木枠型織機の説明・サンプル用経糸の準備（実習／木枠に経糸を張る、綜絢作り）  復習：経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る、綜絢作りまで）</p> <p>【第3回】  予習：経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る、綜絢作りまで）  授業：織り組織の説明・織る作業（実習／試し織り）  復習：織る作業の続きをする（試し織りまで）</p> <p>【第4回】  予習：織る作業の続きをする（試し織りまで）  授業：織る作業（実習）・課題の説明  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第5回】  予習：織る作業の続きをする  授業：仕上げ方の説明・サンプルの完成、提出（実習）  復習：テキスタイルに関する資料を調べる</p> <p>【第6回】  予習：デザイン考察の参考になる資料を見ておく  授業：課題の説明・コンセプト、デザインの考察・コンセプト、経糸の色の決定  復習：デザインの考察</p> <p>【第7回】  予習：デザインの考察  授業：デザインの決定、デザイン画の提出  復習：サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく</p> <p>【第8回】  予習：サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく  授業：経糸の準備（実習／木枠に経糸を張る）  復習：経糸準備の続きをする（木枠に経糸を張る作業まで）</p> <p>【第9回】  予習：経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る作業まで）  授業：経糸の準備（実習／綜絢作り、織り付け）  復習：経糸の準備の続きをする（綜絢作り、織り付けまで）</p> <p>【第10回】  予習：経糸の準備の続きをする（綜絢作り、織り付けまで）  授業：織る作業（実習／緯糸の見え方を確認する）  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第11回】  予習：織る作業の続きをする  授業：織る作業（実習）  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第12回】  予習：織る作業の続きをする  授業：織る作業（実習／仕上げ方の説明）  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習 : 織る作業の続きをする          授業 : 織る作業 (実習/仕上げ)          復習 : 仕上げの作業の続きをする          【第14回】          予習 : 仕上げの作業の続きをする          授業 : 仕上げ、作品の撮影 (実習)          復習 : 作品撮影・画像を印刷する・レポートの作成をする          【第15回】          予習 : 作品、作品の写真、レポートを提出出来るようにする・講評会で作品を紹介できるようにコメントを準備しておく          授業 : 講評会・課題の提出          復習 : 講評会での講師や他学生からのコメントを振り返り、今後の学習に活かす</p>								
授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを読んでおく</li> <li>・ツール (柳宗理 パタフライツール) を実際に見ておく・課題がイメージしやすい (本学図書館にあります)</li> </ul>							
授業内課題のフィードバックの方法	第6回、第7回のコンセプト、デザインの考察の授業では、個別に相談に乗りながら、アドバイスをを行う。 第15回の授業では一人ずつコメントを聞き、質問や講評を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストは無い。参考資料として、プリントを配布する。 道具類は授業内で限定して貸し出す。糸などの材料を、必要に応じ各自で購入してもらう場合がある (教室にも使用可能な糸や材料はある)							
参考書								
評価の基準と方法	課題の提出状況、課題の内容 (60%) と授業態度 (40%) による。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目								
その他	この授業を履修するには、「プロダクトデザイン入門」を修得済みであること							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	非常勤講師としての織物の組織・色彩構成・素材に特化した授業経験を活かし、組織を学習する授業を行うとともに、制作活動の経験を活かし、住空間における織物についての制作工程の説明や実習を行う。							

科目名称	☆テキスタイルデザインA/立体織デザインII		
科目分類	141-330-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	3-Dimensional Textile Design II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	野田 吟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野田 吟	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	糸素材が持つ質感や色彩を考察し、デザイン計画を行い、木枠で小さなタペストリーを織る。具体的には、平織りのつづれ織りでの模様織り、ノッティング（結び織り、シャギー）、及びルーピング等の技法の修得（サンプル作り）を行う。又それらを駆使して公的な、及び、私的なインテリアとして機能するタペストリー制作を行い、簡単なプレゼンシートも作成する。		
到達目標	テキスタイルの基本的な構造、技術の基礎知識を身に付ける事を目標とする。またデザインコンセプトを自身で立ち上げ、それに沿って制作の完成度を高める事も目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：身の回りのテキスタイルに注視する（ラグや服地など、その組織やデザイン）  授業：オリエンテーション・世界各地の織り物の紹介スライドを鑑賞し、感想記入・課題説明  復習：日常の中で織物を探し、良く観察してみる（糸の成り立ちを観察したり、素材感を確かめてみる）</p> <p>【第2回】  予習：配布・配信資料に目を通しておく  授業：サンプル作り・木枠に経糸（たていと）を張る（整経）・サンプル制作（つづれの模様織技法、ノッティング、ルーピング他）  復習：・枠織り機の仕組みを理解する</p> <p>【第3回】  予習：配布の技法資料に目を通しておく  授業：サンプル織り①（つづれの模様織り技法）  復習：技法を覚える</p> <p>【第4回】  予習：引き続き、配布の技法資料に目を通しておく  授業：サンプル織り②（つづれの模様織り技法）  復習：技法を覚える</p> <p>【第5回】  予習：引き続き、配布の技法資料に目を通しておく  授業：サンプル織り③（つづれの模様織の技法、ノッティング、ルーピング、他）  復習：技法を覚える</p> <p>【第6回】  予習：引き続き、配布の技法資料に目を通しておく  授業：サンプル織り④（つづれの模様織の技法、ノッティング、ルーピング、他）  復習：技法を覚える</p> <p>【第7回】  予習：自分が制作する課題1作品のイメージをする  授業：・コンセプト考案（シート記入、デザイン画作成）・試し織り  復習：・コンセプトシート完成</p> <p>【第8回】  予習：素材の準備  授業：課題1作品制作①  復習：・織り具合チェック・修正点等、その日の記録①（作業を通しての気づき等を記す）</p> <p>【第9回】  予習：引き続き、素材の準備  授業：課題1作品制作②  復習：・織り具合チェック・修正点等、その日の記録②（作業を通しての気づき等を記す）</p> <p>【第10回】  予習：引き続き、素材の準備  授業：課題1作品制作③  復習：・織り具合チェック・修正点等、その日の記録③（作業を通しての気づき等を記す）</p> <p>【第11回】  予習：引き続き、素材の準備  授業：課題1作品制作④  復習：・織り具合チェック・修正点等、その日の記録④（作業を通しての気づき等を記す）</p> <p>【第12回】  予習：課題1プレゼンシート作成のための資料の準備  授業：・作品写真撮影・課題1プレゼンシート作成（PCルームにて）  復習：・課題1プレゼンシートの完成</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習 : ・課題 2 作品に向けて、作品のイメージ作りと素材の準備          授業 : 課題 2 作品制作①          復習 : ・織り具合チェック          【第 1 4 回】          予習 : 引き続き、素材の準備          授業 : 課題 2 作品制作②          復習 : 織り具合チェック          【第 1 5 回】          予習 : 合評会に向けて、自作発表コメント内容考案          授業 : 合評会 (・一人ずつ作品発表 ・他の人の作品への感想等、考察アンケート記入)          復習 : ・アンケート提出 ・その後、各自、自作へのコメントを読む          尚、課題 1 が終わった人から課題 2 を指導していく</p>								
授業開始前学習	絨毯やタペストリー等が、インテリアまたは空間デザインに於いてどのように設置され、また扱われているか、興味を持って色々見ておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題作品制作時は、各学生その日の記録 (Google Classroom 内予定) に、それぞれへのアドバイス等を記入する。また、授業中にも個別に都度話し合いながら制作を進めていき、各学生とのやり取りを綿密に行う。授業第 1 5 回には、履修者全体の合評会を行う。自身の作品の、コンセプトや織りのデザイン、作業内容について、良かった点、課題点等を確認する。また他人のデザインや考えに対して比較考察する。							
テキスト・教材	授業の中でプリント配信。教材 (木枠と素材) は、基本的に学校の備品を使用。随時、必要に応じて個別で準備するものを追加指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	課題 1 作品 75%、授業内レポート 10%、練習課題 5%、課題 2 作品 10%							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	この授業を履修するには、【プロダクトデザイン入門】を修得済みであること							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	☆テキスタイルデザインB/立体織デザインⅢ		
科目分類	141-330-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	3-Dimensional Textile Design Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	加藤 富喜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 富喜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住空間に飾るファブリックパネルの布をデザインし、シチュエーションに合わせたインテリアデザインの効果を考察する。作品は、アクリル糸やウール糸を用い、卓上織り機・木枠・高機などで制作をする。</li> <li>・数種類の素材に触れ、素材による質感の違いを学習する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織の技法による色彩や柄、質感の効果を理解し、デザインや制作を行うことで、どのようなテキスタイルによって住空間の雰囲気に変化するのかがイメージできるようになること。</li> <li>・素材による質感の違いや特徴を知り、インテリアの中で、どのような理由で活用されているのかを理解すること。</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読んでくる  授業：オリエンテーション・テキスタイルについてと織布の特徴  復習：身近にあるテキスタイルを意識して見るようにする</p> <p>【第2回】  予習：教室にある織機を見ておく  授業：織機の説明・サンプル用経糸の準備（実習／整経）  復習：経糸の準備の続きをする（整経まで）</p> <p>【第3回】  予習：経糸の準備の続きをする（整経まで）  授業：経糸の準備（実習／整経、荒筈通し、千巻き、綜統通し、筈通し）  復習：経糸の準備の続きをする（筈通しまで）</p> <p>【第4回】  予習：経糸の準備の続きをする（筈通しまで）  授業：織る作業（実習／織り付け、織り）・課題説明  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第5回】  予習：織る作業の続きをする  授業：織る作業、仕上げ、サンプルの完成、提出（実習）  復習：テキスタイルに関する資料を調べる</p> <p>【第6回】  予習：デザイン考察の参考になる資料を見ておく  授業：課題の説明・コンセプト、デザインの考察・コンセプト、経糸の色の決定  復習：デザインの考察</p> <p>【第7回】  予習：デザインの考察  授業：デザインの決定、デザイン画の提出  復習：サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく</p> <p>【第8回】  予習：サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく  授業：経糸の準備（実習／整経）  復習：経糸準備の続きをする（整経まで）</p> <p>【第9回】  予習：経糸の準備の続きをする（整経まで）  授業：経糸の準備（実習／荒筈通し、千巻き、綜統通し、筈通し、織り付け）  復習：経糸の準備の続きをする（織り付けまで）</p> <p>【第10回】  予習：経糸の準備の続きをする（織り付けまで）  授業：織る作業（実習／緯糸の見え方の確認）  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第11回】  予習：織る作業の続きをする  授業：織る作業（実習）  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第12回】  予習：織る作業の続きをする  授業：織る作業、仕上げ方の説明（実習）  復習：織る作業の続きをする</p> <p>【第13回】</p>			



予習 : 織る作業の続きをする 授業 : 織る作業、仕上げ (実習) 復習 : 仕上げの作業の続きをする 【第 14 回】 予習 : 仕上げの作業の続きをする 授業 : 仕上げ、作品の撮影 (実習) 復習 : 作品撮影・画像を印刷する・レポートの作成をする 【第 15 回】 予習 : 作品、作品の写真、レポートを提出出来るようにする・講評会で作品を紹介できるようにコメントを準備しておく 授業 : 講評会・課題の提出 復習 : 講評会での講師や他学生からのコメントを振り返り、今後の学習に活かす								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	第 6 回、第 7 回のコンセプト、デザインの考察の授業では、個別に相談に乗りながら、アドバイスをを行う。 第 15 回の授業では一人ずつコメントを聞き、質問や講評を行う。							
テキスト・教材	特定のテキストはない。参考資料として、プリントを配布する。 道具類は授業内で限定して貸し出す。糸などの材料を、必要に応じ各自購入してもらう場合がある (教室内にも使用可能な糸や材料はある)							
参考書								
評価の基準と方法	課題の提出状況、課題の内容 (60%) と授業態度 (40%) による。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	
関連科目	この授業を履修するには、「プロダクトデザイン入門」を習得済みであること。							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	非常勤講師としての織物の組織・色彩構成・素材に特化した授業経験を活かし、組織を学習する授業を行うとともに、制作活動の経験を活かし、住空間における織物についての制作工程の説明や実習を行う。							

科目名称	☆インテリア・プレゼンテーション／空間演出 B		
科目分類	141-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Space Production B	授業区分	講義
科目責任者	橘田洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田・堀邊・山崎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ショップデザインをテーマとし、業種により異なる要求機能について研究し理解した上で、デザイン的にも美しく、機能的なショップをデザインする事とする。 ショップ立地も各自で設定し、周囲の環境との関係を考察する。 ショップデザインを課題とした学外コンペティションへチャレンジする。 また、授業ではディスカッションやグループ発表などを実施する。		
到達目標	設定条件が少ない課題での柔軟な発想能力、自身の考えるインテリアデザインを限られたパネルの中で表現するスキル、短時間で理解してもらえ表現手法のスキル、プレゼンテーション能力の向上を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み込む 授業：課題の説明 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】 予習：課題の予習 授業：過去の事例研究（個人演習） 復習：過去の事例研究継続</p> <p>【第3回】 予習：デザインスタディ1 コンセプトワーク事前作業 授業：デザインスタディ1 コンセプトワーク（個人演習・ディスカッション） 復習：デザインスタディ1 コンセプトワーク作業継続</p> <p>【第4回】 予習：デザインスタディ2 コンセプトまとめ事前作業 授業：デザインスタディ2 コンセプトまとめ&amp;エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザインスタディ2 エスキス内容整理</p> <p>【第5回】 予習：デザインスタディ3 ダイアグラム・機能検討事前作業 授業：デザインスタディ3 ダイアグラム・機能検討&amp;エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザインスタディ3 エスキス内容整理</p> <p>【第6回】 予習：デザインスタディ4 事前作業 授業：デザインスタディ4 デザイン作業&amp;エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザインスタディ4 エスキス内容整理</p> <p>【第7回】 予習：デザインスタディ5 事前作業 授業：デザインスタディ5 デザイン作業&amp;エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザインスタディ5 エスキス内容整理</p> <p>【第8回】 予習：中間発表準備 授業：中間発表、講評（プレゼンテーション） 復習：講評内容整理</p> <p>【第9回】 予習：デザインスタディ6 平面・パースなど図面事前作業 授業：デザインスタディ6 平面・パースなど図面作業&amp;エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザインスタディ6 エスキス内容整理</p> <p>【第10回】 予習：デザインスタディ7 パネルレイアウト構想 授業：デザインスタディ7 パネルレイアウト作業&amp;エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザインスタディ7 エスキス内容整理</p> <p>【第11回】 予習：提出準備 授業：最終提出・インターネットリサーチ課題説明 復習：インターネットリサーチの情報収集</p> <p>【第12回】 予習：講評会準備 授業：講評会①（プレゼンテーション） 復習：講評内容のまとめ</p>			

<p>【第13回】  予習：講評会準備  授業：講評会②（プレゼンテーション）  復習：講評内容のまとめ</p> <p>【第14回】  予習：リサーチ準備  授業：インターネットリサーチ（個人演習）  復習：情報整理</p> <p>予習：インターネットリサーチまとめ事前作業  授業：インターネットリサーチまとめ作業（個人演習）  復習：インターネットリサーチまとめ継続</p> <p>【第15回】  予習：インターネットリサーチまとめ事前準備  授業：インターネットリサーチまとめ作業・提出（個人演習）  復習：授業のふりかえり</p>								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な商業施設を出来るだけ見るように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキスを繰り返し実施。							
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する							
参考書								
評価の基準と方法	積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	△
関連科目	インテリアデザインⅠ・インテリアデザインⅡ・空間演出A							
その他	履修者は必ず初回授業を受講すること。 学外にての調査等の際の交通費等すべて自己負担とする。 CAD、3Dの技能が必要となる。 コンペティション参加も条件。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	商業施設のインテリアデザインを行っている事務所の方を非常勤講師としてむかえ、実務からみた詳細計画をエスキスに取り入れる。							

科目名称	加工・材料学		
科目分類	141-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Processing and Materials	授業区分	講義
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	<p>素材と加工方法の知識は、建築／インテリア／プロダクトの全てのデザイン領域にまたがる重要な要素である。</p> <p>また、現代における全てのデザインやものづくりは環境へ負荷なしにはできない状況にあって、環境問題への対応や配慮無しには考えられなくなっている。</p> <p>この授業では学生自身が自らの手で加工できる身近な自然素材を中心に、その材料の特性や加工方法について環境問題と絡めながら学ぶ。</p>		
到達目標	<p>それぞれの素材の特性とその特性に合わせた加工方法を理解し、説明できるようになる。</p> <p>また、「持続可能な社会を実現するためのデザイン」を考える際に必要な素材や加工の基本的な知識を身に付けることを目標とする。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読んでおくこと  授業：かたちの意味(1頁～17頁)  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第2回】  予習：教科書「森と木について」を読んでおく(19頁～40頁)  授業：森と木について  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第3回】  予習：地球温暖化について調べる(教科書42頁～60頁)  授業：環境問題について  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第4回】  予習：日本の環境問題の取り組みについて調べる  授業：動画視聴  復習：感想レポート提出</p> <p>【第5回】  予習：教科書「木材について」を読んでおく。(教科書62頁～74頁)  授業：木の構造、性質、木材とは  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第6回】  予習：「針葉樹・広葉樹」を読んでおく(教科書74頁～97頁)  授業：針葉樹・広葉樹について  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第7回】  予習：「竹」を読んでおく(教科書99頁～107頁)  授業：竹について  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第8回】  予習：「木の加工」を読んでおく(教科書109頁～117頁)  授業：木の加工について  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第9回】  予習：「木質材料」を読んでおく(教科書119頁～133頁)  授業：木質材料(エンジニアードウッド)について  復習：講義内容の確認、自筆ノートの整理</p> <p>【第10回】  予習：「紙について」読んでおく(教科書134頁～144頁)  授業：紙について1(和紙洋紙)  復習：講義内容の確認と自筆ノートの整理</p> <p>【第11回】  予習：「紙について その2」読んでおく(教科書146頁～155頁)  授業：紙について その2(板紙)  復習：講義内容の確認と自筆ノートの整理</p> <p>【第12回】  予習：「樹脂」読んでおく(教科書157頁～175頁)  授業：樹脂その1(天然樹脂、合成樹脂)</p>			

復習：講義の確認、マイクロプラスチックについて調べる 【第13回】 予習：「樹脂について2」読んでおく(教科書176頁～189頁) 授業：プラスチックの環境問題 復習：講義の確認、マイクロプラスチックについてレポート 【第14回】 予習：日本の伝統工芸とクラフトについて調べる(教科書191頁～205頁) 授業：日本の伝統的なものづくり 工芸 復習：講義内容の確認と自筆ノートの整理 【第15回】 予習：配付資料「これからのデザインを考えるためのキーワード」を読んでおく。 授業：これからのデザインのためのキーワードについて 復習：講義内容の確認と自筆ノートの整理								
授業開始前学習	現在の地球環境の現状について関心を持ち、身近な環境問題を調べておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で掲出された課題のミニレポートを提出し、次回講評を行う。また、毎回の授業に対する感想や質問を提出し、それに対しても講評を行う。							
テキスト・教材								
参考書	自前教科書『加工・材料学』と配付資料							
評価の基準と方法	定期試験 50%、レポート 30%、授業への取り組み 20%で評価。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			
関連科目	家具デザイン I・II・III、家具デザイン研究							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の見学レポート課題を行う予定。その際にかかる経費は自己負担とする。</li> <li>・授業の進捗状況により、内容を変更する場合がある。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	芸術論		
科目分類	141-330-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Fine Arts	授業区分	講義
科目責任者	小野 淳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小野 淳	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	西欧の芸術史を鳥瞰的視線でジオラマ的に捉えていくことと、ひとつ芸術作品に眼差しを向けてそれに没入することの往復によって、芸術の事象を外側はもとより内部からも理解する。またその過程において人間と空間との関係性を再考していくことを試みる。		
到達目標	芸術作品がどのような歴史的・社会的文脈から生まれるのか把握することのみならず、自ら問いを立て作品と深い関係性を築くことにより、作品に対する新たな解釈を見つけ出すことができるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：西洋美術史と西洋建築史の概略を見直しておく  授業：オリエンテーション  復習：オリエンテーションで使われた図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第2回】  予習：絵画と空間の関係性を踏まえてラスコーやアルタミラ洞窟などの洞窟絵画を調べておく  授業：原始美術と古代オリエント美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出  復習：古代オリエント時代の都市・建築・美術の図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第3回】  予習：彫刻と空間との関係性を踏まえて大英博物館のエルギン・マーブルズについて調べておく  授業：ギリシャ美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出  復習：ギリシャの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第4回】  予習：人間と広場空間との関係性を踏まえて古代ローマ時代のフォルムについて調べておく  授業：ローマ美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出  復習：ローマの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第5回】  予習：人間と地下空間との関係性を踏まえてサン・カリスト、ドミティッラ、プリシッラなどのカタコンベについて調べておく  授業：中世美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出  復習：中世の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第6回】  予習：人間と壁との関係性を踏まえてロマネスク教会堂のフレスコ画（壁画）について調べておく  授業：ロマネスク美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出  復習：ロマネスクの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第7回】  予習：人間と天井との関係性を踏まえてゴシック教会堂のヴォールトについて調べておく  授業：ゴシック美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出  復習：ゴシックの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第8回】  予習：人間とファサードとの関係性を踏まえて建築家フィリップ・ブルネレスキとレオン・バッティスタ・アルベルティの作品について調べておく  授業：ルネッサンス美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出  復習：ルネッサンスの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第9回】  予習：人間と絵画空間との関係性を踏まえて画家シャルル・ル・ブランとアントワーヌ・ワトールおよびフランソワ・ブージェの絵画について調べておく  授業：バロック・ロココ美術と都市・建築：授業のまとめ、考察の作成・提出  復習：バロック・ロココの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第10回】  予習：人間と祝祭空間（スペクタクル）との関係性を踏まえて印象主義の画家とくにマネとモネの絵画について調べておく  授業：19世紀の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出  復習：19世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第11回】  予習：人間と装飾との関係性を踏まえて画家グスタフ・クリムトと建築家オットー・ヴァーグナーの作品およびウィーン分離派について調べておく  授業：19世紀の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出  復習：19世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第12回】  予習：人間と都市との関係性を踏まえてイタリア未来とロシア構成主義について調べておく  授業：20世紀の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出  復習：20世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：人間と街路空間との関係性を踏まえてインターナショナル・スタイルの建築について調べておく          授業：20世紀の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出          復習：20世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する          【第14回】          予習：人間と空間の関係性を踏まえて自分が興味を持てる芸術を見つけ出して調べておく          授業：現代の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出          復習：現代の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する          【第15回】          予習：人間と空間の関係性を踏まえて自分が興味を持てる芸術を見つけ出して調べておく          授業：現代の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出          復習：現代の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する</p>								
授業開始前学習	授業で扱う内容の時代背景や具体的作品について、美術史、建築史の概説書をもとに調べておくことと理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業では毎回、授業の内容について、自分たちの意見・感想を、内容を整理しながら設定時間内に小レポートとしてまとめ、提出する。次週で復習をする際に、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。							
テキスト・教材	関連資料は PDF 等にして提供する。							
参考書	「西洋建築史図集」(彰国社)、「近代建築史図集」(彰国社)、「西洋美術史」(美術出版社)、「芸術空間の系譜」(鹿島出版会)高階 秀爾=著 この他に授業中に参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法	各回の小レポートと、総まとめのレポートから評価する。点数配分は 100 点満点のうち、小レポートにおける授業への積極的な取り組みが 60 点、総まとめのレポートが 40 点である。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	「西洋建築史」を含む西欧の美術、デザインに関するすべての科目。							
その他	授業においてはノートを取るという行為は推奨されることではあるが、それだけに偏ってしまうことはなるべく避け、パワーポイントなどにより提示される文章・画像・動画を見ることに集中すること。「見る」ことによって自分なりの考えに思いを巡らせ、授業と対話することが望まれる。 予習と復習の間に位置する授業によって、その前後では自分の中で何が変わったのかを知ること。単なる知識の蓄積のみならず、知りえた内容どうしが関係し合うダイナミズムを意識して復習をすること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	工芸デザイン論		
科目分類	141-330-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Craft Design	授業区分	講義
科目責任者	椎原 晶子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	椎原 晶子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	近代以降、道具類の生産が手工芸から工業生産中心に移り変わる際の理念と実践、日本の伝統的な手工芸の源泉と現代工芸デザインの展開を重ね合わせて、その関係性を理解する。今後の持続的な環境、地域、社会形成にむけての課題や展望、自分ができる一歩について考察する。		
到達目標	近代以前から現代まで、各地区のものづくりの歴史、技術の発達と時代の価値観の変遷を捉え、自分たちが暮らす現代社会におけるものづくり、工芸・デザインの課題や可能性について見通して自ら考え、行動できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業資料講読および「グッドデザイン賞」サイトを閲覧[グッドデザイン賞, <a href="https://www.g-mark.org/">https://www.g-mark.org/</a>]  授業：くらしとデザイン：グッドデザイン賞にみる「デザイン」概念のひろがり：授業のまとめ・考察を作成提出。  復習：グッドデザイン賞の中から自分の気に入った、気になった作例を紹介、小レポートとして提出。</p> <p>【第2回】  予習：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。  授業：世界の近代デザイン(1) 産業革命と近代デザインのはじまり：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：工業生産社会が環境にもたらした課題をあげ、今後の行動で改善できることを考える。</p> <p>【第3回】  予習：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。  授業：世界の近代デザイン(2) ウィリアム・モリスとアーツ&amp;クラフツ運動：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：モリスとその周辺の作家、作品名を確認し、その理想とした考え方を確認する。</p> <p>【第4回】  予習：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。  授業：世界の近代デザイン(3) アール・ヌーヴォー、分離派とジャポニズム：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：各地のアール・ヌーヴォーについて傾向を知り、専門用語や、作家と作品名を一致できるよう確認する。</p> <p>【第5回】  予習：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。  授業：世界の近代デザイン(4) 表現主義、構成主義、機能主義：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：20世紀初頭の各地のデザインの主義と動向を知り、現代の様々なデザイン思想のルーツとして確認する。</p> <p>【第6回】  予習：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。  自分の気になる、好きな近現代デザイン事例を選び、写真を用意し、そのルーツを調べて、授業で紹介できるようにする。  授業：世界の近代デザイン(5) パウハウスと工業デザインの発展：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：ドイツ工作連盟やパウハウスの思想と作例、その後のアメリカや日本のデザインへの影響を把握する。</p> <p>【第7回】  予習：自分の好きな絵画・工芸・建築等の一つを選び、時代背景や産地、作者を紹介できるようにしておく。  自分の影響を受けた家やまち、場所について、思い出しておく。  授業：日本のデザインの源泉と発展(1) 日本の風土と家・町並み：日本と外国の風土とまちづくりへの取り組みを知る。  復習：自分が影響を受けた作品、工芸品やいえ、まちとその造りとその暮らしの文化を小レポートで紹介する。</p> <p>【第8回】  予習：授業資料を講読し、琳派の作家や作例を概観する。できれば国立博物館や根津美術館などで作例を見学  授業：日本のデザインの源泉と発展(2) 琳派のデザイン：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：琳派の作家・作例の一つ選んで詳述。現代の道具やメディアで琳派と思うものを探し、小レポートにする。</p> <p>【第9回】  予習：授業資料を講読し、漆芸の成り立ちと用途、技法の例を知っておく。身近な漆器をみつけ、特徴を調べる。  授業：日本のデザインの源泉と発展(3) 漆芸：機能と技法、現代への展開：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：身近な漆製品を探し、用途や技法、使い心地を小レポートにする。今後店舗や旅行等で、各地の漆芸を確認</p> <p>【第10回】  予習：授業資料を講読し、陶磁器の歴史と展開、各産地の特徴を理解しておく。身近な陶器を見つめ、特徴を調べる。  授業：日本のデザインの源泉と発展(4) 陶芸 1：種類と技法、陶芸の発達史、各産地の特徴：授業のまとめ、考察を作成・提出。  復習：身近な陶磁器の用途や技法、使い心地を小レポートにする。美術館、デパートや民芸店、旅行等で、各地の陶磁器を確認。</p> <p>【第11回】  予習：授業資料を講読、閲覧し、文様の構成や、日本と世界の文様の関係性を学んでおく。  授業：日本のデザインの源泉と発展(5) 文様：日本と東洋、中東、西洋の文様：まとめ、考察を作成・提出。  復習：自分の洋服や着物、小物、文房具等の文様をみて、文様の種類や込められた意味を調べてみる。</p> <p>【第12回】  予習：授業資料を講読し、その技法と素材、産地別の特徴などの概要を理解しておく。  授業：日本のデザインの源泉と発展(6) 染織：繊維の成り立ち、染めと織りの技法と文様：授業のまとめ、考察を作成提出。</p>			

<p>復習：染織品を見比べ、可能なら手にとり触って、素材、染・織、産地ごとの特徴を見分けられるようにする。</p> <p>【第13回】</p> <p>予習：授業資料を講読し日本の民藝運動と世界、現代への展開を調べる。日本民藝館等を見学（フィールドワーク）。</p> <p>授業：日本の民藝運動：柳宗悦と日本民芸館、日本の民藝作家とバーナードリーチらとの交流：授業のまとめ、考察を作成提出。</p> <p>復習：自宅や店舗、旅行先等で各地の民芸品、民藝運動に基づく工芸品があるか調べてみる。</p> <p>【第14回】</p> <p>予習：資料を講読し、北欧デザインの思想や展開、素材や空間の生かし方について知っておく。</p> <p>授業：北欧のデザイン&amp;クラフト：食器、家具、服飾など総合的なデザインを知る：授業の感想・考察を提出。</p> <p>復習：北欧はじめ、海外のデザイン製品が日本の生活・デザインと呼応している実態を見つけていく。</p> <p>【第15回】</p> <p>予習：地域の素材や技術を活かしたものづくりがどう現代社会に活かされようとしているか、事例を調べレポートをまとめる。</p> <p>授業：風土、素材、伝統技法を生かしたものづくりを調べ、今後の展望について考察する。</p> <p>復習：各地、各時代の生活道具を知る機会を増やし、その由来や素材、形の調和や使い勝手をたしかめて選ぶようにする。 快適で使いやすい、持続性のある環境づくりに自ら寄与していく。</p>								
授業開始前学習	授業で扱う内容について、近代デザイン史、近代建築史、日本工芸史、日本建築史の概説書、「グッドデザイン賞」サイト <a href="https://www.g-mark.org/">https://www.g-mark.org/</a> を調べておくとう理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業では毎回、授業の内容について、学生は自分の意見・感想を、内容を整理しながら小レポートとしてまとめ、提出する。それに対して、後日の授業で、復習を兼ねて、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して紹介する。							
テキスト・教材	阿部公正監修『増補新装カラー版 世界デザイン史』（美術出版社）。公益社団法人日本工芸会編集『日本伝統工芸鑑賞の手引き』希望者は購入。 授業に必須の部分や他の関連資料はPDF等にして提供する。							
参考書	日本工芸会編『日本伝統工芸鑑賞の手引き』、竹原あきこ+森山明子『日本デザイン史』（美術出版社）等							
評価の基準と方法	各授業のまとめ・感想 30%、小レポート 30% 最終レポート 40%							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	芸術論、西欧および日本の美術・意匠・デザイン、建築に関するすべての授業							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、日常の生活道具、生活空間にあるものの意図、効果を意識して確認する。</li> <li>・気になるデザインやものづくりの記事などをスクラップやダウンロードし、感想をメモしていく。</li> <li>・工芸・デザインに関連する博物館・美術館の展示、家具や工芸のギャラリーやショールーム、売り場などを見に行き、できるだけ実物に触れるようにする。</li> <li>・授業と並行して「地域性と伝統、持続性を踏まえた現代のものづくり」について、自分でテーマを探し、最終レポートにつなげていく。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	木工、陶芸、漆芸、染織など、伝統的な技術を現代社会に生かす現代作家や現代デザイナーのとりくみを紹介する。また、これらを総合的に生かした空間デザイン、環境デザイン、事業の例を紹介する。							

科目名称	インテリアのデザイン論／住空間とインテリアのデザイン		
科目分類	140-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Living Space and Interior Products	授業区分	講義
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	現代の住空間は様々なインテリアプロダクトによって構成され、機能している。 この授業では、それら様々なインテリアプロダクトの知識とともに住空間との関係を考え学んでいく。 授業では、演習課題や課題発表などのワークと共に、グループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	インテリアプロダクトの数々を通して、造形・素材・機能・サステナブル&ユニバーサルデザインの知識を得ること、住空間でのコーディネートスキルを高めることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを参照  授業：ガイダンス（インテリアプロダクトとは何か）  復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】  予習：住まいの中の家具① 事前調査  授業：住まいと家具①（演習課題1）  復習：住まいの中の家具①のキーワードの確認</p> <p>【第3回】  予習：住まいの中の家具①配布資料の講読  授業：住まいと家具②（課題発表1）  復習：住まいと家具②のキーワードの確認</p> <p>【第4回】  予習：家具の実測 事前調査  授業：家具の実測・物のサイズ（グループワーク1）（グループ発表1）  復習：家具の実測・物のサイズのキーワードの確認</p> <p>【第5回】  予習：家具の実測・物のサイズ配布資料の講読  授業：住まいと明かり①（演習課題2）  復習：住まいと明かり①のキーワードの確認</p> <p>【第6回】  予習：住まいと明かり①配布資料の講読  授業：住まいと明かり②（課題発表2）  復習：住まいと明かり②のキーワードの確認</p> <p>【第7回】  予習：住まいと明かり②配布資料の講読  授業：住まいと家電（演習課題3）  復習：住まいと家電のキーワードの確認</p> <p>【第8回】  予習：住まいと家電配布資料の講読  授業：ショールーム見学（演習課題4）  復習：ショールーム見学レポートの作成</p> <p>【第9回】  予習：ショールーム見学レポートの発表準備  授業：ショールーム見学発表／ウィンドートリートメントについて（グループワーク2）（グループ発表2）  復習：ウィンドートリートメントのキーワードの確認</p> <p>【第10回】  予習：ウィンドートリートメント配布資料の講読  授業：住まいのしつらえ①（演習課題5）  復習：住まいのしつらえ①のキーワードの確認</p> <p>【第11回】  予習：住まいのしつらえ①配布資料の講読  授業：住まいのしつらえ②（課題発表3）  復習：住まいのしつらえ②のキーワードの確認</p> <p>【第12回】  予習：住まいのしつらえ②配布資料の講読  授業：住まいのしつらえ③  復習：住まいのしつらえ③のキーワードの確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習：住まいのしつらえ③配布資料の講読 授業：ユニバーサルデザインについて（演習課題6）（課題発表4） 復習：ユニバーサルデザインのキーワードの確認 【第14回】 予習：ユニバーサルデザイン配布資料の講読 授業：サステナブルデザインについて（演習課題7）（課題発表5） 復習：サステナブルデザインのキーワードの確認 【第15回】 予習：サステナブルデザイン配布資料の講読 授業：まとめ（演習課題8） 復習：全回の住空間とインテリアプロダクトのキーワードの確認								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なプロダクトを出来るだけ見るように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法	演習を実施した際には、講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書	建築インテリア関係雑誌等。							
評価の基準と方法	事例研究レポート・見学レポート・ミニットペーパーを総合して評価。配点は、研究レポート40点、見学レポート40点、毎回の授業のミニットペーパー20点。ミニットペーパー提出をもって出席とみなし、授業回数の3分の2未満の提出は単位取得不可。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○			
関連科目	住空間とライフスタイル							
その他	学外で見学会を行うことがあります。その際に必要な交通費・入場料などの経費は自己負担となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	インテリア・プロダクトデザイン分野における実務経験あり。インテリア・プロダクトデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアの知識と技術 I		
科目分類	141-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design I	授業区分	講義
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 水曜日 09:30～10:30 水曜日 12:30～14:30	研究室	2-201
授業概要	科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深める。		
到達目標	建築、インテリア関連資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術を総合的に理解することを目標にする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：テキストの準備  授業：オリエンテーション  復習：テキストの確認</p> <p>【第 2 回】  予習：インテリアの歴史予習  授業：インテリアの歴史  復習：インテリアの歴史の復習</p> <p>【第 3 回】  予習：インテリア計画予習  授業：インテリア計画  復習：インテリア計画の復習</p> <p>【第 4 回】  予習：環境工学予習  授業：環境工学  復習：環境工学の復習</p> <p>【第 5 回】  予習：構造と施工予習  授業：構造と施工  復習：構造と施工の復習</p> <p>【第 6 回】  予習：表現技法 1 予習  授業：表現技法 1  復習：表現技法 1 の復習</p> <p>【第 7 回】  予習：表現技法 2 予習  授業：表現技法 2  復習：表現技法 2 の復習</p> <p>【第 8 回】  予習：演習 1 予習  授業：演習 1  復習：演習 1 の復習</p> <p>【第 9 回】  予習：色彩と造形予習  授業：色彩と造形  復習：色彩と造形の復習</p> <p>【第 10 回】  予習：建築関係法規予習  授業：建築関係法規  復習：建築関係法規の復習</p> <p>【第 11 回】  予習：住宅設備 1 予習  授業：住宅設備 1  復習：住宅設備 1 復習</p> <p>【第 12 回】  予習：住宅設備 2 予習  授業：住宅設備 2  復習：住宅設備 2 の復習</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：材料予習 授業：材料 復習：材料の復習 【第14回】 予習：住宅と社会予習 授業：住宅と社会 復習：住宅と社会の復習 【第15回】 予習：演習2予習 授業：演習2 復習：演習2の復習								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。							
テキスト・教材	「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）							
参考書	授業中に適宜紹介する							
評価の基準と方法	授業態度と授業内の小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目	インテリアの知識と技術Ⅱ							
その他	履修条件の詳細説明を1回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	インテリアの知識と技術Ⅱ		
科目分類	141-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 水曜日 09:30～10:30 水曜日 12:30～14:30	研究室	2-201
授業概要	学科の他の科目や、インテリアの知識と技術Ⅰで学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深め、資格取得のためのさらなる実践力を養う。		
到達目標	建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等の各資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術の理解をさらに高め、実際の演習問題の正答率向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：テキストの準備 授業：オリエンテーション 復習：テキストの確認</p> <p>【第2回】 予習：インテリアの歴史予習 授業：インテリアの歴史 復習：インテリアの歴史の復習</p> <p>【第3回】 予習：インテリア計画予習 授業：インテリア計画 復習：インテリア計画の復習</p> <p>【第4回】 予習：環境工学予習 授業：環境工学 復習：環境工学の復習</p> <p>【第5回】 予習：構造と施工予習 授業：構造と施工 復習：構造と施工の復習</p> <p>【第6回】 予習：表現技法1予習 授業：表現技法1 復習：表現技法1の復習</p> <p>【第7回】 予習：表現技法2予習 授業：表現技法2 復習：表現技法2の復習</p> <p>【第8回】 予習：演習1予習 授業：演習1 復習：演習1の復習</p> <p>【第9回】 予習：色彩と造形予習 授業：色彩と造形 復習：色彩と造形の復習</p> <p>【第10回】 予習：建築関係法規予習 授業：建築関係法規 復習：建築関係法規の復習</p> <p>【第11回】 予習：住宅設備1予習 授業：住宅設備1 復習：住宅設備1復習</p> <p>【第12回】 予習：住宅設備2予習 授業：住宅設備2 復習：住宅設備2の復習</p> <p>【第13回】</p>			



予習：材料予習 授業：材料 復習：材料の復習 【第14回】 予習：住宅と社会予習 授業：住宅と社会 復習：住宅と社会の復習 【第15回】 予習：演習2予習 授業：演習2 復習：演習2の復習								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。							
テキスト・教材	「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）							
参考書	授業中に適宜紹介する							
評価の基準と方法	授業態度と授業内の小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目	インテリアの知識と技術 I							
その他	履修条件の詳細説明を1回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。 インテリアの知識と技術 I を履修していることが望ましい。 自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	空間演出 A		
科目分類	141-330-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Space Production A	授業区分	講義
科目責任者	橘田洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田・堀邊・山崎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>大学構内に、市民と学生のための新たな施設計画と空間演出をおこなう。 その場所の特徴や空間を分析し、必要だと思われる新たな施設を計画する。また、新たな施設を計画するだけでは、そこが利用する人々にとって魅力的な場所とはなり得ない。何度も訪れたいくなるような計画・演出方法・プログラム等について考える。それらの空間は、その空間のデザインや演出自体が表現であり、また設置されるもの等をより良く見せるための背景や装置でもある。 なお、授業ではディスカッションを実施する。</p>		
到達目標	<p>企画・設計・提案を含む空間演出デザイン能力の向上を目指す。 具体的には、対象空間の与条件の整理・分析をする能力、企画アイデアを具体的なインテリア空間としてデザイン表現するスキル、プレゼンテーション能力の習得を目的とする。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み込む 授業：課題の説明 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】 予習：新たな施設計画に関する事前調査 授業：計画する施設の発表（プレゼンテーション） 復習：新たな施設計画のまとめ</p> <p>【第3回】 予習：具体的な実例研究 予備調査 授業：具体的な実例研究（個人演習） 復習：具体的な実例研究 事例まとめ</p> <p>【第4回】 予習：大学構内の把握 授業：大学構内調査（ディスカッション） 復習：調査継続作業</p> <p>【第5回】 予習：調査継続作業 授業：現況図面化作業（ディスカッション） 復習：現況図面化作業継続</p> <p>【第6回】 予習：現況図面化作業継続 授業：企画内容検討（ディスカッション） 復習：企画内容検討継続</p> <p>【第7回】 予習：現況図面化作業継続 授業：企画内容検討（ディスカッション） 復習：企画内容検討継続</p> <p>【第8回】 予習：企画提案資料作成 授業：企画提案発表（プレゼンテーション） 復習：企画提案内容精査</p> <p>【第9回】 予習：デザインスタディ1 平面計画事前検討 授業：デザインスタディ1 平面計画作業&amp;エスキス（ディスカッション） 復習：デザインスタディ1 エスキス内容整理</p> <p>【第10回】 予習：デザインスタディ2 平面・断面計画事前検討 授業：デザインスタディ2 平面・断面計画作業&amp;エスキス（ディスカッション） 復習：デザインスタディ2 エスキス内容整理</p> <p>【第11回】 予習：デザインスタディ3 3D&amp;パース事前検討 授業：デザインスタディ3 3D&amp;パース作業&amp;エスキス（ディスカッション） 復習：デザインスタディ3 エスキス整理</p> <p>【第12回】 予習：デザインスタディ4 模型&amp;提案資料事前検討 授業：デザインスタディ4 模型&amp;提案資料作業&amp;エスキス（ディスカッション）</p>			

復習：デザインスタディ4 エスキス整理 【第13回】 予習：デザインスタディ5 模型&提案資料事前検討 授業：デザインスタディ5 模型&提案資料作業&エスキス（ディスカッション） 復習：デザインスタディ5 エスキス整理 【第14回】 予習：講評会準備 授業：講評会（プレゼンテーション） 復習：講評内容のまとめ 【第15回】 予習：ポートフォリオの準備 授業：全体のまとめ・ポートフォリオの作成作業（ディスカッション） 復習：ポートフォリオの作成作業の継続								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展示会等も出来るだけ見るように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別またはグループごとにエスキスを繰り返し実施。							
テキスト・教材	必要に応じ指示							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度 40%、提出物及びレポート 60%で評価。 提出物の不足や出席が3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	△
関連科目	インテリアデザインⅠ・インテリアデザインⅡ・空間演出B							
その他	・学外において見学会を行う場合、その際の費用は自己負担とする。 ・履修希望者は、必ず初回授業に出席すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	商業施設および公共施設のインテリアデザインを行っている事務所の方を非常勤講師としてむかえ、実務からみた詳細計画をエスキスに取り入れる。							

科目名称	建築デザイン I		
科目分類	142-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・田中(昭)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	設計製図Ⅰ、Ⅱで学んだ個人住宅・シェアハウスの設計を基に、小規模な集合住宅の計画及び設計を行う。住宅の内部空間だけでなく、住戸と住戸の関係、及び住戸と外部空間の関係を考える。また、建物と外部空間の関係を考えるトレーニングとして短期課題を行う。それらの課題のプレゼンテーションを毎回行う。		
到達目標	短期課題を通して、計画からプレゼンテーションまでのプロセスを具体的に把握し、デザインプロセスと作業プロセスをコントロールすることを習得する。小規模な集合住宅の課題を通して建築単体のあり方だけでなく外部空間や環境とのつながりを考える事の重要性を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを参照する事  授業：ガイダンスと短期課題の説明  復習：課題キーワードの確認</p> <p>【第2回】  予習：コンセプト作成  授業：エスキース  復習：課題について自習</p> <p>【第3回】  予習：事例研究  授業：エスキース  復習：スタディ模型作成</p> <p>【第4回】  予習：スタディ模型検討  授業：短期課題の発表（プレゼンテーション）・講評  復習：作成プロセスの確認</p> <p>【第5回】  予習：集合住宅の定義確認  授業：「小規模集合住宅課題」の説明  復習：課題内容キーワード確認</p> <p>【第6回】  予習：敷地分析  授業：敷地分析・事例研究・エスキース  復習：ヴォリュームスタディ</p> <p>【第7回】  予習：ヴォリューム模型作成  授業：エスキース  復習：エスキース模型作成</p> <p>【第8回】  予習：図面検討  授業：エスキース  復習：図面検討</p> <p>【第9回】  予習：図面、模型検討  授業：エスキース  復習：図面、模型検討</p> <p>【第10回】  予習：図面、模型検討  授業：中間発表（プレゼンテーション）  復習：コンセプト確認</p> <p>【第11回】  予習：図面、模型検討  授業：エスキース  復習：図面、模型検討</p> <p>【第12回】  予習：図面、模型検討  授業：エスキース  復習：図面、模型検討</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 図面、模型検討 授業 : プレゼンテーションの表現・技法の説明 復習 : 図面、模型検討 【第 14 回】 予習 : 図面、模型検討 授業 : エスキース 復習 : 図面、模型検討 【第 15 回】 予習 : 課題制作 授業 : 課題 発表 (プレゼンテーション) ・講評 復習 : 課題作成プロセス確認								
授業開始前学習	類似事例の研究							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出時に講評会を行う。講評時に個別に今後の学修の課題や問題点について指摘する。							
テキスト・教材	特になし。適宜資料を配布する。							
参考書	「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版) 各自、必要と思われる資料を集めること。							
評価の基準と方法	提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・授業態度により評価する。配点は (100 点満点における) 提出物 50 点・プレゼンテーション 30 点・授業態度 20 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○
関連科目	建築計画 B							
その他	構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目の担当者は建築設計の実務経験を有しており、本科目ではその経験を活かし建築設計の実習を行う。							

科目名称	建築デザインⅡ		
科目分類	142-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸・井原	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	建築デザインⅠで設計した集合住宅および公共建築を発展させ、都市的な環境の中で、複合的な機能をもった公共施設の計画、設計、作図、プレゼンテーションを行う。 前半にパブリックスペースの在り方、周辺環境との関わりをを考慮するトレーニングとして小規模な公共施設、後半には都市的な規模の公共施設に取り組む。		
到達目標	公共施設の計画を通じて、敷地環境の分析から、都市における問題点、良い点などを読み取り、より高度な提案と作図表現、プレゼンテーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバス参照  授業：授業ガイダンス、短期 課題の説明  復習：課題キーワードの確認</p> <p>【第2回】  予習：コンセプト作成  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：課題の自習</p> <p>【第3回】  予習：事例研究  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：エスキース模型作成</p> <p>【第4回】  予習：エスキース模型検討  授業：短期課題の発表・講評（プレゼンテーション）  復習：作成プロセスの確認</p> <p>【第5回】  予習：公共施設の実例検索  授業：課題 説明・「公共施設の提案」  復習：課題内容キーワード確認</p> <p>【第6回】  予習：敷地事前分析  授業：敷地分析・事例調査・エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：ヴォリュームスタディ</p> <p>【第7回】  予習：ヴォリューム模型作成  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：エスキース模型作成</p> <p>【第8回】  予習：図面検討  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：断面計画検討</p> <p>【第9回】  予習：断面、平面計画検討  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：エスキース模型による再検討</p> <p>【第10回】  予習：中間発表にむけてプレゼ検討  授業：中間発表（プレゼンテーション）  復習：コンセプトの確認</p> <p>【第11回】  予習：図面、模型検討  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：図面、模型検討</p> <p>【第12回】  予習：断面計画再検討  授業：エスキース（実習）（ディスカッション）  復習：平面計画再検討</p> <p>【第13回】</p>			

予習：パネルレイアウト検討 授業：プレゼンテーション指導（実習） 復習：パネルレイアウト検討 【第14回】 予習：平立断再検討 授業：作図、プレゼンテーション作業（実習） 復習：プレゼンテーション準備 【第15回】 予習：プレゼンテーション準備 授業：課題発表（前日に図面・模型提出）・講評（プレゼンテーション） 復習：作成プロセス確認								
授業開始前学習	類似事例の研究							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の進捗状況を個別に確認しアドバイスをを行う。 課題提出時に講評会を行う。講評時に個別に今後の学修の課題や問題点について指摘する。							
テキスト・教材	特になし							
参考書	「建築計画設計シリーズ41 新・住宅Ⅰ」（市ヶ谷出版社） 「第3版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法	提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・平常点（授業態度）により評価する。配点は（100点満点における）課題点70点・平常点（授業態度等）30点の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○
関連科目	設計製図Ⅰ、建築デザインⅠ、建築計画Ⅰ							
その他	設計製図Ⅰ、建築デザインⅠを履修済みであること。 構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。							



科目名称	建築デザイン論		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Architectural Design	授業区分	講義
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	近代建築以降の日本及び海外の住宅や建築の事例紹介を通じて「建築デザイン」とは何かを考えて行く。具体的には平面計画と様々な外的・内的と条件の関係や、住空間及び建築空間に対する考え方を学ぶ。また、授業では提出されたレポート課題に関するディスカッションを行う。		
到達目標	20 世紀モダニズム建築作品とその歴史的意義を学ぶ。 日本の現代建築作品に対する基礎的な知識を習得する。 現在の建築を切り開いている建築家の作品の建築的意味を理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを読むこと 授業：ガイダンス（授業の目的と進め方の説明） 復習：配布資料のキーワードの確認</p> <p>【第 2 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：19 世紀末及び 20 世紀初頭のヨーロッパの状況（小レポート） 復習：配布資料のキーワードの確認</p> <p>【第 3 回】 予習：サヴォア邸について検索 授業：ル・コルビジエの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習：近代建築の五原則確認</p> <p>【第 4 回】 予習：落水荘について検索 授業：フランク・ロイド・ライトの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習：有機的建築についてキーワード確認</p> <p>【第 5 回】 予習：ファンズワース邸について検索 授業：ミース・ファン・デル・ローエの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習：ミース・ファン・デル・ローエのキーワードの確認</p> <p>【第 6 回】 予習：国立西洋美術館について検索 授業：三巨匠の日本建築家への影響とその遺産（小レポート・ディスカッション） 復習：戦後公共建築の復讐</p> <p>【第 7 回】 予習：吉村順三「軽井沢の家」について検索 授業：吉村順三の住宅建築とその系譜（小レポート・ディスカッション） 復習：吉村順三の住宅のキーワード確認</p> <p>【第 8 回】 予習：清家清の自邸について検索 授業：清家清の住宅建築とその系譜（小レポート・ディスカッション） 復習：清家清の住宅のキーワード確認</p> <p>【第 9 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：団地の誕生と集合住宅（小レポート・ディスカッション） 復習：配布資料のキーワードの確認</p> <p>【第 10 回】 予習：丹下健三について検索 授業：丹下健三の建築とその弟子たち（国家と建築）（小レポート・ディスカッション） 復習：戦後第一世代の建築家の作品検索</p> <p>【第 11 回】 予習：「住吉の長屋」図面参照 授業：安藤忠雄の住宅と建築（ミニマリズムとコンクリート）（小レポート・ディスカッション） 復習：安藤建築のキーワード確認</p> <p>【第 12 回】 予習：伊東豊雄について検索 授業：伊東豊雄の住宅と建築（時代への対応）（小レポート・ディスカッション） 復習：伊東豊雄の建築のキーワード確認</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 金沢 2 1 世紀美術館の検索 授業 : SANAA の住宅と建築 (小レポート・ディスカッション) 復習 : SANAA 建築のキーワード確認 【第 14 回】 予習 : 藤本壮介について検索 授業 : 若手世代の住宅と建築 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 藤本壮介の建築キーワードの確認 【第 15 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 建築の可能性へ向けて (小レポート・ディスカッション) 復習 : 配布資料のキーワードの確認								
授業開始前学習	各建築家について調べる。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書	建築雑誌等、作品集等。							
評価の基準と方法	小レポート及びレポート 70 点、平常点 (授業態度、課題提出) 30 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	設計製図Ⅱ、建築デザインⅠ、建築デザインⅡ							
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築計画 A		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning A	授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	1-211
授業概要	建築物の中で最も歴史が古く、また、人間が一生の中で多くの時間を過ごす「住宅」。建築設計の基本でありながら、一方で深く難しいともいわれる「住宅設計」を題材に、建築計画に必要な知識や方法を修得する。授業では講義にともなって演習課題を行う。		
到達目標	「住宅設計」を題材に、建築計画、建築設計の基礎を修得する。 名作といわれる住宅建築についての知識を広げる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：教科書の購入 授業：ガイダンス（テキスト p.18-27） 復習：教科書の見直し（p.18-27）</p> <p>【第 2 回】 予習：製図の基礎で学んだ図面の種類をみておく 授業：図面の作法 復習：配布資料見直し</p> <p>【第 3 回】 予習：教科書を読んでおく(p.10-17) 授業：住宅設計とは何か（テキスト p.10-17）（演習課題 1） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 4 回】 予習：教科書を読んでおく(p.28-29) 授業：こんな家に住みたい（テキスト p.28-29） 復習：事例研究</p> <p>【第 5 回】 予習：教科書を読んでおく(p.32-37) 授業：住宅計画 1（敷地環境の分析）（テキスト p.32-37）（演習課題 2） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 6 回】 予習：教科書を読んでおく(p.38-41) 授業：住宅計画 2（動線計画）（テキスト p.38-41） 復習：事例研究</p> <p>【第 7 回】 予習：教科書を読んでおく(p.42-45) 授業：住宅計画 3（食空間の計画）（テキスト p.42-45）（演習課題 3） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 8 回】 予習：教科書を読んでおく(p.46-49) 授業：住宅計画 4（パブリック空間の計画）（テキスト p.46-49） 復習：事例研究</p> <p>【第 9 回】 予習：教科書を読んでおく(p.50-53) 授業：住宅計画 5（プライベート空間の計画）（テキスト p.50-53）（演習課題 4） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 10 回】 予習：教科書を読んでおく(p.54-56) 授業：住宅計画 6（収納計画）（テキスト p.54-56） 復習：事例研究</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書を読んでおく(p.58-59) 授業：住宅計画 7（ユニバーサルデザイン）（テキスト p.58-59）（演習課題 5） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 12 回】 予習：教科書を読んでおく(p.60-61) 授業：平面計画の考え方 1（テキスト p.60-61） 復習：事例研究</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 教科書を読んでおく(p.62-63) 授業 : 平面計画の考え方 2 (テキスト p.62 - 63) (演習課題 6) 復習 : 授業中に出题された課題調査 【第 14 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.64-65) 授業 : 断面計画の考え方 (テキスト p.64 - 65) 復習 : 事例研究 【第 15 回】 予習 : 過去の課題を整理して持参準備 授業 : 前期のまとめ・アンケート実施 復習 : 授業中に出题された課題調査								
授業開始前学習	教科書を購入し目を通しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	出題された課題は、内容に応じて学生の提出物を共有したり、模範回答を解説するなどフィードバックを行う。							
テキスト・教材	「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」市ヶ谷出版							
参考書	「建築計画設計シリーズ 40 新・設計基礎 (構造・環境設備・法規)」(市ヶ谷出版社) 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版)							
評価の基準と方法	演習課題提出状況 : 30 点、演習課題の内容による : 70 点							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	設計製図 I、設計製図 II							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計製図 I の課題の進度に合わせて必要な知識を学ぶため、同時に履修することを強く推奨する。</li> <li>・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築計画 B		
科目分類	142-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning B	授業区分	講義
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40~12:10 木曜日 13:00~14:30 後期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30	研究室	1-203
授業概要	住空間の建築計画において主に集合住宅に視点をあて、その計画・設計に関する基礎的な知識を学ぶ。また、住空間を幅広い視点で捉え、子どもの居場所としての学校や、患者・高齢者など居場所としての医療・高齢者福祉施設の計画・設計についても考察する。授業では演習課題やグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	集合住宅や学校、医療・高齢者福祉施設の計画・設計に必要な基礎的な知識を理解し、建築計画について習得する。また、国内外の事例について建築計画の視点から考察できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスの内容を確認する  授業：ガイダンス  復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】  予習：身の回りのものの寸法を測ってみる  授業：基本寸法とスケール感（演習課題1）  復習：自宅の家具や小物の寸法を測ってみる</p> <p>【第3回】  予習：参考書等を使って建物の計画手順について予習する  授業：建物を作るための計画手順（演習課題2）  復習：配布資料を再読し、建物の計画手順について理解を深める</p> <p>【第4回】  予習：参考書等を使って集合住宅の形式について予習する  授業：集合住宅の住戸・住棟計画（演習課題3）  復習：住戸・住棟計画の演習資料を再読し、復習する</p> <p>【第5回】  予習：参考書等を使って建物の動線計画について予習する  授業：集合住宅の動線計画（演習課題4）  復習：動線計画の演習資料を再読し、復習する</p> <p>【第6回】  予習：雑誌等で集合住宅の事例を調べる  授業：集合住宅の事例紹介と分析  復習：配布資料を再読し、集合住宅の事例研究方法について理解を深める</p> <p>【第7回】  予習：興味を持った集合住宅の事例について学習する  授業：集合住宅の事例紹介と分析（演習課題5）  復習：集合住宅の事例研究資料を作成する</p> <p>【第8回】  予習：環境に配慮した集合住宅の事例を調べる  授業：環境と建築の関わり  復習：配布資料を再読し、集合住宅と環境について理解を深める</p> <p>【第9回】  予習：集合住宅の外構事例を調べる  授業：外構計画の考え方（演習課題6）  復習：配布資料を再読し、外構計画について理解を深める</p> <p>【第10回】  予習：集合住宅事例研究の発表準備をする  授業：集合住宅事例研究の発表（グループ発表）  復習：発表で指摘された点について復習する</p> <p>【第11回】  予習：雑誌等で学校建築の事例を調べる  授業：学校の建築計画①  復習：配布資料を再読し、学校建築について理解を深める</p> <p>【第12回】  予習：興味を持った学校建築の事例について学習する  授業：学校の建築計画②（演習課題7：グループワーク）  復習：学校建築について自分の視点で考察する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：雑誌等で医療・高齢者福祉施設の事例を調べる 授業：医療・高齢者福祉施設の建築計画① 復習：配布資料を再読し、医療・高齢者福祉施設について理解を深める 【第14回】 予習：興味を持った医療・高齢者福祉施設の事例について学習する 授業：医療・高齢者福祉施設の建築計画②（演習課題8） 復習：医療・高齢者福祉施設について自分の視点で考察する 【第15回】 予習：レポートを進める 授業：まとめ 復習：レポートを仕上げ、提出する								
授業開始前学習	集合住宅の事例を建築雑誌で閲覧しておくことを推奨する。							
授業内課題の フィードバックの方法	演習課題を実施した際には、個別添削と講義内での解説を行う。事例研究課題については、発表と講評を行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配布する							
参考書	「テキスト 建築計画」（学芸出版社） 「第3版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法	演習・事例研究・レポート・授業態度を総合して評価する。 配点（100点満点）は、演習・事例研究 20点、レポート 50点、授業態度 30点とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	建築デザイン I							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	建築設計等の実務経験を活かし、集合住宅等の建築計画学について講義する。							

科目名称	建築計画 C		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning C	授業区分	講義
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	この授業では建築計画 A、B のテーマであった住空間についての建築計画的知識の習得をふまえて、より公共的、複合的な機能を持った施設の建築計画の分析を事例研究とともにを行い、都市の中での公共的建築の建築計画の意味、内容を考察していく。 具体的には美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設等を対象とする。		
到達目標	美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設の建築計画学としての基礎知識の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス 復習：配布資料確認</p> <p>【第 2 回】 予習：美術館の定義検索 授業：美術館の建築計画 復習：配布資料キーワード確認</p> <p>【第 3 回】 予習：ルイスカーンの美術館検索 授業：美術館の事例紹介① 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 4 回】 予習：ポンピドー美術館検索 授業：美術館の事例紹介② 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 5 回】 予習：エクセター図書館検索 授業：図書館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 6 回】 予習：上野、法隆寺博物館参照 授業：博物館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 7 回】 予習：発表準備 授業：課題 I 事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証</p> <p>【第 8 回】 予習：発表準備 授業：課題 II 事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証</p> <p>【第 9 回】 予習：メディアテーク参照（伊東豊雄） 授業：複合施設の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 10 回】 予習：敷地分析 授業：複合施設事例紹介と分析① 復習：敷地と建築の関係確認</p> <p>【第 11 回】 予習：機能分析 授業：複合施設事例紹介と分析② 復習：機能ダイアグラムの検証</p> <p>【第 12 回】 予習：断面計画の分析 授業：複合施設事例紹介と分析③ 復習：断面計画と機能ダイアグラムの関係を検証</p> <p>【第 13 回】</p>			



予習：発表準備 授業：課題Ⅲ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証 【第14回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅳ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証 【第15回】 予習：分析プロセスの再検証 授業：まとめ 復習：建築計画の意味の確認								
授業開始前学習	建築計画 A、建築計画 B で学んだ、建築計画の基礎について復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書	「第3版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法	毎回の小課題と期末レポート、授業態度で評価を行う。配点は（100点満点に於ける）は、小課題とレポート 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	建築計画 A、建築計画 B、建築デザイン II							
その他	授業の順番等は、適宜変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築計画 D		
科目分類	142-331-14	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning D	授業区分	講義
科目責任者	鹿倉 祐一	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鹿倉 祐一	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「一級建築士」および「二級建築士」の試験に出題される「建築計画」の分野についての基礎的な内容を重点的に学ぶ。さらに実践的な演習問題に取り組み、応用問題を学ぶ。インテリアプランナーやインテリアコーディネーターなどの資格試験内容にもつながる。		
到達目標	建築士を目指す際に必要となる「建築計画」分野の基礎的な知識を習得する。実践的な、演習問題をとおりて基礎的な知識を定着させ、応用力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：建築士試験の内容を調べる  授業：ガイダンス 建築士制度、建築士事務所について  復習：建築士の役割を理解する</p> <p>【第2回】  予習：1年生から3年生までの建築計画の内容をまとめる  授業：建築計画一般 住宅  復習：建築士試験での計画の内容を理解する</p> <p>【第3回】  予習：住宅・集合住宅に必要なものを調べる  授業：住宅・集合住宅  復習：住宅・集合住宅の構成を理解する</p> <p>【第4回】  予習：都市とはなにかを調べる  授業：地域計画 近隣住区理論  復習：都市の構成、まちづくりについて理解する</p> <p>【第5回】  予習：商業建築の役割について調べる  授業：商業建築1（事務所・劇場）  復習：事務所・劇場の内容を理解する</p> <p>【第6回】  予習：店舗・ホテル・駐車場の役割について調べる  授業：商業建築2（店舗・宿泊施設・駐車場）  復習：店舗・ホテル・駐車場の内容を理解する</p> <p>【第7回】  予習：公共建築の役割を調べる  授業：公共建築1（保育所・幼稚園・学校）  復習：保育所・幼稚園・学校の内容を理解する</p> <p>【第8回】  予習：高齢者社会と医療についての調べる  授業：公共建築2（医療施設・社会福祉施設）  復習：医療施設・社会福祉施設の内容を理解する</p> <p>【第9回】  予習：公共建築と周辺環境のつながりを調べる  授業：公共建築3（図書館・博物館・美術館）  復習：図書館・美術館・博物館の内容を理解する</p> <p>【第10回】  予習：建築計画における人体寸法を調べる  授業：各部計画1（各部寸法、面積等）  復習：建築計画で利用される細部寸法、大きさを理解する</p> <p>【第11回】  予習：バリアフリーに関する法律を調べる。  授業：各部計画2（バリアフリー・高齢者・身障者に対する建築計画）  復習：健全者以外のための建築計画を理解する</p> <p>【第12回】  予習：建築の施工方法を調べる  授業：建築計画と建築生産  復習：建築の施工方法について理解する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 日本建築、西洋建築の有名な建築物を調べる 授業 : 建築計画と建築史 1 (日本建築史・西洋建築史) 復習 : 日本建築、西洋建築の特徴、年代、設計者などを理解する 【第 1 4 回】 予習 : 近代建築・現代建築の有名な建築物を調べる 授業 : 建築計画と建築史 2 (近代建築史・現代建築史) 復習 : 近代建築、現代建築の特徴、年代、設計者などを理解する 【第 1 5 回】 予習 : 不得意な分野を洗い出し、まとめておくこと 授業 : 建築士試験の内容を分析と対策 復習 : 建築計画の内容を整理し、建築士試験の出題傾向について理解する								
授業開始前学習	建築計画に関連する過去に出題された「一級建築士」および「二級建築士」の問題を閲覧しておくことを勧めます。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回の授業の内容と演習問題の関連性についての疑問について、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	適宜、各回講義内にて資料を配布する。							
参考書	建築計画 A 教科書『建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I』(市ヶ谷出版)を参考書として利用する。住宅、集合住宅、各部計画の講義時に利用する。							
評価の基準と方法	小テストと演習問題で評価する。 配点(100点満点)は、小テスト 30 点と演習問題 40 点、平常点(授業態度・課題提出) 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	建築計画 A、建築計画 B、建築計画 C							
その他	各回授業時間内の最後に小テストを行います。また、最終回に演習問題を行います。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	構造力学 I		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Structural Theory I	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 10:40~12:10 後期 水曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10	研究室	1-210
授業概要	基本的な建築構造力学の講義により、建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識を習得する。静定構造物を中心に荷重・外力のモデル化、応力や変形の性質を学ぶ。		
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて理解しておくこと。  授業：ガイダンス、力のつり合い  復習：力のつり合いを理解するよう努める</p> <p>【第 2 回】  予習：モーメントの概念について理解しておくこと  授業：モーメントの概念  復習：モーメントの概念を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 3 回】  予習：部材の伸縮、応力度、ひずみを理解しておくこと  授業：部材の伸縮、応力度、ひずみ  復習：部材の伸縮、応力度、ひずみを理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 4 回】  予習：トラスの原理を理解しておくこと  授業：トラスの原理  復習：トラスの原理を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 5 回】  予習：トラスの解法を理解しておくこと  授業：トラスの解法  復習：トラスの解法を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 6 回】  予習：片持ち梁・単純梁を理解しておくこと  授業：片持ち梁にかかる応力  復習：片持ち梁にかかる応力を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 7 回】  予習：荷重を理解しておくこと  授業：分布荷重  復習：分布荷重を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 8 回】  予習：応力度を理解しておくこと  授業：曲げ応力度  復習：曲げ応力度を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 9 回】  予習：たわみを理解しておくこと  授業：たわみ  復習：たわみを理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 10 回】  予習：座屈を理解しておくこと  授業：座屈  復習：座屈を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 11 回】  予習：許容応力度を理解しておくこと  授業：梁の断面設計 - 1  復習：梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 12 回】  予習：梁の断面設計を理解しておくこと  授業：梁の断面設計 - 2  復習：梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 反力を理解しておくこと 授業 : 静定ラーメンの反力-1 復習 : 反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること 【第14回】 予習 : 反力の求め方を理解しておくこと 授業 : 静定ラーメンの反力-2 復習 : 反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること 【第15回】 予習 : 演習問題の内容を理解しておくこと 授業 : 評価 復習 : 授業内容を理解するよう演習問題で理解すること								
授業開始前学習	授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学A及び数学B）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	改訂版図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題集（学芸出版）							
参考書	図説やさしい建築数学（学芸出版）							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験60%、小テスト40%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。							

科目名称	構造力学Ⅱ		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Structural Theory II	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識すなわち、力の流れや構造のしくみ、構造材料の特質などの力学的な知識と理解力を習得する。		
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできること。同時に部材内の応力度について理解を深めることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：トラスの種類について理解しておくこと。  授業：トラス トラスの種類及びトラスの解法  復習：トラスの種類及び解法について理解するよう演習すること</p> <p>【第2回】  予習：節点法を理解しておくこと  授業：トラス 節点法によるトラスの解法  復習：節点法について理解するよう演習すること</p> <p>【第3回】  予習：切断法を理解しておくこと  授業：トラス 切断法によるトラスの解法  復習：切断法について理解するよう演習すること</p> <p>【第4回】  予習：断面積・断面1次モーメントを理解しておくこと  授業：断面に関する数量-1  復習：断面に関する数量について理解するよう演習すること</p> <p>【第5回】  予習：断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径を理解しておくこと  授業：断面に関する数量-2  復習：断面に関する数量について理解するよう演習すること</p> <p>【第6回】  予習：これまで扱った断面に関する数量を理解しておくこと  授業：断面に関する数量-3  復習：断面に関する数量について理解するよう演習すること</p> <p>【第7回】  予習：応力度の概念を理解しておくこと  授業：応力度-1  復習：応力度について理解するよう演習すること</p> <p>【第8回】  予習：曲げ・せん断応力度を理解しておくこと  授業：応力度-2  復習：応力度について理解するよう演習すること</p> <p>【第9回】  予習：引張・圧縮応力度を理解しておくこと  授業：応力度-3  復習：応力度について理解するよう演習すること</p> <p>【第10回】  予習：不静定構造物を理解しておくこと  授業：不静定構造物の基礎-不静定構造物の原理と基礎的解法  復習：不静定構造物の基礎について理解するよう演習すること</p> <p>【第11回】  予習：不静定応力について理解しておくこと  授業：不静定構造物の基礎-固定法  復習：固定法について理解するよう演習すること</p> <p>【第12回】  予習：不静定応力について理解しておくこと  授業：不静定構造物の基礎-たわみ角法  復習：たわみ角法について理解するよう演習すること</p> <p>【第13回】</p>			

予習：不静定応力について理解しておくこと 授業：不静定構造物の基礎-ラーメン構造とD値法 復習：D値法について理解するよう演習すること 【第14回】 予習：塑性解析について理解しておくこと 授業：塑性解析の基礎-全塑性モーメントと不静定梁の崩壊 復習：全塑性モーメントについて理解するよう演習すること 【第15回】 予習：保有水平耐力について理解しておくこと 授業：塑性解析の基礎-不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力 復習：保有水平耐力について理解するよう演習すること								
授業開始前学習	授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学A及び数学B）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題（学芸出版）							
参考書	図説やさしい建築数学（学生出版）							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験60%、小テスト40%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。							



科目名称	建築構造 I		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Structure I	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築の空間は構造体や設備が一体となって実現できる。空間を形作る種々の構造体の概念と成り立ちを理解する。		
到達目標	木造建物を中心に、建築物の成り立ちについて理解を深めることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと  授業：ガイダンス、概論  復習：概論について理解するよう努める</p> <p>【第 2 回】  予習：前回授業の内容を理解しておくこと  授業：歴史的建造物の構造  復習：歴史的建造物の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 3 回】  予習：歴史的建造物の構造を理解しておくこと  授業：近代建築の構造とデザインの発展  復習：近代建築の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 4 回】  予習：近代建築の構造とデザインの発展を理解しておくこと  授業：民家および在来工法  復習：民家および在来工法について理解するよう努める</p> <p>【第 5 回】  予習：民家および在来工法を理解しておくこと  授業：木材の性質と構造原理  復習：木材の性質と構造原理について理解するよう努める</p> <p>【第 6 回】  予習：木材の性質と構造原理を理解しておくこと  授業：木造の小屋組  復習：木造の小屋組について理解するよう努める</p> <p>【第 7 回】  予習：木造の小屋組を理解しておくこと  授業：木造の軸組  復習：木造の軸組について理解するよう努める</p> <p>【第 8 回】  予習：木造の軸組を理解しておくこと  授業：地盤・基礎  復習：地盤・基礎について理解するよう努める</p> <p>【第 9 回】  予習：地盤・基礎を理解しておくこと  授業：屋根の形状  復習：屋根の形状について理解するよう努める</p> <p>【第 10 回】  予習：屋根の形状を理解しておくこと  授業：壁の構造と構法  復習：壁の構造と構法について理解するよう努める</p> <p>【第 11 回】  予習：壁の構造と構法を理解しておくこと  授業：集成材の構造  復習：集成材の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 12 回】  予習：集成材の構造を理解しておくこと  授業：工業化住宅の構造-1  復習：工業化住宅の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業：工業化住宅の構造-2 復習：工業化住宅の構造について理解するよう努める 【第14回】 予習：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業：地震と構造 復習：地震と構造について理解するよう努める 【第15回】 予習：地震と構造を理解しておくこと 授業：評価 復習：今学期の配布資料を熟読し、内容を把握するよう努める									
授業開始前学習	雑誌・書籍や TV 等に見られる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておく、講義中の説明を理解しやすい。								
授業内課題のフィードバックの方法	レポートは個別に採点し返却を行う。								
テキスト・教材	建築構法（市ヶ谷出版社）								
参考書									
評価の基準と方法	レポートと授業内で行う小テストおよびミニトペーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニトペーパー 40%の配分とする。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○			
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。								
その他									
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。								

科目名称	建築構造 II		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Structure II	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 10:40~12:10 後期 水曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10	研究室	1-210
授業概要	建物は材料と構法の組み合わせによって成立する。建物の設計において、建物に要求される断面・材料の基本を身につける。		
到達目標	鋼構造及び鉄筋コンクリート構造建物を中心に、建物の成り立ちと特徴を理解することを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと  授業：ガイダンス  復習：配布資料を熟読し、授業内容を理解するよう努める</p> <p>【第 2 回】  予習：ガイダンスを理解しておくこと  授業：鋼材の性質と構造原理  復習：鋼材の性質と構造原理について理解するよう努める</p> <p>【第 3 回】  予習：鋼材の性質と構造原理を理解しておくこと  授業：鉄骨構造の骨組  復習：鉄骨構造の骨組について理解するよう努める</p> <p>【第 4 回】  予習：鉄骨構造の骨組を理解しておくこと  授業：鉄骨構造の継手・筋かい  復習：鉄骨構造の継手・筋かいについて理解するよう努める</p> <p>【第 5 回】  予習：鉄骨構造の継手・筋かいを理解しておくこと  授業：鉄骨構造の溶接  復習：鉄骨構造の溶接について理解するよう努める</p> <p>【第 6 回】  予習：鉄骨構造の溶接を理解しておくこと  授業：鉄筋コンクリートの原理  復習：鉄筋コンクリートの原理について理解するよう努める</p> <p>【第 7 回】  予習：鉄筋コンクリートの原理を理解しておくこと  授業：鉄筋コンクリートの構造形式  復習：鉄筋コンクリートの構造形式について理解するよう努める</p> <p>【第 8 回】  予習：鉄筋コンクリートの構造形式を理解しておくこと  授業：鉄筋コンクリートの配筋-柱  復習：鉄筋コンクリートの柱配筋について理解するよう努める</p> <p>【第 9 回】  予習：鉄筋コンクリートの柱配筋を理解しておくこと  授業：鉄筋コンクリートの配筋-梁  復習：鉄筋コンクリートの梁配筋について理解するよう努める</p> <p>【第 10 回】  予習：鉄筋コンクリートの梁配筋を理解しておくこと  授業：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理  復習：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理について理解するよう努める</p> <p>【第 11 回】  予習：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理を理解しておくこと  授業：PC 構造の原理と力学的性状  復習：PC 構造の原理と力学的性状について理解するよう努める</p> <p>【第 12 回】  予習：PC 構造の原理と力学的性状を理解しておくこと  授業：ブロック造の原理と力学的性状  復習：ブロック造の原理と力学的性状について理解するよう努める</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：ブロック造の原理と力学的性状を理解しておくこと 授業：壁構造の種類と構造原理 復習：壁構造の種類と構造原理について理解するよう努める 【第14回】 予習：壁構造の種類と構造原理を理解しておくこと 授業：風や積雪と構造 復習：風や積雪と構造について理解するよう努める 【第15回】 予習：風や積雪と構造を理解しておくこと 授業：評価 復習：今学期の配布資料を熟読し、全ての内容を理解するよう努める								
授業開始前学習	雑誌・書籍や TV 等に見られる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておく、講義中の説明を理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	レポートは個別に採点し返却を行う。							
テキスト・教材	建築構法（市ヶ谷出版社）							
参考書								
評価の基準と方法	レポートと授業内で行う小テストおよびミニトーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニトーパー 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。							

科目名称	日本建築史		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Architecture	授業区分	講義
科目責任者	岩谷 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岩谷 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	自然・社会・文化との密接な関わりの中、日本建築がいかに発展してきたかを概観し、その技術や意匠、様式上の特質について理解する。身近に接し鑑賞できる近代・現代の日本建築・都市などにも視野を拡げて考察する。		
到達目標	日本建築についての様式上の特質・意匠・技術について理解を深め、専門用語の説明ができるようになる。日本建築に対して、関心を持ち、自分自身の考えを広げられるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：「参考図書」①の p.8～p.12 を講読  授業：日本建築の特徴・日本の住様式  復習：日本の住様式について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第2回】  予習：「参考図書」①の p.36～p.38 を講読  授業：古代（1）飛鳥・奈良時代の神社建築  復習：伊勢神宮、出雲大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第3回】  予習：「参考図書」①の p.18～p.25 を講読  授業：古代（2）飛鳥・奈良時代の寺院建築  復習：法隆寺、東大寺、薬師寺他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第4回】  予習：「参考図書」①の p.26～p.34、p.38～p.42 を講読  授業：古代（3）平安時代の神社・寺院建築  復習：密教建築、浄土教建築、春日大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第5回】  予習：「参考図書」①の p.44～p.54 を講読  授業：古代（4）都城の制と宮殿、邸宅  復習：平城京、平安京、寝殿造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第6回】  予習：「参考図書」①の p.68～p.73 を講読  授業：中世（1）鎌倉・室町時代の神社建築  復習：中世の寺社建築、技術条の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第7回】  予習：「参考図書」①の p.56～p.67 を講読  授業：中世（2）鎌倉・室町時代の寺院・庭園建築  復習：大仏様・禅宗様について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第8回】  予習：「参考図書」①の p.75、p.78～p.88 を講読  授業：中世（3）中世都市と住宅  復習：寺内町、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第9回】  予習：「参考図書」①の p.94～p.104 を講読  授業：近世（1）安土桃山・江戸時代の神社・寺院・霊廟建築  復習：黄檗宗の建築、東照宮他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第10回】  予習：「参考図書」①の p.90～p.94、p.110～p.118 を講読  授業：近世（2）城郭建築と城下町、近世武家住宅  復習：城郭建築、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第11回】  予習：「参考図書」①の p.82～p.84、p.119～p.120 を講読  授業：茶室・数寄屋建築（1）  復習：茶室建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第12回】  予習：「参考図書」①の p.119～p.120 を講読  授業：茶室・数寄屋建築（2）  復習：茶室建築の展開・数寄屋建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：「参考図書」①の p.130～p.144 を講読 授業：近代洋風建築 復習：明治の開国からコンドル、辰野金吾他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 14 回】 予習：「参考図書」①の p.144～p.153、p.156～p.164 を講読 授業：日本のモダニズム 復習：分離派建築会、近代和風、近代合理主義について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 15 回】 予習：「参考図書」①の p.164～p.176 を講読 授業：全体のまとめ 復習：モダニズム～ポスト・モダンの建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する								
授業開始前学習	授業で対象となる建築の時代について、政治・文化的な日本史の要旨を理解しておくことがのぞましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業では毎回、授業の内容について、自分たちの意見・感想を、内容を整理しながら設定時間内に小レポートとしてまとめ、提出する。復習としてまとめる際に、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。							
テキスト・教材	関連資料は、適宜 PDF（またはプリント）として配布する。							
参考書	①太田博太郎監修「カラー版 日本建築様式史」（美術出版社、1999 年） ②日本建築学会編「日本建築史図集」（彰国社、2009 年） ③光井渉、太記祐一「カラー版 建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）							
評価の基準と方法	レポートによる成績、平常点などから総合的に評価する。 点数配分は 100 点満点のうち、平常点（毎回の授業の小レポートと受講態度）が 60 点、40 点は中間・期末の 2 回のレポートの成果から判断する。出席数が 10 回未満の場合は、原則としては単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	日本の建築意匠・デザインを扱うすべての授業、日本史、日本文化史							
その他	授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートを取り、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 日本建築の歴史をしっかりと把握し、さらに未来に向けて創造的に還元できることがのぞましい。日本建築の特徴を生かした近代・現代の建築についても資料を調べ、見学することを勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	西洋建築史		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Western Architecture	授業区分	講義
科目責任者	岩谷 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岩谷 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	西欧の建築・都市を古代から時代ごとに考察し、広い視野をもって世界の建築に対する関心を高める。建築や都市をその基底となる社会・文化と合わせて歴史的に理解すると同時に、専門的な理解を深めていく。		
到達目標	西欧の建築について、様式・意匠・技術などの特徴や専門用語を理解し、広い視野をもつと同時に、自分自身との関わりを考え、関心が持てるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：「参考図書」にある時代区分を確認  授業：西洋建築史ガイダンス  復習：古代以来の西欧建築の時代区分とその特徴について、図版・資料をもとに確認する</p> <p>【第2回】  予習：「参考図書」の p.18～p.27 を講読  授業：古代ギリシア建築  復習：ギリシア神殿とオーダーについて、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第3回】  予習：「参考図書」の p.27～p.32 を講読  授業：古代ギリシア建築と都市  復習：古代ギリシアの都市、住宅建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第4回】  予習：「参考図書」の p.34～p.42 を講読  授業：古代ローマ建築  復習：古代ローマ建築の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第5回】  予習：「参考図書」の p.43～p.46 を講読  授業：古代ローマ建築と都市  復習：西欧各地のローマによる建築・都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第6回】  予習：「参考図書」の p.48～p.56 を講読  授業：ビザンティン建築  復習：ビザンティン建築、初期キリスト教建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第7回】  予習：「参考図書」の p.12～p.16 を講読  授業：オリエントの建築、イスラム建築  復習：エジプト建築やイスラム教の建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第8回】  予習：「参考図書」の p.56、p.58～p.70 を講読  授業：プレ・ロマネスク建築、ロマネスク建築  復習：プレ・ロマネスク、ロマネスク建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第9回】  予習：「参考図書」の p.72～p.80 を講読  授業：ゴシック建築  復習：フランスを中心に各国のゴシック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第10回】  予習：「参考図書」の p.80～p.84 を講読  授業：中世の建築と都市  復習：西欧中世の都市と建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第11回】  予習：「参考図書」の p.86～p.92、p.102～p.112 を講読  授業：ルネサンス建築と都市  復習：各国のルネサンス建築、ルネサンス都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第12回】  予習：「参考図書」の p.93～p.100 を講読  授業：マニエリスム建築  復習：イタリアを中心とするマニエリスム建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第13回】</p>			



予習：「参考図書」の p.114～p.126 を講読 授業：バロック建築 復習：各国のバロック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 14 回】 予習：「参考図書」の p.128～p.135 を講読 授業：バロック建築と都市 復習：バロック建築と都市の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 15 回】 予習：「参考図書」の p.135～p.140、p.142～p.152 を講読 授業：新古典主義建築 復習：イギリス、フランスの新古典主義建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する								
授業開始前学習	配布資料に目を通し確認する。また、授業の内容に関連する時代の政治・文化について、世界史の要旨を把握しておく理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容について整理し、自分たちの意見・感想を合わせ小レポートとして提出する。レポートの記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。							
テキスト・教材	関連資料は、PDF（またはコピー）により配布する。							
参考書	①熊倉洋介、末永航 他「カラー版 西洋建築様式史」（美術出版社、2010 年） ②光井渉、太記祐一「カラー版 建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）							
評価の基準と方法	100 点満点のうち、平常点（毎回の授業のレポートと受講態度）が 60 点、中間・期末の 2 回のレポートが 40 点である。出席が 10 回未満の場合は、原則として単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	西欧の歴史・意匠に関する全ての授業、文化史・歴史							
その他	授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートを取り、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 授業のなかで説明した建築・都市に関連する内容について、具体的に世界遺産などを調べてさらに関心を深めていくことを勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	ランドスケープ論		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Landscape Architecture	授業区分	講義
科目責任者	大林 万里江	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大林 万里江	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	環境に対する関心の高まりにともない、建物の積極的な緑化計画も進められ、街の風景が少しずつ変化してきている。ランドスケープの基礎知識や具体的なデザイン手法を習得し、住宅や街並みのランドスケープを通して、今後どのように環境に対してアプローチしていくべきかを考察する。また、授業では演習課題やグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	ランドスケープの歴史や主要作品のデザイン手法の学習を通じて、建築、街並みといった私たちを取り巻く環境を多面的に考察できる能力を身につける。また、ランドスケープの作図の基礎を学習し、周囲の環境との関係を読み解きながら、ランドスケープ空間を創造する技術を習得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスの内容を確認する  授業：ガイダンス（ランドスケープとはなにか）  復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】  予習：ランドスケープの歴史に関する資料を調べる  授業：ランドスケープデザインの歴史①  復習：配布資料を再読し、ランドスケープの歴史について復習する</p> <p>【第3回】  予習：ランドスケープの歴史に関する資料を調べる  授業：ランドスケープデザインの歴史②  復習：配布資料を再読し、ランドスケープの歴史について復習する</p> <p>【第4回】  予習：庭に関する資料を調べる  授業：庭とはなにか  復習：配布資料を再読し、庭について復習する</p> <p>【第5回】  予習：住空間のランドスケープに関する資料を調べる  授業：住空間のランドスケープ  復習：配布資料を再読し、住空間のランドスケープについて復習する</p> <p>【第6回】  予習：都市空間のランドスケープに関する資料を調べる  授業：都市空間のランドスケープ  復習：配布資料を再読し、都市空間のランドスケープについて復習する</p> <p>【第7回】  予習：緑化された建物の事例を調べる  授業：建物の緑化計画  復習：配布資料を再読し、建物の緑化について復習する</p> <p>【第8回】  予習：ランドスケープ事例の資料を収集する  授業：ランドスケープの事例研究①（演習課題1）  復習：事例研究資料をまとめる</p> <p>【第9回】  予習：ランドスケープ事例の資料を収集する  授業：ランドスケープの事例研究②（演習課題2）  復習：事例研究資料をまとめる</p> <p>【第10回】  予習：ランドスケープ事例研究の発表準備をする  授業：ランドスケープの事例研究の発表（グループ発表）  復習：講評内容を記録し、自己評価も行う</p> <p>【第11回】  予習：最近のランドスケープに関する資料を調べる  授業：これからのランドスケープ  復習：配布資料を再読し、最近のランドスケープの事例について復習する</p> <p>【第12回】  予習：住宅のランドスケープ事例を調べる  授業：住宅のランドスケープを考える（演習課題3）  復習：課題内容を整理・検討する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : エスキスのための準備をする 授業 : エスキス (演習課題 4) 復習 : エスキスで指摘された箇所について改善する 【第 14 回】 予習 : エスキスのための準備をする 授業 : エスキス (演習課題 5) 復習 : エスキスで指摘された箇所について改善する 【第 15 回】 予習 : 課題を完成させ、発表準備をする 授業 : 課題の提出・講評 (グループ発表) 復習 : 講評内容をもとに自己評価を行う								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	事例研究は、9 回目の授業終了時に提出。1 0 回目で全体の発表を行い、質疑回答などを行う。設計課題は、1 4 回目の授業終了後に提出。15 回目で全体の発表を行い、質疑回答を行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配布する。							
参考書	適宜、推薦図書・参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事例研究、課題等の提出物と授業参加度を総合して評価する。 配点 (1 0 0 点満点) は、提出物 6 0 点、授業参加度 4 0 点とする。 出席回数が授業回数 3 分の 2 未満の場合は、単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他	課題制作には、色鉛筆などの道具が必要になる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築環境設備		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Environmental Equipment	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 梓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 梓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「健康」で「快適な」室内環境を形成するために必要な「建築設備」について理論やシステムの基礎知識を修得する。前半では空気調和設備・換気設備を、後半では給排水・衛生設備・その他の設備について解説する。特に、省エネルギー・省資源、建築デザインとの関連を理解することを目標とし、建築設備全般に関する基礎的な知識の修得を目指す。		
到達目標	建築環境設備の基礎的な知識を修得し、快適な生活の実現の為に建築環境がどのように寄与しているの理解する。また、発展を続ける建築設備の今後の方向性と課題について考えていく姿勢を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：当該分野の書籍等を読み、専門用語に慣れておく。  授業：ガイダンス（建築環境設備について）  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第2回】  予習：どのような地域冷暖房計画が実際に運用されているか情報を収集しておく。  授業：建築設備の総合計画・地域設備計画  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第3回】  予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：空気調和設備(1) 空調計画・ゾーニング  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第4回】  予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：空気調和設備(2) 冷却原理とヒートポンプ  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第5回】  予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：空気調和設備(3) 空調機とファンコイル  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第6回】  予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：空気調和設備(4) ファン、ダクト、吹き出し口  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第7回】  予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：空気調和設備(5) 湿り空気と空気線図  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第8回】  予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：空気調和設備(6) 自然エネルギーの利用と省エネ  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第9回】  予習：換気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：換気設備 換気設備、フィルター、クリーンルーム  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第10回】  予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：給排水・衛生設備(1) 給水設備  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第11回】  予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：給排水・衛生設備(2) 給湯設備  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第12回】  予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。  授業：給排水・衛生設備(3) 衛生設備と水まわり  復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。          授業：給排水・衛生設備(4) 排水通気設備          復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。          【第14回】          予習：ガス設備や浄化槽等について、基礎知識をつけておく。          授業：その他の設備          復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。          【第15回】          予習：第1回～14回の授業内容について確認する。          授業：建築環境設備のまとめ          復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p>								
授業開始前学習	当該分野の書籍等には目を通しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内での解説を実施する。							
テキスト・教材	『「建築の設備」入門』新訂第二版（彰国社）。 また講義時に適宜資料を配布する。							
参考書	『建築設備入門』（オーム社）							
評価の基準と方法	小テスト 20%、レポート 50%、平常点（授業態度・理解度） 30%							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	環境工学		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Environmental Engineering	授業区分	講義
科目責任者	宮岡 大	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	宮岡 大	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人体周辺環境から室内環境、都市環境に至るまで一口に「建築環境」としても広い定義を持っている。その中で、建築の環境を作り出している諸要因について基礎的な知識と理解を深める。気候・温熱・空気・音環境などの物理環境要素を建築物へ取り込む技術手法を交えながら講義する。		
到達目標	建築の気候・光・温熱・空気・音環境などに関する基礎的な事項を修得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバス参照  授業：ガイダンス（建築環境工学について）  復習：ガイダンス配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第2回】  予習：気候と建築の関連用語の確認  授業：建築環境計画（1）気候と建築  復習：気候と建築に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第3回】  予習：都市・地球環境とヒートアイランド現象関連用語の確認  授業：建築環境計画（2）都市・地球環境とヒートアイランド現象  復習：都市・地球環境とヒートアイランド現象に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第4回】  予習：温熱環境の関連用語の確認  授業：温熱環境（1）温度と熱移動の基礎  復習：温度と熱移動の基礎に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第5回】  予習：温熱環境の関連用語の確認  授業：温熱環境（2）建築部位の伝熱特性  復習：建築部位の伝熱特性に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第6回】  予習：温熱環境の関連用語の確認  授業：温熱環境（3）人体の熱的快適性  復習：人体の熱的快適性に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第7回】  予習：湿気環境の関連用語の確認  授業：湿気環境 湿度・結露  復習：湿気環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第8回】  予習：空気環境の関連用語の確認  授業：空気環境（1）室内空気環境と換気計画  復習：室内空気環境と換気計画に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第9回】  予習：空気環境の関連用語の確認  授業：空気環境（2）自然通風・自然換気  復習：自然通風・自然換気に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第10回】  予習：日射 太陽エネルギーの関連用語の確認  授業：日射 太陽エネルギーと大気放射  復習：日射 太陽エネルギーと大気放射に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第11回】  予習：日影・日照に関する関連用語の確認  授業：日影・日照 太陽位置と日影曲線  復習：日影曲線の作成に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第12回】  予習：光環境の関連用語の確認  授業：光環境 昼光利用、照明  復習：昼光利用、照明に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第13回】</p>			

予習：色彩の関連用語の確認 授業：色彩 復習：色彩に関する配布資料の再読と課題提出の自習 【第 14 回】 予習：音環境の関連用語の確認 授業：音環境 音の性質と遮音・吸音 復習：音環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習 【第 15 回】 予習：全 1 5 回の関連用語の確認 授業：建築環境工学のまとめ 復習：まとめに関する配布資料の再読と課題提出の自習								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	小テスト・レポートについては、授業にて全体の講評を行い、コメントや質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。また講義時に適宜資料を配布する。							
参考書	「環境工学教科書」(彰国社) 「最新・建築環境工学」(井上書院)							
評価の基準と方法	確認テスト・小テスト・レポート 70%、授業態度・課題提出 30%で評価するが、学生の理解度を勘案し調整する。出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								



科目名称	建築材料		
科目分類	142-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Materials	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 10:40~12:10 後期 水曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10	研究室	1-210
授業概要	建築物は、材料の組み合わせによって構成されており、材料に関する知識は建築を学ぶ者にとって重要である。ただし、単に個々の材料の性質を知るだけでは不十分であり、なぜそこにその材料が使用されているのかを理解する必要がある。構造材料においては、主に材料の力学的性質について講義する。一方、屋根、壁、床といった部位構成材では、各部位に求められる機能・性能を知るとともに、そこに使用される材料の構成や基本的性質についても講義する。		
到達目標	建築物を構成する各材料を知識として習得し、設計時の適材適所を考えられるようになる。また、材料を選択するときに安全性・居住性・生産性・耐久性・環境性を考慮できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		

各回の授業内容と課題学習（予習・復習）

- 【第1回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：ガイダンス、鉄筋コンクリート構造に用いる材料 I  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第2回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：鉄筋コンクリート構造に用いる材料 II  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第3回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：鉄筋コンクリート構造に用いる材料 III  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第4回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：木構造に用いる材料 I  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第5回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：木構造に用いる材料 II  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第6回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：鋼構造に用いる材料  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第7回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：組積造に用いる材料、膜構造に用いる材料  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第8回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：屋根の機能と屋根材、防水材料  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第9回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：外壁の機能と各種外壁材  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第10回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：開口部の機能と建具、ガラス  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第11回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：床の機能と床材  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第12回】  
 予習：テキストを読む  
 授業：間仕切部位の機能と用いる材料  
 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
- 【第13回】

予習 : テキストを読む 授業 : 塗料、接着剤、シーリング材 復習 : テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。 【第 14 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 耐火・防火材料、断熱材料、吸音・遮音材料 復習 : テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。 【第 15 回】 予習 : テキスト全体を通読しておく。また講義にも持参すること。 授業 : 建築材料と環境 復習 : 講義全体を通して、疑問や理解不足が無いようにする。								
授業開始前学習	事前に教科書を一読しておくことを勧める。							
授業内課題の フィードバックの方法	小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。 レポートは、後日返却し解説する。							
テキスト・教材	建築材料新テキスト（彰国社）							
参考書	構造用教材（日本建築学会）							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストとミニットペーパー、レポートで評価を行う。配点は、定期試験 30%、小テスト 20%、ミニットペーパー30%、レポート 20%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目	建築構造Ⅰ、建築構造Ⅱ、建築生産							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築物を構成する材料の基本的性質や特徴などを講義する。							

科目名称	建築生産		
科目分類	142-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Production of Architecture	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	経済的、社会的、技術的な観点から建築物の企画・設計・施工・運用管理・最終処分を包括した建築生産及びそのプロセスについて講述する。建築生産のしくみと発注者と受注者との係りを学び、一連の施工技術と施工管理マネジメント技術を取得する。		
到達目標	1.建築生産プロセスと施工の流れについて理解する。 2.一般的な建築物の躯体および各部の構法原理を理解する。 3.建築現場における施工方法とその管理方法について理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス確認 授業：建築生産の概要 復習：建築生産の内容および流れ</p> <p>【第2回】 予習：テキストを読む 授業：我が国の建築生産の現状 経済活動と建築生産 復習：建築生産における施工の位置づけ</p> <p>【第3回】 予習：テキストを読む 授業：建築プロジェクトに関わる産業構造 復習：住宅の生産方式</p> <p>【第4回】 予習：テキストを読む 授業：建築プロジェクトの経済評価と企画 復習：一般建設業の分業体制</p> <p>【第5回】 予習：テキストを読む 授業：発注と契約 復習：請負方式の特徴 工事契約の方法</p> <p>【第6回】 予習：テキストを読む 授業：建築設計業務と設計監理業務の内容 復習：基本設計、実施設計、工事監理業務の内容</p> <p>【第7回】 予習：テキストを読む 授業：建築工事のコスト管理手法（配布資料） 復習：建築工事原価と実行予算</p> <p>【第8回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理1 基礎工事 復習：基礎の種類と特徴、施工法</p> <p>【第9回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理2 躯体工事（木造） 復習：在来軸組構法及び枠組壁工法の特徴と施工法</p> <p>【第10回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理3 躯体工事（RC造） 復習：鉄筋、型枠、コンクリート工事の品質管理方法</p> <p>【第11回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理4 躯体工事（S造） 復習：鋼材の種類 建方方法 接合方法</p> <p>【第12回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理5 仕上げ工事（外装工事） 復習：外装工事の構・工法と必要性能</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 6 仕上げ工事 (内装工事・木工事) 復習 : 壁、床、天井の下地及び仕上げの特徴 【第 14 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 7 設備工事 復習 : 電気、衛生、空調、エレベーター工事の特徴 【第 15 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築のライフサイクルと維持保全 復習 : コンバージョン、リノベーションの内容 所有価値から利用価値へ								
授業開始前学習	街中の建築工事現場で見られる建物の骨組や自宅や学校など身近な建物の内外装仕上げを、日頃から意識して見るようにし、その機能や施工方法について考えるようにすると、授業に興味を持って取り組むことができる。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	改訂版図説やさしい建築施工 (学芸出版社)							
参考書	構造用教材 (日本建築学会)							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストとミニットペーパーで評価を行う。配点は、定期試験 40%、小テスト 30%、ミニットペーパー 30%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目	建築の意匠、構造、設備、法規といった、建築に関する多くの要素が関連することから、日頃より建築に関する基礎的な内容について、広く理解していることが必要である。							
その他	住宅を含めた建築を生産するしくみを、各産業と生活を結びつけるデザインという観点から概説することで、建築と社会との関わりを多角的かつ詳細に解説する講義であるため、新聞、関連雑誌等の up-to-date な話題にも積極的に興味を示してもらいたい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築生産のしくみと施工方法などを講義する。							

科目名称	☆建築法規／建築法規 I		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Building Regulation I	授業区分	講義
科目責任者	加藤 陽介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 陽介	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	住宅やビルを建築するには建築基準法等の各種の法規に適合しなければならない、そして、これらの法規制に適合していることを確認することが建築確認制度である。建築法規 I では、この建築確認制度を含む「制度および手続き」から勉強を始め、次に、個々の建築物に係る規定（単体規定）について講義と演習で学ぶ。		
到達目標	建築基準法で用いる用語を覚え、単体規定の概要を理解する。建築物が、単体規定に適合しているかどうかの確認ができるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：建築基準法の必要性について考察する  授業：講義概要  復習：地域における建築基準法の意義について考察する</p> <p>【第 2 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：建築基準法の概要（テキスト10頁～23頁）  復習：建築基準法設立の過程を確認する</p> <p>【第 3 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：建築確認制度（テキスト158頁～168頁）  復習：確認申請等の法手続きを確認する</p> <p>【第 4 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：用語の定義 その1（テキスト24頁～29頁）  復習：建築基準法用語を確認する</p> <p>【第 5 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：用語の定義 その2（テキスト24頁～29頁）  復習：建築基準法用語を確認する</p> <p>【第 6 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：面積・高さ・階数の算定（テキスト29頁～36頁）  復習：容積率等の計算方法を確認する</p> <p>【第 7 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：一般構造：採光、換気（テキスト38頁～44頁）  復習：採光計算を確認する</p> <p>【第 8 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：一般構造：階段、廊下等（テキスト45頁～52頁）  復習：廊下幅等の最低条件を確認する</p> <p>【第 9 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：構造強度 1（テキスト56頁～84頁）  復習：構造計算のプロセスを確認する</p> <p>【第 10 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：構造強度 2（テキスト56頁～84頁）  復習：構造計算手法を確認する</p> <p>【第 11 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：構造強度 演習  復習：演習における疑問点を整理する</p> <p>【第 12 回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：防火と避難 1（テキスト85頁～108頁）  復習：建物の災害時の安全性について考察する</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 防火と避難 2 (テキスト85頁～108頁) 復習 : 防火・避難既定のあらましを確認する 【第14回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 建築設備についての規定 (テキスト52頁～54頁) 復習 : 建築設備の概要を確認する 【第15回】 予習 : 演習等で理解できなかった点を整理する 授業 : 前期のまとめ 復習 : 単体既定の概要の確認をする									
授業開始前学習	前回の講義の復習を行い、問題点の整理をするとともに、講義予定個所のテキストを熟読する。								
授業内課題の フィードバックの方法	疑問点の整理を行い、何が分からないのかを明確にし、質疑などを行い問題の解決を図る。								
テキスト・教材	初回授業で指示する。								
参考書									
評価の基準と方法	ミニテスト 50%、レポート・演習問題等 40%、授業態度 10%で評価する。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○			
関連科目									
その他	演習に電卓を必要とする。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	建築法規Ⅱ		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Building Regulation II	授業区分	講義
科目責任者	加藤 陽介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 陽介	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	建築基準法の第3章「都市計画区域等における建築物の敷地、構造、建築設備及び用途」は、一般に集団規定と呼ばれ、道路と建築物、道路と敷地、用途地域制、形態制限、建ぺい率、容積率、各種高さ制限、防火地域制、優良な市街地環境の整備のための各種制度などが規定されている。建築法規Ⅱでは、この集団規定を講義と演習で学び、最後に建築確認申請書の作成を通じて、建築法規を使うことを学ぶ。関連の法規として、この頃重要視されている品確法を主に学ぶ。		
到達目標	建築基準法集団規定の概要を理解し、都市における集団規定の果たす役割を把握する。また、単体規定、集団規定の双方を理解し、建築基準法に適合した建築物の確認ができるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：単体規定の復習を行う  授業：講義概要、集団規定の概要  復習：集団規定と、単体規定の違いを認識する</p> <p>【第2回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：都市計画法と集団規定（テキスト110頁～113頁）  復習：都市計画法の概要を確認し、建築基準法における位置づけを考察する</p> <p>【第3回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：道路と敷地・建築物（テキスト120頁～123頁）  復習：道路と、建築物の関係を整理する</p> <p>【第4回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：用途地域制の目的と種類（テキスト114頁～117頁）  復習：用途地域と建物の関係を整理する</p> <p>【第5回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：建ぺい率制限（テキスト124頁～126頁）  復習：建ぺい率制度の目的を確認する</p> <p>【第6回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：容積率制限（テキスト126頁～130頁）  復習：容積率と、街並みの確認をする</p> <p>【第7回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：建ぺい率、容積率の演習  復習：演習時の疑問点を整理する</p> <p>【第8回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：道路斜線制限と絶対高さ制限、隣地斜線制限（テキスト131頁～138頁）  復習：斜線制限と街並みの確認をする</p> <p>【第9回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：北側斜線制限，日影による高さ制限（テキスト139頁～146頁）  復習：日影規制等の目的を確認する</p> <p>【第10回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：確認申請書作成演習  復習：演習時の疑問点を整理する</p> <p>【第11回】  予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む  授業：工事中の手続き等・その他の法規：建築士法他（テキスト169頁～193頁）  復習：建築基準法関連規定のあらましを確認する</p> <p>【第12回】  予習：品確法の目的について考察する  授業：その他の法規：品確法 1（配布プリント）  復習：品確法の目的を確認する</p> <p>【第13回】</p>			



予習 : 品確法の役割について考察する 授業 : その他の法規 : 品確法 2 (配布プリント) 復習 : 品確法の概要を確認する 【第 14 回】 予習 : ストック社会における品確法の果たすべき目標を考察する 授業 : その他の法規 : 住宅瑕疵担保履行法他 (配布プリント) 復習 : 瑕疵担保責任の必要性について確認する 【第 15 回】 予習 : 集団規定とは何かを確認する 授業 : 後期のまとめ 復習 : 集団規定、単体規定の果たす役割を確認する								
授業開始前学習	前回の講義の復習を行い、問題点の整理をするとともに、講義予定個所のテキストを熟読する。							
授業内課題の フィードバックの方法	疑問点の整理を行い、何が分からないのかを明確にし、質疑などを行い問題の解決を図る。							
テキスト・教材	初回授業で指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	ミニテスト 50%、レポート・演習問題等 40%、授業態度 10% で評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他	演習に電卓を必要とする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	インテリアデザインスタジオ I		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李 志炯	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50	研究室	1-207
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
【第3回】 予習：課題1 参考事例調査・収集 授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理			
【第4回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理			
【第5回】 予習：課題1 中間発表準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評内容の整理			
【第6回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開			
【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業			
【第8回】 予習：課題1 最終発表準備 授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 最終講評内容の整理			
【第9回】 予習：課題2 参考事例調査・収集 授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理			
【第10回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題2 エスキス内容の整理・計画			
【第11回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題2 エスキス内容の展開			
【第12回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス③ 制作（実習） 復習：課題2 エスキス内容を受けた制作			
【第13回】			

予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	8月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオ I		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00~12:00 後期 水曜日 09:00~12:00	研究室	1-204
授業概要	木を使った小物の企画、デザイン、制作、展示、販売までを経験する課題解決型学修。 環境問題を意識しながら木の未利用材や廃材の利活用について研究し、アップサイクルによる小物のデザインと制作、りんどう祭で展示・販売を行う。 その際の展示やサインまでデザインする。 また、夏休みに毎週ワークショップを行い、学外で学びの専門性を生かしたボランティアや地域貢献活動も予定。 さらに就職活動に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	三年スタジオの活動を通して、4 年次のスタジオ研究または卒業研究へ向けて専門性を身に付け、制作技術のスキルアップとプレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第 1 回 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習：授業計画内容の確認</p> <p>第 2 回 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ(※他スタジオと合同授業) 復習：社会人基礎力を学ぶ 授業内容の見直し</p> <p>第 3 回 予習：材料スギ、ヒノキ、マツについての予習 授業：材料研究－針葉樹（スギ、ヒノキ、マツ） 復習：授業内容の確認</p> <p>第 4 回 予習：デザインスケッチをしておく 授業：制作のためのデザインスケッチエスキス 復習：エスキスの整理</p> <p>第 5 回 予習：デザインプレゼンテーションの準備 授業：デザインプレゼンテーション 復習：発表における反省点の整理、制作の準備</p> <p>第 6 回 予習：制作の準備 授業：制作 1 復習：その日の作業の反省と問題点の整理</p> <p>第 7 回 予習：問題点に対する解決のための準備 授業：制作 2 復習：その日の作業の反省と問題点の整理</p> <p>第 8 回 予習：問題点に対する解決のための準備 授業：制作 3 復習：課題 1 最終講評内容の整理</p> <p>第 9 回 予習：問題点に対する解決のための準備 授業：制作 4 復習：その日の作業の反省と問題点の整理</p> <p>第 10 回 予習：問題点に対する解決のための準備 授業：制作 5 復習：その日の作業の反省と問題点の整理</p> <p>第 11 回 予習：問題点の整理と解決のための準備 授業：制作 6 復習：その日の作業の反省と問題点の整理</p> <p>第 12 回 予習：問題点の整理と解決のための準備 授業：制作 7</p>			

復習：その日の作業の反省と問題点の整理 第13回 予習：問題点の整理と解決のための準備 授業：制作8 復習：その日の作業の反省と問題点の整理 【第14回】 予習：問題点の整理と解決のための準備 授業：制作9 復習：その日の作業の反省と問題点の整理、プレゼンテーションの準備 【第15回】 予習：プレゼンテーションの準備 授業：プレゼンテーション 復習：その日の作業の反省と問題点の整理、夏のワークショップに向けての準備								
授業開始前学習	制作する小物についてのアイデア提案や、使う樹種について調べておく。アップサイクルについて調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法	デザインスケッチや試作の段階で行う講評や指導、また最終日のプレゼンテーションやレポートにより問題点の振り返りを行う。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	提出物、授業への積極性などにより総合的に評価。評価は成果物 50%、レポート 30%、受講態度 20%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「家具デザイン III」 特に、「家具デザイン I」は履修済（必須）、「加工・材料学」は履修済又は同時履修（必須）であること。							
その他	学外でボランティアや地域貢献活動を行う予定。その際に掛かる費用は自己負担とする。 その他、学外での見学レポート課題がある。その際の交通費等の経費は自己負担となる。 「家具デザイン I」の履修済であること、及び「加工・材料学」を履修済、又は同時履修のこと。 「家具デザイン II」を履修中であることを強く推奨。 夏休みに週一で制作ワークショップを行うので参加すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術の学びを経験することができる。							

科目名称	インテリアデザインスタジオ I		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30	研究室	1-201
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題1 課題説明 復習：授業計画内容の確認</p> <p>【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し</p> <p>【第3回】 予習：課題1 参考事例調査・収集 授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第4回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理</p> <p>【第5回】 予習：課題1 中間発表準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評内容の整理</p> <p>【第6回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業</p> <p>【第8回】 予習：課題1 最終発表準備 授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 最終講評内容の整理</p> <p>【第9回】 予習：課題2 参考事例調査・収集 授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第10回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題2 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第11回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題2 エスキス内容の展開</p> <p>【第12回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス③ 制作（実習） 復習：課題2 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第13回】</p>			

予習：課題2 最終発表準備 授業：課題2 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習：課題3 学科作品展 計画準備 授業：課題3 学科作品展 計画説明、作業（グループワーク） 復習：課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習：課題3 学科作品展 準備作業 授業：課題3 学科作品展 実施（プレゼンテーション） 復習：課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	8月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							



科目名称	インテリアデザインスタジオ I		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
【第3回】 予習：課題1 参考事例調査・収集 授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理			
【第4回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理			
【第5回】 予習：課題1 中間発表準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評内容の整理			
【第6回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開			
【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業			
【第8回】 予習：課題1 最終発表準備 授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 最終講評内容の整理			
【第9回】 予習：課題2 参考事例調査・収集 授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理			
【第10回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題2 エスキス内容の整理・計画			
【第11回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題2 エスキス内容の展開			
【第12回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス③ 制作（実習） 復習：課題2 エスキス内容を受けた制作			
【第13回】			

予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	8月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオ I		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-202
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
【第3回】 予習：課題1 参考事例調査・収集 授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理			
【第4回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理			
【第5回】 予習：課題1 中間発表準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評内容の整理			
【第6回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開			
【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業			
【第8回】 予習：課題1 最終発表準備 授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 最終講評内容の整理			
【第9回】 予習：課題2 参考事例調査・収集 授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理			
【第10回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題2 エスキス内容の整理・計画			
【第11回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題2 エスキス内容の展開			
【第12回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス③ 制作（実習） 復習：課題2 エスキス内容を受けた制作			
【第13回】			

予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	8月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオ I		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00~16:00 後期 水曜日 09:30~10:30 水曜日 12:30~14:30	研究室	2-201
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業準備  授業：ガイダンス 課題1 課題説明  復習：授業計画内容の確認</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し</p> <p>【第3回】  予習：課題1 参考事例調査・収集  授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表）  復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第4回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 中間発表準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評内容の整理</p> <p>【第6回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業</p> <p>【第8回】  予習：課題1 最終発表準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評内容の整理</p> <p>【第9回】  予習：課題2 参考事例調査・収集  授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表）  復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第10回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス① 計画（実習）  復習：課題2 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第11回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス② 展開（実習）  復習：課題2 エスキス内容の展開</p> <p>【第12回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス③ 制作（実習）  復習：課題2 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	8月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李 志炯	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50	研究室	1-207
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：学外実習報告会 事前準備  授業：学外実習報告会  復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】  予習：課題1 課題準備  授業：課題1 課題説明、作業内容の検討  復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】  予習：課題1 事例調査・収集作業  授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表）  復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】  予習：社会人応用力を学ぶ 準備  授業：社会人応用力を学ぶ  復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】  予習：課題1 中間発表 準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】  予習：社会人実践力を学ぶ 準備  授業：社会人実践力を学ぶ  復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第13回】</p>			



予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作 【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理 【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題の フィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	前期インテリアデザインスタジオ I-b に引き続き、自分自身の研究テーマについての学びを深めていく。		
到達目標	インテリアデザインスタジオ I-b に引き続き、各自選択したテーマの研究・考察を進める。 また、プレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオ研究または卒業研究へ向けて、選択したテーマへの知識を深め、制作する技術力や実践力を高めることを目的とする。 さらに就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：学外実習報告会のための事前準備  授業：学外実習報告会（※他スタジオと合同授業）  復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第 2 回】  予習：社会人基礎力を学ぶための準備  授業：社会人基礎力を学ぶ（※他スタジオと合同授業）  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第 3 回】  予習：りんどう祭の展示方法を考える  授業：りんどう祭の展示方法の検討  復習：展示方法を整理しておくこと</p> <p>【第 4 回】  予習：りんどう祭の展示の準備の内容確認  授業：りんどう祭の展示の準備  復習：展示の問題点の整理、確認</p> <p>【第 5 回】  予習：りんどう祭の展示の準備  授業：りんどう祭の展示本番  復習：展示の問題点の整理、対応</p> <p>【第 6 回】  予習：社会人応用力を学ぶための準備  授業：社会人応用力を学ぶ（※他スタジオと合同授業）  復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第 7 回】  予習：りんどう祭での問題点を考える  授業：りんどう祭の展示の振り返り  復習：問題点の整理と反省をレポートする</p> <p>【第 8 回】  予習：4 年次に向けての研究テーマの検討  授業：スタジオ研究テーマを考える 1  復習：問題点の整理</p> <p>【第 9 回】  予習：4 年次に向けての研究テーマの検討  授業：スタジオ研究テーマを考える 2  復習：問題点の整理</p> <p>【第 10 回】  予習：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備  授業：研究テーマに沿った制作 1  復習：問題点の整理</p> <p>【第 11 回】  予習：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備  授業：研究テーマに沿った制作 2  復習：問題点の整理</p> <p>【第 12 回】  予習：社会人実践力を学ぶ 準備  授業：社会人実践力を学ぶ（※他スタジオと合同授業）  復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p>			

復習：問題点の整理 【第13回】 予習：4年次に向けての研究テーマのための制作準備 授業：研究テーマに沿った制作3 復習：問題点の整理 【第14回】 予習：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業：卒業研究発表会見学（※他スタジオと合同授業） 復習：卒業研究発表会見学レポート作成 【第15回】 予習：講評会の準備 授業：講評会 復習：講評会の講評を受けて次年度の研究テーマに反映させる								
授業開始前学習	自分が研究したいテーマの検討や事前調査。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業内においてスケッチや制作に対して行う講評、また最終講評会や提出レポートにより問題点の振り返りを行う。							
テキスト・教材	各自の研究テーマに合わせて資料・プリント等を適宜配布。							
参考書	各自の研究テーマに合わせて適宜提案や情報の提供。							
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより総合的に評価する。 評価は課題の提出物 70%、研究に対する積極性や受講態度など 30%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「家具デザイン III」「インテリアデザインスタジオ I-b」特に、「加工・材料学」と「家具デザイン I」は履修済であること。							
その他	学外でボランティアや地域貢献活動を行う予定。その際に掛かる費用は自己負担とする。その他、課題において学外での見学会レポート課題があるが、交通費等のかかる経費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際の木を使ったものづくりや加工技術の学びなどを体験することができる。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30	研究室	1-201
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：学外実習報告会 事前準備  授業：学外実習報告会  復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】  予習：課題1 課題準備  授業：課題1 課題説明、作業内容の検討  復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】  予習：課題1 事例調査・収集作業  授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表）  復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】  予習：社会人応用力を学ぶ 準備  授業：社会人応用力を学ぶ  復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】  予習：課題1 中間発表 準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】  予習：社会人実践力を学ぶ 準備  授業：社会人実践力を学ぶ  復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作 【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理 【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題の フィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：学外実習報告会 事前準備 授業：学外実習報告会 復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】 予習：課題1 課題準備 授業：課題1 課題説明、作業内容の検討 復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】 予習：課題1 事例調査・収集作業 授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】 予習：社会人応用力を学ぶ 準備 授業：社会人応用力を学ぶ 復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】 予習：課題1 中間発表 準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作 【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理 【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題の フィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							



科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-202
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：学外実習報告会 事前準備  授業：学外実習報告会  復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】  予習：課題1 課題準備  授業：課題1 課題説明、作業内容の検討  復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】  予習：課題1 事例調査・収集作業  授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表）  復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】  予習：社会人応用力を学ぶ 準備  授業：社会人応用力を学ぶ  復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】  予習：課題1 中間発表 準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】  予習：社会人実践力を学ぶ 準備  授業：社会人実践力を学ぶ  復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作 【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理 【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題の フィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ		
科目分類	141-320-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 水曜日 09:30～10:30 水曜日 12:30～14:30	研究室	2-201
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習：学外実習報告会 事前準備  授業：学外実習報告会  復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】  予習：課題1 課題準備  授業：課題1 課題説明、作業内容の検討  復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】  予習：課題1 事例調査・収集作業  授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表）  復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】  予習：社会人応用力を学ぶ 準備  授業：社会人応用力を学ぶ  復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】  予習：課題1 中間発表 準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】  予習：社会人実践力を学ぶ 準備  授業：社会人実践力を学ぶ  復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作 【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理 【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理								
授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題の フィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ		
科目分類	141-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	我々の生活を取り巻く空間やモノについて、環境問題を踏まえながら持続可能な社会実現のためのデザインを考え、それぞれの視点でテーマを設定し研究する。 毎回各自の研究について進行状況を報告し、お互いに意見交換することで、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力も養う。 また、ゼミの共通テーマである「国産材の林地残材や未利用材の利活用」を実践的に考えるために学外でワークショップを行う予定。 課題解決型学修。		
到達目標	人間の経済活動が及ぼす地球環境や身近な自然環境への影響を理解し、持続可能な社会実現のためのデザインの可能性を探るちからを身に付けることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：各自の研究テーマを考えておく。 授業：ゼミについてのオリエンテーション、及び研究テーマ発表 復習：指導に沿ってテーマの修正</p> <p>【第2回】 予習：テーマに沿って調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導1 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第3回】 予習：テーマに沿って調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導2 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第4回】 予習：テーマに沿って調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導3 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第5回】 予習：テーマに沿って調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導4 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第6回】 予習：テーマに沿って調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導5 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第7回】 予習：中間発表の準備 授業：研究成果中間発表1（プレゼンテーション1） 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第8回】 予習：中間発表の準備 授業：研究成果中間発表2（プレゼンテーション2） 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第9回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導6 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第10回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導7 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第11回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導8 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正</p> <p>【第12回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める</p>			

授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導 9 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正 【第 13 回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導 10 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正 【第 14 回】 予習：成果発表に向けての準備 授業：研究成果発表 1 (プレゼンテーション 1) 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正 【第 15 回】 予習：成果発表に向けて準備 授業：研究成果発表 2 (プレゼンテーション 2) 復習：前期を振り返り成果をレポートにまとめ、夏休みと後期に向けて研究の進め方を確認								
授業開始前学習	自分の研究テーマに沿った関連図書や資料やデータを収集しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	各自の研究テーマに沿った毎回の指導と、レポート提出やスタジオ内でのプレゼンテーションによるそれぞれの問題点や改善点を指摘、指導する。							
テキスト・教材	各自のテーマに合わせ適宜指示、提供							
参考書	各自のテーマに合わせ適宜指示、提供							
評価の基準と方法	研究への取り組み態度 30%、研究成果 70%で評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「インテリアデザインスタジオ I-b」「インテリアデザインスタジオ II-b」特に「加工・材料学」と「家具デザイン I」は履修済（必須）であること。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外で見学会やワークショップなどを行う場合があるが、その際に掛かる交通費などの経費は自己負担とする。</li> <li>・各自のテーマに沿った研究に必要な経費は、自己負担とする。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術を学ぶことができる。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ		
科目分類	141-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30	研究室	1-201
授業概要	各自の関心や興味あるテーマを調査、考察し、提案や成果物を作成し発表する。卒業研究に結びつくテーマを探す。これまでの学科における学びを踏まえ、自分に関心や興味のあるテーマを研究・考察する。授業ではディスカッションを含むエスキスやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	研究・考察等の成果のまとめ・発表等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：テーマ考慮 授業：ガイダンス 復習：ガイダンスを受け、各自のスケジュールを作成する</p> <p>【第2回】 予習：研究テーマを探求するための資料を探す 授業：研究テーマ討論1（ディスカッション） 復習：討論1を受け、さらに資料を探求する</p> <p>【第3回】 予習：研究テーマを探求するための資料を探す 授業：研究テーマ討論（ディスカッション） 復習：研究テーマ討論レビュー</p> <p>【第4回】 予習：研究テーマを探求するための資料を探す 授業：研究テーマを探求1（実習） 復習：研究テーマを探求するための資料を探す</p> <p>【第5回】 予習：研究テーマを探求するための資料を探す 授業：研究テーマを探求2（実習） 復習：ここまでの内容をまとめる</p> <p>【第6回】 予習：中間発表準備 授業：中間発表（発表・講評・ディスカッション） 復習：中間発表レビュー</p> <p>【第7回】 予習：詳細な調査研究の為の準備、及びスケジュール確認 授業：調査研究1（実習） 復習：調査研究1復習</p> <p>【第8回】 予習：調査研究2予習 授業：調査研究2（実習） 復習：調査研究2復習</p> <p>【第9回】 予習：調査研究3予習 授業：調査研究3（実習） 復習：調査研究3復習</p> <p>【第10回】 予習：プレゼンテーション準備 授業：プレゼンテーション（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーション復習</p> <p>【第11回】 予習：スタジオエスキス1予習 授業：スタジオエスキス1（実習・ディスカッション） 復習：スタジオエスキス1復習</p> <p>【第12回】 予習：スタジオエスキス2予習 授業：スタジオエスキス2（実習・ディスカッション） 復習：スタジオエスキス2復習</p> <p>【第13回】</p>			



予習 : スタジオエスキス 3 予習 授業 : スタジオエスキス 3 (実習・ディスカッション) 復習 : スタジオエスキス 3 復習 【第 14 回】 予習 : パネル制作準備 授業 : パネル制作 (実習) 復習 : 発表準備 【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 発表 (発表・講評・ディスカッション) 復習 : 発表レビュー									
授業開始前学習	CAD 技術の復習。 興味のある分野の参考事例を調べておく。								
授業内課題の フィードバックの方法	質問には可能な限り都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。								
テキスト・教材	必要に応じて、配布または指示する								
参考書	必要に応じて、紹介する								
評価の基準と方法	研究課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当				○	○		○	◎	
関連科目	インテリアデザインスタジオ CIV								
その他	調査、見学会参加などの交通費、入場料、制作物の材料費などは自己負担となる。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)								
実務経験を活かした 教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。								

科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ		
科目分類	141-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	インテリア空間スタジオの集大成として、住空間・商業空間のインテリア空間の研究をおこなう。 テーマ・研究手法・計画・表現手法～最終成果まで、スタジオ内でリサーチ・検討をして進める。 授業では、演習課題や課題発表などのワークを行う。		
到達目標	前期では、テーマ・研究手法・計画・表現手法を決定し、リサーチや研究の基礎作りを終えることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】 予習：研究テーマ 事前調査 授業：研究テーマを探す（演習課題1） 復習：研究テーマ 資料収集</p> <p>【第3回】 予習：研究テーマ 資料収集 授業：研究テーマの議論 復習：研究テーマ議論内容整理</p> <p>【第4回】 予習：研究テーマ 資料分析 授業：研究テーマの決定に向けての資料作り 復習：研究テーマ 報告資料作成</p> <p>【第5回】 予習：中間発表準備 授業：中間発表（課題発表1） 復習：中間発表のまとめ、資料整理</p> <p>【第6回】 予習：調査研究&amp;手法 事前調査 授業：調査研究&amp;手法の検討&amp;エスキス（演習課題2） 復習：調査研究&amp;手法の検討&amp;エスキスのまとめ</p> <p>【第7回】 予習：調査研究&amp;手法 資料収集 授業：調査研究&amp;手法 資料内容発表&amp;エスキス（課題発表2） 復習：調査研究&amp;手法 発表内容&amp;エスキスの整理</p> <p>【第8回】 予習：現場調査の事前準備 授業：現場調査作業①～撮影・動向調査（演習課題3） 復習：現場調査作業①のまとめ</p> <p>【第9回】 予習：現場調査作業②の事前準備 授業：現場調査作業②～測量（演習課題4） 復習：現場調査作業②のまとめ</p> <p>【第10回】 予習：現場調査作業③の事前準備 授業：現場調査作業③～ヒヤリング（演習課題5） 復習：現場調査作業③のまとめ</p> <p>【第11回】 予習：現場調査作業④の事前準備 授業：現場調査作業④～図面化（演習課題6） 復習：現場調査作業④のまとめ</p> <p>【第12回】 予習：現場調査作業⑤の事前準備 授業：現場調査作業⑤～図面化2（演習課題7） 復習：現場調査作業⑤のまとめ</p> <p>【第13回】</p>			

予習：現場調査作業スタジオ内報告準備 授業：現場調査作業スタジオ内報告 & 講評（課題発表3） 復習：講評けたの現場調査作業報告資料再整理 【第14回】 予習：ダイアグラムの事前検討 授業：ダイアグラムの検討作業&エスキス 復習：ダイアグラムのまとめ作業 【第15回】 予習：授業全体の振り返り、整理 授業：後期計画検討 復習：資料整理、まとめ									
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なインテリア空間を出来るだけ見るように。デザインには経験のストックが重要。								
授業内課題のフィードバックの方法	授業内および前後で、個別エスキスを繰り返し実施。								
テキスト・教材	授業内で、適宜推薦・紹介をする。								
参考書	授業内で、適宜推薦・紹介をする。								
評価の基準と方法	出席回数が授業の3分の2未満は単位取得できない。 配点は、演習課題70点、平常点（授業態度・課題提出・課題発表）30点とする。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当				○	○		○	◎	
関連科目									
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や各自のテーマに基づく関係各所への見学・ヒヤリング・現場調査が別途時間に発生する。</li> <li>・またその際の交通費ほか必要経費は各自負担となる。</li> </ul>								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。								

科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ		
科目分類	141-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-202
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。各自がテーマを探し、調査研究に基づいて、相手に伝わる表現方法を検討する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読み込む  授業：オリエンテーション  復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】  予習：研究テーマの検討  授業：テーマを検討する（ディスカッション）  復習：研究テーマの再検討</p> <p>【第3回】  予習：研究テーマに関する資料を収集  授業：資料に基づいてテーマを検討する（ディスカッション）  復習：不足する資料を収集する</p> <p>【第4回】  予習：研究テーマ発表準備  授業：研究テーマ発表（プレゼンテーション）  復習：研究テーマを決定する</p> <p>【第5回】  予習：文献検索を行い資料を収集する  授業：事例研究①（ディスカッション）  復習：不足する文献を収集する</p> <p>【第6回】  予習：事例を収集する  授業：事例研究②（ディスカッション）  復習：事例研究をまとめる</p> <p>【第7回】  予習：不足する事例を収集する  授業：事例研究③（ディスカッション）  復習：事例研究をまとめる</p> <p>【第8回】  予習：事例研究の発表準備  授業：事例研究の発表（プレゼンテーション）  復習：事例研究の確認と修正を行う</p> <p>【第9回】  予習：調査方法の検討  授業：調査および研究①（ディスカッション）  復習：調査方法を再検討する</p> <p>【第10回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究②（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第11回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究③（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第12回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究④（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表 (プレゼンテーション) 復習 : 研究の確認と修正を行う 【第 14 回】 予習 : プレゼンテーション資料の準備 授業 : 表現方法を検討する (ディスカッション) 復習 : プレゼンテーション資料を作成する 【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 発表とディスカッション (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 自己評価を行う								
授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。							
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他	調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ		
科目分類	141-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	前期科目「インテリアデザインスタジオ III-b」での研究成果をさらに深め最終的な成果へ向けてまとめを行う。特に制作の場合は、使用する素材についての特性や加工方法について研究を深めていく。課題解決型学修。		
到達目標	各自の研究テーマをさらに深め、最終成果にまとめることを目標とする。制作を前提とした技術の習得や加工方法に対する知識を身に付け、自身の制作スキルを高めることも目標の一つ。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	<p>予習：前期までの研究内容を確認しておく</p> <p>授業：オリエンテーション、個別に研究内容への個別指導 1</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第2回	<p>予習：テーマに沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 2</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第3回	<p>予習：テーマに沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 3</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第4回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 4</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第5回	<p>予習：中間発表の準備</p> <p>授業：中間発表その1（プレゼンテーション）</p> <p>復習：講評結果を受け、研究内容や方法などに反映させる。</p>		
第6回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 5</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第7回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 6</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第8回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 7</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第9回	<p>予習：中間発表のための準備</p> <p>授業：中間発表その2（プレゼンテーション）</p> <p>復習：講評や指導に従い、研究内容と方向性の再確認や修正</p>		
第10回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 8</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第11回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 9</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第12回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 10</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第13回	<p>予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める</p> <p>授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 11</p> <p>復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認</p>		
第14回	<p>予習：成果発表の準備 1</p> <p>授業：スタジオ内研究成果発表 1</p> <p>復習：発表内容の振り返り、問題点の修正。</p>		
第15回	<p>予習：成果発表の準備 2</p> <p>授業：学類合同の研究成果発表 2</p> <p>復習：自分の研究成果の振り返りレポート提出</p>		
授業開始前学習	自分の研究テーマに沿った関連図書や資料、データを収集する。		
授業内課題の	毎回の指導と各自の研究テーマに沿ったレポートへの評価、ゼミ内での発表における問題点や改善点の指摘、改善指導。		

フィードバックの方法								
テキスト・教材	各自のテーマに合わせ適宜指示。							
参考書	各自のテーマに合わせ適宜推薦、情報提供							
評価の基準と方法	研究への取り組み態度 30%、研究成果 70%で評価。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	インテリアデザインスタジオ III-b							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外での見学会やワークショップを行う場合、それにかかる経費は自己負担とする。</li> <li>・各自のテーマに沿った研究に必要な経費は、自己負担とする。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術を学ぶことができる。							



科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ		
科目分類	141-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30	研究室	1-201
授業概要	各自の関心や興味あるテーマを調査、考察し、提案や成果物を作成し発表する。インテリアデザイン CIII で行った卒業研究テーマ考察に基づきこれまでの学科における学びを踏まえ、さらなる研究・考察をディスカッションを含むエスキス実習で進め、プレゼンテーションを行う。		
到達目標	研究・考察等の成果のまとめ・発表等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：各自テーマの確認  授業：ガイダンス  復習：各自の概略スケジュール作成</p> <p>【第2回】  予習：テーマ研究1 予習 必要物の確認  授業：テーマ研究1 討論（ディスカッション）  復習：テーマ研究1 復習 討論を受けて、各自内容再確認</p> <p>【第3回】  予習：テーマ研究2 討論用資料準備  授業：テーマ研究2 討論（ディスカッション）  復習：テーマ研究1 復習 討論を受けて、各自内容再確認</p> <p>【第4回】  予習：テーマ研究3 予習 実習準備  授業：テーマ研究3 実習準備（実習）  復習：テーマ研究3 復習 実習準備 資料整理</p> <p>【第5回】  予習：テーマ研究4 予習 実習準備  授業：テーマ研究4 実習準備（実習）  復習：テーマ研究4 復習 実習準備</p> <p>【第6回】  予習：中間発表準備  授業：中間発表（発表・講評・ディスカッション）  復習：中間発表レビュー</p> <p>【第7回】  予習：スタジオエスキス1 準備  授業：スタジオエスキス1（実習）  復習：スタジオエスキス1 復習 制作スケジュール詳細作成</p> <p>【第8回】  予習：スタジオエスキス2 予習  授業：スタジオエスキス2（実習）  復習：スタジオエスキス2 復習 制作進展</p> <p>【第9回】  予習：スタジオエスキス3 予習  授業：スタジオエスキス3（実習）  復習：スタジオエスキス3 復習 制作進展</p> <p>【第10回】  予習：スタジオエスキス4 予習  授業：スタジオエスキス4（実習）  復習：スタジオエスキス4 復習 制作進展</p> <p>【第11回】  予習：スタジオエスキス5 予習  授業：スタジオエスキス5（実習）  復習：スタジオエスキス5 復習 制作進展</p> <p>【第12回】  予習：スタジオエスキス6 予習  授業：スタジオエスキス6（実習）  復習：スタジオエスキス6 復習 制作進展</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : スタジオエスキス 7 予習 まとめ準備 授業 : スタジオエスキス 7 まとめ(実習) 復習 : スタジオエスキス 7 復習 まとめ作業確認 【第 14 回】 予習 : スタジオエスキス 8 予習 提出準備 授業 : スタジオエスキス 8 提出準備(実習) 復習 : スタジオエスキス 8 復習 提出準備 【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 発表(プレゼンテーション・講評) 復習 : 発表レビュー								
授業開始前学習	研究テーマはリビングデザインセミC Iより継続的に、各自調査や考察しておく事							
授業内課題の フィードバックの方法	質問には可能な限り都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材	必要に応じて、配布または指示する							
参考書								
評価の基準と方法	研究課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	インテリアデザインスタジオ CIII							
その他	調査、見学会参加などの交通費、入場料、制作物の材料費などは自己負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ		
科目分類	141-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	インテリア空間スタジオの集大成として、住空間・商業空間のインテリア空間の研究をおこなう。 テーマ・研究手法・計画・表現手法～最終成果まで、スタジオ内でリサーチ・検討をして進める。 授業では、演習課題や課題発表などのワークを行う。		
到達目標	後期では、リサーチや研究を進め、最終成果物を完成させることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回]  予習：授業準備  授業：ガイダンス  復習：授業計画の確認  【第2回]  予習：ダイアグラム&amp;コンセプト 事前資料収集  授業：ダイアグラム&amp;コンセプト 検討作業&amp;エスキス（演習課題1）  復習：エスキスに基づいたダイアグラム&amp;コンセプト の整理  【第3回]  予習：ゾーニングの 事前検討  授業：ゾーニング 検討作業&amp;エスキス（演習課題2）  復習：エスキスに基づいたゾーニングの整理検討  【第4回]  予習：平面計画①の 事前検討  授業：平面計画① 検討作業&amp;エスキス（演習課題3）  復習：エスキスに基づいた平面計画①の整理検討  【第5回]  予習：平面計画②の 事前検討  授業：平面計画② 検討作業&amp;エスキス  復習：エスキスに基づいた平面計画②の整理検討  【第6回]  予習：中間発表 事前準備  授業：スタジオ内中間発表（課題発表1）  復習：発表内容の整理  【第7回]  予習：立・断面計画の事前検討  授業：立・断面計画 検討作業&amp;エスキス（演習課題4）  復習：エスキスに基づいた立・断面計画の整理検討  【第8回]  予習：立・断面計画の事前検討  授業：立・断面計画 検討作業&amp;エスキス  復習：エスキスに基づいた立・断面計画の整理検討  【第9回]  予習：3D 計画の事前検討  授業：3D 計画 検討作業&amp;エスキス（演習課題5）  復習：エスキスに基づいた3D 計画の整理検討  【第9回]  予習：素材計画の事前検討  授業：素材計画 検討作業&amp;エスキス（演習課題6）  復習：エスキスに基づいた素材計画の整理検討  【第11回]  予習：模型①の事前検討  授業：模型① 検討作業&amp;エスキス（演習課題7）  復習：エスキスに基づいた模型①の整理検討  【第12回]  予習：模型②の事前検討  授業：模型② 検討作業&amp;エスキス  復習：エスキスに基づいた模型②の整理検討  【第13回]</p>			

予習 : 研究・図面・模型の整理 授業 : 研究・図面・模型の資料化作業 & エスキス 復習 : エスキスに基づいた研究・図面・模型の資料化作業再検討 【第 14 回】 予習 : プレゼンテーション準備 授業 : プレゼンテーションスタジオ内予習 (課題発表 2) 復習 : プレゼンテーション内容の修正 【第 15 回】 予習 : 最終プレゼンテーション準備 授業 : 最終プレゼンテーション内容のエスキス・再修正 復習 : 最終プレゼンテーション まとめ								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なインテリア空間を出来るだけ見るように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内および前後で、個別エスキスを繰り返し実施。							
テキスト・教材	授業内にて、適宜推薦・紹介をする。							
参考書	授業内にて、適宜推薦・紹介をする。							
評価の基準と方法	出席回数が授業の 3 分の 2 未満は単位取得できない。 配点は、演習課題 70 点、平常点 (授業態度・課題提出・課題発表) 30 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や各自のテーマに基づく関係各所への見学・ヒヤリング・現場調査が別途時間に発生する。</li> <li>・またその際の交通費ほか必要経費は各自負担となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ		
科目分類	141-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Studio Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-202
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。前期に決定したテーマと表現方法を踏まえて、調査研究を進めプレゼンテーションを実施する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読み込む  授業：オリエンテーション  復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】  予習：研究テーマの文献を調べる  授業：テーマを再検討する（ディスカッション）  復習：研究テーマの最終決定</p> <p>【第3回】  予習：研究テーマに関する文献資料を収集  授業：調査および研究①（ディスカッション）  復習：調査方法を再検討する</p> <p>【第4回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究②（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第5回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究③（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第6回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究④（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第7回】  予習：研究発表の準備  授業：研究発表①（プレゼンテーション）  復習：研究の確認と修正を行う</p> <p>【第8回】  予習：研究発表の準備  授業：研究発表②（プレゼンテーション）  復習：研究の確認と修正を行う</p> <p>【第9回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究⑤（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第10回】  予習：関連資料の収集  授業：調査および研究⑥（ディスカッション）  復習：研究を進める</p> <p>【第11回】  予習：プレゼンテーション資料の準備  授業：表現方法を検討する（ディスカッション）  復習：プレゼンテーション資料を作成する</p> <p>【第12回】  予習：プレゼンテーション資料の準備  授業：プレゼンテーションの準備①（ディスカッション）  復習：プレゼンテーション資料を作成する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : プレゼンテーション資料の準備 授業 : プレゼンテーションの準備② (ディスカッション) 復習 : プレゼンテーション資料を作成する 【第 14 回】 予習 : 発表準備 授業 : 発表とディスカッション① (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表内容の確認 【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 発表とディスカッション② (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 自己評価を行う								
授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。							
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他	調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオ I		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
【第3回】 予習：課題1 参考事例調査・収集 授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理			
【第4回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理			
【第5回】 予習：課題1 中間発表準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評内容の整理			
【第6回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開			
【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業			
【第8回】 予習：課題1 最終発表準備 授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 最終講評内容の整理			
【第9回】 予習：課題2 参考事例調査・収集 授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理			
【第10回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題2 エスキス内容の整理・計画			
【第11回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題2 エスキス内容の展開			
【第12回】 予習：課題2 エスキス準備 授業：課題2 エスキス③ 制作（実習） 復習：課題2 エスキス内容を受けた制作			
【第13回】			



予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	2年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 7月上旬に行われる学科作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオ I		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	1-211
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業準備  授業：ガイダンス 課題1 課題説明  復習：授業計画内容の確認</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し</p> <p>【第3回】  予習：課題1 参考事例調査・収集  授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表）  復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第4回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 中間発表準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評内容の整理</p> <p>【第6回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業</p> <p>【第8回】  予習：課題1 最終発表準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評内容の整理</p> <p>【第9回】  予習：課題2 参考事例調査・収集  授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表）  復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第10回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス① 計画（実習）  復習：課題2 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第11回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス② 展開（実習）  復習：課題2 エスキス内容の展開</p> <p>【第12回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス③ 制作（実習）  復習：課題2 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	2年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 7月上旬に行われる学科作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオ I		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業準備  授業：ガイダンス 課題1 課題説明  復習：授業計画内容の確認</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し</p> <p>【第3回】  予習：課題1 参考事例調査・収集  授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表）  復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第4回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 中間発表準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評内容の整理</p> <p>【第6回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業</p> <p>【第8回】  予習：課題1 最終発表準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評内容の整理</p> <p>【第9回】  予習：課題2 参考事例調査・収集  授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表）  復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第10回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス① 計画（実習）  復習：課題2 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第11回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス② 展開（実習）  復習：課題2 エスキス内容の展開</p> <p>【第12回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス③ 制作（実習）  復習：課題2 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	2年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 7月上旬に行われる学科作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオ I		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業準備  授業：ガイダンス 課題1 課題説明  復習：授業計画内容の確認</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し</p> <p>【第3回】  予習：課題1 参考事例調査・収集  授業：課題1 エスキス① 参考事例報告（発表）  復習：課題1 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第4回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 中間発表準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評内容の整理</p> <p>【第6回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作作業</p> <p>【第8回】  予習：課題1 最終発表準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評内容の整理</p> <p>【第9回】  予習：課題2 参考事例調査・収集  授業：課題2 課題説明 参考事例報告（発表）  復習：課題2 参考事例報告を受けた資料整理</p> <p>【第10回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス① 計画（実習）  復習：課題2 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第11回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス② 展開（実習）  復習：課題2 エスキス内容の展開</p> <p>【第12回】  予習：課題2 エスキス準備  授業：課題2 エスキス③ 制作（実習）  復習：課題2 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 課題2 最終発表準備 授業 : 課題2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題2 最終講評内容の整理 【第14回】 予習 : 課題3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題3 学科作品展 準備作業 【第15回】 予習 : 課題3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題3 学科作品展 内容整理								
授業開始前学習	2年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 7月上旬に行われる学科作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	建築デザインスタジオⅡ		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
授業内容	<p>【第1回】 予習：学外実習報告会 事前準備 授業：学外実習報告会 復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】 予習：課題1 課題準備 授業：課題1 課題説明、作業内容の検討 復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】 予習：課題1 事例調査・収集作業 授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】 予習：社会人応用力を学ぶ 準備 授業：社会人応用力を学ぶ 復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】 予習：課題1 中間発表 準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p>		

<p>【第13回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑦ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第14回】  予習：卒業研究から学ぶ 事前準備  授業：卒業研究から学ぶ  復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理</p> <p>【第15回】  予習：課題1 最終発表 準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評 内容の整理</p>								
授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等） 40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。</li> <li>・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。</li> <li>・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。</li> <li>・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオⅡ		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	1-211
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
授業内容	<p>【第1回】 予習：学外実習報告会 事前準備 授業：学外実習報告会 復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】 予習：課題1 課題準備 授業：課題1 課題説明、作業内容の検討 復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】 予習：課題1 事例調査・収集作業 授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】 予習：社会人応用力を学ぶ 準備 授業：社会人応用力を学ぶ 復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス③ 計画（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス④ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】 予習：課題1 中間発表 準備 授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】 予習：課題1 エスキス準備 授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p>		

<p>【第13回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑦ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第14回】  予習：卒業研究から学ぶ 事前準備  授業：卒業研究から学ぶ  復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理</p> <p>【第15回】  予習：課題1 最終発表 準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評 内容の整理</p>								
授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。</li> <li>・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。</li> <li>・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。</li> <li>・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオⅡ		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>授業内容</p> <p>【第1回】  予習：学外実習報告会 事前準備  授業：学外実習報告会  復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】  予習：課題1 課題準備  授業：課題1 課題説明、作業内容の検討  復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】  予習：課題1 事例調査・収集作業  授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表）  復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】  予習：社会人応用力を学ぶ 準備  授業：社会人応用力を学ぶ  復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】  予習：課題1 中間発表 準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】  予習：社会人実践力を学ぶ 準備  授業：社会人実践力を学ぶ  復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p>			

<p>【第13回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑦ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第14回】  予習：卒業研究から学ぶ 事前準備  授業：卒業研究から学ぶ  復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理</p> <p>【第15回】  予習：課題1 最終発表 準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評 内容の整理</p>								
授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等） 40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。</li> <li>・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。</li> <li>・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。</li> <li>・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオII		
科目分類	142-320-23	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	前期のスタジオIに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>授業内容</p> <p>【第1回】  予習：学外実習報告会 事前準備  授業：学外実習報告会  復習：学外実習報告会 内容の整理</p> <p>【第2回】  予習：社会人基礎力を学ぶ 準備  授業：社会人基礎力を学ぶ  復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第3回】  予習：課題1 課題準備  授業：課題1 課題説明、作業内容の検討  復習：課題1 事例調査・収集作業</p> <p>【第4回】  予習：課題1 事例調査・収集作業  授業：課題1 エスキス① 事例調査報告（発表）  復習：課題1 事例調査報告を受けた内容の整理</p> <p>【第5回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス② 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第6回】  予習：社会人応用力を学ぶ 準備  授業：社会人応用力を学ぶ  復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理</p> <p>【第7回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス③ 計画（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・計画</p> <p>【第8回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス④ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の整理・展開</p> <p>【第9回】  予習：課題1 中間発表 準備  授業：課題1 中間発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 中間講評 内容の整理</p> <p>【第10回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑤ 展開（実習）  復習：課題1 エスキス内容の展開</p> <p>【第11回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑥ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第12回】  予習：社会人実践力を学ぶ 準備  授業：社会人実践力を学ぶ  復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理</p>			



<p>【第13回】  予習：課題1 エスキス準備  授業：課題1 エスキス⑦ 制作（実習）  復習：課題1 エスキス内容を受けた制作</p> <p>【第14回】  予習：卒業研究から学ぶ 事前準備  授業：卒業研究から学ぶ  復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理</p> <p>【第15回】  予習：課題1 最終発表 準備  授業：課題1 最終発表・講評（プレゼンテーション）  復習：課題1 最終講評 内容の整理</p>								
授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。</li> <li>・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。</li> <li>・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。</li> <li>・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオⅢ		
科目分類	142-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	<p>建築の設計や地域デザインをするプロセスについて調査・研究を行うゼミである。 各自が研究テーマを持って社会や地域をとらえ、そこに潜む建築的課題を探し、それを解決する設計手法やプログラムの提案を実習する。 この授業ではディスカッションや発表を行う。</p>		
到達目標	<p>社会や地域などを自ら調査・研究し建築的課題を見出すことができるようになる。 自ら設定した計画敷地において、その建築的課題を解決するための設計手法やプログラムを提案できるようになる。 上記内容を他者にわかりやすく伝える技術を身に付ける。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：はじめにスタジオの運営方針について 復習：研究スケジュールの作成</p> <p>【第2回】 予習：身近な問題意識や興味のある地域をリストアップ 授業：テーマを見つける①（ディスカッション） 復習：身近な問題意識や興味のある地域について整理する</p> <p>【第3回】 予習：身近な問題意識や興味のある地域の資料を収集する 授業：テーマを見つける②（ディスカッション） 復習：身近な問題意識や興味のある地域について整理する</p> <p>【第4回】 予習：テーマについて発表資料を準備する 授業：テーマを見つける③（発表プレゼンテーション） 復習：テーマを決定する</p> <p>【第5回】 予習：事例の資料を収集する 授業：事例の調査・研究①（ディスカッション） 復習：事例について整理する</p> <p>【第6回】 予習：事例の資料を収集する 授業：事例の調査・研究②（ディスカッション） 復習：事例について整理し、まとめる</p> <p>【第7回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究①（ディスカッション） 復習：調査内容の整理</p> <p>【第8回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究②（ディスカッション） 復習：調査内容の整理</p> <p>【第9回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究③（ディスカッション） 復習：調査内容の整理</p> <p>【第10回】 予習：調査した内容の考察とまとめ 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究④（ディスカッション）</p>			

<p>復習：調査内容の整理</p> <p>【第 11 回】          予習：調査した内容の考察とまとめ          授業：各自のテーマに合わせた調査・研究⑤（発表プレゼンテーション）          復習：調査内容の整理と建築的課題のリストアップ</p> <p>【第 12 回】          予習：課題解決のための提案を検討する          授業：各自の建築的課題の解決に向けて①（ディスカッション）          復習：課題解決のための提案を検討する</p> <p>【第 13 回】          予習：課題解決のための提案を検討する          授業：各自の建築的課題の解決に向けて②（ディスカッション）          復習：課題解決のための提案を検討する</p> <p>【第 14 回】          予習：課題解決のための提案を検討する          授業：各自の建築的課題の解決に向けて③（発表プレゼンテーション）          復習：課題解決のための提案をまとめる</p> <p>【第 15 回】          予習：成果発表の準備をする          授業：成果発表（発表プレゼンテーション）          復習：成果をもとに自己評価を行う</p>								
授業開始前学習	建築やまちをたくさん訪れ観て体験して欲しい。展覧会などを観に行くのも良いでしょう。多くの空間体験を積むことは、自分の中の評価軸を作ることにつながります。それは設計を進める上での重要な要素になります。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回の作業報告や提出課題に対して意見交換やディスカッションを行う。発表などの際には講評する。							
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	研究成果（レポート、プレゼンテーション）、平常点（課題提出、授業態度）で評価する。研究成果 60 点、平常点 40 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	建築関連科目、卒業研究							
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における建築の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築の企画や計画・設計などを講義・実習する。							

科目名称	建築デザインスタジオⅢ		
科目分類	142-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	1-211
授業概要	実際の社会では、その場所で、その機能で、一体何が課題であるかを見つけ出すことが、デザインに求められている。そこで、建築計画や都市計画が果たす役割を考えるために、実際に都市や街をサーベイすることにより、各自が今まで以上に具体的に身近な問題を見出し、研究し、プログラムを提案する。 この授業では、実習、ディスカッション、発表を行う。		
到達目標	社会や敷地に固有の具体的に身近な問題を見出し、研究し、プログラムを提案できる。 さまざまなプレゼンテーションツールを駆使して、考えを伝えられる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：3年スタジオでの課題の見直し、目標設定  授業：はじめに スタジオの運営方針について  復習：各自のスケジュール作成</p> <p>【第2回】  予習：テーマ案に沿った調査  授業：テーマ検討（ディスカッション）  復習：資料準備</p> <p>【第3回】  予習：テーマ案に沿った調査  授業：テーマ検討（ディスカッション）  復習：テーマ提出</p> <p>【第4回】  予習：敷地等の現況調査  授業：現況調査報告（ディスカッション）  復習：調査不足項目確認</p> <p>【第5回】  予習：敷地等の現況再調査  授業：現況調査報告と課題設定指導（ディスカッション）  復習：指導後の修正</p> <p>【第6回】  予習：プレゼンテーションツール準備  授業：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション）  復習：客観的な視点での見直し</p> <p>【第7回】  予習：プレゼンテーションツール準備  授業：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション）  復習：客観的な視点での見直し</p> <p>【第8回】  予習：エスキスチェック資料準備  授業：制作指導（実習）  復習：指導後の修正</p> <p>【第9回】  予習：エスキスチェック資料準備  授業：制作指導（実習）  復習：指導後の修正</p> <p>【第10回】  予習：エスキスチェック資料準備  授業：制作指導（実習）  復習：指導後の修正</p> <p>【第11回】  予習：エスキスチェック資料準備  授業：制作指導（実習）  復習：指導後の修正</p> <p>【第12回】  予習：前期発表ツール案  授業：前期発表会指導  復習：指導後の修正</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 合評会発表ツール 授業 : 前期発表会 (発表) 復習 : 自己評価と他者の評価 【第 14 回】 予習 : ディスカッション準備 授業 : 発表会についてスタジオ内でディスカッション (ディスカッション) 復習 : ディスカッション後の修正 【第 15 回】 予習 : 前期のふりかえりを整理 授業 : 前期のまとめと後期への課題 復習 : 夏期休暇中の作業								
授業開始前学習	3 年次のスタジオでの課題を整理するとともに、社会環境や自分の生活の中から、つねに興味のある対象をさがしておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	スタジオ内では、毎回の作業報告や課題について、ディスカッションを行いながら更新していく。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	平常点 (授業態度・提出期限厳守)、研究成果により評価する。 平常点 30 点、研究成果 70 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	建築デザインスタジオ BIV、卒業研究							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業制作を選択する学生は、個別エスキスのほか、スタジオ内でプレゼンテーションすることで、意見交換をし、より客観的に考えていくための場とする。</li> <li>卒業制作を選択しない学生も、一定の課題に対して制作を行うこととする。</li> <li>調査、研究、制作などに掛かる費用は原則として自己負担である。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオⅢ		
科目分類	142-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	現実の建築・都市空間を取り巻く諸問題から自身の興味に基づく研究テーマを見出し、独自の調査・分析に基づいた研究論文もしくは設計提案としてまとめる。		
到達目標	自分が興味のある研究テーマに対して、問題を設定し、独自の解決策を導くことができる。目的の設定、調査・分析の実施、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを自ら主宰して実行できる。専門知識を身に付け、ディスカッションを通して専門的なコミュニケーション力を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読むこと 授業：ガイダンス 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】 予習：既往研究の調査 授業：研究テーマの検討1（ディスカッション） 復習：興味・関心の整理</p> <p>【第3回】 予習：既往研究の調査 授業：研究テーマの検討2（ディスカッション） 復習：興味・関心の整理</p> <p>【第4回】 予習：既往研究の調査 授業：研究テーマの検討3（ディスカッション） 復習：興味・関心の整理</p> <p>【第5回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究テーマ発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：テーマの決定</p> <p>【第6回】 予習：事例調査・文献調査 授業：事例調査・調査手法の検討1（ディスカッション） 復習：事例調査・文献調査を進める</p> <p>【第7回】 予習：事例調査・文献調査 授業：事例調査・調査手法の検討2（ディスカッション） 復習：調査手法の決定</p> <p>【第8回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析1（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第9回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析2（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第10回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析3（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第11回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析4（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第12回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究成果のまとめ1（プレゼンテーション・実習） 復習：プレゼンテーション資料の修正</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : プレゼンテーション資料の作成 授業 : 研究成果のまとめ2 (プレゼンテーション・実習) 復習 : プレゼンテーション資料の修正 【第14回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成 授業 : 成果発表 (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 指摘事項の確認 【第15回】 予習 : 授業のふりかえり 授業 : まとめ 復習 : 今後の課題の検討								
授業開始前学習	現実の建築・都市空間に対する疑問・興味・関心事を探しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたレポートやプレゼンテーションに対して、講評及び個別の質問に対応する。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	研究成果 (レポート・プレゼンテーション) と授業態度で評価する。配点 (100 点満点として) は、研究成果 70 点、授業態度 30 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								



科目名称	建築デザインスタジオⅢ		
科目分類	142-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	建築や都市のデザインを考えるうえで、常に生活者の視点に立つことを忘れてはならない。各自が問題意識を持ってテーマを探し、生活者の視点に基づいた調査・研究を行い、その成果の表現手法を検討する。また、各段階でディスカッションや発表の機会を設け、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を磨く。		
到達目標	自分の研究テーマに基づき、その社会的背景について考察し、見学や調査などをおして研究の方向性を確定する。各段階でディスカッションを繰り返すことにより、人に伝わるプレゼンテーション能力を身につける。また、社会人として必要な知識を習得し、実践力を向上させる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスの内容を確認する  授業：オリエンテーション  復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】  予習：興味のあるテーマを検討する  授業：テーマを探す①（ディスカッション）  復習：興味のあるテーマのキーワードを整理する</p> <p>【第3回】  予習：興味のあるテーマの資料を収集する  授業：テーマを探す②（ディスカッション）  復習：興味のあるテーマのキーワードを整理する</p> <p>【第4回】  予習：テーマ発表資料を準備する  授業：テーマの発表（プレゼンテーション）  復習：テーマを決定する</p> <p>【第5回】  予習：テーマに基づく文献を調べる  授業：事例調査・研究①（ディスカッション・実習）  復習：調査方法を検討する</p> <p>【第6回】  予習：事例資料を収集する  授業：事例調査・研究②（ディスカッション・実習）  復習：事例調査・研究を進める</p> <p>【第7回】  予習：事例資料を収集する  授業：事例調査・研究③（ディスカッション・実習）  復習：事例調査・研究を進める</p> <p>【第8回】  予習：事例の調査・研究発表の準備をする  授業：事例調査・研究の発表（プレゼンテーション）  復習：指摘を受けた箇所について検討する</p> <p>【第9回】  予習：テーマに基づく調査・研究文献を調べる  授業：各自の手法による調査・研究①（ディスカッション・実習）  復習：調査手法を検討する</p> <p>【第10回】  予習：調査・研究資料を収集する  授業：各自の手法による調査・研究②（ディスカッション・実習）  復習：調査・研究を進める</p> <p>【第11回】  予習：調査・研究資料を収集する  授業：各自の手法による調査・研究③（ディスカッション・実習）  復習：調査・研究を進める</p> <p>【第12回】  予習：調査・研究発表の準備をする  授業：各自の手法による調査・研究の発表（プレゼンテーション）  復習：指摘を受けた箇所について検討する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : プレゼンテーションの参考文献を調べる 授業 : プレゼンテーション手法の検討① (ディスカッション・実習) 復習 : プレゼンテーション手法を決定する 【第 14 回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業 : プレゼンテーション手法の検討② (ディスカッション・実習) 復習 : プレゼンテーション資料を作成する 【第 15 回】 予習 : 成果発表の準備をする 授業 : 成果発表 (プレゼンテーション) 復習 : 成果をもとに自己評価を行う								
授業開始前学習	興味のある建築デザインについて、インターネットや雑誌、書籍などで幅広く情報収集する。							
授業内課題の フィードバックの方法	個別のエスキースや講評を行う。また、プレゼンテーションやディスカッションをとおして履修者同士の理解を深め、改善点などを共有する。							
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	研究成果 (50 点)、課題提出・授業態度 (50 点)、を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオⅣ		
科目分類	142-320-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	前期スタジオの調査・研究をもとに、建築の設計や地域デザインを具体的に実習するゼミである。 各自が提案した設計手法やプログラムを用い、具体的な地域や敷地を設定して、その建築的課題を解決するための設計を行う。 この授業ではディスカッションや発表を行う。		
到達目標	自ら設定した計画敷地において、その建築的課題を解決するための設計手法やプログラムを提案できるようになる。 提案した設計手法やプログラムをもとに、具体的な建築物を設計することができるようになる。 上記内容を他者にわかりやすく伝える技術を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：計画敷地について①（ディスカッション） 復習：作業スケジュールの作成、計画敷地の検討</p> <p>【第2回】 予習：計画敷地の検討 授業：計画敷地について②（ディスカッション） 復習：計画敷地の決定</p> <p>【第3回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計①（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討</p> <p>【第4回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計②（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討</p> <p>【第5回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計③（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討</p> <p>【第6回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計④（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討</p> <p>【第7回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計⑤（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討</p> <p>【第8回】 予習：設計内容をまとめる 授業：建築物の設計⑥（発表プレゼンテーション） 復習：設計内容を再検討</p> <p>【第9回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業①（ディスカッション） 復習：制作作業を進める</p> <p>【第10回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業②（ディスカッション）</p>			

<p>復習：制作作業を進める</p> <p>【第 11 回】          予習：制作に必要な資料の準備          授業：制作作業③（ディスカッション）          復習：制作作業を進める</p> <p>【第 12 回】          予習：これまでの成果をまとめる          授業：プレゼンテーション準備①（ディスカッション）          復習：発表方法の検討</p> <p>【第 13 回】          予習：これまでの成果をまとめる          授業：プレゼンテーション準備②（ディスカッション）          復習：発表方法の検討</p> <p>【第 14 回】          予習：成果発表の準備をする          授業：成果発表①（発表プレゼンテーション）          復習：成果をもとに自己評価を行う</p> <p>【第 15 回】          予習：成果発表の準備をする          授業：成果発表②（発表プレゼンテーション）          復習：成果をもとに自己評価を行う</p>								
授業開始前学習	建築やまちをたくさん訪れ観て体験して欲しい。展覧会などを観に行くのも良いでしょう。多くの空間体験を積むことは、自分の中の評価軸を作ることにつながります。それは設計を進める上での重要な要素になります。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回の作業報告や提出課題に対して意見交換やディスカッションを行う。発表などの際には講評する。							
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	研究成果（レポート、プレゼンテーション）、平常点（課題提出、授業態度）で評価する。 研究成果 60 点、平常点 40 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	建築関連科目、卒業研究							
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担とする。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	建築設計事務所における建築の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築の企画や計画・設計などを講義・実習する。							

科目名称	建築デザインスタジオⅣ		
科目分類	142-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	1-211
授業概要	前期のスタジオで見出した問題に対して、各自が提案したプログラムを建築として実現するためには、主観的なアイデアの創造をしつつも、客観的な批判をし続けることが必要である。 後期はその創造と批判の繰り返しをしながら、制作を進めていく。 この授業では、実習、ディスカッション、発表を行う。		
到達目標	主観的なアイデアの創造をしつつも、客観的な評価ができる。 長期間の制作の中でのスケジュール管理についても実際の作業を通して学ぶ。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：前期スタジオでの指導により作業を進める 授業：後期予定ガイダンス 復習：各自のスケジュール作成</p> <p>【第2回】 予習：進行状況をまとめる 授業：作業報告会準備 復習：チェックされた資料、原稿修正</p> <p>【第3回】 予習：作業報告会に使用するツールの準備 授業：作業報告会（発表） 復習：自己評価と他者の評価</p> <p>【第4回】 予習：発表を受けてスケジュール調整 授業：研究と指導（実習・ディスカッション） 復習：指導後の修正</p> <p>【第5回】 予習：エスキスチェック資料準備 授業：研究と指導（実習・ディスカッション） 復習：指導後の修正</p> <p>【第6回】 予習：プレゼンテーションツール準備 授業：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション） 復習：客観的な視点での見直し</p> <p>【第7回】 予習：プレゼンテーションツール準備 授業：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション） 復習：客観的な視点での見直し</p> <p>【第8回】 予習：エスキスチェック資料準備 授業：制作指導（実習） 復習：指導後の修正</p> <p>【第9回】 予習：エスキスチェック資料準備 授業：制作指導（実習） 復習：指導後の修正</p> <p>【第10回】 予習：エスキスチェック資料準備 授業：制作指導（実習） 復習：指導後の修正</p> <p>【第11回】 予習：パネルレイアウト案 授業：提出チェック（実習） 復習：指導後の修正</p> <p>【第12回】 予習：合評会発表ツール案 授業：合評会指導（発表・ディスカッション） 復習：指導後の修正</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 合評会発表ツール 授業 : 合評会 (発表) 復習 : 自己評価と他者の評価 【第 14 回】 予習 : 模型等修正 授業 : 講評、写真撮影 (実習) 復習 : 作品の保管 【第 15 回】 予習 : 学外展示用レイアウト案 授業 : 学外展示準備、プレゼン指導 (実習) 復習 : 作品ブラッシュアップ								
授業開始前学習	前期で見つけた興味のある対象について、資料収集、調査などをすすめておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	スタジオ内では、毎回の作業報告や課題について、ディスカッションを行いながら更新していく。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	平常点 (授業態度・提出期限厳守)、研究成果により評価する。 平常点 30 点、研究成果 70 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	建築デザインスタジオ BIII、卒業研究							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業制作を選択する学生は、個別エスキスのほか、スタジオ内でプレゼンテーションすることで、意見交換をし、より客観的に考えていくための場とする。</li> <li>卒業制作を選択しない学生も、一定の課題に対して制作を行うこととする。</li> <li>調査、研究、制作などに掛かる費用は原則として自己負担である。</li> </ul>							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオⅣ		
科目分類	142-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	現実の建築・都市空間を取り巻く諸問題から自身の興味に基づく研究テーマを見出し、独自の調査・分析に基づいた研究論文もしくは設計提案としてまとめる。		
到達目標	自分が興味のある研究テーマに対して、問題を設定し、独自の解決策を導くことができる。目的の設定、調査・分析の実施、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを自ら主宰して実行できる。専門知識を身に付け、ディスカッションを通して専門的なコミュニケーション力を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読むこと 授業：ガイダンス 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】 予習：既往研究の調査 授業：研究テーマの検討1（ディスカッション） 復習：興味・関心の整理</p> <p>【第3回】 予習：既往研究の調査 授業：研究テーマの検討2（ディスカッション） 復習：興味・関心の整理</p> <p>【第4回】 予習：既往研究の調査 授業：研究テーマの検討3（ディスカッション） 復習：興味・関心の整理</p> <p>【第5回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究テーマ発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：テーマの決定</p> <p>【第6回】 予習：事例調査・文献調査 授業：事例調査・調査手法の検討1（ディスカッション） 復習：事例調査・文献調査を進める</p> <p>【第7回】 予習：事例調査・文献調査 授業：事例調査・調査手法の検討2（ディスカッション） 復習：調査手法の決定</p> <p>【第8回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析1（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第9回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析2（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第10回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析3（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第11回】 予習：資料収集・分析考察 授業：調査・分析4（ディスカッション・実習） 復習：調査・分析を進める</p> <p>【第12回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究成果のまとめ1（プレゼンテーション・実習） 復習：プレゼンテーション資料の修正</p> <p>【第13回】</p>			



予習 : プレゼンテーション資料の作成 授業 : 研究成果のまとめ2 (プレゼンテーション・実習) 復習 : プレゼンテーション資料の修正 【第14回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成 授業 : 成果発表 (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 指摘事項の確認 【第15回】 予習 : 授業のふりかえり 授業 : まとめ 復習 : 今後の課題の検討								
授業開始前学習	現実の建築・都市空間に対する疑問・興味・関心事を探しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたレポートやプレゼンテーションに対して、講評及び個別の質問に対応する。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	研究成果 (レポート・プレゼンテーション) と授業態度で評価する。配点 (100 点満点として) は、研究成果 70 点、授業態度 30 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	建築デザインスタジオⅣ		
科目分類	142-320-24	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	建築や都市のデザインを考えるうえで、常に生活者の視点に立つことを忘れてはならない。前期に決めたテーマとその表現手法を踏まえ、さらに生活者の視点に基づいた調査・研究を深め、その表現手法を具体化させ、プレゼンテーションを行う。また、各段階でディスカッションや発表の機会を設け、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を磨く。		
到達目標	自分の研究テーマに基づいた研究成果を完成させる。各段階でディスカッションを繰り返すことにより、人に伝わるプレゼンテーション能力を身につけ、研究成果のプレゼンテーションを実施する。また、社会人として必要な知識を習得し、実践力を向上させる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：テーマを決める 復習：テーマのキーワードを整理する			
【第2回】 予習：テーマに基づく文献を調べる 授業：テーマの精査（ディスカッション） 復習：テーマを決定する			
【第3回】 予習：テーマに基づく調査・研究文献を調べる 授業：各自の手法による調査・研究①（ディスカッション・実習） 復習：調査手法を検討する			
【第4回】 予習：調査・研究資料を収集する 授業：各自の手法による調査・研究②（ディスカッション・実習） 復習：調査・研究を進める			
【第5回】 予習：調査・研究資料を収集する 授業：各自の手法による調査・研究③（ディスカッション・実習） 復習：調査・研究を進める			
【第6回】 予習：調査・研究発表の準備をする 授業：各自の手法による調査・研究の発表①（プレゼンテーション） 復習：指摘を受けた箇所について検討する			
【第7回】 予習：調査・研究発表の準備をする 授業：各自の手法による調査・研究の発表②（プレゼンテーション） 復習：指摘を受けた箇所について検討する			
【第8回】 予習：制作物を検討する 授業：制作作業①（ディスカッション・実習） 復習：制作作業を進める			
【第9回】 予習：制作に必要な資料・材料を準備する 授業：制作作業②（ディスカッション・実習） 復習：制作作業を進める			
【第10回】 予習：制作に必要な資料・材料を準備する 授業：制作作業③（ディスカッション・実習） 復習：制作物を完成させる			
【第11回】 予習：プレゼンテーションの参考文献を調べる 授業：プレゼンテーション手法の検討（ディスカッション・実習） 復習：プレゼンテーション手法を決定する			
【第12回】 予習：プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業：プレゼンテーション準備作業①（ディスカッション・実習） 復習：プレゼンテーション資料を作成する			
【第13回】			

予習 : プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業 : プレゼンテーション準備作業② (ディスカッション・実習) 復習 : プレゼンテーション資料を完成させる 【第 14 回】 予習 : 成果発表の準備をする 授業 : 成果発表① (プレゼンテーション) 復習 : 成果をもとに自己評価を行う 【第 15 回】 予習 : 成果発表の準備をする 授業 : 成果発表② (プレゼンテーション) 復習 : 成果をもとに自己評価を行う								
授業開始前学習	興味のある建築デザインについて、インターネットや雑誌、書籍などで幅広く情報収集する。							
授業内課題のフィードバックの方法	個別のエスキースや講評を行う。また、プレゼンテーションやディスカッションをとおして履修者同士の理解を深め、改善点などを共有する。							
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	研究成果 (50 点)、課題提出・授業態度 (50 点)、を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	卒業研究		
科目分類	140-330-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	各担当教員	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・榎本・神村・橋田・佐藤・山崎・小川・三戸・三宅・茂木	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50	研究室	1-207
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。		
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス 復習：授業目標のキーワード確認</p> <p>【第2回】 予習：卒業研究課題の検索 授業：作業報告会準備① 復習：課題の自習</p> <p>【第3回】 予習：研究課題の決定 授業：作業報告会準備② 復習：研究課題の問題点確認</p> <p>【第4回】 予習：事例研究 授業：エスキース① 復習：事例の再検討</p> <p>【第5回】 予習：事例検索 授業：エスキース② 復習：事例の分析</p> <p>【第6回】 予習：課題の自習 授業：グループディスカッション 復習：課題の自習</p> <p>【第7回】 予習：課題の自習 授業：エスキース③ 復習：課題の自習</p> <p>【第8回】 予習：課題進行ダイヤグラム作成 授業：エスキース④ 復習：課題の自習</p> <p>【第9回】 予習：発表準備 授業：中間発表（プレゼンテーション） 復習：発表内容の反省点抽出</p> <p>【第10回】 予習：課題の自習 授業：エスキース⑤ 復習：課題の自習</p> <p>【第11回】 予習：課題の自習 授業：エスキース⑥ 復習：課題の自習</p> <p>【第12回】 予習：課題の自習 授業：エスキース⑦ 復習：課題の自習</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認 【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習 【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書	デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（100点満点として）提出物80点、取組度20点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							